高等専門学校機関別認証評価

自 己 評 価 書

平成２５年６月

北九州工業高等専門学校

目　　次

Ⅰ　高等専門学校の現況及び特徴 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

Ⅱ　目的 ・・ 2

Ⅲ　基準ごとの自己評価

基準１　高等専門学校の目的 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4

基準２　教育組織（実施体制） ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 27

基準３　教員及び教育支援者等 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 78

基準４　学生の受入 ・・・ 103

基準５　教育内容及び方法 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 125

基準６　教育の成果 ・・・ 256

基準７　学生支援等 ・・・ 293

基準８　施設・設備 ・・・ 325

基準９　教育の質の向上及び改善のためのシステム ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 345

基準10　財務 ・・・ 394

基準11　管理運営 ・・ 422

Ⅰ　高等専門学校の現況及び特徴

１　現況

（１）高等専門学校名　北九州工業高等専門学校

（２）所在地

福岡県北九州市小倉南区志井五丁目20番1号

（３）学科等の構成

学　科：機械工学科，電気電子工学科，
電子制御工学科，制御情報工学科，
物質化学工学科

専攻科：生産工学専攻，制御工学専攻，
物質化学工学専攻

（４）学生数及び教員数（平成25年５月１日現在）

学生数：学　科：1,070人
専攻科：96人

専任教員数：80人
校　長：１人，教　授：30人，准教授：32人，
講　師：10人，助　教：６人，助　手：１人

２　特徴

＜沿革＞

北九州工業高等専門学校は，高等教育機関の一つとして工業に関する専門教育を授け，産業の発展及び文化の興隆に貢献できる技術者を育成するため，昭和40年４月１日北九州市に創設された。当初は，機械工学科と電気工学科の2学科で発足したが，昭和45年度に化学工学科，昭和62年度に電子制御工学科，平成元年には制御情報工学科が増設され，平成８年度には生産工学専攻，制御工学専攻，物質化学工学専攻の３専攻から成る専攻科が設置された。平成24年度までに6,742名の卒業生及び557名の修了生を産業界の第一線並びに大学等の高等教育研究機関に送り出してきた。

平成17年度には，専攻科の「生産工学専攻デザイン工学」教育プログラムについて日本技術者教育認定機構（JABEE）の審査を受け，平成27年度まで認定が継続されている。また，平成18年10月には大学評価・学位授与機構による高等専門学校機関別認証評価を受け，本校は高等教育の基準を十分満たしていると評価を受けた。

＜教育＞

教育理念「明るい未来を創造する開拓型エンジニアの育成」に基づき，教育目的として，①幅広い工学基礎と創造的技術開発力の修得，②国際社会で尊敬され，信頼される国際センスの修得，③地球にやさしい技術を開発できる心豊かな人間性の涵養，を掲げ，全人的早期理工系教育を実施している。政令指定都市である工業都市北九州に位置して近隣に多くの企業や大学を抱える地の利を活かし，産業界や大学との連携による教育の充実を図っている。

＜地域との連携＞

平成12年設置の地域共同テクノセンターを中心に，地場企業との共同研究を推進し，実践的な高度技術教育という高専の教育理念に沿った研究を行い，地元産業界の発展と地域の活性化を図っている。これまでに，経済産業省等の研究開発事業や福岡県，北九州市などの地域開発推進事業，個別の企業や近隣の大学等との共同研究で多くの実績を挙げ，地域の発展と活性化に貢献してきた。さらに，平成23年度には「企業技術者等活用プログラム」が採択され，学外の教育コーディネーター２名が配置され，産学連携の共同教育や北九州市との連携によるインターンシップ事業もより一層充実・強化された。

＜学生活動＞

勉学のみならず，学生が主体となって運営する学生会行事が年間を通じて活発で，体育大会や高専祭には，保護者はもちろん，近隣の多くの住民の参観がある。また，課外活動も盛んで，輝かしい実績を挙げている。特に，ロボットコンテストでは全国大会へ通算16回出場し，２度の優勝を果たしている。

Ⅱ　目的

１．北九州工業高等専門学校の使命

本校では，深く専門の学芸を教授し，職業に必要な能力を育成するために，「明るい未来を創造する開拓型エンジニアの育成」を教育理念に掲げ，教育方針の柱としている。そして，全人的早期理工系教育によって，学生のエンジニアとしての資質を伸ばし，実験・実習を重視したカリキュラムを通じて社会・産業界に貢献できる実践的かつ開拓型のエンジニアの育成を使命としている。

２．教育研究活動等の基本的な方針

本校の使命を達成するため，教育に関して以下の目的を掲げて様々な課題に対応しうる実践的で創造性に富んだエンジニアを育成する教育を実施している。

⑴ 幅広い工学基礎と創造的技術開発力の修得

⑵ 国際社会で尊敬され，信頼される国際センスの修得

⑶ 地球にやさしい技術を開発できる心豊かな人間性の涵養

これらを実現するために，次節に示すように準学士課程で７項目，専攻科課程で６項目の具体的な教育目標を定め，さらに学科（一般科目を含む）と専攻ごとに養成する人物像を掲げて学生の教育を行っている。

また，研究に関しては以下の３つの観点から活動を行っており，本校では地域共同テクノセンターを中心に地域重点施策分野（例えば，「環境・エネルギー材料」，「ロボット」，「バイオ」）に対する対応を積極的に推し進めている。

⑴ 高度な実践的技術を教授するための教育水準の維持向上

⑵ 地域産業界との共同研究による地域への貢献と学生のものづくり教育の推進

⑶ 専門技術分野への学術的な貢献

３．教育目標

〈準学士課程の教育目標〉

本校の準学士課程は５学科で構成され，それぞれの専門及び関連領域に関わる技術面での教育と，技術者が社会で働く上で必要となる一般常識，マナー等の徳育及び心身の健康を涵養することを目的とする。そのため，学校全体として以下に示す教育目標（A）～（G）を設定し，さらに目標の達成により卒業時までに学生に身に付けさせる学力や資質，能力を小項目（①，②等）として定めている。

(A) 技術内容を理解できる基礎学力(数学，自然科学，情報)と自己学習能力を持つ技術者

①数学・物理・化学などの自然科学，情報技術に関する基礎を理解できる。

②自主的・継続的な学習を通じて，基礎科目に関する問題を解くことができる。

(B) 専門分野における基礎知識を身に付けた技術者

①専門分野における工学の基礎を理解できる。

②自主的・継続的な学習を通じて，専門工学の基礎科目に関する問題を解くことができる。

(C) 専門工学基礎知識の上に実践的技術を学んだ技術者

①実験や実習を通じて，問題解決の実践的な経験を積む。

②機器類（装置・計測器・コンピュータなど）を用いて，データを収集し，処理できる。

③実験結果から適切な図や表を作り，専門工学基礎知識をもとにその内容を考察することができる。

④実験や実習について，方法・結果・考察をまとめ，報告できる。

(D) 身に付けた工学知識・技術をもとにして問題を解決する能力を有する技術者

①専門工学の基礎に関する知識と基礎技術を統合し，活用できる。

②工学知識や技術を用いて，課題解決のための調査や実験を計画し，遂行できる。

③工学知識や技術を用いて，課題解決のための結果の整理・分析・考察・報告ができる。

(E) 多様な文化を理解するための教養を持ち，日本語及び外国語によるコミュニケーションの基礎能力を有する技術者

①歴史・文化・国語・外国語を学び，コミュニケーションするための基礎的な教養を身に付ける。

②日本語で論理的に記述し，報告・討論できる。

③英語によるコミュニケーションの基礎能力（読解・記述・会話）を身に付ける。

(F) 歴史・文化・社会に関する教養を持ち，技術の社会・環境との関わりを考えることのできる技術者

①歴史・文化・社会に関する基礎的な知識を身に付ける。

②工業技術と社会・環境との関わりを考えることができる。

③技術者としての役割と責任を認識できる。

(G) 社会の一員としての自覚，倫理観を持ち，心豊かな人間性を有する技術者

①健やかな心身を持ち，社会性，協調性を身に付ける。

②社会人として，技術者として必要な素養，一般常識や礼儀，マナーについて考えることができる。

また，上記の教育目標と一般科目及び専門学科の教育内容を踏まえ，一般科目及び専門学科ごとに以下に示す養成する人物像を定めている。ただし，紙面の都合上，機械工学科についてのみ示し，他は基準１に示す。

・機械工学科

(1) 機械工学の本質を知り，問題解決のための理解力と解析力を身に付けた技術者

(2) 人間性と自己の確立に努力し，独自創造力を身に付けた技術者

(3) 機械工学における個々の技術を統合し，システム化するための知識と能力を身に付けた技術者

〈専攻科課程の教育目標〉

本校の専攻科は３専攻で構成され，準学士課程で取得した専門分野の技術知識を深め，さらに，その専門性を核として他分野の工学知識も身に付け，技術と社会・環境及び技術者倫理を含めた広い視野から問題を捉え，解決することができる素養（「デザイン」能力）を涵養する工学教育を行う。そのため，学校全体として以下に示す教育目標（A）～（F）を設定し，さらに目標の達成により修了時までに学生に身に付けさせる学力や資質，能力を小項目（①，②等）として定めている。ただし，紙面の都合上，小項目については基準１に示す。

(A) 技術内容の高度化に対応できる基礎学力（数学，自然科学，情報）と自己学習能力を持つ技術者

(B) 専攻分野の「生産」に関わる専門知識を身に付けた技術者

(C) 専門工学知識の上に「生産」に関わる実践的技術を身に付けた技術者

(D) 幅広い視野から問題を捉え，複数分野の工学知識・技術を有機的に結び付け，総合的に問題を解決する素養（デザイン能力）を有する技術者

(E) 多様な文化を理解する能力を持ち，日本語及び外国語によるコミュニケーション能力を有する技術者

(F) 歴史・文化・社会に関する教養と頑健な心身を持ち，技術の社会・環境との関わりを考えることのできる技術者

また，上記の教育目標と各専攻の専門分野の教育内容を踏まえ，専攻ごとに以下に示す養成する人物像を定めている。ただし，紙面の都合上，制御工学専攻と物質化学工学専攻については基準１に示す。

・３専攻共通の人物像

(1) 専攻科の入学までに修得した専門分野（機械工学，電気電子工学，電子制御工学，制御情報工学，物質化学工学）に関わる工学知識・専門技術をさらに深め，身に付けた技術者

(2) コミュニケーション能力を身に付け，国際的な文化や技術者の社会的責任を理解できる技術者

(3) 他分野の工学知識を身に付けた技術者

(4) 広い視野から問題を捉え，解決することのできる素養を身に付けた技術者

・生産工学専攻

(5) 生産技術の中心を担う機械工学・電気電子工学分野をより深く修得した技術者

(6) 幅広い分野の知識・技術を用いて，高度化する生産技術分野の問題を解決できる技術者

Ⅲ　基準ごとの自己評価

基準１　高等専門学校の目的

（１）観点ごとの分析

観点１－１－①：　高等専門学校の目的が、それぞれの学校の個性や特色に応じて明確に定められ、その内容が、学校教育法第115条に規定された、高等専門学校一般に求められる目的に適合するものであるか。また、学科及び専攻科ごとの目的も明確に定められているか。

（観点に係る状況）

昭和 40 年の本校創設以来，教育基本法の精神に則った使命に基づく教育方針を学則(資料１－１－①－１)に掲げている。平成 11 年度には，「明るい未来を創造する開拓型エンジニアの育成」を目指した教育方針（理念）に基づく具体的な教育目的を定め(資料１－１－①－２)，これを達成するために準学士課程の教育目標（A）～（G）及び専攻科課程の教育目標（A）～（F）を設定した。卒業及び修了時に身に付けるべき資質・学力は各教育目標の中で小項目（①，②等）として掲げている。各学科及び専攻の専門分野を踏まえ，上述の教育目標を学科や専攻ごとに明確化したものが「養成する人物像」であり，各学科，各専攻の教育目標にあたる。さらに，学生自身が学年進行と共に何を身に付けるべきか（身に付けて欲しいか）を理解し，学生自身による達成度評価を容易にするため，学校全体として「学修の指針」を設けている(資料１－１－①－３～６)。また，「教育目標」と「養成する人物像」は，お互いに関連付けられている(資料１－１－①－７)。学校教育法第 115 条に定める２つの具体的な目的のうち，「深く専門の学芸を教授し」には，教育目標の基礎学力や自己学習能力，専門，専攻分野における基礎知識等を身に付けさせることが対応し，「職業に必要な能力を育成する」には，教育目標の問題を解決する能力や多様な文化を理解する能力，コミュニケーション能力等を身に付けさせることが対応する。このように，本校の養成する人物像及び卒業，修了時に身に付けるべき資質と学力は，学校教育法で定める目的を明確に意識して策定されている。

（分析結果とその根拠理由）

本校では，まず，高等専門学校が果たす使命に沿った，全学的な教育方針（理念）と教育目的及び教育目標を掲げ，卒業，修了時に身に付けるべき資質・学力を具体化すると共に，各学科・各専攻の教育目標に基づいて養成する人物像を定めている。以上のことから，目的が明確に定められ，さらに学校教育法で定められた高等専門学校の目的を満足している。

資料１－１－①－１

○北九州工業高等専門学校学則

昭和５０年４月１日　規則第１号
改正　平成２４年１２月２０日

第１章　目的及び自己評価等

（目的）

第１条　本校は、教育基本法の精神にのっとり、学校教育法に基づいて、深く工業に関する専門の教育を授け、産業の興隆及び文化の発展に貢献し得る有能な技術者を育成することを目的とする。

（出典　北九州工業高等専門学校学則より）



記載箇所

我が国産業の目覚ましい発展に伴い、科学技術者の養成が強く要望され、昭和36年６月第38回国会において学校教育法の一部を改正する法律が成立し、昭和37年度から新たな学校制度としての高等専門学校が発足した。

北九州工業高等専門学校は、この新しい高等教育機関の一つとして工業に関する専門教育を授け、産業の興隆及び文化の発展に貢献し得る有能な技術者を育成するため、昭和40年４月１日工業都市北九州市に創立された。当時は機械工学科（入学定員80人）、電気工学科（入学定員40人）の２学科で発足したが、昭和45年度に化学工学科（入学定員40人）、そして昭和62年度には、新たに電子制御工学科（入学定員40人）が増設された。

さらに、平成元年４月１日には、機械工学科が機械工学科（入学定員40人）と制御情報工学科（入学定員40人）に分離改組され、平成８年４月１日に大学評価・学位授与機構が認定する（生産工学、制御工学及び化学工学の３専攻から成る）２年制の専攻科が設置された。

また、平成10年４月１日には、化学工学科（入学定員40人）が物質化学工学科（入学定員40人）に改組され、平成14年４月１日に電気工学科（入学定員40人）が電気電子工学科（入学定員40人）に、平成16年４月１日に専攻科の化学工学専攻（入学定員４人）が物質化学工学専攻（入学定員４人）に名称変更された。

独立行政法人国立高等専門学校機構法（平成15年法律第113号）の施行により、平成16年４月１日から、独立行政法人国立高等専門学校機構が設置する北九州工業高等専門学校となる。

平成18年５月には、専攻科の「生産デザイン工学」教育プログラムが日本技術者教育認定機構（JABEE）から認定を受けた。

平成18年度には大学評価・学位授与機構による認証評価を受審し、その認定を受けた。

平成22年度には、日本技術者教育認定機構（JABEE）より認定継続審査を受審し、平成23年度に認定を受けた。

（出典　平成24年度学校要覧より）

資料１－１－①－２

明るい未来を創造する開拓型エンジニアの育成

To foster pioneer-oriented engineers

KCT KITAKYUSHU NATIONAL COLLEGE OF TECHNOLOGY

教育目的 Objectives

幅広い工学基礎と創造的技術開発力の修得
Mastery of a wide knowledge of engineering basics and of skills to develop creative technology

国際社会で尊敬され、信頼される国際センスの修得
Acquisition of international awareness to gain trust and respect in the international community

地球にやさしい技術を開発できる心豊かな人間性の涵養
Cultivation of moral responsibility to develop earth-friendly technology.

教育目標 Goals are to foster engineers with:

技術内容の高度化に対応できる基礎学力（数学、自然科学、情報）と自己学習能力を持つ技術者
A good knowledge (of mathematics, natural science and information technology) and a habit of lifelong learning to cope with increasingly developing technology.

専攻分野の「生産」に関わる専門知識を身に付けた技術者
Expertise in their areas of research

専門工学知識の上に「生産」に関わる実践的技術を身に付けた技術者
Practical skills based on the expertise

幅広い視野から問題を捉え、複数分野の工学知識・技術を有機的に結び付け、総合的に問題を解決する素養を有する技術者
A balanced problem-solving ability stemming from varied and integrated knowledge and skills

多様な文化を理解する能力を持ち、日本語および外国語によるコミュニケーション能力を有する技術者
Understanding of various cultures together with communication abilities in Japanese and foreign languages.

歴史・文化・社会に関する教養と頑健な心身を持ち、技術の社会・環境との関わりを考えることのできる技術者
Good health and a consideration of the roles of technology in society and the environment derived from an insight into human history, culture and society.

アドミッションポリシー（求める学生像）

準学士課程
北九州高専では、本校の教育理念及び学習・教育目標を達成するために、総合的な基礎学力を十分にもち、以下の項目を満足する能力と適性を備えた中学生を求めています。

・数学、理科の分野に興味がある者。
・工学の分野に興味がある者。
・実験・実習に自ら進んで取り組むことができる者
・将来、国際センスと人間性を備え、社会を支える技術者として活躍する意思を持つ者。

専攻科課程
・高等専門学校準学士課程等における基礎的な専門知識の確立を図り、さらにその専門知識を深めようとする意欲がある者。
・いろいろな分野の工学知識を学び、広い視野からの問題解決能力を身につけようとする向学心を持つ者。

編入学生
北九州高専では、本校の教育理念及び学習・教育目標を達成するために、総合的な基礎学力を十分にもち、以下の項目を満足する能力と適性を備えた人を求めています。

・数学、理科の分野に興味があり、高等学校における基礎学力を有する者。
・工学の分野に興味がある者。
・実験・実習に自ら進んで取り組むことができる者。
・国際センスと人間性を備え、社会を支える技術者として活躍する意思を持つ者。

（出典　平成 24 年度学校要覧より）

資料１－１－①－３

表１　北九州工業高等専門学校・準学士課程ならびに専攻科課程の教育目標

〈 教育理念 〉

明るい未来を創造する開拓型エンジニアの育成

〈 教育目的 〉

(1)幅広い工学基礎と創造的技術開発力の修得
(2)国際社会で尊敬され、信頼される国際センスの修得
(3)地球にやさしい技術を開発できる心豊かな人間性の涵養

〈 教育目標：準学士課程 〉

(A)技術内容を理解できる基礎学力（数学、自然科学、情報）と自己学習能力を持つ技術者
①数学・物理・化学などの自然科学、情報技術に関する基礎を理解できる。
②自主的・継続的な学習を通じて、基礎科目に関する問題を解くことができる。

(B)専門分野における基礎知識を身に付けた技術者
①専門分野における工学の基礎を理解できる。
②自主的・継続的な学習を通じて、専門工学の基礎科目に関する問題を解くことができる。

(C)専門工学基礎知識の上に実践的技術を学んだ技術者
①実験や実習を通じて、問題解決の実験的な技術を修得。
②機器類（装置・計測器・コンピュータなど）を用いて、データを収集し、処理できる。
③実験結果から適切な図や表を作り、専門工学基礎知識をもとにその内容を考察することができる。
④実験や実習について、方法・結果・考察をまとめ、報告できる。

(D)身に付けた工学知識・技術をもとにして問題を解決する能力を有する技術者
①専門工学の基礎に関する知識と基礎技術を統合し、活用できる。
②工学知識や技術を用いて、課題解決のための調査や実験を計画し、遂行できる。
③工学知識や技術を用いて、課題解決のための結果の整理・分析・考察・報告ができる。

(E)多様な文化を理解するための教養を持ち、日本語および外国語によるコミュニケーションの基礎能力を有する技術者
①歴史・文化・国語・外国語を学び、コミュニケーションするための基礎的な教養を身に付ける。
②日本語で論理的に記述し、報告・討論できる。
③英語によるコミュニケーションの基礎能力（読解・記述・会話）を身に付ける。

(F)歴史・文化・社会に関する教養を持ち、技術の社会・環境との関わりを考えることのできる技術者
①歴史・文化・社会に関する基礎的な知識を身に付ける。
②工業技術と社会・環境との関わりを考えることができる。
③技術者としての役割と責任を認識できる。

(G)社会の一員としての自覚、倫理観を持ち、心豊かな人間性を有する技術者
①健やかな心身を持ち、社会性、協調性を身に付ける。
②社会人として、技術者として必要な挨拶、一般常識や礼儀、マナーについて考えることができる。

〈 教育目標：専攻科課程 〉

(A)技術内容の高度化に対応できる基礎学力（数学、自然科学、情報）と自己学習能力を持つ技術者
①数学・物理・化学などの自然科学、情報技術に関する共通基礎を理解できる。
②自主的・継続的な学習を通じて、共通基礎科目に関する問題を解決できる。

(B)専攻分野の「生産」に関わる専門知識を身に付けた技術者
①共通基礎知識を用いて、専攻分野における設計・製作・評価・改良など生産に関わる専門工学の基礎を理解できる。
②自主的・継続的な学習を通じて、専門工学の基礎科目に関する問題を解決できる。

(C)専門工学知識の上に「生産」に関わる実践的技術を身に付けた技術者
①専門工学の実験に必要な知識を深め、実験や実習を通じて、問題解決の基礎を修得。
②機器類(装置・計測器・コンピュータなど)を用いて、データを収集し、処理できる。
③実験結果から適切な図や表を作り、専門工学知識をもとに分析し、結論を導き出せる。
④実験や実習について、方法・結果・考察を的確にまとめ、報告できる。

(D)幅広い領域から問題を捉え、複数分野の工学知識・技術を有機的に結び付け、総合的に問題を解決する素養を有する技術者
①専攻分野における専門工学の基礎に関する知識と基礎技術を総合し、応用できる。
②専攻分野の専門性に加え、他分野の知識も学習し、幅広い視野から問題点を把握できる。
③要求された課題に対して幅広い視野で問題点を把握し、その解決方法を提案できる。
④工学知識や技術を総合し、課題解決のための調査や実験を自発的に計画し、遂行できる。
⑤工学知識や技術を総合し、課題解決のための結果の整理・分析・考察・報告ができる。

(E)多様な文化を理解する能力を持ち、日本語および外国語によるコミュニケーション能力を有する技術者
①歴史・文化・日本文学(国語)・外国語を学び、多様な文化を理解できる。
②実験・実習・調査・研究内容について、日本語で論理的に記述し、報告・討論できる。
③専攻分野の技術英文を含み、英文を読解し、日本語での内容説明ができる。
④調査・研究の目的と内容を理解した上で、その概要を英語で記述できる。
⑤英語による基本的な会話ができる。

(F)歴史・文化・社会に関する教養と幅広な心身を持ち、技術の社会・環境との関わりを考えることのできる技術者
①歴史・文化・社会に関する知識を持ち、それらを示すことができる。
②工業技術と社会・環境との関わりを理解し、社会・環境への効果と影響を説明できる。
③技術者としての役割と責任(倫理観)を認識し、説明できる。

（出典　平成 25 年度シラバスより）

資料１－１－①－４

平成 24 年 11 月 20 日

北九州工業高等専門学校専攻科課程　　専攻別　養成する人物像

１．生産工学専攻
（1）専攻科の入学までに修得した専門分野（機械工学、電気電子工学、電子制御工学、制御情報工学、物質化学工学）に関わる工学知識・専門技術をさらに深め、身に付けた技術者
（2）コミュニケーション能力を身に付け、国際的な文化や技術者の社会的責任を理解できる技術者
（3）他分野の工学知識を身に付けた技術者
（4）広い視野から問題を捉え、解決することのできる素養を身に付けた技術者
（5）生産技術の中心を担う機械工学・電気電子工学分野をより深く修得した技術者
（6）幅広い分野の知識・技術を用いて、高度化する生産技術分野の問題を解決できる技術者

２．制御工学専攻
（1）専攻科の入学までに修得した専門分野（機械工学、電気電子工学、電子制御工学、制御情報工学、物質化学工学）に関わる工学知識・専門技術をさらに深め、身に付けた技術者
（2）コミュニケーション能力を身に付け、国際的な文化や技術者の社会的責任を理解できる技術者
（3）他分野の工学知識を身に付けた技術者
（4）広い視野から問題を捉え、解決することのできる素養を身に付けた技術者
（5）コンピュータの応用技術を習得した技術者
（6）情報処理に関する応用知識を習得した技術者
（7）制御工学とその応用技術との総合的知識を習得した技術者

３．物質化学工学専攻
（1）専攻科の入学までに修得した専門分野（機械工学、電気電子工学、電子制御工学、制御情報工学、物質化学工学）に関わる工学知識・専門技術をさらに深め、身に付けた技術者
（2）コミュニケーション能力を身に付け、国際的な文化や技術者の社会的責任を理解できる技術者
（3）他分野の工学知識を身に付けた技術者
（4）広い視野から問題を捉え、解決することのできる素養を身に付けた技術者
（5）自発的に知識や技術を高め、技術革新に即応できる技術者
（6）物質化学工学分野に関する知識や実践的技術を駆使し、直面する課題を計画的に遂行できる技術者

注：（1）～（4）は全専攻共通の養成する人物像

（出典　平成 24 年度 JABEE・認証評価委員会資料より）

資料１－１－①－５

平成 24 年 11 月 20 日

北九州工業高等専門学校準学士課程　　学科別　養成する人物像

１．一般科目（総合科学科）
（1）総合的な教養・見識を身に付け、多面的な思考・判断のできる人材
（2）真理を追究し、世界的視点に立って時代の要求を洞察できる人材
（3）自己を確立し、多様な社会・文化・自然を尊重し、これらとの共生を目指す人材
（4）論理的思考や言語表現の基礎的能力を養成し、自ら問題を発見し解決することのできる人材
（5）ゆるぎない信念を持ち、生涯にわたり健やかな心身を自ら育む人材

２．機械工学科
（1）機械工学の本質を知り、問題解決のための理解力と解析力を身につけた技術者
（2）人間性と自己の確立に努力し、独自創造力を身につけた技術者
（3）機械工学における個々の技術を統合し、システム化するための知識と能力を身につけた技術者

３．電気電子工学科
（1）電気回路、電磁気、電子回路等の専門基礎科目および数学、物理の基礎力を十分持ち、電気工学、電子工学、制御工学、情報工学のより高度な問題に対応できる能力を身に付けた技術者
（2）自ら専門知識・技術を高めることができる能力を身に付けた技術者
（3）専門知識を活かし問題を解決できる能力を身に付けた技術者

４．電子制御工学科
（1）電気電子，情報，システム・制御系分野の工学基礎を身につけた技術者
（2）システムのハードウェアとソフトウェアに関する実践的な技術を身につけた技術者
（3）身につけた専門基礎知識・技術を総合し，応用できる能力を身につけた技術者
（4）実験・実習や調査・研究内容などを記述し，報告できる能力を身につけた技術者

５．制御情報工学科
（1）問題解決能力と提案能力を備えた豊かな創造性を身につけた技術者
（2）体系的かつ実践的な学習によるインターフェース技術を身につけた技術者
（3）国際感覚を持ち技術者倫理を身につけた技術者

６．物質化学工学科
（1）自主的・継続的な学習を通じて、自ら知識や技術を高めることができる技術者
（2）物質化学工学分野に関する知識と実践的技術を身につけた技術者
（3）物質化学工学分野に関する知識や技術を活かし、問題を解決する能力を有する技術者
（4）工業技術と社会・環境との関わりを理解でき、倫理観を有する技術者

（出典　平成 24 年度 JABEE・認証評価委員会資料より）

資料１－１－①－６

表２　北九州工業高等専門学校「学修の指針」

アドミッション・ポリシーで求める人物像（本科）

・数学、理科の分野に興味がある者　　・工学の分野に興味がある者
・実験・実習に自ら進んで取り組むことができる者　　・将来、国際センスと人間性を備え、社会を支える技術者として活躍する意志を持つ者

	工学技術教育目標：技術の進歩・変動に柔軟に対応できる基礎力を有する技術者の育成		社会性・人間性教育目標：社会性や教養を身につけた人間性豊かな学生の育成	
学年	目　標	具　体　的　内　容	目　標	具　体　的　内　容
１年	①学習方法の意識改革と実践 ②技術を学ぶ高専生としての自覚の確立	① 授業に集中する習慣とテキストを自ら読む習慣をつける ② 高専での学修に最も重要な好奇心・探求心をもって、自ら学ぶ自学自習（予習、復習）の習慣をつける ③ 科目ごとの学習法を身に付ける（記憶が必要であると同時に反復復習の必要な科目、暗記ではなく基本的事項の理解が重要な科目） ④ 課題・レポート等に自力で取り組み、期限を厳守する ⑤ 文書や発表を通じ、自己を正しく表現する訓練を始める ⑥ 卒業後技術者として仕事をしていくためには、全ての科目が重要であることを認識する ⑦ 実験、実習を通して、実験機器などの取り扱い方法を学ぶ ⑧ もの作りの重要性を知る	①高専生活への適応	① 学校生活に慣れ、高専生としての生活リズム（学習、部活、余暇他）を確立し、高専生にふさわしい身なりと挨拶・言葉使い・礼儀・マナーを身につける ② 学校行事・クラブ活動への参加・寮生活を通して、協調性・連帯性への意識を高め、本校学生としての自覚をもつ ③ 基礎体力・持続力・集中力・忍耐力を身につける。 ④ 工場見学等を通して、社会での技術に目を向け、働くことの意味とすばらしさを考える ⑤ 清掃作業を通して、奉仕とボランティア精神の気持ちを育む ⑥ いろいろな教員の体験を聞くことによって、社会とのつながりを学習し、新聞その他のメディアを通じて社会の動向に関心をもつ
２年	①理論的な思考の訓練 ②一般科目と専門科目の関連の理解	① 理解を深めるため、家庭学習などで考えながら自学自習をする習慣をつける ② 文字式の計算と文字式により表現される専門科目の基本原理に慣れる ③ 実験・実習通じて、理論と実際の両面から専門を理解する ④ 学習時間の配分を計画し、専門科目と一般科目のバランスの取れた学習法を確立する ⑤ 英語によるコミュニケーションの基礎を習得する	②自己を客観的に認識する訓練	① 自立心と向上心を養う ② 自然や環境・社会について考え、社会と自分との関わりを自覚する ③ 工場見学等を通して、社会での技術やその役割に目を向ける ④ 自分の人生・将来の展望に関心を向け、今どうするべきかを考える ⑤ 進路と学習の関わりを展望し、主体的な学習を確立する ⑥ 技術者として働くことと人生や社会との関わりを考える
３年	①理論的な思考の定着 ②一般教養の習得	① 基本的問題を複数の観点から解く練習により、柔軟な思考を身に付ける ② 式の意味を理解し、論理展開する練習を行う ③ 学習時間を十分確保し、多種の演習問題に対応できるようにする ④ 準備からレポート作成までの一貫した実験・実習を通じて、もの作りの基礎を理解していく ⑤ 社会的に通用する人格を形成するため、人文教育等を通して社会問題や歴史、文化を考える ⑥ コミュニケーション能力の育成に努める ⑦ 情報収集能力等の情報リテラシーを習得する	③自分の適性と人生設計（仕事・社会・家庭との関連）	① 将来、自分はどのような仕事への適性があるかを考える ② 自分の進路とその実現方法を考える（企業見学や社会人との交流を通じて、自己の進路や目標を模索する） ③ 歴史や文化などの多様性を理解し、社会への関心を高めるとともに、異文化を受容できる力を身に付ける ④ 技術と自然や環境、技術者として働くことと人生や社会との関わりを考える ⑤ 本校の中堅となるべく、積極的なコミュニケーションが取れるように努める ⑥ 社会人として、技術者として必要な素養、一般常識や礼儀、マナーについて考える ⑦ 集団の中での自己のあり方を考え、先輩後輩等、広範な人間関係を形成する
４年	系統的な知識・技術の融合と論理的構成の定着	① 専門科目の基本理論を修得し、十分に活用できるようにする ② 理論を基礎に実験・実習等に取り組み、技術者に必要な工学的素養を育成する ③ 専門科目へ自発的に取り組み、自己学習能力を向上させる ④ 一般科目や専門基礎科目とのつながりを踏まえて専門科目を学習する ⑤ 歴史・文化・社会などについて理解する ⑥ コミュニケーション能力の発展に努める ⑦ インターンシップ等を通して、企業のもの作りや実務を体験する ⑧ 現代社会の様々な問題と技術との関わりを考える	④将来の目標設定・進路選択 ⑤リーダーシップの必要性の自覚	① 学内・学外研修での企業や社会人との交流を通じて、自己の進路や目標を決定する ② 自身の希望する進路の実現に向けて、必要な能力等を身につける ③ 現代社会の中での問題と自分の専門とする工学技術関係を通じて、技術者としての倫理について考える ④ 技術者としての自己の役割を考える ⑤ 社会人として、技術者として必要な素養、常識や礼儀、マナーを身につける ⑥ 学生会、寮生会、クラブのリーダーとしての活動を通じて、企画力・指導力等を養う
５年	総合的な理解と応用力の養成および論理的に推論する柔軟な思考の訓練	① 卒業研究・実験を通して各事象を総合的な論理体系から解析し、分析する能力を身に付ける ② 理論を基礎に実験・実習等に取り組み、技術者に必要な工学的素養を育成する ③ 基本理論に基づいた応用力を養う ④ 卒業研究等を通して創造性や発想力を養う ⑤ 卒業研究等を通して情報の収集、整理、伝達やプレゼンテーション等のコミュニケーション能力の育成に努める	⑥集団・社会の中での自分の役割認識	① これからの技術者像について考える ② 社会問題や歴史、文化について考える ③ 最終学年として学校行事や学生会活動等でリーダーシップが取れる ④ 社会への貢献に関心を持つ

アドミッション・ポリシーで求める人物像（専攻科）

・高等専門学校準学士課程等における基礎的な専門知識の確立を図り、さらにその専門知識を深めようとする意欲がある者
・いろいろな分野の工学知識を学び、広い視野からの問題解決能力を身につけようとする向上心を持つ者

学年	目　標	具　体　的　内　容	目　標	具　体　的　内　容
専攻科１年・２年	①問題発見・問題解決能力の育成 ②自主的な特別研究への取り組み ③専門以外の広範な工学基礎知識の獲得と専門科目への適用	① 専攻分野の実践的技術者として必要な応用力を身につける ② 他専門の考え方や手法を幅広く学び、複合的観点からものごとを考える力を身につける ③ 幅広い専門分野に関連する実験・実習などに取り組み、応用力を深める ④ 社会や自然に及ぼす技術の影響を見極めるとともに、実践の場において技術者が直面する様々な問題について理解する ⑤ 知的な好奇心と探求心をもって自ら学び、独創性の形成を図る ⑥ 特別研究を通して、課題発見・問題解決能力の修得を図る ⑦ 現代の技術動向の認識とその将来性を展望する習慣をつける ⑧ 特別研究を自らの課題として取り組み、その成果をまとめて発表することにより、コミュニケーション力をつけるとともに、実践的技術者として研究・開発を進める上で必要となる能力の定着を図る ⑨ 英語演習や外国語文献の講読などを通じて、国際的なコミュニケーション基礎力を養う ⑩ ［学士］の学位を取得する	①技術者倫理の理解と技術者像の形成 ②協調性・リーダーシップの確立	① 社会の動向に目を向ける習慣をつける ② 技術者が直面する様々な社会的問題について学び、人間社会における技術者の位置づけを理解し、社会にいかに貢献できるかを考える ③ 広い教養と柔軟な思考で、公正・公平な判断ができる能力を養う ④ 特別研究において、卒業研究生の指導を通して、問題解決におけるリーダーシップや協調性の役割の理解と実践を行う

（出典　平成 25 年度シラバスより）

養成する人物像　　資料１－１－①－７

	No.	養成する人物像	A 基礎学力 ①	A 基礎学力 ②	B 専攻専門 ①	B 専攻専門 ②	C 専門実践 ①	C 専門実践 ②	C 専門実践 ③	C 専門実践 ④	D 総合・技術 ①	D 総合・技術 ②	D 総合・技術 ③	E コミュニケーション ①	E コミュニケーション ②	E コミュニケーション ③	F 技術倫理 ①	F 技術倫理 ②	F 技術倫理 ③	G 人間性涵養 ①	G 人間性涵養 ②
制御情報工学科	(1)	問題解決能力と提案能力を備えた豊かな創造性を身に付けた技術者					◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎		◎			○			
	(2)	体系的かつ実践的な学習によるインターフェース技術を身に付けた技術者	◎	◎	◎	◎	○				○										
	(3)	国際感覚を持ち技術者倫理を身に付けた技術者													○	○		◎	◎		
総合科学科	(1)	総合的な教養・見識を身につけ、多面的な思考・判断のできる人材	◎											◎		○	○	○			◎
	(2)	真理を追究し、世界的視点に立って時代の要求を洞察できる人材														◎		◎	○		
	(3)	自己を確立し、多様な社会・文化・自然を尊重し、これらとの共生を目指す人材															◎			○	
	(4)	論理的思考や言語表現の基礎的能力を養成し、自ら問題を発見し解決することのできる人材	○	◎										○	◎						
	(5)	ゆるぎない信念を持ち、生涯にわたり健やかな心身を自ら育む人材																	◎	◎	○

養成する人物

	No.	養成する物像	A 基礎学力 ①	A 基礎学力 ②	B 専攻専門 ①	B 専攻専門 ②	C 専門実践 ①	C 専門実践 ②	C 専門実践 ③	C 専門実践 ④	D 総合・技術 ①	D 総合・技術 ②	D 総合・技術 ③	D 総合・技術 ④	D 総合・技術 ⑤	E コミュニケーション ①	E コミュニケーション ②	E コミュニケーション ③	E コミュニケーション ④	E コミュニケーション ⑤	F 技術倫理 ①	F 技術倫理 ②	F 技術倫理 ③
専攻共通	(1)	専攻科の入学までに修得した専門分野（機械工学、電気電子工学、電子制御工学、制御情報工学、物質化学工学）に関わる工学知識・専門技術をさらに深め、身に付けた技術者	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎													
	(2)	コミュニケーション能力を身に付け、国際的な文化や技術者の社会的責任を理解できる技術者														◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	(3)	他分野の工学知識を身に付けた技術者					○	○	○	○	○	◎	◎	◎	◎								
	(4)	広い視野から問題を捉え、解決することのできる素養を身に付けた技術者					○				◎	◎	◎	◎	◎						○	◎	◎
制御工学専攻	(5)	コンピュータの応用技術を習得した技術者				◎					◎												
	(6)	情報処理に関する応用知識を習得した技術者		◎	◎	◎					◎												
	(7)	制御工学とその応用技術との総合的知識を習得した技術者				◎	◎	◎	◎		◎	◎	◎	◎	◎		◎	◎		◎		◎	◎

（出典　平成 23 年度 JABEE 委員会検討結果より）

観点１－２－①：　目的が、学校の構成員（教職員及び学生）に周知されているか。

（観点に係る状況）

本校の使命は，学校要覧(資料１－２－①－１)やウェブサイトに掲載され，学生便覧にも“沿革の概要”と学則が示されている。また，教育理念と教育目的，教育目標(資料１－２－①－２)も学校要覧やウェブサイト，シラバスで周知され，各学科，各専攻で養成する人物像(資料１－２－①－３）についてもシラバスと各学科のウェブサイトで開示されている。

教員採用時や転入時に実施される５主事（教務主事，学生主事，寮務主事，専攻科主事，総務主事）による説明会では，本校の使命，養成する人物像及び卒業(修了)時に身に付けるべき資質・学力，教育研究活動を実施する上での基本方針について説明がなされている。学校要覧については，教職員に配布し，周知が図られている（資料１－２－①－４）。

準学士課程の学生に対しては，「教育目標」と「卒業・修了時に身に付けるべき資質・学力」及び「養成する人物像」について，入学前の体験入学や入試懇談会の学科紹介（資料１－２－①－５：別添資料，６），さらには入学直後にスタートする「工学基礎実験」の初回に校長，教務主事による講話の中（資料１－２－①－７）で繰り返し説明を行っている。専攻科課程の学生に対しては，専攻科主事によるガイダンスの中で「専攻科履修要覧」を用いて説明している(資料１－２－①-10)。

「教育理念」から「養成する人物像」，「学修の指針」及びアドミッションポリシーに対する教職員の認知度について，平成25年４，５月にアンケート調査したところ，教員は約９割，職員は約６割強に留まっている（資料１－２－①－12）。また，学生対象の達成度アンケート（資料１－２－①－８，９）の集計結果では，「教育目標」と「卒業・修了時に身に付けるべき資質・学力」を理解している割合が７割程度であった。このため，構成員に教育目標カードを配布し，全ての教室，実験室，事務室等に，教育理念等のポスターを掲示している（資料１－２－①－11）。

（分析結果とその根拠理由）

学校の構成員に対して，資料の配布等によって目的等の周知を図り，認知度又は理解度を調査・把握している。認知度，理解度のさらなる向上のため，カードの配布，ポスターの掲示を行っている。

資料１－２－①－１

沿革の概要

Outline of History

記載箇所

我が国産業の目覚ましい発展に伴い、科学技術者の養成が強く要望され、昭和36年６月第38回国会において学校教育法の一部を改正する法律が成立し、昭和37年度から新たな学校制度としての高等専門学校が発足した。

北九州工業高等専門学校は、この新しい高等教育機関の一つとして工業に関する専門教育を授け、産業の興隆及び文化の発展に貢献し得る有能な技術者を育成するため、昭和40年４月１日工業都市北九州市に創立された。当時は機械工学科（入学定員80人）、電気工学科（入学定員40人）の２学科で発足したが、昭和45年度に化学工学科（入学定員40人）、そして昭和62年度には、新たに電子制御工学科（入学定員40人）が増設された。

さらに、平成元年４月１日には、機械工学科が機械工学科（入学定員40人）と制御情報工学科（入学定員40人）に分離改組され、平成８年４月１日に大学評価・学位授与機構が認定する（生産工学、制御工学及び化学工学の３専攻から成る）２年制の専攻科が設置された。

また、平成10年４月１日には、化学工学科（入学定員40人）が物質化学工学科（入学定員40人）に改組され、平成14年４月１日に電気工学科（入学定員40人）が電気電子工学科（入学定員40人）に、平成16年４月１日に専攻科の化学工学専攻（入学定員４人）が物質化学工学専攻（入学定員４人）に名称変更された。

独立行政法人国立高等専門学校機構法（平成15年法律第113号）の施行により、平成16年４月１日から、独立行政法人国立高等専門学校機構が設置する北九州工業高等専門学校となる。

平成18年５月には、専攻科の「生産デザイン工学」教育プログラムが日本技術者教育認定機構（JABEE）から認定を受けた。

平成18年度には大学評価・学位授与機構による認証評価を受審し、その認定を受けた。

平成22年度には、日本技術者教育認定機構（JABEE）より認定継続審査を受審し、平成23年度に認定を受けた。

（出典　平成24年度学校要覧より）

資料１－２－①－２（その１）

HOME ≫ 学校案内 ≫ 教育活動 ≫ 教育目標

◦ 北九州工業高等専門学校・準学士課程ならびに専攻科課程の教育目標

教育理念

明るい未来を創造する開拓型エンジニアの育成

教育目的

(1)幅広い工学基礎と創造的技術開発力の修得

(2)国際社会で尊敬され、信頼される国際センスの修得

(3)地球にやさしい技術を開発できる心豊かな人間性の涵養

（出典　北九州工業高等専門学校ウェブサイト）

資料１－２－①－２（その２）

教育目標;準学士課程

(A) 技術内容を理解できる基礎学力(数学、自然科学、情報)と自己学習能力を持つ技術者

①数学・物理・化学などの自然科学、情報技術に関する基礎を理解できる。

②自主的・継続的な学習を通じて、基礎科目に関する問題を解くことができる。

(B) 専門分野における基礎知識を身に付けた技術者

①専門分野における工学の基礎を理解できる。

②自主的・継続的な学習を通じて、専門工学の基礎科目に関する問題を解くことができる。

(C) 専門工学基礎知識の上に実践的技術を学んだ技術者

①実験や実習を通じて、問題解決の実践的な経験を積む。

②機器類(装置・計測器・コンピュータなど)を用いて、データを収集し、処理できる。

③実験結果から適切な図や表を作り、専門工学基礎知識をもとにその内容を考察することができる。

④実験や実習について、方法・結果・考察をまとめ、報告できる。

(D) 身につけた工学知識・技術をもとにして問題を解決する能力を有する技術者

①専門工学の基礎に関する知識と基礎技術を統合し、活用できる。

②工学知識や技術を用いて、課題解決のための調査や実験を計画し、遂行できる。

③工学知識や技術を用いて、課題解決のための結果の整理・分析・考察・報告ができる。

(E) 多様な文化を理解するための教養を持ち、日本語および外国語によるコミュニケーションの基礎能力を有する技術者

①歴史・文化・国語・外国語を学び、コミュニケーションするための基礎的な教養を身につける。

②日本語で論理的に記述し、報告・討論できる。

③英語によるコミュニケーションの基礎能力(読解・記述・会話)を身につける。

(F) 歴史・文化・社会に関する教養をもち、技術の社会・環境とのかかわりを考えることのできる技術者

①歴史・文化・社会に関する基礎的な知識を身につける。

②工業技術と社会・環境との関わりを考えることができる。

③技術者としての役割と責任を認識できる。

(G) 社会の一員としての自覚、倫理観をもち、心豊かな人間性を有する技術者

①健やかな心身をもち、社会性、協調性を身につける。

②社会人として、技術者として必要な素養、一般常識や礼儀，マナーについて考えることができる。

（出典　北九州工業高等専門学校ウェブサイト）

資料１－２－①－２（その３）

教育目標;専攻科課程

(A) 技術内容の高度化に対応できる基礎学力(数学、自然科学、情報)と自己学習能力を持つ技術者

①数学・物理・化学などの自然科学、情報技術に関する共通基礎を理解できる。

②自主的・継続的な学習を通じて、共通基礎科目に関する問題を解決できる。

(B) 専攻分野の「生産」に関わる専門知識を身に付けた技術者

①共通基礎知識を用いて、専攻分野における設計・製作・評価・改良など生産に関わる専門工学の基礎を理解できる。

②自主的・継続的な学習を通じて、専門工学の基礎科目に関する問題を解決できる。

(C) 専門工学知識の上に「生産」に関わる実践的技術を身に付けた技術者

①専門工学の実践に必要な知識を深め、実験や実習を通じて、問題解決の経験を積む。

②機器類(装置・計測器・コンピュータなど)を用いて、データを収集し、処理できる。

③実験結果から適切な図や表を作り、専門工学知識をもとに分析し、結論を導き出せる。

④実験や実習について、方法・結果・考察を的確にまとめ、報告できる。

(D) 幅広い視野から問題を捉え、複数分野の工学知識・技術を有機的に結び付け、総合的に問題を解決する素養(デザイン能力)を有する技術者

①専攻分野における専門工学の基礎に関する知識と基礎技術を総合し、応用できる。

②専攻分野の専門性に加え、他分野の知識も学習し、幅広い視野から問題点を把握できる。

③要求された課題に対して幅広い視野で問題点を把握し、その解決方法を提案できる。

④工学知識や技術を統合し、課題解決のための調査や実験を自発的に計画し、遂行できる。

⑤工学知識や技術を統合し、課題解決のための結果の整理・分析・考察・報告ができる。

(E) 多様な文化を理解する能力を持ち、日本語および外国語によるコミュニケーション能力を有する技術者

①歴史・文化・日本文学(国語)・外国語を学び、多様な文化を理解できる。

②実験・実習・調査・研究内容について、日本語で論理的に記述し、報告・討論できる。

③専攻分野の技術英文を含め、英文を読解し、日本語での内容説明ができる。

④調査・研究の目的と内容を理解した上で、その概要を英語で記述できる。

⑤英語による基本的な会話ができる。

(F) 歴史・文化・社会に関する教養と頑健な心身をもち、技術の社会・環境とのかかわりを考えることのできる技術者

①歴史・文化・社会に関する知識をもち、それらを示すことができる。

②工業技術と社会・環境との関わりを理解し、社会・環境への効果と影響を説明できる。

③技術者としての役割と責任(倫理観)を認識し、説明できる。

（出典　北九州工業高等専門学校ウェブサイト）

資料１－２－①－３



機械工学科
Department of Mechanical Engineering
Kitakyushu National College of Technology
北九州工業高等専門学校

MENU
- トップページ
- 学科紹介
- 学科の教育目的・目標
- 教員紹介
- シラバス
- 卒業後の進路
- 中学生のみなさんへ
- 学科のイベント
- リンク
  北九州高専ホーム

KCT
Department of Mechanical Engineering
Kitakyushu National College of Technology

北九州工業高等専門学校
機械工学科
〒802-0985
北九州市小倉南区志井5-20-1
TEL:093(964)7269

学科の教育目的・目標

学科の教育目的

機械工学科では，機械工学系力学ならびに物理・数学教育を通して工学問題の理解力と解析力を育成するための「機械基礎」，機械工学としての創造力を育成するための「設計生産」，知識と能力のシステム化・知能化（インテリジェント化）を推進するための「情報技術」を3つの柱として，これらを統合させた「知的総合能力を駆使できるエンジニアの育成」を教育目的としています．

学科の教育目標

機械工学に関する基礎的知識と技術を一般教養と併せて習得させ、機械工学に関する基礎理論の理解と応用に力を入れるとともに，自動化や先端技術に関する教科にも充実を図り，目覚しい技術革新に対応できる機械技術者の素養育成を目指し，以下の3つの教育目標を掲げています．

» 機械工学科の本質を知り，問題解決のための理解力と解析力を育む技術者教育の実現

» 人間性と自己の確立に努力し，独自創造力を育む技術者教育の実現

» 機械工学における個々の技術を統合し，システム化するための知識と能力を育む技術者教育の実現

Copyright (c) 2006-2007 Dept. Mech. Eng., Kitakyushu Nat. Coll. Tech., All Rights Reserved.

（出典　北九州工業高等専門学校ウェブサイト　学科紹介より）

資料１－２－①－４

学校要覧配布一覧表

配布先	部数
教職員	125
文部科学省	3
独立行政法人国立高等専門学校機構	3
関係機関及び市町村関係	7
全国高専及び九州地区大学等	76
歴代校長･事務部長	12
中学校	400
就職関係企業等	130
諸会議	344
行事用	300
予備	100
合　　計	1,500

（出典　平成 24 年度総務課資料より）

資料１－２－①－６

平成２４年度
オープンキャンパス及び入試懇談会

１．期　　日　　平成２４年１０月１７日（水）（北九州市内の中学校）
１８日（木）（北九州市外の中学校）

２．会　　場　　北九州工業高等専門学校

３．日　　程

時　刻	内　　容	
	中学校生徒対象	保護者・中学校教諭対象
１２：３０(予) ～ １３：１０	受付（資料配布）	
１３：１０ ～ １３：３０	説明会（第１体育館） （１）挨拶・・・・・・・・・・・・校　　長 （２）入学試験概要説明・・・・・学生課長	
１３：３０ ～ １４：３０	校内施設等見学（案内図により各自自由に見学） （１）実験・実習の見学 （２）施設・設備の見学 （３）学科紹介 （４）質問コーナー等	
１４：３０ ～ １５：００	（継続して校内施設等見学）	入試懇談会（合同講義室） （１）学校概要・・・・副校長 （２）入試選抜概要・・副校長 （３）質疑応答・・・・関係者
１５：００ ～ １６：００	継続して校内施設等見学 （使命、到達目標、基本方針を理解して頂くための配布資料）	

（出典　平成 24 年度秋季オープンキャンパス及び入試懇談会資料より）

工学基礎実験第1回目に実施される教育理念等に関する講話　　資料１－２－①－７

工学基礎実験ガイダンス

日時　平成２５年４月１６日（火）１時限～４時限

会場　２号館１階（合同講義室）
※教室で出席確認、資料配布後、会場へ移動

（スケジュール）

○ 校長先生の挨拶

○ 実験内容の説明と担当者の紹介

○ ＤＶＤ鑑賞

○ 教務主事の講話

○ 実験場所の見学

（校長及び副校長による講話）

（出典　平成 25 年度実施・工学基礎実験案内より）

資料１－２－①－８

卒業に際してのアンケート

このアンケートは、卒業に際して北九州高専の「教育目的」・「教育目標」が達成されているか、また、高専生活全般に関して卒業生の意見を調べ、今後の北九州高専の教育への大切な資料とするものです。皆様のご協力をよろしくお願い致します。

［ 教育目的・教育目標に関しての達成度に関する質問 ］

Ⅰ．「教育目的」に関する質問；

１．本校の**「３つの教育目的」**を十分知って、学生生活を送ることが出来ましたか？

ほとんどできなかった	あまりできなかった	ある程度できた	大いにできた
1	2	3	4

Ⅱ．「教育目標」に関する質問

２．本校の（A）～（G）の**「教育目標」**を十分知って、学生生活を送ることが出来ましたか？

専攻科修了に際してのアンケート

このアンケートは、専攻科修了に際して北九州高専の「教育目的」・「教育目標」が達成されているか、また、専攻科生活全般に関して修了生の意見を調べ、今後の北九州高専の教育への大切な資料とするものです。皆様のご協力をよろしくお願い致します。

［ 教育目的・教育目標に関しての達成度に関する質問 ］

Ⅰ．「教育目的」に関する質問；

１．本校の**「３つの教育目的」**を十分知って、学生生活を送ることが出来ましたか？

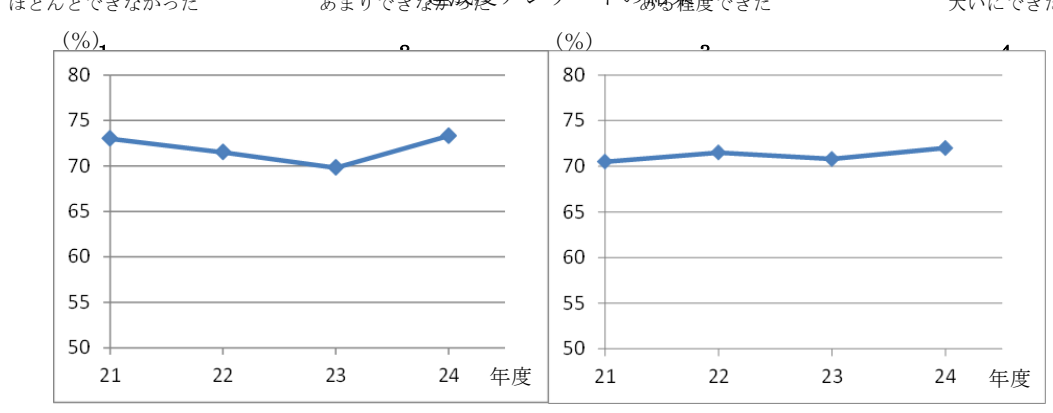
ほとんどできなかった	あまりできなかった	ある程度できた	大いにできた
1	2	3	4

Ⅱ．「教育目標」に関する質問

（出典　卒業・修了時アンケート調査用紙より）

資料１－２－①－９

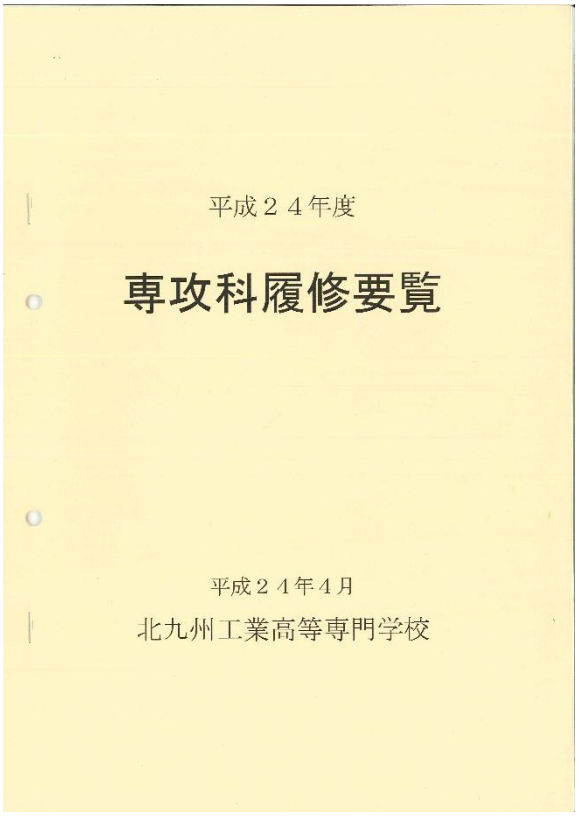
達成度アンケートの結果



（a）準学士課程　　（b）専攻科課程

（出典　卒業・修了時アンケート調査結果より）

資料１－２－①－10

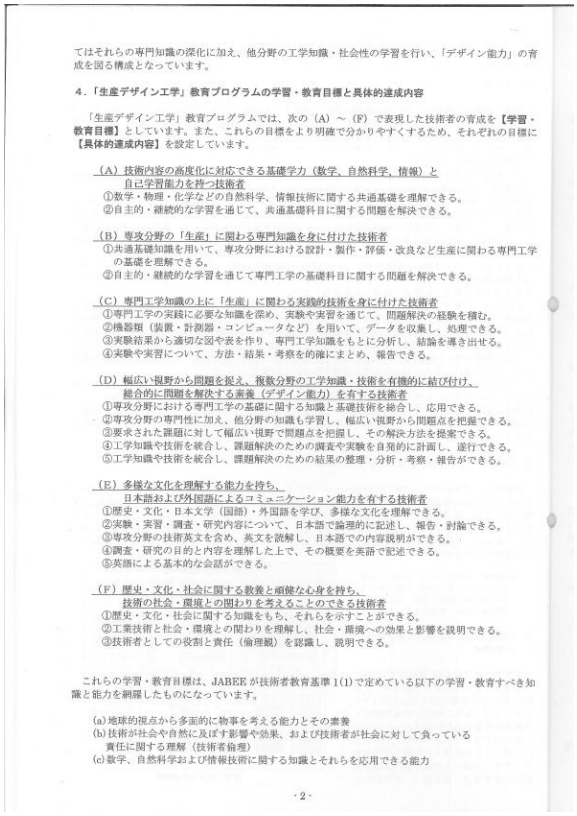


平成２４年度

専攻科履修要覧

平成２４年４月

北九州工業高等専門学校



ではそれらの専門知識の深化に加え、他分野の工学知識・社会性の学習を行い、「デザイン能力」の育成を図る構成となっています。

4.「生産デザイン工学」教育プログラムの学習・教育目標と具体的達成内容

「生産デザイン工学」教育プログラムでは、次の（A）～（F）で表現した技術者の育成を【学習・教育目標】としています。また、これらの目標をより明確で分かりやすくするため、それぞれの目標に【具体的達成内容】を設定しています。

（A）技術内容の高度化に対応できる基礎学力（数学、自然科学、情報）と自己学習能力を持つ技術者
①数学・物理・化学などの自然科学、情報技術に関する共通基礎を理解できる。
②自主的・継続的な学習を通じて、共通基礎科目に関する問題を解決できる。

（B）専攻分野の「生産」に関わる専門知識を身に付けた技術者
①共通基礎知識を用いて、専攻分野における設計・製作・評価・改良など生産に関わる専門工学の基礎を理解できる。
②自主的・継続的な学習を通じて専門工学の基礎科目に関する問題を解決できる。

（C）専門工学知識の上に「生産」に関わる実践的技術を身に付けた技術者
①専門工学の実践に必要な知識を深め、実験や実習を通じて、問題解決の経験を積む。
②機器類（装置・計測器・コンピュータなど）を用いて、データを収集し、処理できる。
③実験結果から適切な図や表を作り、専門工学知識をもとに分析し、結論を導き出せる。
④実験や実習について、方法・結果・考察を的確にまとめ、報告できる。

（D）幅広い視野から問題を捉え、複数分野の工学知識・技術を有機的に結び付け、総合的に問題を解決する素養（デザイン能力）を有する技術者
①専攻分野における専門工学の基礎に関する知識と基礎技術を総合し、応用できる。
②専攻分野の専門性に加え、他分野の知識も学習し、幅広い視野から問題点を把握できる。
③要求された課題に対して幅広い視野で問題点を把握し、その解決方法を提案できる。
④工学知識や技術を統合し、課題解決のための調査や実験を自発的に計画し、遂行できる。
⑤工学知識や技術を統合し、課題解決のための結果の整理・分析・考察・報告ができる。

（E）多様な文化を理解する能力を持ち、日本語および外国語によるコミュニケーション能力を有する技術者
①歴史・文化・日本文学（国語）・外国語を学び、多様な文化を理解できる。
②実験・実習・調査・研究内容について、日本語で論理的に記述し、報告・討論できる。
③専攻分野の技術英文を含め、英文を読解し、日本語での内容説明ができる。
④調査・研究の目的と内容を理解した上で、その概要を英語で記述できる。
⑤英語による基本的な会話ができる。

（F）歴史・文化・社会に関する教養と頑健な心身を持ち、技術の社会・環境との関わりを考えることのできる技術者
①歴史・文化・社会に関する知識をもち、それらを示すことができる。
②工業技術と社会・環境との関わりを理解し、社会・環境への効果と影響を説明できる。
③技術者としての役割と責任（倫理観）を認識し、説明できる。

これらの学習・教育目標は、JABEE が技術者教育基準 1(1)で定めている以下の学習・教育すべき知識と能力を網羅したものになっています。

(a) 地球的視点から多面的に物事を考える能力とその素養
(b) 技術が社会や自然に及ぼす影響や効果、および技術者が社会に対して負っている責任に関する理解（技術者倫理）
(c) 数学、自然科学および情報技術に関する知識とそれらを応用できる能力

- 2 -

（出典　平成 24 年度専攻科履修要覧より）

資料１－２－①－11

教育理念，目標等の周知のためのポスター

本校の教育理念，教育目的，教育目標，養成する人物像，及び学修の指針について

まず，（別紙１）を見て下さい。北九州高専では，教育理念「明るい未来を創造する開拓型エンジニアの育成」の下，３つの教育目的を掲げています。

(1) 幅広い工学基礎と創造的技術開発力の修得
(2) 国際社会で尊敬され，信頼できる国際センスの修得
(3) 地球にやさしい技術を開発できる心豊かな人間性の涵養

この目的を実現するための教育目標として，本科の教育目標(A)～(G)，専攻科の教育目標(A)～(F)を定めています。また，これらの目標の下には，達成すべき教育内容と水準を表現した具体的達成内容，いわゆる身に付けるべき能力・資質を小項目①，②等で示しています。シラバスには，学生の皆さんが学ぶ一つ一つの科目が，どの教育目標や身に付けるべき能力・資質に関わっているかを明記しています。これら教育目標と身に付けるべき能力・資質を意識して学習に取り組むことで，より学習成果が上がると考えられます。

（別紙２，３）は，教育目標をより分かりやすくするために，各学科・各専攻で養成する人物像と教育目標の関わりを示したものです。また，備考欄に人物像と関係する授業科目を示しています。この表の各教育目標の達成度から，自分がどの様な技術者に成長しつつあるのか，自分の強みは何なのか，何を克服すべきかを推測・分析することができます。

教育目標は５年間または７年間の学習によって，ようやく達成されるもので，各学年でどの程度のことができれば良いかは明らかではありません。そこで，学生の皆さんに各学年で何をどの様に身に付けるべきかの指針（学年ごとの目標）を示す必要があり，（別紙４）の「学修の指針」を定めています。これには，「工学技術教育目標」と「社会性・人間性教育目標」に関する指針があります。皆さんが卒業・修了後，「明るい未来を創造する開拓型エンジニア」として活躍するためには，工学技術教育目標だけではなく社会性・人間性教育目標も達成する必要があります。３年生までの特別活動，オリエンテーション，ホームルーム，工場見学，各種講演会等は，学修の指針に沿って計画・実行しています。それぞれの活動が学修の指針のいずれに該当しているか意識して，各活動に取り組むことで，各学年の目標をより高いレベルで達成でき，最終的には高いレベルの「明るい未来を創造する開拓型エンジニア」に成長できると考えられます。

最後に，繰り返しになりますが，教育理念から学修の指針までを意識して学校生活を送ることで，①学習成果がより上がる，②学習に対する姿勢を改善できるとともに，就職や進学の際に，自分自身の強みを分析し，説明する一助となる，③より高いレベルの「明るい未来を創造する開拓型エンジニア」に成長できると考えています。以上のことを意識して，学校生活を送って下さい。

平成 25 年 5 月 27 日　JABEE・認証評価委員会

（出典　平成 25 年度 JABEE・認証評価委員会資料より）

資料１－２－①－12

対象	教員	職員
調査日	H25/4/5	H25/4/26，5/2,22

教育理念，教育目標，資質・能力，人物像，
学修の指針，アドミッション・ポリシーに関する調査

問１　教育理念を知っていますか.

１．知らない	２．大体知っている	３．よく知っている

問２　３つの教育目的を知っていますか.

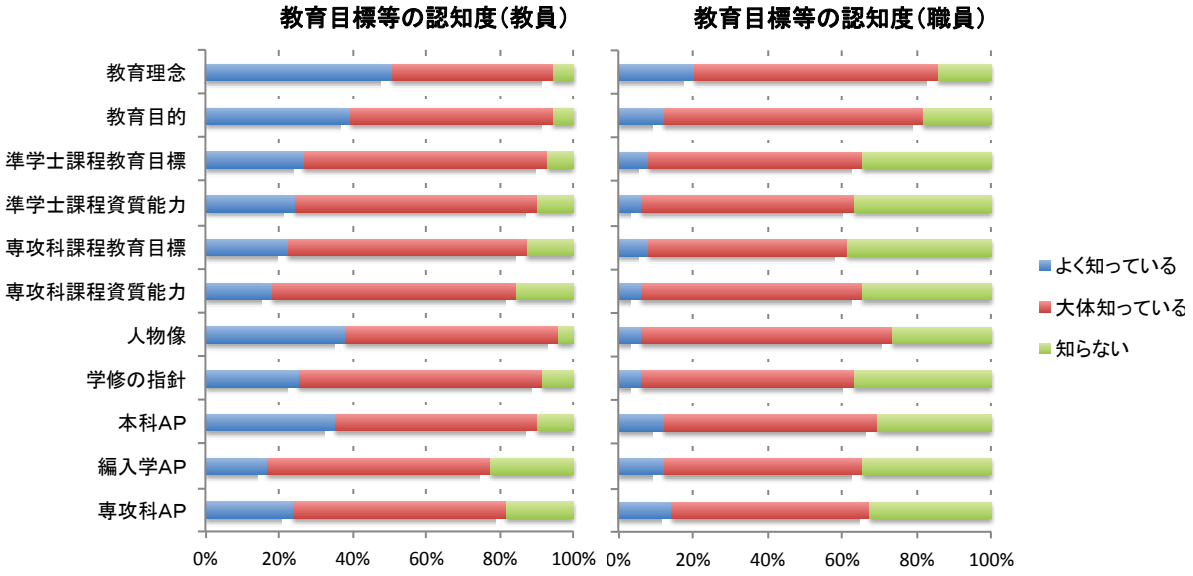
１．知らない	２．大体知っている	３．よく知っている

問３　準学士課程の教育目標 A-G を知っていますか.

１．知らない	２．大体知っている	３．よく知っている

問４　準学士課程の教育目標 A-G の下にある卒業時までに身につけるべき資質・能力①，②・・等を知っていますか.

アンケート用紙（一部抜粋）



（出典　平成 25 年度 JABEE・認証評価委員会資料より）

観点１－２－②：　目的が、社会に広く公表されているか。

（観点に係る状況）

「教育理念」，「教育目的」，「教育目標と卒業・修了時に身に付けるべき資質・学力」，「養成する人物像」，「学修の指針」は，全てウェブサイトに掲載され，社会に対して公表されている。また，主として中学生を対象とした本校の学生募集要項(資料１－２－②－１)にも教育目的，教育目標及び卒業時に身に付けるべき資質・学力が記載されており，毎年実施されている体験入学，出前授業あるいは公開講座では，全参加者に対して募集要項が配布されている(資料１－２－①－６)。そのほか，県内の中学校を中心として本校の説明を訪問して行っており，学生募集要項の配布と共に，教育目的の説明を行っている(資料１－２－②－２)。

また，就職先等の関係企業及び進学先の大学等に対しては，「教育方針(理念)，教育目的，教育目標」を記載した学校要覧を配布している(資料１－２－②－３：別添資料)。

（分析結果とその根拠理由）

ウェブサイトには，「教育方針（理念）」，「教育目的」，「教育目標と卒業・修了時に身に付けるべき資質・学力」，「養成する人物像」，「学修の指針」の全てを掲載している。また，中学生向けの学生募集要項には，教育目的，教育目標及び卒業時に身に付けるべき資質・学力を記載しており，体験入学，公開講座や中学校訪問時に積極的に説明を行っている。また，就職先等の関係企業及び進学先の大学等に対しては，学校要覧等の配布を通して，本校の目的の理解を図っている。

以上のことから，本校の目的は，社会に対して広く公表されている。

（２）優れた点及び改善を要する点

（優れた点）

・創設時の使命を踏まえながら教育方針（理念），教育目的，教育目標及び卒業・修了時に身に付けるべき資質・学力を定め，常に時代の変化に即した対応を図り，社会が求める実践的かつ開拓型のエンジニアの育成に努力している。
・教育の方針をより明確化するため，教育目標と専門分野に基づいて各学科，専攻ごとに「養成する人物像」を定め，教育を行っている。
・教育目標を達成させる上で学生が学年進行と共に何を身に付けるべきかを理解しやすくし，さらに学生自身による達成度評価を容易にするため“学修の指針”を定めている。
・教職員や卒業生等に対する教育目標の理解と周知状況をアンケートで確認している。さらに，その結果を踏まえて教育目標の理解と周知状況の向上を図るため，周知用の資料を作成して教室等に掲示し，教職員や学生に配布すると共に，学生への説明会を開催して理解と周知の向上に努めている。

（改善を要する点）

該当なし

資料１－２－②－１



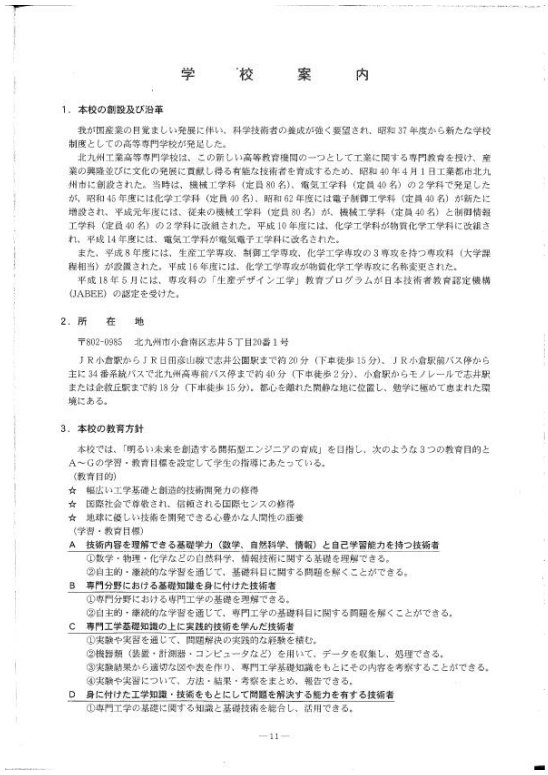
平成 25 年度

学 生 募 集 要 項

（学校案内を含む）

事　　項	推 薦 選 抜	学 力 選 抜
願書受付期間	平成25年1月8日(火) ～1月21日(金)	平成25年2月4日(月) ～2月8日(金)
試　　験　　日	平成25年1月19日(土)	平成25年2月24日(日)
推薦合格内定発表日	平成25年1月25日(金)	
合 格 発 表 日	平成25年3月4日(月)	
入学確約書提出期限	平成25年2月1日(金)	平成25年3月8日(金)
入 学 手 続 日	平成25年3月12日(火)	

独立行政法人　国立高等専門学校機構
北九州工業高等専門学校
KITAKYUSHU NATIONAL COLLEGE OF TECHNOLOGY
〒802-0985　北九州市小倉南区志井５丁目 20 番１号
電　話（０９３）９６４－７２３２（学生課教務係）
ＦＡＸ（０９３）９６４－７２３６（学生課）
ＵＲＬ　http://www.kct.ac.jp



学　　校　　案　　内

1．本校の創設及び沿革

我が国産業の目覚ましい発展に伴い、科学技術者の養成が強く要望され、昭和 37 年度から新たな学校制度としての高等専門学校が発足した。

北九州工業高等専門学校は、この新しい高等教育機関の一つとして工業に関する専門教育を授け、産業の興隆並びに文化の発展に貢献し得る有能な技術者を育成するため、昭和 40 年４月１日工業都市北九州市に創設された。当時は、機械工学科（定員 80 名）、電気工学科（定員 40 名）の２学科で発足したが、昭和 45 年度には化学工学科（定員 40 名）、昭和 62 年度には電子制御工学科（定員 40 名）が新たに増設され、平成元年度には、従来の機械工学科（定員 80 名）が、機械工学科（定員 40 名）と制御情報工学科（定員 40 名）の２学科に改組された。平成 10 年度には、化学工学科が物質化学工学科に改組され、平成 14 年度には、電気工学科が電気電子工学科に改名された。

また、平成８年度には、生産工学専攻、制御工学専攻、化学工学専攻の３専攻を持つ専攻科（大学課程相当）が設置された。平成 16 年度には、化学工学専攻が物質化学工学専攻に名称変更された。

平成 18 年５月には、専攻科の「生産デザイン工学」教育プログラムが日本技術者教育認定機構（JABEE）の認定を受けた。

2．所　在　地

〒802-0985　北九州市小倉南区志井５丁目20番１号

ＪＲ小倉駅からＪＲ日田彦山線で志井公園駅まで約 20 分（下車徒歩 15 分）、ＪＲ小倉駅前バス停から主に 34 番系統バスで北九州高専前バス停まで約 40 分（下車徒歩２分）。小倉駅からモノレールで志井駅または企救丘駅まで約 18 分（下車徒歩 15 分）。都心を離れた閑静な地に位置し、勉学に極めて恵まれた環境にある。

3．本校の教育方針

本校では、「明るい未来を創造する開拓型エンジニアの育成」を目指し、次のような３つの教育目的とA～Gの学習・教育目標を設定して学生の指導にあたっている。

（教育目的）

☆　幅広い工学基礎と創造的技術開発力の修得
☆　国際社会で尊敬され、信頼される国際センスの修得
☆　地球に優しい技術を開発できる心豊かな人間性の涵養

（学習・教育目標）

A　技術内容を理解できる基礎学力（数学、自然科学、情報）と自己学習能力を持つ技術者
①数学・物理・化学などの自然科学、情報技術に関する基礎を理解できる。
②自主的・継続的な学習を通じて、基礎科目に関する問題を解くことができる。

B　専門分野における基礎知識を身に付けた技術者
①専門分野における専門工学の基礎を理解できる。
②自主的・継続的な学習を通じて、専門工学の基礎科目に関する問題を解くことができる。

C　専門工学基礎知識の上に実践的技術を学んだ技術者
①実験や実習を通じて、問題解決の実践的な経験を積む。
②機器類（装置・計測器・コンピュータなど）を用いて、データを収集し、処理できる。
③実験結果から適切な図や表を作り、専門工学基礎知識をもとにその内容を考察することができる。
④実験や実習について、方法・結果・考察をまとめ、報告できる。

D　身に付けた工学知識・技術をもとにして問題を解決する能力を有する技術者
①専門工学の基礎に関する知識と基礎技術を総合し、活用できる。

—11—

（出典　平成 25 年度学生募集要項より抜粋）

中学校訪問の一例

資料１－２－②－２

制御情報　＋　総合（国語・体育・物理）　　若松中学校

訪問地区	中学校名	住所	電話	全校		２４年			
				学級数	生徒数	訪問日	担当教員	説明会日	担当教員
若松区	向洋	北九州市若松区小石本町21-1	761-3097	9	288				
	石峯	北九州市若松区今光1-12-8	791-1225	7	202				
	洞北	北九州市若松区竹並3087-1	741-1224	10	313				
	高須	北九州市若松区高須北1-1-1	741-2440	17	589				
	若松	北九州市若松区白山2-12-45	751-2030	16	534				
	二島	北九州市若松区二島4-5-1	761-3377	14	422				
八幡東区	枝光台	北九州市八幡東区枝光5-8-1	671-1552	9	275				
	槻田	北九州市八幡東区宮の町1-5-1	651-1921	9	285				
	高見	北九州市八幡東区高見4-4-1	651-1886	9	288				
	大蔵	北九州市八幡東区大蔵1-4-1	661-6378	7	189				
	中央	北九州市八幡東区中央3-9-2	662-2190	7	218				
	尾倉	北九州市八幡東区尾倉3-10-1	661-6616	8	173				
	花尾	北九州市八幡東区桃園4-4-1	661-6870	12	367				
中間市	中間	中間市垣生510	244-3500	8	239				
	中間北	中間市岩瀬3-4-1	244-3522	7	130				
	中間東	中間市扇ケ浦3-21-1	244-3533	14	410				
	中間南	中間市朝霧5-2-1	245-4350	12	276				
遠賀郡	岡垣	遠賀郡岡垣町野間3-1-1	282-1333	15	535				
	岡垣東	遠賀郡岡垣町山田峠2-5-1	283-3443	13	364				
	遠賀	遠賀郡遠賀町別府200	293-0043	11	325				
	遠賀南	遠賀郡遠賀町上別府652	293-5757	5	115				
	水巻	遠賀郡水巻町中央17-1	201-0657	14	418				

（出典　平成 24 年度学生課資料より）

（３）基準１の自己評価の概要

本校では，創設時にその使命を定め，それが現在に至るまで貫かれている。また，教育方針（理念），教育目的，教育目標及び卒業・修了時に身に付けるべき資質・学力，学科及び専攻で養成する人物像を具体的に定めることにより，学生が本校において学修する際の具体的な方針を示しており，学校の目的は明確に定められている。

さらに，本校の教育目標は高等専門学校の設置の趣旨及び学校教育法における高等専門学校の目的を踏まえて定められたものであり，教育目的，教育目標及び卒業・修了時に身に付けるべき資質・学力，学科及び専攻で養成する人物像は，学校教育法に定める高等専門学校の目的との関連を明確に意識して策定されていることから，本校の目的は，学校教育法の規定からはずれるものではない。

次に，周知に関しては，教職員に対しては，教育方針（理念），教育目的，教育目標及び卒業・修了時に身に付けるべき資質・学力，学科及び専攻で養成する人物像の全てについて，学生に対しては，教育目標及び卒業・修了時に身に付けるべき資質・学力を中心に周知に努めて，理解を促している。しかし，アンケート調査の結果，一層の理解度の向上を図る余地があると考えられるため，資料の配布等によって周知の強化を図っている。これらの取り組みから，教育方針（理念），教育目的，教育目標及び卒業・修了時に身に付けるべき資質・学力，学科及び専攻で養成する人材像が十分に理解されていると考えられる。さらに，本校の目的等は，ウェブサイトや刊行物への掲載，体験入学，入試懇談会，公開講座や中学校への訪問時の説明及び学校要覧等の学外配布等によって，社会に対して広く公表されている。

基準２　教育組織(実施体制)

(１)観点ごとの分析

観点２－１－①：　学科の構成が、教育の目的を達成する上で適切なものとなっているか。

(観点に係る状況)

「学校教育法に基づく，深く工業に関する専門の教育を授け，産業の興隆及び文化の発展に貢献し得る有能な技術者を育成する」という本校の目的に適う５つの専門学科を設置している(資料２－１－①－１)。各学科は各専門分野の技術者の養成が目的であり，資料２－１－①－２，３に示す工学分野を教授内容の中心に据えている。また，各学科は資料２－１－①－２に示すように，科学技術の動向や社会のニーズを踏まえ教育を行っている。全学科共通の基礎となる一般科目は，総合科学科に所属する教員が，資料２－１－①－２の人物像を念頭に専門学科と連携を取りながら教育にあたっている(資料２－１－①－４)。

資料２－１－①－１

○北九州工業高等専門学校学則

昭和５０年４月１日　規則第１号
改正　平成２４年１２月２０日

第１章　目的及び自己評価等

(目的)

第１条　本校は、教育基本法の精神にのっとり、学校教育法に基づいて、深く工業に関する専門の教育を授け、産業の興隆及び文化の発展に貢献し得る有能な技術者を育成することを目的とする。

第１条の２　本校は、その教育水準の向上を図り、本校の目的及び社会的使命を達成するため、本校における教育研究活動等の状況について自ら点検及び評価を行い、その結果を公表するものとする。

２　前項の点検及び評価の実施に関し必要な事項は、別に定める。

第２章　組織

(学科、学級数、入学定員及び目的)

第２条　本校に次の学科を置く。

（１）機械工学科
（２）電気電子工学科
（３）電子制御工学科
（４）制御情報工学科
（５）物質化学工学科

２　前項各号に規定する学科で養成する人物像は、別に定める。

３　第１項の学級数及び入学定員は、次のとおりとする。

学　　科	学級数	入学定員
機械工学科	１	４０人
電気電子工学科	１	４０人
電子制御工学科	１	４０人
制御情報工学科	１	４０人
物質化学工学科	１	４０人

(出典　学則)

資料２－１－①－２

	養成する人物像
機械工学科	現代の機械工学は、材料やエレクトロニクスの発展に支えられてその進歩が加速され、産業界においては、その規模の拡大とメカトロニクス化が著しく浸透しています。これによって、機械技術者が活躍する分野は、各種プラント・機械加工・自動車・航空機・ロケット・精密機器・ロボット関連など多種多様であり、あらゆる産業界での専門技術者としての期待が高まっています。 機械工学科では、図に示す『知的総合力を駆使できるエンジニアの育成』を教育目的に掲げて、機械工学に関する基礎知識の理解と応用に力を入れるとともに、自動化や先端技術に関する教科にも充実を図り、目覚ましい技術革新にも対応できる機械技術者の素養育成を目指しています。 以下の３項目に示した『技術者』の素養を持った人物を「機械工学科で養成する人物像」に設定しており、これらは機械工学科の「３つの教育目標」に対応しています。 (1) 機械工学の本質を知り、問題解決のための理解力と解析力を身に付けた技術者 (2) 人間性と自己の確立に努力し、独自創造力を身に付けた技術者 (3) 機械工学における個々の技術を統合し、システム化するための知識と能力を身に付けた技術者
電気電子工学科	電気工学関連の分野は、発変電・送配電、各種電気電子機器、情報通信、電気電子材料など非常に広範囲にわたっており、電気技術者にはこれら多様な技術とその進歩に対応できる基礎力と実際の　問題を解決できる応用力・実践力を備えていることが要求されています。そこで、電気電子工学科では、「技術の進歩に対応でき、あらゆるフィールドで活躍できる電気技術者の育成」を教育目的として掲げ、具体的には、以下のような人材の養成を目指しています。 (1) 電気回路、電磁気、電子回路等の専門基礎科目及び数学、物理の基礎力を十分持ち、電気工学、制御工学，情報工学のより高度な問題に対応できる能力を身に付けた技術者 (2) 自ら専門知識・技術を高めることができる能力を身に付けた技術者 (3) 専門知識を活かし問題を解決できる能力を身に付けた技術者
電子制御工学科	情報、電子、通信、制御系の技術革新は目覚しく、特に、最近のコンピュータ応用分野の急速な発展に対し、情報やシステム関連の技術を支える実践的技術者の育成が求められています。本学科では、情報とシステムのハードウェアとソフトウェアの両方の基礎的知識を体系的に身につけることにより、高度情報化社会の技術変化に柔軟に対応できる、理解力と創造力を持った人材の育成を目的としています。この目標を達成するために、以下の具体的な教育目標を定め、教育を行っています。 (1) 電気電子、情報、システム・制御系分野の工学基礎を身に付けた技術者 (2) システムのハードウェアとソフトウェアに関する実践的な技術を身に付けた技術者 (3) 身につけた専門基礎知識・技術を総合し、応用できる能力を身に付けた技術者 (4) 実験・実習や調査・研究内容などを記述し、報告できる能力を身に付けた技術者
制御情報工学科	21 世紀は，産業のあらゆる分野において，各種の小規模な製造装置から大規模なプラントにいたるまで，コンピュータを用いて制御する時代です．このようなコンピュータを用いて何かを制御するためには，その何か即ち制御する対象を十分に知り，コンピュータを用いた情報処理技術とコンピュータと機器装置類とを仲介するインターフェース技術が必要となります． 制御情報工学科では学科の教育目的として,「インターフェースを創造できる機械制御分野の統合的技術者の育成」を掲げ，具体的には (1) 問題解決能力と提案能力を備えた豊かな創造性を身に付けた技術者 (2) 体系的かつ実践的な学習によるインターフェース技術を身に付けた技術者 (3) 国際感覚を持ち技術者倫理を身に付けた技術者 の養成を目指しています．
物質化学工学科	従来の化学工学は、基礎化学工学分野における成果を製造工程化することに主眼を置いてきましたが、最近では化学工学が解決すべき問題が多様化・複雑化しています。また、工学技術の発展も目覚ましく、化学工学分野においても広範な物質に関する専門知識や技術が求められるようになってきました。このような背景から、本学科は従来の化学工学分野に新たに生物化学工学分野の教育課程を加え、化学工学科から物質化学工学科に改組されました。物質化学工学科では、専門分野に関わる幅広い工学知識や実践的技術を活用して現代社会における問題に対応できる高度技術者の育成を教育目的として掲げ、具体的には、以下のような人材の養成を目指しています。 (1) 自主的・継続的な学習を通じて、自ら知識や技術を高めることができる技術者 (2) 物質化学工学分野に関する知識と実践的技術を身に付けた技術者 (3) 物質化学工学分野に関する知識や技術を活かし、問題を解決する能力を有する技術者 (4) 工業技術と社会・環境との関わりを理解でき、倫理観を有する技術者

（出典　平成 25 年度シラバスより作成）

資料２－１－①－３

学科	目標に掲げる専門分野
機械工学科	熱・流体工学，材料・材料力学，設計・加工学
電気電子工学科	電気工学，電子工学，情報通信工学，制御工学
電子制御工学科	電気・電子工学，制御工学，情報工学
制御情報工学科	機械工学，制御工学，情報工学
物質化学工学科　（応用化学工学コース） （生物化学工学コース）	物理化学，有機・高分子化学，化学工学，　無機・材料化学 生命・生物工学

（出典　平成 25 年度シラバスより作成）

資料２－１－①－４

■総合科学科（各学科共通）

Integrated Arts & Science（General Subjects）

総合科学科は、５年間の教育課程の中で専門諸学科と緊密に連携し合い、総合的な知見素養を習熟させることを目的とする。本学科は、文化、言語、理数、体育などに関する授業を行い、学生諸君が優秀な技術者にして健全な市民となるべく、全教員一丸となって教育に当たっている。

総合科学科の教育

１．総合科学科で養成する人物像

高度 IT 化をはじめ、様々な分野でグローバル化が進む中、総合科学科は「有能な社会人として、心豊かな人生を送ることができる人間を育む」ことを教育目的としています。併せて、専門科目の基礎を習得させ、以下のような人物を養成することを教育目標に掲げています。

(1) 総合的な教養・見識を身につけ、多面的な思考・判断のできる人材
(2) 真理を追究し、世界的視点に立って時代の要求を洞察できる人材
(3) 自己を確立し、多様な社会・文化・自然を尊重し、これらとの共生を目指す人材
(4) 論理的思考や言語表現の基礎的能力を養成し、自ら問題を発見し解決することのできる人材
(5) ゆるぎない信念を持ち、生涯にわたり健やかな心身を自ら育む人材

（出典　平成 25 年度シラバス及び学校要覧より作成）

（分析結果とその根拠理由）

学科の目的・内容は設置基準の規定に適合し，本校の目的にも適っている。一般科目は総合科学科の教員が主に担当し，各専門学科が各専門分野の科目を担当する教育の実施体制も適切である。

観点２－１－②：　専攻科を設置している場合には、専攻科の構成が、教育の目的を達成する上で適切なものとなっているか。

（観点に係る状況）

本校では，学校教育法に基づいて，学則第56条及び第57条で定める生産工学，制御工学及び物質化学工学の３専攻より構成される専攻科を設置している（資料２－１－②－１）。この専攻の構成は，専攻科課程の教育目標に基づく「専攻科課程で養成する人物像」に定める専門分野に基づいている（資料２－１－②－２）。さらに、他分野の工学知識を身に付け広い視野から問題を解決することができる素養を涵養する工学教育にも力を入れている。また，専攻科の運営や教育の点検，改善に関しては専攻科委員会が担当し，社会の動向やニーズに合わせて適時，検討や改善を行っている。

資料２－１－②－１

第 14 章　　専攻科

（設置）

第 55 条　本校に、専攻科を置く。

（目的）

第 56 条　専攻科は、高等専門学校における教育の基礎の上に、精深な程度において工業に関する高度な専門的知識及び技術を教授研究し、もって広く産業の発展に寄与する人材を育成することを目的とする。

（専攻及び入学定員）

第 57 条　専攻及び入学定員は、次のとおりとする。

専　攻	入学定員
生産工学専攻	8 人
制御工学専攻	8 人
物質化学工学専攻	4 人

（修業年限及び在学期間）

第 58 条　専攻科の修業年限は、2 年とする。ただし、4 年を超えて在学することはできない。

（入学資格）

（出典　平成 25 年度学生便覧より）

資料２－１－②－２

本校の専攻科で養成する人物象

① 専攻科入学までに修得した専門分野（機械工学、電気電子工学、電子制御工学、制御情報工学、物質化学工学）に関わる工学知識・専門技術をさらに深め、身に付けた技術者
② コミュニケーション能力を身に付け、国際的な文化や技術者の社会的責任を理解できる技術者
③ 他分野の工学知識を身に付けた技術者
④ 広い視野から問題を捉え、解決することのできる素養を身に付けた技術者

生産工学専攻
⑤ 生産技術の中心を担う機械工学・電気電子工学分野をより深く修得した技術者
⑥ 幅広い分野の知識・技術を用いて、高度化する生産技術分野の問題を解決できる技術者

制御工学専攻
⑤ コンピュータの応用技術を修得した技術者
⑥ 情報処理に関する応用知識を修得した技術者
⑦ 制御工学とその応用技術との総合的知識を修得した技術者

物質化学工学専攻
⑤ 自発的に知識や技術を高め、技術革新に対応できる技術者
⑥ 物質化学工学分野に関する知識や実践的技術を駆使し、計画的に課題を遂行できる技術者

（出典　平成 25 年度シラバスより抜粋）

（分析結果とその根拠理由）

本校で設置している専攻科は学校教育法に適合し，専攻科の構成も専攻科課程の教育目標に基づいている。また，専攻科委員会で専攻科の運営や教育の点検，改善を行っており，基準を満たしている。

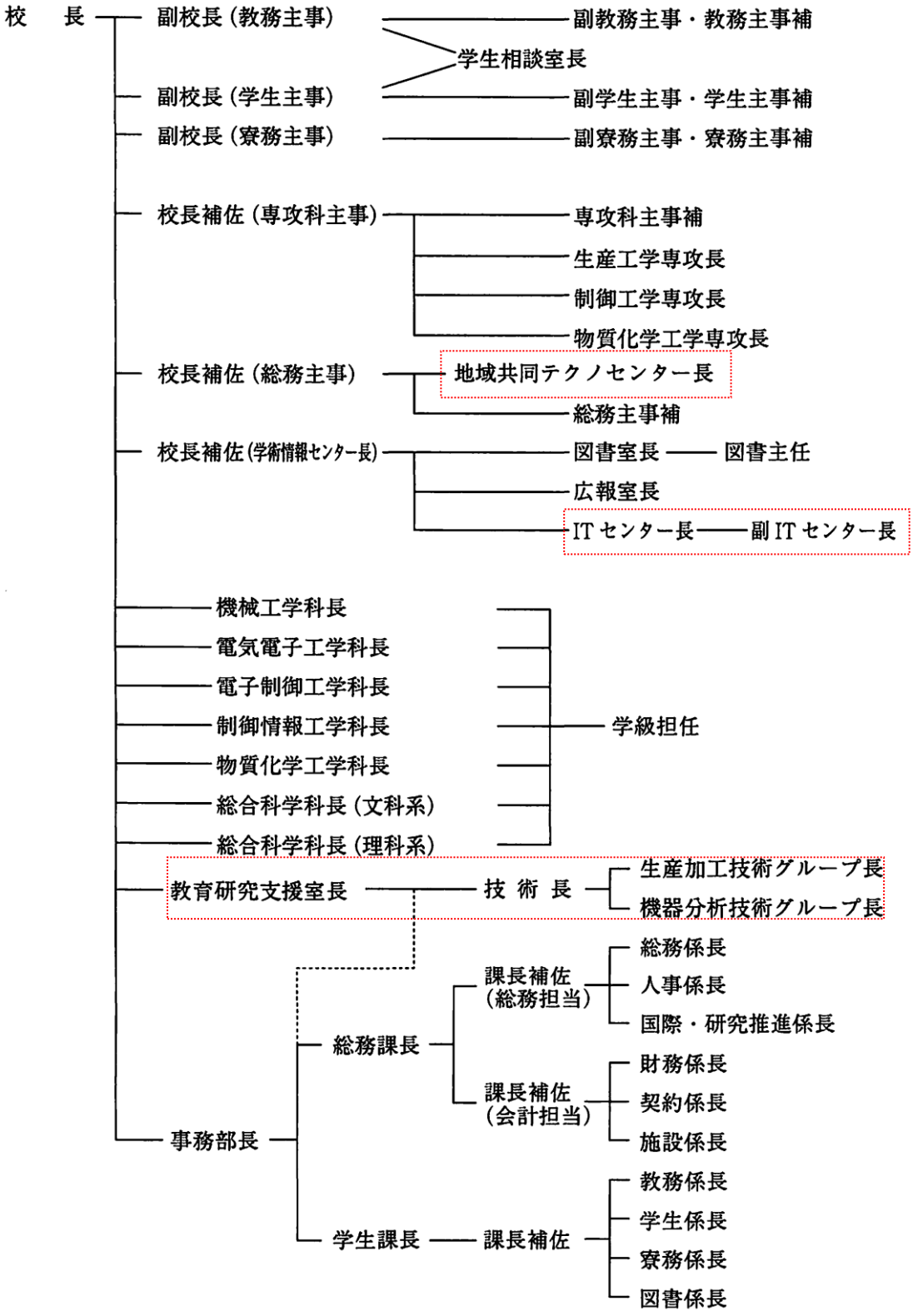
観点２－１－③：　全学的なセンター等を設置している場合には、それらが教育の目的を達成する上で適切なものとなっているか。

（観点に係る状況）

本校の３つの教育目的の達成に貢献するために，地域共同テクノセンター，ITセンター，教育研究支援室が全学的なセンターとして設置されている（資料２－１－③－１）。

資料２－１－③－１

Ⅱ　組 織 と 概 要



（出典　平成 25 年度学生便覧より）

１）地域共同テクノセンター

民間機関等との研究及び技術の交流並びに学内共同研究を推進し，技術開発及び技術教育の発展並びに地域産業の振興に寄与すると共に，本校の教育研究活動の推進に資することを目的としている。(資料２－１－③－２，３)。

資料２－１－③－２

○北九州工業高等専門学校地域共同テクノセンター規則

平成１２年９月２１日　規則第１４号
改正　平成２３年５月２６日

（設置）
第１条　北九州工業高等専門学校（以下「本校」という。）に共同利用施設として、北九州工業高等専門学校地域共同テクノセンター（以下「センター」という。）を置く。
（目的）
第２条　センターは、民間等外部の機関（以下「民間機関等」という。）との研究及び技術の交流並びに学内共同研究を推進し、技術開発及び技術教育の発展並びに地域産業の振興に寄与するとともに、本校における教育研究活動の推進に資することを目的とする。
（業務）
第３条　センターは、次の各号に掲げる業務を行う。
（１）民間機関等との共同研究及び受託研究に関すること。
（２）民間機関等に対する技術相談に関すること。
（３）民間機関等の技術者に対するリフレッシュ教育及び技術研修に関すること。
（４）民間機関等に対する科学技術情報の提供に関すること。
（５）本校における創造教育及び共同研究活動に対する技術開発支援の基本計画の策定及び実施に関すること。
（６）本校のシーズを活かした高専発ベンチャーの支援に関すること。
（７）その他センターの管理運営に関すること。（北九州工業高等専門学校施設管理運営要項第９条から第１２条第５項までに規定される事項を除く）

（出典　地域共同テクノセンター規則）

資料２－１－③－３

平成２４年度第４回地域共同テクノセンター委員会議事要録

１　日　時　　平成２４年９月５日(水)　８時５０分から９時１５分

２　出席者　　浜松委員長、太屋岡技術相談部門長、井上祐一リフレッシュ教育部門長、
山根将来技術教育推進部門長、浅尾教育研究支援室長、中村委員、
岩永総務課長、佐々木学生課長

３　欠席者　　久池井副センター長(共同研究部門長)、油谷総合管理部門長、
脇山ＩＴ化推進部門長、

４　議題等

（１）北九州高専発ベンチャー企業の支援について
平成２４年８月３０日付けで機械工学科滝本隆講師から同学科長平島繁紀教授との連名により申請のあった、「北九州高専ベンチャー企業の設立支援について」審議することとなった。
浜松地域共同テクノセンター委員会委員長からの指示により、滝本隆講師から資料１に基づき、説明があり、各委員から関連質疑を行った上、審議した結果、支援（本校ベンチャー企業として認定）し学内に拠点を置くことが了承され、主事会議・運営委員会に附議することとなった。
ただし、学内での場所の指定については、今後の手続きにおいて「施設・環境マネージメント委員会」の審議に付して決定されること、及び滝本講師の兼業について、担当課により処理することが確認された。

①その他確認事項
・　設立目的は、現在、地域の企業から研究成果活用のニーズがあることを踏まえて、研究成果を社会還元させ、地域を活性化させて地域の雇用を促進し、併せて、北九州高専の活性化と学生教育への教育還元を行なうこと。
・　事業内容について、当面は、地域企業から依頼されるソフトウェアの開発・販売を主力で行い、その後、地域企業からの製品開発の依頼を受けて展開していくこと。製品開発については、使用経費を依頼企業が負担する方法で進めること。
・　社員については、３人とも全員無報酬であること。
・　会社代表のトップ（いわゆる社長／経営全般の担当）と製品開発の業務執行社員は本校専攻科生としていること。ただし、現在の代表者が進学希望であるため、今後の進学先との関係でその後の対応を行なう必要があり、場合によっては、代表（社長）が、他の学生と交替することも考えていること。そのため滝本講師は非常勤社員として参加しながら、代表権を持つこと。(※もともと合同会社は社員全員の同意により経営内容を決定していくシステムであること。)

②　支援内容は、次のとおり
・　北九州高専の総意としてベンチャー企業として認定すること。
・　学校は、場所の提供を行うこと。(使用料は使用者が負担すること。)

(出典　平成 24 年度地域共同テクノセンター委員会議事要録)

平成24年度は，３件の受託研究，７件の共同研究，１件の学内発ベンチャーが実現した。これらの研究は卒業研究や特別研究のテーマとしても活用され，これらの研究課題に取り組む学生にとって実践的技術教育の場として役立っている(資料２－１－③－４)。

資料２－１－③－４

地域共同テクノセンター関連研究テーマ一覧(卒業研究・特別研究)

【受託研究】
- 環境微生物菌叢解析のための指標遺伝子に関する研究(平成２１年度卒業研究)
- 排水処理汚泥の菌叢解析による硫化水素発生プロセスとその影響因子に関する研究(平成２２，２３年度特別研究)

【共同研究】
- 簡易型低空域撮影システムの開発(平成２４年度卒業研究)
- 画像診断技術を活用した金属表面粗度検査装置の開発(仮)(平成２５年度特別研究)
- 組織代謝をモデル化した高機能ヒト細胞株の開発と培養法の樹立(平成２４年度特別研究)
- 抗アレルギー機能を有する食品成分の探索(平成２４年度卒業研究)

【学内発ベンチャー関連】
- 運転操作の異常検出法による次世代電動ビークルの開発(平成２４年度特別研究)
- ウォッシュアウト制御によるセンサードリフトを有するシステムの安定化(平成２４年度特別研究)
- State-Derivative Feedback Control for Flight Robots(平成２３年度卒業研究)
- 電力需給制御を実現するインテリジェント電源タップの開発(平成２３年度卒業研究)
- Development and Control of the Quadrotor Helicopter(平成２３年度卒業研究)
- フォーメーション制御のための無線ネットワークロボットの開発(平成２２年度卒業研究)
- 高機能シリアルサーボモータのためのCPUボード開発(平成２２年度卒業研究)

(出典　平成24年度地域共同テクノセンター委員会資料より作成)

２）ITセンター

学術情報センターの下，図書館，広報室，ITセンターが設置されている(資料２－１－③－５)。この内，ITセンターはIT教育の推進，校内ネットワークの適正な運用及び学術情報の有効活用を図り，本校の教育研究活動の推進に資することを目的としている(資料２－１－③－６)。

ITセンターは全学的に使用されるITセンター演習室，マルチメディア学習室，CALL教室の３つのPC対応ルームを整備・運営している。各学科からの要望に対応したICT環境も提供しており，授業での利用率が高い(資料２－１－③－７)。ICTを活用したe-learningや情報共有も積極的に進めており，平成24年度には139のコースが開設されている。研究室，部活動等のコースも開設され幅広く利用されている(資料２－１－③－８)。

資料２－１－③－５

○北九州工業高等専門学校学術情報センター規則

平成２３年１１月１７日　規則第２０号

（設置）
第１条　北九州工業高等専門学校（以下「本校」という。）に、北九州工業高等専門学校学術情報センター（以下「センター」という。）を置く。
（目的）
第２条　センターは、広く学術情報を収集し、本校の教職員及び学生に対してその情報を提供するとともに学内ネットワークの管理運用並びに情報教育及び学術研究の推進を図ること、及び本校の情報を広く社会に発信し、教育研究活動の活性化を促進することを目的とする。
（施設）
第３条　センターの施設は、次のとおりとする。
（１）図書館（図書室、図書館附属施設）
（２）広報室
（３）ＩＴセンター共用施設（電子計算機室、マルチメディア学習室、ＣＡＬＬ教室）
２　前各号の施設の利用については、別に定める。
（業務）
第４条　センターは、次に掲げる業務を行う。
（１）図書館資料の収集、管理及び利用に関する事項
（２）学術情報の総合的集積及び管理並びに学外への円滑な提供
（３）広報誌の発行等外部への情報発信による円滑な学校運営の促進
（４）情報教育の基本計画の策定及びその実施
（５）情報教育についての研究、開発及び普及
（６）ＩＴセンター共用施設の管理運営
（７）学内ネットワークの基本計画の策定、管理及び運用
（８）情報セキュリティ対策及び情報セキュリティポリシーの運用状況等の管理
（９）その他センターの業務に関すること。

（出典　学術情報センター規則）

資料２－１－③－６

○北九州工業高等専門学校ＩＴセンター規則

平成１４年２月２１日　規則第２号
改正　平成２４年１月１９日

（目的）
第１条　北九州工業高等専門学校学術情報センター規則第７条の規定に基づき、北九州工業高等専門学校（以下「本校」という。）に、ＩＴセンターを置き、校内共同利用施設として、ＩＴ教育の推進、校内ネットワークの適正な運用及び学術情報の有効活用を図り、本校の教育研究活動の進展に資することを目的とする。
（業務）
第２条　ＩＴセンターは、前条の目的を達成するため、次に掲げる業務を行う。
（１）情報教育の基本計画の策定及びその実施に関すること。
（２）情報教育についての研究、開発及び普及に関すること。
（３）ＬＡＮの基本計画の策定、ＬＡＮの管理及び運用に関すること。
（４）学術情報の利用及び提供に関すること。
（５）情報セキュリティポリシー等の管理に関すること。
（６）その他ＩＴセンターの業務に関すること。

（出典　IT センター規則）

資料２－１－③－７

ＩＴ センター 演習室　使用時間割　H25. 3. 11 作成　平成24年度　前学期

時間	時限	月	火	水	木	金
8:50～9:40	1		情報処理Ⅱ 2－E 桐本	基礎情報処理 1－E 宮川		情報処理Ⅲ 3－E 桐本
9:45～10:35	2					
10:45～11:35	3	ディジタル回路Ⅱ 5－E 桐本	計算機化学 4－C 竹原	計算機システムⅠ 4－D 白濱	基礎情報処理 1－D 秋本	情報処理Ⅰ 2－D 北園
11:40～12:30	4					
お昼休み						
13:15～14:05	5	アルゴリズム 4－S 脇山		数値計算法 4－D 太屋岡	コンピュータアーキテクチャⅠ 4－S 脇山	情報処理 2－S 山内
14:10～15:00	6					
15:10～16:00	7	基礎情報処理 1－C 谷口	数値計算法 4－E 桐本		数値計算法 5－S 吉川	※特別活動 3－D 白濱
16:05～16:55	8					
17:10～18:00	9				基礎ネットワーキング	

マルチメディア学習室　使用時間割　H25. 3. 11 作成　平成24年度　前学期

※学修単位科目

時間	時限	月	火	水	木	金
8:50～9:40	1		英語ＡⅣ 4－D 渡辺	アルゴリズム 4－S 脇山	英語ＡⅠ 1－E 渡辺	
9:45～10:35	2					
10:45～11:35	3	英語ＡⅣ 4－C 渡辺				
11:40～12:30	4					
お昼休み						
13:15～14:05	5		英語ＡⅣ 4－E 渡辺	コンピュータ基礎 3－S 松尾	英語ＡⅠ 1－C 渡辺	工業英語 5－D 白濱
14:10～15:00	6					情報処理演習 5－D 白濱
15:10～16:00	7	情報処理Ⅱ 3－D 白濱				
16:05～16:55	8					
17:10～18:00	9				基礎ネットワーキング	

ＣＡＬＬ（ＬＬ視聴覚室）教室　使用時間割　H25. 3. 11 作成　平成24年度　前学期

時間	時限	月	火	水	木	金
8:50～9:40	1			英語ＡⅡ 2－S 横山	英語ＡⅠ 1－S 大谷	英語ＡⅡ 2－C 横山
9:45～10:35	2	英語ＡⅡ 2－C 横山			英語ＢⅡ 3－C 大谷	英語ＡⅡ 2－M 横山
10:45～11:35	3		英語ＡⅣ 4－S 山本	英語ＢⅡ 3－D 横山	一般総合選択 4全 大谷	英語ＡⅠ 1－D 渡辺
11:40～12:30	4	英語ＡⅡ 2－D 木田		英語ＡⅡ 2－M 横山		
お昼休み						
13:15～14:05	5	英語ＡⅡ 2－M 横山	英語ＢⅡ 3－M 大谷		英語ＡⅣ 4－M 山本（一）	2－専
14:10～15:00	6			英語ＡⅠ 1－M 山本（一）		
15:10～16:00	7	情報処理 2－C 園田			基礎情報処理 1－S 乙部	特別活動 2－S 横山
16:05～16:55	8					
17:10～18:00	9					



（出典　ＩＴセンター資料より）

資料２－１－③－８

平成２４年度　ＷｅｂＣｌａｓｓ開設コース一覧

学部▲▼	学科▲▼	コース名▲▼	コンテンツ▲▼	メッセージ▲▼	メンバー▲▼	author 人数▲▼	observer 人数▲▼	user 人数▲▼	ログイン回数▲▼	合計時間▲▼
電子制御工学科	3年	H24_3D_情報処理II	49	1288	45	1	0	44	4148	1532:44:39
物質化学工学科	2年	H24_2C_情報処理	50	761	47	2	0	45	3780	813:05:17
電子制御工学科	1年	H24_1D_基礎情報処理	41	571	46	1	0	45	2631	280:35:20
電子制御工学科	5年	H24_5D_工業英語	79	542	44	1	0	43	2441	1874:36:31
電気電子工学科	2年	H24_2E_情報処理II	30	0	45	1	0	44	2227	247:06:30
電子制御工学科	4年	H24_4D_計算機システムI	32	4659	42	1	0	41	2224	1160:35:18
電子制御工学科	4年	H24_4D_計算機システムII	28	633	35	1	0	34	2177	890:10:29
制御情報工学科	5年	H24_5S_数値計算法	58	1303	39	1	0	38	2148	928:12:40
電子制御工学科	5年	H24_5D_情報処理演習	37	287	44	1	0	43	2133	1004:29:48
制御情報工学科	3年	H24_3S_コンピュータ基礎	20	196	43	2	0	41	2042	1292:37:54
本科	4年	H24_4全_基礎ネットワーキング	52	25	27	5	0	22	1994	536:47:28
機械工学科	3年	H24_3M_数値計算法	86	74	43	2	0	41	1936	677:22:48
物質化学工学科	4年	H24_4C_ホームルーム	92	91	42	1	0	41	1885	194:09:52
制御情報工学科	2年	H24_2S_ロボット基礎演習	19	216	47	3	0	44	1678	760:26:34
電子制御工学科	4年	H24_4D_数値計算法	28	742	42	1	0	41	1456	830:05:04
制御情報工学科	2年	H24_2S_情報処理	18	1570	45	1	0	44	1409	326:08:04
電気電子工学科	3年	H24_3E_情報処理III	32	0	42	1	0	41	1321	289:06:50
物質化学工学科	4年	H24_4C_計算機化学	32	627	27	1	0	26	1313	521:42:51
電気電子工学科	4年	H24_4E_数値計算法	27	0	40	1	0	39	1203	102:25:38

（出典　ＩＴセンター資料より）

３）教育研究支援室

教育研究支援室は，本校の教育・研究活動における技術的業務を行い，当該活動の推進及び充実発展に資することを目的として設置されている(資料２－１－③－９)。

資料２－１－③－９

○北九州工業高等専門学校教育研究支援室規則

平成２０年１２月１８日　規則第１０号
改正　平成２３年６月１日

（設置）
第１条　この規則は、独立行政法人国立高等専門学校機構の本部事務局の組織等に関する規則（平成１６年独立行政法人国立高等専門学校機構規則第４号）第１２条の規定に基づき、北九州工業高等専門学校教育研究支援室（以下「支援室」という。）の組織、運営等に関し必要な事項を定める。

（目的）
第２条　支援室は、北九州工業高等専門学校（以下「本校」という。）の教育・研究活動における技術的業務を行い、当該活動の推進及び充実発展に資することを目的とする。

（業務）
第３条　支援室は、次の各号に掲げる業務を行う。
（１）実験・実習補助及び技術指導に関すること。
（２）教員の教育研究補助に関すること。
（３）卒業研究の補助に関すること。
（４）教材及び実験装置作製に関すること。
（５）第１工場・第２工場及び実験室等の機械器具類の保守，管理に関すること。
（６）実験・実習用諸材料の準備及び保管に関すること。
（７）第１工場・第２工場及び実験室等の安全保持に関すること。
（８）専攻科の特別研究、実験・実習及び技術指導に関すること。
（９）ものづくりのために必要な技術協力に関すること。
（１０）地域社会との連携のために必要な技術協力に関すること。
（１１）技術職員の研修の企画、立案及び実施に関すること。
（１２）校長が必要と認めたこと。
（１３）支援室の事務に関すること。

（出典　教育研究支援室規則）

教育研究支援室は生産加工技術と機器分析技術の２グループに分かれ，各グループ(G)にグループ長が置かれている。生産加工技術 G は６名(非常勤２名を含む)，機器分析技術 G は９名(非常勤１名を含む)で各学科の実験・実習の補助，学内ネットワーク管理の補助にあたっている(資料２－１－③－10，11)。

資料２－１－③－10

（生産加工技術グループの業務）

工学基礎実験	１年生　半期　週１回　４時間
工作実習	機械工学科１年　半期　週１回　４時間 機械工学科２年年　通年　週１回　４時間
加工実習	制御情報工学科１年生　通年　週１回　４時間
工学実験	機械工学科４・５年生　通年　週１回　４時間 制御情報工学科５年生　半期　週１回　４時間
応用化学・生物化学工学実験	物質化学４年生　半期　週１回　４時間
設計製作	制御情報工学科４年生　半期（設計）・設計発表会 制御情報工学科５年生　半期（製作）・製作発表会
その他	・工作機械使用方法および安全講習 ・実験実習の年間計画表と人員配置表の作成 ・卒業研究、特別研究（専攻科）の補助 ・第一工場の施設、設備の保守、管理 ・短期工場見学の見学先予約及び計画書の作成 ・短期工場見学の引率補助 ・長期工場見学旅行の旅行手続き ・実験装置の設計、製作、保守、点検 ・実習指導書の作成 ・ロボットコンテスト支援 ・高専祭などのものつくり支援 ・オープンキャンパス準備、説明 ・校内清掃、学生指導、出欠報告

（出典　教育研究支援室作成資料）

資料２－１－③－11

（機器分析技術グループの業務）

工学基礎実験	１年生　半期　週１回　４時間
電気・電子基礎工学実験	電気電子工学科１年生　半期　週１回　４時間
電気・電子計測工学実験	電気電子工学科２年生　通年　週１回　４時間
電気・電子情報工学実験	電気電子工学科３年生　通年　週１回　４時間
電気・電子制御工学実験	電気電子工学科４年生　通年　週１回　４時間
電気・電子応用工学実験	電気電子工学科５年生　半期　週１回　４時間
電子制御工学実験実習	電子制御工学科２・３・４年生　通年　３時間
電子制御工学実験実習	電子制御工学科５年生　半期　４時間
基礎化学演習	物質化学工学科　１年生　通年　週１回　２時間
基礎化学実験	物質化学工学科　２年生　半期　週１回　２時間
無機分析化学実験	物質化学工学科　３年生　半期　週１回　４時間
有機化学実験	物質化学工学科　３年生　半期　週１回　４時間
物理化学実験	物質化学工学科　４年生　半期　週１回　４時間
１年生化学実験	１年生　半期　週１回　２時間
２年生化学実験	機械・電気電子・電子制御・制御情報２年生
その他	・卒業研究、特別研究（専攻科）の補助 ・共通（教育用）ＰＣの管理 ・事務用ＰＣの管理 ・ＩＴ専門委員会に関する業務 ・短期工場見学の見学先予約及び計画書の作成 ・短期工場見学の引率補助 ・実験室の施設設備の保守、管理 ・実験機器の保守、管理 ・実験指導書の作成 ・高専祭などのものつくり支援 ・オープンキャンパス準備、説明 ・校内清掃、学生指導、出欠報告

（出典　教育研究支援室作成資料）

（分析結果とその根拠理由）

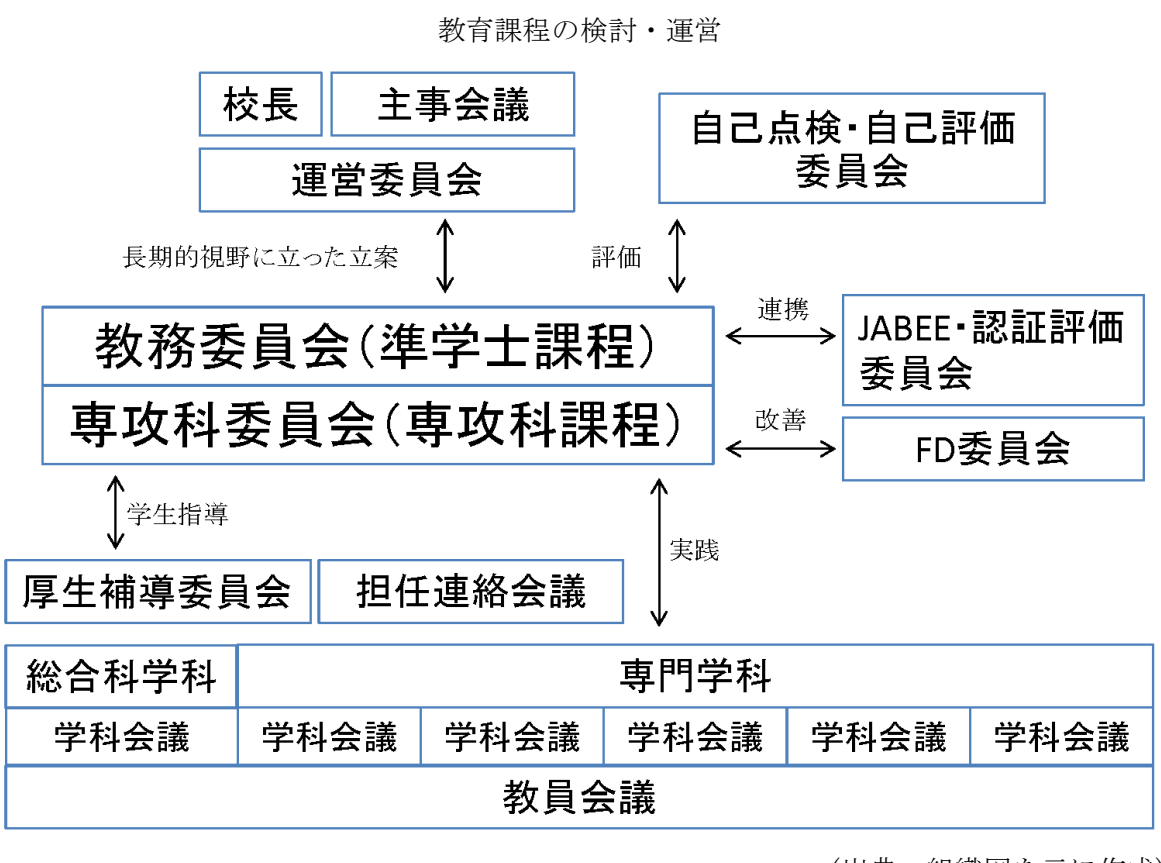
上記の２センターと教育研究支援室は，いずれも教育研究活動に貢献し，本校の教育目的を達成する上で適切なものと言える。

観点２－２－①：　教育活動を有効に展開するための検討・運営体制が整備され、教育活動等に係る重要事項を審議する等の必要な活動が行われているか。

（観点に係る状況）

本校の教育課程に関する検討・運営を行う中心的な組織として，教務委員会及び専攻科委員会が設置されている。教務委員会・専攻科委員会は，運営委員会・主事会議で審議・決定された方針に基づき，教育活動を実際に展開・実施する組織である（資料２－２－①－１）。

資料２－２－①－１



（出典　組織図を元に作成）

１）教務委員会（10回開催（平成24年度））

教務委員会は，本科の教育課程の編成，授業時間割の作成をはじめとする本科の教務に関する様々な案件について審議を行う委員会である。委員会では，各学科から１名以上の委員が出席し，短期的・中期的な視点での本校の教育目的に添った人材の育成という観点から審議が行われる（資料２－２－①－２，３）。

資料２－２－①－２

○北九州工業高等専門学校教務委員会規則

平成１１年１２月１６日　規則　第１３号
改正　平成２４年１２月２０日

（設置）

第１条　北九州工業高等専門学校に北九州工業高等専門学校教務委員会（以下「委員会」という。）を置く。

（目的）

第２条　委員会は、校長の諮問に応じ、次の各号に掲げる事項について審議することを目的とする。

（１）教育課程の編成に関すること。

（２）授業時間割に関すること。

（３）学生の試験に関すること。

（４）学校行事に関すること。

（５）その他教務に関すること。

（組織）

第３条　委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

（１）教務主事

（２）副教務主事

（３）教務主事補

（４）学生課長

（出典　教務委員会規則）

資料２－２－①－３

第１回教務委員会議事要録

１．日　時　　平成２４年４月１１日（水）１５時４０分～１８時１０分

２．場　所　　管理棟２階　会議室

３．出席者　　内田、中山、油谷、太屋岡、古野、後藤、徳一

４．欠　席　　大谷、佐々木（出張のため）

（佐々木学生課長補佐、教務係…松雪、西尾）

４．議題等

（１）報告事項

ア．平成 23 年度第 17 回教務委員会議事要録について
資料１のとおり、第 17 回（3 月 11 日開催）教務委員会の議事要録を確認し、承認した。

イ．平成 23 年度学習到達度試験結果の掲示について
委員長から、平成 23 年度学習到達度試験結果の掲示について、数学と物理の成績５０位までを４月６日（金）に掲示した旨の報告があった。

ウ．学修単位科目の平成 23 年度実施報告と平成 24 年度実施計画について
平成 23 年度第 17 回教務委員会で審議された学修単位科目の実施報告と実施計画について、４月 25 日（水）までに教務係へ提出することの確認をした。

エ．平成 23 年度版の担任支援マニュアルについて
委員長から、担任支援マニュアルについて、学科長・学級担任・新任教員に、印刷したものを配布したとの報告があった。また、ファイルは教務委員会のサーバー、グループウェア並びに学内共通サーバーに保存しているので確認するよう要請があった。

オ．新任教員の教務関係手引きについて
委員長から、資料２『新任教員研修のための「教務関係」の手引き』について説明があり、４月２日（月）「校長・５主事・学術情報センター長との新任教員研修」において概略を説明したとの報告があった。

（出典　平成 24 年度教務委員会議事要録）

２）専攻科委員会(14回開催(平成24年度))

専攻科委員会は，専攻科の教育課程，時間割，定期試験をはじめとする，専攻科に関する様々な案件について審議を行う。教務委員会と同様に，各学科から１名以上の委員が出席し，短期的・中期的な視点での本校の教育目的に添った人材の育成という観点から審議が行われる(資料２－２－①－４，５)。

資料２－２－①－４

○北九州工業高等専門学校専攻科委員会規則

平成１１年１２月１６日　規則　第１９号
改正　平成１９年１月１８日

（設置）
第１条　北九州工業高等専門学校に北九州工業高等専門学校専攻科委員会（以下「委員会」という。）を置く。
（目的）
第２条　委員会は、校長の諮問に応じ、次の各号に掲げる事項について審議することを目的とする。
（１）専攻科の教育課程の編成に関すること。
（２）専攻科学生の試験に関すること。
（３）その他専攻科に関すること。
（組織）
第３条　委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。
（１）専攻科主事
（２）専攻科主事補７人
（３）教務委員会委員１人
（４）学生課長
２　前項第３号の専攻科主事補は、次のとおりとする。
（１）生産工学専攻及び制御工学専攻から各２人
（２）物質化学工学専攻から１人
（３）総合科学科の文科系及び理科系から各１人

（出典　専攻科委員会規則）

資料２－２－①－５

平成２４年度第２回専攻科委員会　議事要録

１．開 催 日　　平成２４年５月１０日(木)　１７：１０～１９：００
２．場　　所　　管理棟２階 会議室
３．参 加 者　　松嶋、後藤、小清水、加島、添田、安信、小畑、木田、中村、佐々木(勝)
４．欠 席 者　　なし　　(学生課長補佐…佐々木(栄)、教務係…松雪(し)、坂東)

５．報告事項
（１）平成２４年度専攻科特別研究担当教員一覧表について
資料１(平成２４年度専攻科生の指導教員一覧表)について説明があり、確認した。

（２）平成２４年度専攻科幹事について
委員長から資料２(平成２４年度専攻科幹事一覧)について説明があり、確認した。また、今後の連絡事項は専攻科幹事から各学生に周知することとした。

（３）九州工業大学大学院等の学校説明会について
委員長から、本日５月１０日(木)に九州工業大学大学院の説明会を実施し、２０名を超える学生の参加があったことが報告された。併せて、５月１７日(木)に実施される予定のFAISカーエレクトロニクスPRにもぜひ参加するよう、専攻科生への周知の依頼があった。

（出典　専攻科委員会議事録）

３）運営委員会(11回開催(平成24年度))

運営委員会は，本校の最上位に位置付けられる委員会であり，本委員会の審議を経て最終的な意思決定が行われる。教務委員会・専攻科委員会のほか，全委員会での審議結果は，本委員会で全学的な観点から検討が行われる(資料２－２－①－６，７)。

４）主事会議(10回開催(平成24年度))

主事会議では，校務に関する広範な案件について学校運営の長期的・将来的な観点から審議が行われる。必要と判断された場合は，教務委員会・専攻科委員会に審議の要請や提案が行われる(資料２－２－①－８，９)。

資料２－２－①－６

○北九州工業高等専門学校運営委員会規則

平成９年３月２１日　規則第１７号
改正　平成２４年２月１６日

（設置）
第１条　北九州工業高等専門学校（以下「本校」という。）に北九州工業高等専門学校運営委員会（以下「委員会」という。）を置く。
（目的）
第２条　委員会は、校長が本校運営上必要と認めた事項について審議することを目的とする。
（組織）
第３条　委員会は、次の各号に掲げる職にある委員をもって、これを組織する。
（１）校長
（２）教務主事、学生主事及び寮務主事
（３）専攻科主事
（４）総務主事
（５）学術情報センター長
（６）各学科長及び総合科学科長
（７）事務部長
（８）総務課長及び学生課長
２　校長が必要と認めた場合は、各学科長及び総合科学科長に代わり、各副学科長及び副総合科学科長を出席させることができる。
（会議）
第４条　校長は、委員会の会議を招集し、その議長となる。
２　校長に事故あるときは、校長があらかじめ指名した者が議長の職務を代行する。
３　委員会は、委員の３分の２以上の出席がなければ議事を開くことができない。
４　委員会の議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

（出典　運営委員会規則）

資料２－２－①－７

平成２４年度第４回運営委員会議事要録

日　　時　　平成２４年７月２６日(木)　１４：１５～１５：５０
場　　所　　管理棟２階会議室
出 席 者　　塚本校長、内田教務主事、山田(康)学生主事、白神寮務主事、松嶋専攻科主事、寺井総務主事、樫村学術情報センター長、平島機械工学科長、加島電気電子工学科副学科長（開道電気電子工学科長代理）、宮崎電子制御工学科長、浜松制御情報工学科長、竹原物質化学工学科長、山本総合科学科長（文科系）、宮内総合科学科長（理科系）、古畑事務部長、岩永総務課長、佐々木(勝)学生課長
欠 席 者　　開道電気電子工学科長
オブザーバー　　添田ISATE2012実行委員長、藤田総務課長補佐、島津技術長
（記録：川端）

議事に先立ち、塚本校長から、運営委員会規則第４条第３項の規定により、委員の３分の２以上が出席していることから、本委員会が成立していることについて確認があった。

１　資料１に基づき、平成２４年度第３回運営委員会(６月２１日開催)議事要録の確認が行なわれた。

２　議　事
［議　　題］
（１）北九州工業高等専門学校図書館規則等の一部改正について
岩永総務課長から、資料２「「北九州工業高等専門学校図書館多目的学習室利用要項」の制定について」等に基づき、この改正は、「図書館多目的学習室利用要項」が制定された関係から「図書館規則」と「図書館利用規則」の一部を改正しようとするものであるとの説明があり、審議の結果、原案どおり了承された。

（出典　運営委員会議事要録）

資料２－２－①－８

○北九州工業高等専門学校主事規則

昭和５４年１２月２０日　規則第７号
改正　平成２４年１２月２０日

（趣旨）
第１条　北九州工業高等専門学校に置く教務主事、学生主事及び寮務主事（以下「主事」という。）に関しては、独立行政法人国立高等専門学校機構の組織に関する規則（独立行政法人国立高等専門学校機構規則第１号）、独立行政法人国立高等専門学校機構の主事等の任免に関する規則（独立行政法人国立高等専門学校機構規則第６１号）、北九州工業高等専門学校学則又は他に定めがある場合のほか、この規則の定めるところによる。
（任期）
第２条　主事の任期は、２年とする。ただし、再任を妨げない。
２　主事に欠員を生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。
（教務主事の業務）
第３条　教務主事は、次の事項を掌理する。
（１）教育計画及び教育課程編成の立案・実施に関すること。
（２）入学、退学、転学、転科、休学、進級及び卒業の認定等に関すること。
（３）指導要録に関すること。
（４）教員の研修に関すること。
（学生主事の業務）
第４条　学生主事は、次の事項を掌理する。
（１）学生の厚生補導及び課外教育に関すること。
（２）学生の個人相談及び集団指導に関すること。
（３）学生の規律の保持及び事故の処理並びに保健指導に関すること。
（４）学生会の指導・監督に関すること。
（寮務主事の業務）
第５条　寮務主事は、次の事項を掌理する。
（１）学生寮の運営の立案・実施に関すること。
（２）寮生の教育及び生活の指導・監督に関すること。
（副主事・主事補）
第６条　主事を補佐するため、副教務主事、副学生主事及び副寮務主事（以下「副主事」という。）をそれぞれ１名、教務主事補、学生主事補及び寮務主事補をそれぞれ若干名置く。
２　副主事及び主事補は、教授、准教授、専任講師及び助教のうちから校長がこれを命ずる。なお、副主事は主事補を兼ねることができる。
３　副主事及び主事補の任期は、１年とする。ただし、再任を妨げない。
４　副主事及び主事補に欠員を生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。
５　副主事及び主事補は、それぞれの主事の業務を補佐し、主事不在中は副主事がその職務を代行する。

（出典　主事規則）

資料２－２－①－９

平成２４度第９回主事会議議事要録

日　　時　　平成２５年　１月２１日（月）　１６時１５分～１８時１０分
場　　所　　管理棟２階会議室
出 席 者　　塚本校長、内田教務主事、山田(康)学生主事、白神寮務主事、松嶋専攻科主事、寺井総務主事、樫村学術情報センター長、古畑事務部長
オブザーバー　岩永総務課長、佐々木学生課長、藤田総務課長補佐（総務担当）

（記録：藤田）

１．資料１に基づき、平成２４度第８回主事会議（１２月１７日開催）議事要録の確認が行われた。

２．議　　事

［議　題］

（１）平成２５年度学校行事（案）について

教務主事から、資料２「【平成２５年度（２０１３年度）学校行事・前学期】作成用の原案カレンダー」等に基づき、平成２５年度の学校行事案について説明があり、審議の結果、原案どおり了承され、運営委員会に諮ることとなった。

なお、推薦入試の日程については、入試委員会で審議した後、運営委員会で決定することとなった。

（２）学科改組等検討ＷＧの総括について

教務主事から、資料３「学科改組等検討ＷＧの総括」等に基づき、計１１回にわたり学科改組等検討ＷＧで議論した内容とＷＧでの検討結果について説明があり、今後は専攻科の改組も併せて検討するＷＧを立ち上げ、そこで３月までに改組の骨子を作成して、６月頃を目処に機構へ相談するという流れで進めていくこととなった。

（３）オープンキャンパス実施に係る謝金について

教務主事から、資料４「第７回オープンキャンパス実行委員会（メール会議）議事録（抜粋）」に基づき、オープンキャンパスに出てもらう学生への謝金に関する議論の紹介があり、運営委員会で意見を聞くこととなった。

（出典　平成 24 年度主事会議議事要録）

５）FD委員会（２回開催(平成24年度)）

学内でのFD活動を統括する機関である。年度当初にFD活動の企画立案を行い，教務委員会・専攻科委員会に審議の要請や提案を行う(資料２－２－①－10，11)。

資料２－２－①－10

○ 北九州工業高等専門学校ＦＤ委員会規則

平成１７年１１月２４日　規則第１４号
改正　平成２２年４月１日

（設置）
第１条　北九州工業高等専門学校（以下「本校」という。）に、ＦＤ委員会（以下「委員会」という。）を置く。
（目的）
第２条　委員会は、ファカルティ・ディベロップメント（教員の教育内容及び教育方法を改善し、向上させるための組織的な継続的な取り組み（以下「ＦＤ」という。））を推進し、これに積極的に取組むことにより、本校における教育の改善、教員の意識改革の推進を図ることを目的とする。
（審議事項等）
第３条　委員会は、校長の諮問に応じ、前条の目的を達成するため、ＦＤに関する事項及び研修会等を企画・総括する。
（組織）
第４条　委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。
（１）教務主事、学生主事、寮務主事、専攻科主事及び総務主事
（２）教務主事補及び学生主事補のうち当該各主事が指名した者　各１名
（３）総務課長及び学生課長
（４）その他校長が必要と認めた者

（出典　FD 委員会規則）

資料２－２－①－11

平成２５年度　第１回ＦＤ委員会議事要録

１．日　時　　平成２５年　５月７日（火）　１７：１０～１９：１５
２．場　所　　会議室（２階）
３．出席者　　内田、安信、白神、松嶋、寺井、開道、桐本、油谷、宮成、佐々木
（陪席）総務課長補佐：藤田　総務係：増田、林
４．議題等
（１）平成２４年度ＦＤ専門部会の活動実績について
内田委員長から、資料１「平成２４年度ＦＤ活動実績一覧」に基づき説明があり、審議の結果、一部修正の上、原案どおり了承された。
なお、修正箇所は以下のとおりである。

２ページ目「協議・研修-３-公開授業及び授業研究」の「実施内容・派遣先」中、
・「専攻科特論Ⅳ」を「専攻科特論Ⅶ」に修正する
・「専攻科特論Ⅴ（知的財産）」を追加する
・「自由見学」を「聴講」に修正する

（２）平成２４年度ＦＤ委員会の活動報告書について
内田委員長から、資料２「平成２４年度ＦＤ委員会活動報告」に基づき、平成２４年度ＦＤ委員会の活動報告があり、昨年と同様の冊子を作成することについて提案があり、審議の結果、了承された。なお、冊子を作成次第総務係から委員に連絡すること、希望者は総務係で閲覧可能であることについて説明があった。

（３）平成２５年度福岡県教育委員会専門研修への参加について
内田委員長から、資料３「平成２５年度福岡県教育センター専門研修受講者の募集について」に基づき、今年度は６名が参加を希望しており、現在申請中である旨報告があった。

（４）平成２５年度ＦＤ委員会の活動計画（案）について
内田委員長から、資料４「平成２５年度ＦＤ活動計画（案）」について、２４年度版と同じ分類で作成した旨説明があり、まず、「講演会・講習会」に項目１４「男女共同参画推進に関する講習会」を追加することについて提案があり、審議の結果、了承された。

（出典　平成 25 年度 FD 委員会議事要録）

６）自己点検・自己評価委員会（７回開催(平成24年度)）

自己点検・自己評価委員会では，自己点検・自己評価の実施，結果の活用・公表について審議が行われる。点検結果は校長に報告し，各組織・委員会に対して改善を要請する(資料２－２－①－12, 13)。

資料２－２－①－12

○北九州工業高等専門学校自己点検・自己評価委員会規則

平成１５年７月２４日　規則第１８号
改正　平成２４年２月１６日

（趣旨）
第１条　北九州工業高等専門学校自己点検・自己評価規則第３条第２項に基づき、自己点検・自己評価委員会（以下「委員会」という。）の組織、運営等に関し必要な事項を定める。
（目的）
第２条　委員会は、次の各号に掲げる事項について審議、検討する。
（１）自己点検・自己評価の基本方針に関すること。
（２）自己点検・自己評価の実施体制及び実施方法に関すること。
（３）自己点検・自己評価の結果の活用及び公表に関すること。
（４）その他自己点検・自己評価に関すること。
（組織）
第３条　委員会は、次の各号に掲げる者をもって組織する。
（１）教授、准教授のうちから校長が指名した者
（２）事務部長
（３）総務課長
２　前項第１号の委員の任期は１年とし、再任を妨げない。
３　前項の委員に欠員が生じた場合の後任の委員の任期は、前任者の残任期間とする。
（委員長等）
第４条　委員会に委員長及び副委員長１人を置く。
２　委員長及び副委員長は、前条第１項第１号の委員のうちから校長が指名する。
３　委員長は、委員会を招集し、その議長となる。
４　副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるときは前項の職務を代行する。

（出典　自己点検・自己評価委員会規則）

資料２－２－①－13

平成２４年度　第１回自己点検・自己評価委員会議事要録

１．日　時　　平成２４年５月１日（火）　１５：３０～１６：００
２．場　所　　２階会議室
３．出席者　　小城、徳一、中山、木田、山田(憲)、樫村、添田、古畑、岩永
（陪席）総務課長補佐：藤田、総務係：川端、添田（美）

４．議題等
議　　題
（１）本年度の活動方針について
小城委員長から､昨年に引き続き平成２４年度の委員長の指名を受けたとの報告があり、今年度委員の紹介に続き、副委員長は徳一委員に依頼したと報告があった。
小城委員長から、昨年度の活動の概要として、資料１「北九州高専　第２期中期目標／第２期中期計画／平成２４年度年度計画」に基づき、昨年度の提言は、平成２４年度年度計画にほぼ盛り込まれていることの説明があった。また、今年度末には、各組織からＰＤＣＡサイクルを踏まえた報告を受けて点検を行う体制になることが期待されるが、今年度は、この委員会が独自にテーマを設け議論をしていくことになると説明があり、点検事項の議論に移った。
委員より、Ｈ２４年度の年度計画の［入試選抜方法に関する成績データ等の分析について引き続き検討を行う］項目について、早急に取りかかるべきで、来年度の入試に間に合うように考慮すべきとの発言があった。他にも、推薦入試のポリシーや教員間の考えの差など議論すべき項目は多々あるとの認識が示され、また認証評価では、アドミッションポリシーと入試選抜の関係についても問われることが指摘された。これまで入試に関して全学的な議論は行われてこなかったことを考慮すると、入試全般に関して点検を行うことは有意義であるとの認識で一致した。
次に、小城委員長から昨年度教育の質に関する議論が十分に行うことができなかった点と、これから教育の質が問われ始めることが考えられ、これに対する点検も必要であるとの発言があった。具体的内容として、
①　共通科目の教育の在り方や専門との連携
②　科目間連絡会議のあり方
③　実力テストのあり方
④　FD のあり方
⑤　低学年教育の在り方
⑥　非常勤講師との連携
など、教育の質に関しても議論すべき点は多々あるとの考えが示された。
以上の議論により，今年度は入試制度全般の見直し及び教育の質に関する点検を行うこととした。

（出典　平成 24 年度自己点検・自己評価委員会議事要録）

７）教員会議(年２回開催(平成24年度))

教員会議は全教員が参加する会議であり，学校運営に関する長期的案件の周知や，教育方針に関する合意形成を目的として開催される(資料２－２－①－14，15)。

資料２－２－①－14

○北九州工業高等専門学校教員会議規則

昭和４５年１０月１日　規則第５号
改正　平成１９年４月１日

（設置）
第１条　北九州工業高等専門学校（以下「本校」という。）に教員会議を置く。
（目的）
第２条　教員会議は、本校における教育に関する事項について連絡・周知することを目的とする。
（組織）
第３条　教員会議は、教授、准教授、専任の講師、助教及び助手をもって組織する。
（会議）
第４条　校長は、教員会議を招集し、その議長となる。
２　校長に事故あるときは、校長があらかじめ指名した者が議長の職務を代行する。
３　教員会議は、教員の３分の２以上の出席がなければ議事を開くことができない。
４　教員会議の議事は、出席した教員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。
（議事録）
第５条　議長は、教員会議における協議内容を記録するものとする。
（庶務）

（出典　教員会議規則）

資料２－２－①－15

平成２４年　４月　３日

教　員　各　位

校　長　　塚　本　　寛

平成２４年度第１回教員会議の開催について（通知）

標記会議を，下記のとおり開催しますので御出席ください。

記

１．日　時　平成２４年４月４日（水）　１０時００分～

２．場　所　合同講義室（２号館１階）

３．事　項

（１）新任教員の紹介について

（２）校長・主事（教務・学生・寮務・総務）のあいさつ

（３）「学術情報センター」の発足について

（４）創立５０周年記念事業の募金について

（５）第６回国際工学教育研究集会（ISATE2012）について

（６）達成度アンケートの集計結果について

（７）学習到達度試験について

（８）その他

（出典　平成 24 年度教員会議開催通知）

８）学科会議

各委員会の審議事項は，各学科会議に報告され，また必要に応じて審議される。また学科会議で挙がった意見は，該当委員会に報告される(資料２－２－①－16)。

資料２－２－①－16

第２３回電気電子工学科教室会議　　H24.10.24

１．就職･進学状況　［進路決定者 51 名／53］
■■■

資料２－２－①－17

○北九州工業高等専門学校ＪＡＢＥＥ・認証評価委員会規則

平成１６年４月２２日　規則第７号
改正　平成２４年　４月２６日

（設置）
第１条　北九州工業高等専門学校（以下「本校」という。）に、日本技術者教育認定機構（以下「ＪＡＢＥＥ」という。）の認定審査並びに大学評価・学位授与機構の高専機関別認証評価（以下「認証評価」という。）に係る諸事項に対応するため、北九州工業高等専門学校ＪＡＢＥＥ・認証評価委員会（以下「委員会」という。）を置く。
（定義）
第２条　この規則において「教育プログラム」とは、本校の準学士課程・専攻科課程における教育目標、並びに北九州工業高等専門学校専攻科の授業科目の履修等に関する規則（平成８年規則第１３号）第１０条の規定に基づく、「生産デザイン工学」教育プログラムをいう。
（目的）
第３条　委員会は、次に掲げる事項に対応することを目的とする。
（１）「教育プログラム」の点検・改善に関すること。
（２）「教育プログラム」の認定審査・認証評価に関すること。
（３）その他「教育プログラム」に関すること。
（組織）
第４条　委員会は、次に掲げる委員をもって組織する。
（１）教授及び准教授のうちから校長が指名した者１名
（２）専攻科主事
（３）各学科の代表者各１名並びに総合科学科の文科系及び理科系の代表者各１名
（４）総務課長及び学生課長
（５）その他校長が必要と認めた者

（出典　JABEE・認証評価委員会規則）

資料２－２－①－18

平成２４年度　第８回ＪＡＢＥＥ・認証評価委員会議事要録

１．日　時　　平成２４年１１月６日（火）１７：１０～１９：１０
２．場　所　　管理棟２階会議室
３．出席者　　安信、松嶋、浅尾、福澤、白濱、古野、井上（祐）、楠田、中村、内田、岩永、佐々木
　　オブザーバー　添田
（陪席）総務課長補佐：藤田　総務係：川端、添田（美）

４．議題等
（報告事項）
１．自己評価書作成に必要な資料の収集状況について
　安信委員長から、基準８で必要な図書館に関する資料について、図書係長に依頼したことの報告があり、その他の担当の部分で必要な資料があれば、連絡をするよう依頼があった。
　また、教員データの収集は、年度内に行うことの連絡があった。

２．“国際的に通用する技術者教育ワークショップシリーズ　第１回」－学習・教育到達目標設定法とその達成度評価法（エンジニアリング・デザイン能力育成科目を対象として）－”について
　安信委員長から、標記の日工協とＪＡＢＥＥ主催のワークショップが平成２４年１２月８日（土）に開催されるため、この委員会から福澤委員、井上委員に出席を依頼したとの報告があった。

（出典　平成 24 年度 JABEE・認証評価委員会議事要録）

10）厚生補導委員会(17回開催(平成24年度))

厚生補導委員会は，課外活動・学生会活動をはじめとする，学生の厚生補導に関する様々な案件について審議を行う委員会である。ここでは，学生の礼儀・マナーの修得，社会性の育成といった観点からも審議が行われ，必要と判断された場合，教務委員会・専攻科委員会に対して審議要請・情報提供が行われる(資料２－２－①－19，20)。

資料２－２－①－19

○北九州工業高等専門学校厚生補導委員会規則

平成１１年１２月１６日　規則　第１７号
改正　平成２４年１２月２０日

（設置）

第１条　北九州工業高等専門学校に北九州工業高等専門学校厚生補導委員会（以下「委員会」という。）を置く。

（目的）

第２条　委員会は、校長の諮問に応じ、次の各号に掲げる事項について審議することを目的とする。

（１）学生の課外活動に関すること。

（２）学生会活動に関すること。

（３）学生の交通安全教育に関すること。

（４）入学料、授業料及び寄宿料の免除及び猶予に関すること。

（５）奨学金に関すること。

（６）学生の補導、健康及び福祉に関すること。

（７）学生相談室に関すること。

（８）その他厚生補導に関すること。

（組織）

第３条　委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

（１）学生主事

（２）副学生主事

（３）学生主事補

（４）学生課長

（委員長）

第４条　委員会に委員長を置き、学生主事をもって充てる。

（出典　厚生補導委員会規則）

資料２－２－①－20

平成２４年度第４回厚生補導委員会議事要録

日　時　　平成２４年6月６日（水）　１３時３０分～１４時１５分
場　所　　主事室
出席者　　山田委員長、小清水、仙波、松久保、山内、井上（代理出席）、濵田、荒川、松﨑、佐々木（勝）

（佐々木、増田、安永）

欠席者　　水野

１　議　題

(1) 課外活動指導における非常勤教職員の選考について
　山田委員長から、資料１に基づき、各クラブから推薦された課外活動指導における非常勤教職員候補者５名について、課外活動指導歴等の説明があり、本校の「課外活動指導における非常勤教職員選考基準」に基づき、候補者５名の選考について審議した結果、推薦者５名全員について推薦職名のとおり了承された。

(2) 卓越した学生に対する授業料免除の選考について
　山田委員長から、資料２に基づき、高専機構からの「卓越した学生に対する平成２４年度授業料免除について（通知）」及び本校の「卓越した学生に対する授業料免除の選考について」（以下、選考基準という。）について、作成の経緯等の説明があり、選考基準の内容について審議した結果、原案どおり了承された。
　なお、今年度に限り、選考基準の整備時期及び学生の授業料納入のタイミング等を考え、「卓越した学生に対する授業料免除」については、後期から実施とすることとした。
　また、本委員会にて了承された選考基準については、校長裁定にて制定することとする。

（出典　平成 24 年度厚生補導委員会議事要録）

（分析結果とその根拠理由）

教育課程全体を企画調整するための中心的な機関として，教務委員会・専攻科委員会が設置されている。また，両委員会の審議結果を全学的視野に立って検討を加える運営委員会のほか，様々な委員会が異なる観点から両委員会に審議要請・提案・情報提供を行い，本校の教育目的達成のために有効に機能している。

観点２－２－②：　一般科目及び専門科目を担当する教員間の連携が、機能的に行われているか。

（観点に係る状況）

一般科目，各専門学科共に担当教員は，相互に連携を図りながら教育の改善に取り組んでいる。FD委員会は，年度当初に連絡会議を立案し，教務委員会・専攻科委員会に対して実施を要請している（資料２－２－②－１～３）。

資料２－２－②－１

平成 24 年 5 月 21 日

教務委員会委員長 殿

FD 委員会委員長
内田　武

平成 24 年度の FD 活動について（依頼）

FD 活動の実施につきましては、平素よりお世話になっています。

5 月 17 日（木）に開催された平成 24 年度第 1 回 FD 委員会におきまして、貴委員会に下記の FD 活動の計画と実施をお願いすることが決まりました。

ご多用のところ恐れ入りますが、関係者にて企画立案の上、今年度中に実施して頂きますよう、よろしくお願い申し上げます。

講演会等につきましては、実施日時等を総務係等と相談のうえ、調整して頂ければ幸いに存じます。

【講演会・講習会】

○教育・学生指導に関する講演会（厚生補導委と連携）
○ICT（WebClass、e ラーニングなど）に関する講演会（ITC 専門委と連携）

【協議・研修】

○新任教員研修
○公開授業および授業研究（専攻科委と連携）
○一般科目に関する専門学科との連携
○教材研究（複数学科にわたる共通分野科目の情報交換）
○特別活動に関する協議
○e ラーニングに関する検討（継続）（ITC 専門委と連携）
○キャリア教育に関する検討（専攻科委と連携）
○高専機構コアカリキュラムに関する検討（専攻科委と連携）
○JABEE・高専認証評価に関する検討（専攻科委・JABEE 委と連携）

【アンケート・事例収集】

○ヒヤリ・ハット事例（危機管理アンケート）（厚生補導委と連携）

【FD に関する資料等配布】

○担任支援マニュアル（H23 発行の内容確認など）

（出典　平成 24 年度 FD 委員会 FD 活動依頼文(教務委員会)）

資料２－２－②－２

平成 24 年 5 月 21 日

専攻科委員会委員長 殿

FD 委員会委員長

内田　武

平成 24 年度の FD 活動について（依頼）

FD 活動の実施につきましては、平素よりお世話になっています。

5 月 17 日（木）に開催された平成 24 年度第 1 回 FD 委員会におきまして、貴委員会に下記の FD 活動の計画と実施をお願いすることが決まりました。

ご多用のところ恐れ入りますが、関係者にて企画立案の上、今年度中に実施して頂きますよう、よろしくお願い申し上げます。

講演会等につきましては、実施日時等を総務係等と相談のうえ、調整して頂ければ幸いに存じます。

【協議・研修】

○公開授業および授業研究

○教材研究（共通分野科目の情報交換）（教務委員会と連携）

○専攻科専攻内のコース間連携

○キャリア教育に関する検討（教務委員会と連携）

○高専機構コアカリキュラムに関する検討（教務委員会と連携）

○JABEE・高専認証評価に関する検討（教務委・JABEE 委と連携）

（出典　平成 24 年度 FD 委員会 FD 活動依頼文(専攻科委員会)）

資料２－２－②－３

平成24年度　一般科目と専門学科の科目間連絡会議　参加メンバー　（敬称略）

教 科	代表教員	機械工学科	電気電子工学科	電子制御工学科	制御情報工学科	物質化学工学科	備考 H24の実施日
国 語	位田	中山、田淵	松本	太屋岡、井田	古野	小畑	位田、楠田 H25.3.7.
理 科 （物理・化学）	中村	中山、田淵	油谷、仙波	吉野、太屋岡、 松久保	寺井、浜松、 （古野）	後藤、水野	矢野、宮内 H24.12.19.
社 会	安部	入江、小清水	福澤、仙波	秋本、白濱	松尾、古野	前田、井上	白神、安部、廣瀬、荒川 H25.3.4.
英 語	横山	浅尾	油谷、松本	白濱、北園	寺井、古野	後藤、小畑、 大川原	木田、山本、渡邊 H24.8.29. （H24から全学科）
数 学 （学科ごと）	竹若	徳一、山田、石井、 豊永、栗原、平島、 入江、浅尾、井上、 小清水、種、田淵、 中山	徳一、山田、石井、 竹若、豊永、小城、 宮川、開道、本郷、 福澤、油谷、桐本、 仙波、松本、磯崎	徳一、山田、石井、 竹若、豊永、宮崎、 添田、秋本、白濱、 太屋岡、松久保、 北園、十時			数M：H25.4.2. 数E：H25.1.29. 数D：H25.1.22.

平成24年度　複数学科にわたる共通分野科目の連絡会議　参加メンバー　（敬称略）

共通分野教科	代表教員	機械工学科	電気電子工学科	電子制御工学科	制御情報工学科	物質化学工学科	備考 H24の実施日
情報リテラシー （基礎情報処理）	白濱	井上	宮川、磯崎	秋本、松久保	乙部	園田	①H24.7.23.
情報処理 （プログラミング）	白濱	（滝本）、田淵	桐本、磯崎	島川、井田、 北園	山内	後藤、（園田）	①H24.7.26.
工学基礎実験 ＜本1年・前期＞	内田	平島	油谷	太屋岡	脇山	後藤	島津、竹内 H24.6.8.
複合工学実験 ＜専1全・後期＞	種	種	宮川	十時	脇山	山根	H25.3.15.

（出典　平成 24 年度 科目間連絡会議参加メンバー）

１）一般科目と専門学科の科目間連絡会議

平成24年度は国語，理科(物理・化学)，社会，英語，数学について一般科目から連絡会議代表教員を選出し，科目担当教員と各専門学科から選出された２，３名の出席者からなる一般科目と専門学科の科目間連絡会議を開催した。

英語科と専門学科と科目間連絡会議では，「工業英語と一般英語の連携を進めるべきではないか。例えば，『工業英語例文集』のようなものを作り，それを低学年時に暗唱例文集として利用するのはどうか。」という専門科目からの提案がなされた。そのほか，評価や学生の集中力，動機付け，TOEIC，センター試験との関連性等，教授法や評価について議論し情報を共有した(資料２－２－②－４)。

資料２－２－②－４

科目間連絡会議（各専門学科教員と総合科学科英語教員）　議事要録

開催日時：2012 年 8 月 29 日(水) 10:00～11:45
開催場所：1 号館 2 階、会議室
参加者：浅尾・油谷・松本・白濱・北園・寺井・古野・後藤・小畑・大川原
　　木田・山本・横山・渡辺（順不同、敬称略）

1　英語科より
・各学年クラスの使用教科書、授業内容等の説明、クラスの様子、気になる学生の報告。

2　質疑応答

（出典　科目間連絡会議(各専門学科教員と総合科学科英語教員)）

社会科と専門学科との科目間連絡会議では，授業科目担当者からの現状報告，来年度の変更点と論文コンテストでの応募・入選状況に関する報告が行われ，地域の特色に基づいた内容，ディベートやグループワークの導入に関する提案がなされた。平成23年度の会議では，コアカリキュラムに対応するテキストに関する議論を行った。現在は，対応するものを導入している(資料２－２－②－５)。

資料２－２－②－５

平成２３年度　科目間連絡会議（社会）議事録

記録：荒川 裕紀
（編集・文責：安部）

日　時：平成２４年３月２日（金）15 時～16 時
場　所：２階会議室
出席者：M：入江先生、浅尾先生、小清水先生（15：30 所用で退出）
　　E：加島先生、福澤先生（15：30 所用で退出）
　　D：太屋岡先生
　　S：寺井先生、浜松先生、古野先生（15：30 所用で退出）
　　C：井上先生、前田先生
　総合（社会）：白神、安部、廣瀬、荒川　　（15 名）　　司会：安部

○社会科からの現状説明【各教科担当】
・来年度への変更点について
　①日本文化論の教科書を検定教科書に変えること、②平成２５年度からの中期目標を念頭に置いた「モデルコアカリキュラム」に対応するため、③日本文化論の教科書で検定教科書を「現代社会」を使うこと。これは、もともと日本文化論は高校課程での「日本史」の読み替えであったことがあるが、中途修了者にとって日本史の単位よりも現代社会の単位の方が有利であると考えられるため。

（出典　科目間連絡会議(社会)議事録）

２）複数学科にわたる共通分野科目の連絡会議

それぞれの専門学科で共通する分野科目間の連絡会議も実施されている。平成24年度は情報リテラシー，情報処理，工学基礎実験，複合工学実験について開催された。

情報リテラシーに関する連絡会議では，各担当の実施状況報告後，出身中学による差やPowerPointの採点方法，SNS利用に関する注意事項について話し合われた(資料２－２－②－６)。問題点は，平成25年度の授業で改善される予定である。

資料２－２－②－６

平成２４年度　第一回　複数学科にわたる共通分野科目の連絡会議

情報リテラシー（基礎情報処理）

日時　平成２４年7月２３日（月）　１７：１０～
場所　管理棟１階　会議室
出席　白濱、井上、宮川、磯崎、秋本、松久保、乙部、園田

議題

（１） 各学科における基礎情報処理実施状況について
（２） 学生の電子メール利用状況について
（３） 学生へのネットワークリテラシー教育について
（４） その他

議事録

（１）各学科における基礎情報処理実施状況について
機械工学科：

- まず、リテラシーの基礎について触れる。現在は学科の PC 教室で実施しているため、パスワード管理等、ローカルの規則を適用しているが、来年度から IT センターのサーバを利用予定。
- 学生のメール頻度が低いため、利用を促す方法を検討中。
- Word はレポートや論文が書ける程度を想定している。時には地図を書かせるなど学生が興味を持つ課題も出題する。
- Excel は実験データの一次近似等
- PowerPoint は３つのテーマから１つ選ばせる。発表も。
- 課題用に参考書を利用している。

(出典　平成 24 年度複数学科にわたる共通分野科目の連絡会議　情報リテラシー)

プログラミングに関する連絡会議では，各科目の現状報告の後，ソフトウェア作成に関する作法，コーディング規約等について，全体的なコンセンサスが必要であるといった意見が出された(資料２－２－②－７)。

資料２－２－②－７

平成２４年度　第一回　複数学科にわたる共通分野科目の連絡会議

情報処理（プログラミング）

日時　平成２４年7月２６日（木）　１３：４０～

場所　管理棟１階　会議室

出席　白濱、田淵、桐本、磯崎、島川、井田、北園、山内、後藤
欠席　滝本、園田

議題
（１）　各学科における情報処理科目の状況について
（２）　その他

議事録

（１）　各学科における情報処理科目の状況について

授業

機械工学科
情報処理、数値計算法を CAD 室（3F）で実施。パワーポイントを用いた講義の後、手計算をさせる。その後 C 言語でプログラミング演習を行う。

電気電子工学科
一年次の情報処理では Visual Basic を使用した演習、高学年は C 言語を用いた数値計算法や画像処理など。電子計算機室の環境は整っており、特に問題はない。学生全体のモチベーション維持に力を注いでいる。できる学生は非常に優秀である。

（出典　平成 24 年度複数学科にわたる共通分野科目（プログラミング）の連絡会議）

工学基礎実験，複合工学実験の連絡会議では，実験実施状況の進捗報告の後，問題点の情報共有が行われた(資料２－２－②－８，９)。

資料２－２－②－８

2012.7.4.

平成 24 年度「工学基礎実験」中間連絡会の概要

日　時：平成 24 年 6 月 8 日（金）13：30 ～ 14：45、１階会議室にて
参加者（敬称略）：平島、油谷、太屋岡、脇山、後藤、島津、竹内、内田（進行と記録）

会に先立ち、内田から「工学基礎実験（1 年前学期必修、火曜①～④）」実施協力へのお礼とともに、本連絡会は今年度の FD 活動に関連して教務委員会で実施する「複数学科にわたる共通分野科目の連絡会議」に位置付けていることを説明した。

１．今年度（これまで）の実施状況について［現在、3 グループ目の 2 週まで終了］
（※ 個人名を含む表現を削除）

M（平島）：これまでＣ・Ｓ・Ｄの３学科実施
・Ｄで１週目体調不良で欠席１名あり。
・テーマになじまない学生はいない様子。

E（油谷）：これまでＭ・Ｃ・Ｓの３学科実施
・テスターキットの不良部品が 10%程度ある。

D（太屋岡）：これまでＥ・Ｍ・Ｃの３学科実施
・Ｃで話を聞かない女子学生 2～3 名あり。

S（脇山・竹内）：これまでＤ・Ｅ・Ｍの３学科実施
・Ｄで積極性のない学生数名あり、Ｄでレポート再提出１名あり。

C（後藤）：これまでＳ・Ｄ・Ｅの３学科実施
・ガイダンス後に実験場所 5 か所を一巡した効果があったようで、今年度は遅刻学生はほとんど無し。
・Ｄで２週目欠席１名、レポート提出遅れ１名あり。
・Ｅで体操服忘れ１名あり（学生服で実験した）

２．自学科実験（4 週間）の予定について　･･･ 基本的に昨年度と同じ要領で実施予定
M：他学科と同内容の 2 週に加え、基礎製図・三角法の理解を深めるために、その他の部品のスケッチ・製図を実施する。
E：2 週の実験内容を 3 週に拡大し詳細実験とともに、電気回路の勉強をする。
D：他学科と同内容の 2 週に加え、テーマを追加する。
S：2 週の実験内容を 3 週に拡大し、4 週目にレポート提出させる。
C：2 週までの内容は他学科と同じで、3 週目は化学実験に必要な器具の勉強と洗浄を経験させレポート提出、4 週目は安全教育ビデオを見せて感想を提出させる。

３．実験第１回目のガイダンスについて
・来年度も、担当教員が自学科の１年教室で出席を確認し、資料を配付する。
　→　貴重品の注意を促し、階段教室へ引率する。
・実験内容等の学生への説明について･･･
　◎各学科が説明する時に「シラバス」をスクリーン投影して内容紹介し、「画像」を多用した方が学生には伝わりやすい。（実験担当教員で対応）
　◎集合時間厳守（8 時 50 分には実験室内に待機のこと）をしっかりと伝える。
・来年度も、ガイダンス後に実験場所 5 か所を一巡する。（教育研究支援室で対応）
　→　見学後に適宜解散（H24 年度は 12:10～12:20 頃の解散であった）

（出典　平成 24 年度工学基礎実験中間連絡会）

資料２－２－②－９

2013.3.15

平成 24 年度専攻科 1 年「複合工学実験」意見交換会の概要

日　時：平成 25 年 3 月 15 日（金）14：00 ～ 14：40
場　所：機械棟 2 階サーバー室兼情報準備室
出席者：M 種、D 十時、S 脇山、C 山根　※E 宮川（15 時過ぎより意見交換）（敬称略）

意見交換会に先立ち、種から複合工学実験に対する実施協力へのお礼とともに、準備資料について説明した。

＜資料＞：①平成 25 年度の「複合工学実験シラバス」
②平成 24 年度の「複合工学実験について」と「日程表」
③平成 24 年度の「成績一覧表」と「遅刻・欠課状況一覧表」
④平成 23 年度の「デザイン的要素調査結果」
⑤平成 23 年度の「意見交換会の概要」

１．今年度の実施結果（受講学生 38 名、5 班）について

M（種）：
・1 週目は、学科混合の 2 グループに分け、引張試験と曲げ試験を実施した。
（曲げ実験では 1 グループをさらに 2 つに分けて実験）
・「ひずみゲージ」に触れる機会のない学科もあり、実験としての意味がある。
・2 周目は、事前に各自に与えた適当な課題についての発表会を行った。各自でしっかり取り組んでいる。
・3 週目にレポートを仕上げて提出であるが、1 名を除いて概ね期限は守られていた。

E（宮川）：
・採点の基準が明確ではない。
・レポート未提出者の情報共有が必要ではないか。
・今年度は無かったが、年度途中での退学・休学等による情報共有をしたい。
・学会発表等、やむを得ない事情による欠席については、配慮があっても良いのでは。

D（十時）：
・1 週目に配線およびリレー、2, 3 週目にシーケンサを使ったプログラムを実施した。
・班分けし、1 班あたり 2 名。C 学生には D or S 学生を付けて配慮した。
・自分の研究に使うとしたら・・・との設問に対し、戸惑いが見られた。
・取組状況は良好である。

S（脇山）：
・1 班を 3 名程度の小グループに分けて実験実施した。
・マイコンに詳しい S or D の学生と C 学生を組み合わせた。
・HP をパソコン上で作成し、マイコン上で動作させる。
・3 週目には小グループごとの発表を行い、教員による質問を行った。
・レポート提出締切については、良好であった。

C（山根）：
・2 つの装置を用いて X 線による材料分析を行った。
・1 週目は小畑先生で内部の凝集構造の分析、2 週目は山根先生で表面の分析を行った。
・C 学生含む 2 グループに分けて実験し、ある課題について調査のうえ発表を行った。
・レポートの提出締切は守られていたが、内容が？のものが多かった。

（出典　平成 24 年度複合工学実験意見交換会）

専攻科に関連した２学科間連絡会議も実施された。日程の調整からPBLやデザイン教育の導入，改組に関する議論が行われた(資料２－２－②－10)。

資料２－２－②－10

平成 24 年度　専攻科制御工学専攻連絡会議　議事要録

日時・場所；平成 25 年 1 月 11 日（金）16：00～17：00　4 号館 1 階合併講義室
出席者　；（電子制御）宮崎，吉野，太屋岡，白濱，井田，北園，十時，添田（進行）
；（制御情報）浜松，寺井，久池井，古野，松尾，安信（記録）

協議に先立ち，添田専攻科主事補より本連絡会議の趣旨について，説明がなされた。
また，添田専攻科主事補の進行により以下の協議事項について協議した。

協議内容

（1）制御工学専攻特別研究公開発表会について

資料1に基づき，添田主事補より電子制御と制御情報に分かれて制御工学専攻特別研究公開発表会を開催するが，学外の参加者の便を図り，同一の建屋内に会場を確保し，同時刻開始とする旨の説明がなされ，協議を行った。その結果，開催方針に異論はなく，今年度の実施結果で特に問題がなければ，次年度も同一の方針とすることを確認した。

（2）専攻科改組の状況について

添田主事補より，下記事項に沿って専攻科改組の検討状況について口頭説明がなされた。

・1専攻4コースとし，平成27年4月開始を目指して今年の夏までに改組案を固める。
・他分野の専門科目の学習も可能とするクロスしたコース設定を取り入れ，さらに情報系コースを新たに設置する。（ただし，情報工学科とは異なる。また，学位授与の審査を考慮したコース設定とする。）
・定員は1専攻30名としているが，28名あるいは32名（4の倍数値）とする意見もある。
・選択科目群から選択する科目をコースで分ける。（科目の選択パターンを4種設定し，コースとする。）
・専門基礎科目と専門選択科目の設定についても検討する。
・複合工学実験の見直しが始まっており，PBL，デザイン，複合融合についても検討予定である。
・本科4，5年での専攻科への接続を考えたカリキュラムについても検討する。

その後，上記の事項を中心に専攻科改組について協議し，以下の補足や意見が出された。また，引き続き，各学科でも検討を行い，必要に応じて専攻科委員会などに意見を出すようにした。

・改組は専攻科だけでよいのか。本科から考える必要はないか。
・4コースについては機械系，電気電子系，情報系，化学系分野が想定され，情報系コースについては松嶋専攻科主事がカリキュラム等検討WGを設定している。
・コースが授業科目のグループとの定義なら，情報系でよいと思う。また，先生の所属がコースと異なってもよい。
・学生の所属は専攻となるが，就職の際は専攻名+コース名となるのか。
・コース名まで出すと企業側が混乱しないか。（情報系コースは情報工学科と取られる可能性がある。）
・地域のニーズとして情報系分野があるなら，コース名を提示した方がよい。ただし，名称は検討が必要。
・改組の目的としては，出口戦略として高度化のための改組と考えられる。
・コースで分けた方がよいが，学位授与審査が懸念される。
・本科は現状の5学科体制での高度化，専攻科は改組を目指しており，企業側から見ればわかりにくく，求人などで混乱が生じないか。

（3）学生の状況について

・追加配布資料に基づき，電子制御の宮崎学科長より電子制御コースの専攻科生の進路状況について説明があり，添田主事補より成績や出席状況について口頭での補足説明がなされた。また，制御情報の浜松学科長より制御情報コースの専攻科生の状況説明がなされた。
・両コースとも，欠課時間が多い，学位授与レポート未提出などの継続的な指導が必要な学生がいる。

（4）その他

・時間不足のため，学習教育目標と制御工学専攻の育てるべき人物像については資料2を確認の上，意見があれば主事補に連絡し，特別研究と輪講についても意見があれば同様に連絡することにした。また，必要ならば第2回を計画する。

（出典　平成 24 年度専攻科制御工学専攻連絡会議）

（分析結果とその根拠理由）

FD委員会の計画の下，専門学科と一般科目担当教員間で連絡会議が実施されている。専門学科間で共通する内容の授業や，全学年で実施する授業・実験についても学科を越えて情報を共有している。注意すべき学生に関する情報交換，教授内容に関する提案などが行われている。

観点２－２－③：　教員の教育活動を円滑に実施するための支援体制が機能しているか。

（観点に係る状況）

１）担任業務支援

担任業務を教務委員会で審議し明確化し，平成22年度に学級担任支援マニュアルが作成された。学級担任支援マニュアルは，毎年更新されている(資料２－２－③－１，２)。

資料２－２－③－１

学級担任支援マニュアル（目次）

－　目　　次　－

頁

０．まえがき　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　1

１．担任が関わる年間行事　・・・・・・・・・・・・・　2 ～ 5

２．新年度はじめの行事など　・・・・・・・・・・・・　6 ～ 9

３．担任の日常のしごと　・・・・・・・・・・・・・・　10

４．奨学金・授業料の減免希望、授業料未納　・・・・　11 ～ 12

５．休学・退学・進路変更　・・・・・・・・・・・・・　13 ～ 14

６．事故、トラブル・緊急時の対応　・・・・・・・・・　15 ～ 18

７．忌引きおよび公欠の取り扱い　・・・・・・・・・・　19

８．保護者懇談会の取り組み　・・・・・・・・・・・・　20

９．問題を抱えた学生への対応　・・・・・・・・・・・　21

10．定期試験前後の取り組み　・・・・・・・・・・・・　22 ～ 23

11．長期休暇前後の取り組み　・・・・・・・・・・・・　24

12．学年末の取り組み　・・・・・・・・・・・・・・・　25

13．学生寮に関する担任の仕事　・・・・・・・・・・・　26

14．特別活動の取り組み　・・・・・・・・・・・・・・　27 ～ 28

※ 本マニュアルならびに提出書類の様式などは、学内 Web（グループウェア）上に保存されていますので、適宜ご利用ください。

（出典　平成 25 年度学級担任支援マニュアル）

資料２－２－③－２

担任の日常の主な仕事

1.　できるだけ教室に顔を出すようにする

（1）クラスの学生の顔を見て、健康状態を確認し、同時に服装や髪の乱れをチェックする。
（2）学生の性格も考慮しながら、生活の乱れなどを注意して観察する。
（3）クラスの状況に異常がないかどうか観察する。（いじめの雰囲気など）
（4）クラスの状態（机や壁の落書きや破損、ごみ捨て、清掃の状況など）を把握する。

2.　学生とのコミュニケーションを図る

（1）個人面談を行うなどして、学生の名前や所属クラブは出来るだけ早く覚えるようにする。
（2）学級日誌を作ってコミュニケーションを図るのも有効で、そのときは短くてもコメントを添えるようにする。

3.　教室の清掃と整理整頓、戸締りなど

（1）教室の清掃指導は担任の重要な仕事です。（落ち着いた学習環境をつくる）
（2）黒板に日直（週番）の名前を記し、黒板消しや掃除などの指導をしやすくする。
（3）戸締りや消灯（エアコンのスイッチも）指導するとともに、時間が許す限り、休み時間や放課後に自ら確認に行くようにする。特に、体育や実験などで教室を空けるときの貴重品の管理については、盗難に遭わないよう、万全を期しておくことを日頃から指導しておく。
（4）掲示物や連絡事項を確認する。（期限が過ぎたものは速やかに撤去する）
（5）水曜６限後の定例清掃は全員で行い、担当する教員にクラス名票を渡して出欠を取ってもらう。終了後は全員クラスに集合し、担任の指示で解散する。１欠席は遅刻１回として取り扱う。

4.　遅刻・欠席の確認、出席簿の取り扱い

（1）遅刻や欠席は必ず保護者かまたは本人から連絡させるようにし、連絡があったときは、出席簿に記入し（またはメールで）教科担当者に伝える。
（2）無届の場合は、本人だけでなく家庭とも連絡を取り指導する。
（3）出席簿は、学生の状況を把握するために授業担当者が必ず記載しなければならないもので、クラス担任はできるだけ毎日目を通すようにする。

5.　学習状況の把握

（1）１年生以外（１年生でも留年生がいる場合）は、前担任から成績不振の学生の情報を得ておく。
（2）授業担当教員と連絡を取り、課題やレポートの提出状況を調べ、怠学の兆候を早めに捉える。

6.　寮生の把握

（1）学校での様子を観察し、寮関係者からの情報を合わせて、生活態度を把握する。
（2）たまに寮の居室を訪れるのも良い。
（3）学生の欠席の連絡があったときは、なるべく寮まで出向いて様子を見るようにする。

7.　その他

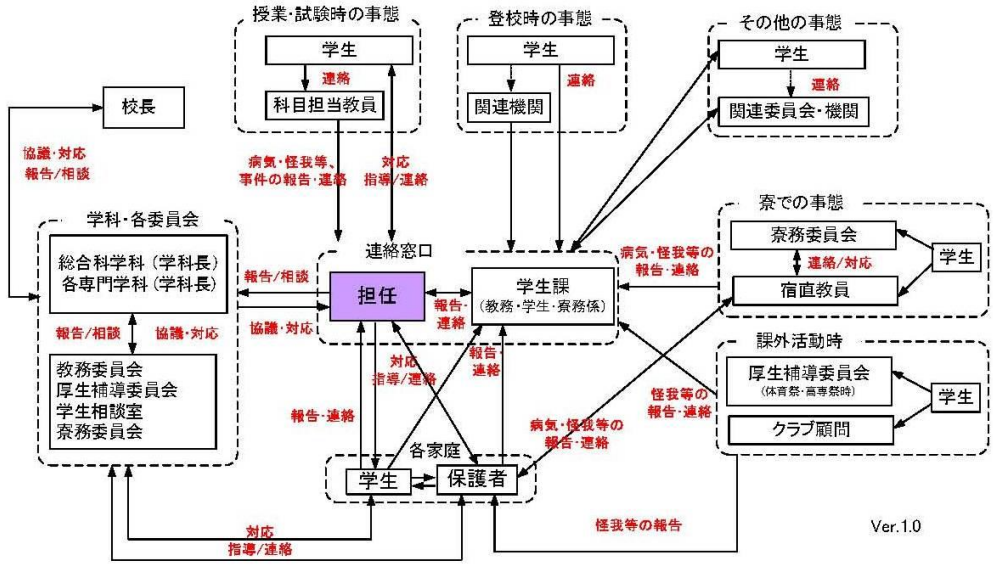
（1）学生課、総務課など事務から学生や保護者への連絡事項があるときの窓口となり、クラスの管理や運営に関して円滑を図るようにする。

（出典　平成 25 年度学級担任支援マニュアル）

このマニュアルでは，緊急時の連携図も明確に定められ，報告・連絡・相談を徹底している（資料２－２－③－３）。

資料２－２－③－３

事故、トラブル・緊急時の対応

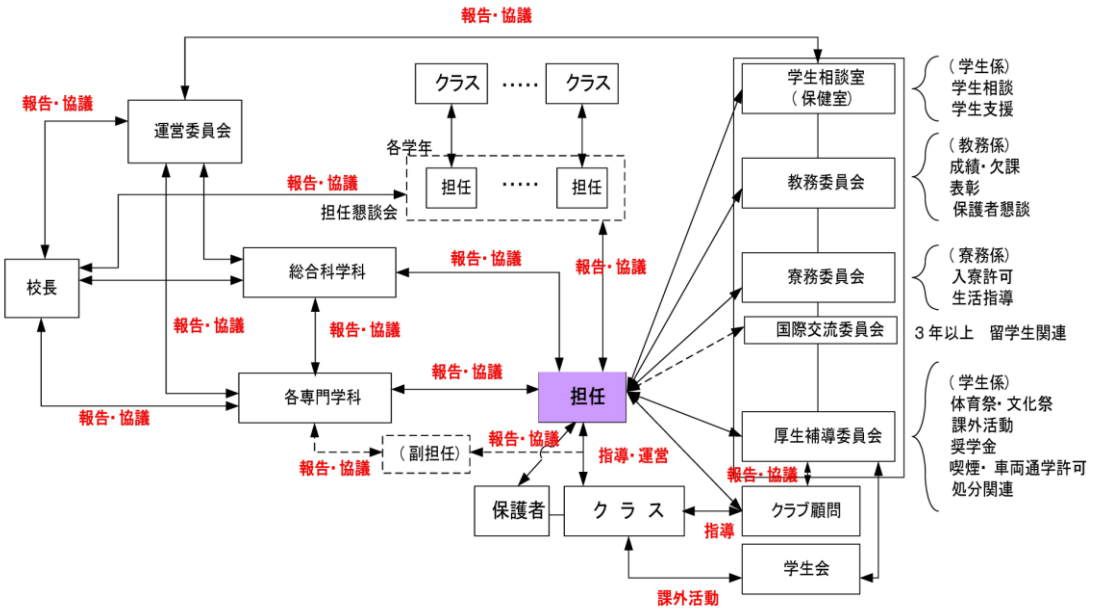


（出典　学級担任支援マニュアル）

授業・実験等を含む教育全般において，担任，学科，各種委員会，その他の関連する組織が互いに情報を共有・連携，相互に支援しながら学生の指導にあたっている（資料２－２－③－４）。

資料２－２－③－４

担任と学科、委員会、他の組織との関連



（出典　学級担任支援マニュアル）

例えば，以下の事例が挙げられる。

・成績不振，欠課が増加傾向等の学生に関する情報を担当教員より担任に連絡
・保護者懇談会で寄せられた意見を担任－学科で相互に共有
・課外活動，賞罰に関する報告・協議(厚生補導委員会)
・留学生への支援に関する情報共有(国際交流委員会)
・支援の必要な学生への対応に関する情報共有・協議(学生相談室)

２）副担任・担任連絡会議

担任業務のサポートとして副担任制度も定められている。１，２学年では一般科目担当教員が担任を，専門科目担当教員が副担任をそれぞれ担当し，学科間の情報共有も合わせて行っている(資料２－２－③－５，６)。１，２学年のクラスを対象として担任連絡会議も開催されている。

資料２－２－③－５

○北九州工業高等専門学校学科長・学年主任・学級担任・教科代表規則

昭和５４年１２月２０日　規則第８号
改正　平成２２年４月１日

（学科長及び副学科長の設置）
第１条　北九州工業高等専門学校の各学科並びに総合科学科の文科系及び理科系に、それぞれ学科長及び副学科長各１名を置く。
２　各学科長及び総合科学科長（以下「学科長」という。）並びに各副学科長及び副総合科学科長（以下「副学科長」という。）は、当該学科及び当該総合科学科に属する教授又は准教授のうちから校長がこれを命ずる。
（学級担任の設置）
第２条　各学科・学年の各学級に、それぞれ学級担任１名を置く。
２　学級担任は、教授、准教授又は専任講師のうちから校長がこれを命ずる。
（学年主任及び学級担任代表の設置）
第３条　各学年及び各学級相互の連絡等を緊密にするため、１学年及び２学年にそれぞれ学年主任を、３学年、４学年及び５学年にそれぞれ学級担任代表を置く。
２　学年主任は、教授又は准教授のうちから校長がこれを命ずる。
３　学級担任代表は、学級担任のうちから校長がこれを命ずる。
（学年主任及び学級担任代表の設置）
第３条の２　学年主任を補佐するため、学年副主任を置く。
２　学年副主任は、学年主任が指名し、校長がこれを命ずる。
（学級副担任の設置）
第３条の３　校長が必要と認めた場合は、学級副担任を置くことがある。
２　前項の学級副担任は、教授、准教授、専任講師又は助教のうちから校長がこれを命ずる。
（教科代表の設置）
第４条　総合科学科における次の各号に掲げる教科に、教科代表を置くことができる。
（１）国語
（２）社会
（３）数学
（４）理科
（５）保健体育
（６）外国語（英語）
２　教科代表は、当該教科担当教員のうちから当該総合科学科長が指名し、校長がこれを命ずる。
（任期）

（出典　学科長・学年主任・学級担任・教科代表規則）

資料２－２－③－６

2年担任会報告 4月1日 (金)16：00-17：30　総合ミーティングルーム

出席者：楠田，倉富，八嶋，宮内　欠席者：渡辺(後日連絡済)

・4月7日(木)校長講話＆LHの確認：9時から校長講話が実施できるように2年は教室では欠席者数の確認ですぐに体育館に移動，出欠は体育館で行う
・LHは各役員等の選出
・新学期を迎えるに当たって(H23年度版)を利用して注意事項を伝える特に服装(ベスト・カーディガン・夏季服装のシャツ出し等を徹底させる)，授業に関係ない物品の持ち込みは，没収する
　　2年の授業を行う先生も協力をお願いいたします
・4月中に保護者へ，新学期を迎えるに当たって(H23年度版)
・学校行事(便覧を利用：教務係からいただけそう)担任からの連絡(倉富先生・八嶋先生作成)を送付する．
・クラス日誌の雛形を倉富先生から流してもらう
・住所シールは教務係で印刷可能(お願いすれば印刷していただける：新しい情報です)

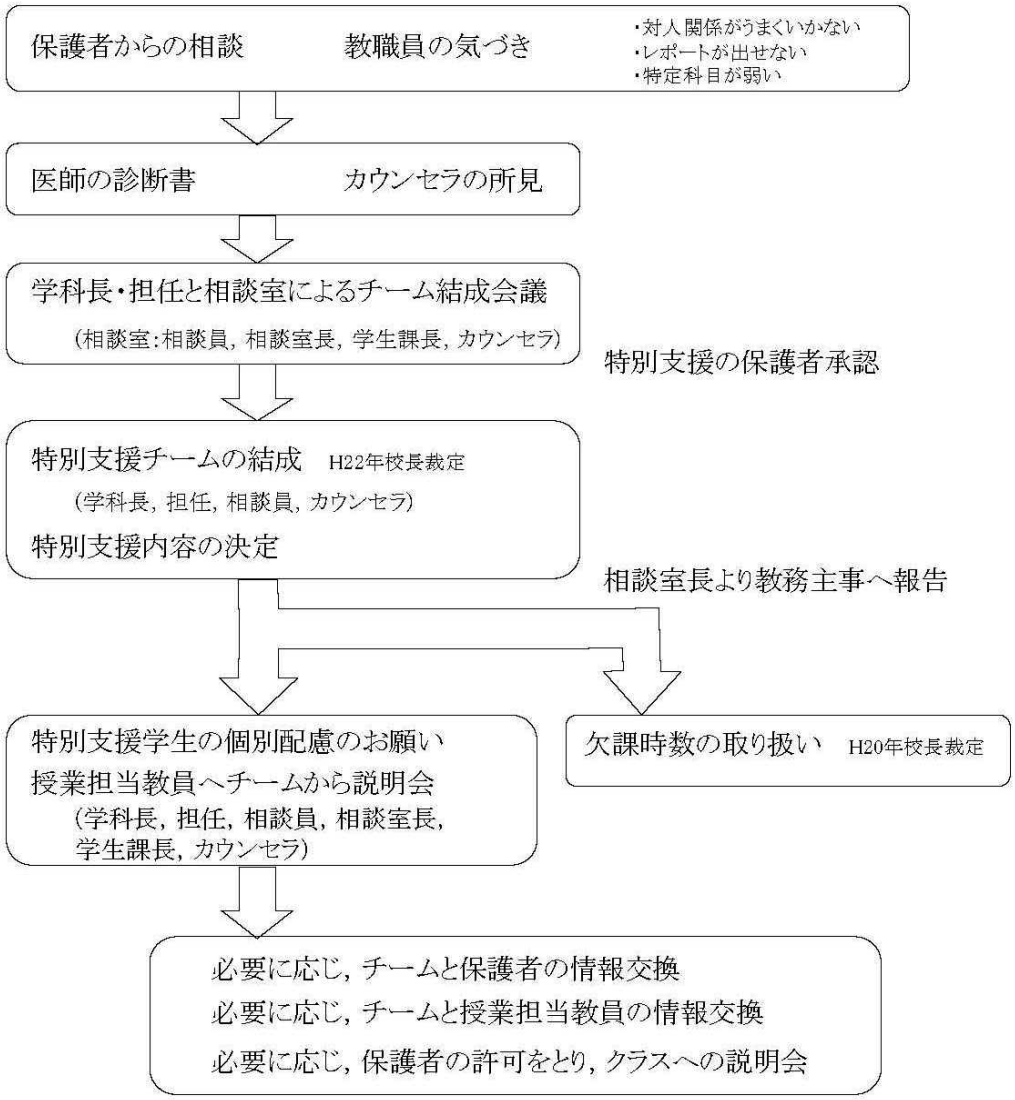
（出典　平成 24 年度２年担任会議報告）

３）学生相談室

障がい等の理由により支援が必要な学生に対しては，学生相談室の主導の下，特別支援チームを結成して対応する体制を整えている（資料２－２－③－７）。

資料２－２－③－７

特別支援の流れ



(出典　特別支援の手引き)

また，１～３年生を対象に教育相談のための総合調査(Σテスト)を実施している。学習，自己認識，対人関係に対して学生の適応感を示し，悩み相談・支援等の早期対応，進路指導や保護者懇談会の資料としても活用されている。

４）特別活動

特別活動は，ホームルーム活動と学校行事活動で構成され，１～３年生に対し週１時間実施している。学級全体で取り組む活動は，毎月１回実施する方針が教務委員会において審議され，定められている(資料２－２－③－８)。

資料２－２－③－８

特 別 活 動 編 成 方 針

（１）　特別活動実施要領（平成９年校長裁定）に基づき、
・対象学年は第１学年から第３学年までとする。
・各学年とも年間３０単位時間以上実施する。

（２）　特別活動は、ホームルーム活動と学校行事活動（学生会行事を含む）で構成する。

（３）　ホームルーム活動のうち、学級全体で取り組む活動（以下、「学級活動」で記述）は原則、毎月１回実施する。ただし、夏季休業および学年末休業にあたる８月と３月は実施しない。

（４）　学級活動は年度始めに学級担任が年間計画表を作成し、教務委員会に諮るものとする。学級活動を行わない週は、学級担任の裁量で成績指導や進路指導等を行うものとする。

（５）　ホームルーム活動の時間帯は学年集会等の学年別指導が行えるよう、可能な限り学年ごとに同一時間帯となるよう、時間割編成を行う。

（６）　健康診断・防災避難訓練等の特別活動の主旨から外れる学校行事は、特別活動の対象から除く。特別活動の対象となる学校行事活動および学年毎の時間配当については、別表のとおりとする。

（７）　学級担任はホームルーム活動の実施報告について、学級活動を行わない週も含めて30週分の実施報告書を年度末に教務委員会に提出するものとする。

（出典　特別活動編成方針）

特別活動の内容は，担任に委ねられているが，本校の定める学修の指針に沿ったものとなるよう，教務委員会において指導案を提示している(資料２－２－③－９)。

資料２－２－③－９

特別活動の内容と学修プログラムとの関係（H17～20年度実施分のまとめ）

（平成21年8月26日第7回教務委員会）

分類	特別活動の内容	目標																		
		①高専生活への適応						②自己を客観的に認識する訓練						③自分の適性と人生設計						
		具体的内容																		
		①	②	③	④	⑤	⑥	①	②	③	④	⑤	⑥	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
目標設定	新学年を迎えるにあたって																			
	今年度の抱負と目標設定（発表，作文）																			
	新学期を迎えるにあたり決意を述べる																			
	2ヶ月を終えて																			
	前期を振り返って																			
	前期総括（反省，後期への展望と目標設定）																			
	前期を省みて後期の目標を設定する																			
	後学期を迎えるに当たり決意を述べる																			
	年末年始の計画　今の自分を考える																			
	新年を迎える準備																			
	今年の反省と記述																			
	新年の抱負，目標（作文，発表）																			
	新年の抱負，書初め																			
	新年を迎え新たな決意																			
	新年の抱負と2年最後の1ヶ月間の生活設計を聞く	○		○				○			○	○		○	○		○		○	○
	来年度に向けて（今年度の反省と学年末までの学習計画）																			
	今年の目標と自分の行動について																			
	後学期の反省・まとめ																			
	将来の目標について　4年生になる準備																			
	1年を振り返って（学習，学校生活）																			
	1年間を振り返っての感想と，来年度への抱負，展望を聞く																			
	1年間の反省と今年度の目標に関する作文作成																			
	1年間についての反省と今後に向けて																			
	今何をなすべきか，この1年で得たもの																			
	高専生活の折り返しにあたって今後の抱負を語る																			
	高専生活の中間点に立って																			
	一年後の自分への手紙（一年後の自分を想像して）																			
	一年を振返って（自分の成長，目標達成，客観的に見つめる）																			
	一人一人の学生による、中学時代についての発表																			

（出典　特別活動の内容と学修プログラムとの関係）

５)ティーチングアシスタント(TA)

TAは，専攻科学生による授業補助というだけでなく，自己表現やより広い視野の獲得等，TA自身の教育効果も視野に入れている。学科内で計画を立て，専攻科委員会の審議を経て実施されている(資料２－２－③－10，11)。

資料２－２－③－10

平成 24 年 4 月 20 日

TA 計画書　(制御工学専攻，電子制御工学コース)

電子制御工学科長　宮崎出雲

１．目的・意義

電子制御工学科では，制御・電気電子・情報が統合的に扱え，技術の変化に対応していける開拓型技術者の育成を学科の教育目的とし，学生への指導を行っている．

TA 導入を計画している

「基礎情報処理(1D:通年)」は，新しく高専に入学した学生にコンピュータ/ネットワークリテラシー，Word/Excel/PowerPoint の基礎を演習中心で教える．

「工学基礎実験(1D：前期)」は，LEGO を用いたロボット作成を通して，新入生に学習への興味を起こさせる．

「情報処理Ⅱ(3D：通年)」は，2 年次に「情報処理Ⅰ」で学習した C 言語へのさらに深い理解を深め，4 年次に学習する「情報処理Ⅲ」，「計算機システム」，実験実習等を十分行えるレベルまで育成する．

「電子制御工学実験実習 (5D：通年)」は，電子制御工学の基本的知識とその応用を，実験実習を通じて，経験・習得させる．

「応用ネットワーキング(5D：通年)」は，4 年次に学習した「基礎ネットワーク」で学んだ内容を，実際の装置を用いて演習し，ネットワーク構築手法の理解を深める．

これらの授業は，演習を主体に行われ，学生自身の積極的な取り組みが重要となるが，TA を導入することにより，初学者が躓きやすい部分を十分把握した教官と実際の受講経験者である TA の協調作業により，受講生の理解の状況をより把握しながら授業を進めることが可能となり，結果として受講生の学習意欲が高まることが期待される．

また，指導する TA にとっても担当教科に対する理解が深まるのはもとより，初学者に対して専門的知識を教えることにより，自己表現力を磨くための OJT となる．

(出典　平成 24 年度 TA 計画書(電子制御工学科))

資料２－２－③－11

平成 24 年度　ティーチングアシスタント　担当教員報告

・授業名「情報処理Ⅱ」（3D 通年）　担当：白濱
TA：専攻科 2 年：20 時間

・授業名「応用ネットワーキング」（5D 通年の前期のみ）　担当：白濱
TA：専攻科 1 年：15 時間

情報処理 II

情報処理 II は情報処理Ｉで学んだＣ言語の基礎を学習済として進めることもあり、つまずく学生も出がちである。演習時間を利用して、その都度サポートするが、TA がいるとより多くの学生をサポートする事ができる。年齢が近いということもあり、学生によってはＴＡの方が質問しやすいということもある。また TA 自身も学生に教えることにより、自分の知識をより確実なものにするという効果もあることが今回確認できた。

応用ネットワーキング

応用ネットワーキングは基礎ネットワーキングで TCP/IP に関する知識を習得したものとして進める。実際のルータを使った演習ということもあり、サポートする TA がいるほうがスムーズに授業を行うことができる。前年度にしっかりと応用ネットワーキングを学んだこともあり、高度な質問にもしっかりと対応できる TA だったため、非常に助かった。

（出典　平成 24 年度 TA 担当教員報告書）

６）課外活動指導の改善

教職員の負担軽減を目的として，非常勤教職員による課外活動指導体制を整えた（資料２－２－③－12，13）。これにより課外活動に関する教職員の負担が大きく軽減された。

資料２－２－③－12

（別紙１）

教職員の業務負担軽減方策について（対応と方針）【抜粋要約】

１．【課外活動指導における非常勤教職員の職務内容】

課外活動指導における各種大会、練習試合等の校外引率業務・顧問会議への出席及び特定の課外活動の技術的な指導業務。

※　非常勤教職員の方お１人で、課外活動の引率等が可能。
（引率業務等の負担軽減）

２．【課外活動の外部指導者による指導中の事故に係る賠償責任問題について】

高専機構としての管理責任が発生する場合は、高専機構が契約している損害賠償責任保険による対応が可能である。（保険会社へ確認済）
ただし、外部指導者の指導が故意又は重大な過失である場合を除く。
また、外部指導者個人が負うべき責任については、保険の対象外となる。

※ 高専機構としての管理責任の有無について
高専機構としての管理責任下の判断は、外部指導者によって実施される課外活動の内容（計画）を学校（高専機構）が把握し、必要性を認めている場合とする。

（出典　教職員の業務負担軽減方策について（対応と方針））

資料２－２－③－13

平成　　年　　月　　日

北九州工業高等専門学校長　殿

クラブ名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

指導教員名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿　印

技術コーチ委嘱願

このことについて、下記のとおり委嘱方お願いします。

委嘱者	氏　名＿＿＿＿＿＿＿＿　生年月日 昭和　　年　　月　　日 住　所＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿　℡ 093(434)2054 勤務先＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿　℡ 093(583)5800
指導期間	自　平成２５年　４月　１日　月平均　　回　（１回　　時間） 至　平成２６年　３月３１日　合　計　　回　　時間
実施内容（計画）	
備　　考	

（出典　技術コーチ委嘱願）

７）事務組織による支援

学習指導の元になる個々の学生の学業成績は，学生課教務係で集約・整理され，成績，欠課，遅刻，評点一覧表として学級担任に提供される。また，奨学金や授業料免除のような学生に対する経済的な支援については，学生課学生係が窓口となり，厚生補導委員会で審議・決定がなされ学級担任に報告される（資料２－２－③－14）。

資料２－２－③－14

学生課の業務

（目的）
第１条　この規則は、独立行政法人国立高等専門学校機構の組織に関する規則（平成１６年独立行政法人国立高等専門学校機構規則第１号）の規定に基づき、北九州工業高等専門学校の事務組織に関し必要な事項を定めることを目的とする。
第２章　事務部の課の所掌事務
（略）
（学生課の所掌事務）
第４条　学生課においては、次の事務をつかさどる。
（１）入学者の選抜に関すること。
（２）学生の修学指導に関すること。
（３）教育課程の編成及び授業に関すること。
（４）学生の学業成績の整理及び記録に関すること。
（５）学生の学籍に関すること。
（６）学生の実習に関すること。
（７）学生のカウンセリングに関すること。
（８）学生の課外教育に関すること。
（９）学生及び学生団体の指導監督に関すること。
（１０）学生に対する奨学金並びに入学料及び授業料等の減免及び猶予並びに経済援助に関すること。
（１１）学生の厚生施設の管理運営及び厚生事業に関すること。
（１２）学生の保健管理及び保健施設の管理運営に関すること。
（１３）学生に対する職業指導及び就職あっせんに関すること。
（１４）学生旅客運賃割引証に関すること。
（１５）日本学校安全会の事務に関すること。
（１６）学生寮の管理運営に関すること。
（１７）学生の入・退寮に関すること。
（１８）寮生の指導監督に関すること。
（１９）外国人留学生に関すること。
（２０）実験・実習補助及び技術指導に関すること。
（２１）教員の研究補助に関すること。
（２２）卒業研究の補助に関すること。
（２３）教材及び実験装置作成に関すること。
（２４）実験・実習用諸材料の準備及び保管に関すること。
（２５）実習工場及び実験室の機械器具類の保守、管理に関すること。
（２６）実習工場及び実験室の安全保持に関すること。
（２７）専攻科の特別研究、実験・実習補助及び技術指導に関すること。
（２８）その他教務、厚生補導、寮務及び実験・実習に関する事務を処理すること。

（出典　事務組織規則より）

８）教務システム

教務システムでは，学生の基本情報から指導要録や調査書所見等の指導に必要な情報までセキュアに共有するシステムを提供し，教員の教育活動を支援している(資料２－２－③－15)。

資料２－２－③－15

指導要録所見等登録（Campus Assist）



（出典　教務システム画面）

（分析結果とその根拠理由）

担任を中心とし，各組織で連携した相互支援体制を確立している。教務委員会で担任の業務をマニュアルとして明確に規定し，緊急時の場合も含めて対応する各組織との報告・協議が行われている。副担任制度を導入し，１，２学年に学年主任を，３～５年にそれぞれ学級担任代表を定め，各担任同士の連携も図っている。１，３学年では毎週特別活動を実施しているが，毎月１回学級全体で取り組む活動では，学修の指針に沿ったものとなるよう，教務委員会で指導案を提示している。

人的支援・経済的支援に関して，TA，非常勤教員による課外活動指導等の制度を定め運用している。これらの制度により教員の負担軽減が実現され，より活発な教育研究活動が可能となった。

（２）優れた点及び改善を要する点

（優れた点）

・地域共同テクノセンター／ITセンター／教育研究支援室は，それぞれ，地域産業の進行／学内情報基盤整備／実験・実習の補助に関して有効に機能している。受託研究・共同研究に加え，学内発ベンチャー設立も支援している。これらの活動は学生の卒業研究，特別研究にも大きく寄与している。
・学術情報センターを新たに設置し，ICT，図書館，広報活動を統括する組織を編成した。
・e-learning，教育用クラウドといった新しいICT環境を積極的に提供している。
・教育研究支援室は，生産加工技術グループと機器分析技術グループから成り，それぞれ適切に担当する分野の実験・実習の補助にあたっている。
・FD委員会よって科目間連絡会議が計画され，専門学科と一般科目担当教員間の意思疎通が教科の特性に応じて適切に行われている。複数学科にわたる共通分野の科目においても同様に連絡会議を実

施し，意思疎通を図っている。
・学級担任支援マニュアルの整備や副担任，担任連絡会議の設置，学生相談室による支援，特別活動の指導案の作成など，担任業務の支援体制が充実している。
・支援が必要な学生に対しては，必要に応じて特別支援チームを編成して対応している。
・１，３年生に対して教育相談テストを実施し，学生の問題の早期発見に努めている。
・学修の指針との関係を明示した特別活動指導案が教務委員会によって作成され担任に提示されている。
・教員の負担を軽減すると共に，従事する学生の視野を広げるTA制度が専攻科委員会によって適切に運営されている。
・非常勤教職員による課外活動指導制度が発足し，教職員の負担の軽減を図っている。
・教務システムを活用し，指導に必要な所見等の情報を共有している。

（改善を要する点）
該当なし

（３）基準２の自己評価の概要

準学士課程の５つの専門学科が設置され，各学科の教育目標は，本校の教育目的に合致している。一般科目担当教員から成る総合科学科が組織化されている。専門学科の構成，教育目標共に設置基準に適合している。他分野の工学知識を身に付け，広い視野から問題を解決することができる人物育成を目的とした生産デザイン工学教育プログラムをより高レベルな目標として掲げ，生産工学・制御工学・物質化学工学の３専攻が専攻科課程として設置されている。地域共同テクノセンター，ITセンター，教育研究支援室が全学的なセンターとして設置され，学生の教育のために有効に機能している。

教育課程を編成するための中心的な機関として，教務委員会と専攻科委員会が設置され，運営委員会，自己点検・自己評価委員会，FD委員会等の組織と有機的に連携している。一般科目と専門科目を担当する教員間の連携を深めるために科目間連絡会議が実施されている。複数学科間の共通分野等でも同様に連絡会議を実施している。担任業務を円滑に実施するために，学級担任支援マニュアルを整備し，副担任による支援や，担任連絡会議等による情報共有を行っている。教員の負担を軽減するためにTA制度や非常勤教職員による課外活動指導制度等を定め運用している。

技術の高度化や変化に対応するためのカリキュラム編成や授業の改善・見直し等を中心に，現在も様々な項目について検討を行っている。

基準３　教員及び教育支援者等

（１）観点ごとの分析

観点３－１－①：　教育の目的を達成するために必要な一般科目担当教員が適切に配置されているか。

（観点に係る状況）

一般科目担当教員（総合科学科）として，専任教員22名が配置され，高等専門学校設置基準（専任教員22名以上）を満たしている。本校の３つの教育目的と教育目標（A）～（G）を達成するために，必要な一般科目が各学年にバランス良く配置されている。教育目的（１）の「幅広い工学基礎の修得」の部分に寄与する教育目標（A）に関わる理数系科目，教育目的（２）「国際センスの習得」に寄与する教育目標（E），（F）に関わる人文系科目，教育目的（３）「心豊かな人間性の涵養」に寄与する教育目標（F），（G）に関わる社会系科目，保健・体育科目を担当する教員を適切に配置している。また，教員の専門分野と担当授業科目は適合している。（資料３－１－①－１）

（分析結果とその根拠理由）

資料より，本校の教育目的，目標を達成するのに必要な一般科目が配置され，担当教員が適切に配置されているのが分かる。

資料３－１－①－１（その１）

表　準学士課程の教育目的・目標，教員，及び専門分野の適合［平成25年度1年生の5年間のカリキュラム］

幅広い工学基礎と創造的技術開発力の修得

国際社会で尊敬され，信頼される国際センスの修得

地球にやさしい技術を展開できる心豊かな人間性の涵養

授業科目		単位	学年、学科	教員氏名	教員所属学科	常勤・非常勤	学位	専門分野，教員免許，所属のいずれか	準学士課程の教育目標に対する関与の程度　（◎：主　○：従） A ①②	B ①②	C ①②③④	D ①②③	E ①②③	F ①②③	G ①②	一般科目で養成する人物像に対する関与の程度（◎：主 ○：従） ①②③④⑤
芸術	音楽	2	1全	土生　ひと美	総合	非	文学士	声楽，教員免許（音楽）						◎		◎
社会	人間関係論	2	2全													
	哲学（倫理学）	2	4，5全	宏部　力	総合	常	文学修士	東アジア思想						◎	◎	◎
	地理	2	1SC													
	歴史	2	3MD	荒川　裕紀	総合	常	修士（社会学）	文化人類学						◎	◎	◎
	史学概論	2	4，5全													
	地理	2	MD	白神　宏	総合	常	文学修士	自然地理学						◎	◎	◎
	地理学	2	4，5全													
	日本文化論	2	2全	廣瀬　孝壽	総合	常	修士（法学）	民法						◎	◎	◎
	法学	2	4，5全													
	歴史	2	3SC	為峯　和惠	総合	非	学士	歴史，教員免許（高校地理・歴史，公民，社会）						◎	◎	◎
	経済学	2	4，5全	古村　英俊	総合	非	博士（学術）	社会システム工学，中小企業診断士						◎		◎
	社会学論	1	4	長谷川　洋史	総合	非	博士（経済学）	社会経済史，教員免許（高校社会）						◎		◎
保健・体育	体育Ⅰ	2	1全												◎	◎
	体育Ⅳ	2	4W	濱田　臣二	総合	常	博士（学術）	武道論	○					◎	◎	◎
	体育概論	1	1全						○					◎		◎
	保健	1	1ME											○	○	◎
	体育Ⅲ	2	3全	松崎　拓也	総合	常	体育科学修士	スポーツ心理学						○	◎	◎
	体育Ⅳ	2	4C						○					◎		◎
	保健	1	1DC											○	○	◎
	体育Ⅱ	2	2全	八嶋　文雄	総合	常	体育学修士	体育科教育学						◎	◎	◎
	体育Ⅳ	2	4E						○					◎		◎
	保健	1	1S											○	○	◎
	体育Ⅳ	2	4S	大下　和茂	総合	非	博士（学術）	日本赤十字社　水上安全法救助員Ⅱ，日本赤十字社　救急法救助員	○					◎		◎

（出典　平成 25 年度シラバス，学校要覧及び人事係資料より作成）

資料３－１－①－１（その２）

表　準学士課程の教育目的・目標，教員，及び専門分野の適合[平成25年度1年生の5年間のカリキュラム]

幅広い工学基礎と創造的技術開発力の修得

国際社会で尊敬され，信頼される国際センスの修得

地球にやさしい技術を展開できる心豊かな人間性の涵養

授業科目		単位	学年、学科	教員氏名		教員所属学科	常勤・非常勤	学位	専門分野，教員免許，所属のいずれか	準学士課程の教育目標に対する関与の程度　（◎：主　○：従）																一般科目で養成する人物像に対する関与の程度（◎：主　○：従）			
										A		B		C				D			E			F			G			
										①	②	①	②	①	②	③	④	①	②	③	①	②	③	①	②	①	②	③	①	⑤
国語	国語Ⅰ	2	1DSC	楠田　剛士		総合	常	博士（比較社会文化）	日本近代文学												◎	○						○	◎	
	近代文学	2	4MEDC																		◎							◎	◎	
	国語Ⅱ	2	2MEDS	山下　文		総合	常	文学修士	和歌文学												◎	◎		○				○	◎	
	現代文学	2	3MED																		◎	○		◎				○	◎	
	近代文学	2	4S	茶園　梨加		総合	非	修士（文学）（比較社会文化）	日本近代文学												◎	○		◎				○	◎	
	日本文学論	1	4全																		○	○		◎				○	◎	
	現代文	2	3SC	藤本　晃嗣		総合	非	修士（比較社会文化）	日本近代文学，教員免許（高校地理・歴史，国語）												◎	○		○				○	◎	
	国語Ⅰ	2	1ME																		◎	◎		○				○	◎	
	国語Ⅱ	2	2C	室　直良		総合	非	修士（教育学）	高校教育，教員免許（高校国語），司書教諭資格，日本語教師資格												◎	◎		○				○	◎	
語学	英語AⅠ	4	1EC	大谷　浩		総合	常	修士（英語教育学）	第２言語修得												◎							○	◎	
	英語BⅠ	2	1MDS																		◎							○	◎	
	英語AⅡ	4	1D	久保川　晴美		総合	常	修士（英語教育学）	英語教育												◎							○	◎	
	英語AⅣ	4	2ES																		◎							○	◎	
	英語AⅠ	2	4C																		◎							○	◎	
	英語BⅠ	4	1MS	山本　一夫		総合	常	文学修士	英文学												◎							○	◎	
	英語BⅡ	2	3MED																		◎							○	◎	
	英語AⅡ	4	2MDC																		◎							○	◎	
	英語AⅢ	4	3E																		◎							○	◎	
	英語特論	2	3E	横山　郁子		総合	常	教育学修士	英文学												◎	◎						○	◎	
	英語演習	1	4全																		◎	◎						○	◎	
	英語C	2	5MED	伊藤　覚		総合	非	修士（文学）	英語学												◎							○	◎	
	英語BⅠ	2	1EC																		◎							○	◎	
	英語BⅡ	2	3SC	木村　久		総合	非	学士（文学）	教員免許（高校英語）												◎							○	◎	
	英語C	2	5SC	中村　美子		総合	非	博士（文学）	英文学，教員免許（高校英語）												◎							○	◎	
	英語AⅢ	2	3MDSC	西田　智		総合	非	学士													◎							○	◎	
	第２外国語（ドイツ語）	2	4MEDS	東島　浩		総合	非	学士	教員免許（高校英語）												◎							○	◎	
	第２外国語（中国語）	2	3全	坂口　浩		総合	非	修士（法学）	法哲学（ドイツ思想）												◎							○	◎	
	第２外国語（中国語）	2	3全	白畠　一宇		総合	非	文学修士	東洋史，商業航空航天大学教授												◎							○	◎	
	第２外国語（中国語）	2	3全	野村　和代		総合	非	修士（文学）	比較文化（中国文学），教員免許（高校中国語，国語，社会）												◎							○	◎	
	第２外国語（中国語）	2	3全	張　景珊		総合	非	博士（学術）	中国語学，日本語能力試験１級												◎							○	◎	
	第２外国語（韓国語）	2	3全	安　蕭殊		総合	非	修士（亜州地域学，韓国外国語大学）	比較文化（日韓思想文化）												◎							○	◎	
	日本語	2	3	印道　緑		総合	非	英文文学士	国際教育，教員免許（高校英語），実用英語技能検定１級																					

（出典　平成 25 年度シラバス，学校要覧及び人事係資料より作成）

資料３－１－①－１（その３）

表　準学士課程の教育目的・目標，教員，及び専門分野の適合［平成25年度1年生の5年間のカリキュラム］

幅広い工学基礎と創造的技術開発力の修得

国際社会で尊敬され，信頼される国際センスの修得

地球にやさしい技術を展開できる心豊かな人間性の涵養

授業科目	単位	学年、学科	教員氏名	教員所属学科	常勤・非常勤	学位	専門分野，教員免許，所属のいずれか	準学士課程の教育目標に対する関与の程度（◎：主　○：従） A ①	A ②	B ①	B ②	C ①	C ②	C ③	C ④	D ①	D ②	D ③	E ①	E ②	E ③	F ①	F ②	F ③	G ①	G ②	一般科目で養成する人物像に対する関与の程度（◎：主　○：従） ①	②	③	④	⑤
数学	微分積分Ⅰ	4	2C					◎	◎																		◎			
	代数幾何Ⅰ	2	2MES	石井　伸一郎	総合	常	理学修士	数学	◎	◎																				
	微分積分Ⅱ	4	3E						◎	◎																		◎	○	◎
	基礎数学Ⅰ	4	1M	栗原　大武	総合	常	博士（理学）	代数的組合せ論	◎	◎																		◎	○	◎
	微分積分Ⅱ	4	3S						◎	◎																		◎	○	◎
	基礎数学Ⅰ	4	1E						○	◎																		○	○	◎
	微分積分Ⅱ	4	3D	德一　保生	総合	常	学士	計画数学	◎	◎																		◎	○	◎
	代数幾何Ⅱ	2	2MS						◎	◎																		◎	○	◎
	基礎数学Ⅰ	4	1D						◎	◎																		◎	○	◎
	微分積分Ⅰ	4	2D	豊永　憲治	総合	常	博士（数理学）	数値解析	◎	◎																		◎	○	◎
	代数幾何Ⅱ	2	3C						◎	◎																		◎	○	◎
	数学演習	1	4全						○	○																		○	○	○
	基礎数学Ⅰ	4	1SC	山田　康隆	総合	常	博士（工学）	実解析	◎	◎																		◎	○	◎
	数学特論	1	4全						○	○																		◎	○	◎
	基礎数学Ⅱ	2	1C						◎	◎																		◎	○	◎
	微分積分Ⅰ	4	2M	大貝　三郎	総合	非	学士	教員免許（高校数学）	◎	◎																		◎	○	◎
	代数幾何Ⅱ	2	3E						◎	◎																		◎	○	◎
	微分積分Ⅱ	4	3M	垣内　秀昭	総合	非	修士		◎	◎																		◎	○	◎
	基礎数学Ⅱ	2	1ME						◎	◎																		◎	○	◎
	代数幾何Ⅰ	2	2C	武吉　恆	総合	非	学士	教員免許（高校数学）	◎	◎																		◎	○	◎
	微分積分Ⅰ	4	2E						◎	◎																		◎	○	◎
	代数幾何Ⅱ	2	2C	田中　信輝	総合	非	学士	教員免許（高校数学）	◎	◎																		◎	○	◎
	基礎数学Ⅱ	2	2S						◎	◎																		◎	○	◎
	代数幾何Ⅰ	2	1DS	仲上　健	総合	非	学士	教員免許（高校数学）	◎	◎																		◎	○	◎
	微分積分Ⅱ	4	3C						◎	◎																		◎	○	◎
	代数幾何Ⅱ	2	3D	藤原　富美代	総合	非	博士（工学）	教員免許（高校数学，理科）	◎	◎																		◎	○	◎
理科	化学	2	2D	大川原　徹	物質	常	博士（工学）	錯体化学	◎	○		○																◎	◎	○
	物理Ⅰ	4	2M	田端　大介	機械	常	博士（工学）	複合材料工学	◎	○		○																◎	◎	○
	物理Ⅰ	4	2S	中村　裕之	総合	常	博士（工学）	原子核物理，第１種放射線取扱主任免許	◎	○		○																◎	○	○
	物理Ⅰ	4	2EDC	髙内　眞人	総合	常	博士（工学）	計測工学	◎	○		○																◎	○	○
	化学	2	1MDS	矢野　正孝	総合	常	薬学士	環境教育，公害防止主任管理者，X線作業主任者	◎	○		○																◎	○	○
	化学	2	2MES						◎	○		○																◎	○	○
	化学	2	1C	永田　康久	総合	非	博士（工学）	材料工学，安全管理者	◎	○		○																◎	○	○
情報通信工学	基礎情報処理	2	1M	井上　昌信	機械	常	博士（工学）	機械力学	◎	◎											○			○				◎	○	
	基礎情報処理	2	1D	秋本　高明	電制	常	博士（工学）	コンピュータグラフィックス	◎	◎											○			○				◎	○	
	基礎情報処理	2	1S	乙部　由美子	制御	常	博士（工学）	流体工学	◎	◎											○			○				◎	○	
	基礎情報処理	2	1EC	谷口　充也	物質	非	経済学士	情報処理技能検定データベース１級，日本語ワードプロセッサ検定１級，第２種情報処理技術者試験，情報処理技能検定表計算１級	◎	◎																		◎	○	◎
	基礎ネットワーキング	2	4	S安信，M小清水，S占野，E桐本，D井田	MEDS	常		専門学科の情報担当教員団				◎																◎	○	◎
	応用ネットワーキング	2	5	D白濱，S日高	DS	常		専門学科の情報担当教員団				◎	◎															◎	○	◎

（出典　平成 25 年度シラバス，学校要覧及び人事係資料より作成）

観点３－１－②：　教育の目的を達成するために必要な各学科の専門科目担当教員が適切に配置されているか。

（観点に係る状況）

資料３－１－②－１に示すように，高等専門学校設置基準第６条～第９条を満たしている。本校の教育目的と教育目標の内，特に教育目的（１）「幅広い工学基礎と創造的技術開発力の修得」と教育目標（B）～（D）を達成するために，専門学科教育課程が編成されている。専門科目を担当する専任教員の約95%が博士号取得者である。また，一例として示した資料３－１－②－２のように，非常勤も含めて，各教員の専門分野，学位，技術資格及び実務経験は，担当科目との整合が取れている。

（分析結果とその根拠理由）

教育目的，教育目標を達成するために編成された教育課程の中の各科目に，適切な教員が配置されている。

資料３－１－②－１

表　各学科の専門科目担当教員数

	博士号取得（人）	教授（人）	准教授（人）	講師（人）	助教（人）
機械工学科	11	5	5	0	1
電気電子工学科	9	3	5	1	1
電子制御工学科	9	3	5	1	2
制御情報工学科	11	5	5	0	1
物質化学工学科	13	6	5	1	1

博士号取得人数／専門科目担当教員数	53／56	教授，准教授（人）	47	専門科目担当教員数	56

専門科目担当教員の教授，准教授の人数　47　＞78／2（科目担当全教員数／2）

専任の専門科目担当教員　56　＞36（高等専門学校設置基準第６条，第３項）

（出典　平成25年度学校要覧より作成）

資料３－１－②－２（その１）

専門科目の教員配置状況　電気電子工学科例示

表　準学士課程の教育目的・目標，教員，及び専門分野の適合［平成25年度電気電子工学科1年生の5年間のカリキュラム］

授業科目	単位	学年	教員氏名	教員所属学科	常勤・非常勤	学位	実務経験	専門分野，技術資格，教員免許，所属等	準学士課程の教育目標に対する関与の程度□（：主　○：従） 幅広い工学基礎と創造的技術開発力の修得 国際社会で尊敬され，信頼される国際センスの修得 地球にやさしい技術を展開できる心豊かな人間性の涵養	専門科目で養成する人物像に対する関与の程度（◎：主□○：従）
物理	2	3	油谷　英明	電気	常	博士（材料学）	無	電子材料	◎○	◎
応用物理	2	4	栗原　大武	総合	常	博士（理学）	無	代数的組合せ論	◎○	◎
数学 応用数学Ⅰ	2	4	栗原　大武	総合	常	博士（理学）	無	代数的組合せ論	◎○	◎
応用数学Ⅱ	2	5	藤永　憲佑	総合	常	博士（数理学）	有	数値解析	◎◎	◎
情報処理Ⅰ	1	1	磯崎　裕臣	電気	常	博士（工学）	無	情報ネットワーク，基本情報技術者	◎○	◎
情報処理Ⅱ	2	2	桐本　賢太	電気	常	博士（情報工学）	有	信号処理	◎○	◎
情報処理Ⅲ	2	3	桐本　賢太	電気	常	博士（情報工学）	有	信号処理	◎○	◎
数値計算法	2	4	磯崎　裕臣	電気	常	博士（工学）	無	情報ネットワーク 基本情報技術者	○◎	◎
通信工学	2	5	磯崎　裕臣	電気	常	博士（工学）	無	情報ネットワーク 基本情報技術者	◎○	◎
画像処理工学	1	5	桐本　賢太	電気	常	博士（情報工学）	有	信号処理	○◎	◎
電気電子製図	2	1	井上　昌信	機械	常	博士（工学）	無	機械力学	◎◎	◎
電気回路Ⅰ	1	1	油谷　英明	電気	常	博士（材料学）	無	電子材料	○◎	◎
電気回路Ⅱ	2	2	油谷　英明	電気	常	博士（材料学）	無	電子材料	○◎	◎
電気電子基礎演習	2	2	小城　左臣	電気	常	工学博士	無	プラズマ理工学	◎○	◎
電気回路Ⅲ	2	3	小城　左臣	電気	常	工学博士	無	プラズマ理工学	○◎	◎
電気回路Ⅳ	2	4	小城　左臣	電気	常	工学博士	無	プラズマ理工学	○◎	◎
電気磁気学Ⅰ	2	3	福澤　剛	電気	常	博士（工学）	無	プラズマ理工学	○◎	◎
電気磁気学Ⅱ	2	4	福澤　剛	電気	常	博士（工学）	無	プラズマ理工学	○◎	◎
電気電子工学演習Ⅰ	2	4	桐本　賢太	電気	常	博士（情報工学）	有	信号処理	○◎◎	◎ ○
電気電子計測工学	1	4	宮川　隆寛	電気	非	博士（工学）	無	パワーエレクトロニクス	◎◎	◎
エネルギー変換工学	1	5	前川　孝司	電気	常	博士（工学）	無	システム制御，第２種電気工事士，危険物取扱者乙種四類	◎	◎
高電圧工学	2	5	福澤　剛	電気	常	博士（工学）	無	プラズマ理工学	◎○	◎
電力システム工学	2	5	徳永　博文	電気	非	工学士	有	第１種電気主任技術者，■■株式会社　電力技術サービスグループGr長	◎○	◎ ○
電子回路Ⅰ	2	3	加島　篤	電気	常	博士（工学）	無	電子材料	◎◎	◎
電子回路Ⅱ	2	4	加島　篤	電気	常	博士（工学）	無	電子材料	◎◎	◎
電子工学	2	4	加島　篤	電気	常	博士（工学）	無	電子材料	◎◎	◎
電気電子工学演習Ⅱ	1	5	開道　力	電気	常	博士（工学）	有	電磁エネルギー変換工学	○◎	◎ ○
電気電子材料	2	5	福澤　剛	電気	常	博士（工学）	無	プラズマ理工学	◎○	◎
ビーザ工学	1	5	松本　圭司	電気	常	博士（工学）	有	制御工学，第二種情報処理技術者	◎◎	◎
アイソクタル回路Ⅰ	1	4	松本　圭司	電気	常	博士（工学）	有	制御工学，第二種情報処理技術者	○◎	◎
アイソクタル回路Ⅱ	1	5	松本　圭司	電気	常	博士（工学）	有	制御工学，第二種情報処理技術者	○◎	◎
パワーエレクトロニクス	1	5	桐本　賢太	電気	常	博士（情報工学）	有	信号処理	○◎	◎
電気機器Ⅰ	2	3	宮川　隆寛	電気	非	博士（工学）	無	パワーエレクトロニクス	◎◎	◎
電気機器Ⅱ	1	4	松本　圭司	電気	常	博士（工学）	有	制御工学 第二種情報処理技術者	◎○	◎
基礎制御工学Ⅰ	2	4	松本　圭司	電気	常	博士（工学）	有	制御工学 第二種情報処理技術者	◎○	◎
基礎制御工学Ⅱ	1	5	松本　圭司	電気	常	博士（工学）	有	制御工学 第二種情報処理技術者	◎○	◎
ロボット工学	1	5	宮川　隆寛	電気	非	博士（工学）	無	パワーエレクトロニクス	◎○	○

（出典　平成25年度シラバス，学校要覧及び人事係資料より作成）

資料３－１－②－２（その２）

専門科目の教員配置状況　電気電子工学科例示

表　準学士課程の教育目的・目標，教員，及び専門分野の適合［平成25年度電気電子工学科1年生の5年間のカリキュラム］

														幅広い工学基礎と創造的技術開発力の修得	国際社会で尊敬され，信頼される国際センスの修得	地球にやさしい技術を展開できる心豊かな人間性の涵養	
実験・実習	工学基礎実験	2	1	平島繁紀（他）	全専門	電気	常							○			◎
	電気電子基礎工学実験	2	1	梅本賢太（他）		電気	常							○			◎
	電気電子計測工学実験	3	2	福澤剛（他）		電気	常							○	○		◎
	電気電子情報工学実験	3	3	開道力（他）		電気	常							○	○		◎
	電気電子制御工学実験	3	4	松木佳司（他）		電気	常							◎	○		◎
	電気電子応用工学実験	2	5	加島篤（他）		電気	常							◎	○		◎
	電子回路製作実習	1	4	福澤剛（他）		電気	常							○	○		◎
	卒業研究	9	5			電気	常							○	○	○	◎
	学外実習	1	4											○	○	○	◎
英語	工業英語	1	5	油谷　英明		電気	常	博士（材料学）		無	電子材料				◎		◎
その他	電気法規及び施設管理	1	5	野中　義文		電気	非	工学士		有	■■株式会社　設備管理グループ長，第３種電気主任技術者			○		◎	◎
	品質管理	1	5	山本　正治		制情	非	修士		有	技術士（電気電子部門），第１種電気主任技術者			○	◎	○	○

（出典　平成25年度シラバス，学校要覧及び人事係資料より作成）

観点３－１－③：　専攻科を設置している場合には、教育の目的を達成するために必要な専攻科の授業科目担当教員が適切に配置されているか。

（観点に係る状況）

専攻科では，準学士課程で取得した専門分野の技術知識を深め，さらに，その専門性を核として他分野の工学知識も身に付け，技術と社会・環境及び技術者倫理を含めた広い視野から問題を捉え，解決することができる素養（「デザイン」能力）を涵養する工学教育を行う。そのための教育目標（A）～（F）を設定している。教育目的（１）に寄与する教育目標（A）～（D）に関わる科目は専門基礎科目と専門科目であり，教育目的（２）に寄与する（E），（F）に関わる科目は主に一般科目であり，教育目的（３）に寄与する（F）に関わる主な科目は，技術者倫理と自然地理学である。資料３－１－③－１に示すように，一般科目には，専門分野が適合する教員，専門基礎科目と専門科目には，博士号取得者，技術士等の技術資格を有する者，企業技術者・研究者及び大学研究者等を配置している。技術者倫理には，技術士の非常勤講師が配置されている。また，教員・講師の専門分野と科目の適合性も問題はない。

（分析結果とその根拠理由）

教育目的達成のため，一般科目，専門基礎科目，専門科目の科目群があり，各科目に適切な教員が配置されている。

資料３－１－③－１（その１）

専攻科科目の教員配置状況　生産工学専攻例示

専攻科課程の教育目標に対する授業科目の関与の程度および授業時間　［生産工学専攻：平成25年度1年生の2年間のカリキュラム］

幅広い工学基礎と創造的技術開発力の修得

国際社会で尊敬され，信頼される国際センスの修得

地球にやさしい技術を展開できる心豊かな人間性の涵養

	授業科目	単位	学年	必須選択	教員氏名	常勤・非常勤	学位	実務経験	専門分野，技術資格，所属等	専攻課程の教育目標に対する関与の程度□(◎：主　○：従) A ①	A ②	B ①	B ②	C ①	C ②	C ③	C ④	D ①	D ②	D ③	D ④	D ⑤	E ①	E ②	E ③	E ④	E ⑤	F ①	F ②	F ③	養成する人物像に対する関与の程度（◎：主　○：従） 全専攻共通 ①	全専攻共通 ②	全専攻共通 ③	全専攻共通 ④	専攻 ①	専攻 ②
一般科目	英語Ⅰ	2	1	必修	大谷　浩	常	修士（英語教育学）	無	第２言語修得					◎	◎	◎	◎						◎	◎				◎	◎		◎				
	英語演習Ⅰ	1	1	選択																															
	英語Ⅱ	2	2	必修										◎	◎	◎	◎						◎	◎				◎	◎		◎				
	英語演習Ⅱ	1	2	選択	山本　一夫	常	文学修士	無	英文学					◎	◎	◎	◎						◎	◎				◎	◎		◎				
	文章表現論	2	1	必修	福田　剛士	常	博士（比較社会文化）	無	日本近代文学					◎	◎	○	○						◎	◎				◎	◎		◎				
	アジア地域論	2	1	選択	荒川　裕紀	常	修士（社会学）	無	文化人類学					◎	◎	○	○						◎	◎				◎	◎		◎				
	自然地理学	2	1	選択	白神　宏	常	文学修士	無	自然地理学	○																									
専門基礎科目	代数学基礎	2	1	必修	山田　康隆	常	博士（工学）	無	実解析		◎																								
	確率・統計	2	2	必修						◎	◎	○	○																						
	物理数学	2	2	必修	浦谷　圭朗	常	博士（材料学）	無	電子材料	◎	◎																								
	エネルギー論	2	1	必修	菅内　眞人	常	博士（工学）	無	計測工学	◎	◎																								
	現代物理学	2	2	必修	中村　裕之	常	博士（工学）	有	原子核物理，第１種放射機取扱主任者	◎	◎																								
	技術者倫理	2	1	必修	山本　正治	非	修士	有	技術士（電気電子部門），第１種電気主任技術者	◎	○														○	◎					◎				
	現代技術論	1	2	必修	滝本　隆 加島　篤 井田　利浩 脇山　正博 山田　憲二	常 常 常 常 非	博士（工学） 博士（工学） 博士（工学） 博士（工学） 工学博士	無 無 有 有 有	システム制御 電子材料 ニューラルネットワーク 知識科学 高分子化学		○								◎	◎												○						
	複合工学実験	1	1	必修	堀　健（他）	常		有				◎	◎	◎	◎			◎						◎							◎	◎			◎	◎
	固体力学Ⅰ	1	1	必修	福　健	常	博士（工学）	有	材料力学		○	◎	○					◎	○											◎					
	電気回路学Ⅰ	1	1	必修	関道　万	常	博士（工学）	有	電磁エネルギー変換工学		○	◎	◎					◎	◎											◎					
	制御工学概論	1	2	選択	浜松　正	常	博士（工学）	有	振動・制御		○	◎	◎					◎	◎											◎					
	情報理論Ⅰ	1	2	必修	井田　和浩	常	博士（工学）	有	ニューラルネットワーク		○	◎	○					◎	○											◎					
	工業化学	1	1	必修	小畑　賢次	常	博士（工学）	無	電気化学 品質管理検定２級		◎							◎												◎					
	材料科学	1	2	必修	山本　和弥	常	博士（工学）	無	高分子材料化学，危険物取扱者甲種			◎	○					◎												◎					

（出典　平成25年度シラバス，学校要覧及び人事係資料より作成）

資料３－１－③－１（その２）

専攻科科目の教員配置状況　生産工学専攻例示

専攻科課程の教育目標に対する授業科目の関与の程度および授業時間　［生産工学専攻：平成25年度1年生の2年間のカリキュラム］

幅広い工学基礎と創造的技術開発力の修得

国際社会で尊敬され，信頼される国際センスの修得

地球にやさしい技術を展開できる心豊かな人間性の涵養

	授業科目	単位	学年	必須選択	教員氏名	常勤・非常勤	学位	実務経験	専門分野，技術資格，所属等	専攻科課程の教育目標に対する関与の程度□(◎：主　○：従) A ①	A ②	B ①	B ②	C ①	C ②	C ③	C ④	D ①	D ②	D ③	D ④	D ⑤	E ①	E ②	E ③	E ④	E ⑤	F ①	F ②	F ③	養成する人物像に対する関与の程度（◎：主　○：従） 全専攻共通 ①	全専攻共通 ②	全専攻共通 ③	全専攻共通 ④	専攻 ①	専攻 ②
専門基礎科目	固体力学 II	2	1	選択	内田　武	常	博士（工学）	無	材料強度学	○	○	◎	○					○													○			◎	
	電気回路学 II	2	1	選択	開道　力	常	博士（工学）	有	電磁エネルギー変換工学	◎	○	◎	○					◎													○			◎	
	制御工学特論	2	2	選択	浜松　宏	常	博士（工学）	有	振動・制御	○	○	○	○			○		◎														◎			
	情報理論 II	2	2	選択	秋本　尚明	常	博士（工学）	有	ニューロ・ファジィシステム	○	○	◎	○					○														◎			
	物理化学特論	2	1	選択	上江洲　一也	非	博士（工学）	有	化学工学，分離精製工学	◎	○	◎	○					○														◎			
	材料科学特論	2	2	選択	松嶋　茂憲	常	工学博士	無	材料科学	○	○	◎	○					○														◎			
	量子化学特論 I	2	2	選択																					○										
	専攻科特論 II（実践メカトロニクス工学）	2	共通	選択	企業技術者	非	有　企業技術者			○				○	◎										○					○					
	専攻科特論 III（実践メカトロニクス工学）	2	共通	選択	企業技術者	非						○			◎										○					○					
	専攻科特論 IV（未来環境・エネルギー技術特論）	2	共通	選択	産学官の技術者，研究者	非				○				○	◎										○					○					
	専攻科特論 V（知的財産概論）	1	共通	選択	企業技術者，大学研究者	非	有　企業技術者，大学研究者			○				○	◎										○					○					
	専攻科特論 VI	2	共通	選択	大学の外国人研究者	非				○				○	◎										○					○					
	専攻科特論 VII（英語による専門授業）	1	共通	選択	大学の外国人研究者	非	博士		大学の外国人研究者	○				○	◎										○					○					
専門科目	生産工学特別研究 I	4	1	必修										○	◎			◎	◎						○					○			◎	◎	
	生産工学輪講 I	2	1	必修												○	◎			◎	◎				○					○			◎	◎	
	生産工学特別研究 II	6	2	必修										○	◎			◎	◎						○					○			◎	◎	
	生産工学輪講 II	2	2	必修												○	◎			◎	◎				○					○			◎	◎	
	生産加工学	2	1	選択	渡辺　純通	常	博士（工学）	無	生産工学	◎	○	◎	○												○					○					
	燃焼工学	2	2	選択	平島　繁紀	常	博士（工学）	有	燃焼工学，職業訓練指導員免許状（自動車整備）	◎	○	◎	○												○					○					
	流れ学特論	2	2	選択	田山　博愛	常	博士（工学）	無	流体工学	◎	○	◎	○					○							○					○			◎	◎	
	材料強度学特論	2	2	選択	内田　武	常	博士（工学）	無	材料強度学	◎	○	◎	○					○							○					○			◎	◎	
	熱流動工学	2	1	選択	小清水　孝夫	常	博士（工学）	無	熱工学	◎	○	◎	○					○							○					○			◎	◎	
	生産設計工学特論	2	1	選択	入江　司	常	博士（工学）	有	設計工学	◎	○	◎	○					○							○					○			◎	◎	
	電磁気特論	2	2	選択																					○					○					
	数値プログラム特論	2	2	選択	小城　左匡	常	工学博士	無	プラズマ理工学	○		◎	○												○					○			◎	◎	
	電子デバイス特論	2	2	選択																					○					○					
	電気電子回路特論	2	2	選択	加治　篤	常	博士（工学）	無	電子材料	○		◎	○												○					○			◎	◎	
	メカトロニクス特論	2	2	選択																					○					○					
	特別実習	2	2	選択	開道　力	常	博士（工学）	有	電磁エネルギー変換工学	◎	○	◎	○					○							○					○			◎	◎	
		2	1	選択																					○					○					

専門基礎科目，専門科目の座学，専攻科特論35科目で実務経験を有する講師の授業16

（出典　平成25年度シラバス，学校要覧及び人事係資料より作成）

観点３－１－④：　学校の目的に応じて、教員組織の活動をより活発化するための適切な措置が講じられているか。

（観点に係る状況）

専門分野，経歴，年齢等の諸条件を満たす優れた教員を確保するため，広く公募により人材を求め採用している。その結果，年齢構成は均衡がとれている（資料３－１－④－１）。また，専門学科では，前回の認証評価受審時と比べて，実務経験を有する教員は56人中17人から56人中20人に，学位取得者は47人から53人に改善されている（資料３－１－②－１）。独立行政法人国立高等専門学校機構（以下，高専機構）の中期目標に示された優れた教員確保の数値目標も超えている（資料３－１－④－２）。男女共同参画に対しても積極的に取り組んでおり，平成24年度に女性教員２名が退職したが，平成25年度から女性新任教員２名を公募により採用した。

専門性の深化や学位取得の支援として，内地研究員制度があり，平成25年度は電気電子工学科教員１名を他大学に派遣している。（資料Ａ－１－①－20）

教員の顕彰については，機構表彰，学内表彰，永年勤続表彰を行っている。高専機構の教員顕彰制度により，毎年１名を高専機構の教員顕彰に推薦する。さらに，永年勤続表彰のほかに，学内において特に顕著な功績をあげた者に対し，功労者表彰規則に基づき毎年表彰を行っている。（資料３－１－④－３及び訪問時閲覧資料）

（分析結果とその根拠理由）

教員組織の活動を活発にするために，公募による適切な教員の確保，女性教員増加への努力，内地研究員制度，教員顕彰等が実施され，年齢構成も適切になっている。

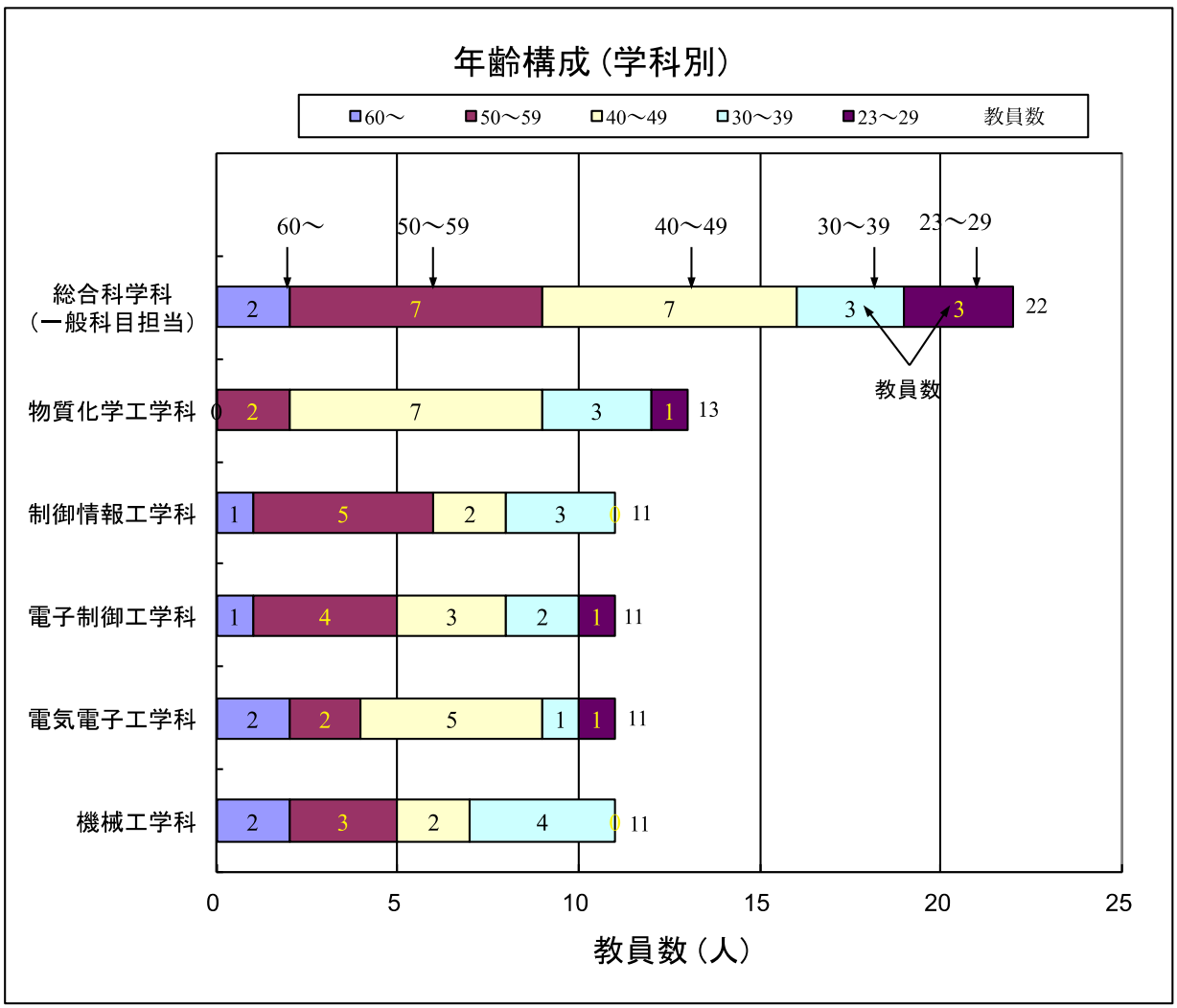
資料３－１－④－１

専任教員の構成（学科別年齢構成）

学科別年齢構成

学科＼年齢	60～		50～59		40～49		30～39		23～29		教員数	
機械工学科	2		3		2		4		0		11	
電気電子工学科	2		2		5		1		1		11	
電子制御工学科	1		4		3	1	2		1		11	1
制御情報工学科	1		5	1	2		3		0		11	1
物質化学工学科	0		2		7		3		1		13	
総合科学科（一般科目担当）	2		7		7	1	3	1	3	1	22	3
全教員	8		23	1	26	2	16	1	6	1	79	5

女性内数



（出典　北九州工業高等専門学校ウェブサイト内教育情報より）

資料３－１－④－２

高専機構中期計画　教員の確保に関する項目　抜粋

（３）優れた教員の確保

① 多様な背景を持つ教員組織とするため、中期目標の期間中に、公募制の導入などにより、教授及び准教授については、採用された学校以外の高等専門学校や大学、高等学校、民間企業、研究機関などにおいて過去に勤務した経験を持つ者、又は１年以上の長期にわたって海外で研究や経済協力に従事した経験を持つ者が、全体として 60 %以上となるようする。

② 教員の力量を高め、学校全体の教育力を向上させるために、採用された学校以外の高等専門学校などに１年以上の長期にわたって勤務し、またもとの勤務校に戻ることのできる人事制度や、高等学校、大学、企業などとの任期を付した人事交流制度等について検討を進め、これらの制度を導入する。

③ 専門科目（理系の一般科目を含む。以下同じ。）については、博士の学位を持つ者や技術士等の職業上の高度の資格を持つ者、理系以外の一般科目については、修士以上の学位を持つ者や民間企業等における経験を通して高度な実務能力を持つ者など優れた教育力を有する者を採用する。

中期目標の期間中に、この要件に合致する者を専門科目担当の教員については全体として 70 %以上とし、理系以外の一般科目担当の教員については全体として 80 %以上となるようにする。

④ 中期目標の期間中に、全ての教員が参加できるようにファカルティ・ディベロップメントなどの教員の能力向上を目的とした研修を実施する。また、特に一般科目や生活指導などに関する研修のため、地元教育委員会等と連携し、高等学校の教員を対象とする研修等に派遣する。

⑤ 教育活動や生活指導などにおいて顕著な功績が認められる教員や教員グループを毎年度表彰する。

⑥ 文部科学省の制度や外部資金を活用して、中期目標の期間中に、300 名の教員に長期短期を問わず国内外の大学等で研究・研修する機会を設けるとともに、教員の国際学会への参加を促進する。

（出典　高専機構中期計画より）

資料３－１－④－３

北九州工業高等専門学校功労者表彰規則

（趣旨）

第１条　この規則は、北九州工業高等専門学校（以下「本校」という。）の教育、学校運営及び社会貢献に関して、特に顕著な功績を挙げた者を「北九州工業高等専門学校功労者」（以下「功労者」という。）として表彰するため定めるものである。

（表彰を受ける者）

第２条　　功労者の表彰は、次に掲げる各号の一に該当する本校教職員について行う。

（１）講義、演習、実験・実習及びクラス運営等教育面において、特に功績のあった者

（２）課外活動等の監督・指導を通じて学生への教育に特に功績のあった者

（３）社会貢献又は研究業績により、特に本校の名誉を高めた者

（４）本校の学校運営に特に功績のあった者

（５）その他前各号に準ずると認められる者

（推薦の方法）

第３条　　推薦者は、別紙様式により候補者を校長あて推薦するものとする。

（表彰を受ける者の決定）

第４条　　表彰を受ける者は、主事会議の選考結果に基づき校長が決定する。

以下略

（出典　北九州工業高等専門学校功労者表彰規則（一部抜粋））

観点３－２－①：　全教員の教育活動に対して、学校による定期的な評価が行われているか。また、その結果、把握された事項に対して教員組織の見直し等、適切な取組がなされているか。

（観点に係る状況）

毎年教員は，教育・研究・学校運営・地域社会への貢献度を自己評価し，その結果を「教育研究重点化促進経費調査票」に記載し提出する。また，併せて教員による相互評価も実施している（訪問時閲覧資料）。さらに，教員相互の推薦による教員顕彰の制度がある（資料３－１－④－３）。教員の活動全般の評価は，毎年実施される校長による個人面談と予算の重点配分のための審査資料及び半期ごとの勤務評定に基づいて実施される。校長個人面談では，「教育研究重点化促進経費調査票」も活用し，教員個人・各学科全体に対し，校長自ら指導を行い，予算の重点配分に校長の意見を反映させる（資料３－２－①－１，２）。学科間の教員異動は平成15年度が最新であり，現在，教員配置に問題は生じていない。

授業アンケートは，教員評価ではなく，授業改善を目的としてFD活動の１つとして行っている。

（分析結果とその根拠理由）

教員の評価は，教育活動，研究活動，管理運営と多岐にわたって評価し，適切に行われている。さらに，校長自ら全教員と面談し，問題の把握・改善が行える体制になっている。

資料３－２－①－１

校長裁量経費等の目的及び留意点について

① 教育研究重点化促進経費（■■■千円）
　教育、研究、運営等への貢献度について、「調査票」に基づき、ポイント制により配分する。
　「配分方法及び配点基準等」及び「調査票」は、別添のとおりです。「調査表」の作成については、記入例を参考に関係箇所に記入していただくとともに、参考資料が必要な◎が付いている項目に記入されている場合は、必ず参考資料を添付してください。参考資料等でメールでの提出が無理な場合は御持参願います。
　調査表を提出されない場合は、その旨メールで必ず御連絡願います。

・ファイル　「教育研究重点化促進経費配分方法及び配点基準」
　　「教育研究重点化促進経費調査表」

② 教育・研究プロジェクト経費（■■■千円）
　本校の理念・目標を達成するために校内共同で行う教育研究プロジェクトで、基盤的、戦略的に重要な事業に対して、全校的な視点から校長の判断により必要な経費を配分する。

・ファイル　「教育研究プロジェクト経費要求書」

③ 若手教員教育・研究プロジェクト経費（■■■千円）
　平成２４年４月１日現在で３７歳以下の者の中から、教育研究の助成を目的として校長の判断により必要な経費を配分する。

・ファイル　②のファイルと同じ

④ 学生実験機器更新経費（■■■千円）
　学生実験機器（学生の実験実習の基盤をなす機器であること）の更新について、校長の判断により必要な経費を配分する。
　なお、更新計画がある場合は、学科長経由で提出願います。（学科長の方は、学科分を取りまとめて、要求してください。）

・ファイル　「学生実験機器更新計画書」

（出典　総務課資料より）

資料３－２－①－２

平成２４年　７月１３日

教　員　各　位

校長　塚　本　　寛

平成２４年度校長個人面談の実施について

このことについて、各先生方の御意見を伺い、学校運営、教育研究の推進、学生指導、予算配分等の参考にしたいと思います。
つきましては、面談に使用するため、下記のとおり資料の作成等よろしくお願いいたします。

記

1．提出資料
○平成２５年度「専攻科の教育の実施状況等の審査」にかかる様式第５号・・・２４－Ａ－１、２
■■■■■■■■■
○「教員の教育業績等評価」（高専機構教員顕彰様式）・・・２４－Ｂ－１～３
■■■■■■■■■
○校長裁量経費等の目的及び留意点について他・・・・・２４－Ｃ－１～５
■■■■■■■■■
・④学生実験機器更新経費は学科長が取りまとめて要求となっていますので学科長の個人面談時にヒアリングを行います。
○個人面談日程調整表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２４－Ｄ
■■■■■■■■■

2．作成期限　７月３１日（火）
　提出は、メールで総務課課長補佐総務担当■■■■■■宛送付ください。
　以下略

（出典　総務課資料より）

観点３－２－②：　教員の採用や昇格等に関する基準や規定が明確に定められ、適切に運用がなされているか。

（観点に係る状況）

教員の採用や昇格等は，当該学科の学科長が発議し，人事委員会を経て，教員候補者推薦委員会，資格審査委員会を経て，校長は，資格審査結果に基づき決定し，人事委員会に報告する。これらは，高等専門学校設置基準に則った教員選考基準（資料３－２－②－１）により，教員選考規則（資料３－２－②－２），人事委員会規則（資料３－２－②－３），教員候補者推薦委員会規則（資料３－２－②－４），資格審査委員会規則（資料３－２－②－５）などの規則に準じて適切な運用がなされている。（委員会議事録は訪問時閲覧資料）

このように，その候補者について，教員候補者推薦委員会及び資格審査委員会において，適否や本校の教育理念に適うかどうかが二重に審査されるため，公正さと適合性が十分に保たれている。

教育上の能力に関する評価は，高等専門学校の設置基準に則った評価のほかに，新規採用者については，面接による判断，内部昇格や配置換えの時は，それまでの教育（教科指導，校務分掌，課外活動等）に対する評価で判断を行う（教員候補者推薦委員会の推薦書，資格審査委員会の推薦書は，訪問時閲覧資料）。

非常勤教員の採用については，非常勤講師任用に関する内規（訪問時閲覧資料）に従い，教務委員会，専攻科委員会の付託を受けて人事委員会が資格審査を行う。

（分析結果とその根拠理由）

教員の採用や昇格及び配置換え等については，教員選考基準，教員選考規則，人事委員会規則，教員候補者推薦委員会規則，資格審査委員会規則が整備され，これらの規定に従った適切な運用がなされている。

資料３－２－②－１

○北九州工業高等専門学校教員選考基準　抜粋

（趣旨）

第１条　北九州工業高等専門学校（以下「本校」という。）の教員選考は、この基準に基づき候補者の人格、教育業績、指導能力、研究業績、専攻分野における知識及び経験並びに学会及び社会における活動等について行う。

（教授の資格）

第２条　本校の教授となる資格を有する者は、次の各号の一に該当し、教育上の能力を有する者とする。

（１）　博士の学位（外国において授与されたこれに相当する学位を含む。）を有する者

（２）大学（短期大学を含む。以下同じ。）又は高等専門学校において教授、准教授又は専任の講師の経歴（外国におけるこれらに相当する教員としての経歴を含む。）　のある者

（３）学校、研究所、試験所、調査所等に在職し、教育若しくは研究に関する実績を有する者又は工場その他の事業所に在職し、技術に関する業務についての実績を有する者

（４）特定の分野について、特に優れた知識及び経験を有すると認められる者

（５）前各号に掲げる者と同等以上の能力を有すると校長が認めた者

（准教授の資格）

第３条　本校の准教授となる資格を有する者は、次の各号の一に該当し、教育上の能力を有する者とする。

（１）前条各号のいずれかに該当する者

（２）大学又は高等専門学校において助手又はこれに準ずる職員としての経歴（外国におけるこれらに相当する教員としての経歴を含む。）のある者

（３）修士の学位（外国において授与されたこれに相当する学位を含む。）を有する者

（４）特定の分野について、特に優れた知識及び経験を有すると認められる者

（５）前各号に掲げる者と同等以上の能力を有すると校長が認めた者

（講師の資格）

第４条　本校の講師となる資格を有する者は、次の各号の一に該当する者とする。

（１）第２条又は前条に規定する教授又は准教授となることのできる者

（２）高等学校（中等教育学校の後期課程を含む。）において教諭の経歴のある者で、かつ、高等専門学校における教育を担当するにふさわしい教育上の能力を有すると　認められる者

（３）前各号に掲げる者と同等以上の能力を有すると校長が認めた者

（助教の資格）

第５条　本校の助教となる資格を有する者は、次の各号の一に該当する者とする。

（１）第２条各号又は第３条各号のいずれかに該当する者。

（２）修士の学位（医学を履修する課程、歯学を履修する課程、薬学を履修する課程のうち臨床に係る実践的な能力を培うことを主たる目的とするもの又は獣医学を履修する課程を修了した者については、学士の学位）又は学位規則第５条の２に規定する専門職学位（外国において授与されたこれらに相当する学位を含む。）を有する者。

（３）特定の分野について、知識及び経験を有すると認められる者。

（助手の資格）

第６条　本校の助手となる資格を有する者は、次の各号の一に該当する者とする。

（１）学士の学位（外国において授与されたこれに相当する学位を含む。）又は準学士の称号（外国において授与されたこれに相当する学位を含む。）を有する者

（２）前各号に掲げる者と同等以上の能力を有すると校長が認めた者

（出典　北九州工業高等専門学校教員選考基準より）

資料３－２－②－２

○北九州工業高等専門学校教員選考規則　抜粋

（趣旨）

第１条　北九州工業高等専門学校（以下「本校」という。）の教員の選考は、独立行政法人国立高等専門学校機構教職員就業規則（以下「教職員就業規則」という。）第７条、第１２条及び高等専門学校設置基準（昭和３８年文部省令第２３号）によるもののほか、この規則の定めるところによる。

（定義）

第２条　この規則において「教員」とは、教職員就業規則第３条第２号に掲げるものをいう。

２　この規則において「選考」とは、人員枠増による採用又は退職等による欠員補充のため、教員を採用、昇任又は配置換する際に、教員候補者について本校選考基準に基づき、本校教員として適格者であるかどうかを判定し、最終候補者を決定することをいう。

（公募の原則）

第３条　前条第２項による選考は、原則として公募により行うものとする。ただし、同条同項に規定する昇任及び配置換の場合はこの限りではない。

（選考の原則）

第４条　教員の選考においては、男女共同参画社会基本法（平成１１年法律第７８号）の精神を尊重するとともに、国籍、障害等による差別を排除し、公平な選考を行わなければならない。

（選考の発議）

第５条　教員の選考は、校長が行う。

２　学科長及び総合科学科長は、自己の所属する学科の教員が定年で退職する場合は退職予定日の６か月前までに、又は転出等で欠員が生じる場合は速やかに、教員選考発議書（別紙様式）により教員の選考を校長に申し出るものとする。

３　前項の申出があった場合、又は校長が特に必要と認めた場合には、校長は速やかに人事委員会に選考の発議を行うものとする。

（教員候補者推薦委員会）

第６条　校長は、人事委員会で選考の発議があったときは、速やかに教員候補者推薦委員会を設置し、候補者の推薦を付託する。

２　教員候補者推薦委員会は、原則として複数の候補者の順位を付して、校長に推薦する。

３　第２条第２項に規定する配置換の選考においては、教員候補者推薦委員会を設置しないことができる。この場合の推薦方法は、校長が別に定める。

４　教員候補者推薦委員会に関し必要な事項は、別に定める。

（資格審査委員会）

第７条　校長は、教員候補者推薦委員会から候補者の推薦があったときは、速やかに資格審査委員会を設置し、候補者の資格審査を付託する。

２　資格審査委員会は、推薦された候補者について資格審査を行い、審査結果及び審査経過を校長に報告する。

３　資格審査委員会に関し必要な事項は、別に定める。

（候補者の決定）

第８条　校長は、前条第２項の審査結果に基づき、最終候補者１名を決定し、人事委員会に報告する。

＝＝以下略＝＝

（出典　北九州工業高等専門学校教員選考規則より）

資料３－２－②－３

○北九州工業高等専門学校人事委員会規則（抜粋）

（設置）

第１条　北九州工業高等専門学校に、北九州工業高等専門学校人事委員会（以下「委員会」という。）を置く。

（目的）

第２条　委員会は、次の各号に掲げる事項を審議することを目的とする。

（１）教員の選考に関する事項

（２）教員の公募に関する事項

（３）教員の人員枠に関する事項

（４）教員の任用計画に関する事項

（５）客員教授及び客員准教授の選考に関する事項

（６）営利企業役員兼業に関する事項

（７）その他教員の人事に関する重要事項

＝＝以下略＝＝

（出典　北九州工業高等専門学校人事委員会規則より）

資料３－２－②－４

○北九州工業高等専門学校教員候補者推薦委員会規則　抜粋

（目的）

第１条　北九州工業高等専門学校教員選考規則第５条第４項に基づき、北九州工業高等専門学校教員候補者推薦委員会（以下「委員会」という。）に関し必要な事項を定める。

（任務）

第２条　委員会は、人事委員会で審議された公募条件に基づき教員候補者の公募を行い、応募者の中から複数の教員候補者を選考し、教員候補者推薦書（別紙様式）により順位を付して校長に推薦する。

（組織）

第３条　委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

（１）学生主事、寮務主事、専攻科主事、総務主事又は学術情報センター長のうちから校長が指名した者　１名

（２）教員選考を発議した学科長又は総合科学科長（文科系又は理科系）

（３）教員選考を発議した学科又は総合科学科（文科系又は理科系）の教授

（出典　北九州工業高等専門学校教員候補者推薦委員会規則より）

資料３－２－②－５

○北九州工業高等専門学校資格審査委員会規則　抜粋

（目的）

第１条　北九州工業高等専門学校（以下「本校」という。）教員選考規則第６条第３項に基づき、本校資格審査委員会（以下「委員会」という。）に関し必要な事項を定める。

（任務）

第２条　委員会は、校長の委託を受けて、教員候補者推薦委員会から推薦された候補者について、本校教員選考基準に基づき資格審査を行い、資格審査結果報告書（別紙様式）により審査結果並びに審査経過を校長に報告する。

（組織）

第３条　委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

（１）教務主事

（２）教員選考を発議した学科長又は総合科学科長（文科系又は理科系）

（３）教員選考を発議した学科又は総合科学科以外の教授のうちから校長が指名した者　　１名

（４）選考される教員の専門分野を熟知する本校の教授又は本校外の有識者のうちから　　校長が指名した者　若干名

（出典　北九州工業高等専門学校資格審査委員会規則より）

観点３－３－①：　学校における教育活動を展開するに必要な事務職員、技術職員等の教育支援者等が適切に配置されているか。

（観点に係る状況）

教育活動を支援するための様々な業務は，総務課・学生課に所属する事務職員と教育研究支援室に所属する技術職員が，適切に分担し行っている。業務内容及び分担については，規則に明記している（資料３－３－①－１，２）。総務課24名，学生課20名（内訳は，資料３－３－①－３）とすることにより，教育活動に対し十分な支援がなされ，円滑な教育活動に貢献している。

図書館には，職員２名（内１名は司書）のほか，非常勤の事務補佐員（専攻科学生）６名が業務に従事し，より良い学習環境の整備を行っている。

保健室に看護師１名，学生相談室にカウンセラー３名，相談室サポートルームに学生支援介助員２名を配置し，主に学生の心身の健康管理に貢献している。これらの詳細は基準７で述べる。

教育研究支援室は，生産加工技術グループ６名と機器分析技術グループ９名からなる。学生の実験・実習・卒業研究の支援だけでなく，教育・研究用装置等の保守・開発等の支援，工作関連の機器・装置の保守・管理，教員研究の補助，毒物・劇物及び危険物の処理・管理等を行っている（資料３－３－①－４）。また，自ら科学研究費補助金を取得して研究活動を行うなど，有能な人材が配置されている。

電気電子工学科所属の助手１名は，本科５年生までの学生実験の補助を行っている。

専攻科学生が本科生の授業・実験・演習の補助を行うティーチングアシスタント制を採用しており，本科生，専攻科生お互いに教育の効果が上がっている。

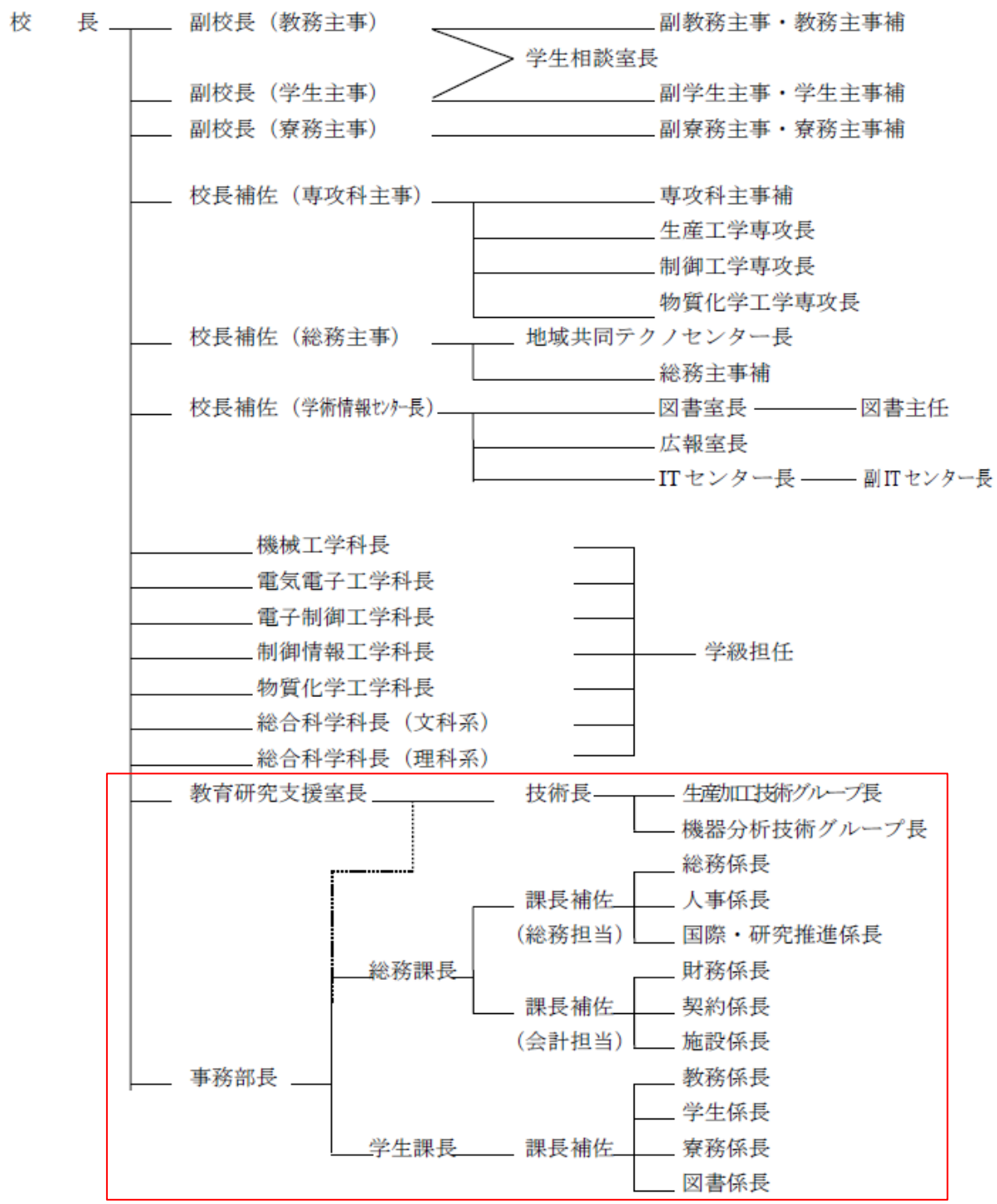
支援が円滑に行われるように常に支援組織の見直しを行っており，平成23年度から研究協力担当専門職員１名，IT技術職員２名を配置した。平成25年度には，研究協力を推進するため，国際・研究推進係を配置した。

（分析結果とその根拠理由）

本校には，教育活動を円滑に展開するために必要な各課，各係があり，各部署には，技量と技術を有する事務職員・技術職員が，業務に見合う適切な人数で配置されている。また，事務組織の見直し・改善を常に行っている。

資料３－３－①－１

事務組織図



（出典　平成 25 年度学生便覧より）

資料３－３－①－２（その１）

教育活動にかかわる事務分掌

○北九州工業高等専門学校事務及び教育研究支援室組織細則　抜粋

（目的）

第１条　この細則は、北九州工業高等専門学校事務及び教育研究支援室組織規則第１７条の規定に基づき、事務部の課に置く課長補佐、専門職員及び係並びに教育研究支援室（以下「支援室」という。）に置く技術専門員、技術専門職員及び技術グループに関し、必要な事項を定めることを目的とする。

（総務課の課長補佐、専門職員及び係）

第２条　課長補佐（総務担当）においては、次の事務をつかさどる。

（１）総務事務に関し、総括し、及び連絡調整すること。

（２）情報公開に関すること。

（３）個人情報に関すること。

（中略）

（１２）その他総務課の所掌する総務事務のうち、高度の専門的知識又は経験を必要とする事項に関すること。

２　課長補佐（会計担当）においては、次の事務をつかさどる。

（１）会計事務に関し、総括し、及び連絡調整すること。

（２）予算及び決算の総括に関すること。

（３）概算要求に関すること。

（中略）

（１１）その他総務課の所掌する会計事務のうち、高度の専門的知識又は経験を必要とする事項に関すること。

３　総務係においては、次の事務をつかさどる。

（１）学校の事務に関し、総括し、及び連絡調整すること。

（２）儀式その他の行事に関すること。

（３）学則その他諸規則の制定及び改廃に関すること。

（中略）

（１８）前各号に掲げるもののほか、他の課及び係の所掌に属しない事務を処理すること。

４　人事係においては、次の事務をつかさどる。

（１）就業規則・労使協定に関すること。

（２）職員の任免、分限、懲戒及び服務等に関すること。

（３）職員の給与に関すること。

（中略）

（１２）その他人事に関する事務を処理すること。

５　国際・研究推進係においては、次の事務をつかさどる。

（１）研究協力の事務に関し、連絡調整すること。

（２）研究協力及び技術相談に関すること。

（３）生涯学習に関すること。

（４）内地及び在外研究員等に関すること。

（中略）

（１１）その他教育・研究支援及び地域連携に関すること。

（１２）国際交流に関すること（海外との交流及び総合調整）。

６　財務係においては、次の事務をつかさどる。

（１）予算に関すること。

（２）会計の監査に関すること。

（３）債権の管理に関すること。

（中略）

（１２）その他財務に関する事務を処理すること。

７　契約係においては、次の事務をつかさどる。

（１）物品の管理に関すること。

（２）物品及び役務等の契約に関すること。

（３）物品及び役務等の支払い手続きに関すること。

（４）自動車の安全管理運行に関すること。

（５）資産に関すること。

８　施設係においては、次の事務をつかさどる。

（１）宿舎の管理に関すること。

（２）土地、建物及び工作物の維持保全に関すること。
（３）工事及び役務等の契約に関すること。
（４）工事及び役務等の支払い手続きに関すること。
（５）その他契約、施設に関すること。
（後略）

（出典　北九州工業高等専門学校事務及び教育研究支援室組織細則より）

資料３－３－①－２（その２）

教育活動にかかわる事務分掌

○北九州工業高等専門学校事務及び教育研究支援室組織細則　抜粋

（目的）

第１条　この細則は、北九州工業高等専門学校事務及び教育研究支援室組織規則第１７条の規定に基づき、事務部の課に置く課長補佐、専門職員及び係並びに教育研究支援室（以下「支援室」という。）に置く技術専門員、技術専門職員及び技術グループに関し、必要な事項を定めることを目的とする。

（中略）

（学生課の課長補佐及び係）

第３条　学生課の課長補佐においては、次の事務をつかさどる。
（１）学生課の事務に関し、総括し、及び連絡調整すること。
（２）入学者の選抜に関すること。
（３）教育課程の編成及び授業に関すること。
（中略）
（９）学生関係諸規則の作成に関すること。

２　教務係においては、次の事務をつかさどる。
（１）学生課の事務に関し、連絡調整すること。
（２）学生の修学指導に関すること。
（３）教育課程の編成及び授業に関すること。
（中略）
（１０）その他教務に関する事務を処理すること。
（１１）学生課の所掌事務のうち、他係の所掌に属しない事務を処理すること。

３　学生係においては、次の事務をつかさどる。
（１）学生の課外教育に関すること。
（２）学生及び学生団体の指導監督に関すること。
（３）学生に対する奨学金並びに入学料及び授業料等の減免及び猶予並びに経済援助に関すること。
（中略）
（１０）その他学生の厚生補導に関すること。
（１１）志遠の発行に関すること。

４　寮務係においては、次の事務をつかさどる。
（１）学生寮の管理運営に関すること。
（２）学生の入・退寮に関すること。
（３）寮生の指導監督に関すること。
（４）外国人留学生に関すること（短期留学生を含む。）。

５　図書係においては、次の事務をつかさどる。
（１）図書館資料に関すること。
（２）図書館利用に関すること。
（３）研究報告に関すること。
（後略）

（出典　北九州工業高等専門学校事務及び教育研究支援室組織細則より）

資料３－３－①－３

事務部組織配置表

総務課		学生課		教育研究支援室		
係等	人数	係等	人数	係等	人数	
課長	1	課長	1	生産加工技術G	6	
課長補佐	2	課長補佐	1	機器分析技術G	9	
総務係	4	教務係	5			
人事係	4	寮務係	2			
国際･研究推進係	2	学生係	3			
財務係	5	看護師	1			
契約係	4	カウンセラー	3			
施設係	2	学生支援介助員	2			
		図書係(司書)	2(1)			計
小計	24	小計	20	小計	15	59人

（非常勤含む，事務部長は外数）

（出典　人事係資料）

資料３－３－①－４

○北九州工業高等専門学校事務及び教育研究支援室組織細則　抜粋

（目的）

第１条　この細則は、北九州工業高等専門学校事務及び教育研究支援室組織規則第１７条の規定に基づき、事務部の課に置く課長補佐、専門職員及び係並びに教育研究支援室（以下「支援室」という。）に置く技術専門員、技術専門職員及び技術グループに関し、必要な事項を定めることを目的とする。

（中略）

（教育研究支援室）

第４条　技術専門員は、次の事務をつかさどる。

（１）教育研究の支援のための技術開発及び技術業務に係る高度な専門的事項に関すること。

（２）技術の継承及び保存に係る高度な専門的事項に関すること。

（３）高度な専門的技術研修に関する企画及び連絡調整に関すること。

（４）実験実習等に係る技術指導並びに第１工場・第２工場又は教育研究支援室の事務を総括すること。

（５）その他極めて高度の専門的知識又は技術を必要とする特定の分野の事務処理に関すること。

２　技術専門職員は、次の事務をつかさどる。

（１）教育研究の支援のための技術開発及び技術業務に係る専門的事項に関すること。

（２）技術の継承及び保存に係る専門的事項に関すること。

（３）技術の研修及び調査研究に係る専門的事項に関すること。

（４）実験実習等に係る学生の技術指導並びに教育研究支援室の事務処理に関すること。

（５）その他高度の専門的知識又は技術を必要とする特定の分野の業務に関すること。

３　技術グループにおいては、次の事務をつかさどる。

（１）実験・実習補助及び技術指導に関すること。

（２）教員の研究補助に関すること。

（３）卒業研究の補助に関すること。

（４）教材及び実験装置作製に関すること。

（中略）

（１３）支援室の事務に関すること。

（１４）事務情報ネットワークの維持・管理及び運営に関すること（事務情報に係る連絡等に関することを除く。）。

（後略）

（出典　北九州工業高等専門学校事務及び教育研究支援室組織細則より）

（２）優れた点及び改善を要する点

（優れた点）

・ 計画的な採用により，教員の専門性や年齢構成等は，バランスが取れている。
・ 専門科目担当教員の博士号取得率は約95%。
・ 教育研究重点化促進経費，教育研究プロジェクト経費など，教育・研究に対する支援体制が整備されている。
・校長が全ての教員と個別に面談を行い，教員一人一人の状況を把握した上で，評価・支援が運用されている。
・教員組織の活発化のため，各種顕彰を行っている。
・教育研究支援室を設置し，教育研究活動の技術的支援体制ができている。また，活用されている。
・支援組織にも専門性の高い人材を採用している。
・女性教員の増加に努めており，平成25年度に女性教員２名を新規採用した。

（改善を要する点）

該当なし

（３）基準３の自己評価の概要

教員の配置については，設置基準を満たしている。また，計画的な採用により，本校の教育活動を展開するために必要な教員が確保されている。その結果，教員の専門性，資格，経歴，年齢構成等に関して，均衡がとれている。また，平成25年度に女性教員２名を新規採用し，女性教員の増加のための努力を続けている。専任教員の専門性を補うために，非常勤教員や特任教員も十分な員数を確保しており，活発に教育・研究活動を展開できる状況が保たれている。以上より，本校の教育目的を達成するために適切な教員組織の整備に常に取り組んでいる。また，教育や研究の業績に報いる研究費の重点配分や教員顕彰制度，教員がそれぞれの専門性を高めるための支援体制なども整えられており，教員組織の活動をより活発化するための措置も講じられている。

教員人事に関しては，採用や昇格等に関する諸規則が十分に整えられ，それらに従った運用がなされており，本校の教育目的を達成するために適切かつ公正な人事が行われている。

教育研究活動に関する評価については，教育・研究・学校運営など多岐にわたる項目に対する自己評価を踏まえての研究費の傾斜配分，教員相互の推薦に基づく教員顕彰制度が整えられている。

事務組織は，事務部長を頂点に総務課，学生課の２課で構成されており，それぞれ教育支援に関する業務内容を明文化し，教育活動に貢献している。また，技術職員は，高い技術等を用いて教育研究活動の支援を行っている。

基準４　学生の受入

（１）観点ごとの分析

観点４－１－①：　教育の目的に沿って、求める学生像及び入学者選抜の基本方針等の入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）が明確に定められ、学校の教職員に周知されているか。また、将来の学生を含め社会に理解されやすい形で公表されているか。

（観点に係る状況）

本校では，平成16年５月に準学士課程（編入学生を含む）及び専攻科課程の入学者選抜に関わるアドミッション・ポリシーを制定し，学生募集要項（資料４－１－①－１），編入学生募集要項（資料４－１－①－２），専攻科学生募集要項（資料４－１－①－３）及びウェブサイト（資料４－１－①－４）等に掲載している。

資料４－１－①－１

準学士課程のアドミッション・ポリシー

学　生　募　集　要　項

「北九州高専が求める学生像」

北九州高専では、本校の教育理念及び学習・教育目標を達成するために、総合的な基礎学力を十分にもち、以下の項目を満足する能力と適性を備えた中学生を求めています。

―― アドミッションポリシー（求める学生像）――

・数学、理科の分野に興味がある者。
・工学の分野に興味がある者。
・実験・実習に自ら進んで取り組むことができる者。
・将来、国際センスと人間性を備え、社会を支える技術者として活躍する意志を持つ者。

（出典　平成 25 年度準学士課程募集要項）

資料４－１－①－２

編入学生のアドミッション・ポリシー

編 入 学 生 募 集 要 項

北九州高専では、本校の教育理念及び学習・教育目標を達成するために、総合的な基礎学力を十分にもち、以下の項目を満足する能力と適正を備えた人を求めています。

―― アドミッションポリシー（求める学生像）――

・数学、理科の分野に興味があり、高等学校における基礎学力を有する者
・工学の分野に興味がある者
・実験・実習に自ら進んで取り組むことができる者
・国際センスと人間性を備え、社会を支える技術者として活躍する意志を持つ者

（出典　平成 25 年度編入学生募集要項）

資料４－１－①－３

専攻科課程のアドミッション・ポリシー

平成 25 年度北九州工業高等専門学校専攻科学生募集要項

―― アドミッションポリシー（求める学生像）――

・高等専門学校準学士課程等における基礎的な専門知識の確立を図り、さらにその専門知識を深めようとする意欲がある者
・いろいろな分野の工学知識を学び、広い視野からの問題解決能力を身につけようとする向学心を持つ者

（出典　平成 25 年度専攻科学生募集要項）

資料４－１－①－４

本校アドミッション・ポリシー



（出典　北九州工業高等専門学校ウェブサイト）

本校を志望する中学生並びに中学校教諭及び保護者に対しては，夏季及び秋季に実施するオープンキャンパス時の入試懇談会において，アドミッション・ポリシーを記載した資料を用いて説明している（資料４－１－①－５，６）。さらに，本校全教員が参加し毎年実施する中学校訪問においても，学生募集要項等の資料を用いて十分な説明を行っている。

資料４－１－①－５

入試懇談会実施計画書

平成２４年度
オープンキャンパス及び入試懇談会

１．期　　日　　平成２４年１０月１７日（水）（北九州市内の中学校）
　　１８日（木）（北九州市外の中学校）

２．会　　場　　北九州工業高等専門学校

３．日　　程

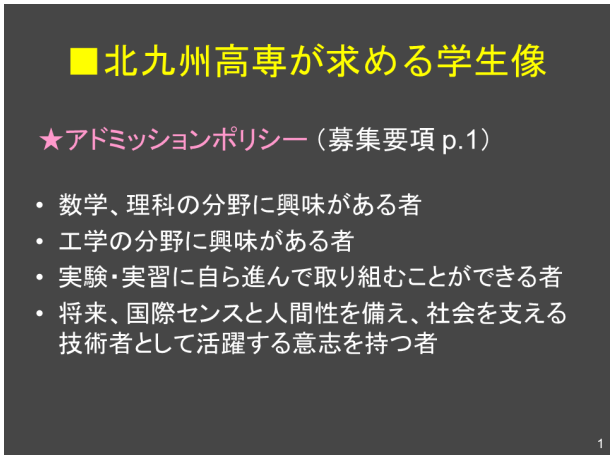
１４：３０ ～ １５：００	（継続して校内施設等見学）	入試懇談会（合同講義室） （１）学校概要・・・・副校長 （２）入試選抜概要・・副校長 （３）質疑応答・・・・関係者
１５：００ ～ １６：００	継続して校内施設等見学	

４．当日配布資料
「プログラム」
「公開する施設、設備、実験等一覧」
「案内図」
「平成２５年度学生募集要項」　←――アドミッション・ポリシー記載
「２０１２学校案内」
「ここが知りたい！　北九州高専／学科で学ぶ専門学科の違い」
「国立　北九州高専」「ＫＯＳＥＮ ナビ」
「アンケート用紙（各人に１枚）」

（出典　平成 24 年度オープンキャンパス及び入試懇談会実施計画書より抜粋）

資料４－１－①－６

アドミッション・ポリシー説明資料



（出典　平成 24 年度オープンキャンパス入試懇談会資料）

また，平成20年度より中学校の進学指導担当教諭及び学習塾講師への学校説明会（資料４－１－①－７，８）を実施しており，学生募集要項について説明を行っている。

資料４－１－①－７

学校説明会（中学校）実施要領

１．目　　的　　中学校の進学指導担当教諭に対し、本校の教育理念及び概要を説明し、進路指導情報を提供する。平成２５年度学生募集要項及び学生生活学寮等について説明し、併せて質疑応答を行って、本校教育への理解を深めてもらう。

２．日　　時　　［中学校教諭］
平成２４年８月２４日（金）１３：３０ ～ １５：００

３．場　　所　　ステーションホテル小倉　４階　豊饒の間
北九州市小倉北区浅野１丁目１番１号（℡541-7111）

４．本校出席　　校長、教務主事、学生主事、寮務主事、入試対策 WG 長、広報委員長、事務部長、学生課長、学生課長補佐

５．日　　程

・受　　付	13:00～13:30	教務係
・日程説明	13:30～13:35	学生課長
・校長挨拶	13:35～13:40	校長
・学校説明	13:40～14:30	副校長（教務主事）
・質疑応答	14:30～15:00	関係者
・解　　散	15:00～	

６．配付資料
① 北九州高専学校要覧
② ２０１２学校案内
③ 「国立　北九州高専」
④ 平成２５年度募集要項
⑤ 志遠　第６４号
⑥ 進学・就職の状況
⑦ アンケート用紙

７．案内送付先　　北九州市内中学校及び近郊市郡の中学校進路指導教諭

（出典　学校説明会（中学校）実施要項より抜粋）

資料４－１－①－８

学校説明会（塾）実施要領

１．目　　的　　学習塾の講師に対し、本校の教育理念及び概要を説明し、進路指導情報を提供する。平成２５年度学生募集要項及び学生生活学寮等について説明し、併せて質疑応答を行って、本校教育への理解を深めてもらう。

２．日　　時　　［塾講師］
平成２４年９月１４日（金）１０：３０ ～ １４：００

３．場　　所　　ステーションホテル小倉　５階　飛翔の間
北九州市小倉北区浅野１丁目１番１号（℡541-7111）

４．本校出席　　校長、教務主事、学生主事、寮務主事、入試対策 WG 長
広報委員長、事務部長、学生課長、学生課長補佐

５．日　　程

・受　　付	10:00～10:30	教務係
・日程説明	10:30～10:35	学生課長
・校長挨拶	10:35～10:40	校長
・学校説明	10:40～11:30	教務主事
・質疑応答	11:30～12:00	関係者
・昼食懇談	12:00～14:00	出席者
・解　　散	14:00	

６．配付資料　　① 平成２３年度進学・就職の状況
② 平成２４年度オープンキャンパス及び入試懇談会
③ ここが知りたい！
北九州高専/学科で学ぶ専門学科の違い
④ アンケート用紙
⑤ 学校説明資料（Power Point 用）

冊子関係
○ 北九州高専学校要覧
○ ２０１２学校案内
○ 平成２５年度募集要項
○ 「国立　北九州高専」

７．案内送付先　北九州市近郊の学習塾

（出典　学校説明会（塾）実施要項より抜粋）

なお，本校教員に対しては，中学校訪問時に本校のアドミッション・ポリシーについて十分説明できるよう全員に学生募集要項及び学修の指針（資料４－１－①－９）を，職員に対しては，各部署に学生募集要項及び学修の指針を配布して事前説明するなど，十分な周知を図っている。

資料４－１－①－９

北九州工業高等専門学校「学修の指針」

者	アドミッション・ポリシーで求める人物像（本科） ・数学、理科の分野に興味がある者　・工学の分野に興味がある者 ・実験・実習に自ら進んで取り組むことができる者　・将来、国際センスと人間性を備え、社会を支える技術者として活躍する意志を持つ			
学年	工学技術教育目標：技術の進歩・変動に柔軟に対応できる基礎力を有する技術者の育成		社会性・人間性教育目標：社会性や教養を身に付けた人間性豊かな学生の育成	
	目　標	具　体　的　内　容	目　標	具　体　的　内　容

	アドミッション・ポリシーで求める人物像（専攻科） ・高等専門学校準学士課程等における基礎的な専門知識の確立を図り、さらにその専門知識を深めようとする意欲がある者 ・いろいろな分野の工学知識を学び、広い視野からの問題解決能力を身に付けようとする向上心を持つ者			
学年	目　標	具　体　的　内　容	目　標	具　体　的　内　容

（出典　学修の指針より抜粋）

一方，専攻科課程のアドミッション・ポリシーに関しても，専攻科学生募集要項に明記し，他高専に配布すると共にウェブサイトにも掲載している。

また，高等学校（普通高校及び工業高校）からの本校４学年への編入についての学生募集要項にもアドミッション・ポリシーを記載し，高等学校に毎年配布し（資料４－１－①－10），公表している。

資料４－１－①－10

平成２５年度編入学募集要項送付先一覧

１．国立高等専門学校機構学務課	１部
２．九州地区高等専門学校	９部
３．福岡県教育委員会	１部
４．福岡県内各市町村教育委員会（下関市を含む） 別紙のとおり	３０部
５．報道関係 別紙のとおり	１６部
６．高等学校 別紙のとおり	２３７部

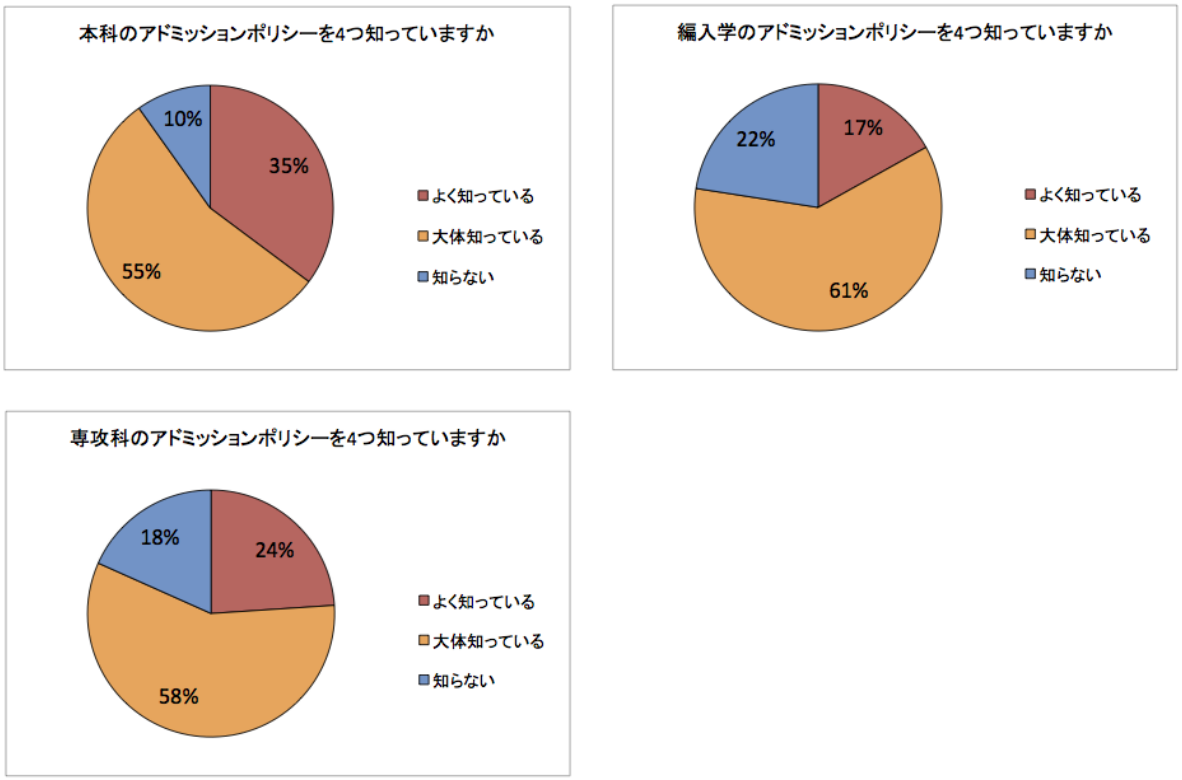
（出典　学生課教務係資料）

（分析結果とその根拠理由）

本校では，求める学生像及び入学者選抜の基本方針等のアドミッション・ポリシーを，準学士課程，編入学生及び専攻科課程について明確に定めており，学生募集要項や本校ウェブサイト等に掲載している。社会に対する公表として，夏季・秋季のオープンキャンパスでの入試懇談会，中学校訪問，進路指導担当教諭及び塾講師を対象とした学校説明会等で十分に説明を行っている。教職員には，学生募集要項及び学修の指針を配布することで周知・徹底を図り，さらに，アンケートを実施して周知度を確認している（資料４－１－①－11）。これらのことから，社会に対する公表，教職員に対する周知は十分である。

資料４－１－①－11

アドミッション・ポリシーに関するアンケート結果



（出典　アドミッション・ポリシーに関するアンケートより作成）

観点４－２－①：　入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）に沿って適切な学生の受入方法が採用されており、実際の入学者選抜が適切に実施されているか。

（観点に係る状況）

本校の教育理念及び学習・教育目標を達成するために，準学士課程では資料４－２－①－１，専攻科課程では資料４－２－①－２に示すアドミッション・ポリシーに沿って入学者選抜を実施している。

入学者選抜は，準学士課程，専攻科課程共に学力検査と推薦の２方式で行われている。

準学士課程の学力による入学者の選抜は，５教科（国語，数学，英語，理科，社会）について独立行政法人国立高等専門学校機構が作成する全国統一問題を用いて実施され，選抜試験結果（学力点）に中学校から提出された調査書の評価（内申点）を加味した総合点と受験者の志望順位を考慮して，最終的な合格者を決定している。なお，本校が掲げるアドミッション・ポリシーに沿った中学生を受け入れるために，資料４－２－①－３に示す調査書の総合所見欄には，本校のアドミッション・ポリシーに関することを含めて記入するように求めており，その内容を確認している。

資料４－２－①－１

学　生　募　集　要　項

「北九州高専が求める学生像」

北九州高専では、本校の教育理念及び学習・教育目標を達成するために、総合的な基礎学力を十分にもち、以下の項目を満足する能力と適性を備えた中学生を求めています。

― アドミッションポリシー（求める学生像）―

・数学、理科の分野に興味がある者。
・工学の分野に興味がある者。
・実験・実習に自ら進んで取り組むことができる者。
・将来、国際センスと人間性を備え、社会を支える技術者として活躍する意志を持つ者。

Ⅰ．募　集　人　員

学　　科	募集人員	備　　考
機　械　工　学　科	４０名	推薦は、各学科とも募集人員の40％程度とする。
電　気　電　子　工　学　科	４０名	
電　子　制　御　工　学　科	４０名	
制　御　情　報　工　学　科	４０名	
物　質　化　学　工　学　科	４０名	
計	２００名	

Ⅱ．選　抜　の　方　法

入学者の選抜は、以下の方法で行う。

Ⅰ．推薦による選抜（Ⅲの項目を参照）	１）学業成績推薦：学業成績の優れた者
	２）課外活動等推薦：課外活動等において優れた者
Ⅱ．学力検査による選抜（Ⅳの項目を参照）	本校が実施する学力検査および調査書による総合判定に優れた者

（出典　平成 25 年度学生募集要項）

資料４－２－①－２

アドミッション・ポリシー（専攻科課程）

平成 25 年度北九州工業高等専門学校専攻科学生募集要項

―　アドミッションポリシー（求める学生像）―

・高等専門学校準学士課程等における基礎的な専門知識の確立を図り、さらにその専門知識を深めようとする意欲がある者

・いろいろな分野の工学知識を学び、広い視野からの問題解決能力を身につけようとする向学心を持つ者

Ⅰ　募集人員

生産工学専攻　８名

制御工学専攻　８名

物質化学工学専攻　４名

Ⅱ　選抜の方法及び日程

１．高等専門学校長の推薦による選抜（10名程度）

２．学力による選抜（10名程度）

３．企業等の推薦による社会人選抜（若干名）

選抜区分		選抜期日	選抜人数
推薦	校長推薦	書類選抜	10名程度
	社会人選抜	書類選抜	若干名
学力検査	前期日程	平成24年6月28日(木)	10名程度
	後期日程	平成24年10月4日(木)	

（出典　平成 25 年度専攻科学生募集要項）

推薦による入学者選抜は，学力に優れた学生についての推薦選抜（以下「学力推薦」という）と，中学校あるいは地域の体育系クラブあるいは文化系クラブで優れた成果を上げた学生についての推薦選抜（以下「課外活動推薦」という）を実施している。学力・課外活動推薦においても学力選抜同様に，資料４－２－①－３の調査書の総合所見欄において，アドミッション・ポリシーに関する内容を確認している。また，推薦選抜においては，「数学・理科の分野に興味がある者」を受け入れるために，中学校で学習する範囲の数学についての検査（工学適性検査）を行っている（工学適性検査の内容は訪問時閲覧資料）。さらに，個人面接では，工学分野に近い数学，理科及び英語の問題（訪問時閲覧資料）の出題やアドミッション・ポリシーを反映した内容を質問している（面接実施要項の内容は訪問時閲覧資料）。

資料４－２－①－３

調査書

調　査　書

北九州工業高等専門学校

※ 受検番号	

ふりがな 氏　名		男・女	平成　年　月　日　入学・転入学 平成　年　月　日　卒業・見込

学習の記録・評定	教科 学年	国語	社会	数学	理科	音楽	美術	保健体育	技術家庭	英語	計	特別活動
	１　年											
	２　年											
	３年　１学期											
	３年　２学期											
	３年　学年末											

行動及び性格の記録	項　目	基本的な生活習慣	健康体力の向上	自主自律	責任感	創意工夫	思いやり協力	生命尊重自然愛護	勤労奉仕	公正公平	公共心公徳心
	評　定 （該当欄に○印を付ける）										

出欠の記録	学　年	欠席日数	欠席の主な理由	趣味・特技
	１　年			
	２　年			
	３　年			

総合所見	

この調査書は事実に相違ないことを証明する。

平成　年　月　日　学校所在地

学　校　名

学校長氏名　　職　印

注意事項　１．本調査書を本人に交付する場合は厳封の上交付してください。ただし、出身学校から、出願書類を持参又は郵送する場合はその必要はありません。
２．学習の記録・評定欄は、次の要領で記入してください。
(1) 学力による入学志願者は、１年、２年及び３年の学年末の欄に記入してください。
(2) 推薦による入学志願者は、１年及び２年の欄並びに３年の１学期及び２学期の欄に記入してください。なお、２学期制を実施している場合、３年の欄は前学期の評定を１学期及び２学期の欄にそれぞれ記入してください。
(3) 評定は、原則として絶対評価で記入してください。ただし、相対評価しか取扱っていない学校については、その旨を特別活動の欄に明記してください。
(4) 特別活動は、生徒会活動、学級活動、クラブ活動等を記入してください。
３．行動及び性格の記録、出欠の記録欄の３年の欄は２学期末現在で記入してください。
４．総合所見欄については、本校のアドミッションポリシー(１頁)に関することを含めて記入してください。
５．※印の欄は記入しないでください。様式は本校ホームページからダウンロードしてご利用ください。

（出典　平成 25 年度学生募集要項）

専攻科課程については，推薦選抜，前後学期２回の学力選抜及び社会人推薦選抜を実施している。アドミッション・ポリシーに掲げる「高等専門学校準学士課程等における基礎的な専門知識の確立を図り，さらにその専門知識を深めようとする意欲がある者」を受け入れるために，推薦選抜では，専攻科入学志願者の選抜基準（訪問時閲覧資料）を設けており，本校各学科及び他校の校長は，それを満足する学生を推薦している。学力選抜では，英語，数学のほかに，各専攻の専門分野に関する問題を出題しており，基礎的な専門知識を持つ学生を受け入れている（資料４－２－①－４）。社会人推薦選抜では，応募者の学習についての意志と既卒の学校での学習，企業現場での経験等を面接で確認し，面接の結果と企業上司の推薦書に基づいて合格者を決定する。また，各推薦選抜では，専門知識の深化に対する意欲や向学心を，願書や推薦書から判断している。

資料４－２－①－４

専攻科課程入学試験出題科目（範囲）

②専門科目

専門科目は各専攻ごとに次表のとおり実施する。

専攻名	実施形式		出題科目（範囲）
生産工学専攻	グループ選択（右のAまたはBのいずれか1グループを選択すること）	A	専門Ⅰ　材料力学、機械工作法 専門Ⅱ　熱力学、水力学
		B	専門Ⅰ　電気回路、情報処理 専門Ⅱ　電気磁気学、電子回路
制御工学専攻	グループ選択（右のAまたはBのいずれか1グループを選択すること）	A	専門Ⅰ　情報処理（プログラミング）、制御工学 専門Ⅱ　電気磁気学、電気・電子回路（電気回路および電子回路）
		B	専門Ⅰ　情報処理（プログラミング）、制御工学 専門Ⅱ　材料力学、水力学・熱力学
物質化学工学専攻	専門Ⅰ（3科目中2科目選択） 専門Ⅱ必須		専門Ⅰ　無機・分析化学、有機・高分子化学、生物化学・生物材料化学のうちから２科目選択 専門Ⅱ　物理化学、化学工学

※専門科目の試験には、電卓の使用を認める。ただし、プログラム機能付のものは認めない。

（出典　平成 25 年度専攻科学生募集要項）

高校等から準学士課程４学年への編入学については，資料４－２－①－５に示すアドミッション・ポリシーに沿って入学者選抜を実施している。理数系分野への興味と，高等学校における基礎学力を有し，工学への興味をもつ者を受け入れるために，各学科共通の数学と英語の試験と各学科の専門科目（工業高校からの受験者については志望学科の専門に関して，普通高校からの受験者については物理あるいは化学に関しての問題）の試験を行っている（資料４－２－①－６）。また，個人面接や高校等からの調査書から，実験・実習に対する積極性及び専門科目における適性を確認している。

資料４－２－①－５

アドミッション・ポリシー（編入学生）

編 入 学 生 募 集 要 項

北九州高専では、本校の教育理念及び学習・教育目標を達成するために、総合的な基礎学力を十分にもち、以下の項目を満足する能力と適正を備えた人を求めています。

―― アドミッションポリシー（求める学生像）――

・数学、理科の分野に興味があり、高等学校における基礎学力を有する者
・工学の分野に興味がある者
・実験・実習に自ら進んで取り組むことができる者
・国際センスと人間性を備え、社会を支える技術者として活躍する意志を持つ者

１．募集学科及び募集人員

学　　科	募 集 人 員	編 入 学 年 次
機 械 工 学 科	若 干 名	第 ４ 学 年 次 （物質化学工学科には、応用化学工学コースと生物化学工学コースがある。）
電 気 電 子 工 学 科	若 干 名	
電 子 制 御 工 学 科	若 干 名	
制 御 情 報 工 学 科	若 干 名	
物 質 化 学 工 学 科	若 干 名	

２．出願資格

(1)　工業高等学校又は高等学校の工業に関する学科を卒業した者及び平成25年３月卒業見込みの者
(2)　中等教育学校の工業に関する学科を卒業した者及び平成25年３月卒業見込みの者
(3)　高等学校を卒業した者及び平成25年３月卒業見込みの者
(4)　中等教育学校を卒業した者及び平成25年３月卒業見込みの者

３．志望学科

出願資格(1)、(2)の者

志望学科は、次のとおり出身高等学校における所属科と同系統であること。

志 望 学 科	高 等 学 校 の 所 属 科
機 械 工 学 科	機械及びこれに関連する科
電 気 電 子 工 学 科	電気、電子及び情報に関連する科
電 子 制 御 工 学 科	
制 御 情 報 工 学 科	機械及び情報に関連する科
物 質 化 学 工 学 科	化学及びこれに関連する科

出願資格(3)、(4)の者

５学科いずれも可

―１―

（出典　平成 25 年度編入学生募集要項より）

資料４－２－①－６

編入学生選抜方法・学力検査範囲及び出題範囲

６．選抜方法

入学者の選抜は、学力検査、調査書及び面接により総合判定する。

⑴　学力検査科目及び出題範囲

学力検査科目		出題範囲
共通科目（各学科共通）	数学	● 関数（有理・無理・指数・対数・三角関数）と方程式、不等式 ● 数列　● 行列　● ベクトル　● ２次曲線 ● 微分・積分（主に整関数を対象としたグラフ、面積の算出問題） （確率・統計・コンピュータープログラミングは含まない。）
	英語	英語Ⅰ、英語Ⅱ
専門科目	機械工学科 電気電子工学科 電子制御工学科 制御情報工学科	出願資格⑴、⑵の者 機械工学科　１．機械設計（力と運動、材料の強さを含む） ２．機械工作 ３．原動機（熱や流体のエネルギーを含む） ４．機械製図 電気電子工学科　１．直流回路 ２．交流回路 ３．電気磁気 電子制御工学科　１．電気と磁気・静電気 ２．直流回路、単相の交流回路 ３．電子回路（ダイオード回路、トランジスタ回路のみ） 制御情報工学科　１．電気回路（ディジタル回路を含む） ２．プログラミング（Ｃ言語） ３．物理（力学） 出願資格⑶、⑷の者 物理Ⅰ、物理Ⅱ（もしくは新課程　物理基礎、物理）
	物質化学工学科	出願資格⑴、⑵の者 工業化学専門科目 出願資格⑶、⑷の者 化学Ⅰ、化学Ⅱ（気体の性質のみ）

（出典　平成 25 年編入学生募集要項より）

（分析結果とその根拠理由）

本校では，準学士課程，専攻科課程及び編入学生のいずれの入学者選抜においても，アドミッション・ポリシーが定められており，アドミッション・ポリシーに沿った学力・推薦選抜内容，面接内容，出題内容等が採用されて，募集要項に従い適切に実施されている。

観点４－２－②：　入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）に沿った学生の受入が実際に行われているかどうかを検証するための取組が行われており、その結果を入学者選抜の改善に役立てているか。

（観点に係る状況）

入学者選抜方法及び入学した学生がアドミッション・ポリシーに沿っているか等の検証は，自己点検・自己評価委員会，入学試験委員会，入学試験委員会に属する入試対策ワーキンググループ（以下，入試対策WG）及びJABEE・認証評価委員会で行っている。

平成24年度に，JABEE・認証評価委員会では，保護者懇談会に参加した新入生の保護者147名に対して実施している本校の受験に関するアンケート内で，アドミッション・ポリシーに関する質問（Ｑ６）を追加するよう教務委員会に依頼した（資料４－２－②－１）。資料４－２－②－２に示す回答結果より，アドミッション・ポリシーに沿った学生の受け入れが行われていることが確認された。

資料４－２－②－１

北九州高専の受験に関するアンケート

このアンケートは、今後の入試対策の基礎資料として使用するものです。
それ以外の目的には使用致しませんので、ご協力をお願い致します。
（該当する項目に○印をお付けください。）

Q1．お子様の所属学科をお答え下さい。
1．機械工学科　2．電気電子工学科　3．電子制御工学科　4．制御情報工学科　5．物質化学工学科

Q2．お子様が高専に興味を持つようになったのは、いつ頃ですか？
1．小学校低学年　2．小学校高学年　3．中学1年生　4．中学2年生　5．中学3年生

Q3．北九州高専に関する情報はどこで入手されましたか？（複数可）
1．北九州高専のホームページ　2．夏のオープンキャンパス　3．秋のオープンキャンパス
4．北九州高専主催の公開講座　5．家族や親族から　6．知人から
7．中学校の先生から　8．塾の先生から　9．中学での学校説明会
10．中学のクラブやサークル活動で　11．その他（　　）

Q4．保護者として、お子様の北九州高専受験を決断された理由は何ですか？（複数可）
1．子どもの学力にふさわしい　2．カリキュラムに特色がある　3．教育・研究設備が整っている
4．校風が気に入っている　5．活動させたいクラブやサークルがある
6．就職に有利　7．進学に有利　8．取得できる資格・免許がある
9．親族や知人の勧め　10．中学の先生の勧め　11．塾の先生の勧め
12．その他（　　）．

Q5．お子様が志望学科を決めた理由は何ですか？（複数可）
1．学科の内容に興味があるから　2．将来やりたいことに近いから
3．家族や親族に勧められて　4．友人や知人に勧められて　5．中学の先生に勧められて
6．塾の先生に勧められて　7．その他（　　）

Q6．エンジニア育成を目指す本校では、下記のような資質を持つ学生を求めています。
お子様はどの項目に該当されるとお考えですか？（複数可）
1．数学、理科の分野に興味がある　2．工学の分野に興味がある　3．実験や工作に自ら進んで取り組める
4．将来、社会を支える技術者になる意志がある

自由記述欄（北九州高専の入試について、ご御意見やご感想をお聞かせ下さい）

ご協力ありがとうございました。

（出典　北九州高専の受験に関するアンケート）

資料４－２－②－２

保護者へのアドミッション・ポリシーに関するアンケート集計結果

6　エンジニア育成を目指す本校では、下記のような資質を持つ学生を求めています。（複数可）

① 数学、理科の分野に興味がある	78 件
② 工学の分野に興味がある	46 件
③ 実験や工作に自ら進んで取り組める	55 件
④ 将来、社会を支える技術者になる意思がある	55 件

（出典　JABEE・認証評価委員会資料）

入試対策WGでは，理数系の分野に興味がある中学生の受け入れをより明確にすることを目的に，入学適性検査と入学後の試験結果の相関関係等を調査しており，その結果や改善案は校長及び入学試験委員会に報告・提言されている。

準学士課程推薦選抜では，総合的な基礎学力を十分に持ち，数学，理科の分野に興味のある中学生を受け入れるために工学適性検査（数学）を実施しているが，平成25年度推薦選抜から基礎学力の資質を十分に確認するために問題数を30問程度に減少させた（資料４－２－②－３：別添資料）。

また，卒業生及び修了生のほとんどが理工系分野の企業に就職していることから，アドミッション・ポリシーに沿った理数系に興味のある学生の受け入れができていることが分かる（資料４－２－②－４）。

（分析結果とその根拠理由）

本校では，自己点検・自己評価委員会，入学試験委員会，入試対策WG及びJABEE・認証評価委員会において，入学者選抜方法及び入学した学生がアドミッション・ポリシーに沿っているかを検証する取組が行われており，その結果を入学者選抜の改善に役立てている。

新入生及びその保護者に対してアンケートを実施し，アドミッション・ポリシーに沿った学生の受け入れができているかの検証を行っている。また，試験結果と入学後の成績との相関を調査することで，学力・推薦選抜の方法がアドミッション・ポリシーに沿っているかを検証し改善に役立てている。

資料４－２－②－４

志　　遠　　平成25年３月12日（11）

企　業　名	就職先所在地	機械	電気	電制	制情	化学	計
花王㈱	愛知県					1	1
積水ナノコートテクノロジー㈱	愛知県					1	1
矢崎総業㈱	静岡県		1				1
セイコーエプソン㈱	長野県				1		1
計		2	3	1	1	2	9
【近畿地区】							
アドバンテック㈱	大阪府					1(1)	1(1)
ダイキン工業㈱	大阪府	1			1(1)	1(1)	3(2)
武田薬品工業㈱	大阪府	1				1(1)	2(1)
㈱フジキン	大阪府					1	1
第一精工㈱	大阪府	1	1				2
JR西日本㈱	大阪府		1	1			2
宇部興産㈱堺工場	大阪府			1			1
大阪ガス㈱	大阪府		1				1
関西電力㈱	大阪府			1	1		2
ダイキン工業㈱	大阪府		1				1
野里電気工業㈱	大阪府		1				1
花王㈱	和歌山県		1				1
東燃ゼネラル石油	和歌山県					1	1
計		3	6	3	2(1)	5(3)	19(4)
【中国地方】							
NSウエスト㈱	広島県		1				1
中国電力㈱	広島県		1				1
出光興産㈱	山口県		1				1
宇部興産㈱	山口県	1				1(1)	2(1)
計		1	3			1(1)	5(1)
【福岡県（北九州地区）】							
NSプラント設計㈱	北九州市	1(1)					1(1)
新日鐵エンジニアリング㈱	北九州市	1					1
全教研エコール折尾校	北九州市	1					1
㈱三井ハイテック	北九州市	1		1			2
北九州LNG㈱	北九州市			1			1
安川情報九州㈱	北九州市			1(1)			1(1)
八幡電機精工㈱	北九州市				1(1)		1(1)
㈱ソフトエナジーコントロールズ	北九州市		1				1
㈱タカギ	北九州市					1(1)	1(1)
計		4(1)	1	3(1)	1(1)	1(1)	10(4)
【福岡県（北九州地区を除く）】							
小竹化成㈱	鞍手郡					1	1
JR西日本㈱	福岡市				1(1)		1(1)
エイテックス㈱	福岡市				1(1)		1(1)
三泉化成㈱	福岡市					1	1
富士ゼロックス福岡㈱	福岡市		1(1)				1(1)
㈱アスカコーポレーション	福岡市					1(1)	1(1)
㈱ソフネット	福岡市			1			1
㈱富士通九州システムズ	福岡市				1		1
三菱電機プラントエンジニアリング㈱	福岡市		1				1
富士通九州ネットワークテクノロジーズ㈱	福岡市				1(1)		1(1)
㈱明治九州工場	八女市				1(1)		1(1)
日本たばこ産業㈱	福岡市				1(1)		1(1)
㈱トヨタプロダクションエンジニアリング	福岡市				1		1
㈱エイチ・エル・シー	福岡市			1(1)			1(1)
計			2(1)	2(1)	7(5)	3(1)	14(8)
【九州地区（福岡県を除く）】							
JX日鉱日石金属㈱	大分県				1		1
TOTOファインセラミックス㈱	大分県	1					1
㈱小松製作所（実用試験部）	大分県	1					1
日本エアコミューター㈱	鹿児島県				1(1)		1(1)
㈱東洋新薬	佐賀県		1		1(1)		2(1)
旭化成㈱	宮崎県	1					1
計		3	1		3(2)		7(2)
【その他（未決定者）】							
就職希望				4		4(4)	8(4)
合　計		24(1)	23(2)	17(2)	18(9)	21(12)	103(26)

※企業によっては実際の配属所在地が異なる場合があります。

（出典　「志遠」第66号）

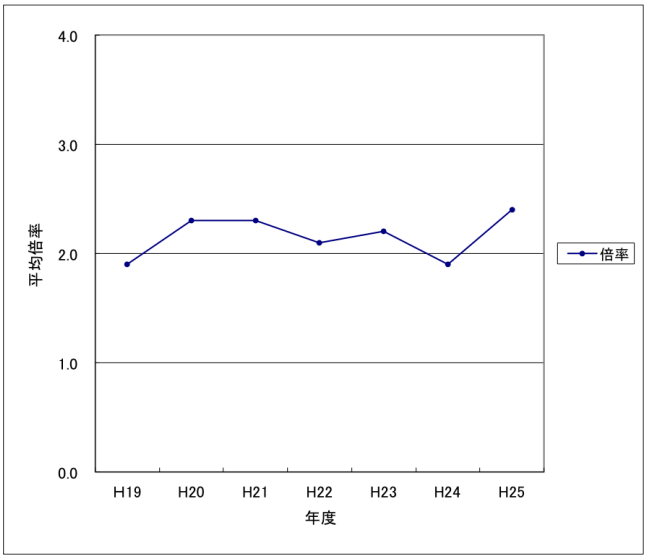
観点４－３－①：　実入学者数が、入学定員を大幅に超える、又は大幅に下回る状況になっていないか。また、その場合には、これを改善するための取組が行われる等、入学定員と実入学者数との関係の適正化が図られているか。

（観点に係る状況）

本校では，準学士課程への入学志願者数は，例年２倍を超える又は近い値となっている（資料４－３－①－１）。合格者の発表は，入学辞退者の発生を勘案して，毎年各学科の定員40名に対し，数名程度多く合格させている（資料４－３－①－２）。

資料４－３－①－１

準学士課程の入学志願者倍率

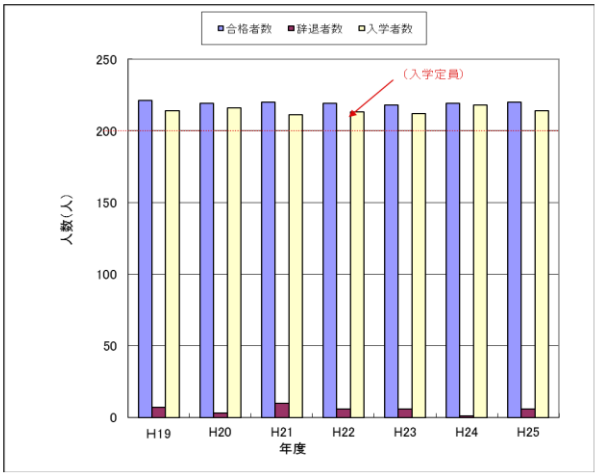


（出典　入学試験委員会資料）

資料４－３－①－２

準学士課程の合格者・辞退者・入学者数

年度	項目		学科					計
			機械	電気電子	電子制御	制御情報	物質化学	
19	合格者	推薦	15	13	17	16	16	77
		学力	29	30	28	29	28	144
	辞退者		1	1	2	1	2	7
	入学者		43	42	43	44	42	214
20	合格者	推薦	18	17	19	20	20	94
		学力	25	27	25	24	24	125
	辞退者		0	2	1	0	0	3
	入学者		43	42	43	44	44	216
21	合格者	推薦	19	17	20	20	19	95
		学力	26	26	24	25	25	126
	辞退者		2	1	2	5	0	10
	入学者		43	42	42	40	44	211
22	合格者	推薦	18	18	19	20	20	95
		学力	25	26	25	24	24	124
	辞退者		0	2	1	1	2	6
	入学者		43	42	43	43	42	213
23	合格者	推薦	17	19	18	18	18	90
		学力	27	25	26	25	25	128
	辞退者		1	1	1	1	2	6
	入学者		43	43	43	42	41	212
24	合格者	推薦	18	18	18	18	20	92
		学力	25	26	27	25	24	127
	辞退者		0	1	0	0	0	1
	入学者		43	43	45	43	44	218
25	合格者	推薦	17	20	19	19	20	95
		学力	26	24	26	24	25	125
	辞退者		3	0	1	0	2	6
	入学者		40	44	44	43	43	214



（出典　準学士課程入学者の実績資料）

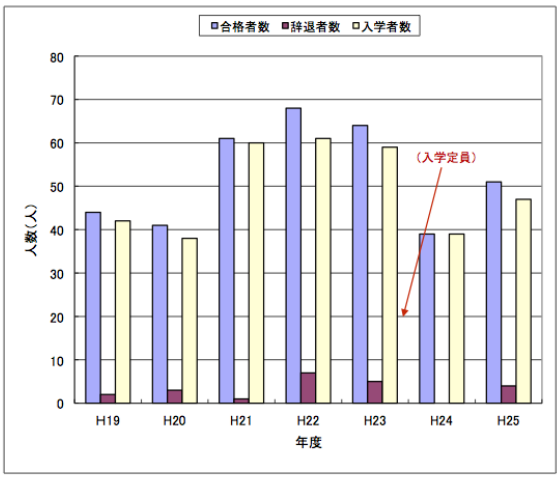
専攻科課程については，専攻科を志願する学生の増加に伴い，例年ほぼ定員の２倍から３倍程度の入学者を受け入れている（資料４－３－①－３）。これについては，専攻科における教育及び研究担当が可能な教員が多く，定員を超える学生を受け入れても対応できる指導体制が整っていること，企業・大学院説明会の実施等の進路に関する指導体制が整っていること（資料４－３－①－４：別添資料），外部資金の導入等により実験・研究設備が大学同等，あるいはそれ以上を目標に先端的な研究が実施できるように努力していること（資料４－３－①－５），多くの専攻科学生が積極的に国内外の学会等で研究成果を発表していること（資料４－３－①－６，７：別添資料，８：別添資料），専攻科修了後の進学先大学院や就職先企業からの評価が高いこと等から支障がないと考えられる。

このように，実入学者数は入学定員以上となっているが，学力や教育の質の確保に関しての問題は生じていないが，よりよい教育のために見直し等も含めて改善を進めている。

資料４－３－①－３

専攻科課程の合格者・辞退者・入学者数

年度	項目		専攻 生産工学	制御工学	物質化学工学	計
19	合格者	推薦	2	4	6	12
		学力	7	16	9	32
	辞退者		1	1	0	2
	入学者		8	19	15	42
20	合格者	推薦	0	4	4	8
		学力	12	11	10	33
	辞退者		2	1	0	3
	入学者		10	14	14	38
21	合格者	推薦	2	7	7	16
		学力	12	17	16	45
	辞退者		1	0	0	1
	入学者		13	24	23	60
22	合格者	推薦	5	6	6	17
		学力	10	23	18	51
	辞退者		4	2	1	7
	入学者		11	27	23	61
23	合格者	推薦	6	5	6	17
		学力	15	23	9	47
	辞退者		3	1	1	5
	入学者		18	27	14	59
24	合格者	推薦	3	6	5	14
		学力	5	10	10	25
	辞退者		0	0	0	0
	入学者		8	16	15	39
25	合格者	推薦	3	9	6	18
		学力	13	13	7	33
	辞退者		2	2	0	4
	入学者		14	20	13	47



（出典　専攻科入学者の実績資料）

資料４－３－①－５

教員の研究活動
Research Activities

科学研究費（最近3年間）
Grant-in-aid for Scientific Research（For The Last 3 Years）

（単位：件・円）

区分 Classification ＼ 年度 Year	平成22年度 (2010) 件数 Number	平成22年度 (2010) 補助金額 Amount	平成23年度 (2011) 件数 Number	平成23年度 (2011) 補助金額 Amount	平成24年度 (2012) 件数 Number	平成24年度 (2012) 補助(助成)金額 Amount
【補助金】新学術領域研究 Research	1	3,380,000	1	780,000	0	0
【補助金】基盤研究（B） Grant-in-Aid for Scientific Research (B)	1	780,000	0	0	0	0
【補助金】基盤研究（C） Grant-in-Aid for Scientific Research (C)	6	8,580,000	3	2,730,000	3	2,340,000
【補助金】若手研究（B） Grant-in-Aid for Encouragement of Young Scientists (B)	3	8,840,000	0	0	2	3,450,837
【補助金】奨励研究 Grant-in-Aid for Encouragement of Young Scientists	0	0	1	500,000	0	0
【助成基金】基盤研究（C） Grant-in-Aid for Scientific Research (C)			2	8,060,000 (H23年度使額)	5	7,410,000 H24年度使用予定額
【助成基金】挑戦的萌芽研究 Scientific Research	0	0	0	0	1	2,340,000 H24年度使用予定額

寄附金受入状況（最近３年間）
Donation Received for Fund（For The Last 3 Years）

平成21年度 (2009) 件数 Number	平成21年度 (2009) 金額 Funds	平成22年度 (2010) 件数 Number	平成22年度 (2010) 金額 Funds	平成23年度 (2011) 件数 Number	平成23年度 (2011) 金額 Funds
17	円 19,910,727	17	円 22,718,206	12	円 18,680,000

受託研究・共同研究（最近３年間）
Entrusted Researches & Researches with Companies（For The Last 3 Years）

年度 Year	受託研究 Entrusted Researches 件数 Number	受託研究 Entrusted Researches 金額 Funds	共同研究 Researches with Companies 件数 Number	共同研究 Researches with Companies 金額 Funds
平成21年度 (2009)	7	円 29,827,881	3	円 1,300,000
平成22年度 (2010)	7	20,637,800	4	1,977,300
平成23年度 (2011)	8	39,175,430	3	1,750,000

研究発表件数（最近3年間）
The Number of Researches and Presentations（For The Last 3 Years）

（単位：件数）

年度 Year ＼ 題目 Title	著作 Books	学会誌等論文 Original Papers	本校研究論文 The Research Reports of KCT	学会講演発表 Oral Presentation at Academic Meetings
平成21年度 (2009)	4	22	22	36
平成22年度 (2010)	0	19	17	59
平成23年度 (2011)	6	17	21	96

31

（出典　平成 24 年度学校要覧）

資料４－３－①－６

専攻科生の研究発表実績

	国内会議	国際会議	総発表件数
平成 23 年度	21	11	32
平成 24 年度	37	7	44

（出典　帯同経費実施実績より作成）

（分析結果とその根拠理由）

準学士課程の実入学者は，各学科40名の入学定員に対し，適正な数の確保がなされている。一方，専攻科課程入学者に関しては，定員を超える実入学者数となっているが，現教員での教育・研究指導環境及び施設・予算状況も良好で専攻科生へ十分な教育・研究指導が行われている。

（２）優れた点及び改善を要する点

（優れた点）

・準学士課程，専攻科課程，編入学の入学者選抜に際してアドミッション・ポリシーを明確に定め，学生募集要項，本校ウェブサイトに明示しているほか，オープンキャンパス，中学校訪問，学校説明会等，様々な機会を利用して説明している。
・教職員に学生募集要項及び学修の指針を配布するなど，アドミッション・ポリシーの周知を図っている。
・各委員会でアドミッション・ポリシーに関して検証されており，工学適性検査の実施方法等の改善に役立てている。
・少子化傾向が進む中にあっても常に高い入学志願者数を確保し，それらの中から適正な数の優秀な学生の確保が図られている。

（改善を要する点）

該当なし

（３）基準４の自己評価の概要

本校では，求める学生像及び入学者選抜の基本方針等のアドミッション・ポリシーを，準学士課程，編入学生及び専攻科課程において明確に定めており，学生募集要項や本校ウェブサイト等に掲載している。社会に対する公表として，夏季・秋季のオープンキャンパスでの入試懇談会，中学校訪問，進路指導担当教諭及び塾講師を対象とした学校説明会等で十分に説明を行っている。教職員には，学生募集要項及び学修の指針を配布することで周知・徹底を図り，さらに，アンケートを実施して周知度を確認している。

入学者選抜は，準学士課程，編入学，専攻科課程の全ての推薦・学力選抜において，アドミッション・ポリシーに則して実施されている。また，自己点検・自己評価委員会，入学試験委員会，JABEE・認証評価委員会及び入試対策WGにおいて，入学者選抜方法及び入学した学生がアドミッショ

ン・ポリシーに沿っているかを検証する取組が行われており，その結果を入学者選抜の改善に役立てている。

入学者数と定員との関係は，準学士課程及び編入学に関しては適正なものとなっている。専攻科課程については，専攻科の教育内容の充実並びに専攻科修了生の就職・進学に対する指導体制の強化等の努力が実を結び，準学士課程の学生には専攻科が魅力あるものとなって志望者の増加が見られ，現在では定員を超える実入学者数となっている。これに関しては，専攻科生に十分な教育を行うにふさわしい人的（教員・スタッフ）並びに物的（施設・設備）環境が本校には整っており，教育等に支障をきたしていない。

基準５　教育内容及び方法

（１）観点ごとの分析

＜準学士課程＞

観点５－１－①：　教育の目的に照らして、授業科目が学年ごとに適切に配置され、教育課程が体系的に編成されているか。また、授業の内容が、全体として教育課程の編成の趣旨に沿って、教育の目的を達成するために適切なものとなっているか。

（観点に係る状況）

資料５－１－①－１に，本校の教育理念，教育目的，教育目標を示す。教育理念「明るい未来を創造する開拓型エンジニアの育成」に基づき，３つの教育目的を掲げ，目的実現のために，準学士課程で（A）～（G），専攻科課程で（A）～（F）の具体的な教育目標を定めている。卒業時までに学生に身に付けさせる資質・学力は，小項目①，②等で定めている。教育目標をより分かりやすくするため，各学科・専攻で養成する人物像との関係を資料５－１－①－２のように定めている。

準学士課程教育課程表を資料５－１－①－３に示す。全授業科目は，教育目標に沿って実施される（資料５－１－①－４～６）。教育目標（A）に寄与する科目は，主に３年生までの一般の理数系科目と専門基礎科目である。目標（B）には，ほとんどの専門科目が寄与し，これらの科目は，学年と共に増加する。目標（C）には実習や実験が寄与する。実習・実験科目は，各学年に配置され，授業で学んだ内容を実践的に学べる。目標（D）は，３年生又は４年生以上の実習・実験科目，学外実習（４年），卒業研究（５年）が主に担う。目標（E）には，国語を含む語学と地理，歴史等の科目が主に関わる。３年生では，第２外国語として中国語，韓国語，ドイツ語を選択できる。また，英語科目は，５年生まで途切れなく開講している。これらにより，コミュニケーション力を育成する。目標（F）に寄与するのは社会系科目であり，１年生の地理から４，５年生の経済学等まで様々な科目を各学年に配置している。これにより，専門科目で学んだ技術と社会・環境の関わりが，段階を追って各学年で学べる。目標（G）に関する科目は，２年生の人間関係論と４年生までの体育が主である。また，３年生まで実施する全90時間の特別活動もこの目標に寄与する（資料５－１－①－７）。

一般科目と専門科目の割合，授業形態の割合を資料５－１－①－８，９に示す。資料５－１－①－３～９より，教育目的達成のための具体的な教育目標（技術者像）に照らして，授業科目が各学年に適切に配置されている。従って，教育課程が体系的に編成され，教育の目的を達成するために適した内容の授業科目が，適切な学年に配置されている。また，授業内容の適切さは，シラバスにより教務委員会が確認している（資料５－１－①－10）。

資料５－１－①－１

表１　北九州工業高等専門学校・準学士課程ならびに専攻科課程の教育目標

〈 教育理念 〉

明るい未来を創造する開拓型エンジニアの育成

〈 教育目的 〉

(1)幅広い工学基礎と創造的技術開発力の修得
(2)国際社会で尊敬され、信頼される国際センスの修得
(3)地球にやさしい技術を開発できる心豊かな人間性の涵養

〈 教育目標：準学士課程 〉

(A)技術内容を理解できる基礎学力(数学、自然科学、情報)と自己学習能力を持つ技術者
①数学・物理・化学などの自然科学、情報技術に関する基礎を理解できる。
②自主的・継続的な学習を通じて、基礎科目に関する問題を解くことができる。
(B)専門分野における基礎知識を身に付けた技術者
①専門分野における工学の基礎を理解できる。
②自主的・継続的な学習を通じて、専門工学の基礎科目に関する問題を解くことができる。
(C)専門工学基礎知識の上に実践的技術を学んだ技術者
①実験や実習を通じて、問題解決の実践的な経験を積む。
②機器類(装置・計測器・コンピュータなど)を用いて、データを収集し、処理できる。
③実験結果から適切な図や表を作り、専門工学基礎知識をもとにその内容を考察することができる。
④実験や実習について、方法・結果・考察をまとめ、報告できる。
(D)身に付けた工学知識・技術をもとにして問題を解決する能力を有する技術者
①専門工学の基礎に関する知識と基礎技術を総合し、活用できる。
②工学知識や技術を用いて、課題解決のための調査や実験を計画し、遂行できる。
③工学知識や技術を用いて、課題解決のための結果の整理・分析・考察・報告ができる。
(E)多様な文化を理解するための教養を持ち、日本語および外国語によるコミュニケーションの基礎能力を有する技術者
①歴史・文化・国語・外国語を学び、コミュニケーションするための基礎的な教養を身に付ける。
②日本語で論理的に記述し、報告・討論できる。
③英語によるコミュニケーションの基礎能力(読解・記述・会話)を身に付ける。
(F)歴史・文化・社会に関する教養を持ち、技術の社会・環境との関わりを考えることのできる技術者
①歴史・文化・社会に関する基礎的な知識を身に付ける。
②工業技術と社会・環境との関わりを考えることができる。
③技術者としての役割と責任を認識できる。
(G)社会の一員としての自覚、倫理観を持ち、心豊かな人間性を有する技術者
①健やかな心身を持ち、社会性、協調性を身に付ける。
②社会人として、技術者として必要な素養、一般常識や礼儀、マナーについて考えることができる。

〈 教育目標：専攻科課程 〉

(A)技術内容の高度化に対応できる基礎学力(数学、自然科学、情報)と自己学習能力を持つ技術者
①数学・物理・化学などの自然科学、情報技術に関する共通基礎を理解できる。
②自主的・継続的な学習を通じて、共通基礎科目に関する問題を解決できる。
(B)専攻分野の「生産」に関わる専門知識を身に付けた技術者
①共通基礎知識を用いて、専攻分野における設計・製作・評価・改良などを通に関わる専門工学の基礎を理解できる。
②自主的・継続的な学習を通じて、専門工学の基礎科目に関する問題を解決できる。
(C)専門工学知識の上に「生産」に関わる実践的技術を身に付けた技術者
①専門工学の実験に必要な知識を深め、実験や実習を通じて、問題解決の経験を積む。
②機器類(装置・計測器・コンピュータなど)を用いて、データを収集し、処理できる。
③実験結果から適切な図や表を作り、専門工学知識をもとに分析し、結論を導き出せる。
④実験や実習について、方法・結果・考察を的確にまとめ、報告できる。
(D)幅広い視野から問題を捉え、複数分野の工学知識・技術を有機的に結び付け、総合的に問題を解決する素養を有する技術者
①専攻分野における専門工学の基礎に関する知識と基礎技術を総合し、応用できる、
②専攻分野の専門性に加え、他分野の知識も学習し、幅広い視野から問題点を把握できる。
③要求された問題に対して幅広い視野で問題点を把握し、その解決方法を提案できる。
④工学知識や技術を統合し、課題解決のための調査や実験を自発的に計画し、遂行できる。
⑤工学知識や技術を統合し、課題解決のための結果の整理・分析・考察・報告ができる。
(E)多様な文化を理解する能力を持ち、日本語および外国語によるコミュニケーション能力を有する技術者
①歴史・文化・日本文学(国語)・外国語を学び、多様な文化を理解できる。
②実験・実習・調査・研究内容について、日本語で論理的に記述し、報告・討論できる。
③専攻分野の技術英文を含め、英文を読解し、日本語での内容説明ができる。
④調査・研究の目的と内容を理解した上で、その概要を英語で記述できる。
⑤英語による基本的な会話ができる。
(F)歴史・文化・社会に関する教養と環境な心身を持ち、技術の社会・環境との関わりを考えることのできる技術者
①歴史・文化・社会に関する知識を持ち、それらを示すことができる。
②工業技術と社会・環境との関わりを理解し、社会・環境への効果と影響を説明できる。

（出典　平成25年度シラバス）

資料５－１－①－２

準学士課程の教育目標と各科で養成する人物像との対応

Ver.1-A　平成24年1月16日（月）

No.	養成する人物像	A 基礎学力 ①◎	A 基礎学力 ②◎	B 専攻専門 ①◎	B 専攻専門 ②○	C 専門実践 ①◎	C 専門実践 ②◎	C 専門実践 ③◎	C 専門実践 ④◎	D 総合・技術 ①◎	D 総合・技術 ②◎	D 総合・技術 ③◎	E コミュニケーション ①◎	E コミュニケーション ②◎	E コミュニケーション ③○	F 技術倫理 ①○	F 技術倫理 ②○	F 技術倫理 ③○	G 人間性溢業 ①◎	G 人間性溢業 ②◎	評価方法・基準（評価対象科目）
総合科学科	(1)	総合的な教養・見識を身につけ、多面的な思考・判断のできる人材											◎		○	○	○		◎		国語、地理、日本文化論、基礎数学、化学、物理、英語、基礎情報処理
	(2)	真理を追究し、世界的視点に立って時代の要求を洞察できる人材													◎		◎	○			人間関係論、歴史、英語
	(3)	自己を確立し、多様な社会・文化・自然を尊重し、これらとの共生を目指す人材														◎			○		日本文化論、歴史、体育、音楽
	(4)	論理的思考や言語表現の基礎的能力を養成し、自ら問題を発見し解決することのできる人材	○	◎									○	◎							現代文、近代文学、微分積分、代数幾何、英語
	(5)	ゆるぎない信念を持ち、生涯にわたり健やかな心身を自ら育む人材																	◎	○	人間関係論、保健、体育
機械工学科	(1)	機械工学の本質を知り、問題解決のための理解力と解析力を身につけた技術者	◎	◎	○																材料力学Ⅱ、流体力学、伝熱工学、機械加工学
	(2)	人間性と自己の確立に努力し、独自創造力を身につけた技術者		○	◎	◎	○		○		○										設計工学Ⅱ、設計製図Ⅰ・Ⅱ
	(3)	機械工学における個々の技術を統合し、システム化するための知識と能力を身につけた技術者	○	○	○	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎		◎	○		◎	○	○		機械工学実験Ⅰ・Ⅱ、卒業研究
電気電子工学科	(1)	電気回路、電磁気、電子回路等の専門基礎科目及び数学、物理の基礎力を十分持ち、電気工学、電子工学、制御工学、情報工学の上より高度な問題に対応できる能力を身につけた技術者	◎	◎																	専門の座学ほとんど
	(2)	自ら専門知識・技術を高めることができる能力を身につけた技術者		○	◎	◎	◎	◎	◎												1年製図、1年工学基礎実験から5年実験まで
	(3)	専門知識を活かし問題を解決できる能力を身につけた技術者				○	◎	○	○	◎	◎	◎		◎			○	○			電子回路製作実習、卒業研究、学外実習、電気法規及び施設管理
電子制御工学科	(1)	電気電子、情報、システム・制御系分野の工学基礎を身につけた技術者	◎		◎					○											電気磁気学、電子回路Ⅱ、情報伝送、制御機器Ⅰ、制御理論Ⅰ、情報処理Ⅲ、
	(2)	システムのハードウェアとソフトウェアに関する実践的な技術を身につけた技術者	◎		◎																計算機システムⅠ、計算機システムⅡ、情報処理Ⅳ
	(3)	身につけた専門基礎知識・技術を総合し、応用できる能力を身につけた技術者		◎		◎				◎											電気回路特論Ⅰ、電気回路特論Ⅱ、制御機器Ⅱ、制御理論Ⅱ、情報処理演習
	(4)	実験・実習や調査・研究内容などを記述し、報告できる能力を身につけた技術者			◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○	◎	○	○	○	◎	◎	◎	電子制御工学実験実習Ⅰ、学外実習、長期学外実習
制御情報工学科	(1)	問題解決能力と提案能力を備えた豊かな創造性を身に付けた技術者				◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎		◎			○				設計製作、卒業研究
	(2)	体系的かつ実践的な学習によるインターフェース技術を身に付けた技術者	◎	◎	◎	○				○											センサ工学、応用センサ工学、ディジタル回路
	(3)	国際感覚を持ち技術者倫理を身に付けた技術者												○	○		◎	◎			工業英語、学外実習、品質管理
物質化学工学科	(1)	自主的・継続的な学習を通じて、自ら知識や技術を高めることができる技術者	◎	◎	○	○															応用化学工学演習、生物化学工学演習、基礎生物化学工学
	(2)	物質化学工学分野に関する知識と実践的技術を身につけた技術者			◎		◎	◎	◎												機器分析実験、生物化学工学実験、応用化学工学実験、生物工学実験
	(3)	物質化学工学分野に関する知識や技術を活かし、問題を解決する能力を有する技術者								◎	◎	◎		◎							卒業研究、学外実習
	(4)	工業技術と社会・環境との関わりを理解でき、倫理観を有する技術者																◎	○		学外実習、安全工学、応用生物工学

（出典　平成25年度シラバス）

資料５－１－①－３

一般科目（各学科共通）（平成２５～２１年度入学生・１～５年生）

授業科目		単位数	学年別配当 1年	2年	3年	4年	5年	備考
必修科目	国語 Ⅰ	2	2					
	国語 Ⅱ	2		2				
	現代文学	2			2			
	近代文学	2				2		
	地理	2	2					
	人間関係論	2		2				
	日本文化論	2		2				
	歴史	2			2			
	基礎数学Ⅰ	4	4					
	基礎数学Ⅱ	2	2					
	微分積分Ⅰ	4		4				
	微分積分Ⅱ	4			4			
	代数幾何Ⅰ	2		2				
	代数幾何Ⅱ	2			2			
	物理Ⅰ	4			4			
	化学	4	2 (4)	2 (0)				（ ）は物質化学工学科
	基礎情報処理	2	2					
	保健	1	1					
	体育Ⅰ	2	2					
	体育Ⅱ	2		2				
	体育Ⅲ	2			2			
	体育Ⅳ	2				2		
	音楽	1	1					
	英語 A Ⅰ	4	4					
	英語 A Ⅱ	4		4				
	英語 A Ⅲ	2			2			
	英語 A Ⅳ	2				2		
	英語 B Ⅰ	2	2					
	英語 B Ⅱ	2			2			
	英語 C	2					2	
必修科目単位数計		72	24 (26)	24 (22)	16	6	2	（ ）は物質化学工学科
選択科目	基礎ネットワーキング	2				2		自由選択
	応用ネットワーキング	2					2	自由選択、1単位のみ履修可能
	他高専・大学での履修科目	6			6			自由選択、単位の認定は学則に定める
	第２外国語	2			2			ドイツ語・中国語・韓国語のうちから１言語を選択 前学生科目、留学生は第２外国語に第２言語を履修
	日本文学	4				2	2	
	法学	2				2		４年で２単位、 ５年で２単位修得
	史学概論	4				2	2	
	哲学（倫理学）	4				2	2	
	地理学	4				2	2	
	経済学	4				2	2	
	日本文学論	1				1		前期・後期
	社会科学論	1				1		
	体育特論	1				1		前期のみ
	数学概論	1				1		後期のみ
	数学特論	1				1		前期で１単位 後期で１単位 修得
	英語演習	1				1		前期のみ
	英語講読	1				1		後期のみ
選択科目開設単位数計		※37			※ 6	3	19	3 12
選択科目修得単位数計		8			2	4	2	
開設単位数計		※109	24 (26)	24 (22)	※ 22	25	14	（ ）は物質化学工学科
修得単位数計		80	24 (26)	24 (22)	18	10	4	（ ）は物質化学工学科

※ 留学生科目を除いた単位数

電気電子工学科（平成２５～２２年度入学生・１～４年生）

□□□□□□□□目		単位数	□学□□□配□当 1年	2年	3年	4年	5年	備考
必修科目	応用数学Ⅰ	2				2		
	応用数学Ⅱ	2					2	
	物理Ⅱ	2			2			
	応用物理	2				2		
	電気電子製図	2	2					
	情報処理Ⅰ	1	1					
	情報処理Ⅱ	2		2				
	情報処理Ⅲ	2			2			
	数値計算法	2				2		
	画像処理工学	1					1	
	電気電子基礎演習	2	2					
	電気電子工学演習Ⅰ	2				2		
	電気電子工学演習Ⅱ	1					1	
	電気回路Ⅰ	1	1					
	電気回路Ⅱ	2	2					
	電気回路Ⅲ	2			2			
	電気回路Ⅳ	2				2		
	電気電子計測工学	2				2		
	電気電子工学Ⅰ	2			2			
	電気磁気学Ⅰ	2				2		
	電気磁気学Ⅱ	2					2	
	電子回路Ⅰ	2			2			
	電子回路Ⅱ	2				2		
	電子工学	2				2		
	電気電子材料	2					2	
	電気機器Ⅰ	2			2			
	電気機器Ⅱ	1				1		
	電気磁気学Ⅲ	2				2		
	ディジタル回路Ⅰ	1				1		
	ディジタル回路Ⅱ	1					1	
	基礎制御工学Ⅰ	2				2		
	基礎制御工学Ⅱ	1					1	
	基礎情報工学Ⅰ	2				2		
	基礎情報工学Ⅱ	1					1	
	パワーエレクトロニクス	1					1	
	高電圧工学	2					2	
	電子工学	2					2	
	電気回路Ⅲ	2				2		
	電力システム工学	2					2	
	エネルギー変換工学	1					1	
	英語	1					1	
	電子回路製作実習	1				1		
	工業基礎実験	2	2					
	電気電子基礎工学実験	2	2					
	電気電子計測工学実験	3		3				
	電気電子制御工学実験	3			3			
	電気電子応用工学実験	3				3		
	卒業研究	9					9	
必修科目単位数計		85	8	9	15	25	28	
選択科目	学外実習	1				1		
	インターンシップ	1					1	
	電気法規及び施設管理	1					1	2単位以上修得
	品質管理	1					1	
	ロボット工学	1				1		
選択科目開設単位数計		5				1	4	
選択科目修得単位数計		（ 1 ）				0	2	（ ）は学外実習修得の者
専門科目開設単位数計		90	8	9	15	26	32	
専門科目修得単位数計		87	8	9	15	25 (26)	30 (29)	（ ）は学外実習修得の者
一般科目開設単位数計		※109	24	24	※22	25	14	
一般科目修得単位数計		80	24	24	18	10	4	
開設総単位数計		※199	32	33	※37	51	46	
修得総単位数計		167	32	33	33	35 (36)	34 (33)	（ ）は学外実習修得の者

※□□生科目を除いた単位数

（出典　平成25年度シラバス）

資料５－１－①－４

学習・教育目標達成のための専門科目（電気電子工学科）

（ ）内数字は単位数，選のついている科目は選択科目，ついていない科目は必修科目を表す。

学習・教育目標		科目 本科 1年	2年	3年	4年	5年
A	①	情報処理Ⅰ(①) 電気回路Ⅰ(①) 工学基礎実験(②)	情報処理Ⅱ(②) 電気電子基礎演習(②) 電気回路Ⅱ(②)	物理Ⅱ(②) 情報処理Ⅲ(②) 電気回路Ⅲ(②) 電気磁気学Ⅰ(②)	応用数学Ⅰ(②) 応用物理(②) 数値計算法(②) 電気回路Ⅳ(②) 電気磁気学Ⅱ(②) 電気電子工学演習Ⅰ(②) ディジタル回路Ⅰ(①)	応用数学Ⅱ(②) 画像処理工学(①) ディジタル回路Ⅱ(①)
	②	電気回路Ⅰ(①)	情報処理Ⅱ(②) 電気電子基礎演習(②) 電気回路Ⅱ(②)	情報処理Ⅲ(②)	応用物理(②) 数値計算法(②)	応用数学Ⅱ(②)
B	①	電気電子製図(②) 情報処理Ⅰ(①) 電気回路Ⅰ(①) 工学基礎実験(②) 電気電子基礎工学実験(②)	情報処理Ⅱ(②) 電気電子基礎演習(②) 電気回路Ⅱ(②) 電気電子計測工学実験(②)	物理Ⅱ(②) 情報処理Ⅲ(②) 電気回路Ⅲ(②) 電気磁気学Ⅰ(②) 電子回路Ⅰ(②) 電気機器Ⅰ(②) 電気電子情報工学実験(③)	応用物理(②) 数値計算法(②) 電気電子工学演習Ⅰ(②) 電気回路Ⅳ(②) 電気電子計測工学(①) 電気磁気学Ⅱ(②) 電子回路Ⅱ(②) 電子工学(②) 電気機器Ⅱ(①) ディジタル回路Ⅰ(①) 基礎制御工学Ⅰ(②) 電子回路製作実習(①) 電気電子制御工学実験(③)	画像処理工学(①) 電気電子工学演習Ⅱ(①) 電気電子材料(②) ディジタル回路Ⅱ(①) 基礎制御工学Ⅱ(①) パワーエレクトロニクス(①) 高電圧工学(②) 通信工学(②) 電力システム工学(②) エネルギー変換工学(①) 電気電子応用工学実験(②) レーザ工学(選①) 電気法規及び施設管理(選①) 品質管理(選①) ロボット工学(選①)
	②	電気回路Ⅰ(①) 電気電子基礎工学実験(②)	情報処理Ⅱ(②) 電気電子基礎演習(②) 電気回路Ⅱ(②) 電気電子計測工学実験(②)	物理Ⅱ(②) 情報処理Ⅲ(②) 電気回路Ⅲ(②) 電気磁気学Ⅰ(②) 電気電子情報工学実験(③)	応用物理(②) 電気電子工学演習Ⅰ(②) 電気回路Ⅳ(②) 電気電子計測工学(①) 電気磁気学Ⅱ(②) 電子回路Ⅱ(②) 電子工学(②) 電気機器Ⅱ(②) ディジタル回路Ⅰ(①) 基礎制御工学Ⅰ(②) 電子回路製作実習(①) 電気電子制御工学実験(③)	画像処理工学(①) 電気電子工学演習Ⅱ(①) 電気電子材料(②) ディジタル回路Ⅱ(①) 基礎制御工学Ⅱ(①) パワーエレクトロニクス(①) 高電圧工学(②) 通信工学(②) 電力システム工学(②) 電気電子応用工学実験(②) レーザ工学(選①) ロボット工学(選①)
	①	情報処理Ⅰ(①) 工学基礎実験(②) 電気電子基礎工学実験(②)	情報処理Ⅱ(②) 電気電子計測工学実験(②)	情報処理Ⅲ(②) 電気電子情報工学実験(③)	数値計算法(②) 電気電子工学演習Ⅰ(②) 基礎制御工学Ⅰ(②) ディジタル回路Ⅰ(①) 電子回路製作実習(①)	画像処理工学(①) 電気電子工学演習Ⅱ(①) ディジタル回路Ⅱ(①) 基礎制御工学Ⅱ(①) 電力システム工学(②)

（出典　JABEE・認証評価委員会資料（一部抜粋））

資料５－１－①－５

準学士課程の教育目標に対する一般科目の関与の程度

［電気電子工学科：平成25年度1年生の5年間のカリキュラム］

	授業科目	単位	学年	必須選択など	講義演習実験研究等の別	準学士課程の教育目標に対する関与の程度□（：主　○：従）																		一般科目で養成する人物像に対する関与の程度（◎：主　○：従）				
						A		B		C				D			E			F			G						
						①	②	①	②	①	②	③	④	①	②	③	①	②	③	①	②	③	①	②	①	②	③	④	⑤
1年	国語Ⅰ	2	1	必修	講義												◎	◎		○							○	◎	
	地理	2	1	必修	講義												◎				◎					○	◎		
	基礎数学Ⅰ	4	1	必修	講義	◎	◎																		◎	○		◎	
	基礎数学Ⅱ	2	1	必修	講義	◎	◎																		◎	○		◎	
	化学	2	1	必修	講義	◎	○		○																◎	◎	○	○	○
	基礎情報処理	2	1	必修	講義	◎	◎											○			○	○	○		◎	○		◎	
	保健	1	1	必修	講義															○	◎	◎			○				◎
	体育Ⅰ	2	1	必修	実技																		◎	◎					◎
	音楽	2	1	必修	講義															◎							◎		
	英語AⅠ	4	1	必修	講義												◎								○			◎	
	英語BⅠ	2	1	必修	講義												◎								○			◎	
2年	国語Ⅱ	2	2	必修	講義												◎	◎		○							○	◎	
	人間関係論	2	2	必修	講義																◎	◎	◎		○				◎
	日本文化論	2	2	必修	講義												◎			◎	◎				◎			○	
	微分積分Ⅰ	4	2	必修	講義	◎	◎																		◎	○		◎	
	代数幾何Ⅰ	2	2	必修	講義	◎	◎																		◎	○		◎	
	物理Ⅰ	4	2	必修	講義	◎	○		○																◎	◎	○	○	○
	化学	2	2	必修	講義	◎	○		○																◎	◎	○	○	○
	体育Ⅱ	2	2	必修	実技																		◎	◎					◎
	英語AⅡ	4	2	必修	講義												◎								○				
3年	現代文	2	3	必修	講義												◎	◎		○							○	◎	
	歴史	2	3	必修	講義												◎			◎	◎					◎	○		
	微分積分Ⅱ	4	3	必修	講義	◎	◎																		◎	○		◎	
	代数幾何Ⅱ	2	3	必修	講義	◎	◎																		◎	○		◎	
	体育Ⅲ	2	3	必修	実技																		◎	◎					◎
	英語AⅢ	2	3	必修	講義												◎								○			◎	
	英語BⅡ	2	3	必修	講義												◎								○			◎	
	第2外国語	2	3	必修	講義												◎			◎					○			◎	
	日本語	2	3	必修	講義																								
4・5年	近代文学	2	4	必修	講義												◎			◎					○		○	◎	
	保健・体育Ⅳ	2	4	必修	実技	○														◎									◎
	英語AⅣ	2	4	必修	講義												◎		◎						○			◎	
	英語C	2	5	必修	講義												◎								○			◎	
	社会選択																												
	法学	2	4, 5	選必	講義															◎		○			◎			○	
	史学概論	2	4, 5	選必	講義												○			◎						◎	○		
	哲学（倫理学）	2	4, 5	選必	講義															◎		◎			○				◎
	地理学	2	4, 5	選必	講義												○			◎						○	◎		
	経済学	2	4, 5	選必	講義															◎	○				◎				
	一般総合選択																												
	日本文学論	1	4	選必	講義												○	○		◎					○		○	◎	
	社会特論	1	4	選必	講義															◎							◎		
	体育特論	1	4	選必	講義・実技	○														◎					○			○	◎
	数学演習	1	4	選必	演習	◎																			◎	○		◎	
	数学特論	1	4	選必	講義	◎																			◎	○		◎	
	英語特論	1	4	選必	講義												◎		◎						○			◎	
	英語演習	1	4	選必	演習												◎		◎						○			◎	
	基礎ネットワーキング	2	4	選択	講義			◎		◎															◎	○		◎	
	応用ネットワーキング	2	5	選択	講義			◎	◎	◎															◎	○		◎	

（出典　平成25年度シラバスより作成）

資料５－１－①－６

準学士課程の教育目標に対する専門科目の関与の程度

［電気電子工学科：平成25年度1年生の5年間のカリキュラム］

	授業科目	単位	学年	必須選択など	講義演習実験研究等の別	準学士課程の教育目標に対する関与の程度□(：主　○：従)																		専門科目で養成する人物像に対する関与の程度（◎：主　○：従）		
						A		B		C				D			E			F			G				
						①	②	①	②	①	②	③	④	①	②	③	①	②	③	①	②	③	①	②	①	②	③
1年	電気電子製図	2	1	必修	講義			◎				◎														◎	
	情報処理Ⅰ	1	1	必修	講義	◎		◎		○															◎		
	電気回路Ⅰ	1	1	必修	講義	○	○	◎	◎																◎		
	工学基礎実験	2	1	必修	実験	○		○		◎				○												◎	
	電気電子基礎工学実験	2	1	必修	実験			○	○	◎	◎	○	◎					○								◎	
2年	情報処理Ⅱ	2	2	必修	講義	◎	○	◎	○	○															◎		
	電気電子基礎演習	2	2	必修	演習	◎	○	◎	◎																◎		
	電気回路Ⅱ	2	2	必修	講義	○	○	◎	◎																◎		
	電気電子計測工学実験	3	2	必修	実験			○	○	◎	◎	○	◎					○								◎	
3年	物理Ⅱ	2	3	必修	講義	◎		○	○																◎		
	情報処理Ⅲ	2	3	必修	講義	◎	○	◎	○	○															◎		
	電気回路Ⅲ	2	3	必修	講義	○		◎	◎																◎		
	電気磁気学Ⅰ	2	3	必修	講義	○		◎	◎																◎		
	電子回路Ⅰ	2	3	必修	講義			◎																	◎		
	電気機器Ⅰ	2	3	必修	講義			◎																	◎		
	電気電子情報工学実験	3	3	必修	実験			○	○	◎	◎	○	◎					○								◎	
4年	応用数学Ⅰ	2	4	必修	講義	◎																			◎		
	応用物理	2	4	必修	講義	◎	○	○	○																◎		
	数値計算法	2	4	必修	講義	○	○	◎		◎															◎		
	電気電子工学演習Ⅰ	2	4	必修	演習	○		○	◎	◎															◎	○	
	電気回路Ⅳ	2	4	必修	講義	○		◎	◎																◎		
	電気電子計測工学	1	4	必修	講義			◎	◎																◎		
	電気磁気学Ⅱ	2	4	必修	講義	○		◎	◎																◎		
	電子回路Ⅱ	2	4	必修	講義			◎	◎																◎		
	電子工学	2	4	必修	講義			◎	○																◎		
	電気機器Ⅱ	1	4	必修	講義			◎	○																◎		
	ディジタル回路Ⅰ	1	4	必修	講義	○		◎	○	○															◎		
	基礎制御工学Ⅰ	2	4	必修	講義			◎	○	○															◎		
	電子回路製作実習	1	4	必修	講義・実験			○	○	◎	◎	○		○	○	○		○									◎
	電気電子制御工学実験	3	4	必修	実験			○	○	◎	◎	○	◎	◎				○								◎	
	学外実習	1	4	選択	Q									◎				○			○	○					◎
5年	応用数学Ⅱ	2	5	必修	講義	◎	◎																		◎		
	画像処理工学	1	5	必修	講義	○		◎	◎	◎	◎														◎		
	電気電子工学演習Ⅱ	1	5	必修	演習			○	◎	◎															◎	○	
	電気電子材料	2	5	必修	講義			◎	○																◎		
	ディジタル回路Ⅱ	1	5	必修	講義	○		◎	○	○															◎		
	基礎制御工学Ⅱ	1	5	必修	講義			◎	◎	○															◎		
	パワーエレクトロニクス	1	5	必修	講義			◎	◎																◎		
	高電圧工学	2	5	必修	講義			◎	○																◎		
	通信工学	2	5	必修	講義			◎	○																◎		
	電力システム工学	2	5	必修	講義			◎	○					◎							○				◎		○
	エネルギー変換工学	1	5	必修	講義			◎																	◎		
	工業英語	1	5	必修	講義			○									◎		◎						◎		
	電気電子応用工学実験	2	5	必修	実験			○	○	◎	◎	◎	◎	◎				○								◎	
	卒業研究	9	5	必修	実験					◎	○	◎	◎	◎	○	○		○			○						◎
	レーザ工学	1	5	選択	講義			◎	○																◎		
	電気法規及び施設管理	1	5	選択	講義			○													○	◎					◎
	品質管理	1	5	選択	講義			◎						○		◎					○				○		
	ロボット工学	1	5	選択	講義			◎	○					○											○		

（出典　平成25年度シラバスより作成）

資料５－１－①－７

平成２４年度特別活動　学級活動実施報告

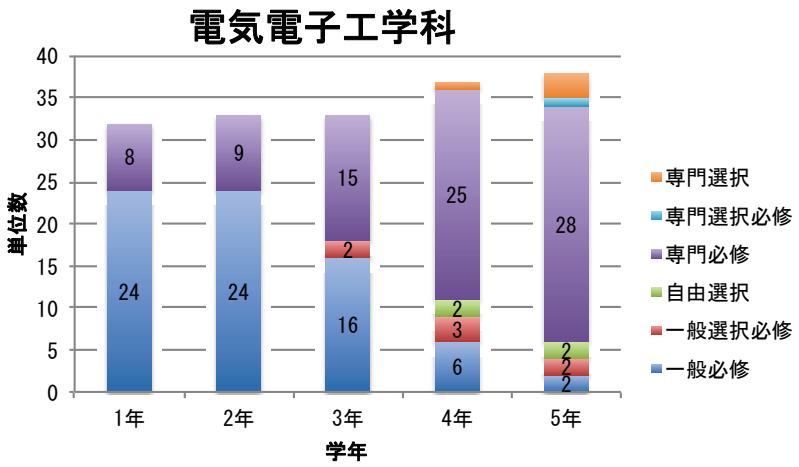
３　学年　　機械工　学科　　担任氏名　種　　健

	実施日	曜日	時限	実　施　内　容
1	4月12日	木	7	3 年次における学生生活(学習，日常生活，進路)についての指導を行った。また、4/19 の3Mオリエンテーションならびに 4/24 の歩行大会についての事前説明を行った。
2	5月10日	木	7	ゴールデンウィークを振り返っての作文を書いてもらった。その後、5/12 の体育祭に向けた準備を行った。また、6 月に入るとすぐに前学期中間試験(6/6～6/12)が始まることから、体育祭の後は切り替えて試験勉強を行うように指導した(専門科目数が増え、難易度が増していること)。
3	6月14日	木	7	進路を考えるための作文を課した。作文には1週間の期限を設け、保護者と話す機会を設けるように指導した。続いて、6/20 に行われる救急法講習会の説明を行った。また、6/27 に開かれるクラスマッチの選手決めと練習を行った。
4	7月12日	木	7	夏休み中の学習や日常生活を送る際の注意点を指導した。とくに、前期終了の科目については、しっかりと対策をとるように注意した(9/10～18)。また、高専体育大会に向けて部活動にも積極的に取り組むように指導した。最後に、高専祭のクラス展示の製作を夏休み中に行うため、積極的に参加・協力するように指導した。 以下略

（出典　教務委員会資料，平成24年度特別活動実施報告（一部抜粋））

資料５－１－①－８

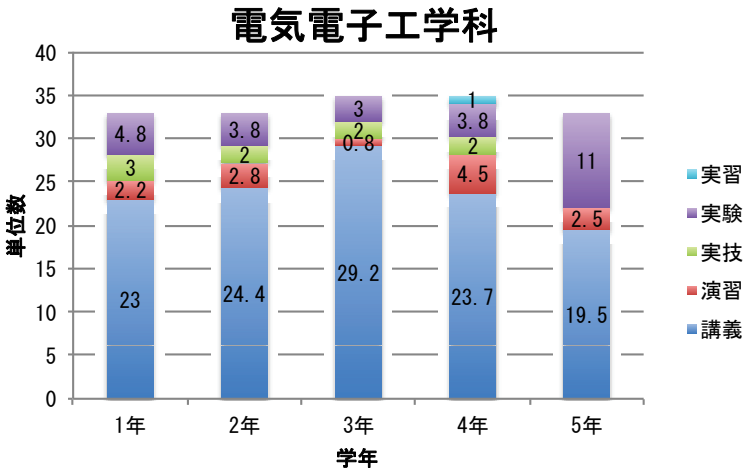
各学年の一般科目と専門科目の割合（電気電子工学科）



（出典　平成25年度シラバスより作成）

資料５－１－①－９

各学年の授業形態の割合（電気電子工学科）



（出典　平成25年度シラバスより作成）

資料５－１－①－10

第１７回教務委員会議事要録

１．日　時　　平成２４年３月１４日（水）１３時３０分～１５時３０分

２．場　所　　管理棟２階　会議室

３．出席者　　内田、浅尾、油谷、太屋岡、古野、後藤、大谷、徳一、安倍
（佐々木学生課長補佐、教務係・・・松雪、西尾）

４．議題等

（１）報告事項

ア．平成 23 年度第 15 回・第 16 回教務委員会議事要録について
資料１のとおり、第 15 回（2 月 8 日開催）及び第 16 回（2 月 20 日～22 日持ち回り）

中略

ケ．シラバス・チェックリスト・月割表の作成計画について
委員長から、シラバス・チェックリスト・月割表の作成状況についての確認があり、シラバスについては各学科で責任をもって修正していただくよう要請があった。
また、チェックリストの保存ファイル名の付け方は太屋岡委員から連絡することとし、月割表については早急に一般科目を作成してもらった後に各専門学科で仕上げることとした。

（出典　平成23年度第17回教務委員会議事要録）

資料５－１－①－11は，各学科が目標に掲げる専門分野である。例えば，電気電子工学科の科目系統図を分野で色分けすると資料５－１－①－12のようになり，学年と共に専門分野の高度化と連携が図られている。従って，学科の専門に照らして教育課程が体系的に編成されている。

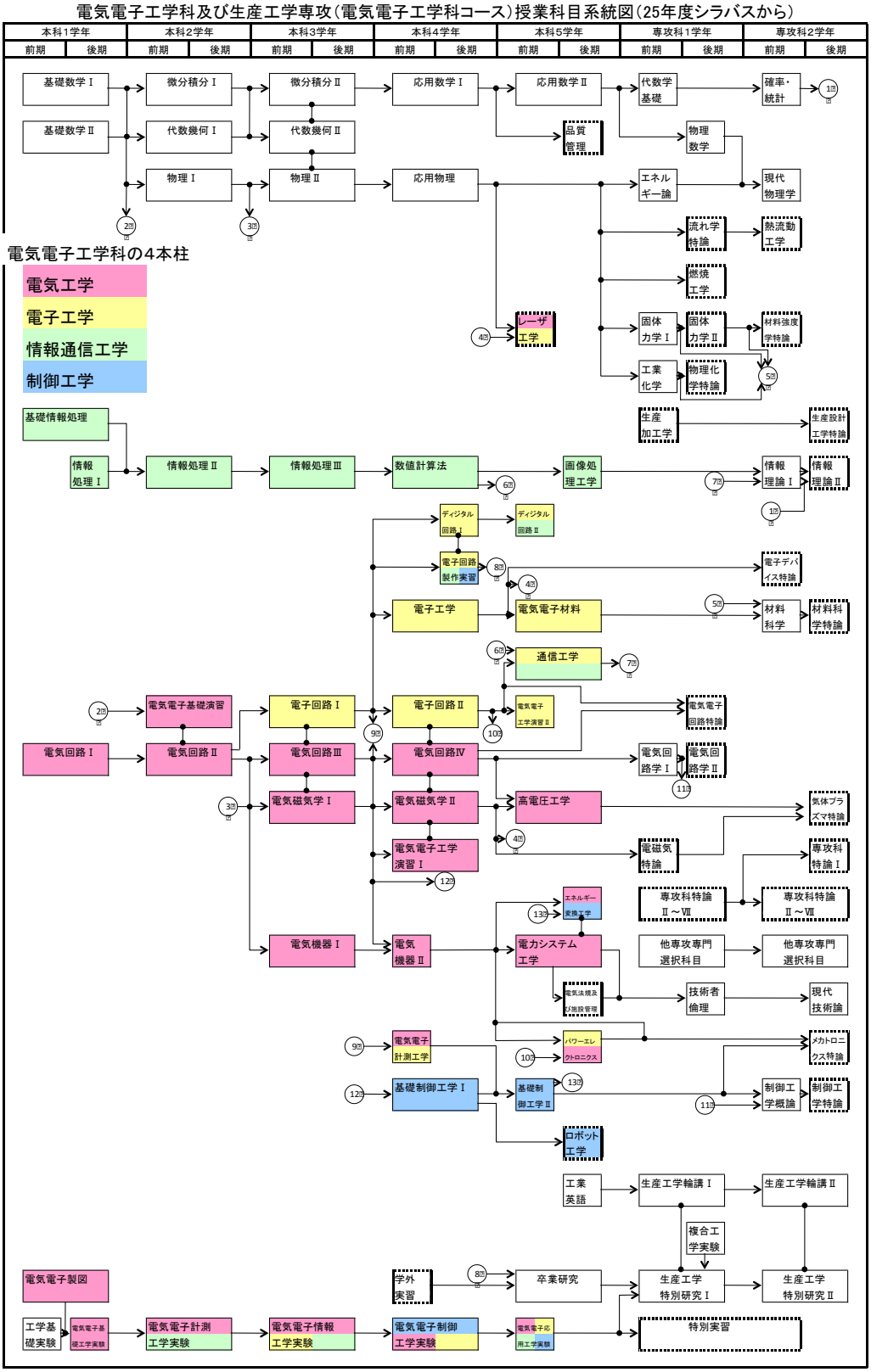
資料５－１－①－11

学科	目標に掲げる専門分野
機械工学科	熱・流体工学，材料・材料力学，設計・加工学
電気電子工学科	電気工学，電子工学，情報通信工学，制御工学
電子制御工学科	電気・電子工学，制御工学，情報工学
制御情報工学科	機械工学，制御工学，情報工学
物質化学工学科（応用化学工学コース）（生物化学工学コース）	物理化学，有機・高分子化学，化学工学，無機・材料化学 生命・生物工学

（出典　平成25年度シラバスより作成）

資料５－１－①－12

電気電子工学科及び生産工学専攻（電気電子工学科コース）授業科目系統図（25年度シラバスから）



（出典　平成25年度シラバスより作成）

（分析結果とその根拠理由）

教育目的達成のための具体的な教育目標（技術者像）に照らして，授業科目が学年ごとに適切かつ体系的に配置され，段階的に学力や資質・能力が身に付くように配慮されている。また，各学科の養成する人物像の観点から見ても教育課程は体系的に編成されている。

観点５－１－②：　教育課程の編成又は授業科目の内容において、学生の多様なニーズ、学術の発展の動向、社会からの要請等に配慮しているか。

（観点に係る状況）

教育理念の「明るい未来を創造する開拓型エンジニアの育成」は，時代の要請に応えるものづくり人材（＝グローバル人材・イノベーション人材）の育成と同義であり，理念に沿った教育の実施が，学生のニーズや社会の要請等に応えることになると考えている（資料５－１－②－１）。グローバル人材・イノベーション人材の育成のため，教育課程の編成に，資料５－１－②－１の①専門教育の高度化，以下②～⑥等々が反映されている。

＜①専門教育の高度化＞　より高度な情報技術修得のため，一般科目の自由選択科目として，専門学科の複数教員が担当する「基礎ネットワーキング」と「応用ネットワーキング」を設置している（資料５－１－②－２，３）。この科目では，e-learningによる自学自習の支援を積極的に取り入れ，様々な学科の学生が学んでいる（資料５－１－②－４）。従って，資料５－１－②－１の⑤の要素も含んでいる。また，資格取得できるレベルまでの内容を教育している。

他学科の授業科目の履修制度はないが，専門学科の教員が他学科の科目を担当することで，実質的に学生がより高度な教育を受けられるように配慮している（資料５－１－②－５）。特に，「流体力学（機械工学科５年）」と「流動システム工学（制御情報工学科５年）」では，学科・専門が異なる２名の教員で授業を行うことで，高度な専門教育を行う（資料５－１－②－６）。

資料５－１－②－１

平成25年第１回教員会議，校長の所信表明

基本方針

- 学生の育成が最優先という共通認識
  - グローバル人材・イノベーション人材の育成
- 教職員がそれぞれの立場で改革を実践し、変革を楽しむ姿勢の共有化
  - ■■■■■■■■
  - ■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■
- ■■■■■■■■■■■■■■■■■■
- ■■■■■■■■■■■■■■■■■■
- グローバル化対応
- 次の10年間の基盤となる活動作り

■■■■■■■■■■■■■■■■■■■

資料５－１－②－２

【教科名】基礎ネットワーキング　　Fundamentals of Networking　《H25 学修単位科目》

学年	学科	単位数	期間	開設週数	学校授業時間		自学自習時間		総時間
					時間/週	総時間	時間/週	総時間	
4	全工学科	（選択）2	通年	30	1	30	2	60	90

【担当教員】	【教員室】	【TEL】	【e-mail】
安信　強	8 号館 1 階	7291	yasunobu
小清水　孝夫	3 号館 2 階	7332	kosimizu
古野　誠治	8 号館 3 階	7261	furuno
桐本　賢太	3 号館 2 階	7272	kirimoto
井田　利浩	4 号館 5 階	7285	ida

【授業目的と概要】

急速な IT の普及によりネットワークの設計者や管理者が著しく不足しており、その育成が急務となっている。本講義では、ネットワークの基本原理と現在の標準である TCP/IP プロトコルの理解を目的とし、将来的に資格を取得できるレベルの実力を養成することを目指す。

【授業の進め方及び履修上の注意】

座学を中心とし、必要に応じて演習を行う。また、授業の一部を e-learning により行うので､出席やレポート等の提出について注意すること。

【自学自習の指導について】

授業では基本事項と重要事項の解説を主体とし、e-learning による演習、課題と自学自習により理解を深めさせる。

授　業　項　目	内　　容	時間
【前期】		
1. OSI 参照モデル	・OSI 参照モデルに関する知識	1
	・OSI 参照モデルとカプセル化	2
	・OSI7 階層の役割	2
2. イーサネットとネットワークデバイス	・イーサネット規格	2
	・ネットワークデバイス	2
中間試験		
3. ケーブリング	・LAN のケーブル接続と WAN のケーブル接続	1
	・TCP/IP プロトコルに関する知識	1
4. TCP/IP プロトコル	・アプリケーションプロトコル	2
	・TCP と UDP	2
期末試験		
【後期】		
5. IP アドレス	・IP アドレッシング	2
	・NAT および PAT	2
	・サブネットワーク	2
	・IP アドレスの計算	2
中間試験		
6. IP ルーティング	・ルーティングの基礎	2
	・スタティックルートとデフォルトルート	2
	・ルーティングプロトコルに関する知識	2
	・RIP と IGRP	1
定期試験		

【達成目標】

・OSI 参照モデルの基本事項について理解できる。
・イーサネットとネットワークデバイスについて理解できる。
・TCP/IP の基本事項について理解できる。
・IP アドレスの基本事項について理解できる。
・IP ルーティングの基本事項について理解できる。

【教科書】

徹底攻略 Cisco CCNA/CCENT 教科書[640-802J] [640-822J]対応 ICND 1 編、インプレスジャパン、森島昭人他著

【参考書】

マスタリング TCP/IP 入門編、森北出版、竹下隆史他著　　（図書館に準備）

JABEE 教育目標	(B)①,　(C)①
準学士課程目標	(B)①,　(C)①

成績評価

【評価基準】

達成目標に対する達成度を中間、期末および定期試験、演習問題およびレポート等により評価し、60 点以上を合格とする。

【評価方法】

中間試験・期末試験・定期試験の結果 70%、演習問題およびレポート等 30%

【オフィスアワー】

水曜日	午後 3 時 30 分から 5 時（安信）
水曜日	午後 3 時 30 分から 5 時（小清水）
水曜日	午後 3 時 30 分から 5 時（古野）
水曜日	午後 3 時 30 分から 5 時（桐本）
水曜日	午後 3 時 30 分から 5 時（井田）

（出典　平成25年度シラバス（基礎ネットワーキング））

資料５－１－②－３

【教科名】応用ネットワーキング　Advanced of Networking　《H25 学修単位科目》

学年	学科	単位数	期間	開設週数	学校授業時間		自学自習時間		総時間
					時間/週	総時間	時間/週	総時間	
5	全工学科	（選択）2	通年	30	1	30	2	60	90

【担当教員】白濱　成希　【教員室】4 号館 5 階　【TEL】7340　【e-mail】naruki
日高　康展　5 号館 2 階　7244　hitaka

【授業目的と概要】
基礎ネットワーキングで学んだ事項を演習で確認する。実際にルータを操作して、パスワードリカバリー、TFTP、RIP、ACL について学習する。また UTP ケーブルの構造についても理解する。

【授業の進め方及び履修上の注意】
原則として基礎ネットワーキングの単位取得者を対象とする。演習が中心である。

【自学自習の指導について】
e-learning サーバ上で出題される、チェック項目を確認することで学生の自学自習状況を把握する。その他、提出物の確認等も行う。

授　業　項　目	内　　容	時間
【前期】		
基礎ネットワーク復習	・ガイダンス、および IP アドレスなど必要となる知識を確認する。	2
CLI	・コマンドラインインターフェイスについて学ぶ。	2
パスワードリカバリー	・ハードウェアを理解しながら、コマンド操作に習熟する。	2
中間試験		
UTP ケーブル	・ストレート／クロスケーブルを作成する。	2
TFTP	・IOS のバックアップ／リストアを行う。	3
RIP	・小規模のネットワークを構築する。	4
期末試験		
【後期】		
アクセスリストの概要	・アクセスリストの概要に関する知識	1
アクセスリストによる	・アクセスリストの構成	1
パケットのフィルタリング	・ワイルドカードマスク	1
	・標準 IP アクセスリスト	2
	・拡張 IP アクセスリスト	2
中間試験		
アクセスリストの演習	・標準 IP アクセスリストと拡張 IP アクセスリスト	7
アクセスリストの検証	・アクセスリストの検証と名前付きアクセスリスト	1
定期試験		

【達成目標】
・ルータのハードウェアについて理解できる。
・CLI でルータを設定することができる。
・パスワードリカバリーができる。
・TFTP 操作ができる。
・UTP ケーブルが作成できる。
・ACL によるトラフィックフィルタリングを行うことができる。

【教科書】
徹底攻略 Cisco CCNA/CCENT 教科書
ICND1 編[640-802J][640-822J]対応、
インプレスジャパン、ソキウス・ジャパン
【参考書】
マスタリング TCP/IP 入門編、森北出版、
竹下隆史他著　（図書館に準備）

JABEE 教育目標	(B)①, (C)①
準学士課程目標	(B)①, (C)①

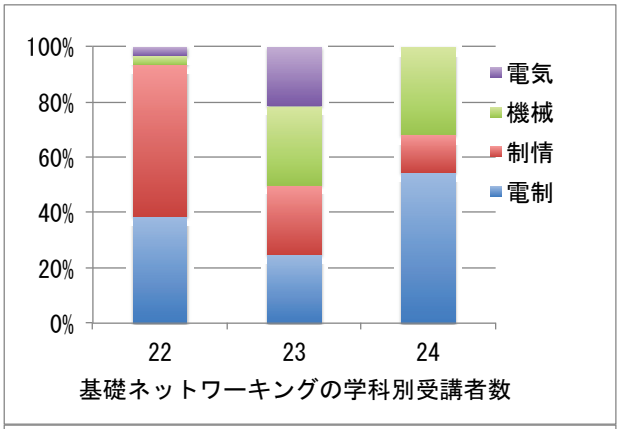
成績評価
【評価基準】
達成目標に対する達成度を中間、期末および定期試験、演習問題およびレポート等により評価し、60 点以上を合格とする。
【評価方法】
中間試験・期末試験・定期試験の結果 70%、演習問題およびレポート等 30%

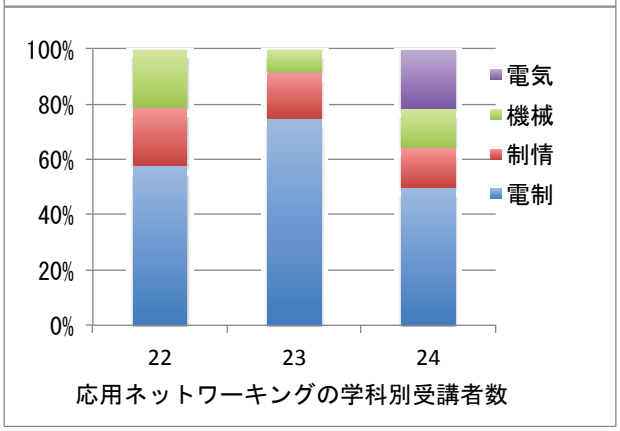
【オフィスアワー】
水曜日　午後 3 時 30 分から 5 時

（出典　平成25年度シラバス（応用ネットワーキング））

資料５－１－②－４

基礎ネットワーキング，応用ネットワーキングの学科別受講者の割合





（出典　教務係資料より作成）

資料５－１－②－５

表　平成24年度の教員の相互乗入れ

クラス	授業科目	担当教員
機械4年	電気電子工学	宮川（電気電子）
機械5年	流体力学	樫村（制御情報）
機械5年	生物工学概論	川原（物質化学）
電気電子1年	電気電子製図	井上（機械）
制御情報5年	流動システム工学	中山（機械）
物質化学4年	機械工学基礎	中山（機械）

（出典　平成24年度シラバスより作成）

資料５－１－②－６

【教科名】流体力学　Hydrodynamics　《H25 学修単位科目》

学年	学科	単位数	期間	開設週数	学校授業時間		自学自習時間		総時間
					時間/週	総時間	時間/週	総時間	
5	機械工学科	（必修）2	通年	30	2	60	1	30	90

【担当教員】中山　博愛　【教員室】3 号館 2 階　【TEL】7268　【e-mail】hironaka
　　樫村　秀男　8 号館 2 階　7294　kasimura

【授業目的と概要】
本授業では、流体力学が数学的に解析される学問であることを理解させることを目的とする。水や空気などの流体の流れがわれわれの生活に密接に関係しており、この流れを取り扱う流体力学は日常生活や工学の広範囲の分野において重要である。流体力学は、完全流体の力学、粘性流体の力学および圧縮性流体の力学に分類される。授業では、4 年次に習得した水力学の知識を基礎として、基礎式の導出過程および式の持つ物理的意味について詳しく解説する。
なお、前期および後期中間までは中山、後期の圧縮性流体の流れは樫村が担当する。

【授業の進め方及び履修上の注意】
数学的な取り扱いが多い学問であるので数学の基礎知識を確認しながら授業を進める。日常の具体例を取り上げながら物理的意味を解説し、これに数学の知識を応用する。

【自学自習の指導について】
教科書に沿って説明を行うが、式の導出は各自理解しながら進めて欲しい。数学の知識を多用するので、自宅学習で数学の参考書で式変形の方法を確認しながら問題を解いてください。

授　業　項　目	内　　容	時間
【前期】		
1　ガイダンス	1 年間の授業スケジュール（シラバス利用）	1

【教科名】流動システム工学　Fluid System Engineering　＜H25 履修単位科目＞

学年	学科	単位数	期間	開設週数	時間/週	総時間
5	制御情報工学科	（必修）3	通年	30	前期：4 後期：2	90

【担当教員】樫村　秀男　【教員室】8 号館 2 階　【TEL】7294　【e-mail】kasimura
　　中山　博愛　3 号館 2 階　7268　hironaka

【授業目的と概要】
多岐にわたる流れ学に関する事項のうち、基礎的でかつ重要と思われる部分を総括的に学習することを目的とする。前期（担当樫村）は円管内の流れや円柱などの物体周りの流れを中心に、後期前半（同樫村）は近年、種々の工業分野で重要性を増してきた圧縮性流れ、後期後半（同中山）は流体機械の中で液体を使用する水力機械について学習する。

【授業の進め方及び履修上の注意】
微分方程式などの高度な数学的手法をあまり用いずに、図や写真を用いて流れの中で生じる種々の現象について理解を深める。授業の最後に可能な限り、簡単な練習問題を取り入れる。前期は水力学、後期前半は熱力学に関する基本的な知識、後期後半は水力学の管路損失に関する基本的な知識が必要である。

授　業　項　目	内　　容	時間
【前期】		
1．流れの可視化方法	・煙法、色素流入法など各種の可視化手法	4

（出典　平成25年度シラバス（流体力学，流動システム工学））

＜②就業力向上とインターンシップの充実＞　全学科４年生で学外実習（インターンシップ，選択科目，１単位）を配置している（資料５－１－②－７）。学外実習のニーズは年々高まっており，平成24年度より，特命教授に任用した教育コーディネーター（後述）と公益財団法人北九州活性化協議会(KPEC)の協力を得て，受入企業をさらに開拓した（資料５－１－②－８，９）。電子制御工学科と制御情報工学科では平成22年度から，機械工学科では25年度から，４年生後学期に長期学外実習（選択科目，３単位）を配置している。長期学外実習では，半期の週１回終日実習先で実習を行う（資料５－１－②－10,11）。この実習では，履修希望者を面接し，適性がある者のみを選抜し，さらに事前学習を行い実習に取組ませる。さらに，担当教員へのレポート提出を毎週義務づけ，企業と協力してきめ細やかな指導を行っている。その結果，高い教育効果が得られている（資料５－１－②－12）。資料５－１－②－13は，過去３年分の受入企業一覧である。

国立高専機構の「企業技術者等活用プログラム」に「教育コーディネーター活用産学官連携共同教育」が採択され（平成23～24年度），教育コーディネーターを採用した。これにより，北九州地域産業人材育成フォーラムとの連携を強化し，インターンシップ推進セミナー等の活動を通じて，インターンシップ実施数の増加（平成24年度はコーディネーター仲介が５名）など顕著な成果を上げている（資料５－１－②－14）。

資料５－１－②－７

【教科名】学外実習　Extramural On-the-job Training　＜H25 履修単位科目＞

学年	学科	単位数	期間	開設週数	時間/週	総時間
4	機械工学科	（選択）1	夏季休業中	1～2 週間	-------	30 時間以上

【担当教員】入江　司　【教員室】3 号館 2 階　【TEL】7267　【e-mail】irie

【授業目的と概要】

企業・公的機関・大学などにおいて短期間の現場実習を体験することで、設計・生産・開発の技術、試験・研究・保守管理などについて実践的に学び、実社会の厳しさを知るとともに、社会人（技術者）として必要な人間性（責任感・協調性・倫理観など）の形成を目指す。また、学外実習を通して、勉学の意味と目標ならびに学生生活の意義を再認識することで、将来の進路選択に役立てる。

【授業の進め方及び履修上の注意】

第 4 学年時の夏季休業期間を利用して、企業・公的機関・大学などの実習受入れ先で、1～2 週間（実 30 時間以上）の実習を行う。実習内容は、実習受入れ先で計画されたカリキュラムに従って行われる。

《特記》　①実習受入れ先の選定、事務手続き、学校提出の実習報告書の作成など全般については、学級担任ならびに学生課教務係の指導を受け、最後まで自覚と責任を持って対応すること。
②事前に、「学外実習届」を学校へ提出すること。
③実習に必要な経費は原則自己負担であること、実習受入れ先によっては申込み時に書類選考があることに注意すること。
④実習に当たっては、実習受入れ先の規律・規則・指導に従い、実習には積極的に取り組み・コミュニケーションに努めるとともに、実習時間外であっても期間中は常に責任ある行動を心がけること。

授　業　項　目	内　　容	時間
【前期】 1．実習受入れ先の選定と事務手続き （4 月～7 月）	学級担任（学生課教務係）から連絡される「実習受入れ先一覧」から実習希望先を選定する。　学級担任を経由して、実習受入れ先へ「実習依頼状・履歴書・自己調査書・誓約書」などを送付する。受入れ先の決定後、学校へ「学外実習届」を提出する。（学級担任、学生課教務係）	30 時間以上
2．実習受入れ先での実習 （夏期休業期間中）	学級担任が行う「学外実習の諸注意および連絡」を遵守の上、実習受入れ先の指導に従い、1～2 週間の実務実習を行う。	
3．学外実習報告書の提出 （9 月）	実習学生は、学級担任が指示する「実習報告書への記載事項」を遵守し、実習終了後速やかに実習に関する「学外実習報告書」を仕上げ、必ず指定された期日までに学級担任へ提出する。	
4．実習受入れ先からの報告 （9 月～10 月）	実習先からの「実習報告書」を受理する。（学級担任、学生課教務係）	

【達成目標】
・企業などの実習受入れ先の活動を理解できる。
・職場のルールを守り、誠実な対応ができる。
・自覚を持って、積極的に実習への取組むことができる。
・学校での勉強と実社会との関わりを理解できる。
・実習を通して、社会人（技術者）としての人間性を養い、進路（就職・進学）への意識を高めることができる。

【教科書】
実習受入れ先で準備・提供される資料

【参考書】
実習受入れ先の指示による。

JABEE 教育目標	(D)①②, (E)②, (F)②③
準学士課程目標	(D)①, (E)②, (F)②③

成績評価

【評価基準】
評価方法に従って理解度（達成度）を確認し、評点 60 点以上を合格とする。
【評価方法】
実習学生からの学外実習報告書 70%、実習受入れ先からの実習報告書 30%で評価する。

【オフィスアワー】

（出典　平成25年度シラバス（学外実習））

資料５－１－②－８

表　過去3年間の学外実習の履修者数

年度	機械		電気電子		電子制御		制御情報		物質化学		全履修者数	履修率
	履修者数	学生数	履修者数	学生数	履修者数	学生数	履修者数	学生数	履修者数	学生数		
24	35 (6)	44	10 (2)	39	15 (4)	41	37 (6)	43	40 (8)	40	137 (26)	66%
23	25	44	29	47	17	47	24	39	40	41	135	62%
22	27	36	17	43	16	43	28	41	36	40	124	61%

※24年度の()内は内数で，教育コーディネータ又はKPECの斡旋によるものを示す。

（出典　教務係資料より作成）

資料５－１－②－９

平成24年度学外実習受入企業一覧

DIC(株)，JFE スチール(株)，JSR(株)，JX エンジニアリング(株)，アステラスファーマテック(株)，宇部興産(株)，大石産業(株)，大分キヤノンマテリアル(株)，大阪ガス(株)，大光炉材(株)，大陽日酸(株)，小川香料(株)，オムロン(株)，カネカ(株)，(株)ＭＨＩコントロールシステムズ，(株)アーストーンコンサルティング，(株)アドバンテスト九州システムズ，(株)ヴィンテージ・プロダクションズ＆コンサルティング，(株)エイテックス，(株)エーピーアイコーポレーション，(株)カンノ製作所，(株)三松，(株)ジェイペック，(株)シマノ，(株)セパシグマ，(株)ダイセル，(株)タカギ，(株)ディスコ，(株)東芝 社会インフラシステム社，(株)東洋電機工業所，(株)トヨタ車体研究所，(株)トヨタプロダクションエンジニアリング，(株)ニコン，(株)日栄紙工社，(株)日立エレクトリックシステムズ，(株)不二越，(株)富士通九州システムズ，(株)ブラテック，(株)マエダエンジニアリング，(株)マリンテック，(株)三井ハイテック，(株)モリタ製作所，(株)リーフ，(株)リョーワ，(株)新菱，環境テクノス(株)，関西ペイント(株)，北九州エル・エヌ・ジー(株)，キヤノン(株)，九州化学工業(株)，九州電力(株)，京セラ(株)，協和発酵バイオ(株)，極東石油工業合同会社，クラウン・フーヅ(株)，鋼鈑工業(株)，小竹化成(株)，西部電機(株)，三洋化成工業(株)，塩野義製薬(株)摂津工場，信号電材(株)，新日鐵化学(株)，新日本無線(株)，住友化学(株)，住友精化(株)，セイコーエプソン(株)，セイシン企業(株)，全日本空輸(株)，ソーラーフロンティア(株)，武田薬品工業(株)，中部電力(株)，東燃ゼネラル石油(株)，東邦金属(株)，東レ(株)，戸畑共同火力(株)，西日本環境リサーチ(株)，西日本プラント工業(株)，日鐵プラント設計(株)，日本タングステン(株)，日本鉄塔工業(株)，日本放送協会　北九州放送局，平川産業(株)，富士通(株)，三菱重工業(株)，ムラテックＣＣＳ(株)，メタウォーター(株)，安川コントロール(株)，安川情報システム(株)，大和製罐(株)，ユニチカ(株)，ロート製薬(株)，西日本環境リサーチ(株)
以上９２社，内７社は長期学外実習受入企業.

（出典　教務係資料（平成24年度学外実習受入企業））

資料５－１－②－10

【教科名】長期学外実習　Long-term Internship　＜H25 履修単位科目＞

学年	学科	単位数	期間	開設週数	時間/週	総時間
4	電子制御工学科	（選択）3	後期	13～15		90 時間以上

【担当教員】添田　満　【教員室】4 号館 5 階　【TEL】7280　【e-mail】soeda

【授業目的と概要】

学校から社会・職業への円滑な移行に共通して必要な能力を育むため、後学期授業期間中の毎週、企業・公的機関等で、終日実習・実務を行うことにより、社会人として必要な知識や人間性を養い、職業に従事するための知識・態度等を育む。また、実習を通じて、就職（職業）への意識を高め、勉学の意味と目標を再認識し将来の進路選択に役立てる。

【授業の進め方及び履修上の注意】

後学期授業期間中の毎週１日、特定曜日に企業・公的機関等に通い、終日実習・実務を行う。実習・実務内容は受け入れ先企業の計画したカリキュラムによって行われる。
毎回実習終了後、実習ノートを作成し報告すること。
実習に当たっては、受け入れ先の規律・規則・指導に従い、積極的に実習に取り組むこと。
遅刻・無断欠席など、社会人として通用しない態度は厳禁であり、責任ある行動を心掛けること。

授　業　項　目	内　　容	時間
【後期】		
長期学外実習の選択受講登録（6 月～7 月）	・後期選択科目の受講登録を行う。受講希望者数や受け入れ先企業の状況により、受講者の調整が行われることがある。	
実習受け入れ先の決定と事務手続き（7 月～8 月）	・担任を経由して実習希望先に実習申請書類を提出する。（学科長の推薦に基づき、校長が企業に推薦する。） ・実習の受け入れ決定後、実習届けを学校に提出する。	
受け入れ先での実習（10 月～2 月）	・実習開始前に事前指導を受けなければならない。 ・毎週、特定曜日に実習受け入れ先に通い、終日実習・実務を行う。 ・実習で疑問に思うところなどは学校で調査・勉強をするなど、積極的に臨むこと。 ・毎回実習ノートを書き、実習を実施した週の指定日に所属学科の担当教員に提出し実習状況を報告する。 ・実習最終報告会で実習内容などの発表を行う。	90 以上
実習受け入れ先からの報告（2 月）	・実習期間終了後、実習報告レポートを作成し、実習ノートとともに指定された期日までに担当教員に提出する。 ・実習終了後、実習受け入れ先から実習報告書を受理する。	

【達成目標】
・継続して担当業務に積極的に対処できる。
・毎回、取り組んだ内容を的確にまとめ、報告することができる。
・取り組んだ内容を把握し、レポートとしてまとめることができる。
・職場のルールを守ることができる。
・職場の中でコミュニケーションが図れる。
・企業等の活動を理解し、職業への意識を高めることができる。

【教科書】
実習受け入れ先で提供される資料

【参考書】
実習受け入れ先で指示されたもの

JABEE 教育目標	(D)①②、　(E)②、　(F)②③
準学士課程目標	(D)①、　(E)②、　(F)②③

成績評価

【評価基準】
評価方法に従って達成度を確認し、評点 60 点以上を合格とする。

【評価方法】
実習ノートとその報告状況、学生の提出した実習報告書、報告発表、実習受け入れ先の実習結果報告書を総合して評価する。

【オフィスアワー】

（出典　平成25年度シラバス（長期学外実習））

資料５－１－②－11

長期学外実習の単位認定要領

平成２２年　９月２４日
校　　長　　裁　　定

１．この要領は、学生が行う長期学外実習の単位認定に関し、必要な事項を定めるものとする。
２．長期学外実習は、後学期授業期間中の毎週（試験期間は除く）特定曜日に行うものとし、対象学年及び単位数は学則別表第２の教育課程表によるものとする。
３．校長は、各学科長からの選考に基づき、企業への推薦を行うものとする。
４．校長は、長期学外実習のため学生を企業へ推薦する際、「長期学外実習に係る覚書例」（別紙）に基づき、長期学外実習に関して企業と覚書を締結するものとする。
５．校長は、学生を企業へ推薦する際、長期学外実習終了後、長期学外実習における実習結果報告書（別紙様式）を提出するよう企業へ依頼するものとする。
６．学生が長期学外実習における単位の認定を受けようとする場合は、所定の期日までに、長期学外実習レポートを各学科長へ提出しなければならない。
７．長期学外実習の評価方法及び評価基準は、次によるものとする。
(1)長期学外実習の評価は、企業から提出された実習結果報告書、学生による実習報告及び学生から提出された長期学外実習レポートにより行う。
(2)長期学外実習の成績の評価及び評点は、学業成績の評価等に関する規則第４条第１項による。

（以下略）

（出典　教務係資料）

資料５－１－②－12

並行型長期学外実習の導入

北九州工業高等専門学校　○添田満，安信強，眞舘尚志

1．はじめに

中央教育審議会のキャリア教育・職業教育特別部会で学校におけるキャリア教育・職業教育が審議され，大学，高専でもいろいろな工夫・取組みが行われている．平成 23 年 1 月には「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」の答申も取りまとめられている．

本校でもこれまで工場見学，特別講義，セミナー，夏季学外実習等を実施してきたが，さらに，学校から社会・企業へのスムーズな移行を行わせることなどを目的にカリキュラムの検討を行い，地元企業の協力を得て，平成 22 年度に並行型長期学外実習を導入した．

従来の学外実習が夏季休業中に企業に出かけ１週間程度の期間に集中して実習を行うのに対し，この並行型長期学外実習は後学期の半期間に企業での実習と学校の授業とを並行して行うものである．

ここでは，導入した並行型長期学外実習の平成 22 年度の実施状況について報告する．

ことにより，就職して働くことの疑似体験になると考えられる．また，長期間にわたって会社の内部を見ることができ，物づくりの課程や職場の仕事の取組み・進捗状況など，会社内のより実際に近い状況を近くで見て肌で感じることができる．さらに，会社の人達と長期間顔を合わせることにより，いろいろな職場の人とのコミュニケーションもとりやすく，会社のこと，仕事のこと，また一般的な職業人としての話なども聞くことができ，コミュニケーションの訓練の場にもなると考えられる．以上から，会社や職業についての理解を深めるとともに，いろいろな職場の人との交わりから社会性，人間性の涵養にもつながることが期待できる．

（２）地元企業との連携を深めること

北九州市には多くの地元企業があり，これらの企業とは就職だけでなく技術相談，共同研究，共同教育などを通して連携を深めていきたいと考えている．この実習を通して，企業には高専の学生を知ってもらい，一方実習学生を通して学校側もその企業の理

中略

5．実施結果

今回は開始初年度ということもあり，７人の少人数での実施となった．実習期間終了後受講学生に対して行ったアンケート調査の一部を表１に示す．表中の数字は７名中の回答人数を示している．

夏季実習との違いについてはほとんどの学生が違うと答えている．具体的な意見を求めたところ，「夏季実習はさわりだけだったり，説明や講義ばかりだったが今回は実際に仕事を体験した」，「長期間のため会社の進捗具合や物づくりの工程を長く見ることができる」，「集中的に行うのと長期間行うのとでは仕事内容でも会社の人とのコミュニケーション内容でも大きく違っていた」，「夏季実習は会社の概要説明や実験等が多く他校の学生も多いので会社とはどのようなものか実感できなかった」などの意見が出された．また，受講生全員が長期学外実習を後輩に

充実した実習を確立していきたいと考えている．

表１　アンケート結果

質　問　内　容	そう思う	思わない	その他
進路を決める上で参考になったか	6	1	0
現在の就職・進学活動に役立っているか	5	1	1
夏季実習とは違うと思うか	6	0	1（回答なし）
後輩にこの実習を勧めるか	7	0	0
就職して働くことの疑似体験ができたと思うか	5	2	0

（出典　平成23年度高専教育フォーラム予稿集）

資料５－１－②－13

◎平成22～24年度長期学外実習実施企業一覧

No.	受入れ企業名と実習内容例	平成22年度	平成23年度	平成24年度	備　考
1	■■■■■（株） 〔CAD、紙製袋の製造、品質管理・・・〕	電制1名	電制1名	電制1名	
2	㈱■■■■■ 〔CAD、金型機構、計測、評価・・・〕	制情1名	制情2名	電制，制情各1名	技術部と金型部に1名ずつ
3	㈱■■■■■ 〔CAD、PLC、SMASH、板金加工補助・・・〕	制情1名	制情1名	電制，制情各1名	
4	■■■■■㈱ 〔GPGPU、電力需要予想技術・・・〕	制情2名	電制，制情各1名	電制，制情各1名	大規模データの処理
5	■■■■■㈱ 〔回路設計と製作、センサ性能評価・・・〕	電制，制情各1名	電制，制情各1名	電制1名	
6	㈱■■■■■ 〔CAD、CAE、エンジン分解組立て・・・〕		制情1名	電制1名	
7	㈱■■■■■ 〔CAD、PLC、機械要素、機構設計・・・〕 ↑■■■■■㈱のエンジニアリング事業部			制情1名	
	、	5社7名 （電制2＋制情5）	6社8名 （電制3＋制情5）	7社10名 （電制6＋制情4）	

（出典　教務係資料）

資料５－１－②－14

平成24年度教育コーディネーター活動報告

１．概要

産業・経済のグローバル化とものづくりを中心とした産業構造を持つ北九州市は、産業基盤の維持・強化が重要な課題となっている。産業人材の育成は、地域企業の経営力向上と拠点力の強化にとって必須の要件となり、「北九州地域産業人材育成フォーラム」が平成 23 年 4 月に設立され、「地域大学連携によるインターンシップ事業」をはじめとして産学連携による産業人材育成事業を推進する体制ができてきた。北九州地域産業人材育成フォーラムの平成 24 年度事業実施計画では、参加機関 4 校（九州工業大学・北九州市立大学・西日本工業大学・北九州工業高等専門学校）に拡充されインターンシップが実施されている。

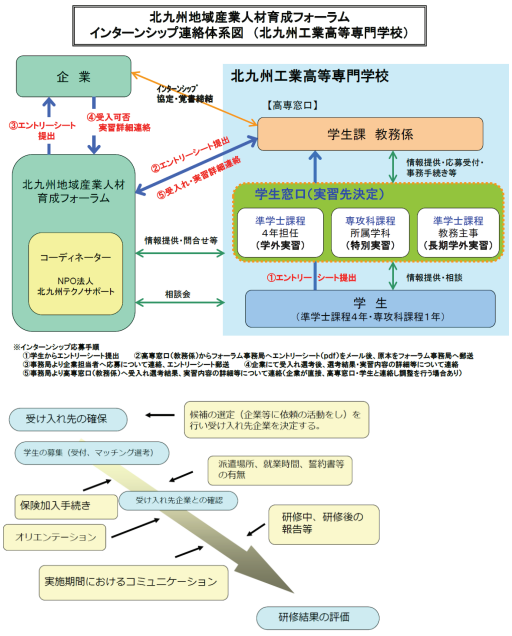
インターンシップを実施する企業のプログラム内容は、職場見学、社員の補助的な業務の体験にとどまるものから、社員と同様に基幹的な業務の一部を担当するもの、一定の課題に取り組むものなど、多様なものとなっている。一方、平成24年度のインターンシップ受入企業からインターンシップ参加にあたっての注意事項や詳細スケジュールが示されているものは少ない。

企業の実施目的についても、学生の職業意識・学習意欲の向上、実施企業の理解の深化・イメージアップの向上等を主目的とするものから、採用選考等を目的として明確に打ち出す企業まで様々なものがある。

インターンシップ実施の受入企業としては、中堅・中小企業やベンチャー会社なども広がりを見せている。インターンシップ参加学生に対する事前の周知活動や実施後の企業の意見も取り入れて今後の効果的な取組となるように平成24年度の実施状況を報告する。

２．インターンシップの推進体制と事前の対応

北九州工業高等専門学校におけるインターンシップ推進体制



インターンシップ参加情報の入手経路

学生のインターンシップに関する情報源としては、学内の掲示が44.8%と最も多く、次いで北九州地域産業人材育成フォーラムからの情報（29.1%）、担任の先生による斡旋となっている。

インターンシップ目的の明確化

インターンシップは学生及び企業の双方にとってメリットがあるものにしなければならない。学生は参加目的を理解し、これにマッチした受入企業を選択し主体的に取り組むことが求められる。一方、募集期間が一定の時期に集中し、エントリーした企業から断られるケースもある。インターンシップ参加の機会を増すための二次募集、三次募集の機会を検討していくことが求められる。また、学生自身の参加の目的認識は十分でなく対象となる学生に対しては、明確な目的意識や一定程度の職業意識を育成するための事前指導や必要な情報提供を行うことが求められている。

中略

３．平成 24 年度インターンシップの実施状況

３．１平成 24 年度参加数

	計	機械工学科	電気電子工学科	電子制御工学科	制御情報工学科	物質化学工学科
在籍学生数	２０９名	４４名	４１名	４１名	４３名	４０名
ｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ参加者	１３７名	３５名	１０名	１５名	３７名	４０名
長期ｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ参加者				２名	４名	
不参加者数	６２名	９名	３１名	２０名	６名	０名
企業公募案内	３４名	９名	０名	７名	１４名	４名
KPEC 案内企業	２１名	６名	０名	４名	３名	８名
コーディネータ紹介	５名	０名	２名	０名	３名	０名
先生紹介	８３	２０名	８名	１０名	１７名	２８名

（出典　平成24年度教育コーディネーター活動報告）

＜③国際化対応，④留学生支援体制整備＞　３年生以下の実力テストでは，英語でTOEIC Bridgeを行う。後学期中間試験期間中には，全校一斉英単語テストを実施する。これらの結果は，英語ＢⅠ，ＢⅡの成績に反映させることをシラバスに明記している（資料５－１－②－15）。他の英語科目でも，達成目標や評価方法の中にTOEICや英検等のレベルを示している。これらの取組により，学生の英語に対する向学心を促すと共に，学生自身が英語力を客観的に測れるようにしている（資料５－１－②－16）。

第２外国語（３年生，必修選択科目）は，平成22年度からドイツ語に加え，韓国語と中国語を開講し，いずれかを選択できるようにした（資料５－１－②－17）。受講希望者数と受講者数の推移から，クラス数を加減し，学生のニーズに対応している（資料５－１－②－18）。

外国人留学生については，外国人留学生規則第３条により，留学初年時の３年生で教育課程を特別に編成し（資料５－１－②－19），さらに，留学生向けの科目「日本語」を平成23年度から開講している（資料５－１－②－20）。

資料５－１－②－15

【教科名】英語ＢⅡ　English BII　　＜H25 履修単位科目＞

学年	学科	単位数	期間	開設週数	時間/週	総時間
3	全工学科	（必修）2	通年	30	2	60

【担当教員】山本　一夫　【教員室】6 号館 2 階　【TEL】7330　【e-mail】yamamoto
木村　久　1 号館 2 階非常勤講師室　8243(内線)

【授業目的と概要】
本授業では、１、２年までの英語学習で身につけてきた文法・構文・語彙などの基礎力を用いて、日常生活に密着した基本的な英文を書くことで、基礎的な英作文力の養成を行うことを目的とする。
授業では、文法項目および表現項目ごとにまとめられた基本英文について、文法、単語･熟語の用法を解説し、さまざまな演習問題を通して、英作文力の向上を図る。

【授業の進め方及び履修上の注意】
１ 予習をしていることを前提として授業を進める。特に、英作問題では必ず自作を用意しておくこと。 ２ プリント、参考書を利用して、英語理解を深める。３ 単語、熟語、文の構造､文法についての理解を深め、英語を書く能力を高める。 ４ Vintage や COCET3300 を適宜用いる ５ 小テストを実施する。 ６ 和英辞典持参が望ましい。

授　業　項　目	内　　容	時間
【前期】		
ガイダンス	授業の進め方、予習復習の仕方、テスト説明、日本語と英語の違いなど	1
Lesson 1～3	自己紹介・家族・友達、基本 5 文型の英作文練習	5
Lesson 4～5	自分の町・映画、重文や複文・進行形の英作文練習	4
Lesson 6～8	旅・スポーツ・好きな本、完了形の英作文練習	5
中間試験		
Lesson 9～12	夏休みの計画・好きな科目・学校行事・部活動、不定詞と動名詞の作文練習	7
Lesson 13～14	学校行事・地域の名所や名物、助動詞の英作文練習	4
Lesson 15～16	お祭り・地域の暮らし、能動態と受動態の英作文練習	4
期末試験		
【後期】		
Lesson 17～19	平和活動・男女平等・ボランティア活動、分詞と関係代名詞の英作文練習	6
Lesson 20～22	宇宙・食・高齢者問題、関係副詞と比較表現の英作文練習	5
Lesson 23～24	共生・住みよい環境、仮定法過去と分詞構文の英作文練習	4
中間試験		
Lesson 25～28	「予定・意図、感謝、謝罪、誘い・提案」の表現に関する英作文練習	5
Lesson 29～31	「お祝い・励まし、依頼、許可・禁止」の表現に関する英作文練習	5
Lesson 32～34	「賛成・反対、譲歩・逆接、助言・示唆」の表現に関する英作文練習	5
定期試験		

【達成目標】
・1、2 年次の検定教科書既習の文法事項を含む単文を書くことができる。
・1、2 年次の検定教科書既習の文法事項、語彙を活かし、自分の感情や身近な出来事を表現することができる。
・TOEIC Bridge において、135 点が取得できる。
・「理工系学生のための必修英単語 3300」を使った全校一斉英単語テストで 70 点以上を取得できる。

【教科書】
EXCEED English Writing、三省堂、森住衛他
【参考書】
Vintage、いいづな書店、篠田重晃他
理工系学生のための必修英単語 COCET 3300、成美堂、亀山太一他

JABEE 教育目標
準学士課程目標　(E)①

成績評価
【評価基準】
語法･文法に気をつけて英作がなされているか､単なる単語･熟語の羅列ではなく英語らしい作文になっているかを重視する。
予習励行､授業に積極的に参加すること。
【評価方法】
中間・期末および定期試験 70%、小テスト･レポート･TOEIC･英検･TOEICBridge･英単語コンテスト等 30%.

【オフィスアワー】
水曜日　午後 3 時 30 分から 5 時

（出典　平成25年度シラバス（英語BⅡ））

資料５－１－②－16

【教科名】英語 AIV　English AIV　　＜H25 履修単位科目＞

学年	学科	単位数	期間	開設週数	時間/週	総時間
4	機械・電気電子・電子制御・制御情報工学科	（必修）2	通年	30	2	60

【担当教員】東島　加奈　【教員室】1 号館 2 階（非常勤講師室）　【TEL】8243　(内線)　【e-mail】

【授業目的と概要】

本授業では、TOEIC に対応できる読解力、リスニング力、語彙力の増強を図りながら、総合的英語力を向上させることを目的とする。将来も自力で英語学習を継続していくために、自分に適した英語学習方法を探究することも目指す。

【授業の進め方及び履修上の注意】

授業の前半は、テキストに沿って問題演習。授業の後半はテキストに関連した英文や、インターネットの記事の読解、音読練習、英文解釈、文法演習など様々な内容の英語に触れる。付属のＣＤは自宅学習用とし、各自リスニング力を高める。適宜、単語テスト、小テストを行う。

授　業　項　目	内　　容	時間
【前期】		
授業ガイダンス	授業の進め方、予習復習の仕方説明	1
テキストの問題演習	Unit 1　Events　　Unit 2　Eating Out	6
様々な英文の読解	Unit 3　Shopping　　Unit 4　Housing	6
文法演習	復習	2
中間試験		
	中間試験問題解答	1
	Unit 5　Employment　　Unit 6　Personnel	6
	Unit 7　Office　　Unit 8　Finance and Banking	8
期末試験		
【後期】	期末試験問題解答	1
テキストの問題演習	Unit 9　Management　　Unit 10　Transactions	6
様々な英文の読解	Unit 11　Documents　　Unit 12　Public Announcements	6
文法演習	復習	2
中間試験		
	中間試験問題解答	1
	Unit 13　Commuting　　Unit 14　Travel	6
	Unit 15　News	3
	問題演習	5
定期試験		

【達成目標】

・TOEIC400 点レベルの語彙を習得し、同レベルの英文読解ができる。
・TOEIC400 点レベルのリスニングができる。
・英文読解に必要な基本的文法が理解できる。
・TOEIC で 370 点相当の点数が取ることができる。

【教科書】

Gear Up for the TOEIC Test、金星堂、Mark D. Stafford・ 妻鳥千鶴子

【参考書】

理工系学生のための必須英単語 2600、成美堂、亀山太一他
総合英語 Forest、桐原書店、石黒昭博

JABEE 教育目標	(E)①③⑤
準学士課程目標	(E)①③

成績評価

【評価基準】

400 点レベルの基礎的な TOEIC 出題形式のリスニング問題、読解問題、文法問題に対応することができる。

【評価方法】

中間・期末および定期試験 60%　小テスト・課題など 40%

【オフィスアワー】

授業の前後

（出典　平成25年度シラバス（英語AIV））

資料５－１－②－17

科目間連絡会議（第二外国語）議事要録

日時・場所：平成２０年７月３０日（水）　１５：００～１６：１０　　２階会議室
出　席　者：(M) 入江、内田　(E) 猪俣、油谷　(D) 吉野、白濱　(S) 寺井、安信　(C) 山本
(総合) 赤毛、山本、大谷、安部、倉富、白神（司会）

司会者からの趣旨説明の後、各委員から下記の意見が出された。

趣旨説明

これまで３年次に必修科目として「ドイツ語」を開設してきたが、同科目担当者の赤毛教員が、Ｈ２１年度をもって定年退職となる。総合科学科では、Ｈ２２年度より「ドイツ語」にかえて「第二外国語選択科目」を新設する方向で検討を進めている。今のところ、３年生全学科に週２時間縦割りで時間を設け、混合クラス形式で韓国語、中国語などを含む複数の外国語授業を実施することを考えている。

手続きとしては、総合科学科のカリキュラム変更案を教務委員会に提出して議論していただくことになるが、変更案作成前に専門学科、総合科学科の先生方より多方面からのご意見をいただき、変更案に反映させたい。

各委員からの意見

１）第二外国語選択科目導入の是非について

○ＪＡＢＥＥや中期計画で、アジア言語を含む第二外国語の導入を謳っている以上、やらなければならないのではないか。
○かといって、必ずしもこれらに縛られる必要もないのではないか。
○技術者としては、仕事という面では英語さえしっかりできれば十分である。ただ、たとえば韓国へ行って街の看板を見ても読めない。せめて、そういうものを読むことができるようになって、その国の文化の一端に触れさせることができれば、と思う。
○本校では毎年、マレーシアなどから留学生が来ている。科目導入によって、彼らとのコミュニケーションを深めることができればいい。
○今後の北九州という視点ではアジアとのつながりが重要で、アジア系言語の導入は欠かせない。仕事の面では英語だが、生活圏レベルのコミュニケーションとなると英語ではだめである。生活圏レベルでのコミュニケーションをフォローアップする科目の新設が期待される。
○第二外国語の文法を学ぶことに大きな意義がある。プログラミングも文法であり、文法を学び理解する能力を養うが重要である。また、言語が異なる文化的な背景を考えながら学ぶことも大事である。
○英語だけじゃないよ、ということを教えることは大切である。

２）選択科目の選択肢として何語を取り入れるべきかについて

○１つはヨーロッパ系の言語を入れるべきである。
○ドイツ語は講師が探しやすい。
○日本海側の高専ではロシア語が導入されている。
○現実的に考えると、中・韓・独あたりでスタートさせてはどうか。

以下略

（出典　平成20年７月科目間連絡会議議事要録）

資料５－１－②－18

第２外国語の受講科目について

先日、皆さんに受講希望の登録をしていただきました。集計したところ、第１希望が「中国語」に多く、「ドイツ語２」が少ない結果となりました。
都合により、以下のとおり一部の方に、第２希望の科目を受講していただくことと致します。

①第１希望が「ドイツ語どっちでもいい」の方は、全員「ドイツ語２」に
②第１希望が「中国語」で、第２希望が「ドイツ語２」の方は、全員「ドイツ語２」に
③第１希望が「ドイツ語１」で、第２希望が「ドイツ語２」の**一部の方**は「ドイツ語２」に
④第１希望が「中国語」で、第２希望が「ドイツ語１」の**一部の方**は「ドイツ語１」に
⑤第１希望が「中国語」で、第２希望が「韓国語」の**一部の方**は「韓国語」に

上記③④⑤の「**一部の方**」を抽選により決めせていただきます。

抽選会を、２月１０日（水）６時限目終了後（１５時より）階段教室で行います。

以下の方々が対象となります。お集まりください。

（出典　平成21年２月第２外国語抽選案内）

資料５－１－②－19

○北九州工業高等専門学校外国人留学生規則

平成２年１０月１１日　規則第４号
改正　平成１７年２月２８日

（趣旨）
第１条　この規則は、北九州工業高等専門学校学則第４３条第２項の規定に基づき、外国人留学生（以下「留学生」という。）に関し必要な事項を定めるものとする。
（入学）
第２条　留学生は、原則として第３学年に入学を許可する。
（教育課程）
第３条　留学生の教育課程は、特別に編成することができる。
（外国人留学生指導教員）

（出典　外国人留学生規則）

資料５－１－②－20

【教科名】日本語（留学生用）　Japanese (For Foreign Students)　　＜H25 履修単位科目＞

学年	学科	単位数	期間	開設週数	時間/週	総時間
3	全工学科（留学生）	（選択）2	通年	30	2	60

【担当教員】印道　　緑　　【教員室】1 号館 2 階非常勤講師室　【TEL】8243(内線)　【e-mail】

【授業目的と概要】
本講義では留学生の日本語レベルに合った文型および漢字語彙、表現力の養成を中心に授業を行う。会話、聴読解、作文の総合的な能力を身につけることを最終目標とする。

【授業の進め方及び履修上の注意】（準備する道具や前提となる知識）
外国語習得には「聞く」「読む」という理解能力と「話す」「書く」の発信能力があるが、この授業では文型、漢字語彙力などの基礎的知識をもとに、まずは聴解・読解を行い、さらに討論、作文へと発展させる。
授業内容の予習、復習を欠かさないように、講義に臨むこと。また、作文等の課題は必ず提出すること。

授業項目	内容	時間
【前期】		
Ⅰ 文型・文法 1、聴解・読解 1	・日本語能力の基本的な確認及びプレースメントテスト	4
	・留学生にとって必要な基本文型・文法及び漢字語彙の学習	8
	・基本的な文章の読解	4
中間試験		
Ⅱ 討論・作文 1	・Ⅰで身に付けた理解力をもとづく会話及び作文の練習。	8
	・日常生活における様々な出来事や意見を日本語で表現でき、且つ議論することが可能になることを目指す。	6
期末試験		
【後期】		
Ⅰ 文型・文法 2、聴解・読解 2	・前期に引き続き、より複雑な文法表現と漢字語彙を習得する。	6
	・基本的な敬語表現を学び、状況に応じた適切な表現ができるよう理解を深める。	8
中間試験		
Ⅱ 討論・作文 2	・Ⅰで学習した文法表現力をもとに、会話及び作文の応用的運用能力を習得する。	8
	・上記で習得した事柄を活用し、討論など総合的な日本語発信能力を習得し、より高い日本語のコミュニケーション能力を養成する。	8
定期試験		

【達成目標】
・留学生活に必要な日本語の基本文型・文法の知識と表現力を身につける。
・日本語の基礎的な文章を読み、聞くことができる。
・日本語で日常会話・討論ができ、基礎的な文章を書くことができる。
・言語の習得と共に異文化への理解を深めることができる。

【教科書】
プレースメントテストによって留学生の日本語レベルにあったテキストを選定する。授業の際に説明する。
【参考書】
授業の際に説明する。

JABEE 教育目標	
準学士課程目標	(E)①, (F)①

成績評価

【評価基準】
初級文法・会話および基本的な漢字語彙を含んだ文章の読解、作文ができること。

【評価方法】
授業での学習状況（予習、復習を含む）、課題（作文）提出状況、および口頭発表 40%、中間・期末試験および定期試験の結果 60%

【オフィスアワー】
授業時間の前後

（出典　平成25年度シラバス（日本語））

＜⑥単位互換＞他の高等教育機関等での履修科目の単位互換に関する規則（学則25，26条）を定め（資料５－１－②－21），平成22年度に制御情報工学科３年生１名が東京高専で取得した単位を認定した。また，九州工業大学と教育研究と業務運営に関わる協定を結び，単位互換が可能である（訪問時閲覧資料）。

資料５－１－②－21

学則
（他の高等専門学校における授業科目の履修）
第２５条　校長は、教育上有益と認めるときは、学生が他の高等専門学校において履修した授業科目について修得した単位を、３０単位を超えない範囲で本校における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。
２　前項に関し、必要な事項は別に定める。
（高等専門学校以外の教育施設における学修等）
第２６条　校長は、教育上有益と認めるときは、学生が行う大学における学修その他文部科学大臣が別に定める学修を、本校における授業科目の履修とみなし、本校の定めるところにより単位の修得を認定することができる。
２　前項により認定することができる単位数は、前条により本校において修得したものとみなす単位数と合わせて３０単位を超えないものとする。
３　第１項の規定は、第３４条に定める留学の場合及び外国の大学が行う通信教育における授業科目を我が国において履修する場合について準用する。
４　第１項に関し、必要な事項は別に定める。

（出典　学則第25，26条）

専攻科課程教育との連携については，各学科で学んだ専門科目は専攻科でその内容を深められるように，専攻科の目標達成のための基礎科目として位置づけられており，準学士課程から専攻科課程に続くカリキュラムの関連も達成目標ごとに考えられている。

（分析結果とその根拠理由）

より高度な情報技術修得のための基礎・応用ネットワーキング，教員の専門性を活かした学科間での教員相互乗入れ，教育コーディネーターの活用，半年にわたる長期学外実習，外国語の伝達と読解の基礎能力育成を図っている英語，第２外国語の取組，留学生向けの特別教育編成，他高専での単位互換等を通じて，学生の多様なニーズ，学術の発展の動向，社会からの要請等に配慮している。

観点５－２－①：　教育の目的に照らして、講義、演習、実験、実習等の授業形態のバランスが適切であり、それぞれの教育内容に応じた適切な学習指導法の工夫がなされているか。

（観点に係る状況）

教育目的「幅広い工学基礎と創造的技術開発力の修得」実現のための準学士課程教育目標は（A）～（D）であり，工学の基礎知識から専門知識，創造的実践力を身に付けることを目標としている。授業形態の主体は講義と演習であるが，目標（C），（D）に関しては，実験，実習が中心である。教育目的「国際社会で尊敬され，信頼される国際センスの修得」実現のための教育目標は主に（E）と（F）であり，主要な科目は社会系科目と英語等の語学である。教育目的「地球にやさしい技術を展開できる心豊かな人間性の涵養」実現のための教育目標は主に（F）と（G）であり，主要な科目は社会系科目と体育である（資料５－２－①－１）。

学習指導法の工夫は様々な科目で実践されており，主なものを以下に列挙する。

・全ての実験，実習科目は少人数グループ別に行われる。
・情報分野の知識の修得や，教育効果をより高めるため，情報から語学まで多くの科目で電算機室等を活用している（資料５－２－①－２）。
・ほとんどの講義科目で，定期試験に加え，課題やレポートを課し，成績に考慮することをシラバスに明記し，学生が自学自習の習慣を身に付けるように配慮している。
・社会系科目では，映像等の視覚教材を活用したり，討論型授業等を導入する等の工夫を行い，コミュニケーション力，国際センスの涵養に努めている（資料５－２－①－３）。
・語学教育では，情報機器や視聴覚教材を積極的に活用し，外国語でのコミュニケーション力育成に努めている（資料５－２－①－４）。

さらに，上記以外で工夫を行っている個別の授業科目の一例を資料５－２－①－５に示す。

（分析結果とその根拠理由）

目的に照らして，授業形態のバランスは適切である。情報機器の活用，少人数教育，討論型授業等学習指導法の工夫が多くなされている。

資料５－２－①－１（その１）

表　準学士課程の教育目標に対する授業科目の関与の程度および授業時間［電気電子工学科：平成25年度1年生の5年間のカリキュラム］

幅広い工学基礎と創造的技術開発力の修得

国際社会で尊敬され、信頼される国際センスの修得

地球にやさしい技術を展開できる心豊かな人間性の涵養

| 授業科目 | | 単位 | 学年 | 講義演習実験等の別 | 授業時間 | | | 準学士課程の教育目標に対する関与の程度　（◎：主　○：従） | | |

資料５－２－①－１（その２）



（出典　平成25年度シラバスより作成）

資料５－２－①－２

教材の工夫，情報機器の活用（24年度前期時間割から抽出）

1M			1E			1D			1S			1C		
機械工学基礎	機械CAD	中山	基礎情報処理	電算	宮川	基礎情報処理	電算	秋本	基礎情報処理	CALL	乙部	基礎情報処理	電算	谷口
英語ＡⅠ	CALL	山本	英語ＡⅠ	マルチ	渡辺	英語ＡⅠ	CALL	大谷	英語ＡⅠ	CALL	大谷	英語ＡⅠ	マルチ	渡辺
基礎情報処理	機械CAD	井上	保健	共用室	八嶋									
保健	共用室	八嶋												
2M			2E			2D			2S			2C		
情報処理	機械CAD	滝本	情報処理Ⅱ	電算	桐本	情報処理Ⅰ	電算	北園	CAD	制情CAD	安信	英語ＡⅡ	CALL	横山
英語ＡⅡ	CALL	横山	英語ＡⅡ	CALL	木田	英語ＡⅡ	CALL	木田	ロボット基礎演習	制情CAD	浜松	情報処理	CALL	園田
									電気電子基礎	創成	乙部			
									基礎製図	創成	前之園			
									情報処理	電算	山内			
3M			3E			3D			3S			3C		
機械製図Ⅱ	機械CAD	入江	情報処理Ⅲ	電算	桐本	情報処理Ⅱ	マルチ	白浜	ディジタル回路	創成	山内	英語ＢⅡ	CALL	大谷
英語ＢⅡ	CALL	大谷	基礎ネットワーキング	電算		英語ＢⅡ	CALL	横山	コンピュータ基礎	マルチ	松尾	基礎ネットワーキング	電算	
数値計算法	機械CAD	田淵				基礎ネットワーキング	電算		基礎ネットワーキング	電算				
基礎ネットワーキング	電算													
4M			4E			4D			4S			4C		
設計製図Ⅰ	機械CAD	入江	英語AⅣ	マルチ	渡辺	英語AⅣ	マルチ	渡辺	アルゴリズム	電算	脇山	英語AⅣ	マルチ	渡辺
英語AⅣ	CALL	山本				計算機システムⅠ	電算	白浜	英語AⅣ	CALL	山本	計算機化学	電算	竹原
CAE演習	機械CAD	内田				数値計算法	電算	太屋岡	コンピュータアーキテクチャⅠ	電算	脇山			
5M			5E			5D			5S			5C		
応用ネットワーキング	創成		ディジタル回路Ⅱ	電算	桐本	信号処理	共用室	水町	設計製作	制情CAD	寺井	応用ネットワーキング	創成	
			応用ネットワーキング	創成		システム工学	共用室	生駒	数値計算法	電算	吉川			
						工業英語	マルチ	白浜	アクチュエータ工学	CIM	浜松			
						情報処理演習	マルチ	白浜	応用センサ工学	制情CAD	古野			
						応用ネットワーキング	創成		応用ネットワーキング	創成				

（出典　平成24年度前期時間割より作成）

資料５－２－①－３

【教科名】歴史　History　　＜H25 履修単位科目＞

学年	学科	単位数	期間	開設週数	時間/週	総時間
3	機械工学科 電気電子工学科 電子制御工学科	（必修）2	通年	30	2	60

【担当教員】荒川裕紀　【教員室】1 号館 3 階　【TEL】7316　【e-mail】arakawa

【授業目的と概要】

現代社会で生活する以上、近現代史の理解は必要不可欠である。日本を含めたアジアおよびヨーロッパ、アフリカそして中東の 19・20 世紀の歴史を理解し、現在世界で起こっている諸問題の歴史的過程を明らかにする。

【授業の進め方及び履修上の注意】

映像資料を含めた資料・史料を使い授業を展開する。プリントなどは適宜配布予定であるが、教科書・ノートを毎回準備すること。自学自習を欠かさず行って自ら歴史から考えていくという姿勢で臨んでもらいたい。

【教科名】史学概論（社会選択）　Introduction to Historical Science (Social Elective)　＜H25 履修単位科目＞

学年	学科	単位数	期間	開設週数	時間/週	総時間
4・5	全工学科	（選択）2	通年	30	2	60

【担当教員】荒川 裕紀　【教員室】 1 号館 3 階　【TEL】7316　【e-mail】arakawa

【授業目的と概要】東アジアの近現代史の理解を行う。特にその中での国同士の交流史に重きを置いてこれまで習ってきた歴史的知識を深めると同時に、他国の歴史教育に触れることによって違いを理解することが目的である。これまで以上に隣国と接することとなるだろうこれからの社会を生きていくための力を育てていく。

【授業の進め方及び履修上の注意】

教科書をもとに映像資料を含めた資料・史料を使い授業を展開する。タイムリーな話題に関するプリントなどは適宜配布予定であるが、教科書・ノートを毎回準備すること。世界の出来事や話題に対して興味を持ち授業に参加されたい。講義以外にもディベートや発表の場を設け、自らの歴史観を育てていけるように、授業に参加されたい。

史学概論（本科4・5年生全学科選択授業）の内容

担当教員に対する質問

観点5-2-①「教育の目的に照らして、講義、演習、実習等の授業形態のバランスが適切であり、それぞれの教育内容に応じた適切な学習指導法の工夫がなされているか。」

担当教員からの回答

「対話・討論型授業」

史学概論（本科4・5年生全学科選択授業）

後期中間以降、1ヶ月かけて、全員参加による歴史的課題に関するディベート大会を行っている。

内容としては、わが国と諸外国との歴史的な関係ないしこれからの課題である国際関係について、避けて通ることの出来ない問題である「■■■■■■」「■■■■■■■■■■」「■■■■■■■■」など、具体的な題材を与えて、否定側と肯定側に分かれて討論する。

1ヶ月前より、学科を越えたチーム作りを教員側で準備し、ディベートする題材を各チームで選び、そして各人が図書館やインターネット、ないしは教員への質問など、自分で調べた上で調査し、自らの考えを深めていく。

ディベート当日に肯定側と否定側に分かれるためお互いはどちらの資料も用意しなければならず、そのことにより、自らがどちらの視点に立っても考えるという心構えまでも涵養することができる。

実際、本校では学科での縦割りであるために、同じ学年でありながら学生相互の意見交換は少ない。この場を通じて、学科を越えた交流が可能となり、そして人前に出て自らの意見を発表するという機会を得ることができる。

対人コミュニケーションの涵養が叫ばれていながら、座学、実験が中心の本校の教育において、貴重な機会を提供していると考える。

（出典　平成25年度シラバス（歴史，史学概論）と担当教員による科目内容の説明文）

資料５－２－①－４

【教科名】英語特論（一般総合選択）　Special Seminar of English (General Elective)　＜H25 履修単位科目＞

学年	学科	単位数	期間	開設週数	時間/週	総時間
4	全工学科	（選択）1	前期	15	2	30

【担当教員】横山　郁子　【教員室】　図書館１階　【TEL】7329　【e-mail】yokoyama

【授業目的と概要】

本授業では、TOEIC に対応できる英語聴解力および読解能力の育成を中心に据えながら、全般的な英語力の向上を図ることを目的とする。

【授業の進め方及び履修上の注意】

1 度の授業で 1 Chapter ずつ進んでいく。

各 Chapter はほとんどの場合、リスニング部分とリーディング部分から構成されているので、リーディング部分については必ず自宅で 1 度問題を解き、知らない単語は調べてくること。

英和辞典必携。

CALL 教室において、e-learning ソフト「ATR CALL BRIX」等を利用して TOEIC 模擬試験の演習も行う。

（出典　平成25年度シラバス（英語特論））

資料５－２－①－５

学習指導法の工夫

主たる教育目的	授業名	クラス	担当教員	学習指導法の工夫	具体的内容
	国語Ⅰ他	1全	位田	教授法の工夫	少人数グループでのプレゼン（学生の表現力の育成），創作活動（クラス内コンテスト）の重視．
	人間関係論	2全	安部	討論型授業	基本的に必要な知識は講義形式で与え、また「討論」にあたっては、討論が散漫にならないよう、そして新しい視点の提示という配慮から、幾つか考えるべき要素も学生に示す。これは「自分の立場を自分の考えに基づいて根拠付け、その根拠を他者に明確に伝えられる」というプレゼンス能力、また「他者の意見を聞いて、改めて自分の意見を考える」という自己客観視の能力の養成に資するものと考えられる。
	英語Ⅱ	3全	大谷	教授法の工夫	授業の工夫は常に行っている．例えば，毎時間英作文のリテストを課し，毎回採点・返却のサイクルを１年間継続した．
	基礎情報処理	1全	井上（他）	e-learning活用	自学自習のためのe-learning教材の活用．
	基礎ネットワーキング	4全	小清水	e-learning完全導入	自学自習のためのe-learning教材の充実．
	設計工学Ⅰ	3M	入江	資格試験の受験支援	具体的な目標（機械設計技術者試験３級取得）を掲げ，学生の学習意欲を喚起している．
	設計製図Ⅰ	4M	入江	資格試験の受験支援	具体的な目標（3次元CAD利用技術者試験2級取得）を掲げ，学生の学習意欲を喚起している．
	伝熱工学	5M	小清水	教材開発（視覚教材の積極的導入）	現象理解のため写真や図を多用することを目的として，PPT資料を作成し，活用した．
	物理Ⅱ	3E	油谷	教材開発	高速度カメラで衝突現象等を観察させる等，授業中に多くの実験を行い，学生の理解を促進した．
	電子回路製作実習	4E	福澤（他）	PBL	PBL形式の実習による，課題探求力・実行力・チームワーク力・コミュニケーション力の育成．
	情報処理演習	5D	白濱	PBL，外部コンテストの活用，情報機器の活用	外部コンテスト「NTTドコモアプリアワード」を教材として活用し，実践的な情報処理実習を行っている．また，PBL形式の実習，e-learning環境の充実により，学生の学習意欲を高めた．
	センサ工学	3S	古野（他）	PBL，新たな機器の導入による実験の高度化	dsPIC導入により，より高度な実験（PWM実験，タイマー実験）が可能になった．
	設計製作	4S，5S	寺井（他）	PBL	最小限の情報提供による創造性のための創造力の喚起．PBLによる問題解決能力の育成．共同作業によるコミュニケーション能力の重要性の理解．
	制御工学	5S	古野	教材開発	新たな演習問題を作成した．学生の理解が向上した．
	有機化学Ⅰ	3C	竹原	情報機器の活用	自学自習の支援のため，授業資料，課題，小テスト，連絡等をWebClass上に公開した．
	有機化学Ⅱ	4C	竹原	情報機器の活用	同上
	計算機化学	4C	竹原	少人数教育，情報機器の活用	同上
	無機化学Ⅱ	4C	松嶋	少人数教育	学生の考える力を伸ばすために、「なぜそうなるのか」という問いかけと納得ができる説明を心掛けている。試験前の授業では、十分な復習が出来るように、ノート整理，練習問題の提示，質問の時間を設け、学生に声を掛けながら可能な限り教室内を巡回している。
	物質工学	5C	松嶋	少人数教育	同上
	生物材料化学	4C	川原	少人数教育	授業中に全員に質問し、理解度を確認している。授業時間内に全員のノートをチェックしている。
	機器分析実験	5C	竹原（他）	少人数教育	1班8名程度となるように5班に分け，5名の教員がそれぞれの研究室や実験室で1班ずつ実験を行い、学生一人一人が把握できるような状態で指導している。
	生物化学工学実験	5C	井上（他）	少人数教育	同上
	卒業研究	5C	水野	個別指導	研究ノート活用と週間報告を徹底することで，学生指導をより密に行った．

幅広い工学基礎と創造的技術開発力の修得
国際社会で尊敬され，信頼される国際センスの修得
地球にやさしい技術を展開できる心豊かな人間性の涵養

（出典　平成24年度JABEE・認証評価委員会資料）

観点５－２－②：　教育課程の編成の趣旨に沿って、シラバスが作成され、事前に行う準備学習、教育方法や内容、達成目標と評価方法の明示等、内容が適切に整備され、活用されているか。

（観点に係る状況）

卒業時までに学生に身に付けさせる資質・学力は，（A）～（G）の教育目標の下の小項目①，②等で定め，これを各授業のシラバスに明示している。また，事前に行う準備学習，教育方法や内容，達成目標と評価方法の明示をするなど，シラバスの内容は適切である（資料５－２－②－１）。さらに，教員間で互いに各教科の教授内容がどのように展開されているかを把握し，科目間の連携をとり効率的に授業を行うためと，学生が年間を通してどのような授業内容であるかを把握できるようにするため，月割表を各クラスに置き，ウェブサイトでも公開している（資料５－２－②－２）。また，学生が自学自習の点検の指針として使えるように，全科目でチェックリストを作成し公開している（資料５－２－②－３）。担当教員は，初回の授業でシラバス，月割表，チェックリストの内容について説明している。学修単位科目については，資料５－２－②－４のように，学修単位科目であること，学校授業時間，自学自習時間及び総時間を明示している。学校授業時間と自学自習時間を合わせた総時間の実質化を図るために，自学自習の成果が成績評価に反映するように，教員は学修単位科目実施計画書を作成し実行している（資料５－２－②－５）。 また，年度末には，実施報告書を次年度の計画書と併せて教務委員会に提出している（資料５－２－②－６）。教務委員会が報告書と次年度の計画書の内容を検討・確認することで，学校として総学習時間の実質化を把握している（資料５－２－②－７）。学生のシラバス活用状況は，授業アンケートで調査・確認している（資料５－２－②－８）。

（分析結果とその根拠理由）

教育課程の編成の趣旨に沿って，シラバス，月割表，チェックリストが作成され，準備学習，教育方法や内容，達成目標と評価方法の明示等，内容が適切に整備され，活用されている。学修単位科目では，総学習時間の実質化の対策を行っている。教務委員会が，これら全ての取組について把握している。

資料５－２－②－１

【教科名】電気回路 Ⅳ Electric Circuits Ⅳ　　＜H25 履修単位科目＞

学年	学科	単位数	期間	開設週数	時間/週	総時間
4	電気電子工学科	（必修）2	通年	30	2	60

【担当教員】小城左臣　【教員室】 3 号館 2 階　【TEL】7274　【e-mail】ogi

【授業目的と概要】

３年までに習得した複素数を用いた電気回路の取り扱い方を，相互誘導回路・ベクトル軌跡に適用し，より複雑な電気回路の解析方法を学ぶ．また，微分方程式及びラプラス変換という数学的手法を用い，過渡現象の解析法を学ぶ．さらに，複雑な回路を単純な回路に分解し，その合成によって全体の特性を解析する手法を学ぶ．これらのことを通して，電気回路を総合的に理解することを目的とする．

【授業の進め方及び履修上の注意】

基本的には復習を中心にした勉強を行うこと．授業では小テストを課すが，解析に用いる数学的手法が高度かつ複雑になるので，演習書等を利用して補っておくこと．

授　業　項　目	内　　容	時間
【前期】		
相互誘導回路　基礎	基本的な解析方法を解説した後に，例題を多く用いて理解を深めさせる．また，複雑な回路を等価回路に書き直すことによって見通しのよい解析ができることを認識させる．	4
等価回路		4
誘導回路の応用		4
中間試験		
ベクトル軌跡　基礎	電圧や電流が周波数や回路定数へどのような応答を示すかを統一的に取り扱う方法を学ぶ	6
ベクトル軌跡の応用		6
過渡現象	過渡現象では，基本的な直流電圧に対するＲ－Ｃ，Ｒ－Ｌ，Ｒ－Ｌ－Ｃ回路の応答を学ぶ．この際，方程式の物理的意味を読みとる訓練を行い，他の物理現象との関係についても言及する	6
C-R 回路		
期末試験		
【後期】		
C-L 回路，パルス回路	応用として，微分回路，積分回路，交流電圧への応答，ラプラス変換を用いた解析について学ぶ．さらに正弦波以外の各種電圧への応答の取り扱いも学ぶ．	8
CRL 回路		6
中間試験		
交流の過渡現象		6
二端子対回路　基礎	ある線形受動回路をブラックボックスとみなし，入出力間を行列で表現できることを学び，回路解析におけるその有効性を具体的回路を例に取りながら学ぶ．また，能動回路であっても近似的に同様の扱いが可能であることも学ぶ	4
四端子定数		4
フィルタ回路		2
定期試験		

【達成目標】

・誘導回路の基本式の意味が分かり，等価回路やインピーダンス整合へ応用できること
・回路定数の変化に対する回路の応答をベクトルで表現できること
・微分方程式の意味を理解でき，１階・２階常微分方程式を解くことができること
・直流電源に対するＲ－Ｃ，Ｒ－Ｌ回路の基本応答の計算ができること
・基本的な４端子定数の取り扱いができること

【教科書】
例題と演習で学ぶ電気回路
服部憲司著　森北出版
例題と演習で学ぶ続電気回路
服部憲司著　森北出版

【参考書】
詳解電気回路演習（上下）
大下真一郎著　　共立出版

JABEE 教育目標	(A)①，(B)①②
準学士課程目標	(A)①，(B)①②

成績評価

【評価基準】
異なる数学的手法を用いて各種回路の取り扱いができること

【評価方法】
試験(中間２回・期末・定期)70%，小テスト＋レポート等 30%

【オフィスアワー】
随時

（出典　平成25年度シラバス（電気回路Ⅳ））

資料５－２－②－２

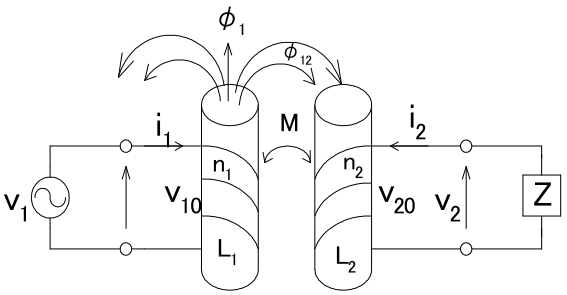
科目内容月割り表　　電気電子工学科　　４ 学年

科目	応用数学Ⅰ	応用物理	数値計算法	電気電子工学演習Ⅰ	電気回路Ⅳ	電気電
担当	藤原	油谷	桐本	小城	小城	
4月	ラプラス変換の定義 基本公式と基本性質	振動現象：単振動、減衰振動、微分方程式について	C言語プログラミングの復習	電気回路：直流回路（重ねの理，テブナンの定理，キルヒホフの法則，対称回路の合成抵抗，電流源電圧源），交流回路（3角比，3角関数，オイラーの公式，複素数，位相，j演算子），交流電力，共振回路，3相交流，電磁気：電荷と電界（クーロンの法則，電気力線，ガウスの法則），電位（電位の勾配，静電容量，静電エネルギー，静電気力），誘電体（電気分極，誘電体中の電界，電束密度，誘電体中のエネルギー，境界条件），に関する演習を行う	相互誘導回路（基本式の導出，極性の定義）	計測の基本
5月	逆変換 微分方程式への応用	振動現象：強制振動と共振現象	組立除法，2分法よる高次方程式の解法		相互誘導回路（等価回路，理想変成器）	電流，電
6月	デルタ関数・単位関数とその応用 フーリエ級数展開	力学現象と電気的現象の基本的対応関係	ニュートン法，はさみ打ち法による高次方程式の解法		相互誘導回路演習,ベクトル軌跡（基本的取り扱い）	抵抗，イン
7月	偶関数・奇関数の展開 一般周期関数の展開	物質の弾性的性質	定積分・不定積分の復習．　台形公式による数値積分		ベクトル軌跡（R-L，R-C直並列回路のZ,Yの軌跡）	波形観測
9月	複素フーリエ級数展開 偏微分方程式への応用	波動現象：縦波と横波、波の速さと波動方程式	シンプソン公式による数値積分		ベクトル軌跡の応用（移相器，軌跡から回路構成の推測）	各種
		波動の性質：重ね合わ			過渡現象（1階の微分	

（出典　北九州工業高等専門学校ウェブサイト（電気電子工学科4年））

資料５－２－②－３

電気回路Ⅳ基礎力チェックリスト

基礎事項	チェック項目
相互誘導回路の基本式	基礎１）電磁誘導とはどのようなことか説明せよ 基礎２）相対している２つのコイル間の一方（１次側）に交流電源を接続した時，もう一方の（２次側）に誘起される起電力を磁束変化の観点から説明し，相互誘導回路の基本式を導出せよ （比例定数としては，k_1，k_2，k_{12}を用いよ）  n：巻数，L：インダクタンス，ϕ：磁束，Z：インピーダンス I_1，I_2：i_1，i_2の複素表示 V_{10}，V_{20}，V_1，V_2：v_{10}，v_{20}，v_1，v_2の複素表示 基礎３）下図の相互誘導回路の基礎式（複素表示の式）を示し，各電圧の意味を説明せよ

（出典　北九州工業高等専門学校ウェブサイト（電気回路Ⅳ））

資料５－２－②－４

【教科名】電気電子工学演習 I　Practice in Electrical & Electronic Engineering I　《H25 学修単位科目》

学年	学科	単位数	期間	開設週数	学校授業時間		自学自習時間		総時間
					時間/週	総時間	時間/週	総時間	
4	電気電子工学科	（必修）2	通年	30	2	60	1	30	90

【担当教員】桐本賢太　【教員室】　3 号館 2 階　【TEL】7272　【e-mail】kirimoto

【授業目的と概要】

本授業は，１年から４年の電気回路及び３，４年の電磁気の復習を行い，演習を通して電気の基礎力を充実させることを目的としている．したがって，この教科に付随する数学や物理等の演習も含み，電気の総合的な見方を習得させる．

【授業の進め方及び履修上の注意】

基本的に，［座学での復習＋復習した内容に対する演習＋演習問題解説］をひとつのサイクルとして授業を進める．座学の進度によっては，適宜その演習も含める．

【自学自習の指導について】

チェックリストの復習と３年までに配布した演習問題・試験問題の復習を義務づけ，授業中に発表させる．また，後期用には，夏休みに課題を与える．

授　業　項　目	内　　容	時間
【前期】		

（出典　平成25年度シラバス（電気電子工学演習Ｉ））

資料５－２－②－５

＜平成 24 年度【学修単位科目】の実施計画＞

【教科名】機械工学演習　Mechanical Engineering Practice

学年	学科	単位数	期間	開設週数	学校授業時間		自学自習時間		総時間
					時間/週	総時間	時間/週	総時間	
4	機械工学科	(必修) 1	通年	15	2	30	1	15	45

【担当教員】小清水　孝夫（機械工学科）

【本教科における自学自習のねらい】

毎時間、4 年次前期までに履修した数学および機械工学系基礎科目の宿題**用**の問題および授業時間内に解く演習問題を**用**意する。関連する各教科の教科書を持参するだけでなく、自学自習の時間を利**用**して、各教科の基礎項目の復習をして授業に臨んでほしい。**特**に、宿題として課したプリントの問題のすべてを事前に解いておくことで授業時間内に実施する演習問題に対する**理**解度が高まるため、自学自習の時間を利**用**して課された問題に取組むことが必要である。

【自学自習の内容および授業との関連性】

自学自習の内容には、事前に配布する宿題**用**プリントの問題および授業で解いた問題だけでなく、所有している各教科の教科書の問題も含まれる。事前に配布するプリントの問題により、自分が解ける問題と解けない問題を把握し、解けない問題については、教科書および参考書などを利**用**して、完全に把握する必要がある。解答の内容を解説できるようになるまでが本講座の目的であるので、ただ解答するだけでなく、積極的に授業に参加できるように自学自習で準備をしてほしい。

【成績評価への考慮】

中間および期末試験 40%、実力テスト・小テスト 20%、演習問題およびレポート等 40%と示しているうち、演習問題およびレポートが自学自習の成績として反映される。

【備考】

（出典　平成24年度学修単位科目実施計画書（機械工学科４年機械工学演習））

資料５－２－②－６

＜平成 24 年度【学修単位科目】の実施報告＞

【教科名】機械工学演習　Mechanical Engineering Practice

学年	学科	単位数	期間	開設週数	学校授業時間		自学自習時間		総時間
					時間/週	総時間	時間/週	総時間	
4	機械工学科	(必修) 1	通年	15	2	30	1	15	45

【担当教員】小清水　孝夫（機械工学科）

【自学自習の内容（年度当初予定との関連)】

本講義は、4 年次前学期までに履修した数学および機械工学の基礎科目を復習するための演習科目である。講義では、各分野の問題を課し（プリント配付)、授業時間の前半で学生に問題を解かせ、後半で学生に板書させた後に説明しながら解答させるという実施形態をとった。しかしながら、授業中に解くことができる問題数には限界があるため、当初の予定通り（自学自習の時間を利用して、各教科の基礎科目の復習を行う)、次回実施予定の分野の宿題用プリントを事前に配布し、そのプリントの問題を事前に解いてくるように指導した。

以上のように、毎回、次回の宿題が課せられるので、きちんと取り組んだ学生にとって自学自習時間は 15 時間を上回っていると考える。

【自学自習の効果および改善点】

学生は、授業の進行と共に、授業時間内に実施する演習問題を解くためには，事前に配布される宿題用プリントを解かなければいけないということが次第にわかってきたため、積極的に自学自習の時間を利用して復習に望む様子が伺えた。このことから、自学自習の効果は、就職・進学前の学生にとっては非常に効果的であったと考える。しかしながら、事前学習を実施してこない学生も数名みられ、その学生らは授業時間内に実施する演習問題を解くのに苦労していたようであった．授業開始時には宿題用プリントを，授業終了時には授業時間内の演習問題を回収し、事前学習の結果および授業での取り組みの両方をチェックしていたため、事前学習に取組まなければ授業時間内の演習問題も解けないという意識が生まれたようであった。

【自学自習内容の成績評価への加味】

シラバスに記載通り、事前学習によって行われた演習問題およびレポート等を総合成績の４０％として評価を行った。

【備考】

（出典　平成24年度学修単位科目実施報告書（機械工学科４年機械工学演習））

資料５－２－②－７

第２回教務委員会議事要録

１．日　時　　平成２４年５月９日（水）１５時４０分～１８時００分

２．場　所　　管理棟２階　会議室

３．出席者　　内田、中山、本郷（油谷委員の代理）、太屋岡、古野、後藤、徳一、大谷

中略

イ．学修単位科目の平成 23 年度実施報告について

委員長から、資料６「平成２３年度学修単位への移行科目一覧及び実施報告書」に基づき説明があり、審議の結果、これを平成２３年度の学修単位科目実施報告書とすることで了承された。

また、委員長より本報告書がＪＡＢＥＥ審査項目の自学自習のエビデンスになるとの説明があった。

なお、報告書の中で気付いた点があれば委員長まで連絡することが併せて了承された。

ウ．学修単位科目の平成 24 年度実施計画について

委員長から、資料７「平成２４年度学修単位への移行科目一覧及び実施計画書」に基づき説明があり、審議の結果、これを今年度の実施計画とすることで了承された。

なお、計画書の中で気付いた点があれば委員長まで連絡することが併せて了承された。

（出典　平成24年度第２回教務委員会議事要録）

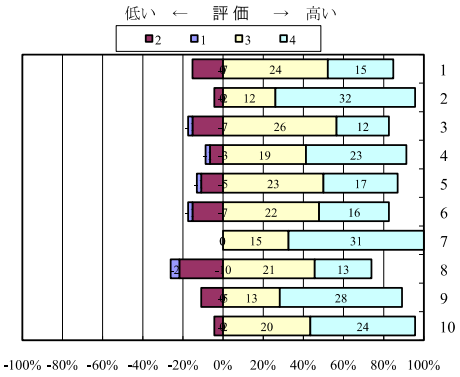
資料５－２－②－８

平成23年度 授業アンケート　　集計結果

■■■■■■■　　必修　2 単位　　担当　■■■■■
電気電子工学科　　4 年　　回答数　47

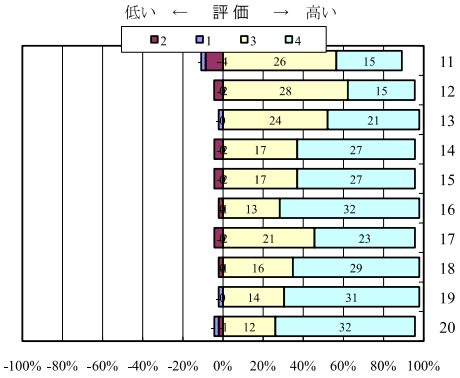
1.学生のこの授業に対する取り組みや考え方について

設問＼回答	低 1	2	評価 3	高 4	無効	有効	%
1 シラバスの理解度	0	7	24	15	1	46	98
2 集中度	0	2	12	32	1	46	98
3 積極性	1	7	26	12	1	46	98
4 興味・関心	1	3	19	23	1	46	98
5 難易度	1	5	23	17	1	46	98
6 達成度	1	7	22	16	1	46	98
7 課題の取り組み	0	0	15	31	1	46	98
8 自主性	2	10	21	13	1	46	98
9 試験の準備	0	5	13	28	1	46	98
10 学級の受講態度	0	2	20	24	1	46	98



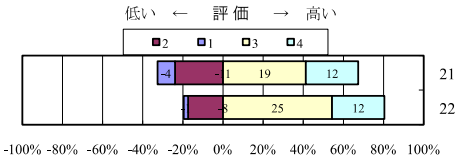
2.実施された授業および教員の取組みについて

設問＼回答	低 1	2	評価 3	高 4	無効	有効	%
11 シラバスの説明	1	4	26	15	1	46	98
12 シラバスの実施状況	0	2	28	15	2	45	96
13 授業の準備・工夫	1	0	24	21	1	46	98
14 授業の進め方	0	2	17	27	1	46	98
15 授業法の視覚	0	2	17	27	1	46	98
16 授業法の聴覚	0	1	13	32	1	46	98
17 説明の丁寧さ	0	2	21	23	1	46	98
18 質問への対応	0	1	16	29	1	46	98
19 試験の範囲・内容	1	0	14	31	1	46	98
20 試験・成績等の解説	1	1	12	32	1	46	98



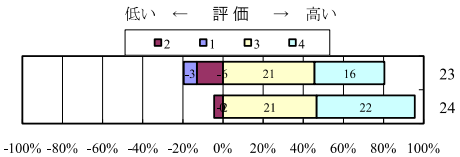
3.学生の授業改善に対する姿勢

設問＼回答	低 1	2	評価 3	高 4	無効	有効	%
21 意見を述べる	4	11	19	12	1	46	98
22 意見を伝える	1	8	25	12	1	46	98



4.教員の授業改善に対する姿勢

設問＼回答	低 1	2	評価 3	高 4	無効	有効	%
23 意見を聞く	3	6	21	16	1	46	98
24 意見を受け入れる	0	2	21	22	2	45	96



5.担当教員による分析（課題と来年度に向けた改善）　　＜学生へのフィードバック日：9月 2日＞

・ おおむね良い評価で安心した．
・ 主要基礎科目にもかかわらず自主性が若干低いのが気にかかる，改善策を考える．

（出典　平成23年度授業アンケート）

観点５－２－③：　創造性を育む教育方法の工夫が図られているか。また、インターンシップの活用が図られているか。

（観点に係る状況）

工夫の一例として，実施しているPBL科目の内容について説明する。

・電子回路製作実習（電気電子工学科４年）：課題探求力・実行力・チームワーク力・コミュニケーション力の育成に主眼を置いたPBLである（資料５－２－③－１）。ロボット教材と自作の電子回路を組み合せたロボットによる競技会を行う。

・設計製作（制御情報工学科４，５年）：平成12年という早い時期からPBLを導入した科目である。アーム旋回型クレーンの設計・製作，競技会，発表会を行う。教員からの助言は必要最小限に止めながら，クレーンのデザイン，材料の強度計算，プログラム，材料の加工，部品の調達等を学生自身が行う。

・情報処理演習（電子制御工学科５年）：外部コンテスト「NTTドコモアプリアワード」を題材に，PBL形式でスマートフォン用アプリ開発と，学内発表会を行う（資料５－２－③－２）。その後，全員が実際にコンテストに参加する。コンテスト出場に耐えうる，オリジナルのアプリ開発に取組むことで，創造性の育成を行う。なお，平成24年度は全応募作品196件の中から，グランプリと準グランプリを受賞した（資料５－２－③－３）。

電子回路製作実習と設計製作については，平成25年１月に本校で開催の第４回PBL利用教育に関する教員研修会で先進的事例として報告している（資料５－２－③－４，５）。

次に，インターンシップ科目である学外実習と長期学外実習について説明する。シラバスは資料５－１－②－７，９に，長期学外実習の単位認定要領は資料５－１－②－10に示している。学外実習の単位認定要領と実施報告書様式及び長期学外実習の実施報告書様式を資料５－２－③－６～８に示す。派遣学生数は４年生207名中137名（66%）で（資料５－１－②－８），内７名が長期学外実習に取組み，さらに内３名が学外実習と長期学外実習の両方に取組んだ。受入企業は92社で，内７社には長期学外実習も受入れて頂いた（資料５－１－②－９，13）。実習後は，企業と学生からそれぞれ実習報告書が提出され，また，学生は所属学科の実習報告会で発表を行う（学生の報告書は訪問時閲覧資料）。これら報告書と発表により成績評価を行う。

（分析結果とその根拠理由）

教員研修会で先進的事例として報告したり，学外コンテストで優勝する等，創造性を育むための工夫を凝らしたPBL科目を実施したりしている。インターンシップに参加する学生は年々増加し，平成24年度は７割近くの学生が参加した。また，平成22年度から長期学外実習を開講している。従って，インターンシップは大変活用されている。

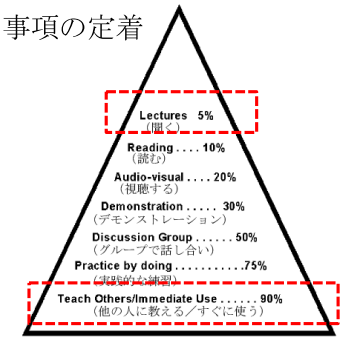
資料５－２－③－１

電気電子工学科４年電子回路制作実習での資料

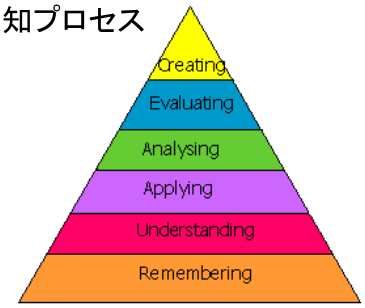
PBL: Problem Based Learning

電気電子回路製作実習
2012

学習事項の定着



認知プロセス

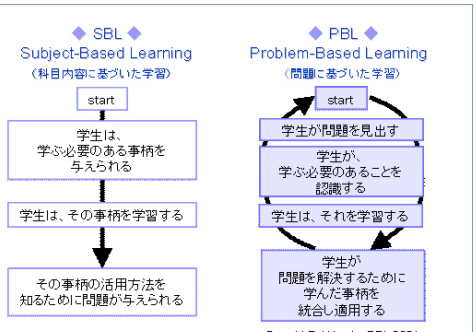


問題解決学習法　Problem-Solving-Learning

漠然と与えられた問題について考える。

例えば「私たちの町」というテーマについて、
個々の生徒が平素、疑問に思っていることについて、
仮説をたてて実地調査等から確認していく。
もし、外れているなら、また新しい仮説として立ててみる。その試行錯誤のプロセスの中に、学習の目的があるし、また、その過程そのものが学習と考える。

最終的に答え、正しい解決に到達したかどうかは、
その過程に比べれば、重要ではない



系統学習（普通）

教師が準備し、設計したステップを踏んで学ぶ
各問題（ステップ）に対する答えを評価

PBL
学生自身の自発性、関心、能動的な姿勢から、
自ら体験的に学んでいく努力の価値を評価する

学習事項は必ず減る！！

それぞれの役割の達成が重要！！

（出典　平成24年度電子回路製作実習配布資料）

資料５－２－③－２

平成 24 年度

北九州工業高等専門学校 電子制御工学科

「NTT ドコモアプリアワード」プレゼンテーション

2013/1/23, 1/30, 2/6 10:45-12:30 大講義室

※ 発表時間一人 5 分、質疑応答 2 分とします。(ベル 4 分 1 回,5 分 2 回,7 分 3 回)
※ 発表者はスーツ着用です。

DAY 1 (2012/1/23)

順	開始	発表者	プレゼンテーション名	部門
	10:45		出席・開会挨拶	
1	10:50	53	誕生〇〇検索	
2	10:57	53	お魚釣ーりんぐマップ	
3	11:04	53	Your Wallpaper	
4	11:11	53	衣装チェンジ	
5	11:18	53	SORATEN	
6	11:25	53	コレク SHOW	
7	11:32	53	数学教師涙目！課題代わりに解くんです～途中式もあるよ！～	
8	11:39	53	肌、切メろ。	
9	11:46	53	KCT Online	
10	11:53	53	天を貫く大地の化身の最終戦争	
11	12:00	53	Smart_Navi	
12	12:07	53	特訓！九九マスター！	
13	12:14	53	くるま手帳	
14	12:28	53	ストレスブレイカー	
	12:35		講評	

（出典　平成24年度情報処理演習発表会告知）

資料５－２－③－３



（出典　北九州工業高等専門学校ウェブサイト（新着情報））

資料５－２－③－４

第4回 PBL利用教育に関する教員研修会

日　時　　平成25年 1月 25日(金) 13:00 ～ 17:40

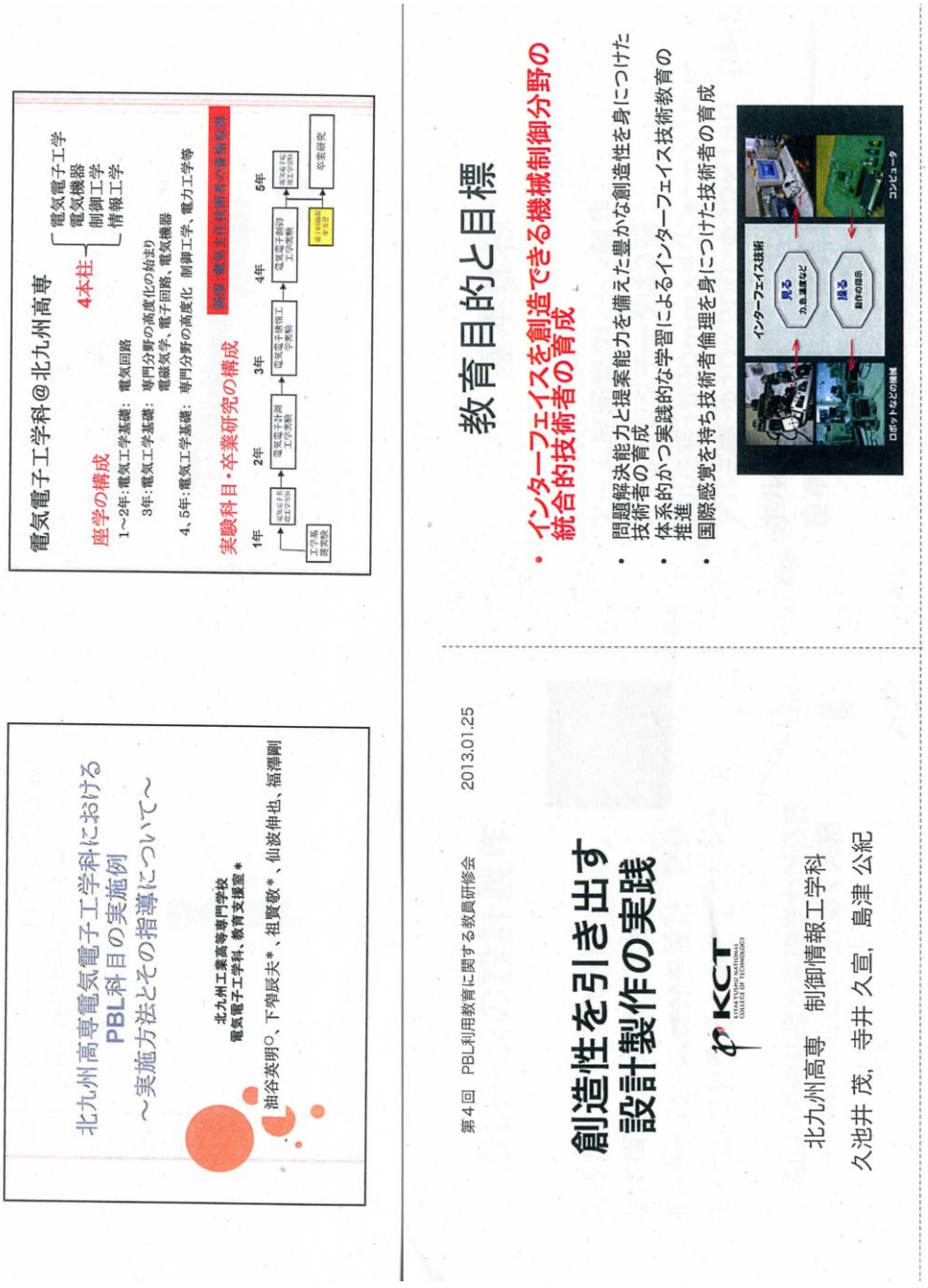
会　場　　北九州高専 管理棟2階会議室 (北九州市小倉南区志井5-20-1)

12:30	受　付	
13:00～13:10	開　会	北九州高専　塚本 寛　校長 熊本高専　松本 勉　PBL・総合教育センター長
13:10～14:10	講　演	「PBLを基軸とする工学教育プログラム」 講 師: 中尾 基 教授 (九州工業大学工学部 教授 / PBL教育推進室長)
14:10～14:40	研修報告	「オルボー大学建築学科のPBL教育(仮題)」 磯田 節子 (熊本高専)
14:40～14:50	休　憩	
14:50～15:30	講　演	「地域と協働して問題を技術で解決するものづくり教育の実施 ～富山高専の専攻科の取組とPBLの活用」 講 師: 本江 哲行 教授 (富山高専)
15:30～16:00	PBL事例報告	「北九州高専電気電子工学科におけるPBL科目の実施例 ～実施方法とその指導について～」 油谷 英明 (北九州高専)
16:00～16:30	PBL事例報告	「創造性を引き出す設計製作の実践」 久池井 茂 (北九州高専)
16:30～16:40	休 憩	
16:40～17:10	PBL事例報告	「専攻科科目へのPBLの取込み事例」 松本 勉 (熊本高専)
17:10～17:30	報 告	「熊本高専主体的な学習に関する教員アンケート報告」 大河内 康正(熊本高専)
17:30～17:40	閉　会	

(出典　第４回PBL利用教育に関する教員研修会タイムテーブル)

資料５－２－③－５

第４回PBL利用教育に関する教員研修会配布資料



（出典　第４回PBL利用教育に関する教員研修会配布資料（一部抜粋））

資料５－２－③－６

学外実習の単位認定要領

平成４年３月１９日
校　長　裁　定

１．この要領は、学生が行う学外実習の単位認定に関し、必要な事項を定めるものとする。
２．学外実習の対象学年及び認定単位数は、学則別表第２の教育課程表によるものとする。
３．学外実習の実施時期は、原則として夏季休業期間中とし、夏季休業前の臨時休業期間を含むものとする。
４．校長は、各学科長からの選考に基づき、企業への推薦を行うものとする。
５．校長は、学外実習のため学生を企業へ推薦する際、学外実習終了後、学外実習における研修結果報告書（別紙様式）を提出するよう企業へ依頼するものとする。
６．学生が学外実習における単位の認定を受けようとする場合は、所定の期日までに、学外実習レポートを各学科長へ提出しなければならない。
７．学外実習の評価方法及び評価基準は、次によるものとする。
(1)　学外実習の評価は、企業から提出された研修結果報告書及び学生から提出された学外実習レポートにより行う。
(2)　学外実習は、１日を６時間として換算し、５日（３０時間）以上履修した場合に単位認定を行うことができる。
(3)　学外実習の成績の評価及び評点は　以下略　に関する規則第６条第１項による。

（出典　教務係資料（学外実習単位認定要領））

資料５－２－③－７

別紙様式

北九州工業高等専門学校

研　修　結　果　報　告　書

１．学　科　＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿工学科

２．氏　名　＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

３．実習期間
平成　　年　　月　　日（　）～平成　　年　　月　　日（　）

４．実習内容（実習テーマ）

５．出席状況

６．講　評

以下略

（出典　教務係資料（学外実習実施報告書様式））

資料５－２－③－８

別 紙 様 式

北 九 州 工 業 高 等 専 門 学 校

実　習　結　果　報　告　書

１．学　　科　　工学科

２．氏　　名

３．実習期間

平成　　年　　月　　日（　）
平成　　年　　月　　日（　）
平成　　年　　月　　日（　）
平成　　年　　月　　日（　）
平成　　年　　月　　日（　）
平成　　年　　月　　日（　）
平成　　年　　月　　日（　）
平成　　年　　月　　日（　）
平成　　年　　月　　日（　）
平成　　年　　月　　日（　）
平成　　年　　月　　日（　）
平成　　年　　月　　日（　）

（略）

５．出席・取り組み状況

６．講　　評

（出典　教務係資料（長期学外実習実施報告書様式））

観点５－３－①：　教育課程の編成において、一般教育の充実や特別活動の実施等、豊かな人間性の涵養が図られるよう配慮されているか。また、教育の目的に照らして、課外活動等において、豊かな人間性の涵養が図られるよう配慮されているか。

（観点に係る状況）

豊かな人間性に関する教育目標と身に付けるべき資質・学力は，（F）と（F）②，③及び（G）と（G）①，②である。学修の指針では，工学技術教育目標「技術の進歩・変動に柔軟に対応できる基礎力を有する技術者の育成」と社会性・人間性教育目標「社会性や教養を身に付けた人間性豊かな学生の育成」を掲げ，豊かな人間性を涵養するための学年ごとの具体的指針を示している（資料５－３－①－１）。

資料５－３－①－２は，上記の目標，資質・学力に関わる主要科目である。１年生の基礎情報処理では，情報社会で必要とされるモラルの教育を行っており，学生が授業の中で最初に技術者倫理を学ぶ（資料５－３－①－３）。２年生の人間関係論では，良好な人間関係の大切さ，良好な人間関係を築くための要素を学ぶ（資料５－３－①－４）。従って，これら２科目は，教育目標（F），（G）両方に関与する。教育目標（F）については，学年と共に，専門科目の中で学ぶ機会を増やしている。以下，いくつかの専門科目について述べる。４年生全学科の学外実習では，社会人（技術者）として必要な人間性（責任感・協調性・倫理観等）の形成を目指す（資料５－３－①－５）。機械工学科5年の熱機関工学では，最近のエネルギー事情や熱機関の有効利用と地球環境に及ぼす問題点について学ぶ。電気電子工学科５年の電力システム工学では日本のエネルギー事情や地球環境問題について学ぶ。機械工学科，電子制御工学科及び制御情報工学科４年の長期学外実習では，社会人として必要な知識や人間性を養い，職業に従事するための知識・態度等を育むことを目指している。物質化学工学科は，養成する人物像に「工業技術と社会・環境との関わりを理解でき，倫理観を有する技術者」を明示しているため，安全工学（４年）や環境資源エネルギー工学（５年）等を導入し力を入れている。

３年生以下は，特別活動を週１単位時間（50分）実施し，３年間で90単位時間行う（資料５－３－①－６，７）。さらに，特別活動には，校長講話，体育祭，文化祭等の学校や学年全体で取組む活動も含まれる。学級担任は，毎月１回学級全体で取組む学級活動を行い，それ以外は担任の裁量で成績指導等を行う。この月１回の学級活動が学修の指針のどの具体的目標に対応しているか計画書に明示し，学級活動を行う（資料５－３－①－８）。また，実施報告書も作成する（資料５－３－①－９）。計画書と報告書の内容は，教務委員会が確認する（資料５－３－①－10）。

資料５－３－①－１

北九州工業高等専門学校「学修の指針」

アドミッション・ポリシーで求める人物像（本科）

・数学、理科の分野に興味がある者　・工学の分野に興味がある者
・実験・実習に自ら進んで取り組むことができる者　・将来、国際センスと人間性を備え、社会を支える技術者として活躍する意志を持つ者

学年	目標	工学技術教育目標：技術の進歩・変動に柔軟に対応できる基礎力を有する技術者の育成 具体的内容	目標	社会性・人間性教育目標：社会性や倫理を身に付けた人間性豊かな学生の育成 具体的内容
1年	①学習方法の意識改革と実践 ②技術を学ぶ高専生としての自覚の確立	① 授業に集中する習慣とテキストを自ら読む習慣を付ける ② 高専での学修に最も重要な好奇心・探求心を持って、自ら学ぶ自学自習（予習、復習）の習慣を付ける ③ 科目ごとの学習法を身に付ける（記憶が必要であると同時に反復習の必要な科目、暗記ではなく基本的事項の理解が重要な科目） ④ 課題・レポート等に自力で取り組み、期限を厳守する ⑤ 文書や発表を通じ、自己を正しく表現する訓練を始める ⑥ 卒業後技術者として仕事をしていくためには、全ての科目が重要であることを認識する ⑦ 実験、実習を通して、実験機器などの取り扱い方法を学ぶ ⑧ ものの作りの重要性を知る	①高専生活への適応	① 学校生活に慣れ、高専生としての生活リズム（学習、部活、余暇他）を確立し、高専生にふさわしい身なりと挨拶・言葉使い・礼儀・マナーを身に付ける ② 学校行事・クラブ活動への参加・寮生活を通して、協調性・連帯性への意識を高め、本校学生としての自覚を持つ ③ 基礎体力・持続力・集中力・忍耐力を身に付ける ④ 工場見学等を通して、社会での技術に自を向け、働くことの意味とすばらしさを考える ⑤ 清掃作業を通して、奉仕とボランティア精神の気持ちを育む ⑥ いろいろな教員の体験を聞くことによって、社会とのつながりを学習し、新聞その他のメディアを通じて社会の動向に関心を持つ
2年	①理論的な思考の訓練 ②一般科目と専門科目の関連の理解	① 理解を深めるため、家庭学習などで考えながら自学自習をする習慣を付ける ② 文字式の計算と文字式により表現される専門科目の基本原理に慣れる ③ 実験・実習通じて、理論と実際の両面から専門を理解する ④ 学習時間の配分を計画し、専門科目と一般科目のバランスの取れた学習法を確立する ⑤ 英語によるコミュニケーションの基礎を習得する	②自己を客観的に認識する訓練	① 自立心と向上心を養う ② 自然や環境・社会について考え、社会と自分との関わりを自覚する ③ 工場見学等を通して、社会での技術やその役割に目を向ける ④ 自分の人生・将来の履望に関心を向け、今どうするべきかを考える ⑤ 進路と学習の関わりを履望し、主体的な学習を確立する ⑥ 技術者として働くことと人生や社会との関わりを考える
3年	①理論的な思考の定着 ②一般教養の習得	① 基本的問題を複数の観点から解く練習により、柔軟な思考を身に付ける ② 式の意味を理解し、論理展開する練習を行う ③ 学習時間を十分確保し、多種の演習問題に対応できるようにする ④ 準備からレポート作成までの一貫した実験・実習を通じて、ものの作りの基礎を理解していく ⑤ 社会的に通用する人格を形成するため、人文教育等を通して社会問題や歴史、文化を考える ⑥ コミュニケーション能力の育成に努める ⑦ 情報収集能力等の情報リテラシーを習得する	③自分の適性と人生設計（仕事・社会・家庭との関連）	① 将来、自分はどのような仕事への適性があるかを考える ② 自分の進路とその実現方法を考える（企業見学や社会人との交流を通じて、自己の進路や目標を模索する） ③ 歴史や文化などの多様性を理解し、社会への関心を高めるとともに、異文化を受容できる力を身に付ける ④ 技術と自然や環境、技術者として働くことと人生や社会との関わりを考える ⑤ 本校の中堅となるべく、積極的なコミュニケーションが取れるように努める ⑥ 社会人として、技術者として必要な素養、一般常識や礼儀、マナーについて考える ⑦ 集団の中での自己のあり方を考え、先輩後輩等、広範な人間関係を形成する
4年	系統的な知識・技術の融合と論理的構成の定着	① 専門科目の基本理論を修得し、十分に活用できるようにする ② 理論を基礎に実験・実習等に取り組み、技術者に必要な工学的素養を育成する ③ 専門科目へ自発的に取り組み、自己学習能力を向上させる ④ 一般科目や専門基礎科目とのつながりを踏まえて専門科目を学習する ⑤ 歴史・文化・社会などについて理解する ⑥ コミュニケーション能力の発展に努める ⑦ インターンシップ等を通じて、企業のものの作りや実務を体験する ⑧ 現代社会の様々な問題と技術との関わりを考える	④将来の目標設定・進路選択	① 学内・学外研修での企業や社会人との交流を通じて、自己の進路や目標を決定する ② 自身の希望する進路の実現に向けて、必要な能力等を身に付ける ③ 現代社会の中での問題と自分の専門とする工学技術関係を通じて、技術者としての倫理について考える ④ 技術者としての自己の役割を考える ⑤ 社会人として、技術者として必要な素養、常識や礼儀、マナーを身に付ける ⑥ 学生会、寮生会、クラブのリーダーとしての活動を通じて、企画力・指導力等を養う
		① 卒業研究・実験を通じて各事象を総合的な論理体系から解析し、分析す	⑤リーダーシップの必要性の自覚	① これからの技術者像について考える

（出典　平成25年度シラバス（学修の指針））

資料５－３－①－２

豊かな人間性の涵養に関わる教育目標と科目

			1年	2年	3年	4年	5年
(F)歴史・文化・社会に関する教養を持ち、技術の社会・環境との関わりを考えることのできる技術者	機械工学科	(F)②工業技術と社会・環境との関わりを考えることができる。	基礎情報処理		歴史	史学概論 経済学 長期学外実習 学外実習	史学概論 経済学 生物工学概論 熱機関工学 卒業研究 流体機械 品質管理
		(F)③技術者としての役割と責任を認識できる。	基礎情報処理 保健 歴史	人間関係論		法学 哲学(倫理学) 機械工学演習 長期学外実習 学外実習	法学 哲学(倫理学) 生物工学概論 品質管理
	電気電子工学科	(F)②工業技術と社会・環境との関わりを考えることができる。	基礎情報処理		歴史	史学概論 経済学 学外実習	史学概論 経済学 電力システム工学 卒業研究 電気法規及び施設管理 品質管理
		(F)③技術者としての役割と責任を認識できる。	基礎情報処理 保健 歴史	人間関係論		法学 哲学(倫理学) 学外実習	法学 哲学(倫理学) 電気法規及び施設管理
	電子制御工学科	(F)②工業技術と社会・環境との関わりを考えることができる。	基礎情報処理	電子制御工学実験実習	歴史 電子制御工学実験実習	史学概論 経済学 長期学外実習 学外実習	史学概論 経済学 卒業研究
		(F)③技術者としての役割と責任を認識できる。	基礎情報処理 保健 歴史	人間関係論	電子制御工学実験実習	法学 哲学(倫理学) 長期学外実習 学外実習	法学 哲学(倫理学)
	制御情報工学科	(F)②工業技術と社会・環境との関わりを考えることができる。	基礎情報処理		歴史	史学概論 経済学 長期学外実習 学外実習	史学概論 経済学 卒業研究 品質管理
		(F)③技術者としての役割と責任を認識できる。	基礎情報処理 保健 歴史	人間関係論		法学 哲学(倫理学) 長期学外実習 学外実習	法学 哲学(倫理学)
	物質化学工学科	(F)②工業技術と社会・環境との関わりを考えることができる。	基礎情報処理		歴史	史学概論 経済学 工業英語 安全工学 学外実習	史学概論 経済学 品質管理 環境資源エネルギー工学 卒業研究 応用生物工学
		(F)③技術者としての役割と責任を認識できる。	基礎情報処理 保健 歴史	人間関係論		法学 哲学(倫理学) 学外実習	法学 哲学(倫理学) 応用生物工学
(G)社会の一員としての自覚、倫理観を持ち、心豊かな人間性を有する技術者	全学科	(G)①健やかな心身を持ち、社会性、協調性を身に付ける。	基礎情報処理 体育Ⅰ	人間関係論 体育Ⅱ	体育Ⅲ	体育Ⅳ 体育特論	
		(G)②社会人として、技術者として必要な素養、一般常識や礼儀、マナーについて考えることができる。	保健 体育Ⅰ	体育Ⅱ	体育Ⅲ	体育Ⅳ 体育特論	

黒:一般科目　　赤:専門科目

（出典　平成25年度シラバスより作成）

資料５－３－①－３

【教科名】基礎情報処理　Fundamentals of Information Processing　＜H25 履修単位科目＞

学年	学科	単位数	期間	開設週数	時間/週	総時間
1	機械工学科	（必修）2	通年	30	2	60

【担当教員】井上　昌信　【教員室】3 号館 2 階　【TEL】7258　【e-mail】masa

【授業目的と概要】

(1)コンピュータの基本的な概念・操作(タイピング含む)、(2)文書作成、表計算、プレゼンテーション、(3)インターネットの有効活用の 3 点に習熟することを目的とする。授業では計算機やネットワークを有効活用し、論文作成、データ整理、プレゼンテーション、情報の収集、検索などの基本的なスキルを習得することを目標とする。インターネット上でのモラル教育もあわせて行う。

【授業の進め方及び履修上の注意】

教科書や資料で基本事項を学習し、演習で確認する。タッチタイピング、ワード、エクセル、パワーポイント、電子メールの送受信について学習するが各ソフトウェアの種類やバージョンについては担当教員の指示に従うこと。

授　業　項　目	内　　容	時間
【前期】		
ガイダンス	アカウント・パスワードの管理、ネットワークドライブについて学ぶ	1
ネットワークモラル	情報セキュリティに関する様々な事例と対策について学ぶ	1
タイピング練習・文字入力	タッチタイプの練習方法と文字入力について学ぶ	1
e-learning 学習	e-learning 学習方法について学ぶ	1
ハードウェア	PC のハードウェアについて学ぶ	1
メール送受信	電子メールの送受信について学ぶ。	1
ファイル操作	ファイルの作成・削除・コピー・移動を学び USB メモリを活用する	1
文書作成基礎	書式設定に習熟し、フォーマットに従った文書を作成する	10
中間試験		
文書作成応用	図表、数式を使用した文章を作成する	13

（出典　平成25年度シラバス（基礎情報処理演習））

資料５－３－①－４

【教科名】人間関係論　Human Relations　　＜H25　履修単位科目＞

学年	学科	単位数	期間	開設週数	時間/週	総時間
2	全工学科	（必修）2	通年	30	2	60

【担当教員】安部　力　　【教員室】1 号館 3 階　　【TEL】7326　　【e-mail】abe

【授業目的と概要】

本授業は、社会的存在としての人間が、現代社会において人間関係を結ぶ際に、身につけておくべき様々な要素を修得することを目的とする。授業では、何故、人間は「関係」を結ばなければならないのか。それは人間が「どのような存在」であるからなのか。そして人間関係には何が必要なのか。どうすれば「より良い」人間関係を育めるのか。これらのことを、様々な「人間関係」を例に取りながら、その根底にあるものを見据え考えていくこととする。

【授業の進め方及び履修上の注意】（準備する道具や前提となる知識）

・毎時間、事前に、テキストを次回の進行予定分だけ読んでくること。（適宜、確認形式の小テストを行なう）
・「解答を与える」科目ではないので、問題意識を持ち、主体的に考えるという姿勢を持って授業に臨むこと。
・社会に出た時に必要な振る舞い（「常識」）とは、どのようなものか、日頃から考えておくこと。

授　業　項　目	内　　容	時間
【前期】		
ガイダンス	・人間関係論で扱うこと（現代社会における倫理について）	2
1　人間と関係	・人間は何故、関係を結ばなければならないのか。	4
2　人間という存在	・人間とはどのような存在なのか。	4
3　関係の意味	・「関係を結ぶ」とはどういうことなのか。	4
4　自己分析と他者理解	・自分を知る（自分の考える自分。他人の目に映る自分）。 （第一印象の「作り方」「捉え方」等）	6
5　様々な関係に必要な振る舞い	・他人に対する振る舞い	6
	・日本の伝統文化に見る振る舞い	4
期末試験		
【後期】		
6　「関係」に必要なこと	・様々な関係に必要な配慮とは何か。	2
	「家族（夫婦、兄弟姉妹）」及び「先生（学生）、上司（部下）」について	6
	「友人（仲間、同僚）、恋人」などについて。	4
7　様々な関係に必要な振る舞い	・「関係」を構築する上で必要とされる、様々な記号について。（敬語）	8
	「礼儀、身体記号、聴く力」などについて。	4
8　その他の「関係」	・「人間」を取り巻く「関係」について。（求められる「人」の振る舞い） （地域、自然環境、動物、見知らぬ人々との関係など）	4
9「人間関係」の根底	・人間関係を支える、根底にあるものについて。	2
定期試験		

【達成目標】

・人間がどのような存在であり、何故関係を結ばなければならないのかについて考察できる。
・様々な「関係」において必要とされる振る舞いや、身に付けるべき意識、姿勢などを考慮することができる。
・より良い人間関係構築のために必要な要素を身に付けることができる。

【教科書】

逆境を越えてゆく者へ　爪先立ちで明日を考える、実業之日本社、新渡戸稲造

【参考書】

新渡戸稲造、みすず書房、松隈俊子

（出典　平成25年度シラバス（人間関係論））

資料５－３－①－５

【教科名】学外実習　Extramural On-the-job Training　＜H25 履修単位科目＞

学年	学科	単位数	期間	開設週数	時間/週	総時間
4	機械工学科	（選択）1	夏季休業中	1～2 週間	-------	30 時間以上

【担当教員】入江　司　【教員室】3 号館 2 階　【TEL】7267　【e-mail】irie

【授業目的と概要】

企業・公的機関・大学などにおいて短期間の現場実習を体験することで、設計・生産・開発の技術、試験・研究・保守管理などについて実践的に学び、実社会の厳しさを知るとともに、社会人（技術者）として必要な人間性（責任感・協調性・倫理観など）の形成を目指す。また、学外実習を通して、勉学の意味と目標ならびに学生生活の意義を再認識することで、将来の進路選択に役立てる。

【授業の進め方及び履修上の注意】

第 4 学年時の夏季休業期間を利用して、企業・公的機関・大学などの実習受入れ先で、1～2 週間（実 30 時間以上）の実習を行う。実習内容は、実習受入れ先で計画されたカリキュラムに従って行われる。

《特記》　①実習受入れ先の選定、事務手続き、学校提出の実習報告書の作成など全般については、学級担任ならびに学生課教務係の指導を受け、最後まで自覚と責任を持って対応すること。

②事前に、「学外実習届」を学校へ提出すること。

③実習に必要な経費は原則自己負担であること、実習受入れ先によっては申込み時に書類選考があることに注意すること。

④実習に当たっては、実習受入れ先の規律・規則・指導に従い、実習には積極的に取り組み・コミュニケーションに努めるとともに、実習時間外であっても期間中は常に責任ある行動を心がけること。

授　業　項　目	内　　容	時間

（出典　平成25年度シラバス（学外実習））

資料５－３－①－６

平成25年度　前学期授業時間割（3年生）

※学修単位科目

		３Ｍ	教室	教員	３Ｅ	教室	教員	３Ｄ	教室	教員	３Ｓ	教室	教員	３Ｃ	教室	教員
月	1	機構学		井上	電気磁気学Ⅰ		福澤	微分積分Ⅱ		徳一	デジタル回路※	第一ゼミ	山内・乙部	代数幾何Ⅱ	合併	豊永
	2	機構学		井上	電気磁気学Ⅰ		福澤	微分積分Ⅱ		徳一	デジタル回路※	第一ゼミ	山内・乙部	代数幾何Ⅱ	合併	豊永
	3	工業力学		山本（洋）	情報処理Ⅲ	電算	桐本	物理Ⅱ		松久保	デジタル回路※	第一ゼミ	山内・乙部	現代文		藤本
	4	工業力学		山本（洋）	情報処理Ⅲ	電算	桐本	物理Ⅱ		松久保	デジタル回路※	第一ゼミ	山内・乙部	現代文		藤本
	5	材料学Ⅱ		種	体育Ⅲ	第一体育館	松崎	電子回路Ⅰ		吉野	現代文		藤本	無機・分析化学実験		永田ほか
	6	材料学Ⅱ		種	体育Ⅲ	第一体育館	松崎	電子回路Ⅰ		吉野	現代文		藤本	無機・分析化学実験		永田ほか
	7	工業英語Ⅰ		滝本				特別活動		吉野				無機・分析化学実験		永田ほか
	8													無機・分析化学実験		永田ほか
	9															
火	1	代数幾何Ⅱ		徳一	電気回路Ⅲ		小城	歴史学		荒川	微分積分Ⅱ		栗原	体育Ⅲ	第一体育館	松崎
	2	代数幾何Ⅱ		徳一	電気回路Ⅲ		小城	歴史学		荒川	微分積分Ⅱ		栗原	体育Ⅲ	第一体育館	松崎
	3	第2外国語	大講ほか	坂口ほか	第2外国語	大講ほか	坂口ほか	第2外国語	大講ほか	坂口ほか	第2外国語	大講ほか	坂口ほか	第2外国語	大講ほか	坂口ほか
	4	第2外国語	大講ほか	坂口ほか	第2外国語	大講ほか	坂口ほか	第2外国語	大講ほか	坂口ほか	第2外国語	大講ほか	坂口ほか	第2外国語	大講ほか	坂口ほか
	5	歴史		荒川	微分積分Ⅱ		石井	体育Ⅲ	第一体育館	松崎	力学		久池井	基礎化学工学		前田
	6	歴史		荒川	微分積分Ⅱ		石井	体育Ⅲ	第一体育館	松崎	力学		久池井	基礎化学工学		前田
	7	体育Ⅲ	第一体育館	松崎	電気機器Ⅰ		松本				特別活動		久池井			
	8	体育Ⅲ	第一体育館	松崎	電気機器Ⅰ		松本									
	9															
水	1	英語BⅡ		山本	電子回路Ⅰ		加島	英語AⅢ		西田	コンピュータ基礎	電算	日高	微分積分Ⅱ		藤原
	2	英語AⅢ		西田	電子回路Ⅰ		加島	英語BⅡ		山本	コンピュータ基礎	電算	日高	微分積分Ⅱ		藤原
	3	微分積分Ⅱ		堀内	英語BⅡ		山本	代数幾何Ⅱ		藤原	英語BⅡ		木村	英語AⅢ		西田
	4	微分積分Ⅱ		堀内	英語AⅢ	CALL	横山	代数幾何Ⅱ		藤原	英語AⅢ		西田	英語BⅡ		木村
	5	機械製図Ⅱ	機械CAD	入江	現代文		山下	情報処理Ⅱ	電算	白濱	体育Ⅲ	第二体育館	松崎	物質化学工学設計製図		小田
	6	機械製図Ⅱ	機械CAD	入江	現代文		山下	情報処理Ⅱ	電算	白濱	体育Ⅲ	第二体育館	松崎	物質化学工学設計製図		小田
	7															
	8															
	9															
木	1	英語BⅡ		山本	微分積分Ⅱ		石井	英語AⅢ		西田	微分積分Ⅱ		栗原	物理化学Ⅰ		山根
	2	英語AⅢ		西田	微分積分Ⅱ		石井	英語BⅡ		山本	微分積分Ⅱ		栗原	物理化学Ⅰ		山根
	3	物理Ⅱ		宮内	歴史		荒川	電子計算機Ⅰ※	第2講義室	井田	英語BⅡ		木村	英語AⅢ		西田
	4	物理Ⅱ		宮内	歴史		荒川	電気回路Ⅲ		北園	英語AⅢ		西田	英語BⅡ		木村
	5	現代文		山下	物理Ⅱ		油谷	電子制御工学実験実習	知能情報	白濱ほか	機械工作法		寺井	微分積分Ⅱ		藤原
	6	現代文		山下	物理Ⅱ		油谷	電子制御工学実験実習	知能情報	白濱ほか	機械工作法		寺井	微分積分Ⅱ		藤原
	7				特別活動		油谷	電子制御工学実験実習	知能情報	白濱ほか	力学		久池井	特別活動		水野
	8										力学		久池井			
	9															
金	1	数値計算法	機械CAD	田源	代数幾何Ⅱ		堀内	計測工学Ⅰ		添田	代数幾何Ⅱ		徳一	物理Ⅱ		中村
	2	数値計算法	機械CAD	田源	代数幾何Ⅱ		堀内	計測工学Ⅰ		添田	代数幾何Ⅱ		徳一	物理Ⅱ		中村
	3	微分積分Ⅱ		堀内	英語BⅡ		山本	微分積分Ⅱ		徳一	物理Ⅱ		中村	歴史		為家
	4	微分積分Ⅱ		堀内	英語AⅢ	CALL	横山	微分積分Ⅱ		徳一	物理Ⅱ		中村	歴史		為家
	5	材料力学Ⅰ		種	電気電子情報工学実験		開道ほか	現代文		山下	歴史		為家	有機化学Ⅱ		竹原
	6	材料力学Ⅰ		種	電気電子情報工学実験		開道ほか	現代文		山下	歴史		為家	有機化学Ⅱ		竹原
	7	特別活動			電気電子情報工学実験		開道ほか	力学		太屋岡	ディジタル回路※		山内・乙部			
	8							力学		太屋岡	ディジタル回路※		山内・乙部			
	9															

（出典　平成25年度前学期時間割）

資料５－３－①－７

14. 特別活動の取り組み（～学修の指針を踏まえて）

特別活動には学校や学年全体で取り組む活動のほかに、時間割に組み込まれ毎週クラス担任が計画して行う学級活動があります。前者には、校長講話(4 月)、ロングホームルーム(4月)、歩行大会、学生総会(4 月)、KCT体育祭、体育祭練習・準備(5 月)、クラスマッチ(6 月)、救急法講習会(3 年生)、校内清掃(夏季休業前)、校長講話(10 月)、ロングホームルーム(10 月)、学生総会(10 月)、高専祭準備・高専祭・後片付け、クラスマッチ(11 月)、校内清掃(冬季休業前)、学生会役員立会演説会(1 月)、登校日(3月)、特別講演など校長が特に必要と認めたものがあります。

学級活動のなかには毎月１回は学級全体で取り組むホームルーム活動（学修の指針を踏まえて－シラバス参照－）を実施しなければなりません。これについては前期分と後期分の計画書をそれぞれ作成して教務係に提出していただき、教務委員会の承認を得ることになっています。

また、特別活動実施報告書を３月に提出しなければならないので、活動のメモを取っておくことをお勧めします。

１４－１　特別活動編成方針

以下は特別活動編成方針の抜粋です。

（１）　特別活動実施要領（平成 9 年校長裁定）に基づき、
- 対象学年は第１学年から第３学年までとする。
- 各学年とも年間３０単位時間以上実施する。

（２）　特別活動は、ホームルーム活動と学校行事活動（学生会行事を含む）で構成する。

（３）　ホームルーム活動のうち、学級全体で取り組む活動（以下、「学級活動」で記述）は原則、毎月１回実施する。ただし、夏季休業および学年末休業にあたる 8 月と 3 月は実施しない。

（４）　学級活動は年度始めに学級担任が年間計画表を作成し、教務委員会に諮るものとする。学級活動を行わない週は、学級担任の裁量で成績指導や進路指導等を行うものとする。

（５）　ホームルーム活動の時間帯は学年集会等の学年別指導が行えるよう、可能な限り学年ごとに同一時間帯となるよう、時間割編成を行う。

（６）　健康診断・防災避難訓練等の特別活動の主旨から外れる学校行事は、特別活動の対象から除く。特別活動の対象となる学校行事活動および学年毎の時間配当については、別表のとおりとする。(キャンパスアシストをご覧ください)

（７）　学級担任はホームルーム活動の実施報告について、学級活動を行わない週も含めて 30 週分の実施報告書を年度末に教務委員会に提出するものとする。

（出典　平成25年度学級担任支援マニュアル）

資料５－３－①－８

平成24年度後学期特別活動実施計画一覧

クラス	10月	学修の指針	11月	学修の指針	12月	学修の指針	1月	学修の指針	2月	学修の指針
1－M （石井） 金曜6時限	高専祭クラス展示対策会議	②	高専祭クラス展示反省会	②	ビデオ鑑賞	②	図書館利用	①	期末試験・再試験諸注意	⑥
1－E （渡辺） 金曜6時限	高専祭の準備（クラス企画の制作活動）	②③	高専祭の反省（来年の高専祭をよりよいものにするために）	②	後学期中間試験にむけて（計画作成・残りの日々をどう過ごすか）	①	２０１２年私の１０大ニュース（1分間スピーチ）	①	後学期定期試験にむけて（計画作成・残りの日々をどう過ごすか）	①
1－D （豊永） 金曜6時限	高専祭のクラス展示の準備	②	高専祭のクラス展示の準備	②	後期中間考査に向けての取り組み	①	後期期末考査に向けての取り組み	①	1年生を振り返って	①
1－S （位田） 金曜6時限	前期を終えての反省と、後期の目標の作文執筆。担任からの前期成績を元にした訓話。	①③⑥	高専祭の反省会。良かった点・改善すべき点を話し合わせる。	①②③	後期中間試験を終えての反省点を各自に確認させる。冬休みを迎えるにあたっての担任からの訓話。	①③⑥	新年を迎えて、「将来の夢」の作文執筆。	①③④	学年末試験を迎えるにあたり、各自の目標・これまでの反省・勉強計画を確認させる。	①③⑥
1－C （荒川） 金曜6時限	高専祭に向けての活動を行う。特に展示内容の確認、必要なものが何であるのか、どうすれば「人が来てくれるのか」について考え、社会性を養うことを行う。特に、現在考えている実験では「協力」が必要となる。	①②③	高専祭の総括、進路について考える（3回目）、ディベート大会の準備	①②③⑤	クラス内ディベート大会（12月に4回行う）内容は、進路に関わるタイトル、および国際理解に関するもの	①⑤⑥	3分間スピーチ（内容は将来の進路について、自分の今一番力を入れていることについて、発表する）	①④⑥	同上（４４名すべての発表を行う）	①④⑥

（出典　平成24年度後学期特別活動計画一覧）

資料５－３－①－９

平成２４年度特別活動　学級活動実施報告

２学年　　機械工学科　　担任氏名　　廣瀬孝壽

	実施日	曜日	時限	実　施　内　容
1	4月 20日	金	7	昨年度の反省、新年度の計画・目標設定(作文)。教室清掃。
2	5月 18日	金	7	歩行大会、体育祭の反省。教室清掃。
3	6月 1日	金	7	試験対策学習会(学生2名が講師役)。教室清掃。
4	7月 24日	火	7	夏休みの心得についての学年集会。
5	9月 7日	金	7	試験に向けて学習上の諸注意。教室清掃。
6	10月 5日	金	7	高専祭の目標設定。教室清掃。
7	11月16日	金	7	試験対策学習会(学生2名が講師役)。教室清掃。
8	12月14日	金	7	冬休みの目標設定。教室清掃。
9	1月 18日	金	7	新年の目標設定(作文)。教室清掃。
10	2月 1日	金	7	定期試験の目標設定。教室清掃。

学級活動は学級全体で取り組む活動で、原則毎月１回実施することになっています。

（出典　平成24年度特別活動報告書）

資料５－３－①－10

教務委員会議事要録（特別活動に関して）

オ．平成 23 年度特別活動の実施報告について

委員長から、資料 15「平成 23 年度特別活動実施報告」に基づき説明があり、特別活動の実施内容を確認した。また、今後何か気がついたところがあれば、委員長まで連絡していただくよう要請があった。

なお、２年制御情報工学科と３年電気電子工学科については、実施日及び曜日について確認することとした。

カ．平成 24 年度前期分特別活動の実施計画について

委員長から、資料 16「平成 24 年度前学期特別活動実施計画一覧」に基づき説明があり、審議の結果、原案どおり了承された。

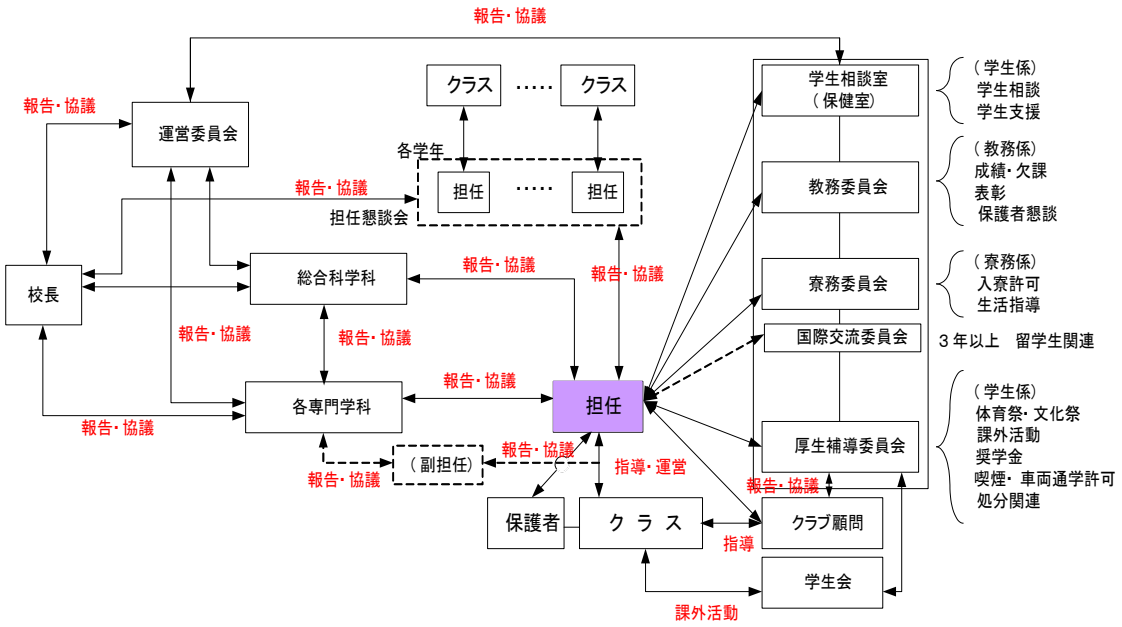
なお、「特別活動の内容と学修の指針との関係」が分かりづらいので、後学期の実施計画から指針の番号を入れることとした。

（出典　第１回(H24.04.11)教務委員会議事要録（一部抜粋））

次に，課外活動等での配慮について述べる。学生指導は，学級担任が中心となり，学科，厚生補導委員会，担任同士，校長，学生相談室等と連携しながら指導を行う体制が整備されている（資料５－３－①－11）。資料５－３－①－12は，学級担任支援マニュアルに記載された学校行事一覧である。赤印の行事は学級担任や学科が主体的に指導を行う行事である。行事の多くで，学級担任，学科，厚生補導委員会等が連携して学生指導を行い，豊かな人間性の涵養に努めている。資料５－３－①－12の青印は，課外活動（学生会と部・研究会等）が主となる行事である。学生会の目的は，教育指導の下での学生の自発的で健全な活動を通じて人間形成を助長し高等専門教育の目的達成に寄与することであり（資料５－３－①－13），その学生会の下に部・研究会等が位置付けられている（資料５－３－①－14，15）。この学生会と部・研究会等に所属する学生は本科学生の約７割であり（資料５－３－①－16），常勤教員の約96%が顧問として課外活動の指導に携わっている（資料５－３－①－17）。このため，課外活動は活発であり，多くの部活動が全国大会で優勝する等，顕著な成績を残している。例えば，バドミントン部は全国高専大会で平成20年度まで団体戦10連覇を達成した（資料５－３－①－18：別添資料）。また，ロボコンは全国大会で２度優勝した（資料５－３－①－19）。学生会活動は，厚生補導委員会の指導の下に行われ，その活動は厚生報道委員会で総括している（資料５－３－①－20）。部・研究会等の活動は，顧問教員の指導の下に行われ，その活動は，対外試合等の際に顧問教員が提出する部活動指導報告書を通じて，校長，学生主事等が把握している。従って，学生会と部・研究会等の課外活動を通じて，多くの学生が豊かな人間性を身に付けられるよう配慮されている。

資料５－３－①－11

担任と学科，委員会，他の組織との関連



（出典　平成24年度学級担任支援マニュアル）

資料５－３－①－12

担任が関わる前期行事一覧

◎：中心となって関わる　○：補助的に関わる

月	学校行事および学生会行事 前期	主に関わる者 担任	学生会	学年学科	関係の係 教務	学生	本マニュアル頁
4月	入学式（1年担任・各学科）	◎		○	◎	○	5
	校長講話	○			◎	○	5～6
	新入生オリエンテーション	◎		○	◎	○	5～6
	1～3年生、実力テスト				◎		
	定期健康診断	○				◎	
	新入生集団宿泊研修	◎	○	◎	○	○	6
	3年生オリエンテーション	◎		◎	○		7
	学生総会（出欠は学生会）		◎			○	
	歩行大会（出欠は担任2回）	◎	◎			○	6
5月	体育祭練習（出欠は学生会）		◎			○	7
	KCT体育祭（出欠は学生会）	○	◎			○	7
6月	前学期中間試験	◎			◎		19
	3年生、救急法講習会			○	○	◎	
	クラスマッチ（出欠は担任2回）	○	◎			○	
7・8・9月	保護者と学級担任・専門学科との懇談会	◎		◎	○		17
	九州沖縄地区高専体育大会		○			◎	
	校内清掃	◎		○	○		21
	夏季休業（7月、8月）	○					21
	4年生学外実習（7月、8月）	○		○	○		
	全国高専体育大会（8月）		○			◎	
	夏季オープンキャンパス	○		◎	○	○	
	前学期期末試験	◎			◎		19
	4年生、長期工場見学旅行	◎		◎	○		

（出典　平成24年度学級担任支援マニュアル）

資料５－３－①－13

12 学生会会則

第1章　総則

第1条　本会は、北九州工業高等専門学校学生会と称する。

第2条　本会は、北九州工業高等専門学校（以下「本校」という。）の教育指導の下に、学生の自発的かつ健全な活動を図り、人間形成を助長し、もって高等専門教育の目的達成に資することを目的とする。

第3条　本会は、本校の学生全員をもって構成し、入学と同時に入会するものと

（出典　平成25年度学生便覧）

資料５－３－①－14

Ⅵ 課外活動

課外活動の目的は、組織の中でいかに自己を生かすかということにあると言える。その組織の発展に寄与することが将来社会人として極めて貴重な体験の場となる。また、正課の授業が、個人中心になるのに対し、課外活動は、志を同じくする集団の一員として自己を修練する最適の場所ともいえるので、いずれかのクラブへ積極的に参加するようにしてほしい。

1 学生会

本校には、学生全員によって構成される学生会がある。

学生会は、学生総会、評議会を執行機関として会長、局長等の役員を置き、文化、体育に関する部を設け、自発的な活動を続けている。部に所属することによって、大いに自己の研さんに努めてほしい。(学生会組織は P91 参照)

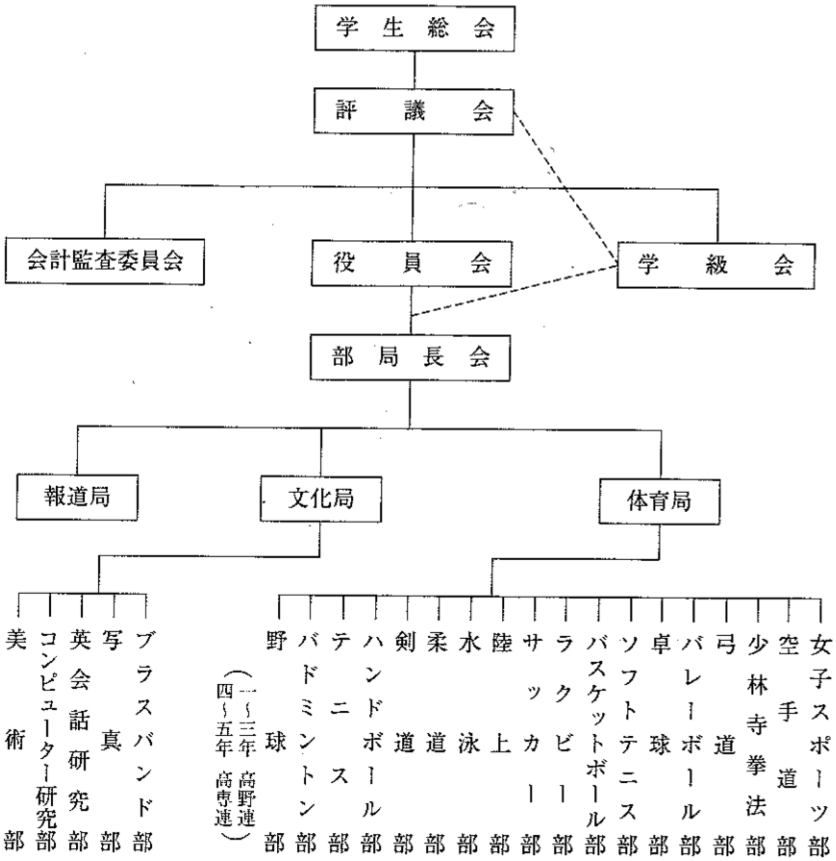
主な活動内容

ア　高専祭
イ　クラスマッチ（夏季・冬季）
ウ　新入生歓迎歩行大会
エ　KCT 体育祭
オ　機関紙の発行

（出典　平成25年度学生便覧）

資料５－３－①－15

学生会組織図



なお、愛好会・研究会として次のものがある。
モーターサイクル・自転車愛好会、郵便友の会、メカトロ研究会、文学愛好会、ギターコーラス同好会、デザイン研究会、インターアクト、クロスカントリー愛好会、宇宙科学研究会、将棋愛好会

（出典　平成25年度学生便覧）

資料５－３－①－16

課外活動（クラブ）学生数

体育局			
ク ラ ブ 名	２４年度	２３年度	２２年度
野球	53	63	40
バドミントン	58	57	56
テニス	38	37	28
ハンドボール	31	38	43
空手	3	7	5
剣道	14	10	9
柔道	9	13	14
水泳	11	17	23
陸上	25	21	25
サッカー	36	35	48
ラグビー	19	20	19
バスケットボール	35	29	26
ソフトテニス	36	32	34
卓球	21	21	26
バレーボール	22	16	20
弓道	21	20	23
女子スポーツ	17	16	15
少林寺拳法	0	0	0
小計	449	452	454 ①

文化局			
ク ラ ブ 名	２４年度	２３年度	２２年度
美術部	12	14	9
コンピュータ	35	48	42
英会話	3		
写真	11	12	15
ブラスバンド	24	20	23
小計	85	94	89 ②

愛好会・研究会			
ク ラ ブ 名	２４年度	２３年度	２２年度
モーターサイクル・自転車愛好会	17	9	9
郵便友の会	10	14	17
メカトロ研究	6		
ギターコーラス	15	14	12
文学愛好会	17	22	17
宇宙科学研究会	44	35	34
デザイン研究会	12	12	
設計製作研究会			16
クロスカントリー愛好会	23	16	16
インターアクト	9	10	10
ロボコン	42	42	36
ロボカップ	5	15	19
将棋	7	12	
小計	207	201	186 ③

学生会			
	２４年度	２３年度	２２年度
学生会役員	10	10	10 ④

①＋②＋③＋④	751	757	739

（出典　学生係資料）

資料５－３－①－17

平成25年度　課外活動指導教員一覧

体育局							
1	野球	松﨑　拓也	吉野　慶一	荒川　裕紀	種　健	前川　孝司	
2	バドミントン	白神　宏	磯﨑　裕臣	添田　滿	山下　文		
3	テニス	宮崎　出雲	後藤　宗治	井上　昌信	栗原　大武		
4	ハンドボール	油谷　英明	徳一　保生	安部　力	松久保　潤		
5	空手	山内　幸治	井田　利浩				
6	剣道	濵田　臣二	久池井　茂	滝本　隆			
7	柔道	桐本　賢太	開道　力	水野　康平	矢野　正孝		
8	水泳	太屋岡篤憲	石井伸一郎				
9	陸上	八嶋　文雄	福澤　剛	小清水孝夫	大谷　浩		
10	サッカー	北園　優希	中山　博愛	浜松　弘	十時　優介	日高　康展	山本　洋司
11	ラグビー	入江　司	二宮　慶	廣瀬　孝壽	山本　一夫		
12	バスケットボール	楠田　剛士	山根　大和	安信　強	山田　康隆	大川原　徹	永田　康久
13	ソフトテニス	中村　裕之	古野　誠治	前田　良輔	脇山　正博		
14	卓球	園田　達彦	松本　圭司	秋本　高明			
15	バレーボール	竹原　健司	小畑　賢次	松尾　貴之	白濵　成希		
16	弓道	宮内　真人	浅尾　晃通	田淵　大介	山本　和弥		
17	女子スポーツ	乙部由美子	井上　祐一	豊永　憲治	久保川晴美		
文化局							
18	美術部	中島　レイ	樫村　秀男				
19	コンピュータ	白濵　成希	脇山　正博	古野　誠治			
20	英会話	大谷　浩	横山　郁子				
21	写真	横山　郁子	内田　武				
22	ブラスバンド	中島　レイ	白神　宏	山田　康隆			
愛好会・研究会							
23	モーターサイクル・自転車愛好会	平島　繁紀	滝本　隆				
24	郵便友の会	加島　篤					
25	メカトロ研究	山内　幸治					
26	ギターコーラス	山本　一夫					
27	文学愛好会	徳一　保生	山下　文				
28	宇宙科学研究会	中村　裕之	松嶋　茂憲				
29	デザイン研究会	浜松　弘	寺井　久宣				
30	クロスカントリー愛好会	川原　浩治					
31	インターアクト	寺井　久宣					
32	ロボコン(ロボカップ)	吉野　慶一	久池井　茂	浅尾　晃通	井田　利浩	大谷　浩	滝本　隆
33	将棋	徳一　保生					

（出典　厚生補導委員会資料）

資料５－３－①－19

アイデア対決・全国高専ロボットコンテスト九州沖縄地区大会成績一覧

西暦	1988	1989	1990	1991	1992	1993	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
元号	S63	H元	H2	H3	H4	H5	H6	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24
回数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25
テーマ	乾電池カー・スピードレース	オクトパス・フットボール	ニュートロン・スター	ホットタワー	ミステリーサークル	ステップダンス	スペースフライヤー	ドリームタワー	テクノカーボーイ	花開蝶来	生命上陸	ジャンプ・トゥー・ザ・フューチャー	ミレニアム・メッセージ	Happy Birthday 39	プロジェクトBOX	鼎・かなえ	マーズラッシュ	大運動会	ふるさと自慢特急便	風林火山ロボット騎馬戦	ROBO-EVOLUTION 生命大進化	ダンシングカップル	激走！ロボカ車	ROBO×BOWL	ベスト・ペット
九州地区大会会場	—	—	—	久留米	北九州	熊本電波	八代	都城	有明	鹿児島	佐世保	大分	久留米	北九州	熊本電波	八代	都城	有明	鹿児島	佐世保	大分	沖縄	久留米	北九州	熊本（熊本）
優　勝	–	–	–	●久留米	●久留米	●熊本電波	●熊本電波	●都城	●佐世保	●北九州	●有明	●佐世保	●熊本電波	●都城A	●北九州	●北九州	●北九州	●鹿児島A	●鹿児島A	●北九州A	●沖縄A	●沖縄A	●鹿児島B	●鹿児島B	●熊本（八代）A
準優勝	–	–	–	●佐世保	●佐世保	●八代	●佐世保	大分	●久留米	八代	北九州	●熊本電波	熊本電波	都城B	佐世保	有明	●佐世保	●有明B	鹿児島B	●沖縄A	○鹿児島A	●鹿児島B	●大分B	鹿児島B	北九州B
アイデア賞	–	–	–	●北九州	●都城	●佐世保	●都城	●八代	●北九州	●久留米	●都城	●久留米	北九州	佐世保	熊本電波	●久留米	大分	八代A	●沖縄A	●大分A	●鹿児島B	●都城A	熊本（八代）B	●北九州B	●有明B
				3位 ●有明																					
技術賞	–	–	–						熊本電波	●都城	有明	有明	熊本電波	●北九州	鹿児島	●有明	●鹿児島	●大分A	鹿児島B	●佐世保A	●北九州B	●北九州B	●熊本（八代）A	●有明B	●鹿児島B
芸術賞	–	–	–								●北九州	●北九州													
デザイン賞								久留米						八代	北九州B	都城	●都城	都城A	●都城A	大分B	●大分A	大分A	大分A	北九州A	北九州A
	–	–	–		優秀賞 ●有明	優秀賞 ●有明						NECグループ賞　八代	審査員賞 ●佐世保	九州電力賞 大分				推薦チーム ●都城B	推薦チーム ●有明A	風林火山賞 有明B	生命大進化賞 都城B	ベストカップル賞 沖縄B	激走賞 鹿児島A	ロボ・ボウル賞 ●沖縄B	ベスト・ペット賞 ●都城B
特別賞	–	–	–									省エネルギーセンター賞 鹿児島	パフォーマンス賞 ●鹿児島			久留米、八代、佐世保、都城	大分、都城、沖縄、鹿児島	北九州B、久留米、佐世保、有明、沖縄		佐世保B、都城B、鹿児島B、有明B、熊電A	沖縄B、鹿児島B、有明A、北九州B、熊本電波A	鹿児島A、沖縄B、都城A、北九州A、熊本（熊本）B	鹿児島A、熊本（八代）A、都城A、有明A、熊本（熊本）B	佐世保A、都城B、北九州A、沖縄A	鹿児島B、都城B、熊本（熊本）A、熊本（八代）B、北九州B
北九州A																				クルポン		ひょっこり巌流島	はこびゃん	ようかい鬼機一発	Feature Future
北九州B																						シシマイティー	●Techー Cha!!（テクッチャ）	●ViGo	Velonica

●全国大会出場

アイデア対決・全国高専ロボットコンテスト成績一覧

西暦	1988	1989	1990	1991	1992	1993	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
元号	S63	H元	H2	H3	H4	H5	H6	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24
回数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25
テーマ	乾電池カー・スピードレース	オクトパス・フットボール	ニュートロン・スター	ホットタワー	ミステリーサークル	ステップダンス	スペースフライヤー	ドリームタワー	テクノカーボーイ	花開蝶来	生命上陸	ジャンプ・トゥー・ザ・フューチャー	ミレニアム・メッセージ	Happy Birthday 39	プロジェクト「box」	鼎・かなえ	マーズラッシュ	大運動会	ふるさと自慢特急便	風林火山ロボット騎馬戦	ROBO-EVOLUTION 生命大進化	ダンシングカップル	激走！ロボカ車	ROBO×BOWL	ベスト・ペット
全国大会（国技館）	出場①	出場②	出場③	出場④	×	×	×	×	出場⑤	出場⑥	出場⑦	※エキジビション出場	×	出場⑧	出場⑨	出場⑩	出場⑪	×	×	出場⑫	出場⑬	出場⑭	出場⑮	出場⑯	×
優　勝	沼津	久留米	仙台電波	東京	一関	旭川	豊田	都立航空	徳山	都城	豊田	宮城	詫間電波	詫間電波	北九州	旭川	松江	津山	詫間電波	北九州	沖縄	香川（詫間）	鹿児島	仙台（名取）	一関
準優勝	久留米	詫間電波	久留米	徳島	岐阜	八代	奈良	米子	明石	一関	長岡	石川	岐阜	仙台電波	米子	航空	詫間電波	東京	和歌山	和歌山	小山	呉	和歌山	福島	熊本（八代）
アイデア賞	一関 松江	鈴鹿	育英 松江	八戸、ｽﾗﾊﾞﾔ電子工学	有明 徳山	豊田	都城	八代	群馬	北九州	松江	広島商船	釧路	広島商船	徳山	奈良	一関	小山	沖縄	大分	鹿児島	岐阜	奈良	小山	大阪府立
技術賞		有明		一関 鳥羽	八戸 佐世保	金沢	秋田	小山	鶴岡	富山商船	八戸	熊本電波	米子	北九州	鹿児島	米子	広島商船	鹿児島	徳山	詫間電波	岐阜	豊田	岐阜	北九州	津山
アイデア倒れ賞	東京	長岡、福島	茨城、豊田八代	佐世保 沼津	鳥羽 鶴岡	奈良 鶴岡	福井 鶴岡	釧路	久留米 釧路	東京都立	広島商船	長岡	豊田	佐世保	福島	阿南	鈴鹿	福島							
芸術賞											小山	札幌市立			育英	小山									
												電気事業連合会賞 八戸	特別賞 福井	デザイン賞 育英		宇部、豊田、航空		デザイン賞 富山商船	デザイン賞 近畿大学	デザイン賞 富山	デザイン賞 大分	デザイン賞 一関	デザイン賞 熊本（八代）	デザイン賞 豊田	デザイン賞 都城
	完全燃賞 長岡							ベストデザイン賞 富山		優秀賞 久留米		省エネルギーセンター賞 宮城		特別賞 豊田	※エキジビション出場	特別賞 北九州			ふるさと自慢賞 釧路	風林火山賞 一関	生命大進化賞 阿南	ベストカップル賞 舞鶴	激走賞 松江	ロボ・ボウル賞 長野	ベスト・ペット賞 小山
大賞					ミステリーサークル賞 都城	ステップダンス賞 福井	スペースフライヤー賞 奈良	ドリームタワー賞 新居浜	テクノカーボーイ賞 大島商船	花開蝶来賞 福井	生命上陸 旭川	ロボコン大賞 徳山	ロボコン大賞 長岡	ロボコン大賞 大島商船	ロボコン大賞 富山商船	ロボコン大賞 航空	ロボコン大賞 豊田	ロボコン大賞 東京	ロボコン大賞 詫間電波	ロボコン大賞 サレジオ	ロボコン大賞 津山	ロボコン大賞 広島商船	ロボコン大賞 仙台（名取）	ロボコン大賞 仙台（名取）	ロボコン大賞 小山

（出典　北九州工業高等専門学校ウェブサイト）

資料５－３－①－20

平成 24 年度学生会行事概要報告

平成 25 年 2 月
厚生補導委員会

１．歩行大会　（平成 24 年 4 月 24 日）

歩行大会は例年通り、以下のように学科別に場所を違えて実施された。M 湯川中央公園、E 紫川河畔公園、D 長野緑地公園、S 鱒淵ダム、C 総合農事センター。学科代表の学生は各学科を一つに纏め、新入生を歓迎するとともに体育祭へ向けての決起大会という意味合いで、学科の団結力を高めることに尽力した。学生に病気、怪我はなく無事終了した。

２．体育祭　（平成 24 年 5 月 12 日）

体育祭のプログラム作り、応援計画、運営等は学生会を中心に各学科の代表、応援団長とともに連携して実行された。計画は 3 月から始まり、プログラムの作成、応援練習の規則等について厚生補導委員会とも話し合いながら進められた。5 月の体育祭は例年クラス単位、学年単位、特に学科単位の対抗戦の色彩が顕著であり、学生会役員、学科代表、応援団長は 4 月の新入生集団宿泊訓練、歩行大会等の行事から新入生への指導、学科の団結にそのリーダーシップを発揮し、体育祭へ向けて盛り上げていった。

今年の体育祭は特に学生間の絆が深まるとともに、学生一人一人の中にその達成感が得られ、例年にもまして多くの来客者を集め盛況であった。学校内への自家用車立ち入り禁止が始まって最初の体育祭であり、近隣への違法駐車が懸念されたが、交通巡回や注意を喚起する掲示の効果もあっか、スーパーからの苦情は多少あったものの、概ね良好であった。

３．高専祭　（平成 24 年 11 月 3,

以下略

体育祭と同様に学生会を中心に計画が立てられ実行された。学生会は 6 月

（出典　平成24年度第12回厚生補導委員会資料）

そのほか，１年生では，集団の中での規律ある行動の訓練及び教員と学生，学生間の親睦を図ることを目的に新入生集団宿泊研修を行い（資料５－３－①－21），３年生では，学外で行うオリエンテーションで，学修の指針に基づいた指導を学級担任が行っている（資料５－３－①－22）。また，４年生では，教育及び学習効果の一層の向上を図るため，長期工場見学旅行を実施している。さらに，２年生以上に対しては，企業技術者，大学研究者，卒業生等による講演会を行い，豊かな人間性の涵養を図っている（資料５－３－①－23）。

（分析結果とその根拠理由）

豊かな人間性の涵養のために，教育目標（F），（G）及び身に付けるべき資質・学力（F）②③，（G）①②を掲げ，これに基づき教育課程が編成されている。特別活動は，学修の指針に沿って計画的に実施されている。また，学級担任支援マニュアルが整備されており，学級担任は，このマニュアルを参考に厚生補導委員会等の関係者と連携しながら，学生指導を行っている。学生の約７割が，部活動等の課外活動に参加し，教員のほとんどが顧問として部活動の指導を行っている。また，オリエンテーションや種々の講演会も行っている。従って，豊かな人間性の涵養が図られるように配慮されている。

資料５－３－①－21

（新入生集団宿泊研修）

自然の家などを利用して、一泊二日で「集団の中での規律ある行動の訓練および教員と学生、学生間の親睦」を図ることを目的に、前年度３月から新１学年の学年主任を中心に、実施計画を作り準備を進めていくことになっています。引率メンバーは以下の通りです。（平成 **23** 年度は教員 **9** 名、学生 **12** 名）

引率教員：校長、学生主事、**1** 年生担任、学生主事補、女性教員、学生課職員

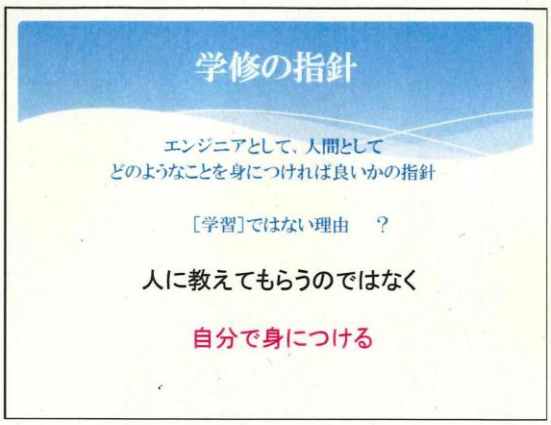
指導学生：学生会長及び役員、各学科代表、男子寮長、女子寮長

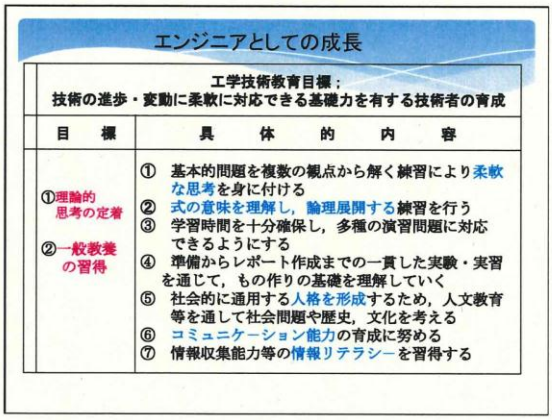
（出典　平成24年度学級担任支援マニュアル）

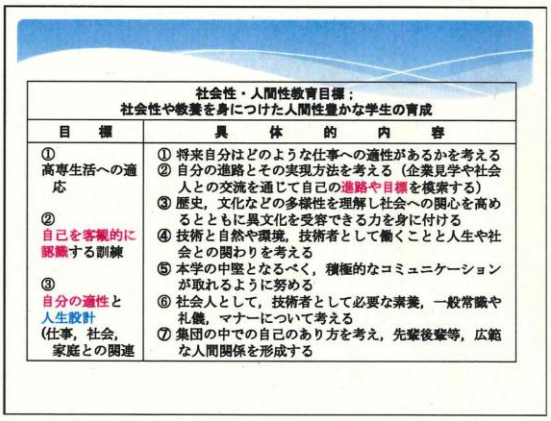
資料５－３－①－22

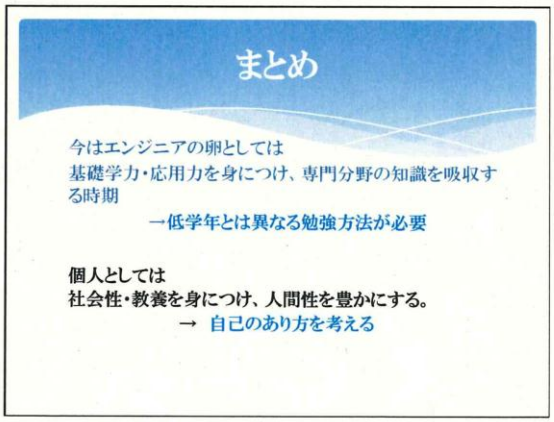
平成24年度学電気電子工学科３年生オリエンテーション資料

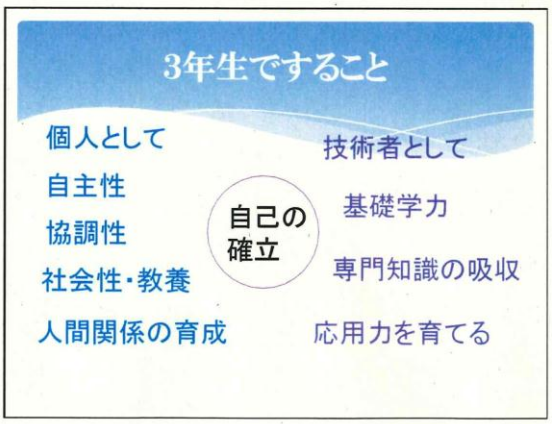












（出典　平成24年度学電気電子工学科３年生オリエンテーション資料）

資料５－３－①－23

平成24年度本科学生関連講演会

実施年月日	対象学年	講演の種類	演題	講師
平成24年6月13日	4年生	ｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ推進ｾﾐﾅｰ	就業体験の目的と理解を深める	本校教育ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ 松本克彦
平成24年6月20日	3年生、3年学級担任 その他希望職員	救急法講習会		
平成24年6月21日	希望学生	留学について考える講演会	私と留学と～そのとき歴史が動いた！～	韓国■■大学■■■■課 ■■■■ ■■■■
平成24年6月22日	電子制御工学科3年	インターンシップ特別講義	高専時代から■■■での今、そしてこれから	■■■■■■ ■■■■
平成24年7月6日	電子制御工学科4・5年	特別講義	■■■■■のみる夢～ロボットを通じてものづくりを考える	■■■■㈱■■■■■本部 ■■■■■部 ■■■■■
平成24年7月18日	全4年生及びインターンシップ参加予定専攻科生	インターンシップ・ビジネスマナー講座	①就職活動の心得 ②社会人と学生の違い	■■■■■■ チーフカウンセラー ■■■■
平成24年7月25日	2年生	性教育講演会	大人になる前に知ってほしい性と生のコト	■■中学校　養護教諭 ■■■■■
平成24年10月3日	機械工学科4.5年	特別講義	プレゼンテーション～コミュニケーションのための基本スキル～」	■■■■■■工学部 教授　■■■■
平成24年11月7日	2年生	特別講演	ヒロシマの継承 生かされて～そして	■■■■■■■■代表 ■■■■
平成24年11月22日	物質化学工学科3年	3年物質化学工学科特別活動における特別講演	人権とは？家庭・学校における子ども(中高生)の人権	■■■■■研究所 理事　■■■■
平成24年12月12日	4年生	進路指導セミナー	企業が求める人材について	㈱■■■■■■■ 室長　■■■■
平成24年12月12日	電気電子工学科3年	インターンシップ特別講義	就職後の今、学生時代を振り返って	■■■■■株式会社 ■■事業本部 ■■■■■課 ■■■■
平成24年12月14日	電気電子工学科4・5年	特別講義	46億年目の新しい一日を生きています	㈱■■■■■■■ 取締役■■■事業部長 ■■■■
平成24年12月18日	制御情報3.4年生	インターンシップ特別講義	学生時代にやっておいてよかったこと、やっておけばよかったこと」	■■■■■■㈱ ■■■■(H19卒)
平成25年1月17日	物質化学工学科4・5年	特別講義	化学による生命への挑戦～副作用のない薬や治療法は作れるのか？～	■■■■大学院工学研究院■■■■■部門 教授　■■■■
平成25年1月18日	機械工学科3年	3年機械工学科特別活動における特別講演	「インターンシップ導入セミナー」" 就業体験の目的と理解を深める "	本校教育ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ 松本克彦
平成25年1月30日	機械工学科4年 制御情報工学科4年	特別講義	社会インフラを支える流体機械とその最新技術動向	株式会社■■■■ ■■■■■■ 開発統括部 副統括部長　■■■■■

（出典　教務係資料）

観点５－４－①：　成績評価・単位認定規定や進級・卒業認定規定が組織として策定され、学生に周知されているか。また、これらの規定に従って、成績評価、単位認定、進級認定、卒業認定が適切に実施されているか。

（観点に係る状況）

各科目の成績評価は，シラバス記載の通りになされる。新規採用教員や非常勤教員については，JABEE教育プログラム説明会を実施し（資料５－４－①－１），この中で，認証評価・JABEE委員長が，新任教員用手引等を用いて成績評価等の説明を行い，シラバス通りに評価することを周知している（資料５－４－①－２）。単位認定規定や進級・卒業認定規定は資料５－４－①－３のように定められ，全学生に入学時に配布する学生便覧とシラバスにも記載されている。さらに，新入生オリエンテーションや特別活動等で機会があるたびに説明し，成績評価に関する規則を学生に周知している。学修単位科目は１単位の履修時間が45時間であること，自学自習が必須であることをシラバスに明記すると共に，授業担当教員から学生に周知している（資料５－４－①－４）。

資料５－４－①－１

(4) 新任教員および学生に対するＪＡＢＥＥ教育プログラム説明会について

安信委員長から、下記の通りＪＡＢＥＥ教育プログラム説明会を開催することが報告され、認証評価についても合わせて説明することが了承された。また、今後、６月採用予定の教員やコーディネーター、非常勤講師、およびカウンセラー等に対する説明も必要との意見があり、資料の配付や、教職員への説明会の開催等を検討することとした。

・本科４年生対象　　５月１６日（水）　１５：３０
・専攻科１年生対象　（未定）
・新任教員対象　　６月７日（木）　　１６：００

（出典　平成24年度第2回JABEE・認証評価委員会議事要録から一部抜粋）

資料５－４－①－２

４．教科の授業について

（１）授業内容

・全教科の内容はシラバスに記載しています。
（授業目的、履修上の注意、授業項目・内容、達成目標、教育目標との対応、成績評価など）
・シラバスの冊子は新入生には全員配布し、他の学年は教室においてあります。また、ホームページ上でも公開しています。
・シラバスどおりの授業をお願いします。
・学生の授業内容の把握及び教員間・科目間の連携のため、「月割表」と「チェックリスト」を作成し、ホームページで公開しています。「月割表」は各教室にも置いています。

（出典　新任教員用手引から一部抜粋）

資料５－４－①－３

第３章　　学業成績の評価

（各授業科目の成績表示及び成績評価）

第４条　各授業科目の成績の得点、評語及び評点は、次の区分による。

２　学業成績は、学期成績と学年成績とに区分し、授業科目ごとに評価する。

得　点	評　語	評　点
95 ～ 100	A ＋	4
90 ～ 94	A	4
85 ～ 89	B ＋	3.5
80 ～ 84	B	3
75 ～ 79	C ＋	2.5
70 ～ 74	C	2
65 ～ 69	D ＋	1.5
60 ～ 64	D	1
30 ～ 59	F 1	0
0 ～ 29	F 2	0

（中略）

第４章　課程修了の認定

（課程修了の認定）

第６条　各学年の課程修了は､次の各号のすべてを満たした者に対して､校長が認定する。ただし、次の各号のすべてを満たした者であっても、評語「Ｆ１」の科目がある者は課程修了仮認定とする。

（１）学年ＧＰＡが１．３０以上であること。

（２）評語「Ｆ２」がないこと。

（３）特別活動の評価が、合格であること。

（４）欠課時間数が純授業時間数（学習単位科目にあっては純学校授業時間数）の３分の１を超えた科目がないこと。

（５）学校行事の出席時間数が、学校行事総時間数の３分の２以上であること。

２　学年ＧＰＡが１．３０未満であっても、課程修了認定に必要な科目のすべての評点が１．０以上であれば、特例として校長は課程修了を認定する。

３　課程修了仮認定の者は、評語「Ｆ１」の授業担当教員の指導に従って学習し、当該年度中に「Ｄ」の評語を得た時点で、校長が課程修了を認める。

４　当該年度中に評語「Ｆ１」の科目が解消されないときは、校長はその者の課程修了仮認定を取り消すものとする。

（学年の修了）

第７条　第５学年の課程を修了した者は、全学年の課程を修了したものとする。

（留年）

第８条　課程修了を認定されない者は、留年とする。

２　休学の場合を除き、引き続き２年を超えて同一学年に在学することはできない。

（出典　平成25年度学生便覧）

資料５－４－①－４

3.1 単位の計算方法

高専が設置されて以来、１週間で２単位時間の授業（50 分×２回の授業）が年間３０回以上行われた場合が２単位認定の条件となっています。また、実験などのように週４単位時間の授業が１年間行われた場合は４単位になります。

従来の単位計算法（この計算方法に基づく科目を「履修科目」といいます）に加えて、平成１８年度から高学年には６０単位を上限として、大学と同じ単位計算方法が可能となりました。この計算方法に基づく授業科目は、「学修単位科目」と呼ばれます。学修単位科目においては、高専で受講した授業時間と自学自習時間を合わせて４５時間が１単位の認定条件となっています。教科により異なりますが、具体的には学校での１５時間の授業の受講と授業外で３０時間の自学自習、あるいは学校での３０時間の授業の受講と１５時間の自学自習などが１単位認定の条件になります。本校も平成１８年度から学修単位科目の導入をすることとなり、そのような科目については本シラバスの科目名の横に「学修単位科目」と表記しています。

（出典　平成25年度シラバス）

後学期定期試験後から及落認定・卒業認定会議までの流れを示す（資料５－４－①－５）。後学期定期試験後に各科目の成績評価に誤りがないか各学科会議で確認後，全教員が出席する成績判定会議で，科目の合否，再試の可否，課程修了・卒業認定について審議される。一部科目が不合格（D未満）で，GPAが1.30以上あり評語F2の科目を有しない学生は，不合格科目の再試験を受検し合格すれば，課程修了・卒業認定がなされる。再試験の結果も各学科の再試験結果確認会議で確認後，及落認定・卒業認定会議で諮り，課程修了・卒業認定の判断がなされる。

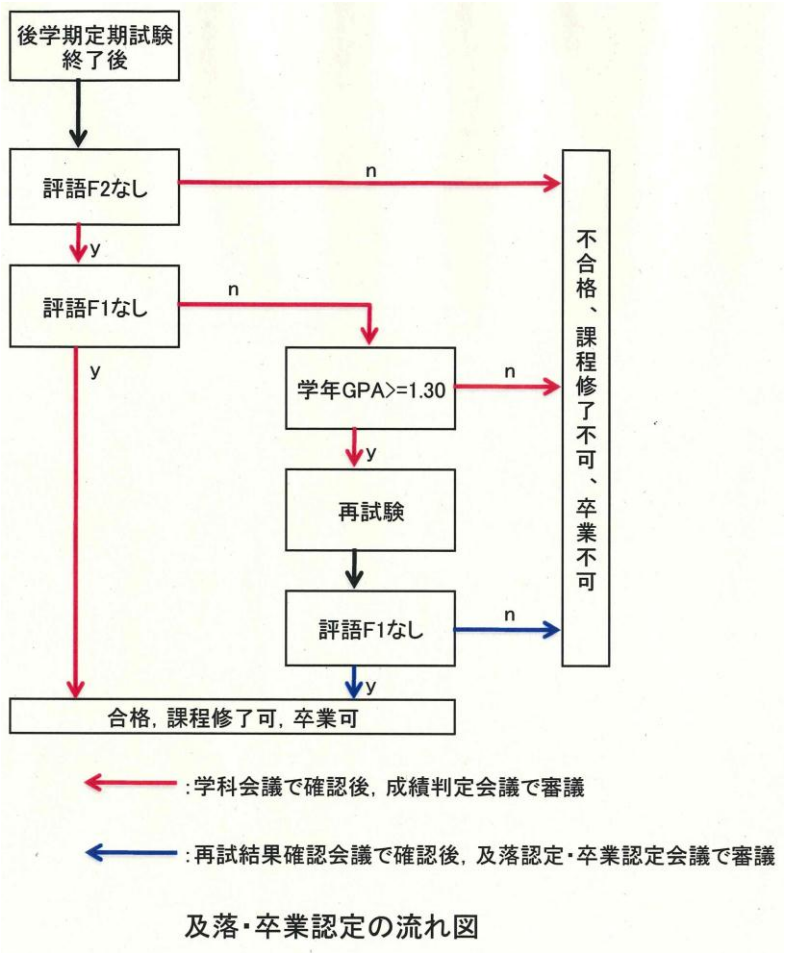
各科目のシラバスに記載した評価方法に基づく評価結果は，評価に使用した成績データ，評価算出方法と共にファイルにして閲覧室に保管，あるいは共通HDDに保管している（訪問時閲覧資料）。

２回の中間試験，前学期末試験，後学期定期試験の全てで，試験答案は，学生に返却し解答を解説している（資料５－４－①－６）。前学期末試験，後学期定期試験については，答案返却時間を設定している（資料５－４－①－７）。これによって，担当教員と学生が共に評価に誤りがないことを確認している。後学期定期試験後の再試結果については，各学科の再試結果確認会議で，試験答案を回覧し，合否判定の根拠について，各学科の教員全員で確認している。

（分析結果とその根拠理由）

成績評価・単位認定規定や進級・卒業認定規定が組織として策定され，学生に周知されている。これらの規定に従って，成績評価，単位認定，進級認定，卒業認定が適切に実施されている。

資料５－４－①－５



及落・卒業認定の流れ図

（出典　教務係資料から作成）

資料５－４－①－６

３．授業などでのお願い

授業では、以下のことにご注意くださいますようお願いします。

- 本科・専攻科および教育プログラムの学習・教育目標をご理解ください。
- シラバスに記載された科目の達成目標が達成されるように授業をお願いします。
- 授業（授業内容、授業時間数）はシラバスに記載されているとおりに行ってください。
- 成績評価における評価基準、評価方法につきましては以下のとおりお願い致します。

①教育プログラム対象の学年（本科４年～専攻科２年）の科目について

必ずシラバスに記載された評価基準・評価方法での評価をお願い致します。

例えば、『定期試験 70%、課題・レポートなど 30%で評価する』と書かれている場合は、必ず課題・レポートも課して、記載どおりの割合で成績を算出してください。答案保存ファイルには、課題・レポートの点数表も入れてください。

出席点を評価に加えることは出来ません。また、シラバスの評価方法に記載されていないものを評価に加えることは出来ません。

成績不良のため【再試験】により評価された場合は、総合成績表（保存答案に添えて提出して頂く成績リスト）に、再試験の点数と評価の説明をご記入ください。再試験の答案もファイルに保存してください。

②JABEE 対象外の学年（本科１年～3 年）の科目について

シラバスの評価方法に従って成績の評価をお願いします。

成績不良のため【再試験】により評価された場合は、総合成績表（保存答案に添えて提出して頂く成績リスト）に、再試験の点数と評価の説明をご記入ください。再試験の答案もファイルに保存してください。

- 試験答案は採点後必ず返却して解答を行ってください。

ただし、答案を保存しますので、返却前に答案をコピーするなどご注意ください。

また、解答の際には【平均点・得点分布】など、『学生各自が自己の学習達成状況をクラス全体との比較によって確認するための情報』もお伝え下さるようお願い致します。

（出典　新任教員用手引から一部抜粋）

資料５－４－①－７

平成24年度後学期定期試験答案返却時間割（5年）

機械工学科

時限	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
時間	8：50～9:30	9:35～10:15	10:20～11:00	11:05～11:45	11:50～12:30	13:15～13:55	14:00～14:40	14:45～15:25	15:30～16:10	16:15～16:55
2月20日（水）						品質管理 横道	メカトロニクス工学 横道			
2月21日（木）		流体力学 樫村	英語C 伊藤	工業英語演習 浅尾	伝熱工学 小清水	ロボット工学 山本	社会選択			
2月22日（金）	材料力学III 内田	熱機関工学 平島								

電気電子工学科

時限	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
時間	8：50～9:30	9:35～10:15	10:20～11:00	11:05～11:45	11:50～12:30	13:15～13:55	14:00～14:40	14:45～15:25	15:30～16:10	16:15～16:55
2月20日（水）						パワーエレクトロニクス 宮川	電力システム工学 徳永	英語C 東島	エネルギー変換工学 古賀	
2月21日（木）	高電圧工学 福澤	通信工学 磯崎	電気法規及び施設管理 野中	応用数学II 山田	品質管理 山本（正）		社会選択			
2月22日（金）	電気電子材料II 仙波	画像処理工学 桐本								

（出典　平成24年度後学期定期試験答案返却時間割）

＜専攻科課程＞

観点５－５－①：　教育の目的に照らして、準学士課程の教育との連携、及び準学士課程の教育からの発展等を考慮した教育課程となっているか。

（観点に係る状況）

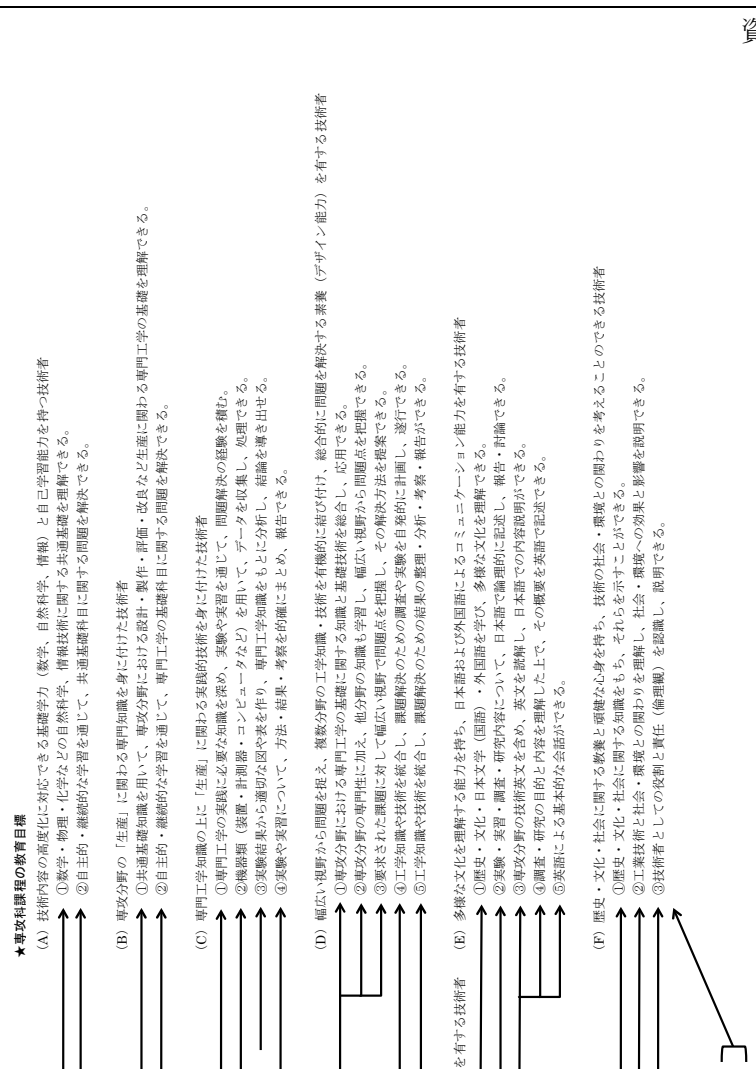
教育理念，３つの教育目的の実現のため，専攻科では，（A）～（F）の具体的な教育目標及び修了時までに学生に身に付けさせる資質・学力を小項目①，②等で定めている。これらは，準学士課程の教育目標（A）～（G）と小項目を発展させたものであり，専攻科課程修了により，準学士課程より高いレベルで教育理念，教育目的を実現するためのものである（資料５－５－①－１）。

専攻科では，他分野の専門科目を共通専門基礎科目として学ぶと共に，準学士課程で学んだ専門知識を深化させることで，広い視野から問題を捉え解決に導く素養を涵養する教育課程を編成している（資料５－５－①－２）。資料５－５－①－３のように，専攻科課程を教育目標別の観点で見ると，準学士課程から系統的に配置されているのが分かる。また，科目系統図に教育目標と小項目をあてはめると，例えば，目標・小項目D①②については，関連する科目が本科４年生から専攻科２年生までの４年間で連携しているのが明らかである（資料５－５－①－４）。

（分析結果とその根拠理由）

専攻科課程では，準学士課程で身に付けた専門工学の知識を深化し，さらに他分野の工学知識を修得することにより広い視野から総合的に問題を解決する能力を育成する教育課程が編成されている。従って，教育課程は準学士課程との連携を考慮した教育課程となっている。

資料５－５－①－１



（出典　JABEE・認証評価委員会資料）

資料５－５－①－２

一般科目及び専門基礎科目（生産工学専攻）（平成２５・２４年度入学生）

授業科目			単位数	学年別配当 1年 前期	1年 後期	2年 前期	2年 後期	備考
一般科目	必修科目	英語Ⅰ	2	2				
		英語Ⅱ	2			2		
		文章表現論	2	2				
	必修科目単位数計		6	4	0	2	0	
	選択科目	英語演習Ⅰ	1		1			
		英語演習Ⅱ	1				1	
		アジア地域論	2		2			２単位以上修得
		自然地理学	2		2			
	選択科目開設単位数計		6	0	5	0	1	
	選択科目修得単位数計		2					
専門基礎科目	必修科目	代数学基礎	2	2				
		物理数学	2		2			
		確率・統計	2			2		
		エネルギー論	2	2				
		現代物理学	2			2		
		技術者倫理	2		2			
		現代技術論	1				1	
		複合工学実験	1		1			
		固体力学Ⅰ	1	1				
		電気回路学Ⅰ	1	1				
		制御工学概論	1			1		
		情報理論Ⅰ	1			1		
		工業化学	1	1				
		材料科学	1			1		
	必修科目単位数計		20	7	5	7	1	
	選択科目	固体力学Ⅱ	2		2			８単位以上修得
		電気回路学Ⅱ	2		2			
		制御工学特論	2				2	
		情報理論Ⅱ	2				2	
		物理化学特論	2		2			
		材料科学特論	2				2	
		専攻科特論Ⅰ	2				2	
		専攻科特論Ⅱ	2	2				
		専攻科特論Ⅲ	2	2				
		専攻科特論Ⅳ	2	2				
		専攻科特論Ⅴ	1	1				
		専攻科特論Ⅵ	2	2				
		専攻科特論Ⅶ	1	1				
	選択科目開設単位数計		24	0	6	0	18	
	選択科目修得単位数計		8					
開設単位数計			56	11	16	9	20	
修得単位数計			36					

（出典　平成25年度シラバス）

資料５－５－①－３

準学士課程及び専攻科課程の目標別科目の流れ（機械工学科，生産工学専攻）

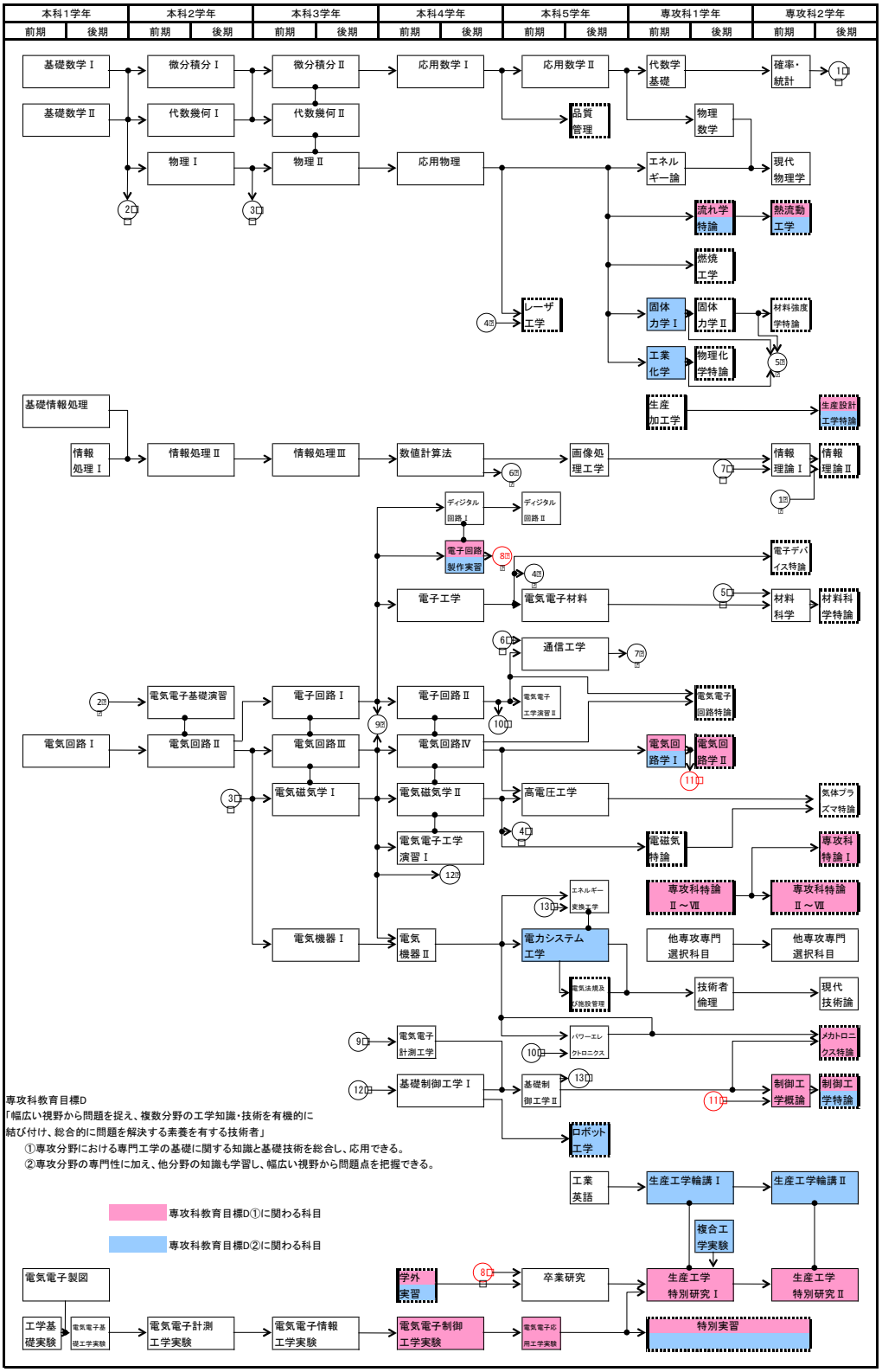
準学士課程教育目標		本科		専攻科課程教育目標		専攻科	
		４年	５年			１年	２年
A	①	数学演習（選①） 数学特論（選①） 応用数学(②) 材料力学Ⅱ(②) 機械工学演習(①) 振動工学(①) 応用物理(選①)	生物工学概論(①) 流体力学(①) 確率・統計基礎(①) 品質管理(選①)	A	①	自然地理学(選②) 物理数学(②) エネルギー論(②) 技術者倫理(①) 固体力学Ⅰ(①) 固体力学Ⅱ(選②) 工業化学(①) 物理化学特論(選②) 電磁気特論(選②)	現代物理学(②) 制御工学概論(①) 制御工学特論(選②) 情報理論Ⅰ(①) 情報理論Ⅱ(選②) 気体プラズマ特論(選②)
	②	数学演習（選①） 数学特論（選①） 応用数学(②) 機械工学演習(①) 振動工学(①) 応用物理(選①)	流体力学(①)		②	代数学基礎(②) 物理数学(②) エネルギー論(②) 技術者倫理(①) 固体力学Ⅰ(①) 固体力学Ⅱ(選②) 電気回路学Ⅰ(①) 電気回路学Ⅱ(選②)	確率・統計(②) 現代物理学(②) 現代技術論(②) 情報理論Ⅰ(①) 情報理論Ⅱ(選②)
		省略				省略	
D	①	自動制御Ⅰ(①) 機械工学実験Ⅰ(③) 学外実習(選①) 長期学外実習(選③) 電気電子工学(②)	自動制御Ⅱ(①) メカトロニクス工学(②) 機械工学実験Ⅱ(③) 流体機械(選①) 基礎ﾃﾞｨｼﾞﾀﾙ回路(選①) ロボット工学(選①) 品質管理(選①) 生物工学概論(①)	D	①	電気回路学Ⅰ(①) 電気回路学Ⅱ(選②) 専攻科特論Ⅱ～Ⅳ,Ⅵ(選②) 専攻科特論Ⅴ,Ⅶ(選①) 生産工学特別研究Ⅰ(④) 流れ学特論(選②) 特別実習(選②)	現代技術論(②) 制御工学概論(①) 制御工学特論(選②) 情報理論Ⅰ(①) 情報理論Ⅱ(選②) 専攻科特論Ⅰ～Ⅳ,Ⅵ(選②) 専攻科特論Ⅴ,Ⅶ(選①) 生産工学特別研究Ⅱ(⑥) 熱流動工学(選②) 生産設計工学特論(選②) メカトロニクス特論(選②)
					②	複合工学実験(①) 固体力学Ⅰ(①) 電気回路学Ⅰ(①) 工業化学(①) 生産工学輪講Ⅰ(②) 流れ学特論(選②) 特別実習(選②)	現代技術論(②) 制御工学概論(①) 情報理論Ⅰ(①) 材料科学(①) 生産工学輪講Ⅱ(②) 熱流動工学(選②) 生産設計工学特論(選②)
					③	生産工学特別研究Ⅰ(④)	生産工学特別研究Ⅱ(⑥)
	②		卒業研究(⑩)		④	生産工学特別研究Ⅰ(④)	生産工学特別研究Ⅱ(⑥)
	③		卒業研究(⑩)		⑤		生産工学特別研究Ⅱ(⑥)
E	①	近代文学(②) 英語 AⅣ（②） 日本文学論（①） 英語特論（選①） 英語演習（選①）	英語Ｃ（②）	E	①	英語Ⅰ（②） 英語演習Ⅰ（選①） 文章表現論（②） アジア地域論（選②）	英語Ⅱ（②） 英語演習Ⅱ（選①）
	②	近代文学(②) 日本文学論（①） 機械工学実験Ⅰ(③) 学外実習(選①) 長期学外実習(選③)	卒業研究(⑩) 機械工学実験Ⅱ(③)		②	文章表現論(②) アジア地域論(選②) 複合工学実験(①) 専攻科特論Ⅱ～Ⅳ,Ⅵ(選②) 専攻科特論Ⅴ,Ⅶ(選①) 生産工学特別研究Ⅰ(④) 特別実習(選②)	現代技術論(②) 専攻科特論Ⅰ～Ⅳ,Ⅵ(選②) 専攻科特論Ⅴ,Ⅶ(選①) 生産工学特別研究Ⅱ(⑥)
	③	英語 AⅣ（②） 英語特論（選①） 英語演習（選①） 工業英語Ⅱ(①)	英語Ｃ（②） 工業英語演習(選①)		③	英語Ⅰ（②） 英語演習Ⅰ（選①） 生産工学輪講Ⅰ（②）	英語Ⅱ（②） 英語演習Ⅱ（選①） 生産工学輪講Ⅱ（②）
					④	英語Ⅰ（②） 英語演習Ⅰ（選①）	英語Ⅱ（②） 英語演習Ⅱ（選①） 生産工学特別研究Ⅱ（⑥）
					⑤		
F	①	法学（選②） 史学概論（選②） 哲学（倫理学）（選②） 地理学（選②） 経済学（選②） 社会特論（選①）	法学（選②） 史学概論（選②） 哲学（倫理学）（選②） 地理学（選②） 経済学（選②）	F	①	文章表現論（②） アジア地域論（選②） 自然地理学（選②） 技術者倫理（①）	
	②	史学概論（選②） 学外実習(選①) 長期学外実習(選③) 経済学（選②）	史学概論（選②） 卒業研究(⑩) 生物工学概論(①) 熱機関工学(②) 流体機械(選①) 品質管理(選①) 経済学（選②）		②	自然地理学（選②） 技術者倫理（①） 専攻科特論Ⅱ～Ⅳ,Ⅵ(選②) 専攻科特論Ⅴ,Ⅶ（選①） 生産工学特別研究Ⅰ（④） 生産工学輪講Ⅰ（②） 生産加工学（選②） 燃焼工学（選②） 特別実習（選②）	現代技術論（②） 専攻科特論Ⅰ～Ⅳ,Ⅵ(選②) 専攻科特論Ⅴ,Ⅶ（選①） 生産工学特別研究Ⅱ（⑥） 生産工学輪講Ⅱ（②）
	③	法学（選②） 哲学（倫理学）（選②） 機械工学演習(①) 学外実習(選①) 長期学外実習(選③)	法学（選②） 哲学（倫理学）（選②） 品質管理(選①)		③	技術者倫理（①） 燃焼工学（選②） 特別実習（選②）	現代技術論（②）
G	②	体育Ⅳ(②) 体育特論(選①)					
	②	体育Ⅳ(②) 体育特論(選①)					

※目標(B)，(C)は記載を省略

（出典　平成25年度シラバスから作成）

資料５－５－①－４

電気電子工学科及び生産工学専攻（電気電子工学科コース）授業科目系統図



（出典　平成25年度シラバスから作成）

観点５－５－②：　教育の目的に照らして、授業科目が適切に配置され、教育課程が体系的に編成されているか。また、授業の内容が、全体として教育課程の編成の趣旨に沿って、教育の目的を達成するために適切なものとなっているか。

（観点に係る状況）

専攻科課程における，教育目標，資質・学力と養成する人物像の対応関係を資料５－５－②－１に示す。共通専門基礎科目及び専門科目として，他分野の専門科目を設定している。これらの科目を学ぶことで，準学士課程で学んだ専門知識の深化を図り，広い視野から問題を捉え解決することができる素養を涵養する複合融合の教育課程が編成されている。従って，養成する人物像の（１）～（４）は各専攻に共通であり，一般科目，専門基礎科目，複合工学実験，特別研究等がこれらに寄与する。養成する人物像の（５）以降は，各専攻の特色を反映しており，これらに寄与する科目は主に専門選択科目，輪講，特別研究等である。

科目と教育目標・小項目の対応は，資料５－５－②－２のように整理できる。各教育目標に対して，該当する科目が適切に配置され，各目標・各項目に対応する科目を必ず受講できるように，教育課程が系統的に編成されている。ほとんどの教育目標・項目で，達成のために必要な科目を複数配置しているが，教育目標（C）と目標（F）では，それぞれ「複合工学実験」と「技術者倫理」が特に重要な科目であり，全専攻の必修科目である。また，資料５－５－②－３の教育課程表のように，各学年における科目配置のバランスも考慮されている。

専門科目の体系化では，生産工学専攻と制御工学専攻の専門選択科目に各専攻を構成する学科の専門科目が配置され，これらを履修することで，専攻を構成する２学科（２分野）の相互に関わる専門知識を身に付けられる（資料５－５－②－４，５）。物質化学工学専攻では，応用化学コースと生物化学コースの両分野の科目を配置し，各コースを選択してきた学生が他コースの分野の科目を履修することで，関連する専門分野の知識を深められる（資料５－５－②－６）。以上は教育目標（B），（D）に対応する。

（分析結果とその根拠理由）

本校の教育目的を達成するために，具体的な達成目標及びその下の小項目，各専攻の人物像を定め，これらの関係を明確にしている。また，目標，小項目，人物像と各授業科目の対応についても明示し，科目の関連や年次配当も配慮して，専攻科修了時に全ての教育目標を達成できるように教育課程が編成されている。以上から，専攻科課程では，教育目的を達成するために適切な教育課程が編成されている。

専攻科課程の教育目標と各専攻で養成する人物像との対応

（（1）～（4）は全専攻共通の養成する人物像）　　（別紙３）

	No.	養成する人物像	A 基礎学力 ①	A 基礎学力 ②	B 専攻専門 ①	B 専攻専門 ②	C 専門実践 ①	C 専門実践 ②	C 専門実践 ③	C 専門実践 ④	D 総合・技術 ①	D 総合・技術 ②	D 総合・技術 ③	D 総合・技術 ④	D 総合・技術 ⑤	E コミュニケーション ①	E コミュニケーション ②	E コミュニケーション ③	E コミュニケーション ④	E コミュニケーション ⑤	F 技術倫理 ①	F 技術倫理 ②	F 技術倫理 ③	評価方法・基準（評価対象科目）
生産ＨＩ学専攻	(1)	専攻科の入学までに修得した専門分野（機械工学、電気電子工学、電子制御工学、制御情報工学、物質化学工学）に関わる工学知識・専門技術をさらに深め、身に付けた技術者	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎														準学士課程専門必修科目
	(2)	コミュニケーション能力を身に付け、国際的な文化や技術者の社会的責任を理解できる技術者														◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	英語購読，英語運用能力，専門基礎必修科目，アジア地域論，自然地理学
	(3)	他分野の工学知識を身に付けた技術者					○	○	○	○	○	◎	◎	◎	◎									共通基礎専門科目
	(4)	広い視野から問題を捉え、解決することのできる素養を身に付けた技術者					○				◎	◎	◎	◎	◎						○	◎	◎	特別研究，現代技術論，複合工学実験
	(5)	生産技術の中心を担う機械工学・電気電子工学分野をより深く修得した技術者	○	○	◎	◎																		専門基礎科目の必修科目（座学），固体力学Ⅱ，電気回路学Ⅱ，専攻選択科目
	(6)	幅広い分野の知識・技術を用いて、高度化する生産技術分野の問題を解決できる技術者					◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎		◎	◎	◎					複合工学実験，特別研究，輪講
制御ＨＩ学専攻	(1)	専攻科の入学までに修得した専門分野（機械工学、電気電子工学、電子制御工学、制御情報工学、物質化学工学）に関わる工学知識・専門技術をさらに深め、身に付けた技術者	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎														準学士課程専門必修科目
	(2)	コミュニケーション能力を身に付け、国際的な文化や技術者の社会的責任を理解できる技術者														◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	英語購読，英語運用能力，専門基礎必修科目，アジア地域論，自然地理学
	(3)	他分野の工学知識を身に付けた技術者					○	○	○	○	○	◎	◎	◎	◎									共通基礎専門科目
	(4)	広い視野から問題を捉え、解決することのできる素養を身に付けた技術者					○				◎	◎	◎	◎	◎						○	◎	◎	特別研究，現代技術論，複合工学実験
	(5)	コンピュータの応用技術を習得した技術者				◎					◎													ディジタル画像解析，シミュレーション工学，コンピュータ制御論，ディジタル信号処理
	(6)	情報処理に関する応用知識を習得した技術者		◎	◎	◎					◎													ニューロコンピューティング，知識情報処理，計算幾何学
	(7)	制御工学とその応用技術との総合的知識を習得した技術者				◎	◎	◎	◎		◎	◎	◎	◎	◎		◎	◎		◎		◎	◎	制御工学特別研究Ⅰ，Ⅱ，制御工学輪講Ⅰ・Ⅱ，特別実習
物質化学ＨＩ学専攻	(1)	専攻科の入学までに修得した専門分野（機械工学、電気電子工学、電子制御工学、制御情報工学、物質化学工学）に関わる工学知識・専門技術をさらに深め、身に付けた技術者	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎														準学士課程専門必修科目
	(2)	コミュニケーション能力を身に付け、国際的な文化や技術者の社会的責任を理解できる技術者														◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	英語購読，英語運用能力，専門基礎必修科目，アジア地域論，自然地理学
	(3)	他分野の工学知識を身に付けた技術者					○	○	○	○	○	◎	◎	◎	◎									共通基礎専門科目
	(4)	広い視野から問題を捉え、解決することのできる素養を身に付けた技術者					○				◎	◎	◎	◎	◎						○	◎	◎	特別研究，現代技術論，複合工学実験
	(5)	自発的に知識や技術を高め、技術革新に即応できる技術者	○	○	◎	◎	○																	固体力学Ⅰ，情報理論Ⅰ，電気回路学Ⅰ，制御工学概論
	(6)	物質化学工学分野に関する知識や実践的技術を駆使し、直面する課題を計画的に遂行できる技術者				◎	◎	◎	◎	◎														物質化学工学輪講Ⅰ・Ⅱ，物質化学工学特別研究Ⅰ・Ⅱ，複合工学実験

平成25年5月27日　JABEE・認証評価委員会

（出典　JABEE・認証評価委員会資料）

資料５－５－②－２

専攻科課程の教育目標に対する授業科目の関与の程度および授業時間　［生産工学専攻：平成24年度1年生の2年間のカリキュラム］

| No. | | 授業科目 | 単位 | 学年 | 必須選択など | 講義演習実験研究等の別 | 合計時間数 | 授業時間（時間） | | | | | | 授業形態 | | | | 専攻科課程の教育目標に対する関与の程度　（　◎：主　○：従） | | | | | |

資料５－５－②－３

一般科目及び専門基礎科目（生産工学専攻）（平成２５・２４年度入学生）

授業科目			単位数	学年別配当 1年 前期	1年 後期	2年 前期	2年 後期	備考	
一般科目	必修科目	英語Ⅰ	2	2					共通
		英語Ⅱ	2			2			
		文章表現論	2	2					
	必修科目単位数計		6	4	0	2	0		
	選択科目	英語演習Ⅰ	1		1				
		英語演習Ⅱ	1				1		
		アジア地域論	2		2			２単位以上修得	
		自然地理学	2		2				
	選択科目開設単位数計		6	0	5	0	1		
	選択科目修得単位数計		2						
専門基礎科目	必修科目	代数学基礎	2	2					
		物理数学	2		2				
		確率・統計	2			2			
		エネルギー論	2	2					
		現代物理学	2			2			
		技術者倫理	2		2				
		現代技術論	1				1		
		複合工学実験	1		1				
		固体力学Ⅰ	1	1					機械工学
		電気回路学Ⅰ	1	1					電気電子工学
		制御工学概論	1			1		主となる専門分野	制御情報工学
		情報理論Ⅰ	1			1			電子制御工学
		工業化学	1	1					物質化学工学
		材料科学	1			1			物質化学工学
	必修科目単位数計		20	7	5	7	1		
	選択科目	固体力学Ⅱ	2		2			主となる専門分野	機械工学
		電気回路学Ⅱ	2		2				電気電子工学
		制御工学特論	2				2		制御情報工学
		情報理論Ⅱ	2				2		電子制御工学
		物理化学特論	2		2				物質化学工学
		材料科学特論	2				2		物質化学工学
		専攻科特論Ⅰ	2				2		
		専攻科特論Ⅱ	2	2				８単位以上修得	
		専攻科特論Ⅲ	2	2					
		専攻科特論Ⅳ	2	2					
		専攻科特論Ⅴ	1	1					
		専攻科特論Ⅵ	2	2					
		専攻科特論Ⅶ	1	1					
	選択科目開設単位数計		24	0	6	0	18		
	選択科目修得単位数計		8						
開設単位数計			56	11	16	9	20		
修得単位数計			36						

（出典　平成25年度シラバスより作成）

資料５－５－②－４

生産工学専攻　（平成２５年度入学生）

授業科目		単位数	学年別配当 1年 前期	1年 後期	2年 前期	2年 後期	備考
必修科目	生産工学特別研究Ⅰ	4	2	2			
	生産工学特別研究Ⅱ	6			3	3	
	生産工学輪講Ⅰ	2	1	1			
	生産工学輪講Ⅱ	2			1	1	
必修科目単位数計		14	3	3	4	4	
選択科目	生産加工学	2	2				機械工学
	燃焼工学	2		2			
	流れ学特論	2		2			
	材料強度学特論	2			2		
	熱流動工学	2			2		
	生産設計工学特論	2				2	
	電磁気特論	2	2				電気電子工学
	電気電子回路特論	2		2			
	電子デバイス特論	2			2		
	メカトロニクス特論	2				2	
	気体プラズマ特論	2				2	
	特別実習	2	2				
							１２単位以上修得
選択科目開設単位数計		24	4	6	8	6	
選択科目修得単位数計		12					
専門科目開設単位数計		38	7	9	12	10	
専門科目修得単位数計		26					
一般科目及び専門基礎科目開設単位数計		56	11	16	9	20	
一般科目及び専門基礎科目修得単位数計		36					
開設総単位数計		94	18	25	21	30	
修得総単位数計		62					

（出典　平成25年度シラバスより作成）

資料５－５－②－５

制御工学専攻　（平成２５年度入学生）

授業科目		単位数	学年別配当 1年 前期	1年 後期	2年 前期	2年 後期	備考
必修科目	制御工学特別研究Ⅰ	4	2	2			
	制御工学特別研究Ⅱ	6			3	3	
	制御工学輪講Ⅰ	2	1	1			
	制御工学輪講Ⅱ	2			1	1	
必修科目単位数計		14	3	3	4	4	
選択科目	コンピュータ制御論	2		2			電子制御工学
	ニューロコンピューティング	2			2		電子制御工学
	電磁アクチュエータ	2			2		電子制御工学
	ディジタル信号処理	2				2	電子制御工学
	シミュレーション工学	2	2				制御情報工学
	知識情報処理	2		2			制御情報工学
	ディジタル画像解析	2			2		制御情報工学
	計算幾何学	2				2	制御情報工学
	特別実習	2	2				
							１４単位以上修得
選択科目開設単位数計		18	2	4	8	4	
選択科目修得単位数計		14					
専門科目開設単位数計		32	5	7	12	8	
専門科目修得単位数計		28					
一般科目及び専門基礎科目開設単位数計		56	11	16	9	20	
一般科目及び専門基礎科目修得単位数計		34					
開設総単位数計		88	16	23	21	28	
修得総単位数計		62					

（出典　平成25年度シラバスより作成）

資料５－５－②－６

物質化学工学専攻　（平成２５年度入学生）

	授業科目	単位数	学年別配当 1年 前期	1年 後期	2年 前期	2年 後期	備考
必修科目	物質化学工学特別研究Ⅰ	4	2	2			
	物質化学工学特別研究Ⅱ	6			3	3	
	物質化学工学輪講Ⅰ	2	1	1			
	物質化学工学輪講Ⅱ	2			1	1	
必修科目単位数計		14	3	3	4	4	
選択科目	化学熱力学	2			2		応用化学工学コース １４単位以上修得
	量子化学Ⅰ	2			2		
	量子化学Ⅱ	2				2	
	有機化学特論	2	2				
	高分子化学特論	2			2		
	ファインセラミックス工学	2	2				
	機能材料化学	2		2			
	反応工学特論	2				2	
	生物化学工学	2		2			生物化学工学コース １４単位以上修得
	細胞工学	2		2			
	応用微生物学	2				2	
	特別実習	2	2				
選択科目開設単位数計		24	4	6	8	6	
選択科目修得単位数計		14					
専門科目開設単位数計		38	7	9	12	10	
専門科目修得単位数計		28					
一般科目及び専門基礎科目開設単位数計		54	10	16	8	20	
一般科目及び専門基礎科目修得単位数計		34					
開設総単位数計		92	17	25	20	30	
修得総単位数計		62					

（出典　平成25年度シラバスより作成）

観点５－５－③：　教育課程の編成又は授業科目の内容において、学生の多様なニーズ、学術の発展の動向、社会からの要請等に配慮しているか。

（観点に係る状況）

観点５－１－②で述べたように，グローバル人材，イノベーション人材を育成する教育が社会，卒業生，在校生の最大のニーズと考えられる。これは，本校の教育理念・教育目的とも合致している。このため，本校の第２期中期目標・中期計画（平成21年４月～26年３月）を設定し，教育課程の編成に関して「工業都市北九州市に位置し，近隣に多くの企業，大学を抱える地域性や特色，立地条件等を活かし，地域との連携による教育の充実を図る。また，産業構造の変化や技術の高度化などの時代の進展に対応して，本科及び専攻科の教育内容を見直し，「創造性教育」のための教育の整備・充実を図る。」を掲げ（資料５－５－③－１），学生が企業（企業技術者），大学研究者，外国人及びもの作り等に接する機会を増やし，様々な経験ができるように配慮している。この第２期中期計画の中で，専攻科の教育課程編成に関する具体的な取組（赤字）について簡単に説明する。

①b）地域企業との共同教育の推進のため，平成20年度から産学官連携共同教育を専攻科特論で実施している（資料５－５－③－２～４）。ここでは，現役の技術者，研究者から最先端技術について実践的に学ぶことができる。インターンシップについては，従来，専攻科１年の前学期のみで実施していた特別実習を，平成25年度から専攻科２年前学期まで履修できるようにし，学生のインターンシップの機会を増やした（資料５－５－③－５，６）。特別実習の履修者は，平成23年度に大幅に増加しており，新たな実習受入れ企業の開拓にも努めている。平成24年度からは，公益財団法人北九州活性化協議会の協力も得て，実習先として新たに地元企業３つが加わっている（資料５－５－③－７）。

⑨平成22年度から，近隣大学・大学院の外国人研究者を講師とする，英語による専門授業を実施している（資料５－５－③－８）。英語のカリキュラムについて，TOEIC換算で400点であった達成目標を，24年度から600点レベルを目指す高いレベルのものに改善した（資料５－５－③－９）。

以上の配慮のほかに下記がある。

・九州工業大学と教育研究と業務運営に関わる協定を結び，単位互換が可能である（訪問時閲覧資料）。
・他専攻の授業科目の履修が可能で，半数以上の学生が受講している（資料５－５－③－10，11）。

資料５－５－③－１

第2期中期目標，第2期中期計画

第2期中期目標	第2期中期計画	学生の多様なニーズ，学術の発展の動向，社会からの要請等に対する配慮
（2）教育課程の編成等 政令指定都市である工業都市北九州市に位置し、近隣に多くの企業、大学を抱える地域性や特色、立地条件等を生かし、地域との連携による教育の充実を図る。 また、産業構造の変化や技術の高度化などの時代の進展に対応して、本科および専攻科の教育内容を見直し、「創造性教育」のための教育の整備・充実を図る。このほか、学生が学習しやすい環境を整え、学生の学習支援のためのシステムの整備・充実に努める。	（2）教育課程の編成等 ①地域との連携による本科および専攻科の教育の充実を図る。 a)長期インターンシップの導入等、キャリア教育のためのカリキュラムの整備の検討を行う。 b)専攻科における地域企業との共同での教育を整備する。 c)企業退職者による専門教育支援の検討を行う。 d)北九州市マイスター制度の効果的利用法を検討する。 e)本科における近隣大学との単位認定に向けた検討を行う。	産学官連携共同教育@専攻科特論 「実践メカトロニクス工学」(H20～) 「薄膜と太陽電池工学・技術特論」(H22) 「低炭素化技術特論」(H23) 「未来環境・エネルギー技術特論」(H24) 「知的財産関係」(H23～) インターンシップ（特別実習）の実施時期の弾力化。(H25～)
	②産業界における人材需要や学生のニーズの変化等に対応した本科の教育内容の見直しを行い、改善点などについて検討を行う	本科4年生，専攻科1年生を対象とした合同企業説明会実施@北九州高専(H22～)
	③本科の共通分野科目の学科間の協力体制の見直し・検討を行う。	
	④「創造性教育」のさらなる充実を図る。	
	⑤本科において学生が多様に学習や課外活動に取り組むことができるためのカリキュラムを検討する。	
	⑥専攻科の複合・融合分野科目を見直し・検討を行う。	
	⑦専攻科におけるデザイン教育の一層の充実を図る。	
	⑧他高専との連携（高専ITコンソーシアム）によるeラーニングを活用した単位互換の導入を検討する。	
	⑨TOEICなどを積極的に活用し、技術者として必要とされる英語力を伸長させる。	更なる英語力向上を目指した，英語科目のカリキュラム変更。(H24～) 英語(外国人講師)による専門授業@現代技術論，専攻科特論(H22～)

（出典　北九州高専第２期中期目標・中期計画より作成）

資料５－５－③－２

専攻科特別講義Ⅱ、Ⅲカリキュラム（実践メカトロニクス工学）

更新日　2012.10.31

1．2012年度前期（専攻科特別講義Ⅱ）

		主な内容	各回講義内容	担当	講義場所	目安日程	コマ数	時間割り	教室
1	基礎編	産業用ロボットの理解と基礎学習	オリエンテーション ・講座内容の概要 産業用ロボットの基礎(1) ・産業用ロボットとは ・産業用ロボットの歴史，用途、種類 ・世界／日本のロボット市場	■■ 先生	北九州高専	5.18	3コマ	6，7，8時限目	第2講義室
2			産業用ロボットの基礎(2) ・ロボットの構成（ハードウェア、ソフトウェア） ・ロボットのタイプ、座標系 ・運動制御とサーボ制御	■■ 先生	北九州高専	5.25	3コマ	6，7，8時限目	第2講義室
3			産業用ロボットの基礎(3) ・ロボット言語 ・オフラインティーチング	■■ 先生	北九州高専	6.1	2コマ	7，8時限目	第2講義室
4		産業用ロボットの機械的要素	マニピュレータの機構設計 ・ロボットの形態、駆動部構成 ・マニピュレータの仕様、構成要素 ・機構設計	■■ 先生	北九州高専	6.8	2コマ	5，6時限目	第2講義室
							2コマ	7，8時限目	第2講義室
5		産業用ロボットの制御と演習	ロボットの制御設計(1) ・順運動学と逆運動学	■■ 先生	北九州高専	6.22	2コマ	5，6時限目	第2講義室
			ロボットの制御設計(2) ・サーボ制御（制御ブロック、PID制御、指令生成）				2コマ	7，8時限目	第2講義室
6			センサを使った応用技術 ・センサの役割 ・センサを用いた機能の理解 ティーチング（教示）の方法	■■ 先生	北九州高専	6.29	2コマ	5，6時限目	第2講義室
7			教育用ロボットによる課題演習(1) ・操作の習得、動作確認、演習	■■ 先生 ■■ 先生	北九州高専	7.6	2コマ	5，6時限目	第2ゼミ室
							2コマ	7，8時限目	第2ゼミ室
8			教育用ロボットによる課題演習(2) ・ロボット制御の実践	■■ 先生 ■■ 先生	北九州高専	7.13	2コマ	5，6時限目	第2ゼミ室
							2コマ	7，8時限目	第2ゼミ室
9			■■■■工場見学 ・製造工程の見学 ・操作方法見学もしくは体験	■■ 先生	■■■■ ■■■工場	7.20	2コマ	14:00～	■■■■ ■■■工場
							2コマ		

2．2012年度後期（専攻科特別講義Ⅲ）

		主な内容	各回講義内容		講義場所	目安日程	コマ数	時間割り	教室
1	実践編	ロボットシミュレータを用いた 産業用ロボットの操作・プログラミング演習	ロボットシミュレータ概論、紹介 ・シミュレータの種類、有効性 ・ソフトウェア実行環境構築	■■ 先生 ■■ 先生	北九州高専	10.5	3コマ	6，7，8時限目	知能情報演習室
2			シミュレータ基本演習(1) ・シミュレータ上でのティーチング実践 ・干渉チェック ・サイクルタイム算出	■■ 先生 ■■ 先生	北九州高専	10.12	2コマ	5，6時限目	知能情報演習室
3							2コマ	7，8時限目	
4			シミュレータ基本演習(2) ・セル環境の構築 ・ツールモデリング、周辺機器レイアウト	■■ 先生 ■■ 先生	北九州高専	10.19	3コマ	6，7，8時限目	知能情報演習室
5									
6			シミュレータ実践応用演習(1) ・与えられた演習問題に対応した、セル作成～ティーチング～サイクルタイム検討を行う	■■ 先生 ■■ 先生	北九州高専	10.26	2コマ	5，6時限目	知能情報演習室
7							2コマ	7，8時限目	
8			シミュレータ実践応用演習(2) ・サイクルタイム短縮実践	■■ 先生 ■■ 先生	北九州高専	11.9	2コマ	5，6時限目	知能情報演習室
9							2コマ	7，8時限目	
10	プロダクトデザイン	プロダクトデザイン概論	デザインと製品開発（マーケティング）	■■ 先生	北九州高専	11.16	2コマ	5，6時限目	第2講義室
11			デザインプロセス・デザインコンセプト	■■ 先生	北九州高専	11.30	2コマ	5，6時限目	第2講義室
12			デザイン概史	■■ 先生	北九州高専	12.7	2コマ	5，6時限目	第2講義室
13			デザインの方法-1（カラーチャート作成と分析）	■■ 先生	北九州高専	12.14	2コマ	5，6時限目	第2講義室
14			デザインの方法-2（カラーチャート作成と分析）	■■ 先生	北九州高専	1.18	2コマ	5，6時限目	第2講義室
15			デザインの方法-3（カラーチャート作成と分析）				2コマ	7，8時限目	第2講義室

※日程は後日でも調整可能です。5,6時限の授業も実施出来ます。
※緑色で塗りつぶしている部分は2回分（4コマ分）または3回分（6コマ分）を一度にまとめて実施する予定です。

授業時間
1時限　8:50～　9:40
2時限　9:45～10:35
3時限10:45～11:35
4時限11:40～12:30
5時限13:15～14:05
6時限14:10～15:00
7時限15:10～16:00
8時限16:05～16:55

5，6時限目は授業なしなので、午後一番から4コマ連続で授業可能

単位と単位時間の関係

授業時間は　”実時間50分＝1単位時間”　です。
紛らわしいので，以下”1単位時間＝1コマ”と言うことにします。
前期は専攻科特論Ⅱで2単位を与えます。
授業は30コマ行います。
後期は専攻科特論Ⅲで同じく，2単位，30コマです。

（出典　専攻科委員会資料）

資料５－５－③－３

KCT

国立　北九州工業高等専門学校

産学官連携共同教育

専攻科特論Ⅳ「未来環境･エネルギー技術特論」

平成２４年度９月開講 専攻科受講生（全工学専攻1年生・2年生）募集

現在低炭素化社会に向けた動きが活発化しており、地元北九州市では「環境モデル都市」として低炭素化社会実現に向けた取り組みを積極的に行っています。既に日々の生活の中で、低炭素化社会の実現のための新規技術開発が様々な分野で進められています。

そこで、低炭素化技術分野に関心を持ち、当該関連分野で活躍する技術者を育成することを目指して、本校の専攻科生を対象に、本年度後期に「専攻科特論Ⅳ　未来環境･エネルギー技術特論」の講義を開設することになりました。低炭素化に関する事業や未来環境・エネルギー分野の最前線の技術を学ぶ機会を与えることを目的にしており、地域の産官学を中心に講師をお迎えして、未来環境・エネルギーの最新技術に関する共同教育を行います。全工学専攻科生へ本特論への受講を募ります。

講義実施内容

平成24年度9月28日（金）開講　【平日（金曜日）：15：10～16：55】

講義場所　4号館1階　共用室（１）

２回の見学会を実施（FAIS学研ひびきのカーエレクトロニクスセンター及び福岡地区水道企業団海水淡水化センター）

講義番号	講義概要		講師	講義日
①	導入	･授業内容の概要 ･未来環境･エネルギー概論	長村　利彦・松本　克彦・山根　大和（北九高専）	9/28（金） 15：10～16：55
②	材料	バイオマス利用技術の開発（バイオプラスチック）	先生（	10/26（金） 15：10～16：55
③		膜分離技術（孔拡散分離膜、造核材を使用した水処理技術）	先生（（	11/28（水） 15：10～16：55
④	材料・デバイス	高性能環境化学センサーの開発と知財	長村　利彦先生（北九州高専）	12/7（金） 15：10～16：55
⑤		自動車用排出ガス触媒	先生（	12/14（金） 15：10～16：55
⑥	デバイス・システム	カーエレクトロニクス（1）自動車工学	生（	10/5（金） 15：10～16：55
⑦		カーエレクトロニクス（2）/FAIS 学研ひびきのカーエレクトロニクスセンター・電気自動車		10/12（金） 12：50～16：55 ＊見学会実施
⑧		環境･エネルギーと水	先生（ ）	11/9（金） 15：10～16：55
⑨		海洋・排熱温度差発電	生（	10/19（金） 15：10～16：55
⑩		浸透圧発電	先生（	11/16（金） 15：10～16：55
⑪		海水淡水化	先生	11/30（金） 12：50～16：55 ＊見学会実施
⑫		潮流発電	先生（ ）	H25/1/18（金） 15：10～16：55
⑬	マネジメント	環境未来都市戦略	先生（	H25/1/11（金） 15：10～16：55
⑭		グリーンイノベーション MOT 戦略（環境･資源･エネルギー領域の製品技術の事業化について）	松本　克彦先生（北九州高専 （財）北九州産業学術推進機構 中小企業支援センターマネージャー）	H25/1/25（金） 15：10～16：55
⑮		製品設計開発から、生産技術、マーケティング、特許戦略、技術提携等の事例研究（グループ討議、ビジネスプランの作成演習）	長村　利彦・松本　克彦・山根　大和（北九高専）	H25/2/1（金） 15：10～16：55

注）講師の方々の都合で、講義実施内容と講義日の順番が相違しますので間違えないよう各自確認して下さい。

＊本特論は、独立行政法人国立高等専門学校機構から平成23-24年度「企業技術者等活用プログラム」（プログラム名称：教育コーディネーター活用産学官連携共同教育、副題：「低炭素化技術関連の人材養成」の取り組み）に本校が採択され、産学官地域連携講座として平成23年度後学期に開講した専攻科特論Ⅳ「低炭素化技術特論」に引き続き実施します。

（出典　専攻科委員会資料）

資料５－５－③－４

H24 年度　専攻科特論Ⅴ（知的財産関係）講義日程

講義番号	授業日	担当講師	講義内容	成績評価	教室
1	6/7（木） 7,8 限	■■■■ ■■■■先生	産業財産権へのアプローチ 産業財産権を身近に感じる、 特許調査を体験する	レポート	制情棟 CAD 室
2	6/14（木） 5,6 限	■■■■大 ■■■■先生	意匠、商標、著作権の概要	講義時間内でテスト	大講義室
3	6/14（木） 7,8 限	■■■■大 ■■■■先生	特許制度の概要（１） ・出願から登録までの流れ、特許性、 共同出願、外国出願等		
4	6/28（木） 5,6 限	■■■■大 ■■■■先生	特許制度の概要（２） ・明細書の書き方・読み方、記載要件、 補正の限定		大講義室
5	6/28（木） 7,8 限	■■■■大 ■■■■先生	特許係争　ケーススタディー		
6	7/5（木） 5,6 限	■■■■ ■■■■先生	■■■■のプロパテント活動 研究・開発活動から知的財産を見出す！	レポート	大講義室
7	7/12（木） 5,6 限	■■■■ ■■■■先生	企業における知的財産権の重要性と技術者の役割	レポート	大講義室
8	7/19（木） 5,6 限	■■■■ ■■■■先生	株式会社■■■■の高殺菌材料　■■■■ ■■■■による殺菌・消臭技術紹介	検討中	大講義室

対　象：専攻科１年生、専攻科２年生（前年度に専攻科特論ｖ単位取得者を除く）
期　日：平成 24 年 6 月 7 日～7 月 19 日の木曜午後（6/21 を除く）
回　数：計 8 回、但し 2,3 回と 4,5 回は同日に実施

注意事項

・受講希望者は、各学科の専攻科主事補の教員から下記の受講申込票を受け取り、6/1(金)までに教務係に提出すること。
・受講生は、毎回欠かさず講義に出席すること。
・成績評価は、レポート提出または講義時間内に実施するテストによって行われる。

（出典　専攻科委員会資料）

資料５－５－③－５

（旧）生産工学専攻

	授業科目	単位数	学年別配当 1年 前期	1年 後期	2年 前期	2年 後期	備考
必修科目	生産工学特別研究Ⅰ	4	2	2			
	生産工学特別研究Ⅱ	6			3	3	
	生産工学輪講Ⅰ	2	1	1			
	生産工学輪講Ⅱ	2			1	1	
必修科目単位数計		14	3	3	4	4	
選択科目	生産加工学	2	2				－１２単位以上修得
	燃焼工学	2		2			
	流れ学特論	2		2			
	材料強度学特論	2			2		
	熱流動工学	2			2		
	生産設計工学特論	2				2	
	電磁気特論	2	2				
	電気電子回路特論	2		2			
	電子デバイス特論	2			2		
	メカトロニクス特論	2				2	
	気体プラズマ特論	2				2	
	特別実習	2	2				
選択科目開設単位数計		24	6	6	6	6	
選択科目修得単位数計		12					

（新）生産工学専攻

	授業科目	単位数	学年別配当 1年 前期	1年 後期	2年 前期	2年 後期	備考
必修科目	生産工学特別研究Ⅰ	4	2	2			
	生産工学特別研究Ⅱ	6			3	3	
	生産工学輪講Ⅰ	2	1	1			
	生産工学輪講Ⅱ	2			1	1	
必修科目単位数計		14	3	3	4	4	
選択科目	生産加工学	2	2				－１２単位以上修得
	燃焼工学	2		2			
	流れ学特論	2		2			
	材料強度学特論	2			2		
	熱流動工学	2			2		
	生産設計工学特論	2				2	
	電磁気特論	2	2				
	電気電子回路特論	2		2			
	電子デバイス特論	2			2		
	メカトロニクス特論	2				2	
	気体プラズマ特論	2				2	
	特別実習	2		2			
選択科目開設単位数計		24	4	6	8	6	
選択科目修得単位数計		12					

（出典　平成24年度第６回専攻科委員会資料）

資料５－５－③－６

特別実習の単位認定要領

平成１６年　３月３１日
校　長　裁　定

１．　この要領は、専攻科学生が行う特別実習の単位認定に関し、必要な事項を定めるものとする。
２．　特別実習の対象学年及び認定単位数は、学則別表第３の教育課程表によるものとする。
３．　特別実習の実施時期は、原則として夏季休業期間中とするが、春季休業中に実施してもよい。また、休業中に限らず、授業のない時間を利用し、長期に分散する形で実施してもよい。
４．　校長は、各学科長の推薦に基づき、企業への要請を行うものとする。
５．　校長は、特別実習のため学生を企業へ推薦する際、特別実習終了後、特別実習における研修結果報告書（別紙様式）を提出するよう企業へ依頼するものとする。
６．　専攻科学生が特別実習における単位の認定を受けようとする場合は、前学期又は後学期の所定の期日までに、特別実習レポートを各学科長へ提出しなければならない。
７．　特別実習の評価方法及び評価基準は、次によるものとする。
（１）特別実習の評価は、企業から提出された研修結果報告書及び専攻科学生から提出された特別実習レポートにより行う。
（２）８０時間以上の実習と１０時間の報告書作成等とをもって単位認定を行うことができる。ただし、夏季又は春季休業中については、１日の実習を８時間に換算する。
（３）特別実習の成績の評価及び評点は、専攻科の授業科目の履修等に関する規則第５条第１項による。
８．　成績報告の時期は、前学期及び後学期の定期試験成績報告締切日とし、教務係へ提出するものとする。
９．　この要領に関する事務は教務係で行うものとする。

（出典　教務係資料）

資料５－５－③－７

過去3年間，専攻科「特別実習」を履修した学生数等
（尚，全員単位認定されている）

年度	専攻科1年で履修した学生数	専攻科1年の学生数	履修率	専攻科2年で履修した学生数	受入企業数
22	7	61	11.5%	0	7
23	22	58	37.9%	0	17
24	15	39	38.5%	2	16

(株)アドバンテスト，(株)ヴィンテージ・プロダクションズ＆コンサルティング，(株)カネカ，(株)カンノ製作所，(株)タカギ，(株)ブラテック，(株)ふるさとカンパニー，(株)岡部マイカ工業所，(株)九州総合設計，(株)山本工作所，(株)富士通九州システムズ，ＤＩＣ(株)，アイシン精機(株)，エイテックス(株)，メタウォーター(株)，ワンズ，旭化成(株)，安川情報システム(株)，九州半導体エレクトロニクスイノベーション協議会，公益財団法人北九州生活科学センター，三島光産(株)，産総研九州センター，新日本製鐵(株)，西日本プラント工業(株)，西日本環境リサーチ(株)，前原工作所，大光炉材(株)，中央電子(株)，東燃ゼネラル石油(株)，日東電工(株)，日鐵プラント設計(株)，北九州エル・エヌ・ジー(株)

過去３年間，特別実習で学生を受入れて下さった企業：３２社（順不同）

（出典　教務係資料より作成）

資料５－５－③－８

H24 年度　専攻科特論Ⅶ(英語による専門授業)講義日程

講義番号	授業日	担当講師	講義内容	成績評価	教室	担当
1	10/25(木) 3,4 限	■■■大 ■■■■■ 先生	モバイル・コンピューティング	レポート	専攻科第一講義室	後藤
2	10/25(木) 7,8 限	■■■大 ■■■■■ 先生	ネットワークベース・ コンピューティング	〃	〃	木田
3	10/31(水) 5,6 限	■■■大学院 ■■■■■ 先生	Photosynthesis, Energy problems and Solar cells	〃	〃	加島
4	11/7(水) 5,6 限	■■■大学院 ■■■■■ 先生	Dye -sensitized solar cells andapproaches for enhancing the conversion efficiency	〃	〃	小清水
5	11/15(木) 5,6 限	■■■大 ■■■■■ 先生	ロボット用アクチュエータの概要	〃	〃	添田
6	11/22(木) 5,6 限	■■■大 ■■■■■ 先生	サーボモータの制御と ロボット工学の概要	〃	〃	小畑
7	11/29(木) 7,8 限	■■■大学院 ■■■■■ 先生	言語データの構造化： 漢字から単語の意味まで	〃	〃	中村
8	12/6(木) 7,8 限	■■■大学院 ■■■■■ 先生	類推に基づく機械翻訳システム	〃	〃	安信

対　象：専攻科１年生、専攻科２年生
期　日：平成 24 年 10 月 25 日(木) ～ 12 月 6 日(木)
回　数：計８回(但し、1,2 回は同日に開講)

※受講を希望する学生は、各科の専攻科主事補または教務係より受講票入手し、必要事項を記入の上、10 月 22 日(月)までに教務係に提出すること。

※講師の先生の都合により、講義日程等が変更になる場合があります。

(出典　専攻科委員会資料)

資料５－５－③－９

英語に関する授業の改善

変更前	→	変更後
英語講読Ⅰ 達成目標(H23) ・5000 語レベルの語彙を含む英文を、辞書を使って読むことができる。 ・TOEIC400 点レベルの語法や語彙を習得し、英文を聞いて大意が把握できる。 ・TOEIC400 点以上を獲得すること、または英検準 2 級以上（1 次試験は 70%以上）を取得することができる。	→	英語Ⅰ 達成目標(H25) ・TOEIC400 点レベルで必要とされる英文読解ができる。 ・教科書に登場する主要な単語を正しく発音できる。 ・教科書に登場する主要な文のイントネーションを理解し、正しく真似することができる。 ・スティーブ・ジョブズ氏の生涯を把握し、なぜ彼が賞賛されるのか把握できる。
英語運用能力演習Ⅰ 達成目標(H23) ・5000 語レベルの語彙を含む英文を、辞書を使って読むことができる。 ・TOEIC400 点レベルの語法や語彙を習得し、英文を聞いて大意が把握できる。 ・TOEIC400 点以上を獲得すること、または英検準 2 級以上（1 次試験は 70%以上）を取得することができる。	→	英語演習Ⅰ 達成目標(H25) ・TOEIC で 400 点相当の得点を取ることができる。 ・教科書に登場する主要な単語を正しく発音できる。 ・教科書に登場する主要な文のイントネーションを理解し、正しく真似することができる。 ・アインシュタイン氏の生涯を把握できる。
英語講読Ⅱ 達成目標(H24) ・5000 語レベルの語彙を含む英文を、辞書を使って読むことができる。 ・TOEIC400 点レベルの語法や語彙を習得し、英文を聞いて大意が把握できる。 ・TOEIC400 点以上を獲得できる。 ・英検 2 級の 1 次試験に合格できる。	→	英語Ⅱ 達成目標(H25) ・5000 語レベルの語彙を含む英文を、辞書を使って読むことができる。 ・TOEIC450 点レベルの語法や語彙を習得し、英文を聞いて大意が把握できる。 ・TOEIC450 点以上を獲得できる。 ・英検 2 級の 1 次試験に合格できる。
英語運用能力演習Ⅱ 達成目標(H24) ・5000 語レベルの語彙を含む英文を、辞書を使って読むことができる。 ・TOEIC400 点レベルの語法や語彙を習得し、英文を聞いて大意が把握できる。 ・各章の英文の内容を日本語でまとめることができる。 ・TOEIC400 点以上を獲得できる。 ・英検 2 級の 1 次試験に合格できる。	→	英語演習Ⅱ 達成目標(H25) ・TOEIC600 点レベルの文法語法知識や語彙を習得し、同レベルの英文の大意が把握できる。 ・TOEIC600 点を獲得できる。 ・英検 2 級に合格できる。

（出典　平成25年度シラバスより作成）

資料５－５－③－10

○ 科目履修の手引き

１．修了のための修得単位

専攻科は、一般の大学と同じように単位制をとっています。

専攻科を修了するためには、２年以上在学し、６２単位以上修得することが必要です。

また、本校専攻科での開設科目（シラバスの教育課程表参照）だけで、６２単位の修得が可能ですが、他の大学等での単位についても１４単位を上限として読み替えることが可能です。また、他専攻の専門科目のうち４単位まで読み替えることも可能です。

単位修得の詳細については、以下を参考にしてください。

①生産工学専攻

本校開設科目				必要単位数	
		科目数	単位数		
一般科目	必修	5	6	6	
	選択	2	4	2	大学等の２単位読替可能(※1)
専門基礎科目	必修	１４	２０	２０	
	選択	１１	２１	8	大学等の４単位読替可能
専門科目	必修	4	１４	１４	
	選択	１２	２４	１２	大学等の４単位読替可能。また、他専攻の単位を４単位まで読替可能。

②制御工学専攻

本校開設科目				必要単位数	
		科目数	単位数		
一般科目	必修	5	6	6	
	選択	2	4	2	大学等の２単位読替可能(※1)
専門基礎科目	必修	１３	１９	１９	
	選択	１２	２２	7	大学等の４単位読替可能
専門科目	必修	4	１４	１４	
	選択	9	１８	１４	大学等の４単位読替可能。また、他専攻の単位を４単位まで読替可能

③物質化学工学専攻

本校開設科目				必要単位数	
		科目数	単位数		
一般科目	必修	5	6	6	
	選択	2	4	2	大学等の２単位読替可能(※1)
専門基礎科目	必修	１２	１８	１８	
	選択	１１	２１	8	大学等の４単位読替可能
専門科目	必修	4	１４	１４	
	選択	１２	２４	１４	大学等の４単位読替可能。また、他専攻の単位を４単位まで読替可能

※1 読み替えない場合は、少なくとも社会系科目「アジア地域論（２単位）」「自然地理学（２単位）」から１科目を選択することになります。

（出典　平成25年度専攻科履修要覧）

資料５－５－③－11

表　他専攻の専門科目を履修した学生数

	生産工学専攻		制御工学専攻		物質化学工学専攻		全履修者数÷全修了者数
	他専攻科目履修者数	修了者数	他専攻科目履修者数	修了者数	他専攻科目履修者数	修了者数	
23年3月卒	1	13	23	25	18	22	70%
24年3月卒	1	10	24	26	18	19	78%
25年3月卒	2	14	19	21	8	15	58%

（出典　成績一覧表から抽出）

（分析結果とその根拠理由）

学生の多様なニーズ，学術の発展の動向，社会からの要請を考慮し，これらを中期目標・中期計画に反映させ，計画を実行している。特に産学官連携共同教育を行い，社会の要請，学生のニーズに沿った教育を実施している。また，インターンシップの機会の増加，エンジニアリングデザイン教育の推進，外国人講師による英語授業，英語のカリキュラム改善等を行っている。

観点５－６－①：　教育の目的に照らして、講義、演習、実験、実習等の授業形態のバランスが適切であり、それぞれの教育内容に応じた適切な学習指導法の工夫がなされているか。

（観点に係る状況）

教育理念，３つの教育目的を実現するために，専攻科課程の具体的な教育目標（A）～（F）を定めている（資料５－６－①－１）。教育目標と授業科目の関係を資料５－６－①－２に示す。基礎学力に関する目標（A），専門知識に関する目標（B）には，専門基礎科目と専門科目の講義が主に寄与する。実践的技術に関する目標（C）には，複合工学実験と特別研究が主に寄与する。問題解決能力に関する目標（D）には，複数分野の工学知識・技術を学ぶ専門基礎科目群と専攻科特論等の講義，特別研究が主に寄与する。複合工学実験では，専攻に関わりなく経験しておくべき５つの内容について基礎理論から実践までを学ぶ（資料５－６－①－３）。コミュニケーション能力に関する目標（E）には，英語科目，文章表現論，輪講及び特別研究の様々な形態の授業科目が寄与する。技術と社会・環境の関係に関する目標（F）には，社会系科目と現代技術論，専攻科特論が主に寄与する。

講義と演習の全授業科目において，学生の自己学習への取組も加味して総合的に成績評価を行っている。このため，シラバスに「履修上の注意」と「自己学習の指導について」を明記している（資料５－６－①－４）。授業担当教員は，自学自習計画書と前年度の自学自習報告書を作成し，専攻科委員会に提出している（資料５－６－①－５，６）。これによって，各授業科目での学習指導法の工夫や改善等を学校として把握している。資料５－６－①－７は，課題やレポートを課す等の一般的な工夫以外の学習指導法の工夫についてまとめたものである。３つの教育目的に関わる科目で学習指導法の工夫がなされている。英語では，様々な英語学習ソフトウェアを活用し，自学自習を支援している。また，融合・複合の要素が強く，他分野について学ぶ専門基礎科目では，学習指導法の工夫が多く実施されている。

（分析結果とその根拠理由）

教育目的・目標達成のために，講義，演習，実験・実習をバランス良く取り入れている。e-learningシステムやPCの活用，発表，討論を取り入れる等，学習指導法の工夫が多く実施されている。

表１　北九州工業高等専門学校・準学士課程ならびに専攻科課程の教育目標

〈 教育理念 〉

明るい未来を創造する開拓型エンジニアの育成

〈 教育目的 〉

(1) 幅広い工学基礎と創造的技術開発力の修得
(2) 国際社会で尊敬され、信頼される国際センスの修得
(3) 地球にやさしい技術を開発できる心豊かな人間性の涵養

〈 教育目標；準学士課程 〉

(A) 技術内容を理解できる基礎学力（数学、自然科学、情報）と自己学習能力を持つ技術者

①数学・物理・化学などの自然科学、情報技術に関する基礎を理解できる。
②自主的・継続的な学習を通じて、基礎科目に関する問題を解くことができる。

(B) 専門分野における基礎知識を身に付けた技術者

①専門分野における工学の基礎を理解できる。
②自主的・継続的な学習を通じて、専門工学の基礎科目に関する問題を解くことができる。

(C) 専門工学基礎知識の上に実践的技術を学んだ技術者

①実験や実習を通じて、問題解決の実践的な経験を積む。
②機器類（装置・計測器・コンピュータなど）を用いて、データを収集し、処理できる。
③実験結果から適切な図や表を作り、専門工学基礎知識をもとにその内容を考察することができる。
④実験や実習について、方法・結果・考察をまとめ、報告できる。

(D) 身に付けた工学知識・技術をもとにして問題を解決する能力を有する技術者

①専門工学の基礎に関する知識と基礎技術を統合し、活用できる。
②工学知識や技術を用いて、課題解決のための調査や実験を計画し、遂行できる。
③工学知識や技術を用いて、課題解決のための結果の整理・分析・考察・報告ができる。

(E) 多様な文化を理解するための教養を持ち、日本語および外国語によるコミュニケーションの基礎能力を有する技術者

①歴史・文化・国語・外国語を学び、コミュニケーションするための基礎的な教養を身に付ける。
②日本語で論理的に記述し、報告・討論できる。
③英語によるコミュニケーションの基礎能力（読解・記述・会話）を身に付ける。

(F) 歴史・文化・社会に関する教養を持ち、技術の社会・環境との関わりを考えることのできる技術者

①歴史・文化・社会に関する基礎的な知識を身に付ける。
②工業技術と社会・環境との関わりを考えることができる。
③技術者としての役割と責任を認識できる。

(G) 社会の一員としての自覚、倫理観を持ち、心豊かな人間性を有する技術者

①健やかな心身を持ち、社会性、協調性を身に付ける。
②社会人として、技術者として必要な素養、一般常識や礼儀，マナーについて考えることができる。

〈 教育目標；専攻科課程 〉

(A) 技術内容の高度化に対応できる基礎学力（数学、自然科学、情報）と自己学習能力を持つ技術者

①数学・物理・化学などの自然科学、情報技術に関する共通基礎を理解できる。
②自主的・継続的な学習を通じて、共通基礎科目に関する問題を解決できる。

(B) 専攻分野の「生産」に関わる専門知識を身に付けた技術者

①共通基礎知識を用いて、専攻分野における設計・製作・評価・改良など生産に関わる専門工学の基礎を理解できる。
②自主的・継続的な学習を通じて、専門工学の基礎科目に関する問題を解決できる。

(C) 専門工学知識の上に「生産」に関わる実践的技術を身に付けた技術者

①専門工学の実践に必要な知識を深め、実験や実習を通じて、問題解決の経験を積む。
②機器類(装置・計測器・コンピュータなど)を用いて、データを収集し、処理できる。
③実験結果から適切な図や表を作り、専門工学知識をもとに分析し、結論を導き出せる。
④実験や実習について、方法・結果・考察を的確にまとめ、報告できる。

(D) 幅広い視野から問題を捉え、複数分野の工学知識・技術を有機的に結び付け、総合的に問題を解決する素養を有する技術者

①専攻分野における専門工学の基礎に関する知識と基礎技術を総合し、応用できる、
②専攻分野の専門性に加え、他分野の知識も学習し、幅広い視野から問題点を把握できる。
③要求された課題に対して幅広い視野で問題点を把握し、その解決方法を提案できる。
④工学知識や技術を統合し、課題解決のための調査や実験を自発的に計画し、遂行できる。
⑤工学知識や技術を統合し、課題解決のための結果の整理・分析・考察・報告ができる。

(E) 多様な文化を理解する能力を持ち、日本語および外国語によるコミュニケーション能力を有する技術者

①歴史・文化・日本文学(国語)・外国語を学び、多様な文化を理解できる。
②実験・実習・調査・研究内容について、日本語で論理的に記述し、報告・討論できる。
③専攻分野の技術英文を含め、英文を読解し、日本語での内容説明ができる。
④調査・研究の目的と内容を理解した上で、その概要を英語で記述できる。
⑤英語による基本的な会話ができる。

(F) 歴史・文化・社会に関する教養と頑健な心身を持ち、技術の社会・環境との関わりを考えることのできる技術者

①歴史・文化・社会に関する知識を持ち、それらを示すことができる。
②工業技術と社会・環境との関わりを理解し、社会・環境への効果と影響を説明できる。

（出典　平成25年度シラバス）

資料５－６－①－２

専攻科課程の教育目標に対する授業科目の関与の程度および授業時間　［生産工学専攻：平成25年度1年生の2年間のカリキュラム］

	授業科目	単位	学年	必須選択	授業時間 授業形態 講義	演習	実験	実習	放送大学	専攻科課程の教育目標に対する関与の程度（◎：主　○：従） A ①	A ②	B ①	B ②	C ①	C ②	C ③	C ④	D ①	D ②	D ③	D ④	D ⑤	E ①	E ②	E ③	E ④	E ⑤	F ①	F ②	F ③	養成する人物像に対する関与の程度（◎：主　○：従） 全専攻共通 ①	全専攻共通 ②	全専攻共通 ③	全専攻共通 ④	専攻 ①	専攻 ②
一般科目	英語Ⅰ	2	1	必修	25																		◎		◎	○					○				
	英語演習Ⅰ	1	1	選択		25																	◎		◎	○					◎				
	英語Ⅱ	2	2	必修	25																		◎		◎	○					○				
	英語演習Ⅱ	1	2	選択		25																	◎		○	◎	◎				◎				
	文章表現論	2	1	必修	25																		◎	○				◎			◎				
	アジア地域論	2	1	選択	25																		◎	○				◎			◎				
	自然地理学	2	1	選択	25					○																		◎	◎	◎	◎				
	東例から学ぶ日本国憲法	2	共通	選択					12.5																			◎							
	経営学入門	2	共通	選択					12.5																			◎							
	グローバル化と日本のものづくり	2	共通	選択					12.5																			◎							
専門基礎科目	代数学基礎	2	1	必修	25					◎	◎																				○				
	物理数学	2	1	必修	25					◎	◎	○	○																		○				
	確率・統計	2	2	必修	25																										◎				
	エネルギー論	2	1	必修	25					◎	◎																				◎				
	現代物理学	2	2	必修	25					◎	◎																				○				
	技術者倫理	2	1	必修	25					◎	○																		◎	◎	◎		◎			
	現代技術論	1	2	必修	25						○														○				○	○		○				
	複合工学実験	1	1	必修			37.5					◎		◎	◎	◎	◎		◎					○								◎		◎	
	固体力学Ⅰ	1	1	必修	25					○	○	◎	○					○	◎												◎				
	電気回路学Ⅰ	1	1	必修	25						◎	◎						○	◎												◎				
	制御工学概論	1	2	選択	25					○		○						○	◎													◎			
	情報理論Ⅰ	1	2	必修	25					◎	○	◎	○					○														◎			
	工業化学	1	1	必修	25					◎		○																				◎			
	材料科学	1	2	必修	25							○																				◎			
	固体力学Ⅱ	2	1	選択	25					○	○	◎	○					○													○				◎
	電気回路学Ⅱ	2	1	選択	25						◎	◎						○													○				◎
	制御工学特論	2	2	選択	25					○		○						○														◎			
	情報理論Ⅱ	2	2	選択	25					○	○	◎	○					○														◎			
	物理化学特論	2	1	選択	25					◎		◎						○														◎			
	材料科学特論	2	2	選択	25							◎						○														◎			
	専攻科特論Ⅰ	2	2	選択	25							○						○						○						○					
	専攻科特論Ⅱ	2	共通	選択	25							○						○						○						○					
	専攻科特論Ⅲ	2	共通	選択	25							○						○						○						○					
	専攻科特論Ⅳ	2	共通	選択	25							○						○						○						○					
	専攻科特論Ⅴ	1	共通	選択	12.5							○						○						○						○					
	専攻科特論Ⅵ	2	共通	選択	25							○						○						○						○					
	専攻科特論Ⅶ	1	共通	選択	12.5							○						○						○						○					
	産業とデザイン	2	共通	選択					12.5	○									○																
	技術革新を支える物質の科学	2	共通	選択					12.5	○									○																
	環境と社会	2	共通	選択					12.5	○									○																
専門科目	生産工学特別研究Ⅰ	4	1	必修			150								○	○		◎		◎	◎											◎		◎	
	生産工学輪講Ⅰ	2	1	必修		50								○				○						◎								◎		◎	
	生産工学特別研究Ⅱ	6	2	必修			225								○	○		◎		◎	◎			◎								◎		◎	
	生産工学輪講Ⅱ	2	2	必修		50								○				○						◎								◎		◎	
	生産加工学	2	1	選択	25							◎	○																		○		◎		
	燃焼工学	2	2	選択	25							◎	○																		○		◎		
	流れ学特論	2	2	選択	25							◎	○						○												○		◎		
	材料強度学特論	2	2	選択	25							◎	○																		○		◎		
	熱流動工学	2	1	選択	25							◎	○						○												○		◎		
	生産設計工学特論	2	1	選択	25							◎	○						◎												○		◎		
	電磁気特論	2	2	選択	25					○		◎	○																		○		◎		
	電気電子回路特論	2	2	選択	25							◎	○																		○		◎		
	電子デバイス特論	2	2	選択	25							◎	○																		○		◎		
	メカトロニクス特論	2	2	選択	25							◎	○						○												○		◎		
	気体プラズマ特論	2	2	選択	25					○		◎	○																		○		◎		
	特別実習	2	共通	選択				90											○	◎				○					○	○		◎		◎	
	物質・材料工学と社会	2	共通	選択					12.5	○									○																
	エネルギーと社会	2	共通	選択					12.5	○									○																
	分子の科学	2	共通	選択					12.5	○																									

(A)技術内容の高度化に対応できる基礎学力（数学、自然科学、情報）と自己学習能力を持つ技術者

(B)専攻分野の「生産」に関わる専門知識を身に付けた技術者

(C)専門工学知識の上に「生産」に関わる実践的技術を身に付けた技術者

(D)幅広い視野から問題を捉え、複数分野の工学知識・技術を有機的に結び付け、総合的に問題を解決する素養（デザイン能力）を有する技術者

(E)多様な文化を理解する能力を持ち、日本語およびび外国語によるコミュニケーション能力を有する技術者

(F)歴史・文化・社会に関する教養と頑健な心身を持ち、技術の社会・環境との関わりを考えることのできる技術者

（出典　平成25年度シラバス及びJABEE・認証評価委員会資料より作成）

資料５－６－①－３

【教科名】複合工学実験　Intercollege Engineering Laboratory　＜H25＞

学年	専攻	単位数	期間	開設週数	時間/週	総時間
1	全工学専攻	（必修）1	後期	15	3	45

【担当教員】種　健（代表）　【教員室】3 号館 2 階　【TEL】7264　【e-mail】tane

【授業目的と概要】

高度に発達し続けている現代技術に対応するには、一つの知識だけでなく他分野での知識・手法が有効である場合が多い。そこで、各自が専門とする分野以外のいろいろな手法や考え方を幅広く学び、技術者としての基礎的資質を広げ広範囲な問題解決能力を訓練することは非常に有益である。本実験は、専攻に関わりなく技術者として経験しておくべき内容について、その基礎理論から実際の取扱いまでを「実験」を通して体験し、いろいろな分野の知識・手法を身につけ、「エンジニアリングデザイン能力」に必要な知識と技術の幅を広げることを目的とする。

【授業の進め方及び履修上の注意】

各専門学科が、他専攻の学生であっても一度は体験しておくことが有益と判断した 5 つのテーマについて実験を行う。基本的手順としては、テーマの背景にある理論を調べ、実験で手法の体験・習得を行い、その応用例などを学ぶ。一つのテーマに 3 週間を割り当て、この期間中にレポートまで完成させる。

授　業　項　目	内　　容	時間
【後期】テーマ		
①ひずみゲージを用いた力・変位の計測実験	ひずみゲージを貼り付けた片持ちはりの検定を行い、荷重・変位検出器の基礎を理解する。また、「固体力学 I」で学習した知識と実験結果との比較・検討を行い、応力と変形に関する理解を深める。実験結果ならびに課題の調査結果については、各人が口頭説明（発表）する。	9
②熱電対を用いた温度計測実験	熱電現象に関する 3 つの効果を調べさせることにより、メカニズムを理解させる。次に、熱電対で正確に温度を計測するために必要な事項を体験し、簡単なフィードバック機構を有する温度制御の実験を行う。他種の温度センサに関しても調査させる。	9
③PLC を用いた計測・制御システム	実際の生産現場では、PLC（Programmable Logic Controller）が広く用いられている。本テーマでは、光電センサ、近接センサ、リレー等の I/O 機器，モーター等を用いて、PLC を用いた計測・制御システムの構築法を修得させる。	9
④マイコンを用いたインターフェイス実験	情報技術の基本的な知識として、電子部品・論理回路およびマイコンを用いた各種回路の設計・動作確認を行う。また、Web ブラウザからネットワークを介して接続した各種のアプリケーション（Web ページなど）を実行させる実験を行う。これらの実験を通して、マイコンの基本動作原理を理解する。	9
⑤粉末 X 線回折測定及び X 線光電子分光法測定	本実験では、無機、高分子系材料を準備し、粉末 X 線回折(XRD)測定により、固体材料内部の周期構造解析法を学習する。また、固体表面の分析法として X 線光電子分光法(XPS)による光電子スペクトルの解析法を修得させる。更に、表面形態観察を行う走査型電子顕微鏡（SEM）・走査型プローブ顕微鏡（SPM）の原理について解説する。	9

【達成目標】
- 各テーマの背景にある理論を理解でき、実験方法を習得できる。
- 実験方法や結果、考察を的確にまとめ、報告できる。
- 専攻分野の専門性に加え他分野の知識も学習し、幅広い視野から問題点を把握できる。

【教科書】
各テーマで作成されたテキスト・資料

【参考書】
適宜、担当教員から紹介される。

JABEE 教育目標	(B)①、(C)①②③④、(D)②、(E)②
専攻科課程目標	(B)①、(C)①②③④、(D)②、(E)②

成績評価	【評価基準】 ・全テーマの実験レポートを提出しなければならない。 ・各テーマの達成目標に対する理解度をレポートで評価し、60 点以上を合格とする。 【評価方法】 レポート 100%　総合成績は上記テーマの平均とする。	【オフィスアワー】 随 時

（出典　平成25年度シラバス（複合工学実験））

資料５－６－①－４

【教科名】電子デバイス特論　Advanced Electronic Devices　＜H25＞

学年	専攻	単位数	期間	開設週数	学校授業時間		自学自習時間		総時間
					時間/週	総時間	時間/週	総時間	
2	生産工学専攻	（選択）2	前期	15	2	30	4	60	90

【担当教員】加島　篤　　【教員室】　３号館２階　　【TEL】7277　【e-mail】kajima

【授業目的と概要】
本授業では、様々な電子機器に用いられる各種電子材料の機能の理解を目的とする。
授業では、電子材料とその応用デバイスについて、構造と動作原理を物性物理と電子工学の２つの観点から解説する。

【授業の進め方及び履修上の注意】
専門書の内容や専門雑誌の記事をもとにした資料を配布し、各テーマに沿って解説を行う。講義では、実物の電子デバイスを手に取らせ、また身近な電子機器のどこに応用されてどのように役立っているかを強調することで、電子デバイスに対する興味を喚起する。

【自学自習の指導について】
主な授業項目毎に、課題レポートを作成させる。その際、電子デバイスに関する資料を集めさせ、課題に沿って整理・考察を行うように指導する。

授業項目	内容	時間
【前期】		
液晶ディスプレイ	液晶材料の結晶構造と電気光学的特性、ディスプレイの構造とセルの駆動方式を学ぶ。	6
発光ダイオードと半導体レーザー	半導体における発光現象に加えて、誘導放出などレーザーの基礎も学ぶ。	6
光ファイバ	光ファイバによる信号電送の原理やその作製方法、また通信の発達史について学ぶ。	4
光ディスク	CD,MD、DVD など各種の光ディスクの構造と記録の原理について理解する。	4
半導体メモリ	DRAM,SRAM,フラッシュメモリ等の半導体メモリの回路構成と特徴について学ぶ。	6
電池	一次電池，二次電池などの化学電池や太陽電池、燃料電池などの原理や特徴について理解する。	4
定期試験		

【達成目標】
・各種電子デバイスの構造と動作原理が理解できる
・デバイスに用いられる材料の物性が理解できる
・電子機器への応用の重要性が理解できる

【教科書】
指定なし（配布テキスト）
【参考書】
日経エレクトロニクス
（雑誌：図書館常備）

JABEE 教育目標	(B)①②，(C)①
専攻科課程目標	(B)①②，(C)①

成績評価
【評価基準】
興味のあるデバイスに関する文献や資料を自ら集め、内容を整理して記述し，その特徴や重要性についてどれだけ深く考察できたかを問う。
【評価方法】
電子デバイスに関する個別のテーマを設定して、計４回レポートを提出させる。レポートの評価 90%、授業への取り組み 10%

【オフィスアワー】
放課後など随時

（出典　平成25年度シラバス（電子デバイス特論））

資料５－６－①－５

〔様式 - 専自１〕

平成２４年度の実施計画

【教科名】　電子デバイス特論　Advanced Electronic Devices

学年	専攻	単位数	期間	開設週数	学校授業時間		自学自習時間		総時間
					時間/週	総時間	時間/週	総時間	
2	生産工学	（選択）2	前期	15	2	30	4	60	90

【担当教員】加島　篤　　【教員室】３号館２階　　【TEL】964-7277　　【e-mail】kajima@kct.ac.jp

【本教科における自学自習のねらい】（一般的事項でなく、教科に特化した内容で記述して下さい）

この教科は、専攻科２年の前期に学習する選択科目であり、電気電子工学の基礎をベースに液晶や発光ダイオード、光ファイバ、半導体メモリなど、身近な電子機器に応用される電子デバイスについてについて学習する。毎回配布する資料にそって授業を進め、できるだけ具体的事例を織り交ぜながら説明し、数多くの問題に取組んでもらうが、受身の受講では理解が深まらないことを学生自身が自覚しておかなければならない。

本科で電気電子工学を専攻していない学生も多いため、光学の基礎や半導体のバンド理論についても、ある程度時間を掛けて解説している。疑問点やよく理解できない項目があれば、連やかに質問に来たり（オフィス　アワー利用）、図書館に豊富に準備してある関連書籍を参考にするなど、自学の習慣を身に付け、基本事項をしっかりと自分のものにすること、基本事項を利用した応用力を養うことをねらいとする。

【自学自習の内容および授業との関連性】（一般的事項でなく、教科に特化した内容で記述して下さい）

授業の進行と並行して、電子デバイスの構造や使用される電子材料の物理的性質、またデバイスの特徴や応用例などについて課題を与え、各人が図書館の書籍やエレクトロニクス雑誌、あるいはインターネットで最新の技術動向について調べるように指示する。一つの電子デバイスの講義が終了するたびに、レポートにまとめて提出させるため、しっかりと各人が取組んでおくこと、疑問があればその時に解決できるように努力してほしい。

授業では各電子デバイスの動作原理や特徴だけでなく、そのデバイスが生まれた歴史的な背景や社会に与えた影響についても解説するが、学生自らが資料を探しそれを読解して課題レポートにまとめる過程で、改めて電子技術の重要性を認識することを意図している。よって、課題を与えてからレポート提出までの期間は、最低でも２週間は確保している。強制的な取組みを自助努力による継続取組み（習慣）へ展開してほしい。

【成績評価への考慮】

この科目は、個別テーマ毎に合計４回以上のレポートを提出させ、その記述内容で評価する。各レポートには、自学自習で調べまとめるよう求めた複数の課題があり、その回答を精査して学生自身の「自学自習取組み」と判断して評価する。

【その他】

（出典　平成24年度自学自習計画書（電子デバイス特論））

資料５－６－①－６

（様式 - 専自２）　　平成２４年度の実施報告

【教科名】　電子デバイス特論　Advanced Electronic Devices

学年	専攻	単位数	期間	開設週数	学校授業時間		自学自習時間		総時間
					時間/週	総時間	時間/週	総時間	
2	生産工学	（選択）2	前期	15	2	30	4	60	90

【担当教員】加島　篤　　【教員室】3 号館 2 階　　【TEL】964-7277　　【e-mail】kajima@kct.ac.jp

【自学自習に関して、実施された内容を年度当初の予定と関連付けて記述下さい】

平成２３年度は、当初の予定通り５回の課題レポート（①液晶、②発光ダイオード、③半導体レーザー・光ファイバ、④半導体メモリ・光ディスク、⑤電池）の提出を求め、取組み状況をその都度確認した。学生たちがデバイスに関する情報を継続して収拾し、常に考える姿勢を持続するために、間隔を空けずに課題を与えることにした。

【自学自習の効果はどうであったか、どのようにお考えですか。改善を要する点があればご記入下さい】

最後の課題提示から最低２週間の準備期間を設けていることもあり、締め切りは厳守するよう求め、受講した全学生がきちんと提出してくれた。課題については、専門書や企業の技術レポートなどから引用した図を効率よく配置し、自らの意見を織り交ぜて論述した内容のあるレポートもあったが、他学生が集めた資料を慌てて編集したレポートもいくつかあった。最後のレポートに添えられた学生達の授業の感想にも、「レポート作成には苦労したが、先端的な技術動向や歴史的背景を自ら調べまとめることの重要性に気付かされた」という意見も多く、課題学習・自学自習はそれなりの効果があったと考えられる。

【自学自習の内容を成績の評価にどのように加味されましたか】

成績には、シラバスに記載した通り「レポートの評価」として自学自習の成果を評価し 90%に取り込んだ。

【備考】

（出典　平成24年度自学自習報告書（電子デバイス特論））

資料５－６－①－７

表　専攻科における学習指導法の工夫の例

	主たる教育目的	授業名	クラス	担当教員	学習指導方法の工夫	具体的内容
一般科目		英語Ⅰ	全1	大谷	情報機器の活用	英語音読／発音矯正ソフトウェアを活用した授業。
		英語Ⅱ	全2	山本(一)	情報機器の活用	e-Learningとテキストが連動した学習システムを活用した授業。
		文章表現論	全1	楠田	教授法の工夫，自己表現能力，アカデミックライティングの能力育成	文章や発表による自己表現能力の充実を図る。相互添削方式の導入（学生同士で互いの文章を添削しあうことで，新たな視点や表現を学ぶ。また，学生の学修意欲の向上になっている。），少人数グループでのプレゼン（学生の表現力の育成）。アカデミックライティングの学習。
		英語演習Ⅰ	全1	大谷	情報機器の活用	英語音読／発音矯正ソフトウェアを活用した授業。
		英語演習Ⅱ	全2	山本(一)	情報機器の活用	英語学習ソフトウェアを活用した授業。
		アジア地域論	全1	荒川	対話・討論型授業	個人発表・フロアからの発問・応答，教員からの総括等双方向形の授業を展開している。
専門基礎科目		現代物理学	全2	中村	教授法の工夫	平成23年度は，311の津波，その後の放射線事故への理解を緊急に深めるため，学生に進行予定の変更を充分説明した後，年次計画では，最後にする予定だった「放射線安全教育」の項目を先に行なうこととした。
		技術者倫理	全1	山本(正)	対話・討論型授業	講義に加え，討議・口頭発表などの機会を設けて，学生参加型の授業を行う。
		現代技術論	全2	脇山他	オムニバス形式講義	各専門学科が1回あたり3週の授業を担当し，配布資料や映像資料を基に専門外の学生にも興味が持てる内容で解説を行う。テーマにより，講義のほか，実習あるいは実験・実験装置の見学等を含めた形での授業を行う。
		複合工学実験	全1	種他	融合・複合実験	専攻に関わりなく技術者として経験しておくべき内容について，その基礎理論から実際の取扱いまでを「実験」を通して体験し，いろいろな分野の知識・手法を身につけ，「エンジニアリングデザイン能力」に必要な知識と技術の幅を広げる。
		固体力学Ⅰ	全1	種	教授法の工夫	学生自身による解答・解説の機会を設け，自主的な取組を推進する。
		材料科学	全2	竹原	情報機器の活用	自学自習の支援のため，授業資料，課題，小テスト，連絡等をWebClass上に公開した。
		固体力学Ⅱ	全2	内田	教授法の工夫	学生自身による解答・解説の機会を設け，自主的な取組を推進する。
		実践メカトロニクス工学（専攻科特論Ⅱ，Ⅲ）	全1,2		産学連携共同教育，教授法の工夫	企業との共同教育を行う。工場見学等も実施する。ロボットの実習についてはそれぞれのチームに分かれ，制御性能の向上をどのようにするか，また出身学科の違う学生同士，専門分野を補いながら実験を行い，互いに自学自習を行った。ブレーンストーミングを活用した学習。
		未来環境・エネルギー技術特論（専攻科特論Ⅳ）	全1,2		産学官連携共同教育	企業・大学・行政との共同教育を行う。工場見学等も実施する。
		知的財産関係（専攻科特論Ⅴ）	全1,2		産学連携共同教育	第一線の技術者，研究者による講義。
		英語による専門授業（専攻科特論Ⅶ）	全1,2		学学連系共同教育	大学・大学院の外国人講師による英語での専門授業。
専門科目		生産加工学	生1	浅尾	情報機器の活用，教材の工夫	課題に沿って3次元CADによる形状設計からCAMによる工具経路生成，さらにはDNCを利用した形状加工までを実習する。
		材料強度学特論	生2	内田	教授法の工夫，討論型授業，情報機器の活用	学生自身による解答・解説・ディスカッションの機会を設ける。Webラーニング教材の活用。
		生産設計工学特論	生2	入江	情報機器の活用	三次元CADおよびそれに連動したCAEソフトを活用し，設計から解析までを行う。
		電磁アクチュエータ	制2	中島	教授法の工夫（対話・討論型授業）	グループ学習。グループごとに学んだ内容を他のグループに説明することで，より深い理解を促す。
		シミュレーション工学	制1	樫村	情報機器の活用	コンピュータを用いて種々の工学問題を模擬する際の問題点について学ぶ。
		知識情報処理	制1	脇山	情報機器の活用	パワーポイントを用いたe-Learning 方式で行う。小テストをWeb形式で行う。
		ディジタル画像解析	制2	安信	情報機器の活用	プログラム作成
		計算幾何学	制2	山内	情報機器の活用	プログラム作成
		応用微生物学	物2	水野	教授法の工夫	学生が選択した課題についてプレゼンテーションを行う。
		輪講	全1,2		対話型授業	学生が取組む特別研究に関する英語の参考文献などを読み，その内容について指導教員とディスカッションを行う。
		特別研究	全1,2		卒業研究	指導教員とディスカッションしながら研究に関する計画，実践，まとめ等を行い，2年間にわたる研究の成果を計画的に「特別研究論文」としてまとめる。また，公開発表会等でプレゼンテーションを行う。

幅広い工学基礎と創造的技術開発力の修得
国際社会で尊敬され，信頼される国際センスの修得
地球にやさしい技術を展開できる心豊かな人間性の涵養

（出典　平成25年度シラバス，平成23年度自学自習報告書，専攻科特論授業案内より抽出）

観点５－６－②：　教育課程の編成の趣旨に沿って、シラバスが作成され、事前に行う準備学習、教育方法や内容、達成目標と評価方法の明示等、内容が適切に整備され、活用されているか。

（観点に係る状況）

教育理念と３つの教育目的を実現するための教育課程を編成している。各授業科目は，一般科目，専門基礎科目及び専攻別専門科目の３種類に分類できる。一般科目では，語学及び社会・環境との関わりについて学び，専門基礎科目では，工学に共通な基礎知識と複数分野の工学知識を学ぶ（資料５－６－②－１）。専攻別専門科目では，専門知識と実践的技術を学ぶ。また，全ての科目は，教育目標とその下の小項目に系統的に関連付けられている（資料５－６－①－２）。シラバスでは，以上の教育課程の編成，科目の分類と位置付け等を記載している。各科目のページには，事前に行う準備学習等必要項目を漏れなく記載している（資料５－６－②－２）。さらに，各科目の年間を通しての学習内容の把握と自学自習の点検，及び予習復習に役立てるため，月割表とチェックリストを作成している（資料５－６－②－３，４）。シラバス，月割表及びチェックリストは，講義室に常備すると共にウェブサイトで公開し，さらに，シラバスは入学時に全新入生に配布している。

シラバスの活用については，授業アンケートで調査を行っている。その結果，４段階評価で３以上の結果が得られており（資料５－６－②－５，６），教員及び学生がシラバスを活用していると言える。

１単位の履修時間は授業時間以外の学修等を合わせて45時間であることを，シラバス，専攻科履修要覧に明示している（資料５－６－②－１）。また，入学前に専攻科入学予定者全員に対し，専攻科主事とJABEE・認証評価委員長が，１単位の履修時間の規定と自学自習が必須であることを説明している。さらに，授業担当教員は，科目のシラバス中に自学自習の指導方針を記載し（資料５－６－②－２），自学自習計画書と自学自習報告書を作成している（資料５－６－①－５，６）。いずれも専攻科委員会が内容を確認している。

（分析結果とその根拠理由）

教育課程の編成，事前に行う準備学習等必要事項を記載したシラバスを整備している。また，本校独自のシステムである月割表とチェックリストも整備している。学生と教員共にシラバスをよく活用している。授業時間以外の学修の必要性については，シラバス，履修要覧に示すと共に，専攻科主事等がオリエンテーションで説明している。さらに，授業担当教員が自学自習を促す取組を計画し実践している。自学自習の計画書と報告書により，これらの取組を学校としても把握している。

資料５－６－②－１

A　技術内容の高度化に対応できる基礎学力（数学、自然科学、情報）と自己学習能力を持つ技術者
B　専攻分野の「生産」に関わる専門知識を身に付けた技術者
C　専門工学知識の上に「生産」に関わる実践的技術を身に付けた技術者
D　幅広い視野から問題を捉え、複数分野の工学知識・技術を有機的に結び付け、総合的に問題を解決する素養(デザイン能力)を有する技術者
E　多様な文化を理解する能力を持ち、日本語および外国語によるコミュニケーション能力を有する技術者
F　歴史・文化・社会に関する教養と頑健な心身を持ち、技術の社会・環境との関わりを考えることのできる技術者

について、その達成の最終段階の勉学に励んでもらうこととなります。

専攻科で学ぶ意義を考えると、まず、準学士課程で学んだ知識や技能をさらに深めることが挙げられましょう。しかし、ここで見落としてはならないことがあります。現在の工業技術は、多くの分野を総合した形で成立しています。従って、各自の専門分野についての学習を深めることは、それはそれで大切なことですが、それだけでは十分ではありません。上記の目標 D について、よく考えて下さい。さらに視野を広げると、目標 E に語学力があり、F には社会・環境との関わりに関する学習が掲げられています。

本校の専攻科科目は、一般科目、専門基礎科目、各専攻の専門科目の３種類に大別できます。一般科目は、語学および社会・環境との関わりに関する学習を主な目的として設けたものです。専門基礎科目は、工学に共通な基礎知識および複数分野の工学知識の学習を目的としています。専門基礎科目のうち、技術者倫理、現代技術論の内容には、社会・環境との関わりに関する学習も含まれています。これらの科目を有効に利用し、幅広い視野から問題を捉えるセンスを磨いて下さい。

６．自学自習について

専攻科科目の単位は大学と同じで、45 時間の学修をもって 1 単位と規定されています。ここで注意したいのは、この 45 時間には自学自習の時間が含まれているということです。例えば、講義科目の多くは 2 単位なのに授業は 30 時間しかありません。この場合は、授業以外に 60 時間の自学自習が義務づけられていて、それも含めた合計 90 時間の学修で 2 単位が与えられるのです。

このように、専攻科科目の学修には、基本的に自学自習が要求されています。今年度のシラバスでは、専攻科の各授業科目(実験科目は除く)について、学校授業時間、自学自習時間、総時間を表示しました。ぜひ、このシラバスを活用し、自学自習の時間まで良く考え

（出典　平成25年度シラバス）

資料５－６－②－２

【教科名】化学熱力学　Chemical Thermodynamics　＜H25＞

学年	専攻	単位数	期間	開設週数	学校授業時間		自学自習時間		総時間
					時間/週	総時間	時間/週	総時間	
2	物質化学工学専攻	（選択）2	前期	15	2	30	4	60	90

【担当教員】山根　大和　【教員室】　7 号館 2 階　【TEL】7307　【e-mail】hyamane

【授業目的と概要】

本講義では、化学への応用を念頭に置いて、それに必要なだけの熱力学を説明した後、これに反応を中心とする化学の問題にいかに結び付けるか、いかに活用するかを、簡潔に解説する。物理化学で学習する化学熱力学を学習することで、化学への応用を目的として熱力学の概念を身に付ける。

教育方法

準備学習

【授業の進め方及び履修上の注意】

本科で学習した「物理化学」の熱力学の内容を理解しておくこと。テキストに従い章毎にポイントとなる例題の解説を行い、反復演習を進めていく。例題及び課題は、単に解くだけではなく、自ら考え会得すべき内容である。理解度の確認のため中間試験を実施する。

教育方法

【自学自習の指導について】

数回、課題のレポート提出を求める。化学熱力学では、エンタルピー、エントロピー、ギブスエネルギーの変化、平衡定数等を数値として取り扱うので、計算問題及び活用すべき数式に習熟すること。

授　業　項　目	内　　容	時間
【前期】	内容	
第 1 週　熱力学とは		2
第 2 週　熱力学第 1 法則	・内部エネルギー変化の計算	2
第 3 週　同上	・標準生成エンタルピー	2
第 4 週　熱力学第 2 法則	・可逆熱機関の仕事効率	2
第 5 週　同上	・カルノーサイクル	2
第 6 週　エントロピー	・エントロピー	2
第 7 週　同上	・不可逆変化とエントロピー	2
中間試験		
第 8 週　自由エネルギーと純物質の相平衡	・自由エネルギーの計算	2
第 9 週　同上		2
第 10 週　多成分系の相平衡	・相平衡	2
第 11 週　溶液の熱力学	・部分モル量	2
第 12 週　化学平衡	・平衡定数の計算	2
第 13 週　同上	・平衡定数の温度依存性	2
第 14 週　電解質溶液と電池	・電解質溶液	2
第 15 週　同上	・起電力の計算	2
定期試験		

【達成目標】

達成目標

・内部エネルギー、熱力学第一法則が理解できる。
・エントロピー概念、熱力学第二法則、熱力学第三法則が理解できる。
・自由エネルギーと相転移の関係が理解できる。
・相図と相律の関係が理解できる。
・電極反応、電池反応、標準電池電位、平衡定数が理解できる。
・熱力学を化学への応用として活用できる。

【教科書】
化学熱力学　新訂版、サイエンス社、渡辺啓著

【参考書】
演習　化学熱力学、サイエンス社、渡辺啓著

JABEE 教育目標	(B)①②,　(C)①
専攻科課程目標	(B)①②,　(C)①

成績評価

【評価基準】
・熱力学の基本概念を十分に理解していること。
・達成目標に対する理解度を下記の評価方法で総合評価し、60 点以上を合格とする。

評価方法

【評価方法】
中間試験・定期試験 60%、演習問題及びレポート 40%

【オフィスアワー】
放課後

（出典　平成25年度シラバス（化学熱力学））

資料５－６－②－３

科目内容月割表　生産工学専攻　1年・2年　専門選択科目

科目	生産加工学	燃焼工学	流れ学特論	材料強度学特論	熱流動工学	生産設計工学特論	電磁気特論	電気電子回路特論	電子デバイス特論	メカトロニクス特論	気体プラズマ特論	特別実習
担当	須尾	平島	中山	内田	笠尾	檜垣	小坂	田中	加島	田中	小坂	平島、田中
4月	自動車の製造技術指針にお け る ニ ー マ ン イ ン ターフェースの設計思想			理論的へき開・せん断強度、固体の構造と強度、弾性論の基礎式	流体の流れ 層流、乱流、粘性および圧力損失		電界、クーロンの法則、電位		液晶デバイス、発光ダイオード			企業の生産現場や研究部門などで実習を行う。 実習は原則として夏季休業中に行うものとし、実習に従事する実日数は10日以上のこと。ただし、原則数の90には報告書等の作成時間を含む。）
5月	工作機械、工具、制御装置の発達が現在の生産加工に及ぼす影響			応力集中係数、応力拡大係数、演習問題、グリフィス理論、エネルギー解放率	熱伝導および熱伝達の基礎 熱伝導方程式、熱伝達率 および熱通過率		静電容量、静電エネルギー、誘電体		半導体レーザー、光ファイバ			
6月	軸受の種類、構造、潤滑方法			表裏半端塑性域の大きさと形状、中間試験、金属材料の強さ、破断面形状、き裂進展と破壊力学	対流熱伝達、粘性流、平板に沿う層流境界層	定常電流、ばねサバールの法則、偏回微分			磁気記録、光ディスク			企業などにおける実習を行い、企業等の生産現場や研究部門などで、実践的知識・技術を習得する。 実習日誌、実習報告書を作成し学科長に提出する。 ・実習先は必ずしも希望には沿えない場合がある。 ・実習先決定のためには学校側の作成する募集内容の理解が必要なので、報告書の作成やプレゼンテーションについては実習先の担当者と相談し、報告内容について了解を得ること。
7月	金型について、射出成形機と金型の関係、金型の構造と構造			金属材料の疲労破壊、高分子材料の力学的性質、高分子材料の強度と破壊	速度分布、運動方程式 エネルギー方程式	電磁誘導、変位電流			半導体メモリ			
9月	CADにおける金型設計、工具経路と加工精度の関係、CAMによる加工用工具経路生成、マシニングセンタによる金型のNC加工			複合材の強度、破壊特性の複合則、 演習問題、破壊力学の具体的な応用例	温度境界層　摩擦係数と熱伝達率 円管内の層流および乱流熱伝達	フックの法則の方程式、電磁波の方程式（インディングベクトル			一次電池、二次電池			
10月		燃焼の基礎 ・燃焼反応と熱の発生	静止流体 （流体、状態量、大気） ベルヌーイの定理 （流線、定理、運動方程式）		流れ問題の定義 逆問題の定式化			2端子対回路網構論		メカトロニクス概論　（特長、構成要素）	自然界のプラズマ （太陽、地球近傍のプラズマ現象、雷）	
11月		炭化水素の燃焼 ・理論空気量 ・低位・高位発熱量 ・燃焼温度と燃焼速度	運動量の法則 （運動量の法則と　その応用） 粘性 （境界層　はく離、乱遷）		不連続問題 逆問題解析手法			4端子回路網　（抵抗減衰回路、定K形フィルタ）		システムの表現（伝達関数、周波数応答系の安定性、ステップ応答）	プラズマの生成、平均自由行程、各種速度分布関数、各種速度	
12月		熱から仕事への変換 ・内燃機関の基本サイクル ・熱発生率	圧縮性流体 （圧力伝ぱ、衝撃波、物体を通ぎる流れ）		静弾性逆問題 最適化手法			ひずみ波回路　（フーリエ級数展開、電力）		アクチュエータ（油圧式、電気式） センサ（力）位置、速度）	荷電粒子の運動、各種ドリフト速度 プラズマの平衡・安定	
1月		内燃機関の燃焼 ・SIエンジンの燃焼 ・CIエンジンの燃焼	圧縮性流体 高温気体			CAEの概要、 形状モデルによるCAEマトリクス解析			過渡現象（交流入力、パルス入力）	駆動回路 （AC/DC/DC/DC/AC/DC電力変換回路）	流体方程式 プラズマの輸送係数、プラズマの閉じ込め	
2月		熱機関と環境問題 ・気体燃機関による大気汚染問題	翼（翼理論、超音速翼）			平板の有限要素解析 数理モデルによるCAE			分布定数回路　（基礎方程式、伝搬定数）	フィードバック制御系の解析・設計	核融合反応、 プラズマの応用	
備考	本科で学習した「工作実習」「機械加工学」「精密加工」を基礎として、それらを総合して応用する。		平成18年度より、新規開講。	金属材料、高分子材料の力学的性質を理解する。中間試験と定期試験を行い、演習は学生が発表・解説する。		設計概念の具構築を狙って形状折と形状モデリングを理解させ、CAE演習の学習効果を構築にする。						自然界のプラズマ現象の観察などに応用の観点を置いたプラズマが現代技術に密接に関連していることを示す

（出典　北九州工業高等専門学校ウェブサイト）

資料５－６－②－４

電子デバイス特論　チェックリスト	
基礎事項	チェック項目
液晶表示デバイス	基礎１）液晶とはどのような物質か 基礎２）電磁波としての光の性質と液晶の旋光性について説明せよ 基礎３）液晶表示デバイスの構造と動作原理を説明せよ 発展１）液晶デバイスによるカラー表示の原理を調べよ 発展２）ブラウン管、プラズマ表示パネルなど液晶以外の画像表示装置の構造と動作原理を調べよ。
半導体発光素子	基礎１）半導体の基本的性質（バンド構造、自由電子、ホール、拡散、ドリフト、不純物、ＰＮ接合など）を理解しているか 基礎２）化合物半導体とは何か 基礎３）半導体におけるキャリアの再結合と発光について説明せよ 基礎４）発光ダイオード（ＬＥＤ）の構造と発光の原理を説明せよ 基礎５）半導体レーザー（ＬＤ）の構造とレーザー発振の原理を説明せよ 発展１）ＬＥＤやＬＤの身近な応用例について調べよ 発展２）白熱電球や蛍光灯、ネオン放電管など、電気照明の原理やその歴史について調べよ
光ファイバ	基礎１）光の屈折や反射に関するSnellの法則とは何か 基礎２）光ファイバーの構造と全反射による光伝送の原理を解説せよ 基礎３）低損失光ファイバの製造方法を解説せよ 発展１）光ファイバの応用例を調べよ 発展２）光を用いた通信の歴史を調べよ
半導体メモリ	基礎１）データ記録方式におけるシーケンシャルとランダムアクセスの違いを説明せよ 基礎２）マイコン回路におけるＲＯＭとＲＡＭの機能の違いを説明せよ 基礎３）マスクＲＯＭ、ＰＲＯＭ、ＥＥＰＲＯＭ、フラッシュなど不揮発性メモリの構造と動作原理を解説せよ 基礎４）ＤＲＡＭ、ＳＲＡＭなど揮発性メモリの構造と動作原理を解説せよ 発展　）ＵＳＢメモリやデジカメ用メモリなど、フラッシュメモリを応用した電子デバイスについて調べよ

（出典　北九州工業高等専門学校ウェブサイト）

資料５－６－②－５

授業アンケート（座学・演習）

授業は教員と学生が一緒になって作るものです。教員は日頃から授業に対する皆さんの取り組みや反応に注意していますが、改めてアンケートの形で皆さんの考えを尋ねたいと思います。協力をお願いします。

以下の（1）～（24）の質問について、あなたの感じていることに近い数字（1.～4.）を一つ選んでマークシートの解答欄にマークしてください。

［１］ 学生の授業に対する取り組みについて

（1） シラバスは科目内容を理解する上で役に立ちましたか	1	全く役立たなかった	2	あまり役立たなかった	3	ある程度役立った	4 十分役立った
（2） 授業中、私語をする、居眠りする、ほかの科目のことをするなどせずに授業へ集中するように取り組みましたか。	1	全く取り組まなかった	2	あまり取り組まなかった	3	ある程度取り組んだ	4 十分取り組んだ
（3）講義内容についての質問や発言を積極的にするようになりましたか。（オフィスアワーを含む）	1	ほとんどならなかった	2	あまりならなかった	3	少しはなった	4 積極的になった
（4）この科目に興味が出てきましたか。	1	全く興味が出てこない	2	あまり興味が出てこない	3	ある程度興味がでてきた	4 非常に興味が出てきた、または最初から興味を持っていた
（5）この授業の進み方について行けるようになりましたか。	1	全くついていけない	2	あまりついていけない	3	ある程度ついていける	4 十分ついていけるようになった、または最初からついて行けた
（6）この科目のシラバスに記されている達成目標を達成できそうですか。	1	全く達成できそうにない	2	あまり達成できそうにない	3	ある程度達成できそうである	4 十分に達成できそうである
（7）この授業で出されたレポートや課題にきちんと取り組むようになりましたか。	1	全くなっていない	2	あまりなっていない	3	ある程度なってきた	4 取り組むようになった、または最初からきちんと取り組んでいる
（8）この科目について、教員に要求されたこと以外に自主的に予習・復習をするようになりましたか。	1	全くしていない	2	あまりしていない	3	ある程度はするようになった	4 するようになった、または最初からしている
（9）定期試験や小テストの勉強を積極的にするようになりましたか。	1	全くしていない	2	あまりしていない	3	ある程度はするようになった	4 するようになった、または最初からしている
（10）あなたから見て、この科目でのクラス全体の受講態度は変わりましたか。	1	非常に悪くなった	2	悪くなった	3	まあまあ良くなってきた	4 良くなった、または最初から良い

［２］ 教員の取り組みについて

（11）シラバス等を用いて授業の内容、年間計画、学習方法、また成績評価に関する説明がどの程度されましたか。	1	全くされなかった	2	あまりされなかった	3	ある程度された	4 十分された
（12）授業はシラバス通りに実施されましたか。	1	全くされなかった	2	あまりされなかった	3	ある程度された	4 十分された

（以下略）

（出典　授業アンケート質問用紙）

資料５－６－②－６

	問1 シラバスは科目内容を理解する上で役に立ちましたか。	問11 シラバス等を用いて授業の内容，年間計画，学習方法，また成績評価に関する説明がどの程度なされましたか。
1年	3.09	3.42
2年	3.09	3.19

（出典　平成23年度アンケート集計結果より）

観点５－６－③：　創造性を育む教育方法の工夫が図られているか。また、インターンシップの活用が図られているか。

（観点に係る状況）

創造性を育む教育の中心は，特別研究Ⅰ，Ⅱと複合工学実験である。特別研究で学生は，１つの課題に対し，身に付けた専門工学知識を統合して問題を把握し，解決のための調査や実験を遂行し，結果を導き出し，それらの結果を報告する一連の取組を行っている（資料５－６－③－１）。複合工学実験では，専攻に関わりなく経験しておくべき５つの内容について基礎理論から実践までを学ぶ中で，創造性の育成を図っている（資料５－６－①－３）。

特別実習（インターンシップ）に関しては，開講時期の延長，公益財団法人北九州活性化協議会との連携による受入企業の開拓等を行っている（資料５－５－③－５，７）。また，平成24年度には，専攻科生２名が高専機構の海外インターンシッププログラムに参加した（資料５－６－③－２）。このほかの実践的教育としては，平成20年度から産学官連携共同教育（実践メカトロニクス工学）を開始し，現在は，「未来環境・エネルギー技術特論」と「知的財産関係」を合わせて３科目の産学官連携共同教育を実施している（資料５－５－③－２～４）。

（分析結果とその根拠理由）

特別研究Ⅰ，Ⅱと複合工学実験で，創造性を育む実践的な教育を行っている。インターンシップについては，特別実習の開講時期を拡大すると共に受入企業の開拓も積極的に行っている。また，高専機構の海外インターンシッププログラムにも派遣している。従って，インターンシップの活用が大いに図られている。平成20年度という全国的にも早い時期から，産学官連携共同教育を実施し，実践的教育を先駆的に行っている。

資料５－６－③－１

【教科名】生産工学特別研究Ⅰ，Ⅱ　　Thesis Research Ⅰ，Ⅱ　　＜H25＞

学年	専攻	単位数	期間	開設週数	時間/週	総時間
1	生産工学専攻	（必修）4	通年	30	6	180
2	生産工学専攻	（必修）6	通年	30	前 8、後 10	270

【担当教員】特別研究担当教員　　【教員室】3 号館 2 階　他　　【TEL】　　【e-mail】

【授業目的と概要】

専攻科の専門科目・専門基礎科目を担当する教員の指導のもとで「生産工学特別研究」を通して、実験などを計画し遂行する能力、実験などの結果を整理し考察する能力、機械系・電気系の専門知識と技術を統合し問題解決に応用できる能力、日本語による記述・発表能力、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力、自主的・継続的に学習できる能力などを身につけることを目的とする。

【授業の進め方及び履修上の注意】

指導教員とディスカッションしながら研究に関する計画、実践、まとめ等を行い、２年間にわたる研究の成果を計画的に「特別研究論文」としてまとめる。その間に、特別研究Ⅰ（１年次）では２回の中間発表会での研究経過報告、特別研究Ⅱ（２年次）では中間発表会での研究経過報告ならびに公開発表会での研究成果報告を行う。さらに、学会発表・論文投稿を推奨し指導することにより、問題解決能力を養成する。なお、特別研究Ⅱの履修には、特別研究Ⅰが合格であることが条件である。

授　業　項　目	内　　容	時間
（平島　繁紀） ・直接放電方式の適用による排気ガスと燃焼に及ぼす影響	ピストンへ直接放電させる点火方式により、スパークギャップの拡大を図り、このことによるガソリンエンジンの燃焼特性の改善効果について考察を行う。	450
（中山　博喜）		

（中略）

（松本圭司） ・生体信号を利用した室内環境制御装置の開発	脳波や血流などの様々な生体信号を採取して被験者の状態を把握し、快適な室内空間を被験者に提供する装置の研究・開発を行う。	

【達成目標】
- 研究目的・内容を理解し、実験などを計画し遂行できる。
- 実験などの結果を整理・解析し、考察できる。
- 研究内容における問題点を把握し、自主的・継続的な学習を通して解決策の提案ができる。
- 論理的な記述により、研究内容を中間報告概要・論文としてまとめることができる。
- 研究内容や研究成果を効果的な手法によりプレゼンテーションし、質問に対して的確に回答できる。

【教科書】
指定なし

【参考書】
指導教員に相談のこと

JABEE 教育目標	特別研究Ⅰ：	(C)②③,　(D)①③④,　(E)②,　(F)②
	特別研究Ⅱ：	(C)②③④, (D)①③④⑤, (E)②④, (F)②
専攻科課程目標	特別研究Ⅰ：	(C)②③,　(D)①③④,　(E)②,　(F)②
	特別研究Ⅱ：	(C)②③④, (D)①③④⑤, (E)②④, (F)②

成績評価

【評価基準】
評価方法に従って理解度（達成度）を総合的に確認し、評点 60 点以上を合格とする。

【評価方法】
指導教員の評価点 60%と、全教員による発表会での評価点 40%で総合評価する。

【オフィスアワー】
時間割で指定された特別研究の時間および　平日の放課後

（出典　平成25年度シラバス（生産工学特別研究Ⅰ，Ⅱ）

資料５－６－③－２

表　海外インターンシップ派遣実積

	専攻，学年	期間（移動日含む）	受入企業	派遣先
平成24年度	生産工学専攻1年	2013.3.3-24	前田建設工業株式会社	香港
	生産工学専攻1年	2013.3.2-25	オーエスジー株式会社	台湾
平成20年度	物質化学工学専攻1年	2009.3.7-28	三井化学株式会社	シンガポール

（出典　教務係資料から作成）

観点５－７－①：　教育の目的に照らして、教養教育や研究指導が適切に行われているか。

（観点に係る状況）

３つの教育目的の中にある幅広い工学基礎，国際センス及び心豊かな人間性が，現代の技術者として必要な教養である。これらを身に付けるための主要な科目は，専門基礎科目，語学と社会系科目，技術者倫理と現代技術論である（資料５－７－①－１，２）。また，「エネルギー論」で学ぶ原子力や世界のエネルギー事情等，「工業化学」で学ぶ公害と環境保全，地球温暖化等もこれからの技術者にとっては必要な教養と考えられる（資料５－７－①－３，４）。従って，新しい時代に即した適切な教養教育が実施されている。

研究指導については，教育目的「幅広い工学基礎を持った創造的技術開発力の修得」を達成するため，特別研究Ⅰ，Ⅱを行う（資料５－６－③－１）。特別研究での指導方針は，与えられたテーマに対して，身に付けた専門工学知識を統合して問題を把握し，解決のための調査や実験を遂行し，結果を導き出し，それらの結果を報告する一連の取組を行うことで教育目的・教育目標を達成することである。そのため，学生一人一人に課題（テーマ）を与え，装置やソフトウェア，材料，生産プロセス等の設計・製作・改良，手法の検討・改良・開発等を通じて，課題に対する何らかの結果を導き出させ，それらの結果を報告させている。

特別研究Ⅰ，Ⅱ共に年に２回以上の口頭発表会を実施する（資料５－７－①－５，６）。特別研究Ⅱの最終発表会は，大学，企業等の関係者を招いた公開発表会になっている。特別研究の評価は，日頃の取組を指導教員が，発表内容・質疑応答と論文を複数教員で評価し，成績の総合判定を行う。

研究指導には，博士の学位を有し大学評価・学位授与機構の審査に合格した教員があたる。また，技術職員も工作機械の操作指導や実験装置の試作等の面で，研究指導に貢献している（資料５－７－①－７）。

専攻科の２年間で，６割以上の学生が，研究報告，論文，学会等で研究成果を報告している（資料５－７－①－８）。この中には国際学会や競技会で受賞する学生もいる（資料５－７－①－９）。また平成24年度には，物質化学工学専攻２年生が日本高専学会論文奨励賞最優秀賞を受賞した（資料５－７－①－10：別添資料）。従って，学生は専攻科の研究にふさわしいテーマに取組み，ふさわしい研究指導がなされていると言える。

（分析結果とその根拠理由）

技術者倫理をはじめとする複数の一般科目で教養教育を行っている。さらに，現代の様々な問題

に関して，技術者として身に付けておくべき教養について，専門基礎科目で教育している。研究については，多くの学生が学会発表等に資するレベルの研究に取組んでいる。また，国内外の学会で発表したり，研究成果を活かした各種競技会で受賞する学生も多い。従って，適切な研究指導が行われている。

資料５－７－①－１

【教科名】技術者倫理　　Ethics for Engineers　　＜H25＞

学年	専攻	単位数	期間	開設週数	学校授業時間		自学自習時間		総時間
					時間/週	総時間	時間/週	総時間	
1	全工学専攻	（必修）2	後期	15	2	30	4	60	90

【担当教員】山本　正治【教員室】非常勤講師室　【TEL】8243(内線)　【e-mail】masaharu@beetle.ocn.ne.jp

【授業目的と概要】

1. 基本的な知識を身につける。
（倫理学の基礎概念、リスク概念、倫理綱領等）
2. 倫理的問題について理解でき、指摘できる。
3. 情報を収集・整理して、問題を分析できる。
4. 問題を解決するための選択肢を提示できる。
5. 自分なりの視点から問題解決の方法を選択することができる。

【授業の進め方及び履修上の注意】

講義に加え、討議・口頭発表などの機会を与え、学生参加型の授業を行う。レポート課題を適宜出す。

【自学自習の指導について】

復習・レポート作成などの他、自ら倫理問題への関心を模索させ、技術者倫理の観点から考察する習慣をつける。

授　業　項　目	内　　容	時間
【後期】		
① 技術者倫理の背景	倫理とは、技術者とは（講義：技術者倫理）	2
② 倫理問題を考える	科学技術がもたらす倫理問題（講義および討議：チヤレンジヤー事故）	2
③ 倫理的判断の方法	功利主義と義務論，倫理的判断の障害（講義：フオード・ピント事件）	2
④ 倫理綱領とＰＬ法	学会や団体の倫理規定、ＰＬ法の背景（講義）	2
⑤ リスク、安全(1)	科学技術と社会への影響（日航機墜落事故、アロハ航空事故）	2
⑥ リスク、安全(2)	技術者の責任：予見可能性とリスク（講義：シティコープ事件、原発事故）	2
⑦ リスクマネジメント(1)	（事例研究および討議：六本木ヒルズ回転ドアー事件、失敗学）	2
⑧ リスクマネジメント(2)	（討論）（事例を使った討議）	2
⑨⑩ 雇用関係における技術者の責任	（事例研究）（知的財産権）	2
	（討論）（事例を使った討議）	2
⑪⑫ 被用者の責任と公衆への責任	（事例研究）（雪印乳業中毒事件、カネミ油症事件）	2
	（討論）（事例を使った討議）	2
⑬⑭ 倫理問題と管理	工程管理における倫理問題（検討および討議:JCO 事故、航空事故）	
	施工管理における倫理問題	2
	（検討および討議：原発コンクリート事故、新幹線トンネル事故）	2
⑮ 技術者の責任と倫理(総括)	（講義）公衆の安全、技術開発、コンプライアンス	2

【達成目標】

・事例研究から科学・技術の共通基礎的な知識を習得する。
・技術や技術者の行動が社会に与える影響を洞察・評価し、基本的な事項についてその結果を表現することができる。
・技術者の責任や行動規範などを理解し、表現することができる。

【教科書】

はじめての工学倫理、昭和堂、斉藤了文著

【参考書】

技術と倫理、電気書院、今村　遼平　著
失敗の科学、技術評論社、池田　圭一著

JABEE 教育目標　(A)①②，(F)①②③

専攻科課程目標　(A)①②，(F)①②③

成績評価

【評価基準】

（レポートの採点基準）
◇事例の選択が適当か。　◇問題点の分析が十分か。
◇倫理的問題，技術的・経営的問題が指摘できているか。
◇利害関係者に配慮できているか。
◇可能な選択肢が提示され、考慮されているか。
◇問題点に十分配慮し、かつ自分なりの結論を示しているか。

【評価方法】

レポート 100％
この基準により達成度を測り、60 点以上を合格とする。

【オフィスアワー】

授業時間前後の時間
（非常勤講師室）

（出典　平成25年度シラバス（技術者倫理））

資料５－７－①－２

【教科名】現代技術論　Advanced Technology & Science　＜H25＞

学年	専攻	単位数	期間	開設週数	学校授業時間		自学自習時間		総時間
					時間/週	総時間	時間/週	総時間	
2	全工学専攻	（必修）1	後期	15	2	30	1	15	45

【担当教員】脇山　正博　【教員室】8 号館 2 階　【TEL】7290　【e-mail】wakiyama

【授業目的と概要】めざましい発展を遂げている現代科学技術は、諸領域の学問分野を統合して進歩しており、各分野における技術の関連性が重要になってきている。すなわち、いろいろな専門分野における重要技術に関して、その歴史的意味・現代技術における位置付け・将来の展望を述べ、諸分野の技術動向に広く関心を持つ必要性が高まってきている。そこで、本科目では、学生各自の専攻以外の分野における技術の現状や問題点を把握し、広く技術動向に関心を抱かせることによって、客観的・複合的な視点から各自の専門領域を理解し、説明できる能力の育成を目的とする。

【授業の進め方及び履修上の注意】
各専門学科が１回あたり３週の授業を担当し、配布資料や映像資料を基に専門外の学生にも興味が持てる内容で解説を行う。テーマにより、講義のほか、実習あるいは実験・実験装置の見学等を含めた形での授業を行う。 学生には自主的に取り組むことが要求される。

【自学自習の指導について】
インターネットや文献等でテーマに関連した技術内容を調べる。

授　業　項　目	内　　容	時間
【後期】 システム制御技術 （滝本隆）	自動車も工作機械もロボットも家電も制御技術がなければその機能を発揮することは出来ない。「制御なくして機械なし」はすでに工学では当然の事実として受け入れられている。このような社会基盤を支える制御技術の歩みを概観する。さらに、近年のシステム制御技術の動向を紹介する。	6
北九州・筑豊地域の電気技術史 （加島　篤）	明治以降、交通の要衝で日本を代表する工業地帯として発展した北九州市や日本最大の産炭地であった筑豊には、多くの電気技術が投入・集積され日本の近代化を支えた。鉄道電化や石炭火力発電に関する地域の電気技術史を概説し、その歴史的意味と現代技術との関連を学ぶ。	6
学習システムとパターン認識 （井田利浩）	例えば、人間は外界を認知する能力として視点変化に対する不変認識能力を持つが、このような柔軟認識をコンピュータで実現するためにはどのようなことを考える必要があるのか、幾つかの学習システムを例に解説する。	6
情報セキュリティ （脇山正博）	IT 社会の情報の光と影の部分について講義し、情報について考え、そして情報セキュリティ技術の一つであるステガノグラフィ技術について講義を行う。	6
科学技術と環境問題 （山田憲二）	環境問題の現状、化学物質と環境問題、エネルギー資源と環境、環境問題と技術開発、リサイクル技術開発、光エネルギーの利用技術の開発（例として光触媒、太陽電池の開発）について学習する。	6

【達成目標】
・専門外領域の技術の成立ち・現状などが把握できる。
・専門外領域の技術の現状・問題点・将来展望などから、専門分野での適用などの可能性について考察ができる。
・技術と社会・環境との関わり、技術者の役割を認識できる。
・専門外領域に関連した課題に取組み、専門分野との関連などを含めて内容を的確にまとめることができる。

【教科書】
各テーマ担当者作成の資料

【参考書】
適宜、担当教員から紹介される

JABEE 教育目標	(A)②, (D)①②, (E)②, (F)②③
専攻科課程目標	(A)②, (D)①②, (E)②, (F)②③

成	【評価基準】理解度（達成度）を総合的に判断し、評点 60 点以上	【オフィスアワー】

（出典　平成25年度シラバス（現代技術論））

資料５－７－①－３

【教科名】エネルギー論　Energetics　＜H25＞

学年	専攻	単位数	期間	開設週数	学校授業時間		自学自習時間		総時間
					時間/週	総時間	時間/週	総時間	
1	全工学専攻	（必修）2	前期	15	2	30	4	60	90

【担当教員】宮内 真人　【教員室】 1号館 2階　【TEL】7253　【e-mail】miyauchi

【授業目的と概要】

力学(質点、質点系、剛体)の知識の定着を図る。

運動を、作用積分の変分という形で捉え、ラグランジアン、ハミルトニアン、正準変数などを説明する。

物理現象の原理の統一的な捉え方が可能であることを理解する。

化石エネルギー・再生可能エネルギー・原子力エネルギーの違いや、原子力エネルギーは、放射線、原子燃料サイクルや放射性廃棄物などを説明する。

【授業の進め方及び履修上の注意】

最初に講義内容の目的と意義を説明する。テーマごとに物理的な意義を理解し、相互の関連性に留意させる。

質問を多くして、関心と理解力の向上を図る。

演習、レポート等を取り入れ、実力をつけるように配慮する。

【自学自習の指導について】

・運動方程式の意味と解法になれること。

・解析力学は、物理現象の原理の統一的な捉え方が可能であることを理解すること。

・世界のエネルギー状況(化石エネルギー・再生可能エネルギー・原子力エネルギー)について理解すること。

授　業　項　目	内　　容	時間
【前期】		
力学	力学の原理(質点、質点系、剛体を含む)	8
解析力学	変分原理とラグランジアン （ハミルトンの原理、ラグランジュの運動方程式）	8
	ハミルトニアンと正準変数 （正準方程式、座標変換と正準変換、）	6
原子力	世界のエネルギー状況(化石エネルギー・再生可能エネルギー・原子力エネルギー)について	8
定期試験		

【達成目標】

・運動方程式の解法と意味がわかる。

・解析力学の意味と解法がわかる。

・世界のエネルギー状況について説明することが出来る。

・化石エネルギー・再生可能エネルギー・原子力エネルギーの違いが分かる。

・原子力エネルギーは、放射線、原子燃料サイクルや放射性廃棄物などの言葉が理解でき、説明することが出来る。

・物理現象の統一的な捉え方が出来る。

【教科書】

解析力学、久保著、裳華房

【参考書】

工業力学、青木・木谷著、森北出版

JABEE 教育目標	(A)①②
専攻科課程目標	(A)①②

【評価基準】　【オフィスアワー】

（出典　平成25年度シラバス（エネルギー論））

資料５－７－①－４

【教科名】工業化学　Industrial Chemistry　＜H25＞

学年	専攻	単位数	期間	開設週数	学校授業時間		自学自習時間		総時間
					時間/週	総時間	時間/週	総時間	
1	生産・制御工学専攻	(必修)1	前期	15	2	30	1	15	45

【担当教員】小畑　賢次　【教員室】　7 号館 2 階　【TEL】964-7245　【e-mail】obata

【授業目的と概要】

高専５年間の初期に一般化学を学習した化学関連学科卒業以外の学生を対象とするため、始めに化学及び化学工業の歴史について述べた後に、一般化学の復習を行いながら、資源，環境，エネルギーを軸として、無機化学、 有機・高分子化学分野の工業化学及び環境化学等について講義を行い、現在の化学工業が衣・食・住・医療・環境・情報にいかに関与しているかについて述べる。

【授業の進め方及び履修上の注意】

教科書を用いた一般化学の復習を行いながら、プリント等を用いて講義する。1, 2 年次の「化学」を復習しておくことにより授業内容をよく理解することができる。

【自学自習の指導について】

材料・物質の製造や性質等について課題を課し、レポートとして報告してもらう。

授　業　項　目	内　　容	時間
【前期】		
化学の歴史	化学の歴史について概説する。	2
公害と環境保全	日本４大公害とその対応策について概説する。	2
化学の基礎	化学の基礎事項について述べる。	4
無機化学	非金属材料、金属材料、燃料電池技術を主題として述べる。	8
中間試験		
有機・高分子化学	アルコール、セッケン、液晶ディスプレイ、熱硬化性・可塑性樹脂などを主題として述べる。	8
環境化学	地球温暖化、 酸性雨、光化学スモッグ、水質汚濁、都市公害とそれらへの対応の化学技術・工業について述べる。	6
定期試験		

【達成目標】

・物質や材料の化学構造や性質について説明できる。
・基本的な物質や材料の物質の製造方法について説明できる。
・環境問題に対する対応技術を説明できる。

【教科書】

新編 高専の化学 第２版，森北出版
春山志郎 監修，笹本忠，中村茂昭 編集

【参考書】

工業化学入門，オーム社
斉藤勝裕 編

JABEE 教育目標	(A)①, (B)①, (D)②
専攻科課程目標	(A)①, (B)①, (D)②

【評価基準】　【オフィスアワー】

（出典　平成25年度シラバス（工業化学））

資料５－７－①－５

目　　次

＜生産工学専攻・機械工学コース＞

小型熱音響機器の開発 ■■ ■■
３軸加工における加工誤差検証に関する研究 ■■ ■■
微風速で発電可能な風車の開発に関する研究 ■■ ■■
仮装基準を用いた工作機械の幾何誤差測定と加工誤差補正 ■■ ■■
垂直振動をうける粒子ダンパの制振予測 ■■ ■■
運転操作の異常検出法による次世代電動ビークルの開発 ■■ ■■
ハイブリッド型飛行観測システムの研究開発 ■■ ■■
異方性を考慮した岩盤の初期応力評価に関する研究 ■■ ■■

＜生産工学専攻・電気工学コース＞

無線センサーモジュールを用いた温度計測 ■■ ■■
生体信号を用いた室内環境制御装置の開発 ■■ ■■
熱フィラメントを用いたダイヤモンドの気相合成 ■■ ■■
マイクロプラズマジェットの発生機構に関する研究 ■■ ■■
鉄基強磁性酸化物薄膜の電気磁気効果における電極材料の影響に関する研究 ■■ ■■
インバータ励磁の電磁機器性能に及ぼす鉄心素材の影響 ■■ ■■
電着法を用いたTiO_2薄膜の作成と光触媒活性 ■■ ■■

＜制御工学専攻・電子制御工学コース＞

単眼カメラによる自己位置推定 ■■ ■■
風力選別機のシステム同定と制御 ■■ ■■
HMMに基づく文型推測システムの構築 ■■ ■■
肢体不自由者のための携帯端末用入力支援アプリの開発 ■■ ■■
絶縁体箔の厚さ自動制御 ■■ ■■
ファジィ推論による販売促進キャラクターデザイン推定システムの開発 ■■ ■■
LED照明用デジタル制御電源の開発 ■■ ■■
Kinectを用いた体操支援ソフトの開発 ■■ ■■
人間と計算機の協調による移動ロボット群の制御 ■■ ■■
FPGAを用いた画像処理装置の設計 ■■ ■■
AEセンサを用いた選別粒子衝突音の周波数解析 ■■ ■■
加速度センサを用いた置き引き置き忘れ防止システムの開発 ■■ ■■

＜制御工学専攻・制御情報工学コース＞

楽譜を歌い上げるロボットシステムの開発 ■■ ■■
多自由度リンク機構の大車輪運動に関する研究 ■■ ■■
無線LANを用いた電力可視化システムの開発 ■■ ■■
姿勢変化するシリアルリンクロボットの節を利用した振動抑制制御に関する研究 ■■ ■■
情報連携を可能とするサービスプラットフォームシステムの研究開発 ■■ ■■
タッチパネルを操作可能なワイヤ駆動式２指ハンドの開発 ■■ ■■
和文書を読み上げるロボットシステム ■■ ■■
集中系モデルを用いた非線形スロッシングのアクティブ制御 ■■ ■■
変動する外力場を想定した二足ロボットの動力学モデルの構築に関する研究 ■■ ■■
ベンチュリ管内のマイクロバブル生成過程の可視化に関する実験的研究 ■■ ■■

＜物質化学工学専攻＞

室温作動型固体電解質CO_2センサにおけるNO_2雰囲気の影響 ■■ ■■
BHJ型有機薄膜太陽電池の高効率化 ■■ ■■
医療用タンパク質生産のための高生産性ヒト細胞株の開発 ■■ ■■
抗原特異的ヒト型モノクローナル抗体の高効率取得法の開発 ■■ ■■
$Ca_4Bi_6O_{13}$へのSrのドープ効果 ■■ ■■
増感機能を付与した有機薄膜太陽電池の研究開発 ■■ ■■
中空糸型バイオリアクターによるシリコーン油の酸化分解 ■■ ■■
$Sr_2Bi_2O_5$粉体の調製とキャラクタリゼーション ■■ ■■
第一原理計算による$Ca_4Bi_6O_{13}$結晶の電子構造と光学特性 ■■ ■■
プラズマイオンプロセスによる多電子還元機能表面を持つ高感度可視光応答型光触媒の創製 ■■ ■■
高比表面積を持つ$Ca_4Bi_6O_{13}$粉体の調製方法の検討 ■■ ■■
有機酸錯体法による$CuBi_2O_4$の調製とキャラクタリゼーション ■■ ■■
中度好塩性細菌*Halomonas* sp. O-1のPHA合成酵素の解析 ■■ ■■
好塩性細菌のPHA合成酵素遺伝子のクローニング ■■ ■■
Li^+伝導体を用いた室温作動型ガスセンサの試作 ■■ ■■

（出典　平成24年度特別研究公開発表会要旨集）

資料５－７－①－６

平成 24 年度
北九州工業高等専門学校 専攻科
生産工学専攻 1 年生
（機械工学コース・電気工学コース）合同発表会
平成 25 年 2 月 15 日（金）

発表番号	タイトル	発表者（指導教員）	時間
101	プラスチック材料の片持ち回転曲げによる疲労挙動に関する研究	A1201 ■■■■（内田　武）	13:30 ～13:45
102	均一部材中に鈍角ノッチを有する場合の応力特異性	A1202 ■■■■（種　　健）	13:45 ～14:00
103	Quadrotor ヘリコプターによる無線観測システムの開発	A1203 ■■■■（滝本　隆）	14:00 ～14:15
104	ハイブリット型飛行観測システムの開発	A1204 ■■■■（滝本　隆）	14:15 ～14:30
時間調整（休憩：15 分）			
105	電磁鋼板における磁束重畳小ヒステリシスループのモデル	A1205 ■■■■（開道　力）	14:45 ～15:00
106	強誘電体 PZT の分極反転過程における非圧電性状態	A1206 ■■■■（油谷　英明	15:00 ～15:15
107	スターリングテクノラリー用パルス管冷凍機の開発	A1207 ■■■■（小清水　孝夫）	15:15 ～15:30
108	5 軸加工の構造に起因する加工誤差の検証	A1208 ■■■■（浅尾　晃通）	15:30 ～15:45

（出典　平成24年度第２回生産工学特別研究Ⅰ中間発表会（電気電子工学科会議資料））

資料５－７－①－７

【平成24年度】業 務 依 頼 書 表(研究関係)

番号	日 付	所 属	依頼者	依頼先グループ	業務区分	業 務 内 容	担当者
1	H24.4.9	制御情報工学科	山内 幸治	生産加工技術グループ	研究支援	アクリルを素材とするロボットマニピュレータの素材加工	上手
2	H24.4.17	機械工学科	種 健	生産加工技術グループ	研究支援	ねじり試験片の加工作製	北嶋
3	H24.4.17	機械工学科	種 健	生産加工技術グループ	研究支援	ねじり試験片の加工作製	北嶋
4	H24.4.20	機械工学科	井上 昌信	生産加工技術グループ	研究支援	(粒子ダンパ)実験用部品の製作	矢上
4	H24.5.2	電気電子工学科	小城 左臣	生産加工技術グループ	研究支援	卒業研究で使用する装置の部品加工	矢上
5	H24.5.9	電気電子工学科	小城 左臣	機器分析技術グループ	研究支援	卒業研究で使用する装置の部品加工	下窄
6	H24.5.17	制御情報工学科	浜松 弘	生産加工技術グループ	研究支援	卒業研究安全教育	竹内、北嶋、中村、上手
7	H24.5.18	機械工学科	井上 昌信	生産加工技術グループ	研究支援	振動実験用取付け治具の製作 6個	矢上
8	H24.5.23	機械工学科	平島 繁紀	生産加工技術グループ	研究支援	卒業研究生安全教育講習	矢上、竹内、北嶋、中村、上手
9	H24.5.23	電気電子工学科	開道 力	機器分析技術グループ	研究支援	測定用機器部品取り付け加工	下窄
10	H24.5.25	電気電子工学科	開道 力	機器分析技術グループ	研究支援	測定用機器部品取り付け加工	下窄、祖堅 、中村
11	H24.5.31	機械工学科	井上 昌信	生産加工技術グループ	研究支援	卒業研究用実験装置部品の学生製作指導(旋盤、ボール盤)	北嶋
12	H24.5.31	電気電子工学科	小城 左臣	機器分析技術グループ	研究支援	卒研で使用する測定試料の製作	下窄、祖堅
13	H24.6.8	機械工学科	井上 昌信	生産加工技術グループ	研究支援	振動実験用取付け治具の製作 2個	矢上
15	H24.7.4	機械工学科	井上 昌信	生産加工技術グループ	研究支援	卒業研究用実験装置の製作	竹内
16	H24.7.12	電気電子工学科	開道 力	機器分析技術グループ	研究支援	電磁鋼板(加工寸法・角度指定)のせん断加工	下窄、祖堅
17	H24.7.27	物質化学工学科	小畑 賢次	生産加工技術グループ	研究支援	分析用資料ホルダーの作製	矢上
18	H24.8.2	物質化学工学科	園田 達彦	生産加工技術グループ	研究支援	実験装置のバルブ・増設 設計・製作	矢上、北嶋
19	H24.8.9	機械工学科	平島 繁紀	生産加工技術グループ	研究支援	アクリルエンジンヘッドの修正	上手
20	H24.8.28	機械工学科	平島 繁紀	生産加工技術グループ	研究支援	エンジンヘッド・プラグホールのねじ山修正	上手
21	H24.9.4	機械工学科	小清水 孝夫	生産加工技術グループ	研究支援	卒業研究で製作中の熱交換器の製作	北嶋
22	H24.10.5	機械工学科	小清水 孝夫	生産加工技術グループ	研究支援	パルス管冷凍機の部品製作	矢上
23	H24.10.7	電子制御工学科	宮崎 出雲	機器分析技術グループ	教育支援	卒業研究 電子回路製作指導の補助	坂口
24	H24.10.9	制御情報工学科	久池井 茂	生産加工技術グループ	研究支援	返品薬仕分け装置の構成部品リストの作製	船津
25	H24.10.10	電気電子工学科	開道 力	機器分析技術グループ	研究支援	5年実験・卒研・特別研究技術指導(木曜日)	下窄 、祖堅
26	H24.10.10	電気電子工学科	開道 力	機器分析技術グループ	研究支援	5年実験・卒研・特別研究技術指導(水曜日)	下窄 、祖堅
27	H24.10.12	制御情報工学科	乙部 由美子	生産加工技術グループ	研究支援	風力発電用部品製作	島津、上手
28	H24.10.26	制御情報工学科	安信 強	生産加工技術グループ	研究支援	衝撃波実験装置の部品作製	島津
29	H24.11.9	制御情報工学科	乙部 由美子	生産加工技術グループ	研究支援	小型風車による風力発電に関する研究用風車軸の加工	上手
30	H24.11.14	電気電子工学科	開道 力	機器分析技術グループ	研究支援	電磁鋼板(加工寸法・角度指定)の剪断加工	下窄 、祖堅
31	H24.11.25	物質化学工学科	小畑 賢次	生産加工技術グループ	研究支援	セラミックス製断熱材の表面研磨	上手
32	H24.11.30	電気電子工学科	開道 力	機器分析技術グループ	研究支援	モーター出力アームのねじ切り	下窄 、祖堅
33	H25.1.10	制御情報工学科	古野 誠治	生産加工技術グループ	研究支援	熱音響現象を利用したパルス管冷凍機の蓄熱機の製作	上手
34	H25.1.10	電気電子工学科	開道 力	機器分析技術グループ	研究支援	モーター出力アームのねじ切り	下窄 、祖堅
35	H25.1.11	制御情報工学科	松尾 貴之	生産加工技術グループ	研究支援	研究用ロボット製作用パーツ製作	上手
36	H25.1.11	制御情報工学科	松尾 貴之	生産加工技術グループ	研究支援	特別研究用ロボット関節部稼働機構の製作	上手
37	H25.1.16	制御情報工学科	古野 誠治	生産加工技術グループ	研究支援	熱音響現象を利用したパルス管冷凍機の圧力発生装置取付け部製作	上手
38	H25.1.22	電気電子工学科	小城 左臣	機器分析技術グループ	研究支援	卒研で使用する測定試料の製作	下窄 、祖堅
39	H25.1.23	制御情報工学科	古野 誠治	生産加工技術グループ	研究支援	水槽の水位を計測する超音波センサー取付け装置の改良	上手
40	H25.1.24	電気制御工学科	藤井 達也	生産加工技術グループ	研究支援	アクリル実験装置	竹内、北嶋、中村、上手
41	H25.1.25	機械工学科	田淵 大介	生産加工技術グループ	研究支援	ステンレス薄板の曲げ加工	北嶋
42	H25.1.31	機械工学科	浅尾 晃通	生産加工技術グループ	研究支援	卒業研究5軸加工用ワーク製作・プログラム作成指導・加工機操作指導	北嶋
43	H25.2.2	機械工学科	浅尾 晃通	生産加工技術グループ	研究支援	卒業研究6軸加工用ワーク製作・プログラム作成指導・加工機操作指導	北嶋
44	H25.2.5	制御情報工学科	乙部 由美子	生産加工技術グループ	研究支援	特別・卒研「マイクロバブルの生成と崩壊に関する実験的研究」技術指導	島津
45	H25.2.5	制御情報工学科	乙部 由美子	生産加工技術グループ	研究支援	卒研「小型風車の開発に関する研究」技術指導	島津
46	H25.2.7	制御情報工学科	古野 誠治	生産加工技術グループ	研究支援	熱音響デバイスに空気入れ取付け口の製作	上手
47	H25.2.8	電子制御工学科	秋本 高明	機器分析技術グループ	研究支援	中空線の性能に関する研究補助	竹田
48	H25.2.8	電子制御工学科	宮崎 出雲	機器分析技術グループ	教育支援	5D卒業研究に関すること	坂口
49	H25.2.27	制御情報工学科	松尾 貴之	生産加工技術グループ	研究支援	ロボット部品の穴あけ作業(φ2)	竹内、上手
50	H25.2.28	機械工学科	滝本 隆	生産加工技術グループ	研究支援	卒業研究用部品加工の補助	中村
51	H25.3.6	機械工学科	内田 武	生産加工技術グループ	研究支援	30㎜ポリカーボネート疲労試験片の加工 70本	北嶋
52	H25.3.6	機械工学科	内田 武	生産加工技術グループ	研究支援	10㎜ポリカーボネート疲労試験片の加工 90本	北嶋
53	H25.3.6	制御情報工学科	松尾 貴之	生産加工技術グループ	研究支援	研究用資料にM3タップ立て作業	矢上
54							
55							
56							
57							
58							
59							
60							

生産加工技術グループ　39
機器分析技術グループ　14

(出典　平成24年度業務依頼一覧)

資料５－７－①－８

表　特別研究について学会等で発表した学生数

	生産工学専攻		制御工学専攻		物質化学工学専攻		全発表者数	全修了生数	発表者数の割合
	発表者数	修了生数	発表者数	修了生数	発表者数	修了生数			
H23年度	5	11	17	26	14	19	36	56	64.3%
H24年度	7	16	14	22	11	15	32	53	60.4%

※学会発表以外に，論文，研究報告，テクノフォーラム，学外コンテスト等を含む。

（出典　JABEE・認証評価委員会資料）

資料５－７－①－９

文教速報記事，北九州高専ウェブページ新着情報

平成２４年度	12月12日	専攻科生がスターリングテクノラリーで金賞受賞	生産工学専攻1年1名
	11月7日	専攻科生、研究成果を国際学会で発表	制御工学専攻1年1名，２年3名
	10月24日	第8回全日本学生室内飛行ロボットコンテストで第7位及び「ユニークデザイン賞」に輝く	機械工学科4,5年生及び生産工学専攻の学生14名
	8月22日	学生が国内外の学会でポスター発表	物質化学工学専攻12名＋国際会議出席1年1名
	4月20日	JAXAから研究奨励賞など受賞	制御工学専攻2年1名，生産工学専攻1年1名
平成２３年度	12月22日	専攻科2年生が第１１回大学発ベンチャー・ビジネスプランコンテストにおいて九州経済連合会長賞を受賞しました	制御工学専攻2年2名
	11月1日	専攻科1年生の3人が早稲田大学大学院で開催のIWTRT2011で研究発表しました	制御工学専攻1年3名
	8月12日	国際学会にてポスター賞を最年少受賞しました	物質化学工学専攻1年1名
	5月6日	専攻科生、ベストプレゼンテーション賞を受賞	制御工学専攻1年1名
	1月19日	専攻科学生が「九州経済産業局長賞」を受賞	制御工学専攻2年1名

（出典　北九州工業高等専門学校ウェブサイト）

観点５－８－①：　成績評価・単位認定規定や修了認定規定が組織として策定され、学生に周知されているか。また、これらの規定に従って、成績評価、単位認定、修了認定が適切に実施されているか。

（観点に係る状況）

「専攻科の授業科目の履修等に関する規則」を定め，学業成績は，試験，論文，レポート等の成績を総合して評価を行い，優，良，可，不可の４段階評価を実施している。可以上を合格とする基準を示し，専攻科修了に必要な単位数を62単位と規定している（資料５－８－①－１）。シラバスには科目ごとの評価基準と評価方法を示し，これに沿って成績評価を行っている。全科目の定期試験の答案は，学生に返却し解答と配点の説明を行っている。

試験を受けることのできなかった者に対する追試験，成績不良者に対する再試験についても規則で規定している（資料５－８－①－１）。

専攻科修了に関しては，専攻科修了認定会議を開き，各学生の成績，出席時間数などのデータを基に慎重に判定を行っている（訪問時閲覧資料）。

これらの規則は，専攻科履修要覧に記載して学生に配布し，専攻科入学者に対するオリエンテーションで説明するなどして学生に周知を図っている。また，シラバスと専攻科履修要覧に，授業時間以外の学習を合わせて１単位の学習時間が45時間であることと自学自習の必要性について記載し，オリエンテーションで説明を行い学生に周知している。

試験問題の水準，適切さについては，図書館に，PE，FE，技術士補関係の解説本や受験問題集，他大学のテキスト，外国の大学テキストなどを置き，これらを参考に各教員が水準の確認と維持に努めている。共通科目においては，学内外での教科研究への参加と実践を通して水準の維持，確認を図っている。

各科目の評価結果は，評価に使用した成績データ，評価算出法と共に表にまとめ，試験問題と模範解答，採点基準と配点，各学生の答案と共にファイルにして閲覧室に保管，あるいは共通HDDに保管している（訪問時閲覧資料）。

（分析結果とその根拠理由）

「授業科目の履修等に関する規則」を定め，専攻科履修要覧に掲載し，入学者に対するガイダンスを行うなど，学生に周知を図っている。また，１単位の学習時間が45時間であることの意味についても学生に周知を図っている。各科目の評価基準，評価方法についてはシラバスに具体的に明示している。修了については認定会議を行い，各学生の成績に基づき慎重に判定を行っている。

以上のことから，成績評価や単位認定，修了認定の規程が組織として策定され，成績評価，単位認定，修了認定が適切に行われている。

資料５－８－①－１

○北九州工業高等専門学校専攻科の授業科目の履修等に関する規則

平成８年９月１９日　規則第１３号
改正　平成２３年４月１日

（目的）
第１条　この規則は、北九州工業高等専門学校学則第６３条第３項及び第６５条の規定に基づき、専攻科の授業科目の履修方法及び成績の評価並びに修了の認定等について定めることを目的とする。
（授業）
第２条　専攻科の授業は、１単位時間を標準５０分とする。
２　授業は、講義、演習、実験及び実習のいずれか、又はこれらの併用により行うものとする。
（履修方法）
第３条　専攻科に開設する授業科目の履修に当たっては、別に定める「受講申告書」を所定の期日までに、校長に提出しなければならない。
（試験）
第４条　試験は、定期試験、追試験及び再試験とする。
２　定期試験は、各学期末に実施する。
３　追試験は、次の各号の一に掲げる事由により、定期試験を受験することができなかった者で、別に定める「追試験受験願」を所定の期日までに校長に提出し、その許可を得た者に対し実施する。
（１）疾病（医師の診断書を要する。）
（２）忌引
（３）その他やむを得ない事由があると校長が認めた場合
４　再試験は、定期試験及び追試験の成績その他を総合した評点が３０点以上６０点未満であつた者に対し所定の期日までに実施する。
（成績の評価）
第５条　成績は、授業科目ごとに第４条に規定する試験の成績その他を総合して評点で評価する。
２　成績の評価は、次の区分による。

評　価	優	良	可	不可
評　点	１００～８０	７９～７０	６９～６０	５９～０

３　再試験により合格した授業科目の評点は、６０点とする。
４　試験において不正行為を行った者は、当該試験科目以降の受験を認めない。また、当該試験期間中におけるすべての試験科目の成績は０点とする。
（単位の認定）
第６条　次の各号のすべてを満たした授業科目については、当該科目を修得したものとして単位を認定する。
（１）前条第２項の規定に基づき、評価が優、良及び可に評価されること。
（２）欠課時間数が純授業時間数の３分の１を超えないこと。
（修了に必要な単位）
第７条　専攻科の修了に必要な単位は、６２単位以上（そのうち、生産工学専攻については一般科目は８単位以上、専門基礎科目は２８単位以上、専門科目は２６単位以上とし、制御工学専攻及び物質化学工学専攻については一般科目は８単位以上、専門基礎科目は２６単位以上、専門科目は２８単位以上とする。）とする。
（大学等において修得した単位の認定）
第８条　大学等において修得した単位は、１４単位を超えない範囲で、専攻科における授業科目の履修とみなし、その単位を認定することができる。
（再履修）
第９条　第５条に定める成績の評価が不可と評価された授業科目のうち、修得する必要がある授業科目は、再履修するものとする。

（出典　専攻科の授業科目の履修等に関する規則より）

（２）優れた点及び改善を要する点

（優れた点）

・特別活動や豊かな人間性を涵養するための様々な活動の基本方針となる，「学修の指針」を策定している。
・学修単位科目と専攻科科目は，事前に作成した学修単位科目実施計画書（専攻科課程では自学自習実施計画書）に基づき学習指導し，この取組を学校として点検している。
・自学自習の支援のため，「月割表」と「チェックリスト」を作成し公開している。
・学級担任支援マニュアルが整備され，担任を中心とする組織的な学生指導が行われている。
・企業技術者，大学研究者，卒業生等の講演会を，平成24年度には17回実施し，豊かな人間性の涵養を図っている。
・本科生の約７割が課外活動に取組み，常勤教員の約96%が顧問として指導に携わっている。
・課外活動，学生会活動は活発である。例えば，バドミントン部は平成20年度まで全国高専大会団体戦10連覇を達成し，ロボコンは過去６年間で全国大会出場５回，全国大会優勝１回（通算２回）の実績がある。
・年々増加するインターンシップへのニーズに応えるため，公益財団法人北九州活性化協議会との連携を行っている。
・長期学外実習を実施している。
・平成24年度に２名の専攻科生が，高専機構の海外インターンシッププログラムに参加した。
・教育コーディネーターを特命教授として採用し，産学官連携共同教育の推進，インターンシップ講演会等の実施，インターンシップ受入企業の開拓等，常勤の教職員のみでは難しいより実践的なキャリア教育を行っている。
・TOEIC等の資格試験の導入，CALL教室等の情報機器の活用，英語学修ソフトウェアの活用，e-learning教材（自学自習システム）の構築等，様々な手段で英語力向上に努めている。
・学生のニーズに応え，平成22年度から第２外国語として，新たに中国語，韓国語を開講した。
・創造性を育むためのPBL科目が３学科で実施され，２科目は教員研修会で先進的事例として報告し，１科目は学外コンテストで優勝と準優勝を獲得している。従って，客観的にも優れた取組みである。
・機械工学科４年で１科目，専攻科で３科目の産学官連携共同教育による実践的技術者教育を実施している。
・専攻科では，近隣大学・大学院の外国人研究者を講師とする，英語による専門授業を実施している。
・専攻科の２年間で，６割以上の学生が，学会等で研究成果を報告している。また，国際学会や競技会で受賞する学生もいる。学生は専攻科の研究に相応しいテーマに取組み，相応しい研究指導がなされている。

（改善を要する点）

該当なし

（３）基準５の自己評価の概要

教育理念，目的を達成するための具体的な教育目標を定め，目標を達成するための科目を，段階的な履修が可能なように科目の関連性とカリキュラムの関連を考えて体系的に配置している。目標に到達するために各学年の修得内容の指針を学修の指針として設定し，各科目の具体的な達成目標も示している。

これらの情報の全てを網羅したシラバスが整備され有効に活用されている。また，学生が科目内容をより把握し，学習の点検ができるように「月割表」と「チェックリスト」を作成し示している。教員は，事前に作成した学修単位科目実施計画書（自学自習実施計画書）に基づき学生の自学自習を指導し，その結果を関連委員会に報告し，学校として取組を点検している。

学生のニーズ，学術の発展の動向，社会の要請に配慮し，インターンシップの充実，中国語等の第２外国語の充実，資格試験・情報機器・e-learningシステム等を積極的に導入した英語教育と専門教育を実施している。また，創造性を育むためのPBL科目を導入し，実績を上げている。

教育課程においては，講義，演習，実験・実習を各学年の教育課程に適切に配置しているほか，講義の授業科目の中でも，演習や実習を取り入れ，様々な学習指導上の工夫も行っている。それぞれの授業形態のバランスは適切であり，内容に応じた適切な工夫がなされている。

専攻科では，産学官連携共同教育や，外国人講師の英語による専門授業を実施し，より実践的な専門教育と英語教育を行っている。また，複合工学実験と特別研究Ⅰ，Ⅱで創造性を育む実践的な教育を行っている。これらの指導には大学評価・学位授与機構の資格審査に合格した博士の学位を有する教員があたっている。また，卒業研究，特別研究の評価は複数教員により客観的に行われている。

学修の指針に基づき，豊かな人間性の涵養が図られるように配慮しながら，特別活動や行事が計画的・組織的に実施されている。また，教育課程編成にあたっては，豊かな人間性を涵養するための教養教育も充分考慮されている。ほとんどの教員が，課外活動，学生会活動に関わり，学校全体としてこれらの活動が活発であり，豊かな人間性の涵養に貢献している。

教育コーディネーターを特命教授として採用し，産学官連携共同教育の推進，インターンシップ講演会等の実施，インターンシップ受入企業の開拓等，常勤の教職員のみでは難しいより実践的なキャリア教育を行っている。

履修等に関する規則は学生に周知され，規定に基づき，成績評価，単位認定，修了認定が適切に行われている。

以上のとおり，本校の教育内容は目的に沿った適切なものであり，教育方法，成績評価，単位認定などが適切に行われている。

基準６　教育の成果

（１）観点ごとの分析

観点６－１－①：　高等専門学校として、その教育の目的に沿った形で、課程に応じて、学生が卒業（修了）時に身に付ける学力や資質・能力、養成しようとする人材像等について、その達成状況を把握・評価するための適切な取組が行われているか。

（観点に係る状況）

＜準学士課程＞

基準５でも述べたように，教育目標を達成するため，科目の関連を考慮し，各学科でそれぞれの目標を達成するための科目群を設定している（資料６－1－①－1）。これらは，科目合格の積み上げ方式になっており，各学科で設定されている必修科目と選択科目を修得することが進級・卒業の条件になっている。選択科目については，どれを履修しても本校の教育目標を達成できるようになっている。教育目標(G)については，目標を達成するために，特別活動及び学校行事への参加も必要としており，特別活動の合格と学校行事の総時間数の２/３以上の出席を各学年の課程修了条件に加えている。学年末の及落・卒業認定会議にこれらの成績及び欠席時間数が提出され，慎重に及落・卒業認定が行われている（認定会議資料は訪問時閲覧資料）。

卒業時に達成度アンケートを継続的に行い，その状況を常に把握しており，卒業生も自らの達成度を確認することができる（資料６－1－①－２，３）。

＜専攻科課程＞

準学士課程と同様，専攻科の教育目標を達成するための科目群を設定している（資料６－１－①－４）。専攻科は，単位制を取っており，「専攻科履修等に関する規則」で規定される修了に必要な62単位以上の科目を履修すれば，少なくとも各目標を達成するために必要な科目群が修得できるようにしている。これらに対応する必修科目を履修し単位を取得することにより目標は達成されたと判断している。選択科目については，どれを履修しても本校の教育目標を達成できるようになっている。それぞれの科目には，具体的な達成目標，評価基準や評価方法などが設定されており，これらに基づき合否判定が行われる。また，特別研究により総合的な達成度を見ることができるため，日頃の取組のほか，複数教員により発表と質疑応答及び論文の内容の評価を行っている。これらの成績が学年末の修了認定会議に提出され慎重に各学年の修了判定が行われる（認定会議資料は訪問時閲覧資料）。

（分析結果とその根拠理由）

準学士課程，専攻科課程のそれぞれにおいて目標を達成するための科目群を配置しており，これらは，科目合格の積み上げ方式になっており，少なくとも必修科目を履修し単位を取得すれば各目標は達成されたと判断している。選択科目については，どれを履修しても本校の教育目標を達成できるようになっている。各科目にはさらに具体的な達成目標，判定基準や判定方法が定められ，それに基づき合否判定が行われる。準学士課程では，特別活動，学校行事も課程修了条件に加えられている。年度末には，これらの成績が提出され，卒業・修了認定が行われる。

学校は，及落・卒業認定会議，修了認定会議で学生の資質・学力についての確認を行い，学生は，達成度アンケートを通じて達成度を確認することができる。

以上のことから，目標の達成状況を把握・評価するための適切な取組が行われている。

準学士課程　学習・教育目標達成のための科目（機械工学科）

資料６－１－①－１

（　）内数字は単位数、選のついている科目は選択科目、ついていない科目は必修科目を表す。

学習・教育目標		科目 本科 1年	2年	3年	4年	5年
A	①	機械工学基礎(①) 工学基礎実験(②) 基礎情報処理(②) 機械工作法Ⅰ(①)注１	情報処理(②) 機械工作法Ⅱ(②)注１	物理Ⅱ(②) 物理演習(①) 数値計算法(②) 機構学(①) 工業力学(②) 材料力学Ⅰ(②)	応用数学(②) 材料力学Ⅱ(②) 機械工学演習(①) 振動工学(①) 応用物理(選①)	生物工学概論(①) 流体力学(①) 確率・統計基礎(①) 品質管理(選①)
	②	基礎情報処理(②)	情報処理(②)	物理Ⅱ(②) 物理演習(①) 数値計算法(②) 機構学(①) 工業力学(②)	応用数学(②) 機械工学演習(①) 振動工学(①) 応用物理(選①)	流体力学(①)
B	①	機械工学基礎(①) 基礎製図(②) 工学基礎実験(②) 工作実習Ⅰ(②) 機械工作法Ⅰ(①)注１	材料学Ⅰ(①) 機械製図Ⅰ(②) 機械工作法Ⅱ(②)注１	材料学Ⅱ(①) 機構学(①) 工業力学(②) 材料力学Ⅰ(②) 設計工学Ⅰ(①) 機械製図Ⅱ(②)	材料力学Ⅱ(②) 熱力学(②) 水力学(②) 機械加工学(①) 設計工学Ⅱ(②) 機械工学演習(①) 設計製図Ⅰ(②) 自動制御Ⅰ(①) 振動工学(①) CAE 演習(選①) 新素材材料学(選①)	生物工学概論(①) 熱機関工学(②) 伝熱工学(②) 流体力学(①) 設計製図Ⅱ(②) 自動制御Ⅱ(①) メカトロニクス工学(②) 流体機械(選①) 材料力学Ⅲ(選①) 注3 精密加工学(選①) ロボット工学(選①) 工業英語演習(選①) 品質管理(選①)
	②		機械工作法Ⅱ(②)注１	材料学Ⅱ(①) 機構学(①) 材料力学Ⅰ(②) 設計工学Ⅰ(①) 機械製図Ⅱ(②)	材料力学Ⅱ(②) 熱力学(②) 水力学(②) 機械加工学(①) 設計工学Ⅱ(②) 機械工学演習(①) 設計製図Ⅰ(②) 自動制御Ⅰ(①) 振動工学(①) 新素材材料学(選①)	熱機関工学(②) 伝熱工学(②) 流体力学(①) 設計製図Ⅱ(②) 自動制御Ⅱ(①) メカトロニクス工学(②) 流体機械(選①) 材料力学Ⅲ(選①) 注3 精密加工学(選①) ロボット工学(選①) 工業英語演習(選①) 品質管理(選①)
C	①	基礎製図(②) 工学基礎実験(②) 工作実習Ⅰ(②)	機械製図Ⅰ(②) 工作実習Ⅱ(③)	物理演習(①) 設計工学Ⅰ(①) 機械製図Ⅱ(②)	機械加工学(①) 設計工学Ⅱ(②) 設計製図Ⅰ(②) 機械工学実験Ⅰ(③)注４ CAE 演習(選①) 工作実習基礎(選①) 注5	卒業研究(⑩) 設計製図Ⅱ(②) 機械工学実験Ⅱ(③) 注4 精密加工学(選①)
	②			物理演習(①)	機械工学実験Ⅰ(③)注４	卒業研究(⑩) 設計製図Ⅱ(②) 機械工学実験Ⅱ(③) 注4
	③	工作実習Ⅰ(②)	工作実習Ⅱ(③)	物理演習(①)	機械工学実験Ⅰ(③)注４ CAE 演習(選①)	卒業研究(⑩) 機械工学実験Ⅱ(③) 注4
	④	工作実習Ⅰ(②)	工作実習Ⅱ(③)	物理演習(①)	機械工学実験Ⅰ(③)注４ 工作実習基礎(選①) 注5	卒業研究(⑩) 設計製図Ⅱ(②) 機械工学実験Ⅱ(③) 注4
D	①	工学基礎実験(②)			自動制御Ⅰ(①) 機械工学実験Ⅰ(③)注４ 学外実習(選①) 注2 電気電子工学(②)	自動制御Ⅱ(①) メカトロニクス工学(②) 機械工学実験Ⅱ(③) 注4 流体機械(選①) 基礎ﾃﾞｨｼﾞﾀﾙ回路(選①) ロボット工学(選①) 品質管理(選①) 生物工学概論(①)
	②					卒業研究(⑩)
	③					卒業研究(⑩)
E	①					
	②				機械工学実験Ⅰ(③)注４ 学外実習(選①) 注2	卒業研究(⑩) 機械工学実験Ⅱ(③) 注4
	③			工業英語Ⅰ(①)	工業英語Ⅱ(①)	工業英語演習(選①)
F	①					
	②			設計工学Ⅰ(①)	学外実習(選①) 注2	卒業研究(⑩) 生物工学概論(①) 熱機関工学(②) 流体機械(選①) 品質管理(選①)
	③	基礎情報処理（②）			機械工学演習(①) 学外実習(選①) 注2	品質管理(選①)
G	①	体育Ⅰ(②) 特別活動 清掃活動	人間関係論(②) 体育Ⅱ(②) 特別活動 清掃活動	体育Ⅲ(②) 特別活動 清掃活動	体育Ⅳ(②) 一般総合選択・体育系(選②) 清掃活動	一般総合選択・体育系(選②) 清掃活動
	②	保健(①) 体育Ⅰ(②) 特別活動 清掃活動	体育Ⅱ(②) 特別活動 清掃活動	体育Ⅲ(②) 特別活動 清掃活動	体育Ⅳ(②) 一般総合選択・体育系(選②) 清掃活動	一般総合選択・体育系(選②) 清掃活動

注１：「機械工作法Ⅰ（①）」、「機械工作法Ⅱ（②）」は、平成 22 年度から開設学年を変更。
注２：「学外実習（選①）」と「特別実習（選②、平成 16 年度から開設）」のいずれかの履修を推奨する。
注３：「材料力学特論（選①）」を名称変更し、平成 17 年度から新科目名とした。
注４：「工学実験」を名称変更し、平成 22 年度から新科目名とした。
注５：普通高校からの編入学生のみ履修可（必修）

（出典　教務資料より作成　機械工学科の例）

資料６－１－①－２

卒業に際してのアンケート

このアンケートは、卒業に際して北九州高専の「教育目的」・「教育目標」が達成されているか、また、高専生活全般に関して卒業生の意見を調べ、今後の北九州高専の教育への大切な資料とするものです。
皆様のご協力をよろしくお願い致します。

［ 教育目的・教育目標に関しての達成度に関する質問 ］

Ⅰ.「教育目的」に関する質問；

1．本校の**「３つの教育目的」**を十分知って、学生生活を送ることが出来ましたか？

ほとんどできなかった	あまりできなかった	ある程度できた	大いにできた
1	2	3	4

Ⅱ.「教育目標」に関する質問

2．本校の（A）～（G）の**「教育目標」**を十分知って、学生生活を送ることが出来ましたか？

ほとんどできなかった	あまりできなかった	ある程度できた	大いにできた
1	2	3	4

（ 次に、ＡからＧの各教育目標について、その達成度をお聞きします ）

3．**「教育目標(A)」**：技術内容を理解できる基礎学力（数学、自然科学、情報）と自己学習能力を持つ技術者

達成感が全くない	あまり達成感がない	ある程度達成感がある	大いに達成感がある
1	2	3	4

4．**「教育目標(B)」**：専門分野における基礎知識を身に付けた技術者

達成感が全くない	あまり達成感がない	ある程度達成感がある	大いに達成感がある
1	2	3	4

5．**「教育目標(C)」**：専門工学基礎知識の上に実践的技術を学んだ技術者

達成感が全くない	あまり達成感がない	ある程度達成感がある	大いに達成感がある
1	2	3	4

6．**「教育目標(D)」**：身に付けた工学知識・技術をもとにして問題を解決する能力を有する技術者

達成感が全くない	あまり達成感がない	ある程度達成感がある	大いに達成感がある
1	2	3	4

7．**「教育目標(E)」**：多様な文化を理解するための教養を持ち、
日本語および外国語によるコミュニケーションの基礎能力を有する技術者

達成感が全くない	あまり達成感がない	ある程度達成感がある	大いに達成感がある
1	2	3	4

8．**「教育目標(F)」**：歴史・文化・社会に関する教養を持ち、
技術の社会・環境との関わりを考えることのできる技術者

達成感が全くない	あまり達成感がない	ある程度達成感がある	大いに達成感がある
1	2	3	4

9．**「教育目標(G)」**：社会の一員としての自覚、倫理観を持ち、心豊かな人間性を有する技術者

達成感が全くない	あまり達成感がない	ある程度達成感がある	大いに達成感がある
1	2	3	4

（出典　達成度アンケートより抜粋）

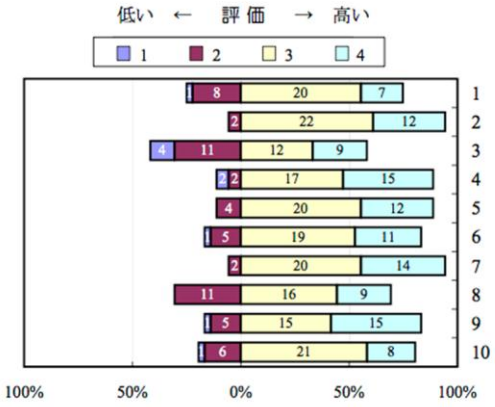
資料６－１－①－３

平成２３年度　授業アンケート　　集計結果

熱力学　　必修　　2 単位　　担当　　小清水孝夫
機械工学科　　4 年　　回答数　　37

１．学生のこの授業に対する取り組みや考え方について

設問＼回答	低 ← 評価 → 高 1	2	3	4	無効	有効	%
1 シラバスの理解度	1	8	20	7	1	36	97
2 集中度	0	2	22	12	1	36	97
3 積極性	4	11	12	9	1	36	97
4 興味・関心	2	2	17	15	1	36	97
5 難易度	0	4	20	12	1	36	97
6 達成度	1	5	19	11	1	36	97
7 課題の取り組み	0	2	20	14	1	36	97
8 自主性	0	11	16	9	1	36	97
9 試験の準備	1	5	15	15	1	36	97
10 学級の受講態度	1	6	21	8	1	36	97

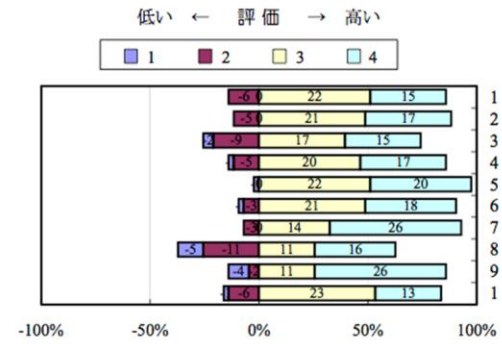


平成２３年度　授業アンケート　　集計結果

水力学　　必修　　2 単位　　担当　　中山博愛
機械工学科　　4 年　　回答数　　43

１．学生のこの授業に対する取り組みや考え方について

設問＼回答	低 ← 評価 → 高 1	2	3	4	無効	有効	%
1 シラバスの理解度	0	6	22	15	0	43	100
2 集中度	0	5	21	17	0	43	100
3 積極性	2	9	17	15	0	43	100
4 興味・関心	1	5	20	17	0	43	100
5 難易度	1	0	22	20	0	43	100
6 達成度	1	3	21	18	0	43	100
7 課題の取り組み	0	3	14	26	0	43	100
8 自主性	5	11	11	16	0	43	100
9 試験の準備	4	2	11	26	0	43	100
10 学級の受講態度	1	6	23	13	0	43	100



（出典　授業アンケートより抜粋）

資料６－１－①－４

学習・教育目標達成のための専門科目
（機械工学科、生産工学専攻）

（ ）内数字は単位数、選のついている科目は選択科目、
ついていない科目は必修科目を表す。

学習・教育目標		専攻科	
		1年	2年
A	①	固体力学Ⅰ(①) 固体力学Ⅱ(選②) 工業化学(①) 物理化学特論(選②) 電磁気特論(選②) **[放送大学科目]**	制御工学概論(①) 制御工学特論(選②) 情報理論Ⅰ(①) 情報理論Ⅱ(選②) 気体プラズマ特論(選②) **[放送大学科目]**
	②	固体力学Ⅰ(①) 固体力学Ⅱ(選②) 電気回路学Ⅰ(①) 電気回路学Ⅱ(選②)	情報理論Ⅰ(①) 情報理論Ⅱ(選②)
B	①	複合工学実験(①) 固体力学Ⅰ(①) 固体力学Ⅱ(選②) 電気回路学Ⅰ(①) 電気回路学Ⅱ(選②) 工業化学(①) 物理化学特論(選②) 専攻科特論Ⅱ～Ⅳ,Ⅵ(選②)注15 専攻科特論Ⅴ,Ⅶ(選①)注15 生産加工学(選②) 燃焼工学(選②) 流れ学特論(選②) 電磁気特論(選②) 電気電子回路特論(選②)	情報理論Ⅰ(①) 情報理論Ⅱ(選②) 材料科学(①) 材料科学特論(選②) 専攻科特論Ⅱ～Ⅳ,Ⅵ(選②)注15 専攻科特論Ⅴ,Ⅶ(選①)注15 材料強度学特論(選②) 熱流動工学(選②) 生産設計工学特論(選②) 電子デバイス特論(選②) メカトロニクス特論(選②) 気体プラズマ特論(選②)
	②	固体力学Ⅰ(①) 固体力学Ⅱ(選②) 生産加工学(選②) 燃焼工学(選②) 流れ学特論(選②) 電磁気特論(選②) 電気電子回路特論(選②)	制御工学概論(①) 制御工学特論(選②) 情報理論Ⅰ(①) 情報理論Ⅱ(選②) 材料強度学特論(選②) 熱流動工学(選②) 生産設計工学特論(選②) 電子デバイス特論(選②) メカトロニクス特論(選②) 気体プラズマ特論(選②)
C	①	複合工学実験(①) 生産工学輪講Ⅰ(②) 生産加工学(選②) 電気電子回路特論(選②)	生産工学輪講Ⅱ(②) 材料強度学特論(選②) 電子デバイス特論(選②) メカトロニクス特論(選②)
	②	複合工学実験(①) 生産工学特別研究Ⅰ(④)	生産工学特別研究Ⅱ(⑥)
	③	複合工学実験(①) 生産工学特別研究Ⅰ(④)	生産工学特別研究Ⅱ(⑥)
	④	複合工学実験(①)	生産工学特別研究Ⅱ(⑥)
D	①	電気回路学Ⅰ(①) 電気回路学Ⅱ(選②) 専攻科特論Ⅱ～Ⅳ,Ⅵ(選②)注15 専攻科特論Ⅴ,Ⅶ(選①)注15 生産工学特別研究Ⅰ(④) 流れ学特論(選②) 特別実習(選②) 注9	制御工学概論(①) 制御工学特論(選②) 情報理論Ⅰ(①) 情報理論Ⅱ(選②) 専攻科特論Ⅱ～Ⅳ,Ⅵ(選②)注15 専攻科特論Ⅴ,Ⅶ(選①)注15 生産工学特別研究Ⅱ(⑥) 熱流動工学(選②) 生産設計工学特論(選②) メカトロニクス特論(選②)
	②	複合工学実験(①) 固体力学Ⅰ(①) 電気回路学Ⅰ(①) 工業化学(①) 生産工学輪講Ⅰ(②) 流れ学特論(選②) 特別実習(選②) 注9 **[専門基礎選択科目]** **[他専攻専門選択科目]** **[放送大学科目]**	制御工学概論(①) 情報理論Ⅰ(①) 材料科学(①) 生産工学輪講Ⅱ(②) 熱流動工学(選②) 生産設計工学特論(選②) **[専門基礎選択科目]** **[他専攻専門選択科目]** **[放送大学科目]**
	③	生産工学特別研究Ⅰ(④)	生産工学特別研究Ⅱ(⑥)
	④	生産工学特別研究Ⅰ(④)	生産工学特別研究Ⅱ(⑥)
	⑤		生産工学特別研究Ⅱ(⑥)
E	①		
	②	複合工学実験(①) 専攻科特論Ⅱ～Ⅳ,Ⅵ(選②)注15 専攻科特論Ⅴ,Ⅶ(選①)注15 生産工学特別研究Ⅰ(④) 生産工学特別研究Ⅱ(⑥) 特別実習(選②) 注9	専攻科特論Ⅱ～Ⅳ,Ⅵ(選②)注15 専攻科特論Ⅴ,Ⅶ(選①)注15 生産工学特別研究Ⅱ(⑥)
	③	生産工学輪講Ⅰ(②)	生産工学輪講Ⅱ(②)
	④		生産工学特別研究Ⅱ(⑥)
	⑤		
F	①		
	②	専攻科特論Ⅱ～Ⅳ,Ⅵ(選②)注15 専攻科特論Ⅴ,Ⅶ(選①)注15 生産工学特別研究Ⅰ(④) 生産工学輪講Ⅰ(②) 生産加工学(選②) 燃焼工学(選②) 特別実習(選②) 注9	専攻科特論Ⅱ～Ⅳ,Ⅵ(選②)注15 専攻科特論Ⅴ,Ⅶ(選①)注15 生産工学特別研究Ⅱ(⑥) 生産工学輪講Ⅱ(②)
	③	燃焼工学(選②) 特別実習(選②) 注9	

注1:「材料力学Ⅱ(②)」は、「材料力学(②)」を平成22年度から名称変更
注2:「応用物理(選①)」は、「応用物理特論(選①)」を平成20年度から名称変更
注3:「複素関数(選①)」は、平成21年度まで開講し、平成22年度から廃止
注4:「設計工学Ⅱ(②)」は、「設計工学(②)」を平成22年度から名称変更
注5:「設計製図Ⅰ(②)」は、「設計製図(②)」を平成22年度から名称変更
注6:「自動制御Ⅰ(①)」は、「自動制御(①)」を平成22年度から名称変更
注7:「機械工学実験Ⅰ(③)」は、「工学実験(③)」を平成22年度から名称変更
注8:「工作実習基礎(選①)」は、工業高校以外からの編入学生のみ履修可(選択科目であるが、必ず履修すること)
注9:本科4年「学外実習(選①)」と専攻科1年「特別実習(選②)」のいずれかの修得を推奨
注10:「工業英語Ⅱ(①)」は、「工業英語(①)」を平成22年度から名称変更
注11:「設計製図Ⅱ(②)」は、「設計製図(②)」を平成23年度から名称変更
注12:「自動制御Ⅱ(①)」は、「計測・制御(①)」を平成23年度から名称変更
注13:「材料力学Ⅲ(選①)」は、「材料力学特論(選①)」を平成23年度から名称変更
注14:「機械工学実験Ⅱ(③)」は、「工学実験(③)」を平成23年度から名称変更
注15:「専攻科特論Ⅵ(選②)」、「専攻科特論Ⅶ(選①)」は平成24年度から開講

（出典　平成24年度シラバスより　機械工学科・生産工学専攻）

観点６－１－②：　各学年や卒業（修了）時等において学生が身に付ける学力や資質・能力について、学校としてその達成状況を評価した結果から判断して、教育の成果や効果が上がっているか。

（観点に係る状況）

卒業生（資料６－１－②－１）・専攻科生（資料６－１－②－２）の進路を見ると，ほぼ100%理工系の分野に就職・進学している。これらからほとんどの学生が，各目標を達成するために指定された科目群を修得することにより基礎学力，工学の専門知識・技術などを身に付けているといえる。総合的な問題解決能力については，卒業研究，特別研究が配置され，各学生が課題に対して何らかの結果を導き出し論文にまとめ報告している（資料６－１－②－３）。その日頃からの取組を指導教員が，発表会における発表内容及び質疑応答と最終提出された論文を複数教員が評価することにより客観的に評価している。

これらの評価結果を見ると，問題解決能力も身に付いていることがわかる（卒業論文，特別研究論文，発表予稿集，各学生の評価は訪問時閲覧資料）。特別研究は，学会など外部での発表件数も多い（資料６－１－②－４）。

コミュニケーション能力については，各科目で具体的な達成目標を掲げ，設定した評価基準，評価方法を基に評価を行っており，これらの科目の単位を取得することにより身に付いていることがわかる（答案及び成績評価表は訪問時閲覧資料）。例えば，平成24年度「第14回高校生小論文コンクール」に「漁業を救う技術を求めて」の課題で応募した結果，「個人部門・優秀賞」を受賞した。さらに，専門知識と英語力を活かし青年海外協力隊員として活躍している者もいる（資料６－１－②－５：別添資料）。これも１つの教育成果といえる。

専攻科課程では，平成24年度より英語科目の評価条件に「TOEIC400点レベルの知識が身に付いていること。」を入れている。

また，コミュニケーション能力は，卒業研究，特別研究の発表の評価点を見ることによっても確認できる（資料６－１－②－６）。学会発表などで表彰される者も多い（資料６－１－②－７：別添資料）。

専攻科修了生の学士号取得率は，ほぼ100%に近く，このことからも専攻科の教育の成果が上がっていることがわかる（資料６－１－②－８）。

（分析結果とその根拠理由）

ほとんどの学生が，本校で定める条件を満たして進級・卒業・修了をしており，卒業生・修了生のほとんどが理工系，技術系の分野に進学・就職をしている。卒業研究，特別研究，専門科目などの評価を見ると，それぞれ目標とする力が身に付いていることがわかる。専攻科の学位取得率は年度によっては100%に満たないものの，ほぼ100%と言え，全体的には教育の成果は上がっている。

資料６－１－②－１（その１）

本科生就職先一覧（地区別）　平成25年３月１日現在

（　）は、女子学生で内数

企　業　名	就職先所在地	機械	電気	電制	制情	化学	計
【関東地区】							
DIC㈱	千葉県					1(1)	1(1)
極東石油工業㈱	千葉県					1	1
出光エンジニアリング㈱	千葉県	1					1
出光興産㈱	東京都	1					1
岩谷瓦斯㈱	東京都	1					1
大陽日酸㈱	東京都	1					1
ソニーデジタルネットワークアプリケーションズ㈱	東京都			1			1
テルモ㈱	東京都			1			1
東レ㈱	東京都					1	1
本田技研工業㈱	東京都	1			1		2
雪印メグミルク㈱	東京都		1				1
ライオン㈱	東京都			1			1
リコーテクノシステムズ㈱	東京都		1(1)				1(1)
旭化成㈱	東京都					1	1
㈱アルファシステムズ	東京都		1				1
㈱アルメックス	東京都				1		1
㈱エーピーアイコーポレーション	東京都					1(1)	1(1)
㈱ジーエス・サアサフィールディングス	東京都		1				1
㈱セイシン企業	東京都				1		1
㈱ディスコ	東京都	1					1
㈱三越伊勢丹ビルマネジメント	東京都			1			1
㈱日野ヒューテック	東京都	1					1
三菱電機ビルテクノサービス㈱	東京都				1		1
日本トーカンパッケージ㈱	東京都		1				1
日本海洋掘削㈱	東京都	1					1
日本鉄塔工業㈱	東京都	1					1
日立ビルシステム㈱	東京都	1					1
富士テクノサービス㈱	東京都		1				1
栗田工業㈱	栃木県	1					1
日立ビルシステムズ㈱	神奈川県		1				1
計		11	7(1)	4	4	5(2)	31(3)
【上信越・東海地区】							
JR東海㈱	愛知県			1			1
シロキ工業㈱	愛知県		1				1
中部電力㈱	愛知県	1	1				2
三菱重工㈱名古屋航空宇宙システム製作所	愛知県	1					1

（出典　「志遠」第 66 号より）

資料６－１－②－１（その２）

志　　遠　　平成25年３月12日（11）

企　業　名	就職先所在地	機械	電気	電制	制情	化学	計
花王㈱	愛知県					1	1
積水ナノコートテクノロジー㈱	愛知県					1	1
矢崎総業㈱	静岡県		1				1
セイコーエプソン㈱	長野県				1		1
計		2	3	1	1	2	9
【近畿地区】							
アドバンテック㈱	大阪府					1(1)	1(1)
ダイキン工業㈱	大阪府	1			1(1)	1(1)	3(2)
武田薬品工業㈱	大阪府	1				1(1)	2(1)
㈱フジキン	大阪府					1	1
第一精工㈱	大阪府	1	1				2
JR西日本㈱	大阪府		1	1			2
宇部興産㈱堺工場	大阪府			1			1
大阪ガス㈱	大阪府		1				1
関西電力㈱	大阪府			1	1		2
ダイキン工業㈱	大阪府		1				1
野里電気工業㈱	大阪府		1				1
花王㈱	和歌山県		1				1
東燃ゼネラル石油	和歌山県					1	1
計		3	6	3	2(1)	5(3)	19(4)
【中国地方】							
NSウエスト㈱	広島県		1				1
中国電力㈱	広島県		1				1
出光興産㈱	山口県		1				1
宇部興産㈱	山口県	1				1(1)	2(1)
計		1	3			1(1)	5(1)
【福岡県（北九州地区）】							
NSプラント設計㈱	北九州市	1(1)					1(1)
新日鐵エンジニアリング㈱	北九州市	1					1
全教研エコール折尾校	北九州市	1					1
㈱三井ハイテック	北九州市	1		1			2
北九州LNG㈱	北九州市			1			1
安川情報九州㈱	北九州市			1(1)			1(1)
八幡電機精工㈱	北九州市				1(1)		1(1)
㈱ソフトエナジーコントロールズ	北九州市		1				1
㈱タカギ	北九州市					1(1)	1(1)
計		4(1)	1	3(1)	1(1)	1(1)	10(4)
【福岡県（北九州地区を除く）】							
小竹化成㈱	鞍手郡					1	1
JR西日本㈱	福岡市				1(1)		1(1)
エイテックス㈱	福岡市				1(1)		1(1)
三泉化成㈱	福岡市					1	1
富士ゼロックス福岡㈱	福岡市		1(1)				1(1)
㈱アスカコーポレーション	福岡市					1(1)	1(1)
㈱ソフネット	福岡市			1			1
㈱富士通九州システムズ	福岡市				1		1
三菱電機プラントエンジニアリング㈱	福岡市		1				1
富士通九州ネットワークテクノロジーズ㈱	福岡市				1(1)		1(1)
㈱明治九州工場	八女市				1(1)		1(1)
日本たばこ産業㈱	福岡市				1(1)		1(1)
㈱トヨタプロダクションエンジニアリング	福岡市				1		1
㈱エイチ・エル・シー	福岡市			1(1)			1(1)
計			2(1)	2(1)	7(5)	3(1)	14(8)
【九州地区（福岡県を除く）】							
JX日鉱日石金属㈱	大分県				1		1
TOTOファインセラミックス㈱	大分県	1					1
㈱小松製作所（実用試験部）	大分県	1					1
日本エアコミューター㈱	鹿児島県				1(1)		1(1)
㈱東洋新薬	佐賀県		1		1(1)		2(1)
旭化成㈱	宮崎県	1					1
計		3	1		3(2)		7(2)
【その他（未決定者）】							
就職希望				4		4(4)	8(4)
合　計		24(1)	23(2)	17(2)	18(9)	21(12)	103(26)

※企業によっては実際の配属所在地が異なる場合があります。

（出典　「志遠」第 66 号より）

資料６－１－②－１（その３）

平成24年度卒業予定者の進学状況　平成25年３月１日現在

（　　）は、女子学生で内数

大学等名	学科					計
	機械	電気電子	電子制御	制御情報	物質化学	
北見工業大学工学部			1			1
山形大学工学部			1			1
宇都宮大学工学部		1				1
東京農工大学		2			1(1)	3(1)
千葉大学工学部		1			1	2

志　　遠　　平成25年３月12日（13）

大学等名	学科					計
	機械	電気電子	電子制御	制御情報	物質化学	
松本医科歯科大学					1	1
名古屋工業大学工学部				1		1
富山大学工学部	1(1)					1(1)
長岡技術科学大学	1		1			2
豊橋技術科学大学	2	1	2	1(1)		6(1)
和歌山大学工学部			1			1
大阪大学工学部		1				1
岡山大学工学部		1				1
高知工科大学			2			2
広島大学工学部		1				1
山口大学工学部		2		2(1)		2(1)
九州工業大学工学部		1		1(1)		4(1)
九州工業大学情報工学部			1(1)	3		3
北九州市立大学国際環境工学部			3			3
九州大学工学部		1	1			2
熊本大学工学部	1	2				3
宮崎大学工学部					1	1
鹿児島大学工学部		2		1		3
琉球大学工学部	1					1
香川高専専攻科			1			1
専門学校			1			1
北九州高専専攻科	7	7	10	8	13(2)	45(2)
進学決定者計	13(1)	23	25(1)	17(3)	17(3)	95(8)
進学希望	1		1	1		3
卒業生数(進学関係)	14(1)	23	26(1)	18(3)	17(3)	98(8)

（出典　「志遠」第 66 号より）

資料６－１－②－２（その１）

平成25年３月12日（12）　　志　　遠

専攻科生就職先一覧　平成25年３月１日現在

（　　）は、女子学生で内数

企　業　名	就職先所在地	生　産	制　御	物質化学	合　計
【関東地区】					
㈱メンバーズ	東京都	1			1
㈱前川製作所	茨城県	1			1
㈱日立プラントテクノロジー	東京都	1			1
富士通㈱	神奈川県	1			1
日特エンジニアリング㈱	埼玉県		1		1
NOK㈱	東京都		1		1
㈱アルファシステムズ	神奈川県		1(1)		1(1)
日本信号㈱	栃木県		1		1
日立化成工業㈱	茨城県			1	1
岩谷瓦斯㈱	東京都			1	1
㈱セイシン企業	東京都			1	1
三菱ガス化学㈱	東京都			1	1
東京エレクトロンFE㈱	東京都			1(1)	1(1)
計		4	4(1)	5(1)	13(2)
【上信越・東海地区】					
ヤマハ発動機㈱	静岡県	1			1
シーテック㈱	愛知県		1		1
アイシンコムクルーズ㈱	愛知県		1		1
エクシード㈱	愛知県		1		1
計		1	3		4
【近畿地区】					
住友化学㈱	大阪府	1			1
田辺三菱製薬工場㈱	大阪府	1			1
関西電力㈱	大阪府	1			1
ローム㈱	京都府		1		1
大阪ガス㈱	大阪府		1(1)		1(1)
DIC㈱	大阪府			1	1
田辺三菱製薬㈱	大阪府			1	1
計		3	2(1)	2	7(1)
【福岡県（北九州地区）】					
TOTO㈱	北九州市	2			2
㈱ゼンリン	北九州市		1		1
㈱アドバンテスト九州システムズ	北九州市	1	1(1)		2(1)
NSプラント設計㈱	北九州市	1			1
計		4	2(1)		6(1)
【福岡県（北九州地区を除く）】					
㈱エモテント	福岡市		1		1
計			1		1
【その他（未決定者）】					
就職希望者			3		3
計			3		3
合計		12	15(3)	7(1)	34(4)

※企業によっては実際の配属所在地が異なる場合があります。

（出典　「志遠」第 66 号より）

資料６－１－②－２（その２）

平成24年度修了予定者の進学状況　平成25年３月１日現在

（　　）は、女子学生で内数

大学等名	専攻			計
	生産工学専攻	制御工学専攻	物質化学工学専攻	
奈良先端科学技術大学院大学			1	1
九州工業大学大学院生命体工学研究科	1	4	2(2)	7(2)
九州工業大学大学院生体機能専攻			1	1
九州大学大学院システム情報工学府		1		1
九州大学大学院システム生命科学府		1		1
九州大学大学院総合理工学府		2	3	5
九州大学大学院工学府	1	1	1	3
進学決定者計	2	9	8(2)	19(2)
進学希望				
専攻科修了者数(進学関係)	2(0)	9(0)	8(2)	19(2)

（出典　「志遠」第 66 号より）

資料６－１－②－３

平成25年３月12日（14）　　志　　遠

本科卒業研究・専攻科特別研究一覧

機械工学科　卒業研究

卒業研究テーマ	学生名	指導教員
蒸気ー空気の予混合吸気によるCIエンジンの燃焼改善	[redacted]	平島
EV走行距離拡大のためのエンジン発電機の利用に関する研究		
直接点火方式によるSIエンジンの燃焼解析		
ラジエーターおよびオイルクーラーの性能確認並びに性能向上に関する研究		中山
航空機のウイングレットの解析		
低風速時でも発電可能な風車の開発に関する研究		
板金加工への３D-CAD活用に関する研究ーデザインコンテストへの取組みー		入江
地域と連携した環境教育の取組み		
プラスチック材料の片持ち回転曲げ疲労挙動に関する研究		内田
プラスチック材料の破壊強度・破壊挙動に関する研究		
３次元CAD／CAMを用いた両面加工形状の作成		浅尾
５軸加工における加工精度に関する基礎研究		
３次元CAD／CAMを用いた成形加工に関する研究		
スターリングテクノラリー用冷凍機における熱交換器の最適設計		小清水
パルス管エンジンカーの開発		
蒸気を利用した熱音響エンジンの開発		
任意分布荷重を受ける異方性楕円リングの解析		種
脱酸条件の違いによる普通鋼の疲労特性に関する研究		
マイクロスコープの動作検証ならびに工学実験マニュアルの作成		
環境観測のための次世代小型飛行艇の研究開発		滝本
次世代UAVによる空中観測システムの研究開発		
インテリジェント大腸内視鏡トレーニングモデルの開発		
簡易型低空域撮影システムの開発		
振動実験用装置の設計および製作　～片持ち梁の横振動～		井上
小学生向け公開講座の教材の開発とその指導法		
CFRP層間せん断疲労強さの評価		田渕
CFRP硬化時の過昇温現象の評価		
CFRPの同時硬化タイミングによる破壊強度への影響の評価		

<生産工学専攻・機械工学コース>　特別研究

特別研究テーマ	学生名	指導教員
微風速で発電可能な風車の開発に関する研究	[redacted]	中山
垂直振動をうける粒子ダンパの制振予測		中山・井上
３軸加工における加工誤差検証に関する研究		浅尾
仮装基準を用いた工作機械の幾何誤差測定と加工誤差補正		浅尾
小型熱音響機器の開発		小清水
運転操作の異常検出法による次世代電動ピークルの開発		滝本
ハイブリッド型飛行観測システムの研究開発		滝本

（出典　「志遠」第 66 号より）

資料６－１－②－４

表　特別研究について学会等で発表した学生数

	生産工学専攻		制御工学専攻		物質化学工学専攻		全発表者数	全修了生数	発表者数の割合
	発表者数	修了生数	発表者数	修了生数	発表者数	修了生数			
H23年度	5	11	17	26	14	19	36	56	64.3%
H24年度	7	16	14	22	11	15	32	53	60.4%

※学会発表以外に，論文，研究報告，テクノフォーラム，学外コンテスト等を含む。

H23年度＝H24.3に修了した学生
H24年度＝H25.3に修了した学生

（出典　JABEE・認証評価委員会作成資料より）

資料６－１－②－６

平成23年度　専攻科生産工学専攻年（機械工学コース）公開発表会）の評価一覧表

※「取組み」、「論文（概要）」、「発表（発表＋討論）」について、6:2:2で総合評価し、「特別研究Ⅱ」の成績とする。
※ 概要は「平成23年度特別研究」保管ファイルに綴じる。
※「特研Ⅱコンタクトタイム」は保管ファイルとする。

学生（指導教員）／評価	A1001 [redacted]（浅尾教員）				A1009 [redacted]（種　教員）				A1010 [redacted]（小清水教員）			
	論文(10)	発表(10)	討論(10)	計(30)	論文(10)	発表(10)	討論(10)	計(30)	論文(10)	発表(10)	討論(10)	計(30)
①	[redacted]											
②												
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
評点平均												
100点換算												
JABEE委評価へ換算												
取組み評価点（指導教員、100点）												
H22特研II評価												
特研Ⅱコンタクトタイム（通年）				時間				時間				時間

（出典　平成 23 年度生産工学専攻（機械工学コース）特別研究Ⅱ成績集計表　より）

資料６－１－②－８

専攻科　学位取得者数

年度	専攻科修了者数	学位取得者数	学位取得率（%）
平成22年度	60	60	100%
平成23年度	55	55	100%
平成24年度	50	49	98%

（出典　専攻科資料　より）

観点６－１－③：　教育の目的において意図している養成しようとする人材像等について、就職や進学といった卒業（修了）後の進路の状況等の実績や成果から判断して、教育の成果や効果が上がっているか。

（観点に係る状況）

平成24年度の卒業生・修了生の進路状況を資料６－１－③－１に示す通り，卒業生の約50%，修了生の約38%が進学している。就職状況（資料６－１－③－２）を見ると，全員が工業・技術系の企業に就職しており，進学状況（資料６－１－③－３）を見れば工業・技術系の大学に進学している者が100%である。

以上のように，ほぼ100%の学生が希望する工業・理学・工学・技術系分野に就職，進学できており，本校の教育が活かされた進路先となっている。

さらに，平成24年度に実施した企業へのアンケート（資料６－１－③－４）を見ると，本校から採用実績のある企業の卒業生の仕事に対する評価では，高評価を得ており，多くの企業が，本校から就職した卒業生に対して，専門知識，実践力などの工学の専門性と，協調性や誠実さなどの人間性・社会性を高く評価している。

（分析結果とその根拠理由）

卒業生のほとんどが専門性を身に付け，本校の教育が活かされる企業・大学・大学院に就職・進学している。企業の本校卒業生に対する評価も高い。以上から，本校の教育の成果が上がっていると言える。これらから，本校が目標としている工学の専門性を身に付け，社会性，人間性の涵養においても教育成果が上がっていることがわかる。

資料６－１－③－１

平成24年度　進路状況　平成25年３月１日現在

平成24年度卒業生

学　科	卒業者数	就職希望者数（B）	求人数（A）	就職 内(々)定者数	求人倍率(A)÷(B)	進学希望者数	進学者数（※3）	研究生	公務員（※1）	専門学校（※2）	就職未決定者	進学未決定者	その他（進路未定）	備　考
機械工学科	38(2)	24(1)	326	24(1)	13.6	14(1)	13(1)					1		
電気電子工学科	46(2)	23(2)	329	23(2)	14.3	23	23							
電子制御工学科	43(3)	17(2)	314	13(2)	18.5	26(1)	25(1)			1	4	1		
制御情報工学科	36(12)	18(9)	287	18(9)	15.9	18(3)	17(3)					1		
物質化学工学科	38(15)	21(12)	179	17(8)	8.5	17(3)	17(3)				4			
計	201(34)	103(26)	1,435	95(22)	13.9	98(8)	95(8)			1	8	3		

平成24年度専攻科修了生

専攻名		修了者数	就職希望者数（B）	求人数（A）	就職 内(々)定者数	求人倍率(A)÷(B)	進学希望者数	進学者数（※3）	公務員（※1）	専門学校（※2）	就職未決定者	進学未決定者	その他	備　考
生産工学専攻	機械	7	5	127	5	10.6	2	2						
	電気	7	7		7									
	計	14	12		12		2	2						
制御工学専攻	電制	12(1)	10(1)	116	9(1)	8.9	2	2			1			
	制情	10(2)	3(2)		3(2)		7	7						
	計	22(3)	13(3)		12(3)		9	9			1			
物質化学工学専攻		15(3)	7(1)	55	7(1)	7.9	8(2)	8(2)						
計		51(6)	32(4)	298	31(4)	9.3	19(2)	19(2)			1			

○(　)は、女子学生を内数で示す。　※1 就職者数の内数　※2 進学者の内数　※3 進学未決定者は含まない

（出典　「志遠」第66号より）

資料６－１－③－２

本科生就職先一覧（地区別）　平成25年３月１日現在

（　）は、女子学生で内数

企　業　名	就職先所在地	機械	電気	電制	制情	化学	計
【関東地区】							
DIC㈱	千葉県					1(1)	1(1)
極東石油工業㈱	千葉県					1	1
出光エンジニアリング㈱	千葉県	1					1
出光興産㈱	東京都	1					1
岩谷瓦斯㈱	東京都	1					1
大陽日酸㈱	東京都	1					1
ソニーデジタルネットワークアプリケーションズ㈱	東京都			1			1
テルモ㈱	東京都			1			1
東レ㈱	東京都					1	1
本田技研工業㈱	東京都	1			1		2
雪印メグミルク㈱	東京都		1				1
ライオン㈱	東京都			1			1
リコーテクノシステムズ㈱	東京都		1(1)				1(1)
旭化成㈱	東京都					1	1
㈱アルファシステムズ	東京都		1				1
㈱アルメックス	東京都				1		1
㈱エーピーアイコーポレーション	東京都					1(1)	1(1)
㈱ジーエス・ユアサフィールディングス	東京都		1				1
㈱セイシン企業	東京都				1		1
㈱ディスコ	東京都	1					1
㈱三越伊勢丹ビルマネジメント	東京都			1			1
㈱日野ヒューテック	東京都	1					1
三菱電機ビルテクノサービス㈱	東京都				1		1
日本トーカンパッケージ㈱	東京都		1				1
日本海洋掘削㈱	東京都	1					1
日本鉄塔工業㈱	東京都	1					1
日立ビルシステム㈱	東京都	1					1
富士テクノサービス㈱	東京都		1				1
栗田工業㈱	栃木県	1					1
日立ビルシステムズ㈱	神奈川県		1				1
計		11	7(1)	4	4	5(2)	31(3)
【上信越・東海地区】							
JR東海㈱	愛知県			1			1
シロキ工業㈱	愛知県		1				1
中部電力㈱	愛知県	1	1				2
三菱重工㈱名古屋航空宇宙システム製作所	愛知県	1					1

志遠　平成25年３月12日（11）

企　業　名	就職先所在地	機械	電気	電制	制情	化学	計
花王㈱	愛知県					1	1
積水ナノコートテクノロジー㈱	愛知県					1	1
矢崎総業㈱	静岡県		1				1
セイコーエプソン㈱	長野県				1		1
計		2	3	1	1	2	9
【近畿地区】							
アドバンテック㈱	大阪府					1(1)	1(1)
ダイキン工業㈱	大阪府	1			1(1)	1(1)	3(2)
武田薬品工業㈱	大阪府	1				1(1)	2(1)
㈱フジキン	大阪府					1	1
第一精工㈱	大阪府	1	1				2
JR西日本㈱	大阪府		1	1			2
宇部興産機械㈱工場	大阪府			1			1
大阪ガス㈱	大阪府		1				1
関西電力㈱	大阪府			1	1		2
ダイキン工業㈱	大阪府		1				1
野里電気工業㈱	大阪府		1				1
花王㈱	和歌山県		1				1
東燃ゼネラル石油	和歌山県					1	1
計		3	6	3	2(1)	5(3)	19(4)
【中国地方】							
NSウエスト㈱	広島県		1				1
中国電力㈱	広島県		1				1
出光興産㈱	山口県		1				1
宇部興産㈱	山口県	1				1(1)	2(1)
計		1	3			1(1)	5(1)
【福岡県（北九州地区）】							
NSプラント設計㈱	北九州市	1(1)					1(1)
新日鐵エンジニアリング㈱	北九州市	1					1
全教研エコール折尾校	北九州市	1					1
㈱三井ハイテック	北九州市	1		1			2
北九州LNG㈱	北九州市			1			1
安川情報九州㈱	北九州市			1(1)			1(1)
八幡電機精工㈱	北九州市				1(1)		1(1)
㈱ソフトエナジーコントロールズ	北九州市		1				1
㈱タカギ	北九州市					1(1)	1(1)
計		4(1)	1	3(1)	1(1)	1(1)	10(4)
【福岡県（北九州地区を除く）】							
小竹化成㈱	朝手郡					1	1
JR西日本㈱	福岡市				1(1)		1(1)
エイテックス㈱	福岡市				1(1)		1(1)
三泉化成㈱	福岡市					1	1
富士ゼロックス福岡㈱	福岡市		1(1)				1(1)
㈱アスカコーポレーション	福岡市					1(1)	1(1)
㈱ソフネット	福岡市			1			1
㈱富士通九州システムズ	福岡市				1		1
三菱電機プラントエンジニアリング㈱	福岡市		1				1
富士通九州ネットワークテクノロジーズ㈱	福岡市				1(1)		1(1)
㈱明治九州工場	八女市				1(1)		1(1)
日本たばこ産業㈱	福岡市				1(1)		1(1)
㈱トヨタプロダクションエンジニアリング	福岡市				1		1
㈱エイチ・エル・シー	福岡市			1(1)			1(1)
計			2(1)	2(1)	7(5)	3(1)	14(8)
【九州地区（福岡県を除く）】							
JX日鉱日石金属㈱	大分県				1		1
TOTOファインセラミックス㈱	大分県	1					1
㈱小松製作所（実用試験部）	大分県	1					1
日本エアコミューター㈱	鹿児島県				1(1)		1(1)
㈱東洋新薬	佐賀県		1		1(1)		2(1)
旭化成㈱	宮崎県	1					1
計		3	1		3(2)		7(2)
【その他（未決定者）】							
就職希望				4		4(4)	8(4)
合　計		24(1)	23(2)	17(2)	18(9)	21(12)	103(25)

※企業によっては実際の配属所在地が異なる場合があります。

（出典　「志遠」第 66 号より）

資料６－１－③－３

平成24年度卒業予定者の進学状況　平成25年３月１日現在

（　）は、女子学生で内数

大学等名	学科					計
	機械	電気電子	電子制御	制御情報	物質化学	
北見工業大学工学部			1			1
山形大学工学部			1			1
宇都宮大学工学部		1				1
東京農工大学		2			1(1)	3(1)
千葉大学工学部		1			1	2

志　　遠　　平成25年３月12日（13）

大学等名	学科					計
	機械	電気電子	電子制御	制御情報	物質化学	
松本医科歯科大学					1	1
名古屋工業大学工学部				1		1
富山大学工学部	1(1)					1(1)
長岡技術科学大学	1		1			2
豊橋技術科学大学	2	1	2	1(1)		6(1)
和歌山大学工学部			1			1
大阪大学工学部		1				1
岡山大学工学部		1				1
高知工科大学			2			2
広島大学工学部		1				1
山口大学工学部		2		2(1)		2(1)
九州工業大学工学部		1		1(1)		4(1)
九州工業大学情報工学部			1(1)	3		3
北九州市立大学国際環境工学部			3			3
九州大学工学部		1	1			2
熊本大学工学部	1	2				3
宮崎大学工学部					1	1
鹿児島大学工学部		2		1		3
琉球大学工学部	1					1
香川高専専攻科			1			1
専門学校			1			1
北九州高専専攻科	7	7	10	8	13(2)	45(2)
進学決定者計	13(1)	23	25(1)	17(3)	17(3)	95(8)
進学希望	1		1	1		3
卒業生数(進学関係)	14(1)	23	26(1)	18(3)	17(3)	98(8)

（出典　「志遠」第66号より）

資料６－１－③－４（その１）

平成 24 年 11 月 8 日（火）

平成 24 年度　企業アンケートおよび修了生アンケート実施要項

JABEE 委員会
委員長　安信　強

１．アンケートの目的

「高等専門学校機関別認証評価」の受審で必要となる，卒業（修了）生が身に付けた学力や卒業（修了）後の成果等に関する意見について卒業（修了）生や進路先の企業等の関係者から意見を聴取し，その結果を元に教育の成果や効果について検討することを目的とする。

２．アンケートの設問

企業アンケートおよび修了生アンケートの設問を別紙資料に示す。

両アンケートの設問は，前回（平成 21 年度）実施した企業アンケートおよび修了生アンケートの設問を基本に，認証評価受審に合わせて一部修正の上，設定している。そのため，アンケート結果の分析，検討では今回のアンケートだけではなく，可能な範囲で以前のアンケートの集計結果との比較も行う。

３．アンケートの対象および実施期間

（1）アンケートの対象

平成 21 年度と平成 22 年度に卒業・修了生が就職した企業を中心に，前回（平成 21 年度）のアンケートに回答頂いた企業を加えて計 100 社（1 学科あたり 20 社），卒業・修了生 140 名を対象とする。

（2）アンケートの実施期間

・アンケートの依頼：平成 24 年 1 月～3 月末
・アンケートの回収：平成 24 年 5 月 31 日（木）締切り

４．アンケートの依頼方法

依頼先企業の方に極力，直接お願いすることを優先し，以下の 3 種の方法で依頼する。

（1）平成 23 年度合同企業説明会（平成 24 年 1 月 28 日（土）開催予定）に出席頂いた企業の方に，専攻科主事から依頼して頂く。
（2）平成 24 年度の求人活動で来校された企業の方に，学科長の先生から依頼して頂く。また，学科ごとに実施依頼企業リスト（20 社）を作成し，重複を避ける。
（3）上記の方法で依頼できなかった企業については，郵送で依頼する。

なお，前回と同様に，企業アンケートは卒業・修了生が在籍する企業に，修了生アンケートはその企業の卒業・修了生の代表（予め委員会で人選）に依頼する。

５．その他

（1）その他の要項については，前回（平成 21 年度）のアンケートに準じる。
（2）「高等専門学校機関別認証評価」で具体的に該当する評価基準は，下記の通りである。

○評価基準６：観点６－１－⑤

卒業（修了）生や進路先等の関係者から，卒業（修了）生が在学時に身に付けた学力や資質・能力や，卒業（修了）後の成果等に関する意見を聴取する等の取組を実施しているか。また，その結果から判断して，教育の成果や効果が上がっているか。

○根拠として必要となる資料

・卒業（修了）生，進路先等に意見を聴取する機会（懇談会，アンケート，インタビュー等）の概要を示す資料（聴取対象者，実施時期，聴取内容及び結果等）
・卒業（修了）生が在学時に身に付けた学力や資質・能力や卒業（修了）後の成果等に関する意見を聴取する取組の実施状況が把握できる資料
・学力や資質・能力の内容項目ごとに，聴取した意見の結果が把握できる資料

（出典　平成 24 年度企業アンケート実施要項　より）

資料６－１－③－４（その２）

企業アンケート用紙

北九州工業高等専門学校の教育に関するアンケート

1. 貴社の業種を番号でお選び下さい。

①製造業　②鉱業　③情報通信業　④電気・ガス・水道業　⑤運輸業　⑥サービス業　⑦農林・水産業
⑧建設業　⑨商業　⑩不動産業　⑪金融・保険業　⑫教育・学習支援業　⑬その他

回答［　　］

2. 北九州高専を含む高専からの最近５年間での採用実績を番号でお選び下さい。

①0名　②1～2名　③3～5名　④5～10名　⑤10名以上

回答［　　］

3. 高専卒業生の平均的な職種は（複数回答可）

①設計　②研究・開発　③製造・生産技術　④ 生産管理　⑤品質管理　⑥システムエンジニア
⑦セールスエンジニア　⑧営業・販売　⑨マーケティング・調査　⑩商品企画・デザイン
⑪教育　⑫人事・総務・経理・購買　⑬その他

回答［　　］

4．高専本科卒業生ならびに専攻科修了生は貴社に入社後どのような職域に位置づけられているかお答え下さい。

・本科卒業生（準学士）の場合

①年齢が２歳下の大卒と同じ処遇、②年齢が２歳上の工業高校あるいは専門学校卒業生と同じ処遇
③高専卒業生は、①でも②でもない別の人事処遇システムを採用

回答［　　］

③と回答された場合は、恐れ入りますが以下に内容を簡単にお書き下さい。

［　　］

・専攻科修了生（学士）の場合

①大卒と同じ処遇、②専攻科修了生は、大卒とは別の人事処遇システムを採用

回答［　　］

②と回答された場合は、恐れ入りますが以下に内容を簡単にお書き下さい。

［　　］

1

（出典　平成24年度企業アンケート質問項目より抜粋）

資料６－１－③－４（その３）

５．北九州高専の本科卒業生あるいは専攻科修了生を、大学の卒業生と以下の視点で比較した場合について、	①非常に満足	②満足	③普通	④不満	⑤非常に不満
・専門知識	0	18	14	3	0
・教養・一般常識	2	10	19	4	0
・語学力	1	3	20	10	1
・パソコン等による情報処理技術の能力	2	9	24	0	0
・主体性	0	10	24	1	0
・働きかけ力	0	8	24	3	0
・実行力	2	13	19	1	0
・課題発見力	0	7	26	2	0
・計画力	1	6	24	4	0
・創造力	1	7	24	3	0
・発信力	1	5	26	3	0
・傾聴力	1	11	21	2	0
・柔軟性	2	10	22	0	1
・状況把握力	1	9	25	0	0
・規律性	4	15	14	2	0
・ストレスコントロール力	1	12	19	3	0
合計	19	153	345	41	2

６．北九州高専では、「明るい未来を創造する開拓型エンジニアの育成」のために、以下に示すようなA～Fの技術者の育成を教育目標に設定しています。それぞれの目標の具体的達成目標は別紙をご覧下さい。	①きわめて重要	②重要	③普通	④あまり重要ではない	⑤重要ではない
(A)技術内容の高度化に対応できる基礎学力 (数学、自然科学、情報)と自己学習能力を	16	19	3	0	0
(B)専攻分野における専門知識を身につけた	8	21	8	1	0
(C)専門工学知識の上に実践的技術を身に付け	11	23	3	0	1
(D)幅広い視野から問題を捉え、複数分野の工学知識・技術を有機的に結び付け、総合的に問題を解決する能力を有する技術者	22	13	2	1	0
(E)多様な文化を理解する能力を持ち、日本語 および外国語によるコミュニケーション能力	6	19	12	1	0
(F)歴史・文化・社会に関する教養と頑健な心身 をもち、技術の社会・環境とのかかわりを考	5	17	15	0	1
合計	68	112	43	3	2

（出典　平成 24 年度企業アンケート集計結果より抜粋）

観点６－１－④：　学生が行う学習達成度評価等、学生からの意見聴取の結果から判断して、教育の成果や効果が上がっているか。

（観点に係る状況）

本校では，教育目標に対応する科目の履修，合格により目標を達成させており，全体の達成度は，卒業時にアンケートを実施して確認している。さらに適時，科目ごとに学生自身による学習達成度を把握する方法の一つとして，FD専門部会による授業アンケートも実施しており，より系統的に学習達成度を評価・判断するためのシステムが構築されている（資料６－１－④－１）。

資料６－１－④－１

平成２４年　６月　６日

教　員　各　位

ＦＤ委員会委員長
内田　武

FD 専門部会長
油谷　英明

平成２４年度 授業アンケートの実施と変更について（依頼）

授業改善・向上のための「授業アンケート」実施に際しましては、各先生方に御協力をいただき、厚く御礼申し上げます。FD 委員会で確認検討した結果、本年度のアンケートに関しては幾つかの変更点がありますので、ご報告させていただきます。

これまでアンケートの実施は各教員に対して２年に１回として、平成２１、２２年度を第１回目、２３、２４年度を第２回目として本年度も従来通りのアンケートの実施を計画していました。しかしながら、これまでの実施済み科目の集計を行なったところ、学科・学年で偏りが見受けられるとともに、システム的にアンケートを実施できない科目が生じる可能性のあることが分かりました。これらの改善のため、本年度はカリキュラム編成から見た未実施科目についてアンケートを実施したいと思います。なお、科目数に関しては従来通り１教員２科目（クラス）分を上限としますので、２４・２５年度の２年間で未実施科目を網羅する予定です。また、新任の先生については実施済みの科目であっても、初年度はアンケートの対象とさせていただきます。

また、演習、実験・実習科目、卒業研究、特別研究、輪講はこれまでアンケートの対象としていませんでしたが、カリキュラム上大きな位置を占め、本校の教育点検・改善上アンケートの実施は極めて有効であるため、これらの科目もアンケート対象としました。

座学科目については、従来通りの１教員２科目（クラス）分までとし、記述式・マークシート方式の二段階アンケートにより実施いたします（下記）。

卒業研究（５年生）、複合工学実験（専１年生）、特別研究及び輪講（専２年生）は毎年実施し、演習（ＣＡＤ・製図を含む）、実験・実習は２年を１サイクルとして実施します。卒業研究、複合工学実験、特別研究、輪講、演習及び実験・実習に係るアンケートは、全てマークシート方式で実施する予定ですが、後日実施方法を連絡致します。

実施方法の変更等でお手数をおかけしますが、FD 活動充実のためにも、ご理解の上、御協力いただきますようよろしくお願いいたします。

（出典　授業アンケートまえがきより）

FD専門部会が前・後期，通年と３回，科目をローテーションさせて実施（資料６－１－④－２）する授業アンケートの内容には，『この科目のシラバスに記されている達成目標に対する達成度は，どの程度でしたか？』の項目（資料６－１－④－３）があり，その結果を分析・解析することにより，本校が意図する教育の成果や効果について判断を行っている。資料６－１－④－４は，その一例を示したものである。これらは図書館に保管されており、担当外の科目についても自由に閲覧することができ，学生の達成状況を把握し，授業に反映する上で有効なものとなっている（資料６－１－④－５）。平成24年度の結果では，「ある程度達成できた」あるいは「十分達成できた」と答えた学生の割合は，全学科，全科目平均が７割を超える回答が得られた（資料６－１－④－６）。

資料６－１－④－２

平成２４年　６月　６日

教　員　各　位

ＦＤ委員会委員長
内田　武

FD 専門部会長
油谷　英明

平成２４年度 授業アンケートの実施と変更について（依頼）

記

１．実施内容
別添「座学科目の授業アンケート実施要領」のとおり。
（座学以外の科目については後日送付）

２．実施対象教員について
別添、「H24_授業アンケート実施科目」のとおり。
ただし授業担当の変更等により１教員の実施科目が２科目を超える場合、科目の変更を行う。

３　実施方法
（１）学生との対話型アンケート【記述式（雛形を添付）】
①「前期科目」と「通年科目」については、「前期中間試験終了後」に実施
②「後期科目」については、「後期中間試験終了後」に実施
※　質問内容につきましては、各先生方で学生に問いたい内容がございましたら、独自の内容で行っていただいて構いません。
※　記述式アンケート結果は提出せず各教員が保管します。先生方で回答の記述を見られ、授業改善等の必要な取り組みをお願いいたします。
（２）授業アンケート【マークシート】
(1)の①又は②の結果を踏まえて、授業改善等の取り組みを行い、「マークシート方式のアンケート」を実施する。
※　授業アンケート結果は提出し集計します。
（３）年間スケジュール
別添「H24_アンケート年間予定表」のとおり

４．その他
今後の予定は「H24_アンケート年間予定表」に沿って、実施時期が参りましたら御案内しますので、よろしくお願いいたします。

なお、御不明の点については、各学科の「ＦＤ委員会専門部会委員」にお尋ね下さい。
また授業担当の変更等により１教員の実施科目が２科目を超える場合、科目の変更を行いますので、その場合は各学科の「ＦＤ委員会専門部会委員」にご連絡ください。

（出典　授業アンケート実施要領より）

資料６－１－④－３

授業アンケート（座学・演習）

授業は教員と学生が一緒になって作るものです。教員は日頃から授業に対する皆さんの取り組みや反応に注意していますが、改めてアンケートの形で皆さんの考えを尋ねたいと思います。協力をお願いします。

以下の（1）～（24）の質問について、あなたの感じていることに近い数字（1.～4.）を一つ選んでマークシートの解答欄にマークしてください。

［1］ 学生の授業に対する取り組みについて

（1） シラバスは科目内容を理解する上で役に立ちましたか	1	全く役立たなかった	2	あまり役立たなかった	3	ある程度役立った	4	十分役立った
（2） 授業中、私語をする、居眠りする、ほかの科目のことをするなどせずに授業へ集中するように取り組みましたか。	1	全く取り組まなかった	2	あまり取り組まなかった	3	ある程度取り組んだ	4	十分取り組んだ
（3）講義内容についての質問や発言を積極的にするようになりましたか。（オフィスアワーを含む）	1	ほとんどならなかった	2	あまりならなかった	3	少しはなった	4	積極的になった
（4）この科目に興味が出てきましたか。	1	全く興味が出てこない	2	あまり興味が出てこない	3	ある程度興味がでてきた	4	非常に興味が出てきた、または最初から興味を持っていた
（5）この授業の進み方について行けるようになりましたか。	1	全くついていけない	2	あまりついていけない	3	ある程度ついていけろ	4	十分ついていけるようになった、または最初からついて行けた
（6）この科目のシラバスに記されている達成目標を達成できそうですか。	1	全く達成できそうにない	2	あまり達成できそうにない	3	ある程度達成できそうである	4	十分に達成できそうである
（7）この授業で出されたレポートや課題にきちんと取り組むようになりましたか。	1	全くなっていない	2	あまりなっていない	3	ある程度なってきた	4	取り組むようになった、または最初からきちんと取り組んでいる
（8）この科目について、教員に要求されたこと以外に自主的に予習・復習をするようになりましたか。	1	全くしていない	2	あまりしていない	3	ある程度はするようになった	4	するようになった、または最初からしている
（9）定期試験や小テストの勉強を積極的にするようになりましたか。	1	全くしていない	2	あまりしていない	3	ある程度はするようになった	4	するようになった、または最初からしている
（10）あなたから見て、この科目でのクラス全体の受講態度は変わりましたか。	1	非常に悪くなった	2	悪くなった	3	まあまあ良くなってきた	4	良くなった、または最初から良い

［2］ 教員の取り組みについて

（11）シラバス等を用いて授業の内容、年間計画、学習方法、また成績評価に関する説明がどの程度されましたか。	1	全くされなかった	2	あまりされなかった	3	ある程度された	4	十分された
（12）授業はシラバス通りに実施されましたか。	1	全くされなかった	2	あまりされなかった	3	ある程度された	4	十分された
（13）授業の準備や工夫など教員の取り組みは良くなりましたか。	1	非常に悪い（不満である）	2	あまり良くない（やや不満）	3	ある程度良くなった（やや満足）	4	とても良くなった、または最初から良い（満足）
（14）教員の授業の進め方は適切になってきましたか。	1	全く適切でない（不満である）	2	あまり適切でない（やや不満）	3	ある程度適切になった（やや満足）	4	満足できる程度に適切になった、または最初から適切である（満足）
（15）板書（OHP等の教材提示機器を含む）は見やすくなりましたか。	1	非常に見にくい（不満である）	2	やや見にくい（やや不満）	3	ある程度見やすくなった（やや満足）	4	とても見やすくなった、または最初から見やすい（満足）
（16）教員の話し方（声の大きさ、抑揚、テンポなど）は聞き取りやすくなりましたか。	1	非常に聞きづらい（不満である）	2	やや聞きづらい（やや不満）	3	ある程度聞きやすくなった（やや満足）	4	とても聞きやすくなった、または最初から聞きやすい（満足）
（17）授業の説明は理解しやすくなりましたか。	1	全く理解しにくい（不満である）	2	やや理解しにくい（やや不満）	3	ある程度理解しやすくなった（やや満足）	4	十分理解しやすくなった、または最初から理解しやすい（満足）
（18）授業中もしくはオフィスアワーなどで、学生の質問に対してきちんと対応してくれるようになりましたか。	1	全く熱心でない（不満がある）	2	あまり熱心でない（やや不満）	3	ある程度熱心である（やや満足）	4	とても熱心である、最初から熱心である（満足）
（19）定期試験の内容や範囲は、授業内容と合っていましたか。	1	全く合っていなかった	2	あまり合っていなかった	3	ある程度合っていた	4	十分合っていた
（20）小テスト・課題・定期試験の結果に対する添削、解説は十分されるようになりましたか。	1	全くされていない（不満である）	2	あまりされていない（やや不満）	3	ある程度されるようになった（やや満足）	4	十分にされる、または最初から満足している（満足）

［3］学生の授業改善に対する姿勢

（21）この授業を良くするために意見を述べる機会などを積極的に利用しましたか。	1	とても消極的だった	2	やや消極的だった	3	ある程度積極的だった	4	とても積極的だった、またはその必要がないくらい満足している
（22）今後、この授業を良くするために意見を伝えようと思っていますか。	1	思わない	2	少しは伝えようと思う	3	ある程度伝えようと思う	4	積極的に伝えようと思う、または伝えなくてもよいくらい満足する授業である

［4］教員の授業改善に対する姿勢

（23）教員は、授業方法について意見を聞く機会（例：記述式アンケート、ヒアリングなど）を設けられましたか。	1	何も実施されていない	2	クラス全員ではないが意見は聞かれた	3	ヒアリングが実施された	4	記述式アンケートで実施された、または意見を聞かれなくても満足するレベルの授業である
（24）教員は授業方法に対する意見を受け入れてくれると思いますか。	1	受け入れてくれないと思う	2	やや受け入れてくれないと思う	3	ある程度受け入れてもらえると思う	4	受け入れてもらえると思う、または意見を言う必要がない、満足できるレベルである

以上です。ご協力ありがとうございました。

（出典　授業アンケートより抜粋）

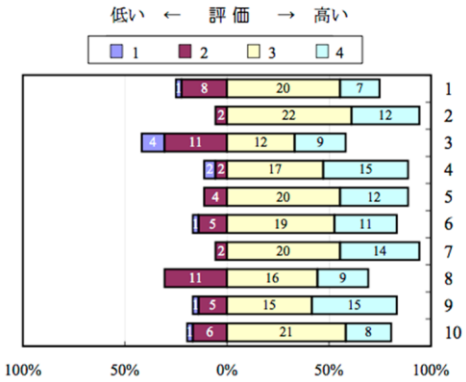
資料６－１－④－４

平成２３年度　授業アンケート　　集計結果

熱力学　　必修　2 単位　　担当　小清水孝夫
機械工学科　　4 年　　回答数　37

１．学生のこの授業に対する取り組みや考え方について

設問＼回答	低←評価→高 1	2	3	4	無効	有効	%
1 シラバスの理解度	1	8	20	7	1	36	97
2 集中度	0	2	22	12	1	36	97
3 積極性	4	11	12	9	1	36	97
4 興味・関心	2	2	17	15	1	36	97
5 難易度	0	4	20	12	1	36	97
6 達成度	1	5	19	11	1	36	97
7 課題の取り組み	0	2	20	14	1	36	97
8 自主性	0	11	16	9	1	36	97
9 試験の準備	1	5	15	15	1	36	97
10 学級の受講態度	1	6	21	8	1	36	97

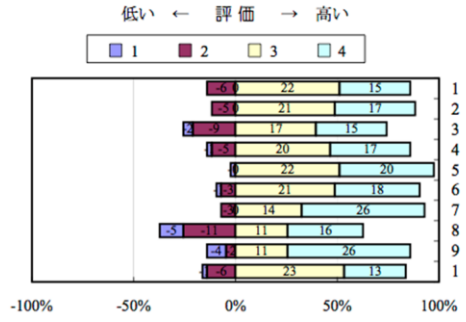


平成２３年度　授業アンケート　　集計結果

水力学　　必修　2 単位　　担当　中山博愛
機械工学科　　4 年　　回答数　43

１．学生のこの授業に対する取り組みや考え方について

設問＼回答	低←評価→高 1	2	3	4	無効	有効	%
1 シラバスの理解度	0	6	22	15	0	43	100
2 集中度	0	5	21	17	0	43	100
3 積極性	2	9	17	15	0	43	100
4 興味・関心	1	5	20	17	0	43	100
5 難易度	1	0	22	20	0	43	100
6 達成度	1	3	21	18	0	43	100
7 課題の取り組み	0	3	14	26	0	43	100
8 自主性	5	11	11	16	0	43	100
9 試験の準備	4	2	11	26	0	43	100
10 学級の受講態度	1	6	23	13	0	43	100



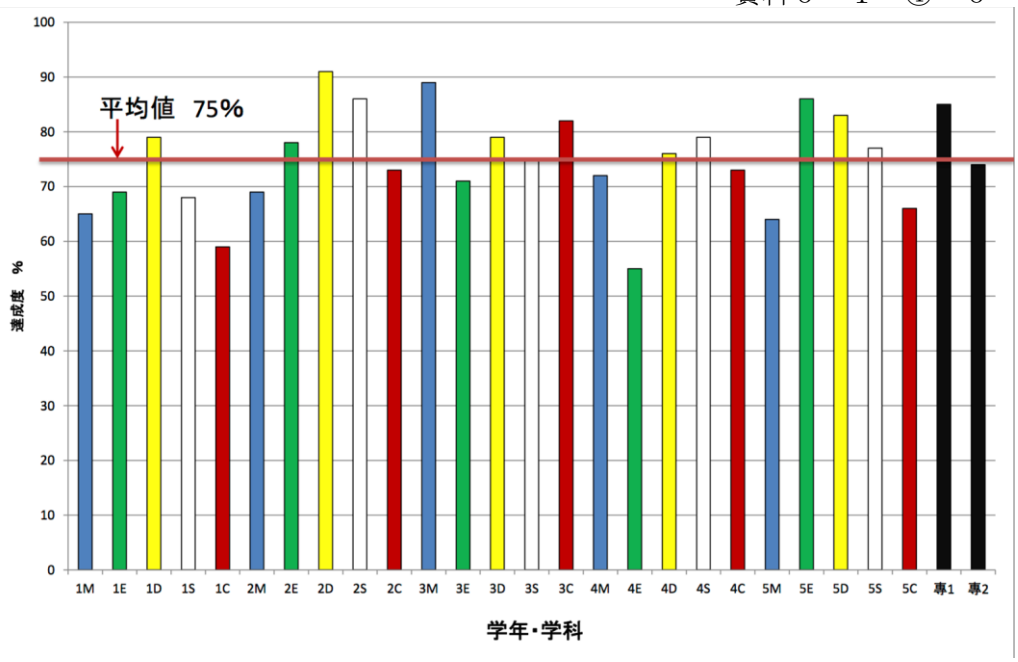
（出典　授業アンケート結果より抜粋）

資料６－１－④－５



（出典　自己点検・自己評価委員会より）

資料６－１－④－６

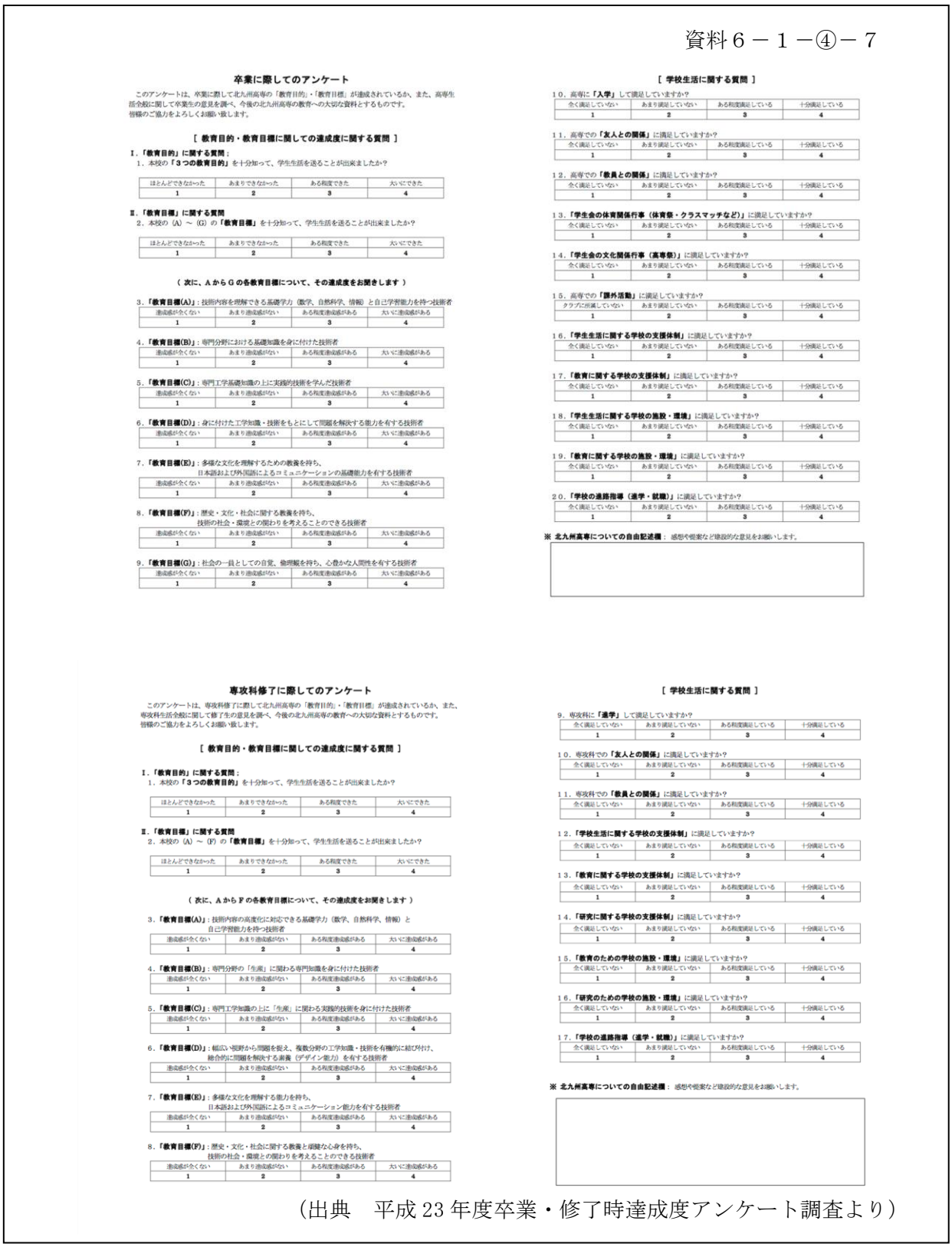


（出典　平成 23 年度授業アンケートによる達成度評価より）

また，平成21年度からは卒業・修了時の学生を対象に，教育目標等の最終達成度に関する調査（資料６－１－④－７）を実施しており，５～６割程度の学生がほぼ達成できたと回答している（資料６－１－④－８）。

さらに，学校生活全般に対する学生の満足度も高い評価が得られており，本校の特色の一つである『全人的早期理工系教育』の教育目標が達成できていると言える。

資料６－１－④－７



卒業に際してのアンケート

このアンケートは、卒業に際して北九州高専の「教育目的」・「教育目標」が達成されているか、また、高専生活全般に関して卒業生の意見を調べ、今後の北九州高専の教育への大切な資料とするものです。
皆様のご協力をよろしくお願い致します。

［ 教育目的・教育目標に関しての達成度に関する質問 ］

Ⅰ.「教育目的」に関する質問；
1．本校の「３つの教育目的」を十分知って、学生生活を送ることが出来ましたか？

ほとんどできなかった	あまりできなかった	ある程度できた	大いにできた
1	2	3	4

Ⅱ.「教育目標」に関する質問
2．本校の（A）～（G）の「教育目標」を十分知って、学生生活を送ることが出来ましたか？

ほとんどできなかった	あまりできなかった	ある程度できた	大いにできた
1	2	3	4

（ 次に、ＡからＧの各教育目標について、その達成度をお聞きします ）

3.「教育目標(A)」：技術内容を理解できる基礎学力（数学、自然科学、情報）と自己学習能力を持つ技術者

達成感が全くない	あまり達成感がない	ある程度達成感がある	大いに達成感がある
1	2	3	4

4.「教育目標(B)」：専門分野における基礎知識を身に付けた技術者

達成感が全くない	あまり達成感がない	ある程度達成感がある	大いに達成感がある
1	2	3	4

5.「教育目標(C)」：専門工学基礎知識の上に実践的技術を学んだ技術者

達成感が全くない	あまり達成感がない	ある程度達成感がある	大いに達成感がある
1	2	3	4

6.「教育目標(D)」：身に付けた工学知識・技術をもとにして問題を解決する能力を有する技術者

達成感が全くない	あまり達成感がない	ある程度達成感がある	大いに達成感がある
1	2	3	4

7.「教育目標(E)」：多様な文化を理解するための教養を持ち、
日本語および外国語によるコミュニケーションの基礎能力を有する技術者

達成感が全くない	あまり達成感がない	ある程度達成感がある	大いに達成感がある
1	2	3	4

8.「教育目標(F)」：歴史・文化・社会に関する教養を持ち、
技術の社会・環境との関わりを考えることのできる技術者

達成感が全くない	あまり達成感がない	ある程度達成感がある	大いに達成感がある
1	2	3	4

9.「教育目標(G)」：社会の一員としての自覚、倫理観を持ち、心豊かな人間性を有する技術者

達成感が全くない	あまり達成感がない	ある程度達成感がある	大いに達成感がある
1	2	3	4

［ 学校生活に関する質問 ］

10．高専に「入学」して満足していますか？

全く満足していない	あまり満足していない	ある程度満足している	十分満足している
1	2	3	4

11．高専での「友人との関係」に満足していますか？

全く満足していない	あまり満足していない	ある程度満足している	十分満足している
1	2	3	4

12．高専での「教員との関係」に満足していますか？

全く満足していない	あまり満足していない	ある程度満足している	十分満足している
1	2	3	4

13．「学生会の体育関係行事（体育祭・クラスマッチなど）」に満足していますか？

全く満足していない	あまり満足していない	ある程度満足している	十分満足している
1	2	3	4

14．「学生会の文化関係行事（高専祭）」に満足していますか？

全く満足していない	あまり満足していない	ある程度満足している	十分満足している
1	2	3	4

15．高専での「課外活動」に満足していますか？

クラブに所属していない	あまり満足していない	ある程度満足している	十分満足している
1	2	3	4

16．「学生生活に関する学校の支援体制」に満足していますか？

全く満足していない	あまり満足していない	ある程度満足している	十分満足している
1	2	3	4

17．「教育に関する学校の支援体制」に満足していますか？

全く満足していない	あまり満足していない	ある程度満足している	十分満足している
1	2	3	4

18．「学生生活に関する学校の施設・環境」に満足していますか？

全く満足していない	あまり満足していない	ある程度満足している	十分満足している
1	2	3	4

19．「教育に関する学校の施設・環境」に満足していますか？

全く満足していない	あまり満足していない	ある程度満足している	十分満足している
1	2	3	4

20．「学校の進路指導（進学・就職）」に満足していますか？

全く満足していない	あまり満足していない	ある程度満足している	十分満足している
1	2	3	4

※ 北九州高専についての自由記述欄：感想や提案など建設的な意見をお願いします。

専攻科修了に際してのアンケート

このアンケートは、専攻科修了に際して北九州高専の「教育目的」・「教育目標」が達成されているか、また、専攻科生活全般に関して修了生の意見を調べ、今後の北九州高専の教育への大切な資料とするものです。
皆様のご協力をよろしくお願い致します。

［ 教育目的・教育目標に関しての達成度に関する質問 ］

Ⅰ.「教育目的」に関する質問；
1．本校の「３つの教育目的」を十分知って、学生生活を送ることが出来ましたか？

ほとんどできなかった	あまりできなかった	ある程度できた	大いにできた
1	2	3	4

Ⅱ.「教育目標」に関する質問
2．本校の（A）～（F）の「教育目標」を十分知って、学生生活を送ることが出来ましたか？

ほとんどできなかった	あまりできなかった	ある程度できた	大いにできた
1	2	3	4

（ 次に、ＡからＦの各教育目標について、その達成度をお聞きします ）

3.「教育目標(A)」：技術内容の高度化に対応できる基礎学力（数学、自然科学、情報）と
自己学習能力を持つ技術者

達成感が全くない	あまり達成感がない	ある程度達成感がある	大いに達成感がある
1	2	3	4

4.「教育目標(B)」：専門分野の「生産」に関わる専門知識を身に付けた技術者

達成感が全くない	あまり達成感がない	ある程度達成感がある	大いに達成感がある
1	2	3	4

5.「教育目標(C)」：専門工学知識の上に「生産」に関わる実践的技術を身に付けた技術者

達成感が全くない	あまり達成感がない	ある程度達成感がある	大いに達成感がある
1	2	3	4

6.「教育目標(D)」：幅広い視野から問題を捉え、複数分野の工学知識・技術を有機的に結び付け、
総合的に問題を解決する素養（デザイン能力）を有する技術者

達成感が全くない	あまり達成感がない	ある程度達成感がある	大いに達成感がある
1	2	3	4

7.「教育目標(E)」：多様な文化を理解する能力を持ち、
日本語および外国語によるコミュニケーション能力を有する技術者

達成感が全くない	あまり達成感がない	ある程度達成感がある	大いに達成感がある
1	2	3	4

8.「教育目標(F)」：歴史・文化・社会に関する教養と頑健な心身を持ち、
技術の社会・環境との関わりを考えることのできる技術者

達成感が全くない	あまり達成感がない	ある程度達成感がある	大いに達成感がある
1	2	3	4

［ 学校生活に関する質問 ］

9．専攻科に「進学」して満足していますか？

全く満足していない	あまり満足していない	ある程度満足している	十分満足している
1	2	3	4

10．専攻科での「友人との関係」に満足していますか？

全く満足していない	あまり満足していない	ある程度満足している	十分満足している
1	2	3	4

11．専攻科での「教員との関係」に満足していますか？

全く満足していない	あまり満足していない	ある程度満足している	十分満足している
1	2	3	4

12．「学校生活に関する学校の支援体制」に満足していますか？

全く満足していない	あまり満足していない	ある程度満足している	十分満足している
1	2	3	4

13．「教育に関する学校の支援体制」に満足していますか？

全く満足していない	あまり満足していない	ある程度満足している	十分満足している
1	2	3	4

14．「研究に関する学校の支援体制」に満足していますか？

全く満足していない	あまり満足していない	ある程度満足している	十分満足している
1	2	3	4

15．「教育のための学校の施設・環境」に満足していますか？

全く満足していない	あまり満足していない	ある程度満足している	十分満足している
1	2	3	4

16．「研究のための学校の施設・環境」に満足していますか？

全く満足していない	あまり満足していない	ある程度満足している	十分満足している
1	2	3	4

17．「学校の進路指導（進学・就職）」に満足していますか？

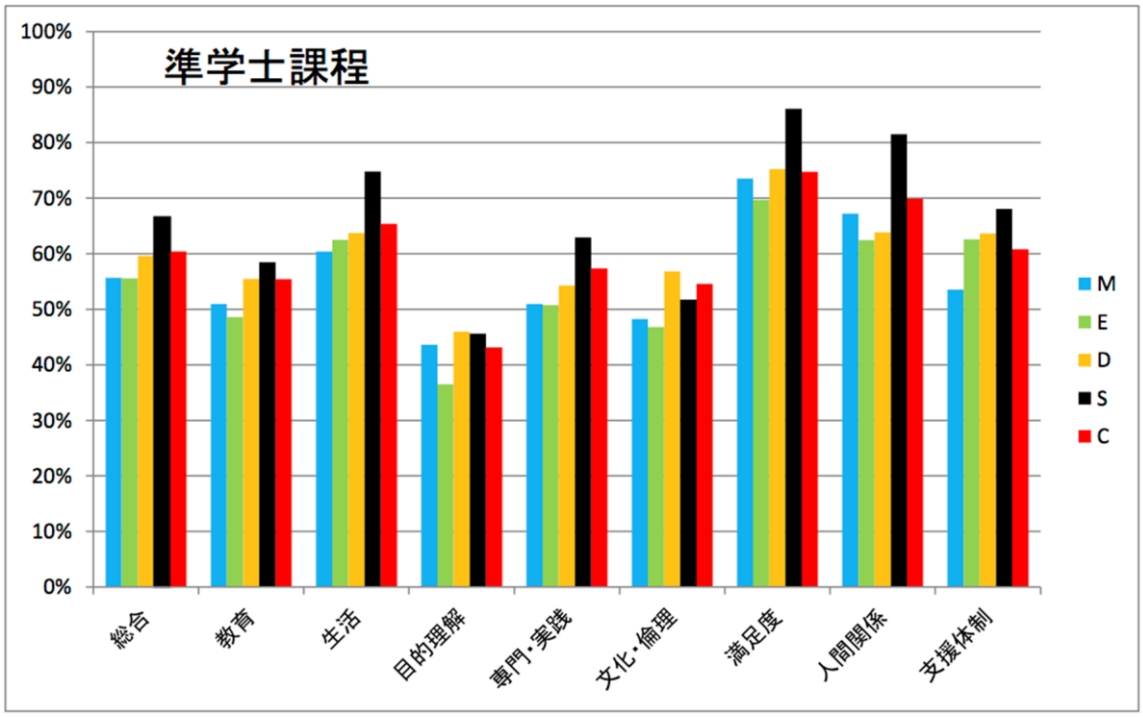
全く満足していない	あまり満足していない	ある程度満足している	十分満足している
1	2	3	4

※ 北九州高専についての自由記述欄：感想や提案など建設的な意見をお願いします。

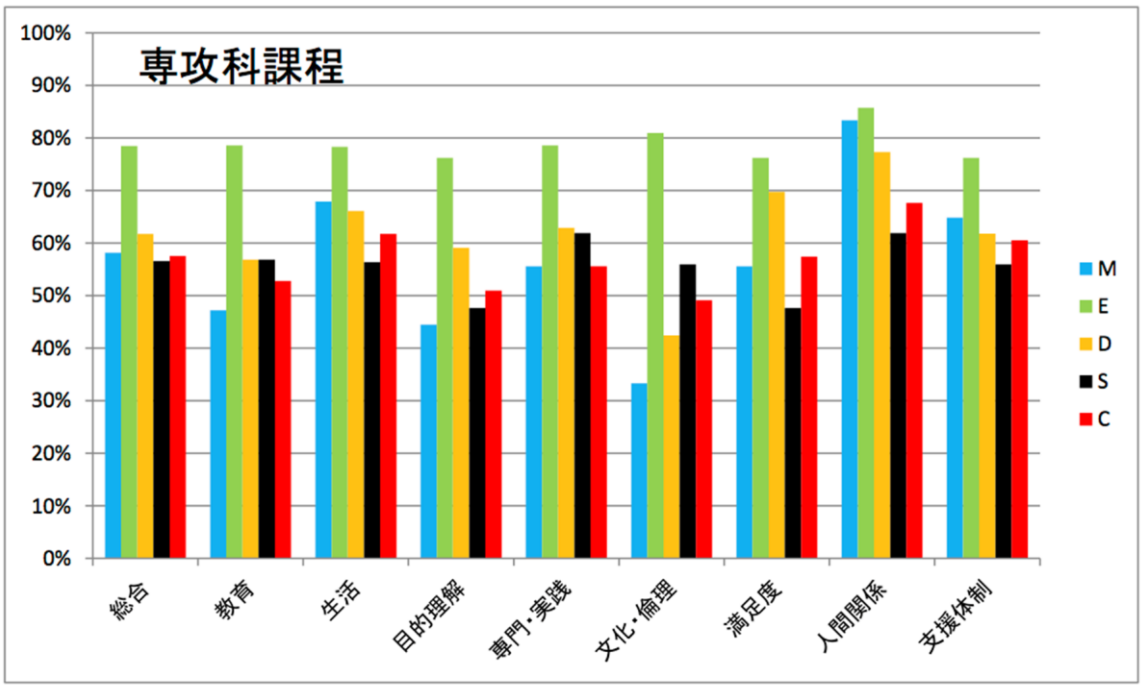
（出典　平成 23 年度卒業・修了時達成度アンケート調査より）

教育目標の最終達成度の「ほぼ達成できた」，「達成できた」学生の集計

資料６－１－④－８



M:機械工学科　E:電気電子工学科　D:電子制御工学科　S:制御情報工学科　C:物質化学工学科



M:機械工学科出身　E:電気電子工学科出身　D:電子制御工学科出身

S:制御情報工学科出身　C:物質化学工学科出身

（出典　平成 23 年度卒業・修了時達成度アンケート調査より）

（分析結果とその根拠理由）

適時受講時に行われる授業アンケートの学習達成度評価結果，並びに卒業・修了時に実施されている教育目標に対するアンケート調査結果から，６割以上の学生が，ほぼ達成できたと回答しており，この結果から本校が意図する教育の成果や効果は十分であると判断される。

観点６－１－⑤：　卒業（修了）生や進路先等の関係者から、卒業（修了）生が在学時に身に付けた学力や資質・能力や、卒業（修了）後の成果等に関する意見を聴取する等の取組を実施しているか。また、その結果から判断して、教育の成果や効果が上がっているか。

（観点に係る状況）

卒業（修了）生や就職先企業並びに編入学先大学等からの学力や資質・能力に関する意見聴取の取組としては，「教員による企業訪問」，「企業人事担当者の来訪」あるいは「学協会活動における企業・大学関係者との懇談」等の場を各学科が有効に活用して，日常的に実施されている。そこで得られた情報は，学科会議等で話し合いがなされ，重要なものについては，運営委員会等の会議で学科長から報告がなされている。

卒業（修了）生に対するアンケート調査を継続的に実施し，教育の成果並びに効果についての検証を行った（資料６－１－⑤－１）。

資料６－１－⑤－１（その１）

平成 24 年 4 月 2 日

北九州工業高等専門学校
卒業・修了生の皆様

北九州工業高等専門学校
校長　塚本　寛

「卒業生アンケート」に対するご協力のお願い

拝啓
本校卒業生の皆様には、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。
さて、変化の著しい社会情勢の中で、これからの高等教育は外部評価・グローバル化に十分対応できるものであることが強く求められ、北九州高専もそのような教育機関としての責務を果たす努力を日々重ねております。
そのためには、卒業・修了生の皆様の忌憚のないご意見に耳を傾け、それを厳粛に受け止めて更なる教育の改善をはかることが極めて重要なことと考えております。
そこで、このたび本校卒業・修了生の皆様に、本校の教育に対するアンケートをお願いすることとなりました。
卒業生の皆様には、ご多忙のことと存じますが、どうか本趣旨をご理解の上、ご協力を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。
なお、本アンケートの内容はアンケート実施担当委員会が集計し、貴重な第三者評価資料の一つとして利用するもので、皆様のプライバシーは厳守させて頂きます。
誠に勝手ではございますが、回答の締め切りを 5 月 25 日（金）とさせて頂きますので、どうぞ忌憚のない建設的なご意見をお寄せ下さいます様、宜しくお願い申し上げます。

敬具

追伸；
ご不明の点等がございましたら、恐れ入りますが、下記まで電話あるいはメールにてお問い合わせ下さい。宜しくお願い申し上げます。
〒802-0985　北九州市小倉南区志井 5 丁目 20 番 1 号
北九州工業高等専門学校　アンケート実施担当・安信　強
TEL & FAX : [redacted]（直通）　FAX : [redacted]（学科）
E-mail : [redacted]
または総務課総務係
TEL : [redacted]　E-mail : [redacted]

（出典　平成 24 年度卒業生・修了生アンケート調査依頼文より）

資料６－１－⑤－１（その２）

１、卒業年（卒業年度）	回答数
1994年(平成05年度)	1
1995年(平成06年度)	0
1996年(平成07年度)	0
1997年(平成08年度)	1
1998年(平成09年度)	1
1999年(平成10年度)	0
2000年(平成11年度)	2
2001年(平成12年度)	0
2002年(平成13年度)	2
2003年(平成14年度)	2
2004年(平成15年度)	3
2005年(平成16年度)	7
2006年(平成17年度)	6
2007年(平成18年度)	6
2008年(平成19年度)	11
2009年(平成20年度)	7
合計	49

２．卒業学科	回答数
①機械械工学科	13
②電気工学科(電気電子工学科)	15
③電子制御工学科	9
④制御情報工学科	6
⑤化学工学科(物質化学工学科)	6
合計	49

３．卒業後の進路	回答数
①就職	44
②就職後、転職	0
③進学	
a.北九州高専の専攻科	4
b.他校の専攻科	0
c.大学	0
d.最終的に大学院	0
合計	48

４．現在の職種	回答数
①設計・研究開発	14
②製造・生産技術	23
③システム開発・管理	3
④営業・販売	0
⑤マーケティング・調査	0
⑥経営	0
⑦商品企画・デザイン	0
⑧教育	0
⑨人事・総務・経理・購買	0
⑩その他	9
合計	49

５．海外での勤務経験	回答数
①ある	3
②ない	46
合計	49

６．北九州高専で受けた教育に関して、以下の点についてお答え下さい。

①北九州高専で受けた授業カリキュラムの中で、次の項目に関連する科目が十分な内容と時間数を確保されていたと思いますか。５段階で評価してください。	評点５	評点４	評点３	評点２	評点１
（1）自然科学系（数学・物理・化学の講義）	18	13	15	3	0
（3）専門工学の基礎となる科目	14	19	11	4	1
（4）専門の実験実習	12	16	13	5	3
（5）卒業研究または特別研究	8	13	20	6	2
（8）学外実習、工場見学	3	12	20	11	3
（2）情報処理に関連する科目	7	7	17	13	5
（7）人文科学系（地理・歴史・倫理・経営など）の講義	2	4	20	10	13
（6）日本語による記述力・口頭発表能力に関連する科目、語学教育	2	1	11	22	13
合計	66	85	127	74	40

②本校では現在、以下の（A）～（F）で表現される技術者の育成を学習・教育目標としています。あなたが北九州高専を卒業するとき、これらの目標が実際に達成されたと思われますか。５段階で評価してください。	評点５	評点４	評点３	評点２	評点１
（B）専攻分野における専門知識を身につけた技術者	3	20	16	8	2
（A）技術内容の高度化に対応できる基礎学力（数学、自然科学、情報）と自己学習能力を持つ技術者	3	17	18	10	1
（C）専門工学知識の上に実践的技術を身につけた技術者	2	10	17	13	7
（D）幅広い視野から問題を捉え、複数分野の工学知識・技術を有機的に結び付け、総合的に問題を解決する能力を有する技術者	1	11	15	17	5
（F）歴史・文化・社会に関する教養と頑健な心身を持ち、技術の社会・環境とのかかわりを考えることのできる技術者	0	4	27	13	5
（E）多様な文化を理解する能力を持ち、日本語および外国語によるコミュニケーション能力を有する技術者	0	2	12	23	12
合計	9	64	105	84	32

③次の教育分野に関して、それらは北九州高専を卒業してからどのくらい役に立ちましたか、５段階で評価してください。	評点５	評点４	評点３	評点２	評点１
d.専門技術に関する教育	10	20	13	4	2
c.数学、自然科学、情報技術に関する教育	4	25	13	7	0
a.人文科学、社会科学等に関する教育	1	4	23	16	5
b.語学教育	1	3	14	22	9
合計	16	52	63	49	16

④北九州高専の授業内容を、社会的水準と照らして、十分だったと思われますか。全体的に見て５段階で評価してください。	評点５	評点４	評点３	評点２	評点１
北九州高専の教育に関する全体的評価	9	19	13	8	0
合計	9	19	13	8	0

９．勉学以外で、卒業後に役立ったと思われることを教えてください。［重複可］	回答数
①友人関係	37
④自由な時間	23
③部活動	21
②寮生活	7
⑤その他	5
合計	93

１０．北九州高専で過ごした学生生活に対し、１００点満点で点をつけるとすれば、何点と思いますか。	回答数
100～90点	17
89～80点	20
79～70点	5
69～60点	3
59～50点	2
49～40点	1
39～30点	1
29～20点	0
19～10点	0
9～0点	0
合計	49

（出典　平成 24 年度卒業・修了生アンケート調査より抜粋）

資料６－１－⑤－２

No.	８．北九州高専で受けた教育に対して、重要性が高いと思われる改善事項があれば、その事項と具体的な改善案をお聞かせください。	
1	実際にどのようにして加工が行われているかどのような加工方法があるか等の知識をもっと学んでおけたらと感じました。実習の時間を増やすとよいと思います。	実習
2	人とのコミュニケーションをとる形の授業や発表する機会が設けられた授業。	コミュニケーション
3	全体的に勉強する時間を増やした方がいいと思う。留年する人が増えてもいいので，厳しくするべきである。	自学姿勢
4	英会話能力，技術英語など，英語に関する教育を強化すべきと考える。	英語
5	・非常勤講師（高専のシステムを理解していない方もいる） ・文章能力が低い。 ・プログラムはもっと実践的なものを作ってみるべき。	カリキュラム全般
6	卒業研究にもっと力を入れるべきだと思います。私の個人的な意見になってしまうのですが，高専生活を振り返ってどちらかと言うと受身的な姿勢での学習が中心だったと思います。卒業研究の最終発表に向けて自ら主体となって必要な知識を考え学習し，わかりやすく他人に伝えるといったことを努力することで社会で必要な能力が備わっていくと思います。	卒研，プレゼン
7	一般教養の授業内容のレベルが非常に低かったと思います（国語，社会（地理，歴史等））。古典をやって欲しいとは思いませんが，論文の書き方など，やってみてはどうでしょうか。	一般
8	実技教育の時間を増やす。	実習
9	流体力学。	専門
10	・第一に，実務教育の比重が少ない。理論の学習と共に実物に触れ，目に焼きつけることにより，理解度は向上するものと思われる。 ・第二に，自己発言力に関する教育が不十分である。実際に発言，討論する場を設け，コミュニケーション力，営業力を積極的に鍛えることが望ましいと思う。また，それに伴い，語学力の向上も必要かと思われる。外国語（特に英語）を含め，ボキャブラリーの充実は必要かと思われる。（今後は，独語等より中国語，ベトナム語が重要か？）	実習，コミュニケーション、英語
11	数学にもう少し技術的な観点から見た数学を含ませたほうがいい。（例えば，サンプリング技術から数学的な考え方をする等。）	数学
12	工場見学や企業体験といった色々な仕事を体験・学習する場を設けて頂けると就職活動に役立つと思う。また，1月28日に行われた説明会の後，知っている後輩に話しを聞くと，とても有益であったという回答が多かった。ブースを設けての説明会という少数と少数という空間のせいか，話し手も聞き手も本音を含めた回答，質問できた点が有益に感じられたのではないかと思う。	実習
13	・英語力 ・専門科目が社会でどう役立つか。学生のうちは想像できず，モチベーション向上のためにも非常勤講師や教授の方々の過去の社会経験から講義の場を設ける。	英語，専門
14	専門技術，知識においては大学同等レベルなのに対して，英語，社会などのいわゆる文系にまつわる学習が劣っているように感じた。密度の濃い授業を行ってはどうか。	一般
15	専門分野は十分に今のままで良いと思います。やはり英語が必要であったと思います。（と言ってもさんざん，先生方もおっしゃっていて，力を入れていたと思いますが・・・。）大卒レベルは欲しいと思いました。	英語
16	パソコンを使うことがよくあるので，パソコンの詳しい操作をより多くした方がいいと思います。	パソコン
17	英語	英語
18	仕事をしていく上で外国語が身に付いていることも大きな力になり，また，「英語ができない」ことは何かしらハンディになるなと感じるため，外国語をもっと身近に感じれる程度に勉強しておいた方が良かったと思います。	英語
19	人前（クラスメイト，学会など）で話しをする（プレゼンする）機会をもっともっと増やした方が良いと思う。社会に出ると大学卒，大学院卒とのスキルの差は非常に感じたので。	プレゼン
20	・統計学（正規分布）・・・どんな用途で使うのか，教えてほしい。 ・機構学・・・いろんな機構を教えてほしい。	数学，専門
21	特に挙げるとすれば，外国語でのコミュニケーション能力の低さ。学部卒，院卒の方々は大学受験の際に高専生と比べものにならない程，勉強されています。また，今後の経済事情を考え，英語に加え，中国語の勉強にも力を入れていたようです。点数を取るための勉強よりは自分の身になる勉強ができる環境作りが必要なのかもしれません。	英語
22	英語等，外国語に対する苦手意識を拭い切れない学生を多く目にしたので，そちらの改善が必要であると考えています。可能であれば，専攻に近い分野の方と話す体験を行えればと思います。	英語
23	人前で発表，プレゼンを行う能力が大学生に比べて劣っていると感じた。発表内容の構成や喋り方など，卒業論文の発表時以外にも盛り込むと良い。	プレゼン
24	座学だけだはなく，実際にモータ等の物を見ながら講義を進めて行くと，理解を深めやすいと思う。（実験とは別に教科ごとに。）	実習
25	理論的な思考力を身に付けられるような教育が必要と思われる。	一般
26	英語教育：外国語講師等を招いての授業（生きた英語を聞く）。	英語
27	英語教育　：　板書中心の授業よりも会話中心の授業	英語
28	語学能力（英語）がやはり大卒の人と比べてかなり低いので，学生が進んで語学を学ぼうと思えるような授業体系を整えるべきだと思う。（ALTの導入など）	英語
29	・英語の必要性を理解していないため，自分の身に付かない点。社会人になって英語が必要となり，学生時にもっと勉強していればと感じたため。英語を一から教え直して教えるだけでなく自主性を持たせる。例えば，自己紹介や作成資料を英語で行うなど。個人的にはビジネス英語等を取り入れて欲しいと今になって思いました。	英語
30	電気科で毎学年，「実験」を班で行うと思うが，学生にしてみれば，ただやっているだけとなっている。その技術を身に付けさせたければ，何かしら改善した方が良いかと思う。 ・英語教育および外国語教育（中国語）	実習
31	授業コマ数の増強。TOEICの点数による単位認定の点数の引き上げ（400点じゃ企業で評価されない。大体，500以上。）専攻科2年では厳しいので，本科から導入すると良いと思います。 ・ドイツ語は必要ないと思います。日常でも企業でも使いません。その代り，中国語を導入して頂きたい（必修科目として）。当社では中国語が話せる人材の採用を増やしている傾向があります。また，他企業でも中国語が[illegible]	英語，中国語
32	情報の知識，特にハード面では知識不足の人が多いと思う。PCの分解等の授業があれば，興味を持ちやすいのではないかと思います。	実習
33	外国語に力を入れるべきでは？	英語
34	英語，国語，プレゼンテーション能力（卒業研究）。社会で重要なのは知識ではない。考える，伝える力を伸ばす科目を増やすべき。	英語，プレゼン
35	・在学中および後輩の話しを聞いていると，以前よりも規則に縛られているように感じます。 （改善案）もっと”タテ”のつながりを強めてみては如何でしょうか。特に専攻科生によるTA（チュータ）制度を拡充することで低学年での基礎学力養成，専攻科生の経済支援（研究へ集中できる）にもなるのではないでしょうか。また，OBと気軽に話しを出来る機会があると良いかもしれません。	縦社会
36	英語・・・会社でも高専生は全般的に英語が苦手。1年生の頃から発音やコミュニケーション力を高めようとするのもいいが，若いうちに詰め込み教育をしてもいいのでは？と思います。	英語
37	・語学（英語）の授業の強化　⇒　スピーキングを重視した授業	英語，実習
38	ドイツ語より英語の時間を増やす，または，中国語を取り入れる方がいいと思う。	英語，中国語
39	[illegible]	一般
40	語学の時間が少ないと思う。グローバル化している今，英語力をしっかりさせるべきだと思います。また，実験でハプニングは起きた時に冷静に対処できるような教育を取り入れると，さらに有能な人材が育成されると思います。	英語，実習
41	英語力があまり身に付いていない。TOEIC等の点数が求められたりするので，今後はもう少し英語の学習内容を改善した方が良いと思う。 また，実験装置を新規に導入した方が良いと思う（原理や結果（スペクトル等）の解析方法の教育だけでも行うと，実際に企業で使用している装置（分析）と高専にある装置の違いで困惑しなくて済みます）。	英語，機器更新
42	英語に力を入れるべきと考える。職場で英語に触れる機会が非常に多い。外国人とSpeakできる機会を学校で与えてあげるのも良いかと。	英語
43	日頃の講義では，レベルの高い専門の知識は身に付くと思いますが，それはあくまでもテストで点数を取るためだけと思います。実際の化学プラントの提案や現場での作業，品管において教科書の内容はほとんど使いません。じゃ各科に2～3人は実際に現場等を経験された方を講師として招くと学生も興味を持ち易いと思います。また，就職先として多い，化学メーカがどのような事業をどういう風に展開しているかをレポートさせるのも良いと思います。	英語

（出典　平成 24 年度卒業・修了生アンケート調査の自由記述より抜粋）

ドイツ語シラバス

資料６－１－⑤－３（その１）

【教科名】ドイツ語（第２外国語）　German（Second Foreign Language）　＜履修単位科目＞

学年	学科	単位数	期間	開設週数	時間/週	総時間
3	全工学科	（選択）2	通年	30	2	60

【担当教員】坂口　浩　【教員室】１号館２階非常勤講師室　【TEL】8243(内線)　【e-mail】

【授業目的と概要】
本講義はドイツ語文法をマスターすることを目的とする。基本的には辞書があれば、文章を自力で読めるようになることを目的とする。

【授業の進め方及び履修上の注意】（準備する道具や前提となる知識）
文法の骨格の概説を行い、辞書の使い方を習得させる。平行して文法問題の反復的ドリルを行う。

授業項目	内容	時間
【前期】 i　文法１	動詞の人称変化、名詞変化、冠詞の変化、形容詞の変化、簡単な文章の語順等	16
中間試験		
ii　演習１	ほぼ２週間に１回の宿題を演習形式で行う	14
期末試験		
【後期】 i　文法２	動詞の３基本形、複合時称、接続詞、関係代名詞等	16
中間試験		
ii　演習２	ほぼ２週間に１回の宿題を演習形式で行う	14
定期試験		

【達成目標】
・英語以外の外国語を学び、言語構造の違いを理解するための論理的思考ができる。
・接続法を除いて、基本的に辞書をひき、簡単な独作・和訳ができる。

【教科書】
演習中心のドイツ文法，第三書房，安井啓雄著
新アポロン独和辞典，同学社，根本他著

【参考書】なし

JABEE 教育目標	
準学士課程目標	(E)①, (F)①

成績評価	【評価基準】 辞書引いて和訳ができる、簡単な独作ができるかを基準にする 【評価方法】 中間及び期末試験(再試を含む)85%,演習発表等 15%	【オフィスアワー】 授業時間の前後

（出典　平成 25 年度シラバスより）

韓国語シラバス

資料６－１－⑤－３（その２）

【教科名】韓国語（第２外国語）　Korean (Second Foreign Language)　＜履修単位科目＞

学年	学科	単位数	期間	開設週数	時間/週	総時間
3	全工学科	(選択) 2	通年	30	2	60

【担当教員】安　瀋珠　【教員室】１号館２階非常勤講師室　【TEL】8243(内線)　【e-mail】

【授業目的と概要】
本講義は韓国語の文字と発音をマスターし、日常生活に必要な簡単な会話文を身につけることを目的とする。

【授業の進め方及び履修上の注意】(準備する道具や前提となる知識)
文字をマスターするために書きと発音の練習に力を入れる。発音の練習には視聴覚資料を活用することが多い。会話文に慣れるために文型練習を並行する。

授業項目	内容	時間
【前期】 1．文法および文字（ハングル）	ハングルの母音・子音、発音のルール、パッチム、発音の変化、韓国語の語順、丁寧な言い方等。	20
2．会話	教室用語、挨拶、自己紹介等。	5
3．韓国文化の理解	しぐさ、言語表現等	5
期末試験		
【後期】 1．文法および文字（ハングル）	かしこまった「です・ます」の作り方、存在の有無に関わる表現、疑問詞を使った表現、助詞等。	14
2．会話	上記の文法を使った会話文の練習。	12
3．韓国文化の理解	衣食住文化。	4
定期試験		

【達成目標】
・英語以外の外国語を学び、言語構造の違いを理解するための論理的思考ができる。
・ハングル（文字）を読むことができる。
・日常生活に必要な簡単な会話ができる。
・言葉の背景にある文化に触れることによって、隣国に対する関心と理解を高めることができる。

【教科書】
新　チャレンジ！韓国語，白水社，
金順玉・阪堂千津子著
パスポート朝鮮語小辞典，白水社
【参考書】

JABEE 教育目標	
準学士課程目標	(E)①, (F)①

成績評価

【評価基準】
ハングルの書きと会話のための簡単な文法が分かるかを基準にする。

【評価方法】
期末試験および定期試験（70%）
小テスト・宿題（30%）

【オフィスアワー】
授業時間の前後

（出典　平成 25 年度シラバスより）

中国語シラバス

資料６－１－⑤－３（その３）

【教科名】中国語（第２外国語）　Chinese（Second Foreign Language）　＜履修単位科目＞

学年	学科	単位数	期間	開設週数	時間/週	総時間
3	全工学科	（選択）2	通年	30	2	60

【担当教員】日高　一宇　【教員室】１号館２階非常勤講師室　【TEL】8243(内線)　【e-mail】
馮　雅蓮　１号館２階非常勤講師室　8243(内線)
張　景珊　１号館２階非常勤講師室　8243(内線)

【授業目的と概要】
本講義は中国語の発音、スタンダードな文型および表現を中心に授業を行う。発音、基礎文法の習得ならびに日常会話の訓練を通してすぐに使える会話能力養成を目標とする。

【授業の進め方及び履修上の注意】（準備する道具や前提となる知識）
外国語習得にもっとも大切な「聞く」、「話す」を中心に、中国語初級会話に関する基本表現・重要表現と技能を集中的に練習して行う。音楽 CD,映像ビデオなどを必要に応じて使用する。授業内容の予習、復習を欠かさないように、講義に望むこと。

授業項目	内容	時間
【前期】		
Ⅰ 文法１	人称・指示代名詞、疑問文、名詞・動詞・形容詞述語文、副詞"也"、量詞、"有"と"没有"など、基礎を固める上で必ず習得しなければならない文法事項を学習する。	16
中間試験		
Ⅱ 会話１	ピンイン（発音記号）と発音を習得する。簡単な挨拶や自己紹介から日常生活における様々な出来事を中国語でもって表現できるようになることを目指す。会話練習を中心とした授業を行う。	14
期末試験		
【後期】		
Ⅰ 文法２	動詞の進行形・完了形、連動文、助動詞"会""能""可以"、状態の持続、能願動詞、経験を表す表現、比較表現・様々な補語などの文法を深める。	14
中間試験		
Ⅱ 会話２	より複雑な表現を学んでいき、文法と合わせてしっかり習得することによって、中国語のコミュニケーション能力を高める。	16
定期試験		

【達成目標】
・英語以外の外国語を学び、言語構造の違いを理解するための論理的思考ができる。
・中国語で簡単な日常会話ができ、基礎的な文章を書くことができる。
・言語の習得と共に異文化への理解を深めることができる。

【教科書】
『琅琅上口学漢語』水本敬子ほか著　駿河台出版社
『パックス　中日・日中辞典』　相原茂編　講談社
【参考書】

JABEE 教育目標	
準学士課程目標	(E)①, (F)①

成績評価

【評価基準】
発音、初級文法および日常的な初級会話が習得できていること。

【評価方法】
授業での学習状況および口頭発表 40%、中間・期末試験および定期試験 60%

【オフィスアワー】
授業時間の前後

（出典　平成 25 年度シラバスより）

その結果，語学教育の充実（選択科目の増加）を望む声が多く寄せられたが（資料６－１－⑤－２），本校では，既に，第２外国語として従来からのドイツ語，それに中国語・韓国語を設定し対処済みである（資料６－１－⑤－３）。また，総合科学科を中心に語学資格(TOEIC Bridge，TOEIC(IP)等)の取得に力を入れた教育を行う等の改善に努めると共に，専攻科生に対しても，「英語Ⅰ・Ⅱ」（必修科目）を設定し，授業外での英語学習活動を組込み，達成目標を明確化した（資料６－１－⑤－４）。

資料６－１－⑤－４

【教科名】英語Ⅰ　Advanced English Ⅰ

学年	学科	単位数	期間	開設週数	学校授業時間		自学自習時間		総時間
					時間/週	総時間	時間/週	総時間	
1	全工学専攻	(必修) 2	前期	15	2	30	4	60	90

【担当教員】渡辺　眞一　　【教員室】6号館1階　　【TEL】[redacted]　　【e-mail】[redacted]

【授業目的と概要】
文書あるいは口頭によるコミュニケーション能力の養成を軸に、総合的な英語力の向上を図る。具体的には「Successful Steps for the TOEIC Test Revised Edition」を用いて TOEIC に対応できるリスニング・リーディング能力を養成することを目的とする。 また、文法及び語法の復習のため、「Next Stage」を活用する。

【授業の進め方及び履修上の注意】
テキストは毎回 1Unit ずつ進めるのを基本とする。
また、10 回程度 Next Stage の小テストを行う。

【自学自習の指導について】
ATR CALL BRIX TOEIC 対策コースおよびテキストの Listening Practice Corner の自宅学習を行う。前者に関しては学習時間記録を確認し、後者は適宜提出を指示する。
また両者とも一部をテスト範囲に含める。

授業項目	内容	時間
【前期】		
授業ガイダンス	授業の進め方、課題、小テストの説明	1
文法・聴解・読解問題演習	Successful Steps for the TOEIC Test Revised Edition　Unit1・8	14
文法・聴解・読解問題演習	Successful Steps for the TOEIC Test Revised Edition　Unit 9・15	1 14
定期試験		
【後期】		
定期試験		

【達成目標】
・TOEIC400 点レベルの文法語法知識や語彙を習得し、同レベルの英文の大意が把握できる。
・TOEIC400 点以上、または英検準 2 級以上（一次試験は 70%以上）の英語力を示すことができる。

【教科書】
Successful Steps for the TOEIC Test Revised Edition
（成美堂）塚野壽一　他
【参考書】
Next Stage（桐原書店）瓜生・篠田著

JABEE 教育目標	(E)①③④
専攻科課程目標	(E)①③④

成績評価
【評価基準】
TOEIC400 点レベルの基礎的な TOEIC 出題形式のリスニング問題、読解問題に対応することができる。
TOEIC400 点レベルの文法・語法知識が身についていること。
【評価方法】
中間・定期試験 70%、小テスト・課題・受講態度等 30%とする。

【オフィスアワー】
水曜日　午後 4 時から 5 時

8.「生産デザイン工学」教育プログラムの修了要件

本校の「生産デザイン工学」教育プログラムを修了するためには、以下の(1)～(5)の要件をすべて満たさなくてはなりません。

（1）本校の専攻科を修了すること※。
（2）大学評価・学位授与機構より、学士（工学）の学位を取得すること。
（3）「生産デザイン工学」教育プログラムが定めた科目 124 単位以上を修得すること。
（4）本科 4 年次から専攻科 2 年次の「生産デザイン工学」教育プログラムにおいて、実時間で総計 1600 時間以上の授業時間（授業科目に割り当てられている時間）が確保されていること。この総授業時間には、250 時間以上の人文科学・社会科学（語学教育を含む）系科目の授業時間、250 時間以上の数学・自然科学・情報技術系科目の授業時間、900 時間以上の専門技術分野科目の授業時間が含まれること。
（5）学習・教育目標をすべて満たしていること。

（出典　平成 24 年度シラバス及び専攻科履修要覧より抜粋）

さらに，定期的に主な就職先企業に対するアンケートを実施し（資料６－１－⑤－５，６），これらの結果を，今後の教育活動に積極的に取り入れる予定である。

資料６－１－⑤－５

平成 24 年 4 月 2 日

人事担当部署御中

北九州工業高等専門学校
校長　塚本　寛

「本校卒業生の貴社入社後の評価に関するアンケート」へのお願い

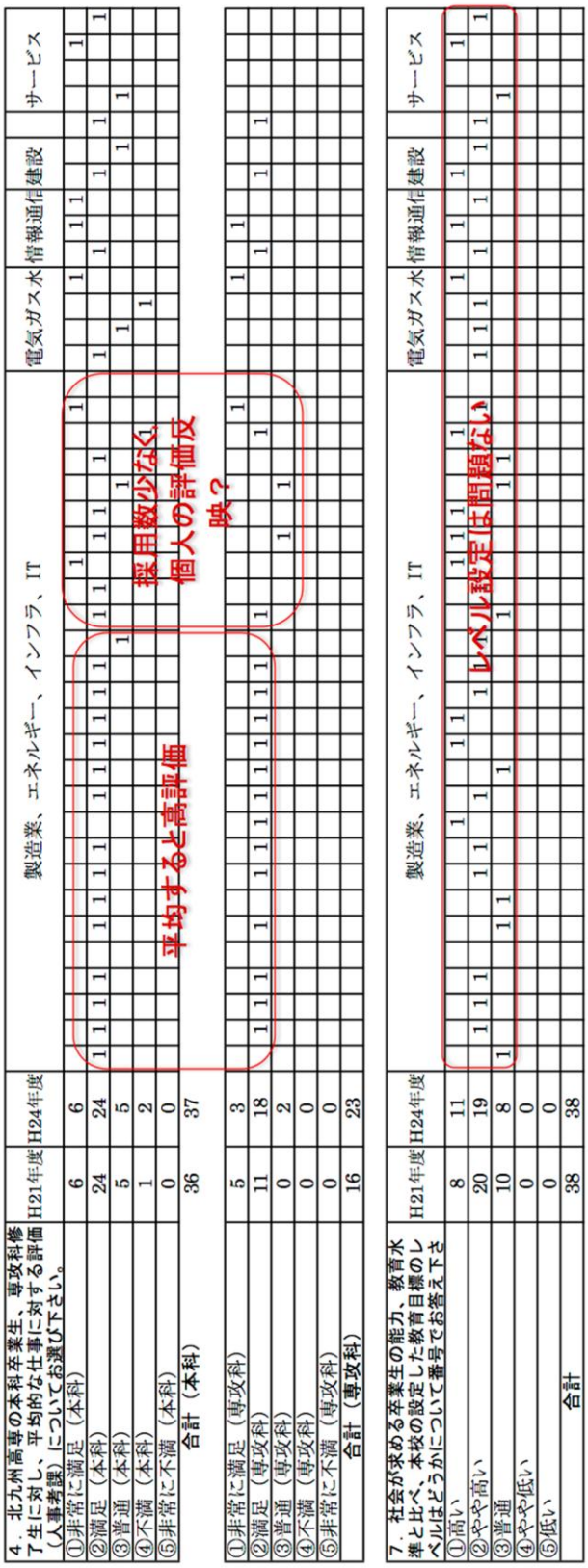
拝啓
貴社益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。
また、平素は本校の教育ならびに就職活動に対し、格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。
さて、当校では今後の教育・指導の参考とするため、本校を卒業・修了したのち、貴社で採用頂きました学生のその後の状況に付きましてアンケート調査を実施することを企画致しました。
変化の激しい社会情勢に対応できる学生の教育に役立てて参りたいと存じておりますので、ご多忙のところ誠に恐縮ではございますが、是非ご協力を賜り、5 月 25 日（金）までにご回答下さるよう、宜しくお願い申し上げます。
また、本アンケートと同時に本校卒業生に対するアンケートも実施したいと考え、貴社に現在在職いたしております本校卒業生用のアンケート用紙も同封させて頂きました。
お忙しいところ、恐縮に存じますが、貴社で人選の上、本人にお渡し頂ければ幸甚に存じ上げます。
誠に勝手ではございますが、趣旨をご理解頂き、ご協力の程、宜しくお願い申し上げます。

敬具

追伸；
ご不明の点等がございましたら、恐れ入りますが、下記まで電話あるいはメールにてお問い合わせ下さい。宜しくお願い申し上げます。
〒802-0985　北九州市小倉南区志井 5 丁目 20 番 1 号
北九州工業高等専門学校　アンケート実施担当・安信　強
TEL & FAX：[redacted]（直通）　FAX：[redacted]（学科）
E-mail：[redacted]
または総務課総務係
TEL：[redacted]　E-mail：[redacted]

（出典　平成 24 年度実施企業アンケートより抜粋）

資料６－１－⑤－６



4．北九州高専の本科卒業生、専攻科修了生に対し、平均的な仕事に対する評価（人事考課）についてお選び下さい。	H21年度	H24年度	製造業、エネルギー、インフラ、IT	電気ガス水	情報通信	建設	サービス
①非常に満足（本科）	6	6	1	1	1	1	1
②満足（本科）	24	24	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	1	1	1	1
③普通（本科）	5	5	1	1			
④不満（本科）	1	2		1		1	1
⑤非常に不満（本科）	0	0					
合計（本科）	36	37					
①非常に満足（専攻科）	5	3		1	1		
②満足（専攻科）	11	18	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1		1	1	1
③普通（専攻科）	0	2	1 1				
④不満（専攻科）	0	0					
⑤非常に不満（専攻科）	0	0					
合計（専攻科）	16	23					

7．社会が求める卒業生の能力、教育水準と比べ、本校の設定した教育目標のレベルはどうかについて番号でお答え下さい	H21年度	H24年度	製造業、エネルギー、インフラ、IT	電気ガス水	情報通信	建設	サービス
①高い	8	11	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	1	1	1	1
②やや高い	20	19	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	1 1 1	1	1 1	1
③普通	10	8	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1				1
④やや低い	0	0					
⑤低い	0	0					
合計	38	38					

（出典　平成 24 年度実施企業アンケートより抜粋）

（分析結果とその根拠理由）

卒業（修了）生や就職・進学先などの関係者から，卒業（修了）生が在学中に身に付けた学力や資質・能力等に関する意見を聴取する取組は，積極的に行われている。これらの取組の中で得られた意見（例えば，英語を中心とする語学教育の充実に対する要望）については，既に教育カリキュラムに組み込む等の措置が取られており，教育の成果や効果の改善につながっている。

（２）優れた点及び改善を要する点

（優れた点）

・準学士課程，専攻科課程共に，それぞれの教育目的並びに教育目標を達成するための科目群が配置され，それら科目を履修・単位取得を行うことによって，本校の教育目的が達成される学習教育課程（カリキュラム）が構築されている。
・卒業（修了）生のほぼ100％が製造業等の企業や，理工系，技術系の大学・大学院を進路先として選択し，受入先での評価も非常に高いことから，その効果が十分に上がっており，本校の教育目的の達成度は非常に優れている。

（改善を要する点）

該当なし

（３）基準６の自己評価の概要

準学士課程，専攻科課程共に，それぞれの教育目的並びに教育目標を達成するための科目群が配置され，それら科目を履修・単位取得を行うことによって，本校の教育目的が達成されるシステムが構築されている。さらに，各科目には，具体的な達成目標，評価基準や評価方法が定められており，それに基づき合否判定が実施されている。また，準学士課程では，特別活動，学校行事についても課程修了の重要な条件となっている。年度末には，これら全ての評価が総合的に判断されて，卒業あるいは修了の認定が行われており，教育目的及び目標の達成状況を把握・評価するための取組は適切に実施されている。

卒業生・修了生のほとんどが専門性を十分身に付け，本校の教育が活かされる製造業などの企業への就職，あるいは理工系，技術系の大学・大学院に進学し，高い評価を受けていることから，本校の教育の成果や効果は十分であると言える。

また，学生を対象に行われる授業アンケートの中の学習達成度評価並びに卒業時に実施される教育目標に対するアンケート調査などの結果から，７割以上の学生がほぼ達成できたと回答しており，卒業生や企業側からの評価より十分に教育効果が上がっていると判断される。これにより，本校が意図する教育の成果や効果については十分であると判断される。さらに，卒業（修了）生や就職・編入先などの関係者から，卒業（修了）生が在学時に身に付けた学力や資質・能力等に関する意見を聴取する取組は，アンケート調査として継続的・積極的に行われており，これらの取組の中で得られた意見（例えば，語学教育の充実に対する要望）については，教育カリキュラムの中に取り込む等の措置がとられ，教育の成果や効果の改善に結び付けられている。

以上のことから，教育の成果や効果は十分上がっていると言える。

基準７　学生支援等

（１）観点ごとの分析

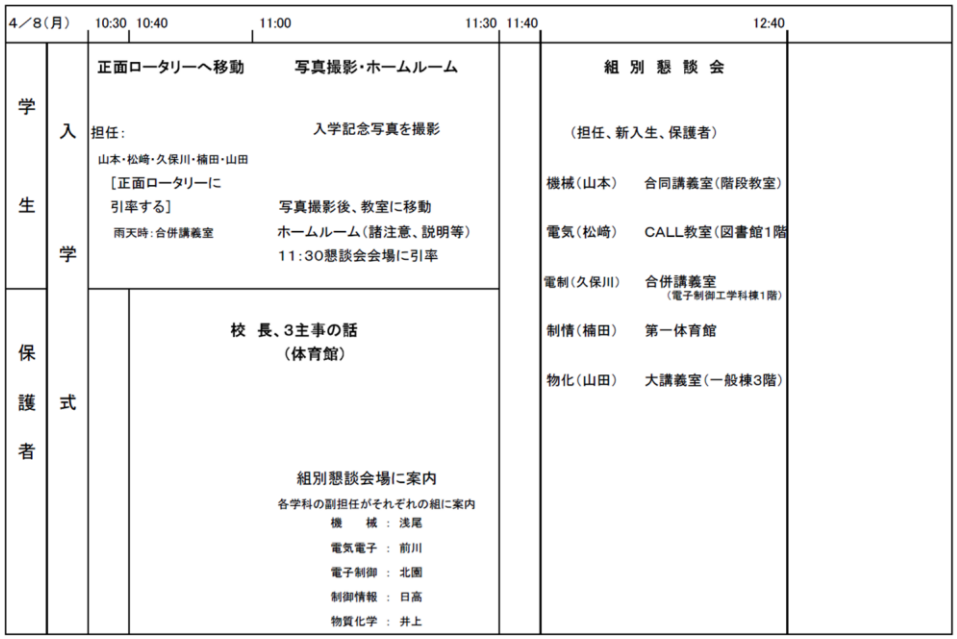
観点７－１－①：　学習を進める上でのガイダンスが整備され、適切に実施されているか。また、学生の自主的学習を進める上での相談・助言を行う体制が整備され、機能しているか。

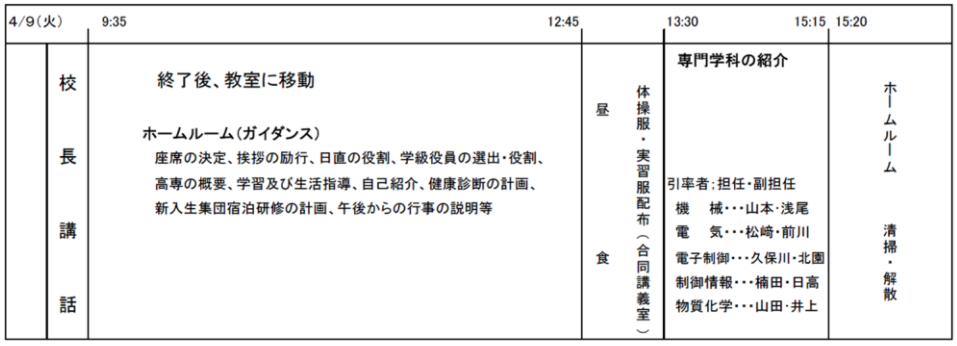
（観点に係る状況）

入学前の学習準備として入学予定者に課題を課している。入学当初には就学についての新入生オリエンテーションがあり，工学教育の導入として全工学科必修の工学基礎実験がある（資料７－１－①－１，２）。３年生では，各学科でオリエンテーションを実施している（資料７－１－①－３）。編入学予定者に対しても学習説明会を行っている（資料７－１－①－４）。

資料７－１－①－１

平成25年度　新入生オリエンテーション　スケジュール





＊　4月10日（水）午前中　実力テスト（1時限 国語　2時限 数学　3時限 英語）　午後 定期健康診断

＊　4月18日（木）～4月19日（金）集団宿泊研修　（国立山口徳地青少年自然の家）

（出典　平成25年度新入生オリエンテーションスケジュール）

資料７－１－①－２

工学基礎実験ガイダンス

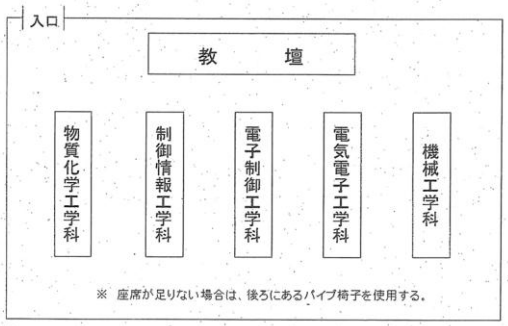
日 時　　平成25年4月16日(火)1時限～4時限

会 場　　2号館1階(合同講義室)
※教室で出席確認、資料配布後、会場へ移動

(スケジュール)

- ○ 校長先生の挨拶
- ○ 実験内容の説明と担当者の紹介
- ○ DVD鑑賞
- ○ 教務主事の講話
- ○ 実験場所の見学

◎ 工学基礎実験説明会の座席案内
会場　2号館1階(合同講義室)



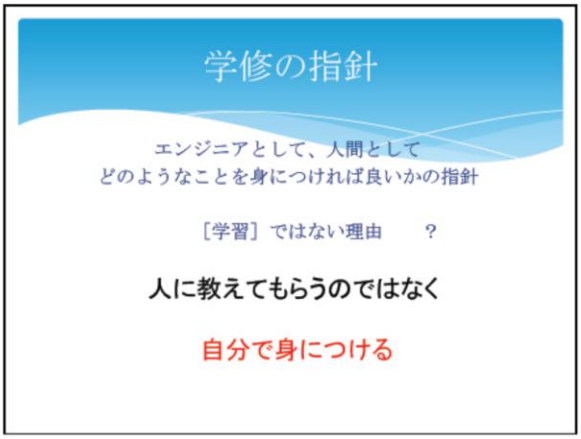
◎ 実験場所と担当者名

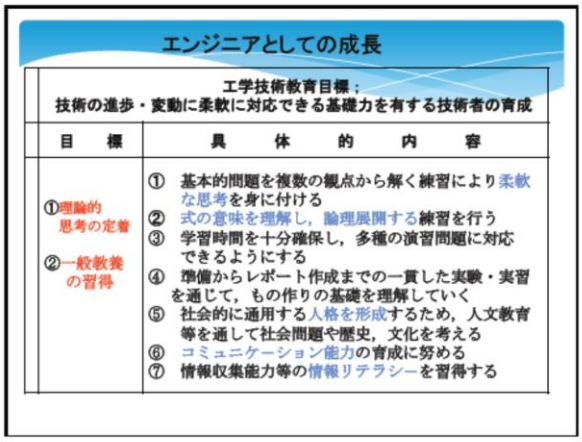
実 験 テ ー マ	実 験 場 所	担　当　者
機械部品のスケッチと計測	4号館1階 共用室(1)	教　　員:山本、平島 技術職員:矢上、北嶋
テスターの組み立てと基本測定	3号館1階 共通実験室1	教　　員:油谷、開道、前川、二宮 技術職員:下寄、祖堅
LEGOブロックを用いたコンピュータ制御ロボットの製作	4号館3階 知能情報演習室	教　　員:太屋岡、吉野 技術職員:竹田、坂口
自転車の分解と組み立て	第2体育館	教　　員:脇山 技術職員:竹内、中村、上手、船津、(島津)
金属板研磨による魔鏡の作成 保冷剤と発泡入浴剤の作成	第2工場 学生実験室1	教　　員:後藤 技術職員:幸後、内田

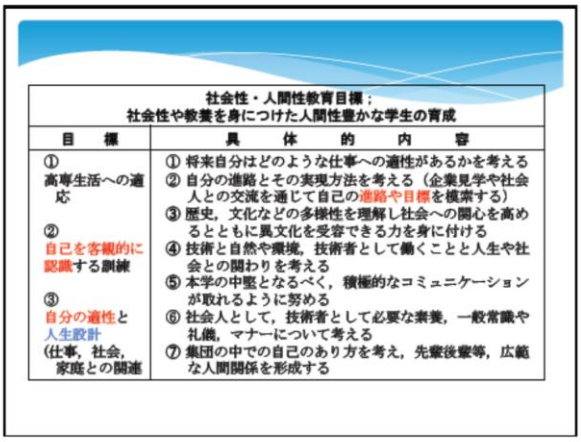
(出典　平成 25 年度工学基礎実験ガイダンス資料より抜粋)

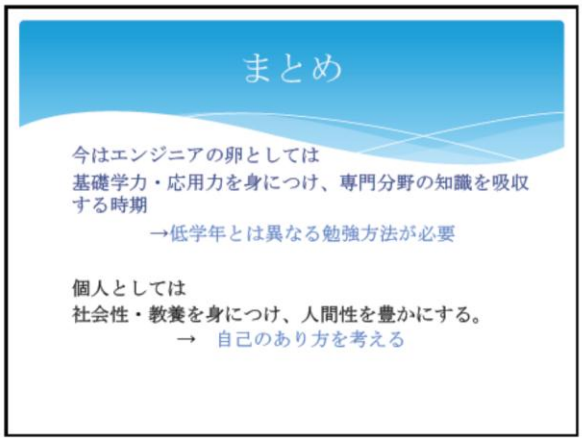
資料７－１－①－３

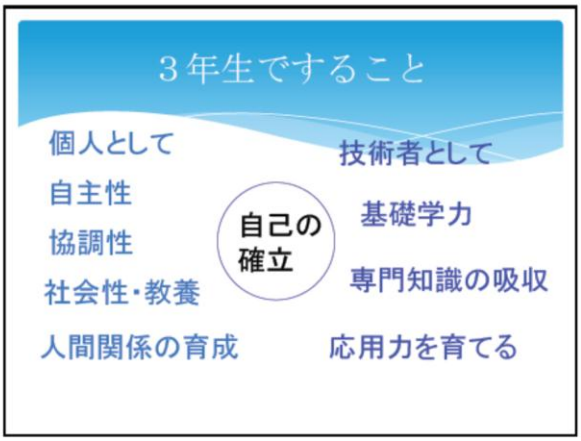












（出典　平成 24 年度電気電子工学科３年生オリエンテーション資料より抜粋）

資料７－１－①－４

平成２５年度編入学入学予定者の学習説明会について（通知）

標記のことについて下記のとおり学習説明会を実施しますので御来校ください。

記

１．日時　　平成２４年１２月２１日（金）　１３：００～１６：００

２．場所　　北九州工業高等専門学校　　１号館３階大講義室

※　筆記用具、学習済み・学習中の教科書（専門に関する科目）を携行してください。

（出典　平成 25 年度編入学入学予定者の学習説明会についてより抜粋）

専攻科では，入学前のオリエンテーションや夏休み前のガイダンスにおいて，専攻科履修要覧に基づいて履修や学位取得に関する説明を行っている。

授業科目の学習については，担当教員が授業初回時にシラバスを配布してガイダンスを行う。月割表やチェックリストも作成し，ウェブサイトや教室において学生自身が月別の学習内容や重要ポイントをチェックできるようにしている（資料７－１－①－５，６）。

資料７－１－①－５

平成24年度　科目内容月割表　　機械工学科　５　学年

科目	確率・統計基礎	生物工学概論	熱機関工学	伝熱工学	流体力学	設計製図Ⅱ	自動制御Ⅱ	メカトロニクス工学
担当	山田（康）	川原（C教員）	平島	小清水	中山	中山	滝本	横道（非常勤）
4月	確率の計算 条件付確率	蛋白質の化学 （アミノ酸、酵素） 生理活性物質 （糖質、脂質）	導入（シラバス） 蒸気の性質	伝熱工学とは 熱の伝達方法	流体力学概説 流体の性質（復習）	渦巻ポンプの説明 および 主要部品の計算	制御系の応答	メカニズムとブロック線図 線形と非線形メカニズム
5月	確率変数（離散型） 2項分布・ポアソン分布	酵素反応 （Michaelis-Menten式） 生成物阻害反応	蒸気表と蒸気線図の 利用方法	熱伝導の基礎 熱伝導の計算の 取り扱い方	完全流体の力学 流体運動の基礎式	主要部品の計算 および羽根車の製図	制御系の安定性	歯車機構の入出力 送りねじ機構 2段減速機構
6月	平均・分散 連続的確率分布	固定化酵素 バイオリアクターの設計	蒸気サイクルの 種類と効率比較 ボイラーの種類と機能	熱伝導の計算（円筒、球） 非定常熱伝導の計算 中間試験	完全流体の力学 流体運動の基礎式 中間試験	組立図の製図	中間試験 状態変数と伝達関数	中間試験 トランジスタの動作特性 基本回路の計算
7月	2変数の確率変数	遺伝子組み換え技術 細胞融合	蒸気タービンの 種類と機能 蒸気サイクルの総合効率	熱通過	完全流体の力学 渦なし流れ	部品図の製図	可制御性と可観測性の条件と状態方程式の解法	増幅回路と等価回路
9月	度数分布	ﾊﾞｲｵ生産物の分離精製 抽出、濾過、吸着、 蒸留、晶析	内燃機関の作動 2サイクルエンジン 4サイクルエンジン	熱通過 期末試験	完全流体の力学 渦なし流れ 期末試験	部品図の製図 検図	極配置 定期試験	カセンサ 変位センサ 期末試験
10月			理論サイクルと 実際の機関 理論，図示，正味出力	熱交換器 ひれ付き面の伝熱	完全流体の力学 複素ポテンシャル			ロボットの制御方式 2リンクの順・逆運動学
11月			理論，図示，正味効率 容積効率，吸入効率 燃料組成と発熱量	対流熱伝達 沸騰熱伝達	粘性流体流れの基礎 粘性流体流れの 基礎方程式と解析例			2リンク機構の逆動力学 円筒座標ロボットの制御
12月			理論空気量の計算 内燃機関の燃焼 排出ガスの特性と低減法	中間試験 凝縮熱伝達	境界層流れ 噴流と後流 中間試験			同次座標系による各種 ロボット運動表示 中間試験
1月			現在のエネルギ事情 原子力エネルギー	放射熱伝達	圧縮性流体の力学 圧縮性流体の基礎式			AD変換の基礎 2進・16進数表現 レジスタ
2月			核融合反応の基礎 原子力発電	物質伝達 定期試験	圧縮性流体の力学 一次元の定常流れ 衝撃波 定期試験			アセンブラ CによるAD変換とサーボ機構のデジタル制御 定期試験
備考		化学反応速度論，原子構造の基礎について学習する。	蒸気サイクル、内燃機関、原子力発電を取りあげて熱の有効利用法と環境について学ぶ。	3つの伝熱形式（熱伝導，熱伝達，熱放射）を理解し，工業分野への応用力をつける。	水力学を基本としているが，微分積分，複素関数の知識を必要とする。	機械工学科で学ぶ設計製図の総まとめとする。手描き，CAD製図のどちらでも良い。	自動制御で学んだ伝達関数による制御を状態方程式で記述して，現代制御の基本を学習する。	メカトロニクス工学では機構学，設計工学，電気電子，制御の応用を展開をする。

（出典　平成 24 年度機械工学科５年，月割表）

資料７－１－①－６

≪ 科目で理解すべき内容と学生による自己チェック ≫　1/2

授業科目　：　熱機関工学（5M、通年、必修2単位）、平成24年度
テキスト　：　熱機関工学（越智敏明ほか コロナ社）
授業担当　：　[redacted]

重要度とは　◎：特に重要な内容（内容を理解した上で、正確な説明と利用ができること）
○：付随的に大切な内容（内容を理解できること）
○、△、×を付ける

分野	項目	理解すべき具体的な内容	重要度	学生の自己チェック
蒸気工学	蒸気の状態変化	圧縮水、飽和水、湿り蒸気	○	
		乾き蒸気（乾き度）、過熱蒸気	○	
	蒸気の熱的性質	飽和（蒸気）表	◎	
	・蒸気表の見方	圧縮水と過熱蒸気表	○	
	・蒸気線図の利用法	h－s線図	◎	
		T－s線図	○	
	蒸気サイクル	ボイラ受熱量、タービン仕事	○	
	・ランキンサイクル	ポンプ仕事、復水器放熱量	○	
		理論熱効率と効率向上	◎	
	・その他の蒸気サイクル	再熱サイクル、再生サイクル、再熱・再生サイクル	○	
	ボイラ	丸ボイラ、自然循環式水管ボイラ、	○	
	・ボイラ形式	強制循環式ボイラ、貫流ボイラ	○	
	・ボイラ性能	最大連続蒸発量	○	
		相当蒸発量	○	
		ボイラ効率	◎	
	蒸気タービンの作動と蒸気の作用	ノズル出口速度	◎	
	・ノズル	ノズル効率、ノズル損失	◎	
	・タービン	タービンの構成（タービンの段）	○	
		速度三角形、線図仕事と線図効率	◎	
	・蒸気タービンの性能	周辺効率（段効率）、タービン内部効率	◎	
	蒸気サイクルの総合熱効	蒸気サイクル効率、ボイラ効率	◎	
	・総合効率の関わる因子	タービン効率、発電機効率	◎	
内燃機関	熱機関の種類	内燃機関と外燃機関の違い	○	
	内燃機関の分類	レシプロエンジン、ロータリエンジン	○	
	・作動方式	ガソリンエンジン（火花点火機関）	◎	
	・燃料及び燃焼方式	ディーゼルエンジン（圧縮着火機関）	◎	

（出典　機械工学科５年，熱機関工学チェックリストより抜粋）

シラバスには，全教員のオフィスアワー，メールアドレス，内線番号が明記され，いつでも学生の質問や相談に応じている。

また，専攻科生を準学士課程学生の演習補助者（TA；ティーチングアシスタント）として採用する制度があり，実験・演習等で実施している（資料７－１－①－７，８）。

資料７－１－①－７

平成２４年度ティーチング・アシスタント実施予定(数学演習)

専　攻	学　科	教科担当教員	クラス・授業科目	学生氏名	実施時間
生産工学専攻	機械工学科	石井 伸一郎	１M・数学演習(後学期)	(今年度は実施なし)	
	電気電子工学科	徳一 保生	１E・数学演習(後学期)	[redacted]	15
					15
					15
					15
					15
制御工学専攻	電子制御工学科	豊永 憲治	１D・数学演習(後学期)		15
					15
					15
					15
					15
					15
	制御情報工学科	竹若 喜恵	１S・数学演習(後学期)		15
					15
					15
					15
					15
物質化学工学専攻	物質化学工学科	山田 康隆	１C・数学演習(後学期)		15
					15
					15
					15
					15
合　計					315

資料７－１－①－８

黄枠の学生に任命書を作成。他の学生は、前期に任命書を発行済。

平成２４年度ティーチング・アシスタント実施予定(専門)

専　攻	学　科	教科担当教員	クラス・授業科目		学生氏名	実施時間
生産工学専攻	機械工学科	井上昌信	１M・基礎情報処理(通年)		[redacted]	60
		宮内真人	４M・ＣＡＥ演習(前期)			30
		小　計				90
	電気電子工学科	油谷英明	１年・工学基礎実験(前期)			28
						28
		本郷一隆	１E・電気電子基礎工学実験(後期)			60
		小　計				116
制御工学専攻	電子制御工学科	秋本高明	１D・基礎情報処理(通年)			20
		白濱成希	３D・情報処理(通年)			20
			５D・応用ネットワーキング(通年)	前期		15
		太屋岡篤憲	１D・工学基礎実験(前期)			35
			５D・電子制御工学実験実習(前期)			30
		小　計				120
	制御情報工学科	樫村秀男	５S・応用制御情報実験(前期)			10
						10
		脇山正博				20
		久池井　茂				20
		古野誠治	３S・センサ工学(後期)			15
		浜松　弘	２S・ロボット基礎演習(通年)	前期		30
				後期		
		山内幸治	２S・情報処理(通年)	前期		10
				後期		0
		乙部由美子	２S・CAD(通年)	前期		0
				後期		20
		小　計				135
物質化学工学専攻	物質化学工学科	橋爪・前田	１C・基礎化学演習Ⅰ(前期)			24
		橋爪・前田	１C・基礎化学演習Ⅱ(後期)			24
						24
						24
		園田・大川	２C・基礎化学演習Ⅲ(前期)			24
		小　計				120
合　計						581

（出典　専攻科委員会資料（平成 24 年度 TA 実施予定））

（分析結果とその根拠理由）

学生全体に対してガイダンスを行い，シラバス，月割表，チェックリストを配布して指導している。個人指導についてもオフィスアワーを中心に質問や相談に応じている。よって，学生が自主的学習を進める上での相談・助言を行う体制が整備されて機能している。

観点７－１－②：　自主的学習環境及び厚生施設、コミュニケーションスペース等のキャンパス生活環境等が整備され、効果的に利用されているか。

（観点に係る状況）

自主学習スペースとしてホームルームの各教室が使用できる。専攻科生には，研究室に自学スペースが用意されている。

図書館も学生が利用しやすい開館時間を設定し，多くの学生に利用されている（資料７－１－②－１，２）。平成24年度から多目的学習室を整備し，利用実績がある（資料７－１－②－３）。

資料７－１－②－１

北九州高専図書館利用案内



開館時間・開館日　（図書館ホームページに年間の開館日カレンダーを載せています。）

開館時間	授業の行われている期間	月曜日～金曜日	08：45～20：00	
		月曜日～金曜日	08：45～21：00	試験開始前２週間
		土曜日	10：00～17：00	
		日・祝日	10：00～17：00	試験開始前２週間・試験期間中
	春・夏・冬の休業日、授業のない日	月曜日～金曜日	08：45～17：00	
休館日	日曜日・国民の祝日・夏季（８月13日～14日）・年末年始（12月27日～１月４日）			

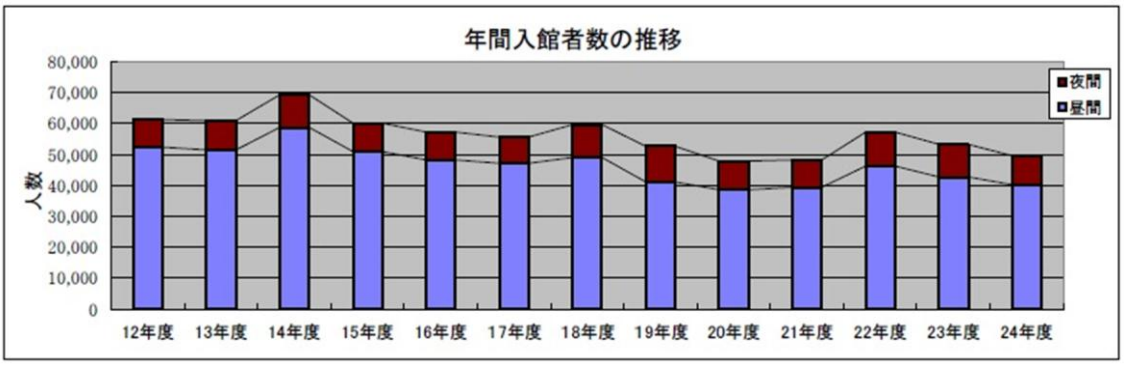
（出典　「志遠」第 64 号）





（出典　平成 24 年度学校要覧）

資料７－１－②－２



（出典　図書館資料）

資料７－１－②－３

多目的学習室利用規則，利用実績等

○北九州工業高等専門学校図書館多目的学習室利用要項

1　趣旨
この要項は、北九州工業高等専門学校図書室利用規則第１条第２項の規定に基づき、多目的学習室の使用に関し、必要な事項を定めるものとする。

2　使用者の範囲
多目的学習室を使用できる者は、本校在学生及び教職員とする。

3　使用の範囲
多目的学習室の使用の範囲は、次のとおりとする。
（１）個人及びグループでの学習
（２）ＡＶ機器等を利用した学習
（３）各種会議、打ち合わせ等

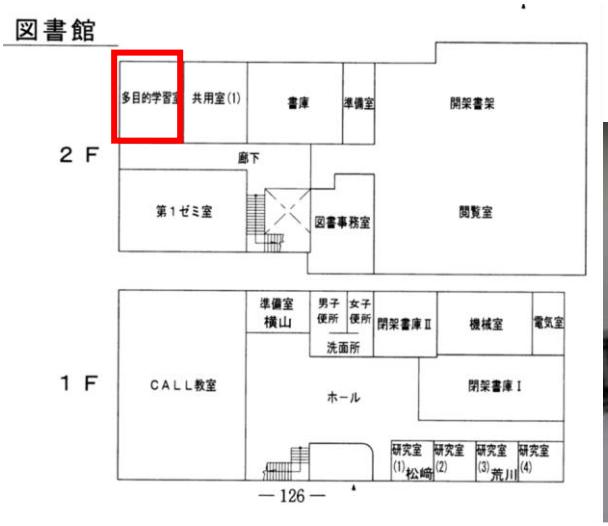
4　使用時間
多目的学習室の使用時間は図書館の開館時間内とする。ただし、閉館時間の１５分前に使用を終了しなければならない。

5　使用の申請
多目的学習室を使用する者は、学生課図書係に申し込むものとする。

以下略

多目的学習室利用者数

		人
平成24年度	9月	39
	10月	13
	11月	60
	12月	23
	1月	26
	2月	42
	3月	32
平成25年度	4月	20
	5月	25





（出典　図書館資料，学生便覧より作成）

ITセンター演習室は，情報検索，文書作成，プログラミングの練習等の自学自習で利用されている（資料７－１－②－４，５）。各学科のパソコンスペースや自習室も自習や就職活動で利用されている。実習工場では安全講習会を実施し，申し込めば研究等で放課後も利用できる（資料７－１－②－６）。

資料７－１－②－４

○北九州工業高等専門学校ＩＴセンター利用規則

平成１４年５月１６日　規則第１４号
改正　平成２４年１月１９日

（目的）
第１条　この規則は、北九州工業高等専門学校ＩＴセンター規則第９条に基づき、ＩＴセンターの施設利用に関し、必要な事項を定めることを目的とする。
（利用者の範囲）
第２条　ＩＴセンターの施設を利用できる者は、次の各号の一に該当する者とする。
（１）本校の教職員で、教育、研究及び事務処理のために利用する者
（２）本校の学生で、学習及び研究のために利用する者
（３）その他校長が認めた者
（利用時間）
第３条　ＩＴセンターの施設利用時間は、平日の８時３０分から１７時００分までとする。ただし、必要に応じて変更することがある。
２　前項の規定にかかわらず、利用時間以外に利用を希望する場合は、所定の手続きを経て利用することができる。
（個人利用時間帯）
第４条　個人利用時間帯は、前条に定めた利用時間のうち、昼休みや放課後等ＩＴセンターの施設が授業等で使用されていない時間帯とする。
（ＩＴセンターの利用）
第５条　ＩＴセンターの施設利用は、次のとおりとする。
（１）授業でＩＴセンターの施設を利用する場合は、授業担当教員が利用簿に所定の事項を記入し、利用するものとする。
（２）臨時的に授業でＩＴセンターの施設を利用する場合は、事前に利用時間の割当てを受けた上で、授業担当教員が利用簿に所定の事項を記入し、利用するものとする。
（３）授業以外でＩＴセンターの施設を利用する場合は、利用者が利用簿に所定の事項を記入し、利用するものとする。
（４）第３条第２項の規定により利用する場合は、ＩＴセンター施設時間外利用申込書（別紙様式）により、申込みの上、利用簿に所定の事項を記入し、利用するものとする。

（出典　北九州工業高等専門学校 IT センター利用規則より抜粋）

資料７－１－②－５



（出典　総務課資料）

資料７－１－②－６

平成23年度第一工場機械使用状況　H24.3.31

実習・実験の機械使用時間

実習・実験項目	使用機械名	時間数(h)
溶　接	アーク溶接機	155
	TIG溶接機	15
	シャーリングマシン	6
	両頭グラインダー	12
	油圧プレス	12
クラフト	糸ノコ盤	87.5
	ボール盤	87.5
仕　上	両頭グラインダー	35
	ボール盤	57.5
旋　盤	旋盤	200
フライス	フライス盤	194
	ノコ盤	6
ＮＣ	マシニングセンタ(ローランド	37.5
設計製作	シャーリングマシン	50
	ボール盤	50
	旋盤	50
工学実験	CNC旋盤	37.5

卒業研究・クラブ活動等の機械使用時間

機　械　名	時間数(h)
アーク溶接機	1
ファインカッター	1.4
コンターマシン	77.5
シャーリング	19.5
旋盤	511.3
ノコ盤	110.2
フライス盤	52.4
NCフライス	19.3
ボール盤	73.8
CNC旋盤	24
ホブ盤	9.3

（出典　平成 23 年度第一工場機械使用状況）

生活環境支援として，第一・第二体育館のほか，福利施設（雄志台会館）があり，１階に食堂，保健室，売店，２階に学生相談室が設置されている。コミュニティースペース（３・４・６・７号館，福利施設２階，図書館１階）やコミュニティ広場は，交流や憩いの場として活用されている（資料７

－１－②－７，８）。

資料７－１－②－７



（出典　北九州工業高等専門学校ウェブサイト）

資料７－１－②－８



（出典　平成 24 年度学校要覧）

（分析結果とその根拠理由）

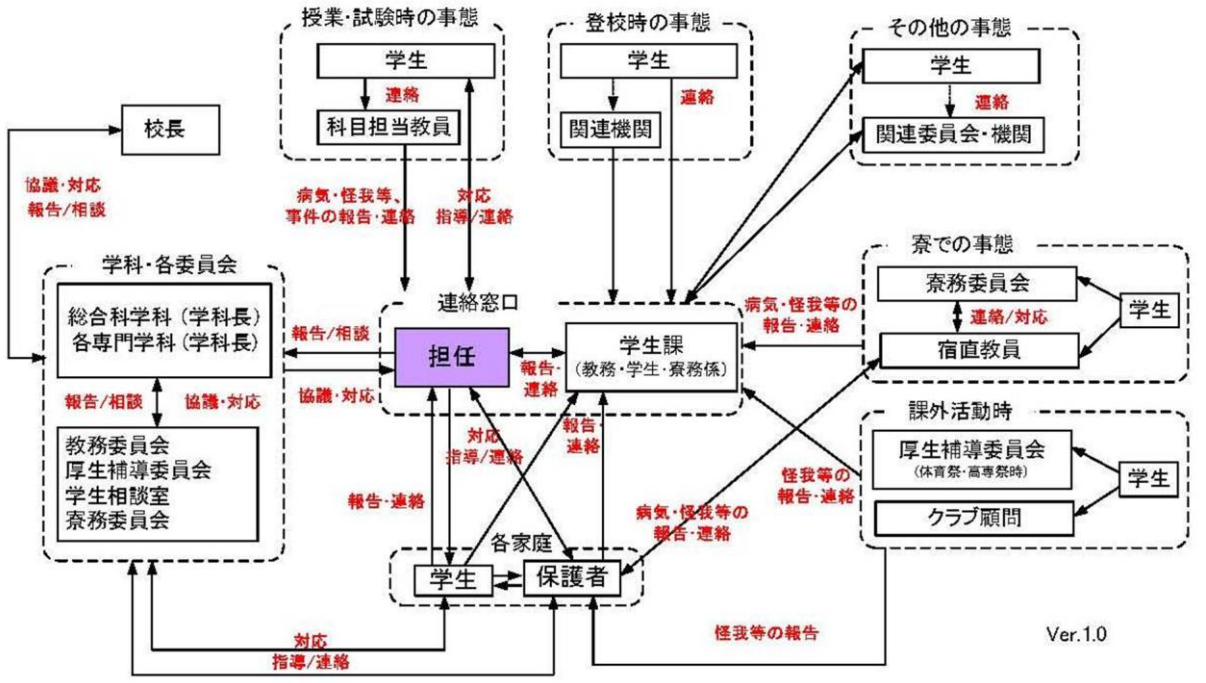
本校では，学習・厚生施設等の生活環境整備が充実し，さらに改善に努めており，また，学生はよく利用している。

観点７－１－③：　学習支援に関する学生のニーズが適切に把握されているか。また、資格試験や検定試験の受講、外国留学のための支援体制が整備され、機能しているか。

（観点に係る状況）

学生からの要望は，準学士課程では学級担任が，専攻科では特別研究指導教員と専攻科主事補が主に対応する（資料７－１－③－１，２）。保護者と学級担任・専門学科との懇談会でアンケートを実施している（資料７－１－③－３）。卒業予定者が校長・主事に意見・要望を述べる懇談会も毎年開いている(資料７－１－③－４：別添資料)。

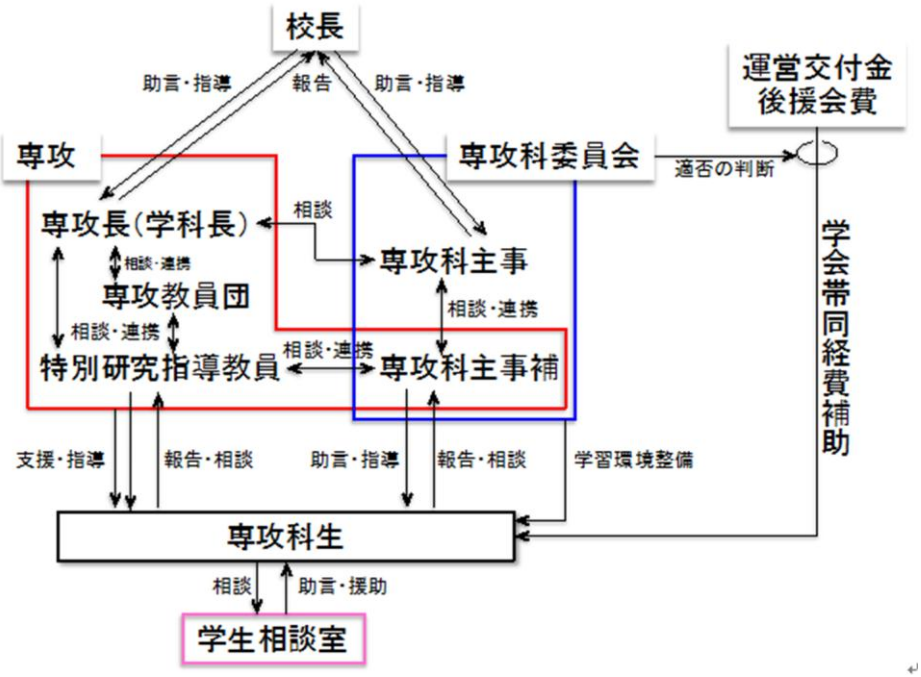
資料７－１－③－１



（出典　学級担任支援マニュアル）

資料７－１－③－２

専攻科課程における学生指導・支援体制



（出典　専攻科課程における学生指導・支援体制）

資料７－１－③－３

別紙様式２

平成２４年度保護者懇談会実施結果報告用紙

年　　工学科

学級担任氏名

１．出席者数　　名　　（出席予定者数　　名）

２．家庭からの要望事項（要望事項について概略の人数も併せて記入願います）

３．今後実施するに当たっての要望及び参考意見

（１） 実施時期

（２） 実施方法

（３）その他

４．その他の意見

（出典　保護者懇談会実施結果報告用紙）

資格試験や検定試験に関しては，各専門学科の担当教員が受験案内と指導を行い，校内で学生が受験しやすい環境づくりに努力している(資料７－１－③－５)。

資料７－１－③－５

検定試験実施状況

検定名　：　TOEIC		
実施日	級など	受験者数
平成24年5月7日	公開	30
平成24年7月22日	公開	28
平成24年9月23日	公開	27
平成24年10月18日	IP	8
平成24年11月18日	公開	23
平成25年1月13日	公開	30
平成25年3月17日	公開	63

検定名　：　実用英語技能検定			
実施日	級など	受験者数	合格者数
平成23年10月16日	2級一次	10	1
平成23年10月16日	準2級一次	4	4
平成23年11月13日	2級二次	1	1
平成23年11月13日	準2級二次	4	1
平成24年1月22日	2級一次	7	0
平成24年1月22日	準2級一次	9	7※
		※内一次免除2名	
平成24年2月19日	準2級二次	7	6

注:平成24年度は志願者が10名未満のため、準会場受験は未実施。

検定名　：　日本漢字能力検定			
実施日	級など	受験者数	合格者数
平成23年8月23日	2級	16	6
平成23年8月23日	準2級	1	1

注:平成24年度は志願者が10名未満のため、準会場受験は未実施。

検定名　:3次元CAD利用技術者試験			
実施日	級など	受験者数	合格者数
平成23年7月17日	2級	7	7
平成23年7月17日	準1級	7	7
平成24年7月15日	2級	19	15
平成24年7月15日	準1級	15	5

検定名　:機械設計技術者試験			
実施日	級など	受験者数	合格者数
平成23年11月20日	3級	6	3

検定名　：　北九州市環境首都検定			
実施日	級など	受験者数	合格者数
平成24年12月16日	一般	43	15

検定名　：　基本情報技術者試験			
実施日	級など	受験者数	合格者数
平成23年10月16日		11	1
平成25年4月21日		9	2

注:平成23年4月の試験は東日本大震災のため、試験が順延。
　平成24年度は対策講座を実施していないため、受験者数は不明。

（出典　検定試験実施状況）

外国留学の支援に関しては，平成23年度から国際交流委員会を設置し，留学につながる海外短期派遣や海外学生の受入・交流を行う体制を整えている（資料７－１－③－６，７）。学生課では受入校のポスター掲示や奨学金受給案内を行っている。平成24年度より年度を超える留学に伴う休学についても制度として機能している。こうした支援により留学件数は増加している（資料７－１－③－８）。

資料７－１－③－６

○北九州工業高等専門学校国際交流委員会規則

平成２２年５月２０日規則第５号
改正　平成２３年４月２１日

（設置）
第１条　北九州工業高等専門学校（以下「本校」という。）に北九州工業高等専門学校国際交流委員会（以下「委員会」という。）を置く。
（目的）
第２条　本校における国際交流に関する重要事項について審議することを目的とする。
（審議事項）
第３条　委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。
（１）外国の大学等との交流協定に関すること。
（２）外国の大学等からの教職員、研究者及び学生の受入に関すること。
（３）外国の大学等への教職員及び学生の派遣に関すること。
（４）外国の大学等からの訪問に関すること。
（５）外国の大学等への訪問に関すること。
（６）外国人留学生の受入に関すること。
（７）外国人留学生の生活指導等に関すること。
（８）その他国際交流に関すること。
（組織）
第４条　委員会は、次に掲げる者をもって組織する。
（１）寮務主事
（２）各学科の代表者各１名及び総合科学科の文科系及び理科系の代表者各１名
（３）総務課長及び学生課長
（４）その他校長が必要と認めた者
（委員の任期）

（出典　北九州工業高等専門学校国際交流委員会規則より抜粋）

資料７－１－③－７

派遣先国名	派遣先機関名	参加人数（学年別）							単位互換	研修等内容（複数回答可）							研修等期間						
		本科1	本科2	本科3	本科4	本科5	専攻1	専攻2		1	2	3	4	5	6	6の場合具体的に	年	月	日	～	年	月	日
中華人民共和国	香港VTC				1	1	1		無		○			○			24	8	20	～	24	8	24
台湾（中華民国）	國立台北科技大學				41				無			○		○			24	9	25	～	24	9	28
タイ	KMITL（キングモンクット工科大学ラカバン）							1	無						○	ISTS2012	24	11	21	～	24	11	24
台湾（中華民国）	國立聯合大學						1		無						○	学会発表	24	12	9	～	24	12	12
大韓民国	全北大学			7	3				無			○	○	○			25	3	24	～	25	3	29

○「研修等内容」・・・・以下の区分で該当する番号の欄に○を記入して下さい。
1. 語学研修（海外の語学学校や大学などで、外国語を学ぶこと）
2. 勉学・研究（語学研修を除き、海外の学校や大学などで勉学や研究を行うこと）
3. 異文化体験（海外の歴史・文化・社会を知ったり体験したりすること【例：博物館見学、文化遺産見学、市内見学）
4. 異文化交流（海外の学生や教員とコミュニケーションを取ることにより、海外の文化等を知ること）
5. 施設等見学（海外の研究施設や工場等の施設を見学すること）
6. その他

資料７－１－③－８

留学実績一覧

年度	学年・学科	日付又は期間	留学先
20	4M	平成20年4月1日～平成21年3月31日	フィリピン
	4E	平成20年4月1日～平成21年3月31日	アメリカ
	4C	平成20年4月1日～平成21年3月31日	韓国
21	専2(制)	平成21年6月8日～平成22年3月31日	カナダ
22	専1(物)	平成22年10月1日～平成23年3月31日	ピースボート地球一周の船旅
23	専2(物)	平成23年4月1日～平成24年3月31日	カナダ
	2E	平成23年8月1日～平成24年6月30日	カナダ
24	4S	平成24年4月1日～平成25年3月31日	アメリカ
	5C	平成24年4月1日～平成25年3月31日	韓国
	専1(制)	平成24年4月1日～平成25年3月31日	オーストラリア
	専2(制)	平成24年4月1日～平成25年3月31日	オーストラリア
	3E	平成24年7月26日～平成25年7月25日	ドイツ
	4E	平成24年9月3日～平成25年9月1日	アメリカ
	専2(制)	平成24年9月3日～平成25年3月31日	カナダ
	専2(制)	平成24年9月25日～平成25年3月31日	オーストラリア
	専2(物)	平成25年2月1日～平成27年1月31日	JICAタンザニア

（出典　留学実績一覧）

（分析結果とその根拠理由）

学生の各種要望に応えるため，学級担任，特別研究指導教員，教務委員会，専攻科委員会，寮務委員会，国際交流委員会，ITセンター等が多方面から支援し，学生のニーズが適切に把握されている。

観点７－１－④：　特別な支援が必要と考えられる学生への学習支援体制が整備されているか。また、必要に応じて学習支援が行われているか。

（観点に係る状況）

外国人留学生については，国際交流委員会が中心となり，学級担任，各委員会が連携して支援するほか，学生チューターが支援する(資料７－１－④－１)。３年生編入時には，学力向上を支援するため教育課程を特別編成し，日本語力を高める授業も設けている(資料７－１－④－２，３)。留学生から意見・要望を聴く懇談会も設けている（資料７－１－④－４：別添資料）。

資料７－１－④－１

平成24年度留学生一覧

性別	性別	国名	チューター学生（学年・学科）
3D	女	モンゴル	4D
4M	女	マレーシア	4D
4E	男	カンボジア	4E
4D	男	マレーシア	4D
5M	女	マレーシア	5M
5E	男	スリランカ	5E
5C	女	インドネシア	5C

（出典　平成 24 年度留学生一覧）

資料７－１－④－２

平成24年度編入留学生の教育課程特別編成一覧

学年・学科	教育課程上の科目		代替を行う授業科目				
	授業科目名	単位数	授業科目名	単位数	一般・専門の別	担当教員	実施曜日
電子制御 3年	現代文	2	論理回路	2	専門	井田	月・3～4限
	歴史	2	電気回路Ⅱ	2	専門	宮崎	月・5～6限

（出典　平成 24 年度編入留学生の教育課程特別編成一覧）

資料７－１－④－３

【教科名】日本語（留学生用）　Japanese (For Foreign Students)　＜履修単位科目＞

学年	学科	単位数	期間	開設週数	時間/週	総時間
3	全工学科（留学生）	（選択）2	通年	30	2	60

【担当教員】印道　緑　【教員室】１号館２階非常勤講師室　【TEL】[redacted]　【e-mail】

【授業目的と概要】
本講義では留学生の日本語レベルに合った文型および漢字語彙、表現力の養成を中心に授業を行う。会話、聴読解、作文の総合的な能力を身につけることを最終目標とする。

【授業の進め方及び履修上の注意】（準備する道具や前提となる知識）
外国語習得には「聞く」「読む」という理解能力と「話す」「書く」の発信能力があるが、この授業では文型、漢字語彙力などの基礎的知識をもとに、まずは聴解・読解を行い、さらに討論、作文へと発展させる。
授業内容の予習、復習を欠かさないように、講義に臨むこと。また、作文等の課題は必ず提出すること。

授業項目	内容	時間
【前期】 Ⅰ　文型・文法１、聴解・読解１	プレースメントテストの結果をもとに、留学生にとって必要な基本文型・文法、漢字語彙を学習し、その後読解を行う。	16
中間試験		
Ⅱ　討論・作文１	Ⅰで身に付けた理解力をもとに、さらに会話、討論、作文へと発展させ、日常生活における様々な出来事や意見を日本語で表現できるようになることを目指す。	14
期末試験		
【後期】 Ⅰ　文型・文法２、聴解・読解２	前期に引き続き、より複雑な文法表現と漢字語彙を習得する。さらに、基本的な敬語表現を学び、状況に応じた適切な表現ができるよう理解を深める。	14
中間試験		
Ⅱ　討論・作文２	Ⅰで学習した文法表現力をもとに、会話、討論、作文の総合的な日本語発信能力を習得することによって、より高い日本語のコミュニケーション能力を養成する。	16
定期試験		

【達成目標】
・留学生活に必要な日本語の基本文型・文法の知識と表現力を身につける。
・日本語の基礎的な文章を読み、聞くことができる。
・日本語で日常会話・討論ができ、基礎的な文章を書くことができる。
・言語の習得と共に異文化への理解を深めることができる。

【教科書】
プレースメントテストによって留学生の日本語レベルにあったテキストを選定する。授業の際に説明する。
【参考書】
授業の際に説明する。

JABEE 教育目標	
準学士課程目標	(E)①, (F)①

成績評価
【評価基準】
初級文法・会話および基本的な漢字語彙を含んだ文章の読解、作文ができること。
【評価方法】
授業での学習状況（予習、復習を含む）、課題（作文）提出状況、および口頭発表 40%、
中間・期末試験および定期試験 60%

【オフィスアワー】
授業時間の前後

（出典　平成 25 年度シラバス「日本語」）

高校からの編入学生に対しては，合格者に学習説明会を実施し，指導している（資料７－１－④－５）。物質化学工学科では入学前に補習実験を行い（資料７－１－④－６），機械工学科では編入学生向けの実習を入学後に行っている(資料７－１－④－７)。

資料７－１－④－５

平成２５年度編入学入学予定者の学習説明会について（通知）

標記のことについて下記のとおり学習説明会を実施しますので御来校ください。

記

１．日時　　平成２４年１２月２１日（金）　１３：００～１６：００

２．場所　　北九州工業高等専門学校　　１号館３階大講義室

※　筆記用具、学習済み・学習中の教科書（専門に関する科目）を携行してください。

（出典　平成 25 年度編入学入学予定者の学習説明会について）

資料７－１－④－６

平成25年５月２１日

普通高校からの編入学生に対する，学習支援に関する特別な配慮について

物質化学工学科　学科長　後藤　宗治

担当者　大川原　徹

物質化学工学科では，従来から編入学生に対する学習支援として，入学前の事前教育を行っている。普通高校では，実験・実習が少ないため，入学前に基本的な実験のやり方とレポートの書き方を指導する必要がある。このため，事前教育として，春休みに本科２年生の学生実験の基本的で重要なテーマについて実験とレポート作成の指導を行う。尚，工業高校からの編入学生についても，学力把握の意味も兼ねて，同様の取組を実施している。編入学生には，数学や計算系で苦手意識を持っている様子が窺えるため，次回以降は，実験だけでなく一部の専門科目の補習も考えている。

以下，平成24，25年度の実績を記す。

平成24年度

「第1属、第2属金属イオンの系統分析」

ガラス器具の取り扱い，洗浄およびレポートの書き方を学ぶ（本科2年生の内容）。

「中和滴定」

ガラス器具の取り扱い，洗浄およびレポートの書き方を学ぶ。実験結果をもとに未知試料の濃度計算を行う（本科2年生の内容）。

平成25年度

「第1属、第2属金属イオンの系統分析」

ガラス器具の取り扱い，洗浄およびレポートの書き方を学ぶ（本科2年生の内容）。

「中和滴定」

ガラス器具の取り扱い，洗浄およびレポートの書き方を学ぶ，実験結果をもとに未知試料の濃度計算を行う（本科2年生の内容）。

「臭化ブチルの合成」

目的化合物の合成と精製法を学ぶ（本科3年生の内容）。

（出典　物質化学工学科から JABEE・認証評価委員会に提出された資料）

資料７－１－④－７

【教科名】工作実習基礎　Basic Working Practice　　＜履修単位科目＞

学年	学科	単位数	期間	開設週数	時間/週	総時間
4	機械工学科	（選択）1	夏季休業中	2	15	30

【担当教員】浅尾　晃通　【教員室】3号館2階　【TEL】[redacted]　【e-mail】[redacted]
田淵　大介　3号館2階

【授業目的と概要】
4年次に普通高校（工業系高校以外）からの編入生を対象に行われる科目であり、講義形式で行われる「機械加工学」、「機械工作法」、「精密加工学」などと並行して行われ、物を作る大切さ、難しさ、楽しさを実習作業を通して体験し、技術者としての素養を育成する。また、上学年で実施する「設計製作」や「卒業研究」において抵抗無く部品製作できる技能も併せて身に付ける。さらに、作業に当たるときの心構えも身につけ、実習終了後報告書を作成し、的確に情報を伝え報告する能力を養う。

【授業の進め方及び履修上の注意】
溶接、板金、機械加工、仕上げ、生産管理について実習する。学生は各パートで実習内容および安全に関する説明を受けた上で実習を行う。実習内容、考察などを実習ノートに記入し提出する。
なお、本科目は夏休み等に集中的に行う。

授業項目	内容	時間
【前期】		
1．溶接	実習概要説明、安全管理説明、中板重ね継手溶接、中板T継手水平隅肉溶接	6
2．板金	実習概要説明、ガス切断、ガス溶接、板金工作	6
3．機械加工	実習概要説明、安全管理説明、フライス加工、切削加工	6
4．仕上げ	実習概要説明、安全管理説明、センタポンチ作成（けがき作業、各面仕上げ、先端部仕上げ、頭部仕上げ）	6
5．生産管理	実習概要説明、安全管理説明、部品作成のNCプログラム作成	6

【達成目標】
・工作機械の仕組みを理解できる。
・工作機械の正しい取り扱いができる。
・ものづくりを通して機械設計の知識を深めることができる。
・機械製造における時間短縮、コスト削減、精度向上の概念を身に付けることができる。
・作業の安全に関する留意点を身につけることができる。
・ものづくりに関する基本的知識と実践的能力および実習終了後の報告書作成において、情報をまとめることができる。

【教科書】
なし（随時テキスト配布）

【参考書】

JABEE教育目標	(C)①④
準学士課程目標	(C)①④

成績評価
【評価基準】
ものづくりに対する取り組み姿勢、実習内容を正しく理解してレポートにまとめる能力。
【評価方法】
実習への取組み方、理解度およびレポート内容の総合評価。

【オフィスアワー】
水曜日　午後3時から5時

（出典　平成25年度シラバス「工作実習基礎」）

障がいがある学生や心のケアが必要な学生については，学生相談室委員会，カウンセラー，学生支援介助員（校長が必要と認めた者），学級担任が協力して支援する体制がある（資料７－１－④－８）。支援の実績として，授業における必要な配慮，定期試験における別室受験のための試験監督の割振りや問題・答案用紙の拡大，実験・実習での半田付け用治具の作製等がある（訪問時閲覧資料）。

資料７－１－④－８

○北九州工業高等専門学校学生相談室規則

平成１４年７月２５日　規則第２０号
改正　平成２２年４月１日

（設置）
第１条　北九州工業高等専門学校（以下「本校」という。）の学生が抱える修学、進路等、学生生活上の諸問題について相談に応じることにより、学生生活の充実を図ると共に、学生の人間的成長に資するため、本校に学生相談室（以下「相談室」という。）を置く。
（業務）
第２条　相談室は、次の業務を行う。
（１）学生の修学、進路上の相談に関する助言及び援助
（２）学生の健康・生活上の相談に関する助言及び援助
（３）その他学生の個人的な相談に関する助言及び援助
（４）学生相談活動に必要な調査及び研究
（５）その他学生相談に関する業務
（組織）
第３条　相談室に、相談室員を置き、次の各号に掲げる者をもって組織する。
（１）室長
（２）相談員
（３）カウンセラー
（４）その他校長が必要と認めた者

（出典　北九州工業高等専門学校学生相談室規則より抜粋）

（分析結果とその根拠理由）

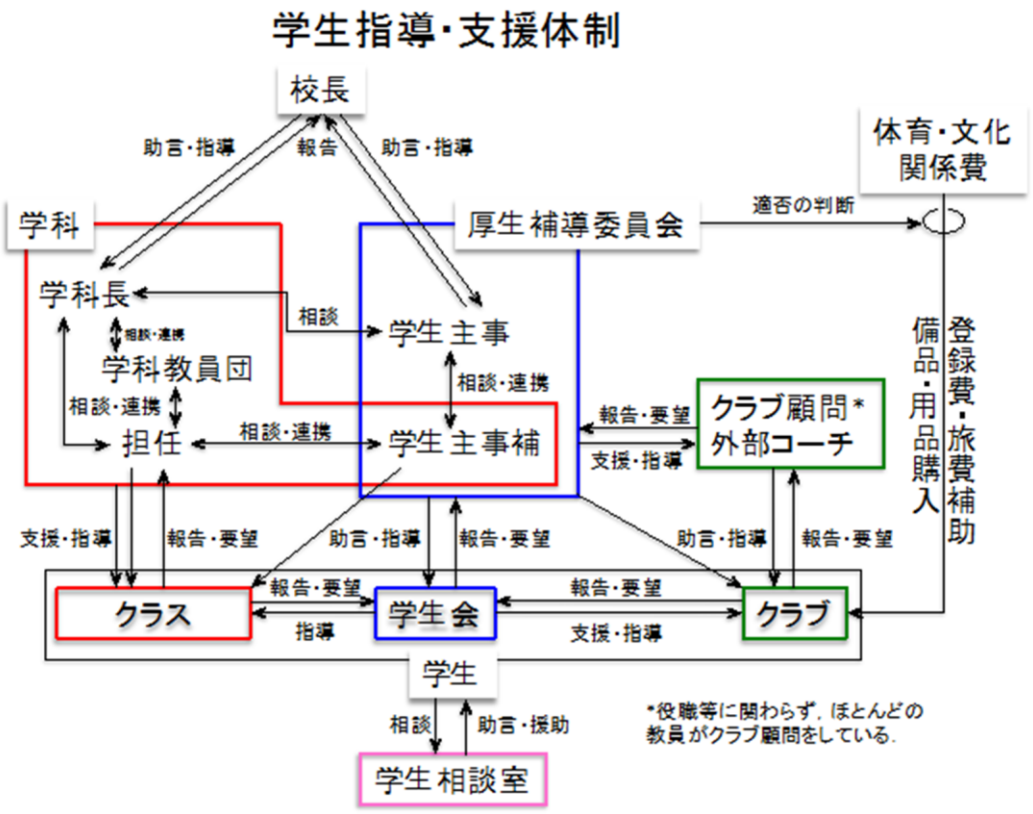
特別な支援が必要な学生が学習を進める上で，不利益が生じないよう配慮する支援体制が整備されている。

観点７－１－⑤：　学生の部活動、サークル活動、自治会活動等の課外活動に対する支援体制が整備され、適切な責任体制の下に機能しているか。

（観点に係る状況）

課外活動の支援体制を資料７－１－⑤－１に，担当顧問一覧を資料５－３－①－17に示す。顧問は厚生補導委員会と連携して指導・助言を行う（資料７－１－⑤－１）。学外コーチによる技術指導も行われ，平成24年度からは，課外活動における非常勤教職員を採用している（資料７－１－⑤－２）。また，体育・文化関係費の取扱要領が整備され，学生の大会参加費等を補助している（資料７－１－⑤－３，４：別添資料）。厚生補導設備充実費による物品面での支援も行っている（資料７－１－⑤－５：別添資料）。さらにクラブリーダーの意識高揚を図る研修会も毎年実施している(資料７－１－⑤－６：別添資料)。

資料７－１－⑤－１



（出典　学生指導・支援体制）

資料７－１－⑤－２

平成24年度学外コーチ・非常勤教職員一覧

クラブ名	職名	新規・継続の別
ブラスバンド部	外部コーチ	継続
陸上部	外部コーチ	継続
バドミントン部	外部コーチ	継続
ラグビー部	外部コーチ	継続
剣道部	外部コーチ	継続
ソフトテニス部	外部コーチ	新規
サッカー部	特命教授	継続（前年度外部コーチ）
柔道部	特命教授	継続（前年度外部コーチ）
卓球部	特命教授	継続（前年度外部コーチ）
バスケットボール部	特命准教授	継続（前年度外部コーチ）
ラグビー部	課外活動指導員	新規

（出典　平成 24 年度学外コーチ・非常勤教職員一覧）

資料７－１－⑤－３

○体育・文化関係費取扱要領

（昭和５５年６月２日校長裁定）

本校における体育・文化関係費の取扱については、この要領に定めるところによるものとする。

中略

３　体育・文化関係費は、学校長が認めた課外活動に伴う経費を、当該年度の予算の範囲で支給するものとし、支給基準は次のとおりとする。

@　指導教職員等支給基準表

区　分		指導教職員	学外コーチ等	参加学生	備　考
指導経費		定額を支給			注1
交通費			定額支給	定額支給	
宿泊料	地区大会等		〃	定額支給	注2、3
	全国大会		〃	定額支給	〃

中略

中略

注２　参加学生（エントリー数＋マネージャー）に対する経費の支給については、高専間の大会等を原則とし、地区大会、全国大会各１回を限度とする。

中略

注３　高専間の地区大会等は、次のとおりとする。

（九州沖縄地区国立高専体育大会、西日本地区高専弓道大会、西日本地区高専空手道大会、九州地区高専少林寺拳法大会、九州沖縄地区国立高専英語弁論大会、九州沖縄地区国立高専ロボットコンテスト）

高専間の全国大会は、次のとおりとする。

（全国高専体育大会、全国高専ロボットコンテスト、全国高専プログラミングコンテスト、全国高等専門学校将棋大会）

高専間の地区大会、全国大会以外に交通費、宿泊費を支給する大会等は、次のとおりとする。

（高等学校体育連盟又は高校野球連盟が主催する九州大会以上の大会、ロボカップ）

以下略

（出典　体育・文化関係費取扱要領）

（分析結果とその根拠理由）

顧問と厚生補導委員会が連携して支援する体制を整え，学外コーチや課外活動における非常勤教職員を採用する等，支援を充実させている。体育文化関係費等による経済的な支援も充実している。

観点７－２－①：　学生の生活や経済面に係わる指導・相談・助言を行う体制が整備され、機能しているか。

（観点に係る状況）

学生に対して，準学士課程では学級担任が，専攻科では専攻科主事補や指導教員が，教務委員会・厚生補導委員会・専攻科委員会・学生相談室委員会と連携して生活全般を指導している。

保健室では，定期健康診断をはじめ，授業時や課外活動時における負傷者・体調不良者に対応し，学生の安全・健康管理の中心機関として機能している。

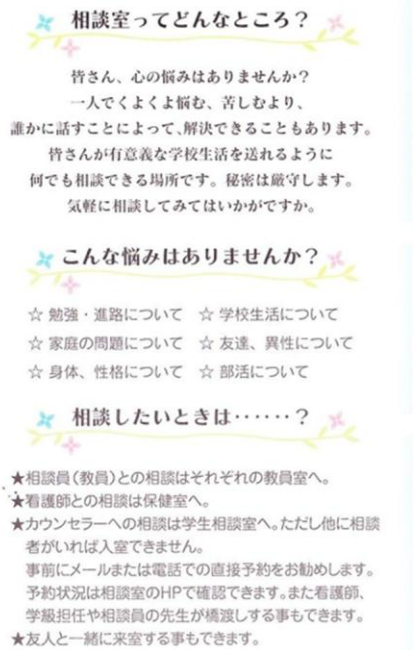
学生相談室委員会では，学生相談員，看護師，カウンセラー，学生支援介助員が連携して学生の心のケアにあたっている（資料７－１－④－８，７－２－①－１，２）。学生は，学生相談室等でカウンセラーと面談でき，電話やメールでも相談できる。ウェブサイトではカウンセリングの予約カレンダーを確認でき，直接予約ができる（資料７－２－①－３）。保健室内には，心を落ち着かせたい学生のための対応スペース（通称リトリート室）を２つ設置し，看護師が管理している。平成23年度から，臨床心理士資格を有する学生支援介助員が常駐する相談室サポートルーム（SR）を設置し，学生

は予約なしで気軽に利用できる。相談室SRではソーシャルスキルトレーニング等も行っている。資料７－２－①－４は学生相談室と相談室SRの実績で，多くの利用がある。また，学生相談室委員会は，１，３年生対象に心理テストを実施し，分析結果を担任と共有し，学生指導や問題の早期発見に役立てている。

資料７－２－①－１









（出典　学生相談室のご案内 2012）

資料７－２－①－２

北九州工業高等専門学校学生支援介助員に関する要領

校　長　裁　定
平成23年　6月　日

（目的）
第1　この要領は、北九州工業高等専門学校における発達障がい（もしくはその疑い）のある学生に対し、教育並びに学生生活の支援を行うため、学生支援介助員（以下「介助員」という。）を従事させ、学生の人間的成長に資することを目的とする。

（職務内容）
第2　介助員は、発達障がい（もしくはその疑い）のある学生を支援するため、学生主事、学生相談室長、カウンセラーと緊密に連絡を取り合い、学生相談室に関する補助的な職務を行う。

（資格）
第3　介助員の資格は、介助に関する学歴又は経歴を有する者とする。

以下略

学生支援介助員の業務について

1．勤務時間
月～金、12:00～17:00　5時間勤務　学校休業日を除く

2．業務内容
1．　発達障がいのある学生のパニック時の介助
■■■

資料７－２－①－４

平成２５年度の学生相談室と相談室サポートルームの体制

	学生相談室	相談室サポートルーム
人員	カウンセラー３名（１日１名）	学生支援介助員２名（１日１名）
開室時間	月，火，水，金の午後４時間	学生登校日の午後５時間

学生相談室と相談室サポートルームの利用実績

学生相談室

	H20年度	H21年度	H22年度	H23年度	H24年度
開室日数	141	139	137	137	157
相談件数	438	489	454	279	398
					週4日来校

相談室サポートルーム

	H24年度
開室日数	177
相談件数	256

（出典　学生相談室資料）

経済面の支援として，学生の経済状況と学業成績に応じて入学料・授業料を減免する制度があり，学生課学生係が窓口となっている(資料７－２－①－５)。日本学生支援機構をはじめとする様々な奨学金制度に学生を推薦している(資料７－２－①－６)。

資料７－２－①－５

４　授業料等の免除及び徴収猶予に関する規則

（趣旨）

第１条　北九州工業高等専門学校における授業料等の免除及び徴収猶予に関する取り扱いは、この規則の定めるところによる。

（授業料の免除）

第２条　授業料の免除は、本校学生で次に掲げる各号の一に該当する場合において、校長が許可することができる。

(1) 経済的理由によって納付が困難であり、かつ学業優秀と認められる場合

(2) 授業料の各期ごとの納期前６月以内（入学生に対する入学した日の属する期分の免除に係る場合は、入学前１年以内）において、学生の学資を主として負担している者（以下「学資負担者」という。）が死亡し、又は学生若しくは学資負担者が風水害等の災害を受け、納付困難と認められる場合

(3) 死亡又は行方不明のため、除籍した場合

(4) 授業料の未納を理由として退学を命じた場合

(5) 授業料の徴収猶予を許可していた者が、願い出により退学した場合

２　前項第１号及び第２号の認定については、厚生補導委員会の議を経なければならない。

第３条　授業料の免除は年度を２期に分け、当該期分ごとに行うものとし、免除額は各期分の授業料について、その全額又は半額とする。

（出典　授業料等の免除及び徴収猶予に関する規則より抜粋）

資料７－２－①－６

平成24年度奨学金受給状況

区分	準学士課程	専攻科
日本学生支援機構	81名	11名
財団法人 福岡県教育文化奨学財団	56名	なし
その他	12名	なし
合計	149名	11名

（出典　平成 24 年度奨学金受給状況）

（分析結果とその根拠理由）

保健室・学生相談室のほか，外部のカウンセラーや学生支援介助員による支援，ウェブサイトでの予約等，学生が利用しやすい環境を整えている。経済面でも授業料免除，奨学金制度等の支援が受けられるよう，学生課を中心に支援している。

観点７－２－②：　特別な支援が必要と考えられる学生への生活支援等を適切に行うことのできる状況にあるか。また、必要に応じて生活支援等が行われているか。

（観点に係る状況）

平成24年度は７名（男子３名，女子４名）の留学生が在籍し，学生寮で生活している。生活面では，指導教員，チューター，寮務委員会が連携して支援を行う（資料７－２－②－１）。日本文化に親しむために日本国内実地見学旅行等も実施している（資料７－２－②－２）。

資料７－２－②－１

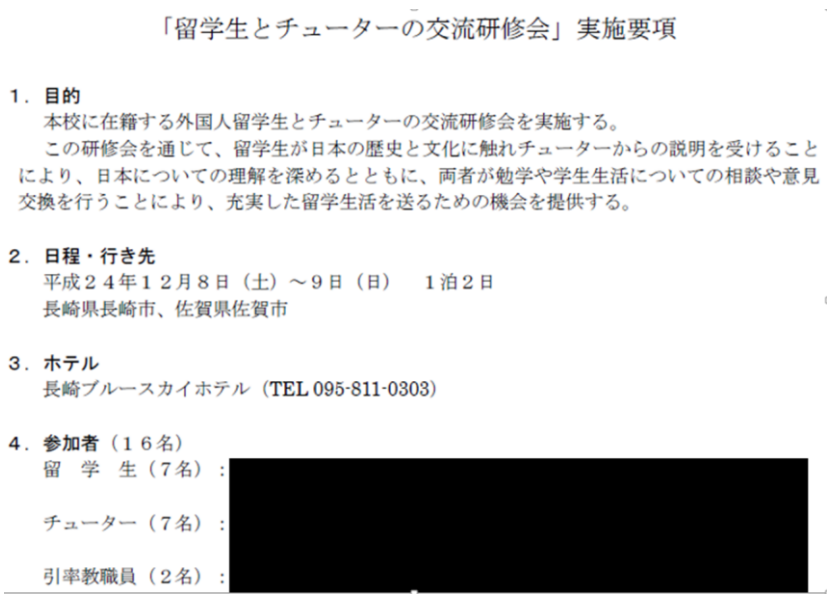
○北九州工業高等専門学校外国人留学生規則

平成２年１０月１１日　規則第４号
改正　平成１７年２月２８日

（趣旨）
第１条　この規則は、北九州工業高等専門学校学則第４３条第２項の規定に基づき、外国人留学生（以下「留学生」という。）に関し必要な事項を定めるものとする。
（入学）
第２条　留学生は、原則として第３学年に入学を許可する。
（教育課程）
第３条　留学生の教育課程は、特別に編成することができる。
（外国人留学生指導教員）
第４条　留学生に対する学習及び生活指導を行うため、外国人留学生指導教員（以下「指導教員」という。）を置く。
２　指導教員は、外国人留学生受入学科長（以下「受入学科長」という。）の推薦に基づき、校長が任命する。
（チューター）
第５条　留学生の学習上の援助及び日常生活について助言するため、チューターを置く。
２　チューターは、学生の中から受入学科長の推薦に基づき、校長が委嘱する。
３　チューターは、必要に応じて指導教員に連絡し、その指導を受けるものとする。

（出典　北九州工業高等専門学校外国人留学生規則より抜粋）

資料７－２－②－２



「留学生とチューターの交流研修会」実施要項

１．目的
本校に在籍する外国人留学生とチューターの交流研修会を実施する。
この研修会を通じて、留学生が日本の歴史と文化に触れチューターからの説明を受けることにより、日本についての理解を深めるとともに、両者が勉学や学生生活についての相談や意見交換を行うことにより、充実した留学生活を送るための機会を提供する。

２．日程・行き先
平成２４年１２月８日（土）～９日（日）　１泊２日
長崎県長崎市、佐賀県佐賀市

３．ホテル
長崎ブルースカイホテル（TEL 095-811-0303）

４．参加者（１６名）
留　学　生（７名）：
チューター（７名）：
引率教職員（２名）：

（出典　留学生とチューターの交流研修会実施要項より抜粋）

平成25年度内に，身体障がい者等のための構内のバリアフリー化が完了予定であり，彼らに対する生活面の支援を適切に行うことのできる状況が近く整う。詳細は基準８で述べる。

（分析結果とその根拠理由）

留学生の生活面については，教員やチューターのほかに寮内のライフマスターによる支援がある。身体障がい者に対する学校生活の支援に関しては，順次バリアフリー化を進めており，今後も学校全体で推進する予定である。

観点７－２－③：　学生寮が整備されている場合には、学生の生活及び勉学の場として有効に機能しているか。

（観点に係る状況）

学生寮（浩志寮）が整備され，寮務主事の指導の下，学生寮委員会を中心に運営されている。毎朝寮務主事補が巡回し各部屋の点検を行うほか，毎晩，教員と寮監が宿直し，それに加えて，隔週木曜日は女性教員が宿直する（資料７－２－③－１，２）。

資料７－２－③－１

○北九州工業高等専門学校学生寮規則

昭和４０年４月２４日　規則第６号
改正　平成２１年１１月１９日

（目的）
第１条　この規則は、北九州工業高等専門学校（以下「本校」という。）学則第４２条第２項の規定に基づき、本校における学生寮の管理運営について必要な事項を定め、その円滑にして適正な運営を図ることを目的とする。
（学生寮の性格）
第２条　学生寮は、寮生の自律的集団生活を中心として、人間形成の成長発展を助長し、もつて教育目標達成のための課外教育施設とする。
（寮務主事の責務）
第３条　寮務主事は、校長の命を受け、学生主事及び事務部長と緊密な連絡を保ち、学生寮の運営並びに寮生の教育及び生活の指導監督に当たる。
（宿・日直）
第４条　寮生の生活指導のため、本校学生寮教員宿日直実施要項に定めるところにより、教員の宿・日直を置く。

（出典　北九州工業高等専門学校学生寮規則より抜粋）

資料７－２－③－２

平成２４年度前期（後期）　委員役割分担

寮務主事　白神　宏

1．個別指導・支援の分担

		人数
白神	男子２年全学科	14
入江	男子３～５M	18
宮川	男子３～５E	11
秋本	男子３～５D・専D	12
久池井	男子３～５S	10
川原	男子３～５C・専C	6
渡辺	男子１年全学科	22
竹若	女子１～５全・専C	23

2．指導・運営・管理業務の分担

分担業務	業務内容	担当者 主	担当者 副	寮生会 課	寮生会 課長
食堂	食事改善	竹若	白神	生活課	[redacted]
防犯・防災	防犯活動、設備、ビデオ会、避難訓練	入江	秋本	防犯課	
美化	美化活動、園芸活動、備品、閉寮時の清掃	久池井	川原	美化課	
体育・文化	体育・文化行事、高専祭	渡辺	秋本	体育課	
学習	学習会活動	渡辺	宮川	学習課	
広報	広報活動、寮誌チェック、印刷	川原	入江	広報課	
寮生会総括	総務会、寮生総会、リーダー研修	久池井	白神	総務	
留学生	留学生指導・支援	秋本	白神		
電子錠	電子錠、ICカード	久池井			
IT	パソコン室、LAN管理、web class	秋本			
自転車管理	自転車台帳、廃棄自転車処理	渡辺			
点呼状況集計	点呼状況、ポイント集計	白神			
帰省カード処理	帰省カード、帰省確認書処理	竹若			
朝巡回集計	朝巡回状況集計	川原			

3．朝巡回の分担

	男子寮		女子寮
月曜日	入江	久池井	白神・大福
火曜日	宮川	久池井	白神・大福
水曜日	白神	秋本	竹若
木曜日	白神	渡辺	竹若
金曜日	白神	渡辺	竹若

（出典　学生寮委員会資料より抜粋）

寮学生による寮生会が組織され，３年生のライフマスターによる下級生への生活支援が行われている（資料７－２－③－３）。女子寮については，寮母や女性教員が支援する。

以上の支援体制の下，寮学生は日課表に従って生活し，様々なイベントを通して寮学生間の親睦を深めている(資料７－２－③－４，５)。

資料７－２－③－３

平成２４年度前学期寮生会役員

［男子寮］　　平成２４年４月１日現在

役員名		部屋番号	学年・学科	氏　名	部屋番号	学年・学科	氏　名
寮長		[redacted]					
副寮長（代表）							
〃　（書記担当）							
〃　（会計担当）							
ライフマスター							
外国人留学生棟							
１棟	１　階	[redacted]			[redacted]		
	２　階						
	３　階						
２棟	１　階						
	２　階						
	３　階						
３棟	１　階						

［女子寮］

役員名		部屋番号	学年・学科	氏　名
寮長		[redacted]		
副寮長（代表）				
〃　（書記担当）				
〃　（会計担当）				
ライフマスター				
３棟	２　階	[redacted]		
	３　階	[redacted]		

（出典　学生寮委員会資料より抜粋）

資料７－２－③－４

起　床		７　：　３０
点　呼	平　日	７　：　３０
	休　日	な　し
清　掃		７　：　３５　～　７　：　５５
朝　食		７　：　５０　～　８　：　３０
昼　食	平　日	１２　：　２０　～　１３　：　０５
	休　日	１２　：　００　～　１３　：　００）
入　浴	1～3年	１８　：　００　～　２１　：　００
	4年～	１８　：　００　～　２２　：　００
夕　食		１９　：　００　～　２０　：　００
点　呼	1～3年	２０　：　４５
	4年～	２１　：　４５
サイレントアワー（学習時間）		点　呼　時　～　２３　：　００
就　寝		２４　：　００
消　灯		２４　：　１０

（出典　学生寮委員会資料より抜粋）

資料７－２－③－５

平成24年度　学生寮行事予定

前　学　期		後　学　期	
４月５日（木）	開　寮（１３：００）	１０月　１日（月）	後学期授業開始
６日（金）	入学式・新入生オリエンテーション 入寮オリエンテーション	３日（水）	実力テスト
		６日（土）	学生寮リーダー研修会（～７日）
９日（月）	授業開始	１３日（土）	前学期寮マッチ（振替） 秋涼大会
１１日（水）	実力テスト（午前） 定期健康診断（午後）	１７日（水）	保護者懇談会・オープンキャンパス（～１８日）
１３日（金）	寮生総会	２４日（水）	学生総会（放課後）
１４日（土）	新入生歓迎寮マッチ	１１月　２日（金）	高専祭　市中行進　（御輿）
１８日（水）	学生総会（放課後）	３日（土）	高専祭（バザー）　（～４日）
１９日（木）	新入生集団宿泊研修　（～２０日）	７日（水）	防災避難訓練（学校）
２４日（火）	歩行大会（開校記念日）	１４日（水）	寮防災ビデオ会
５月１２日（土）	ＫＣＴ体育祭	１５日（木）	寮防災避難訓練 在室点呼開始　（～１２/９日）
２３日（水）	在室点呼開始　（～６/１３日）		
３０日（水）	消灯なし　（～６/１３日）	１７日（土）	後学期寮マッチ
６月　６日（水）	前学期中間試験　（～１２日）	２２日（木）	寮消灯なし　（～１２/９日）
２７日（水）	クラスマッチ	２９日（木）	後学期中間試験　（～１２/６日）
３０日（土）	保護者懇談会	１２月　日（　）	クリスマスパーティ
７月　６日（金）	寮生総会	２１日（金）	校内清掃・寮大清掃
２６日（木）	校内清掃，寮大清掃・部屋替	２３日（日）	閉寮　（１１：００）
２８日（土）	閉寮　（１１：００）	１月　６日（日）	開寮（１３：００）
９月　１日（土）	開寮　（１３：００） 在室点呼開始　（～９/１７日）	８日（火）	授業開始 平成２５年度入寮募集　（～１５日）
３日（月）	授業開始 消灯なし　（～１７日）		女子寮もちつき
		２９日（火）	在室点呼開始　（～２／２０日）
１０日（月）	前学期定期試験（～１８日）	２月　５日（火）	消灯なし　（～２０日）
		１２日（火）	後学期定期試験（３年　～２１日）
		１３日（水）	後学期定期試験（1･2･4･5年　～２１日）
		２１日（木）	平成２５年度入寮許可者発表
		２５日（月）	卒寮パーティー
		２６日（火）	寮大清掃・部屋替
		２８日（木）	５年生退寮日
		３月１５日（金）	閉寮　（１４：００）
		３月２１日（木）	卒業・修了式

（出典　学生寮委員会資料）

設備面では，パソコン室のパソコン（５台）以外に，無線LANを通じて居室から本校ウェブサイトにアクセスでき，情報検索や電子メールで利用されている。平成23年から全居室にエアコンを設置，さらに電子錠（玄関，女子寮入口，パソコン室）も順次設置し，利便性と安全性を向上させている。

学習面では，サイレントアワー（学習時間）を設定し，学生寮委員（学習担当）の指導の下で勉強

会を開いている(資料７－２－③－６：別添資料)。

（分析結果とその根拠理由）

寮務主事を中心とした学生寮委員会が組織され，生活支援を行っている。寮学生による寮生会も組織されている。設備改修については，今後の予算措置などで順次対応できると考える。

観点７－２－④：　就職や進学等の進路指導を行う体制が整備され、機能しているか。

（観点に係る状況）

就職・進学に関する支援では，学科長，教務主事，専攻科主事，学級担任，学生課教務係が中心になって指導する体制が整っている。

学生の進学・就職の意識向上と情報提供のために，外部講師を招聘し，進路指導セミナーとインターンシップ講演会を毎年開催している(資料７－２－④－１：別添資料)。平成22年度より北九州市内・関東・関西の企業が参加する合同企業説明会も本校で開いている（資料７－２－④－２：別添資料）。各学科に進学・就職資料閲覧コーナーを設け，過去の受験情報や受験報告書等も閲覧できる。

就職希望者に対しては，学生と面談の上，求人のあった企業へ推薦を行うと共に，会社説明会への参加やネット検索等による情報収集を指導している。その結果，近年の就職難にも関わらず，100％に近い就職率を維持している(資料７－２－④－３)。

進学希望者に対しては，進学先に関する相談に応じ，入試の指導を行っている。進学状況としては，平成24年度における準学士課程では，47%の学生が大学３年次の編入又は本校専攻科へ進学し，専攻科課程では，37%の学生が大学院へ進学しており，進学希望者のほぼ100%がさらなる勉学に励んでいる。

資料７－２－④－３

平成 24 年度進路状況

○卒業者数及び進路調べ

平成２４年度卒業生　　平成25年3月31日 現在

学　　科	卒業者数	就職希望者数(B)	求人数(A)	就職内(々)定者数	求人倍率(A)÷(B)	進学希望者数	進学者数(※3)	研究生	公務員(※1)	専門学校(※2)	就職未決定者	進学未決定者	その他(進路未定)	備　考
機械工学科	37 (2)	24 (1)	326	24 (1)	13.6	13 (1)	13 (1)							
電気電子工学科	46 (2)	23 (2)	329	23 (2)	14.3	23	23							
電子制御工学科	43 (3)	17 (2)	314	14 (2)	18.5	26 (1)	25 (1)			1	3	1		
制御情報工学科	35 (12)	18 (9)	287	18 (9)	15.9	17 (3)	17 (3)							
物質化学工学科	37 (14)	20 (11)	179	18 (9)	9.0	17 (3)	17 (3)				2 (2)			
計	198 (33)	102 (25)	1,435	97 (23)	14.1	96 (8)	95 (8)			1	5 (2)	1		

平成２４年度専攻科修了生　　平成25年3月31日 現在

専　攻　名		修了者数	就職希望者数(B)	求人数(A)	就職内(々)定者数	求人倍率(A)÷(B)	進学希望者数	進学者数(※3)	公務員(※1)	専門学校(※2)	就職未決定者	進学未決定者	その他	備　考
生産工学専攻	機械	7	5	127	5	10.6	2	2						
	電気	7	7		7									
	計	14	12		12		2	2						
制御工学専攻	電制	12 (2)	10 (2)	116	9 (2)	8.9	2	2			1			
	制情	9 (2)	3 (2)		3 (2)		6	6						
	計	21 (4)	13 (4)		12 (4)		8	8			1			
物質化学工学専攻		15 (3)	8 (1)	55	8 (1)	6.9	7 (2)	7 (2)						
計		50 (7)	33 (5)	298	32 (5)	9.0	17 (2)	17 (2)			1			

○ ( ) は，女子学生を内数で示す。
※1　就職者数の内数
※2　進学者の内数
※3　進学未決定者は含まない

（出典　平成 25 年度学校要覧）

（分析結果とその根拠理由）

学科長，教務主事，専攻科主事，学級担任，学生課教務係を中心に全学を挙げた進路指導・支援を行っている。その成果として，昨今の極めて厳しい経済情勢にも関わらず，卒業時には，ほぼ100％の学生の進路が決定している状況にある。

（２）優れた点及び改善を要する点

（優れた点）

・月割表やチェックリストを導入し，学生自身が授業の進捗状況を把握できる。
・専攻科生をTAとして採用し，本科生の学習教育支援を行う制度がある。
・図書館内の多目的室や学内無線LANなど，学生が利用しやすい自習環境の整備に努めている。
・TOEIC，３次元CAD利用技術者，基本情報技術者等の資格受験の支援体制が優れている。
・学外コーチや非常勤教職員を任用する等，課外活動に対する支援が採られている。
・カウンセラー３名，学生支援介助員２名を採用し，学生相談室の体制が強化され，障がいを抱えている学生はもちろん，悩みを抱えた学生に対する支援も充実しつつある。
・学生支援介助員は，ソーシャルスキルトレーニング等も行い，学生の就職活動等を支援している。
・海外留学や国際交流活動の件数が増加しており，指導・支援体制が優れている。
・平成22年度から合同企業説明会を実施し，就職活動に対する支援が優れている。

（改善を要する点）

該当なし

（３）基準７の自己評価の概要

自主的学習の支援では，月割表やチェックリストを導入することで学生自身が授業の進捗状況を把握できるようになっており，学生の自主的学習を進める上での相談・助言を行う体制が整備されている。

学生のための校内環境については，学習面，生活面の両方において十分整備されており，寮学生の生活環境も整っている。学生相談室による心のケアや，バリアフリー化による障がいを持った学生の対応も考慮され，留学生や編入学生の学習・生活支援体制も整っている。

課外活動の支援では，技術的・経済的な支援体制が確立しており，優れた活動実績を上げている。

進路指導については，各学科と事務組織との連携が密接に行われており，進学・就職共にほぼ100％に近い学生の進路が決定している。

以上のことから，本校での学生支援に関して学習面，生活面，進路指導の全てにおいて必要な支援体制が存在し，機能している。

基準８　施設・設備

（１）観点ごとの分析

観点８－１－①：　学校において編成された教育研究組織の運営及び教育課程の実現にふさわしい施設・設備が整備され、適切な安全管理の下に有効に活用されているか。また、施設・設備のバリアフリー化や環境面への配慮がなされているか。

（観点に係る状況）

高等専門学校設置基準第22，23条で必須とされている校地・校舎，施設等は，全て整備され，基準第22～24条を満足している（資料８－１－①－１）。また，第22条を考慮し，教室がある棟にはコミュニティスペースを設け，学生の自主的学習環境を提供している（資料８－１－①－２）。平成24年度には，図書館内に多目的学習室を整備し，図書係の管理下で適切かつ有効に利用されている（資料７－１－②－３）。資料８－１－①－３に，各教育目的に関わる主な科目等の一例と施設・設備の関係，及びこれら施設の利用状況を示す。第１工場は本校のものづくりの中心であるため，例として挙げている。教育目的達成に関わる主要な施設は有効に活用されているのが分かる（全施設の利用状況調査結果は訪問時閲覧資料）。施設の安全管理に関しては，安全衛生委員会が点検項目事項や安全衛生管理計画を作成し，定期的に職場巡視等を行い，安全な環境を保つように努めている（資料８－１－①－４，５）。

第１工場も含め，各施設の設備は計画的に導入・更新され，教育研究にふさわしい環境整備が実施されている（資料８－１－①－６）。また，学生は，実習工場の設備の一部を,教職員の管理の下で実験・実習，部活動等で利用できる。その際，作業毎の安全教育を事前に行い，これを受講した学生のみに設備利用を許可する体制を堅持している（資料８－１－①－７，８）。

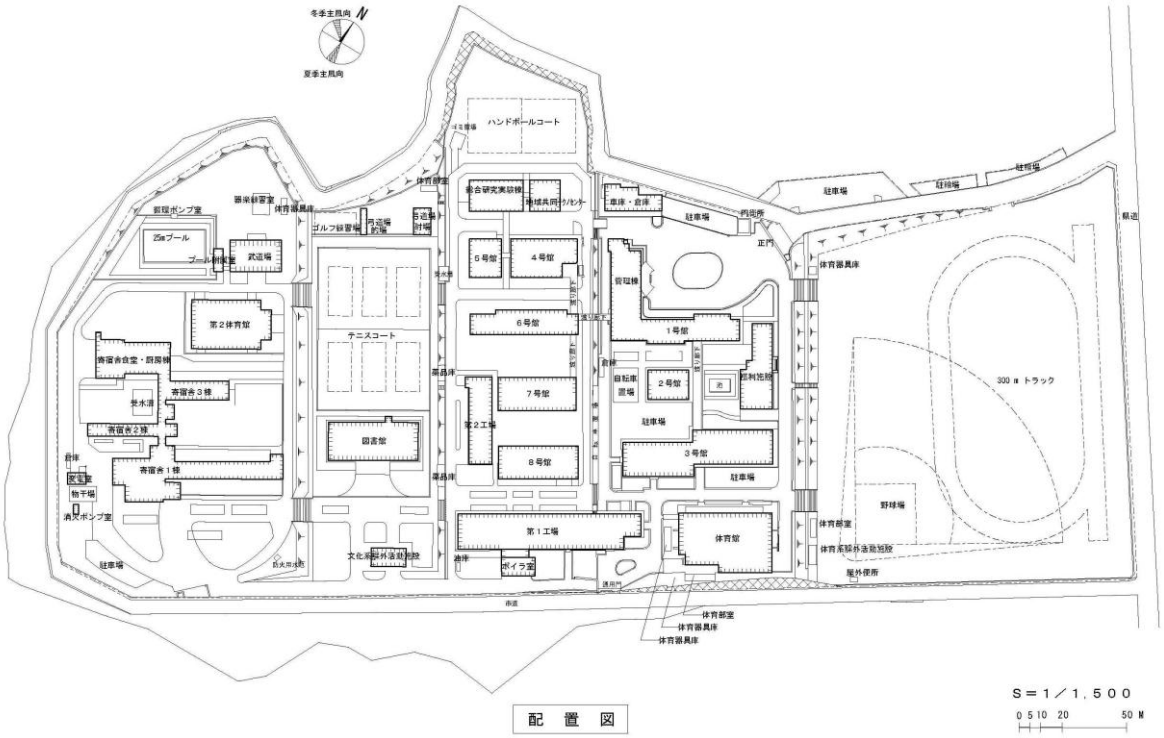
障がいのある学生が円滑に施設を利用できるよう，バリアフリー化に関する年度計画を立て，エレベーター，スロープ，リフト，多目的トイレの設置を進め，平成25年度に完了予定である（資料８－１－①－９～11）。

（分析結果とその根拠理由）

設置基準を満たし，本校の教育目的実現に寄与する施設・設備が整備されている。実験・実習や学生の自主的活動で，工作機器等を使用する場合には，事前に安全教育を実施した上で，教職員による安全管理の下で有効に活用されている。施設・設備は計画的に導入・更新され，教育研究にふさわしい環境整備が継続的になされている。計画的にバリアフリー化を実施し，平成 25 年度に完了予定である。

資料８－１－①－１

北九州工業高等専門学校配置図



配　置　図

敷地面積：95,497㎡

高等専門学校設置基準第24条で定められた校舎面積と本校校舎面積の比較

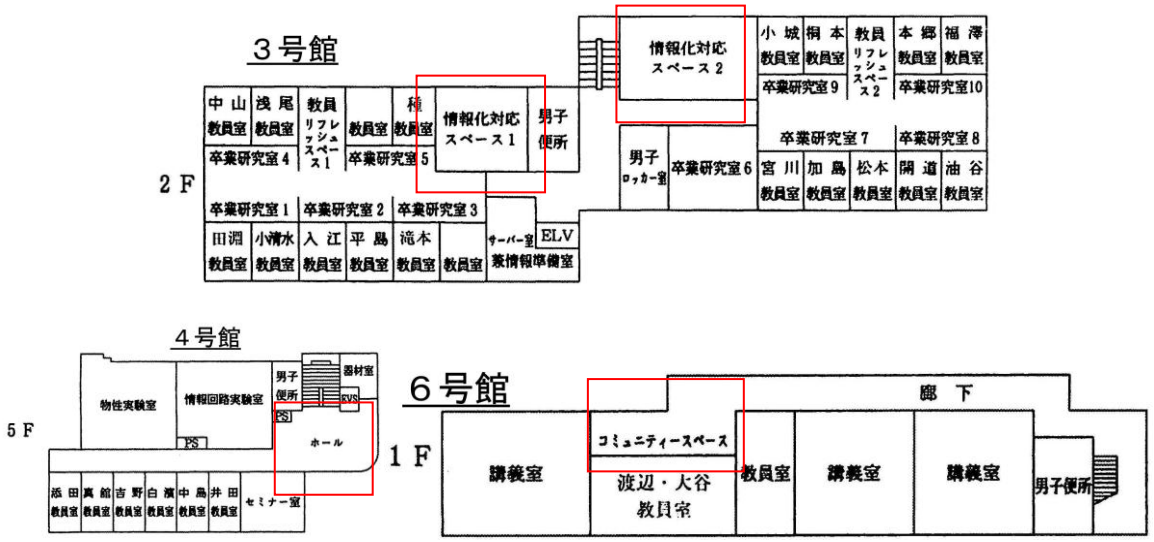
第24条第2項で定める校舎の面積		第24条第3項で定める校舎面積の追加				本校校舎面積
4,793.39 [m²]	＋	8,264.45 [m²]	＝	13,057.84 [m²]	＜	18,636.00 [m²]

主要校舎	面積[m²]
管理棟	794
1号館	2,580
2号館	561
3号館	3,154
4号館	2,252
5号館	1,163
6号館	1,503
7号館	1,643
8号館	1,334
第一工場	1,352
第二工場	408
総合研究実験棟	1,480
地域共同テクノセンター	412

（出典　北九州工業高等専門学校配置図，学校要覧より作成）

資料８－１－①－２

３，４，６号館見取り図，コミュニティスペースの配置の例



（出典　平成24年度学生便覧）

資料８－１－①－３

表　教育目的，科目等，施設･設備の関係，及び施設の利用状況

教育目的	目的に対する主要科目等の例	施設	施設稼働率(%)	設備の例
幅広い工学基礎と創造的技術開発力の修得	専門科目 実験･実習 研究	第１工場（FA工場）	36	5軸制御型マシニングセンター
		第１工場（手仕上工場）	36	ファインカット卓上ボール盤
		第１工場（機械工場(1)）	47	旋盤
		第１工場（機械工場(2)）	36	立フライス盤 精密平面研削盤
		第１工場（機械工作実験室）	36	CNC円筒研削盤
		…	…	
		…	…	
国際社会で尊敬され，信頼される国際センスの修得	社会系科目 英語を中心とする語学	マルチメディア学習室	24	PC等情報機器
		CALL教室（H22整備）	62	PC等情報機器
		…	…	
地球にやさしい技術を開発できる心豊かな人間性の涵養	社会系科目 体育 特別活動 部活動	第１体育館	87	
		第２体育館	100	
		…	…	

（出典　総務課資料（施設利用状況調査結果）より作成）

資料８－１－①－４

平成２４年度　第７回安全衛生委員会議事要録

開催期日　平成２４年９月１８日（火）～２４日（月）
場　所　（メール会議のため開催場所なし）
出 席 者　古畑事務部長、中村技術専門職員（衛生管理者）、濵田准教授、浅尾教授、宮川教授、
　　添田教授、乙部准教授、園田准教授、廣瀬講師、南立医師（産業医）、岩永総務課長（安
　　全管理者）、佐々木学生課長、北﨑看護師

１　資料１に基づき、平成２４年度第５回安全衛生委員会（８月１６～２２日開催）議事要録の確認
　が行われた。

２　議　事

［議　題］

（１）職場巡視報告について

　本委員会委員等による職場巡視について、資料２の職場巡視記録簿に基づき報告が行われ、了
　承された。

（２）メンタルヘルス講演会講演内容について

　人事係から資料３「メンタルヘルス講演会講師の紹介について（依頼）」に基づき提案があり、
　了承された。これにより、独立行政法人労働者健康福祉機構福岡産業保健推進センターに講師の
　紹介を依頼することとなった。

［その他］

（１）労働安全衛生管理研修会について

　人事係から資料４「労務・人事担当者のための労働衛生管理研修会」に基づき説明があり、参
　加希望者は人事係まで連絡することとなった。

（出典　平成24年度第７回安全衛生委員会議事要録）

資料８－１－①－５

点検項目確認事項

【４Ｓ】
整理　①作業に必要な道具，工具，検査具が所定の場所に保管しているか。
　②消火器，スイッチ・ボックス，救急用具等の前には物を置かないようにしているか。
　③出入り口付近に品物が積み上げられるなど見通しが悪くなっていないか。
　④非常口の前後や階段に品物を積んでいないか。
　⑤作業場の隅，機械の裏等に不要な物を置いていないか。
　⑥不要な書類を積み上げて置いていないか。
整頓　①通路への物のはみ出しはないか。
　②材料や工具類，その他が整頓されていて探さなくても取り出せるようにしてあるか。
　③廃材の切粉，ゴミ等が区分されて整然と捨てられているか。
　④清掃用具等は，使用時以外には定められた場所に保管してあるか。
　⑤重い物から軽い物へ，大きな物から小さな物へ積み重ねているか。
　⑥高さは底の幅の約３倍以下になっているか。
清潔　①トイレを清潔にしているか。
　②掲示物は美しく掲示されているか。
　③作業台，机等は清潔であるか。
　④照明が明るく換気が十分であるか。
　⑤電話機，キャビネット，ロッカー等は清潔であるか。
清掃　①玄関・入り口等は，清掃されているか。
　②廊下・床等は，清掃されているか。
　③機械・設備等は，清掃されているか。
　④構内にゴミは散乱していないか。

【危険物】
保管方法　①危険物を取り扱う者を特定しているか。
　②危険物の転倒・落下防止の対策を行っているか。
　③危険物の保管容器は，不燃性で腐食しないものになっているか。
　④周囲に燃えやすいものがないか。
取り扱い　①危険物を小分けした容器のキャップは確実に閉められているか。缶の蓋は開いたままになっていないか。
　②作業に必要な量以上の危険物を作業場に持ち込んでいないか。
　③危険物使用場所，保管場所に必要な表示がされているか。見やすい箇所に確実に読めるか。
火気管理　①ストーブ，電熱器などを段ボール等可燃性の部材の上に置いていないか。近くに灯油・紙・ウエスなど可燃性のものを置いていないか。
　②ガス溶接・溶断の作業中又は作業後の火玉の安全管理は適正に行われているか。
　③有機溶剤，粉じんなど火災・爆発の危険のある物質を取り扱う機械装置，配管，容器などへの引火，着火の危険はないか。

【作業環境】
工具等の整備　①工具や材料の配置場所，手入れ等の整備はされているか。
作業場所　①適切な場所で作業を行っているか。
　②無理な姿勢や行動で作業をしていないか。
　③体への負担が著しい動作を行う場所でないか。
通路等　①通路の幅は８０ｃｍ以上確保されているか。
　②通路，作業床，階段に凹凸や損傷がないか。水，油等で滑りやすくないか。
　③通路，作業床，階段の上部に落下物や邪魔物はないか。
通気・換気　①換気扇，局所排気装置等は有効に稼働しているか。
　②粉じん，有機溶剤等有害物質の発生する作業場では，適正なマスク等保護具を着用しているか。
温度・湿度　①暑熱又は多湿な屋内作業場では，冷房，通風等の温湿度調節をしているか。
　②寒冷な屋内作業場で暖房等の温度調節をしているか。
照明　①照明器具の電球，蛍光管等の汚れ，破損等により照度が低下していないか。
　②出入り口内外の照度差が大きくないか。

【作業者】
服装等　①作業服，保護具，安全靴の着用はしているか。
健康状態　①顔色が悪かったり具合が悪そうにしていないか。

（出典　安全衛生委員会資料）

資料８－１－①－６

設備の計画的導入(H21～)

設備整備費補助金		
平成21年度		
設備名	予算配分額(千円)	学科名等
旋盤 (学生使用可能)	40,000	機械実習工場(第1工場)
立フライス盤 (学生使用可能)	8,200	機械実習工場(第1工場)
精密平面研削盤	10,500	機械実習工場(第1工場)
ファインカット (学生使用可能)	3,100	機械実習工場(第1工場)
卓上ボール盤 (学生使用可能)	2,100	機械実習工場(第1工場)
サイバーマルチメディア学習支援システム	44,950	ITセンター、総合科学科
X線回析装置蛍光分析共用装置	13,350	物質化学工学科
ハイスピードビデオカメラ	6,700	制御情報工学科
合計	128,900	
平成22年度		
コンピュータ制御油圧サーボ方式万能試験機	8,300	機械工学科
合計	8,300	

実験実習設備更新経費（平成21年度）		
設備名	予算配分額(千円)	学科名等
示差熱天秤／示差熱量計	5,400	物質化学工学科
原子吸光分光光度計	3,600	物質化学工学科
合計	9,000	

イノベーション創出推進経費（平成22年度）		
設備名	予算配分額(千円)	学科名等
X線光電子分光分析装置	17,955	物質化学工学科
CNC円筒研削盤	12,666	機械実習工場(第1工場)
レーザマイクロスコープ	11,340	機械工学科
合計	41,961	

マスタープランに基づく設備費		
平成23年度		
設備名	予算配分額(千円)	学科名等
5軸制御型マシニングセンタ(熟練した学生のみ使用可能)	35,000	機械実習工場(第1工場)
合計	35,000	
平成24年度		
フーリエ変換核磁気共鳴装置	0	物質化学工学科
合計	0	

（出典　総務課資料より）

資料８－１－①－７

表3-1-1 安全教育の時間

工作機械	時間(分)
旋盤	30
フライス盤	30
ボール盤	20
ノコ盤	10
シャーリングマシン	10
コンターマシン	10

（出典　実習工場（第１工場）資料）

資料８－１－①－８

実習工場利用学生安全教育受講確認カード



（出典　実習工場（第１工場）資料）

資料８－１－①－９

身障者対策について（学内予算年度計画）　平成24年度

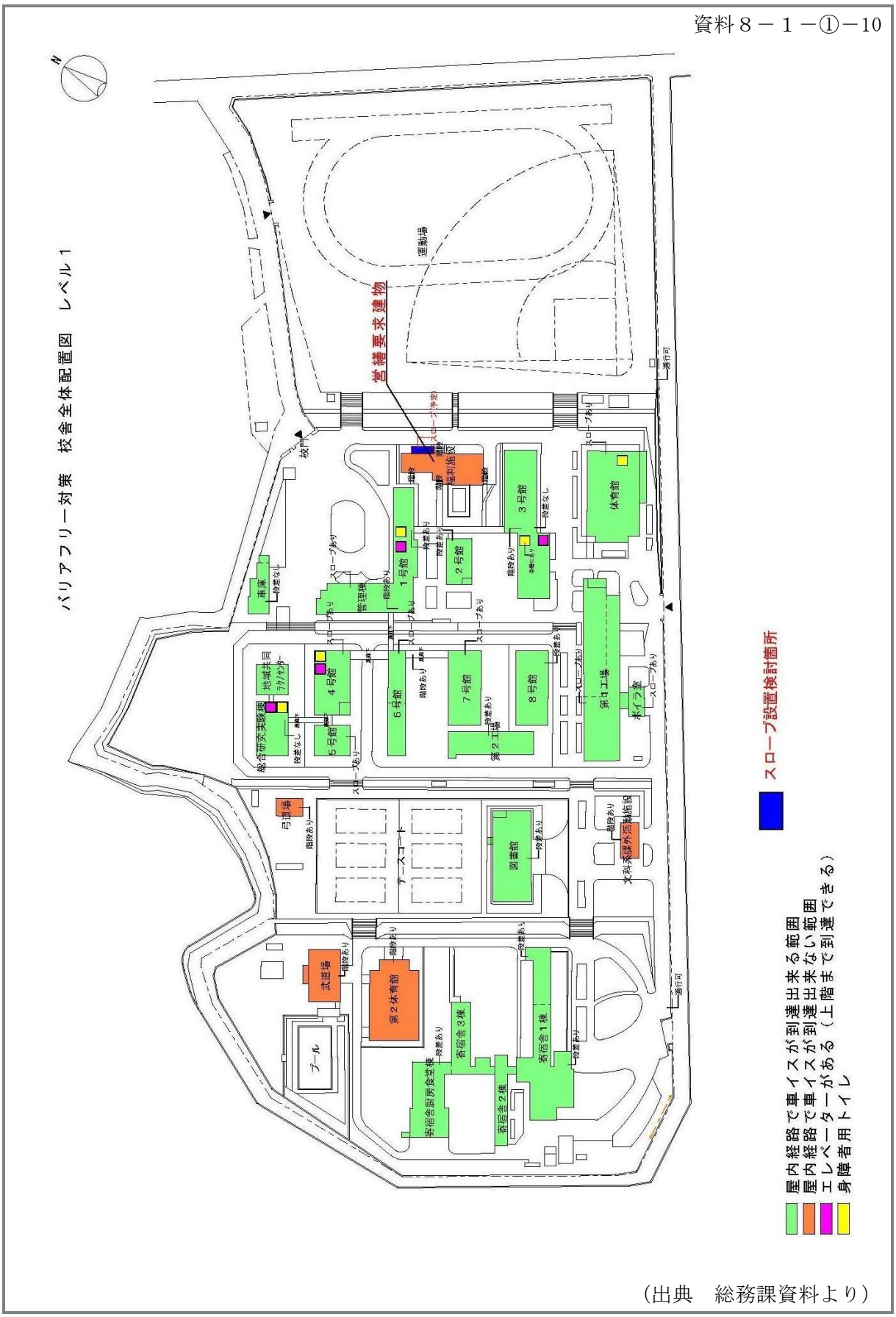
（千円）

建物名称等	対応策	整備済み		営繕要求予定	25年度	26年度	27年度	28年度	備考
管理棟・1号館	エレベーター設置（平成10年度）	◎	4,000	0		0	0	0	
	学生玄関スロープ設置			0		0	0	0	現在簡易スロープで対応済
	職員玄関スロープ設置（平成10年度）	◎	2,000	0		0	0	0	
	多目的便所設置（平成10年度）	◎	500	0	0	0	0	0	
図書館	リフト設置			0	0	0	0	0	
	玄関スロープ設置			0	0	0	0	0	簡易スロープで対応可能
	多目的便所設置			0	0	0	0	0	
				0	0	0	0	0	
5号館	スロープ設置（平成8年度）	◎	2,000						
4号館	スロープ設置（昭和63年度）	◎	2,000		0	0	0	0	
	エレベーター設置（昭和63年度）	◎	3,800						
	多目的便所設置（昭和63年度）	◎	500						
3号館	エレベーター設置（平成18年度）	◎	4,000						
	多目的便所設置（平成12年度）	◎	1,500						
総合研究実験棟	エレベーター設置（平成11年度）	◎	4,000						
	多目的便所設置（平成11年度）	◎	500						
福利施設	スロープ設置			2,614					25年度営繕要求
	多目的便所設置								
2号館	スロープ設置								簡易スロープで対応可能
	リフト設置								
7号館	スロープ設置（平成14年度）	◎	500						
	リフト設置								
第１体育館	スロープ設置（平成18年度）	◎	3,000						
	多目的便所設置（平成18年度）	◎	500						
第2体育館	スロープ設置								簡易スロープで対応可能
武道場	スロープ設置								簡易スロープで対応可能
8号館	スロープ設置								簡易スロープで対応可能
	リフト設置								
第1工場	スロープ設置				500				25年度概算要求
第2工場	スロープ設置			500					25年度営繕要求
6号館	スロープ設置（平成10年度）	◎	1,500						
寄宿舎	スロープ設置								簡易スロープで対応可能
	多目的便所設置								
	小計		30,300	3,114	500	0	0	0	

凡例
○：整備済み（学内予算）
◎：整備済み（文教施設整備費）
●：整備済み（営繕費）

（出典　総務課資料より）

資料８－１－①－10



（出典　総務課資料より）

資料８－１－①－11

バリアフリー対応施設（一部）



（出典　総務課資料より）

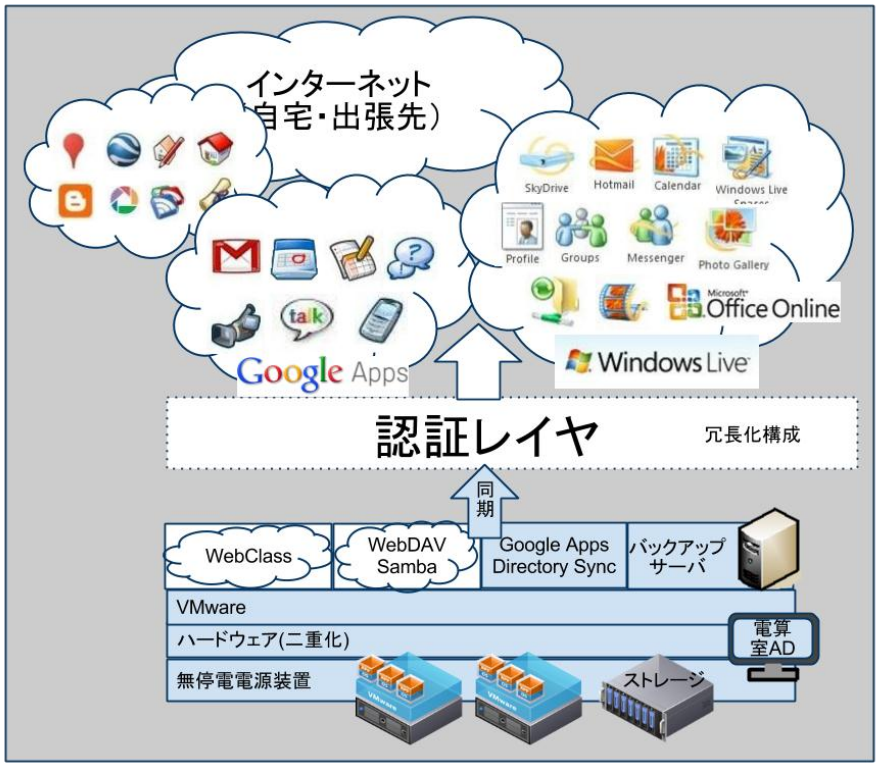
観点８－１－②：　教育内容、方法や学生のニーズを満たすＩＣＴ環境が十分なセキュリティ管理の下に適切に整備され、有効に活用されているか。

（観点に係る状況）

教育研究用 ICT 環境の向上を目指して，平成 23 年度に教育用システムを更新した。認証サーバを導入しセキュリティと利便性を同時に実現し，複数のサービスが同一のアカウントで利用可能となった。異なる PC 教室や寮，図書館からも同じホームドライブにアクセスができるようになり，自学自習環境を改善した。クラウドも導入し，学校が管理するアカウントで Google/Microsoft の提供するサービスを利用できるようになった。それに伴い電子メールの利用率も大きく向上し，１月ごとの利用人数は平均して 600 近くとなった（資料８－１－②－１，２）。

資料８－１－②－１

教育用システム概念図



（出典　IT センター資料より）

資料８－１－②－２

教育用クラウドサービスユーザアクティビティ



（出典　IT センター資料より）

資料８－１－②－３

平成 24 年度開設 e-learning コース(一部)

学部▲▼	学科▲▼	コース名▲▼	コンテンツ▲▼	メッセージ▲▼	メンバー▲▼	author 人数▲▼	observer 人数▲▼	user 人数▲▼	ログイン回数▲▼	合計時間▲▼
電子制御工学科	3年	H24_3D_情報処理II	49	1218	45	1	0	44	4148	1532:44:39
物質化学工学科	2年	H24_2C_情報処理	50	761	47	2	0	45	3780	813:05:17
電子制御工学科	1年	H24_1D_基礎情報処理	41	571	46	1	0	45	2631	280:35:20
電子制御工学科	5年	H24_5D_工業英語	79	542	44	1	0	43	2441	1874:36:31
電気電子工学科	2年	H24_2E_情報処理II	30	0	45	1	0	44	2227	247:06:30
電子制御工学科	4年	H24_4D_計算機システムI	32	4659	42	1	0	41	2224	1160:35:18
電子制御工学科	4年	H24_4D_計算機システムII	28	633	35	1	0	34	2177	890:10:29
制御情報工学科	5年	H24_5S_数値計算法	58	1303	39	1	0	38	2148	928:12:40
電子制御工学科	5年	H24_5D_情報処理演習	37	287	44	1	0	43	2133	1004:29:48
制御情報工学科	3年	H24_3S_コンピュータ基礎	20	196	43	2	0	41	2042	1292:37:54
本科	4年	H24_4全_基礎ネットワーキング	52	25	27	5	0	22	1994	536:47:28
機械工学科	3年	H24_3M_数値計算法	86	74	43	2	0	41	1936	677:22:48
物質化学工学科	4年	H24_4C_ホームルーム	92	91	42	1	0	41	1885	194:09:52
制御情報工学科	2年	H24_2S_ロボット基礎演習	19	216	47	3	0	44	1678	760:26:34
電子制御工学科	4年	H24_4D_数値計算法	28	742	42	1	0	41	1456	830:05:04
制御情報工学科	2年	H24_2S_情報処理	18	1570	45	1	0	44	1409	326:08:04
電気電子工学科	3年	H24_3E_情報処理III	32	0	42	1	0	41	1321	289:06:50
物質化学工学科	4年	H24_4C_計算機化学	32	627	27	1	0	26	1313	521:42:51
電気電子工学科	4年	H24_4E_数値計算法	27	0	40	1	0	39	1203	102:25:38

（出典　IT センター資料より）

平成 24 年度には e-learning システム上で 139 のコースが開講されている。ログイン回数，利用合計時間からも自主学習環境の提供に大きく寄与している状況がわかる（資料８－１－②－３）。ICT 環境の向上に伴い演習室，CALL 教室の授業における稼働率はそれぞれ 80%，68%と向上した。他の PC 教室も含めサーバは共通であり，授業がある週は平均して１万回のログインがある（資料８－１－②－４，５）。

資料８－１－②－４

ＩＴ　セ　ン　タ　ー　演　習　室　　使　用　時　間　割　H25. 3. 11 作成
平成24年度　前学期

時間	時限	月	火	水	木	金
8:50～9:40	1		情報処理Ⅱ 2－E 桐本	基礎情報処理 1－E 宮川		情報処理Ⅲ 3－E 桐本
9:45～10:35	2					
10:45～11:35	3	ディジタル回路Ⅱ 5－E 桐 本	計算機化学 4－C 竹原	計算機システムⅠ 4－D 白濱	基礎情報処理 1－D 秋本	情報処理Ⅰ 2－D 北園
11:40～12:30	4					
お昼休み						
13:15～14:05	5	アルゴリズム 4－S 脇山		数値計算法 4－D 太屋岡	コンピュータアーキテクチャ1 4－S 脇山	情報処理 2－S 山内
14:10～15:00	6					
15:10～16:00	7	基礎情報処理 1－C 谷口	数値計算法 4－E 桐本		数値計算法 5－S 吉川	※特別活動 3－D 白濱
16:05～16:55	8					
17:10～18:00	9				基礎ネットワーキング	

ＣＡＬＬ（ＬＬ視聴覚室）教室　使用時間割　H25. 3. 11 作成
平成24年度　前学期

時間	時限	月	火	水	木	金
8:50～9:40	1			英語ＡⅡ 2－S 横山	英語ＡⅠ 1－S 大谷	英語ＡⅡ 2－C 横山
9:45～10:35	2	英語ＡⅡ 2－C 横山			英語ＢⅡ 3－C 大谷	英語ＡⅡ 2－M 横山
10:45～11:35	3		英語ＡⅣ 4－S 山本	英語ＢⅡ 3－D 横山	一般総合選択 4全 大谷	英語ＡⅠ 1－D 渡辺
11:40～12:30	4	英語ＡⅡ 2－D 木田		英語ＡⅡ 2－M 横山		
お昼休み						
13:15～14:05	5	英語ＡⅡ 2－M 横山	英語ＢⅡ 3－M 大谷		英語ＡⅣ 4－M 山本（一）	2－専
14:10～15:00	6			英語ＡⅠ 1－M 山本（一）		
15:10～16:00	7	情報処理 2－C 園田			基礎情報処理 1－S 乙部	特別活動 2－S 横山
16:05～16:55	8					
17:10～18:00	9					

（出典　IT センター資料より）

各棟の演習室，実験室，図書館，寮で利用可能な PC は合計 300 台以上である（資料８－１－②－５）。また，自学自習環境の整備として全教室で無線 LAN が利用可能である。セキュリティを考慮し，各自のアカウント情報の認証を経て利用可能としている。ICT 環境の利用にあたっては，セキュリティポリシーを遵守するために利用者規定（資料８－１－②－６）を定め，ポスター（資料８－１－②－７）や，１年次のリテラシー科目「基礎情報処理」で周知している（資料８－１－②－８）。オープン利用可能な教室には防犯カメラも設置している。上記環境の下，選択科目希望調査や様々な情報提供サービスが利用可能である。

資料８－１－②－５

学内 PC 設置教室



電子計算機室(50 台)



マルチメディア学習室(50 台)



CALL 教室(70 台)



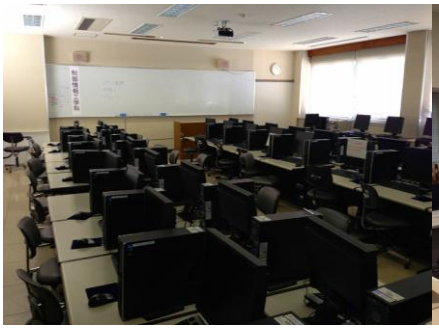
CAD 室(50 台,機械工学科)



情報化対応ｽﾍﾟｰｽ(4 台,電気電子工学科)



知能情報演習室 (20 台,電子制御工学科)



制御設計情報工学実験室
(50 台,制御情報工学科)



情報化対応ｽﾍﾟｰｽ(10 台,物質化学工学科)

(出典　IT センター資料より)

資料８－１－②－６

○北九州工業高等専門学校情報セキュリティ利用者規程

平成２３年１２月１５日　規則　第２７号

目次

第１章　総則（第１条－第７条）
第２章　情報システムの利用（第８条－第１９条）
第３章　情報の取扱い（第２０条）
第４章　教育（第２１条）
第５章　情報セキュリティインシデント対応（第２２条）
第６章　違反報告（第２３条）

第１章　総則

（目的）

第１条　この規程は、独立行政法人国立高等専門学校機構北九州工業高等専門学校（以下「本校」という。）における情報セキュリティの維持向上のために情報システムを利用する者が遵守すべき事項を定めるものである。

（定義）

第２条　この規程における用語の定義は、この規程で定めるものを除き、独立行政法人国立高等専門学校機構情報セキュリティポリシー対策規則（機構規則第９８号）別表、独立行政法人国立高等専門学校機構情報格付規則（機構規則第９９号。以下「格付規則」という。）の定めるところによる。

（適用範囲）

第３条　この規程は本校の情報システムを対象とし、その範囲は、北九州工業高等専門学校情報セキュリティ管理規程付表１のとおりとする。

（適用対象）

第４条　この規程は本校の情報資産を利用する利用者に適用する。

（一般的遵守事項）

第５条　利用者は、この規程及び本校情報資産の利用に関する各実施手順等を遵守すると共に、その他関連規則を遵守しなければならない。

２　利用者は、立入り権限のない安全区域へ立入らないこと。

（一般的禁止事項）

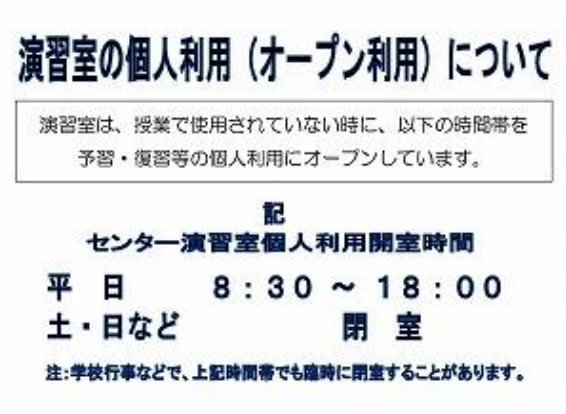
第６条　利用者は、次の各号に掲げる行為を行ってはならない。

（１）差別、名誉毀損、誹謗中傷、人権侵害、ハラスメントにあたる情報の発信
（２）個人情報やプライバシーを侵害する情報の発信
（３）守秘義務に違反する情報の発信
（４）著作権等の知的財産権や肖像権を侵害する情報の発信
（５）公序良俗に反する情報の発信
（６）本校の社会的信用を失墜させるような情報の発信
（７）ネットワークを通じて行う通信の傍受等、通信の秘密を侵害する行為
（８）不正アクセス行為の禁止等に関する法律（平成１１年法律第１２８号）に定められたアクセス制御を免れる行為、又はこれに類する行為
（９）過度な負荷等により円滑な情報システムの運用を妨げる行為
（１０）その他法令に基づく処罰の対象となり、又は損害賠償等の民事責任を発生させる情報の発信
（１１）上記の行為を助長する行為

（本校の情報システムの利用に係わる禁止事項）

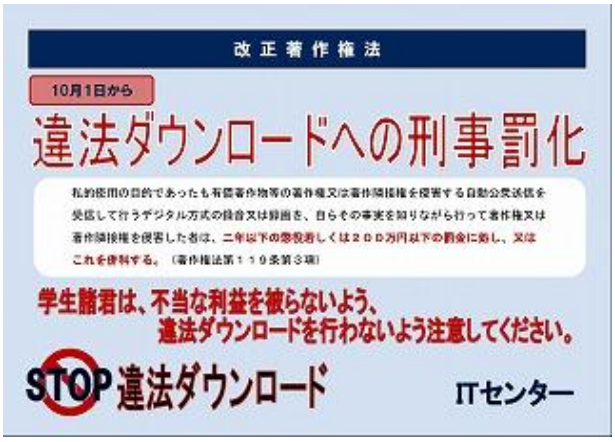
（出典　ITセンター資料より）

資料８－１－②－７













（出典　IT センター資料より）

資料８－１－②－８

【教科名】基礎情報処理　Fundamentals of Information Processing　＜H25 履修単位科目＞

学年	学科	単位数	期間	開設週数	時間/週	総時間
1	電子制御工学科	(必修) 2	通年	30	2	60

【担当教員】　【教員室】4 号館 4 階　【TEL】　【e-mail】

【授業目的と概要】
(1)コンピュータの基本的な概念・操作（タイピングを含む）、(2)文書作成、表計算、プレゼンテーション、(3)インターネットの有効活用の 3 点に習熟することを目的とする。授業では、計算機やネットワークを有効活用し、論文作成、データ整理、プレゼンテーション、情報の収集、検索などの基本的なスキルを習得することを目標とする。インターネット上でのモラル教育もあわせて行う。

【授業の進め方及び履修上の注意】
教科書や資料で基本事項を学習し、演習で確認する。タッチタイピング、ワード、エクセル、パワーポイント、電子メールの送受信について学習するが、各ソフトウェアの種類やバージョンについては担当教員の指示に従うこと。

授業項目	内容	時間
【前期】		
ガイダンス	アカウント・パスワードの管理、ネットワークドライブについて学ぶ。	1
ネットワークモラル	情報セキュリティに関する様々な事例と対策について学ぶ。	1
タイピング練習・文字入力	タッチタイプの練習方法と文字入力について学ぶ。	1
e-learning 学習	e-learning 学習方法について学ぶ。	1
ハードウェア	PC のハードウェアについて学ぶ。	1
メール送受信	電子メールの送受信について学ぶ。	1
ファイル操作	ファイルの作成・削除・コピー・移動を学び USB メモリを活用する。	1
文書作成基礎	書式設定に習熟し、フォーマットに従った文書を作成する。	10
中間試験		
文書作成応用	図表、数式を使用した文章を作成する。	13
期末試験		
【後期】		
表計算	セル参照・関数等、表計算の基本概念を理解する。	6
グラフ作成	データにあわせた最適なグラフを作成する。	12
中間試験		
プレゼンテーション基礎	効果的なプレゼンテーションについて学ぶ。	6
プレゼンテーション作成	プレゼンテーション資料を作成する。	6
定期試験		

【達成目標】
・セキュリティやモラルを考慮してインターネットを有効活用できる。
・電子メールで円滑なコミュニケーションを取ることができる。
・Web ブラウザを使った e-learning 学習ができる。
・図表・数式を含むフォーマットに従った文書を作成できる。
・数値データ処理、グラフの作成ができる。
・プレゼンテーション資料を作成・発表できる。
・タッチタイピングができる。

【教科書】
情報リテラシー教科書、
オーム社、
矢野文彦

【参考書】

JABEE 教育目標：

準学士課程目標：(A)①②、(E)②、(F)②③、(G)①

成績評価
【評価基準】
上記の目標を達成していること。
【評価方法】
中間試験・期末試験・定期試験の結果：70%
演習問題およびレポート等：30%

【オフィスアワー】
水曜日　午後 3 時 30 分から 5 時

（出典　平成 25 年度シラバスより）

（分析結果とその根拠理由）

教育用システムの更新に伴いPC教室，電子メール，e-learningそれぞれ利用率が大きく向上している。ITの急速な普及・進歩に合わせ，リテラシー教育から，各学科の専門分野が要求する情報処理教育まで対応する環境を整備している。ファイヤーウォール，アンチウイルス，認証システム，学内の各PC教室の整備から図書館の高度化，学内外のネットワークとの連携を考慮し，学術情報センターを新たに組織し，その下部組織として新たにITセンターを設置し，増大するICT環境への要求に対応している。

観点８－２－①：　図書、学術雑誌、視聴覚資料その他の教育研究上必要な資料が系統的に収集、整理されており、有効に活用されているか。

（観点に係る状況）

図書館は約９万冊の図書を所蔵し，一部閉架書庫に保管している図書及びバックナンバーの雑誌を除き常時開架している。特に，シラバス掲載資料や授業で必要となる参考資料及びTOEIC等各種の資格取得に関係した資料については，可能な限り購入し学習利用への利便性を図っている。

蔵書検索は長岡技科大・高専統合図書館システムOPACとして統合運用され，学内外の蔵書検索をシームレスに行うほか，国立国会図書館の蔵書検索も可能である。CiNii BooksやWebCat Plus，電子ジャーナル・データベースとしてJ-Dream，J-STAGE，Science Direct，米国化学会・物理学会電子ジャーナル，IEEEXplore等，各種論文検索及び特許情報等，系統別に分かりやすく整備したリンクページを提示し利便性を高めている。図書館ニュース・購入希望図書の申込み・各種申請書書式等の情報にもアクセス可能である（資料８－２－①－１）。

資料８－２－①－１



（出典　北九州工業高等専門学校図書館ウェブサイトより）

閲覧室には視聴覚資料の閲覧や蔵書を検索するために視聴覚メディア用AV機器５台，蔵書検索用PC

１台，一般用PC５台を設置している（資料８－２－①－２）。

電子ジャーナル，文献データベースの説明及び利用方法について５，６月に５年生全員（物質化学工学科は４年生）を対象に実施している（資料８－２－①－３）。

資料８－２－①－２

図書館設備改善履歴

平成 18 年 12 月　館内貸出用ノートパソコンが無線 LAN で利用可能に
平成 19 年 3 月　ブックディテクションシステム（無断持出防止装置）更新
平成 20 年 3 月　閲覧机（１２台）更新
平成 21 年 6 月　図書館利用者（学生）アンケート実施
平成 21 年 11 月　館内貸出用ノートパソコン１台購入
平成 21 年 11 月　閲覧室のデスクトップ型パソコン１台更新
平成 21 年 12 月　閲覧室照明器具（ダウンライト）取替え
平成 22 年 3 月　閲覧室視聴覚機器５台更新
平成 22 年 3 月　閲覧室デスクトップパソコン４台更新
平成 22 年 5 月　閲覧室壁紙張り替え
平成 22 年 8 月　閲覧室網戸設置
平成 22 年 10 月　館内貸出用ノートパソコン１台購入
平成 23 年 8 月　図書館１階トイレ（扉及び照明）改修工事
平成 23 年 8 月　閲覧室窓ガラスの遮光フィルム張り替え
平成 23 年 9 月　閲覧室雑誌架（木製書架に）更新
平成 23 年 11 月　図書館システム更新
平成 23 年 12 月　閲覧室照明器具（省エネタイプに）取替え
平成 24 年 3 月　和室をフロア室に改修
7 月・・・名称を「多目的学習室」に変更
9 月・・・机購入、扉交換
9 月～利用開始



（出典　図書館資料より）

資料８－２－①－３

平成 24 年度電子ジャーナル利用講習会実施要領

1．目的
論文検索を通じて、情報検索の質を高め、卒業研究等と相俟ってより高度な学術分野の学習研究に対する動機付けと自己学習能力の向上を図る。

2．実施要領
(1) 事前指導
卒研または特別研究の指導担当教員が、担当する学生に研究分野などに関する検索テーマを与え、検索しやすいように研究内容やキーワードを知らせる。
(2) 検索指導
・講習時間は 90 分以内とする。
・資料（受講報告書やアンケート用紙を含む。）を配布後、図書室長が講習の概要を説明する。
・資料をもとに図書係長が各データーベースについて検索法を説明しながら指導する。
・一通りの説明の終了後、受講者は与えられたテーマについて論文検索を行う。
・検索した論文の中から 2 つ（和文・英文 各 1）を選び、受講報告書に必要事項を記入する。
(3) 受講報告書
・受講した学生は、受講報告書（A－4）に必要事項を記入し、卒研等の指導教員に提出する。
・指導教員は提出された受講報告書の内容を確認し、該当学科の図書広報委員に渡す。
・図書広報委員は自分の学科の分を集め、図書係に提出する。
・集まった受講報告書は図書係で保管する。

3．実施時間割

クラス	日　時	場　所	受講対象者人数
5M	5 月 10 日（木）3・4 限	マルチメディア	３８人
5E	5 月 ~~17 日（木）3・4 限~~ 15 日（火）5・6 限	~~マルチメディア~~ 電子計算機室	４６人
5D	5 月 24 日（木）3・4 限	マルチメディア	４３人
5S	5 月 31 日（木）3・4 限	マルチメディア	３８人
予備日	6 月 14 日（木）3・4 限	マルチメディア	

卒研時間　　水５・６限／木３・４限
教室空き状況　　電算室なし／マルチメディア　木３・４限

※　5C については、昨年度(平成 24 年 1 月)に実施済み。

2012

電子ジャーナル・研究用データベース利用講習会　アンケート（５年生）

該当するところを丸で囲んでください。記述欄には記述をお願いします。

講習会を受講して
1．学科は　（ 1．機械　2．電気電子　3．電子制御　4．制御情報　5．物質化学 ）
2．今までに、自分の研究に関して論文・文献等を調べたことがありますか。　（ はい　いいえ ）
3．質問２で 「はい」と答えた人に対して
何を調べましたか。（ 学会誌、学会論文集、海外のジャーナル、図書館の本、Yahoo 等で）
4．今までに、今回のような研究用データベース検索を利用したことがありますか。（ はい　いいえ ）
5．質問４で 「はい」と答えた人に対して
利用頻度は　（ たびたび　たまに　1-2 回使ってみたことがある ）
利用したデータベースは何ですか。（ ）
利用したきっかけは？（ 先輩に教えられて　先生に言われて　自分で調べて　その他 ）
特別研究・学習に役立てていますか。　（ はい　いいえ ）
6．このようなデータベース検索は、自分の研究に役立ちそうですか。　（ はい　いいえ ）
7．今後研究用データベースを、使ってみようと思いますか。　（ はい　いいえ ）

次回の講習会で参考にします。
8．今回の講習会はわかりやすかったですか。　（ はい　普通　いいえ ）
9．質問８で 「いいえ」と答えた人に対して、どんなところがわかりにくかったかを教えてください。

10．その他感想、意見、要望などを書いてください。図書館に関するものなら何でも結構です。

（出典　図書館資料より）

開館時間は，月曜から金曜は8:45から20:00（ただし試験開始前２週間は21:00まで），土曜は10:00から17:00(長期休業期間中は閉館），日・祝日は10:00から17:00（試験開始前２週間及び試験期間中のみ）としており，学外の方にも開放し貸出も行っている。また，専攻科学生を職員として雇用し夜間の業務に従事してもらっているほか，火曜・水曜・金曜の午後は一般市民ボランティアの方に配架等を手伝ってもらっている。

学生からの要望や図書の購入希望については，図書館内に投書箱を置くと同時に，購入希望については図書館ウェブサイトからも申し込めるようにしている（資料８－２－①－４）。また，年に一度ブックハンティングを開催し，学生に直接，購入希望図書を選ばせることも行っている（資料８－２－①－５，６：別添資料）。さらに，教員による学生教養図書推薦制度があり，毎年，全教員は学生に読ませたい図書を推薦し，図書館で購入する体制を整えている。

資料８－２－①－４


希望図書申し込み

書名	
著者	
出版社	

送信　取消　戻る

© 2008 北九州工業高等専門学校 図書館、IT教育総合情報センター

（出典　北九州工業高等専門学校図書館ウェブサイトより）

資料８－２－①－５

平成２４年度ブックハンティング実施要領

１．実施場所　　ブックセンタークエスト（小倉北区馬借１－４－７）

２．実施日時　　平成２４年７月１１日（水）

１６時００分～１７時００分

３．集合時間・集合場所

１５時３０分　学生課前

４．参加対象者　学生

５．引 率 者　　山本（図書室長）、泉（図書係）

位田（文学愛好会顧問）については、未定

６．内　容　　・自分や友達の希望図書を選ぶ。

・小説、専門書の中から良識の範囲内で選ぶ。

・マンガは購入しない。

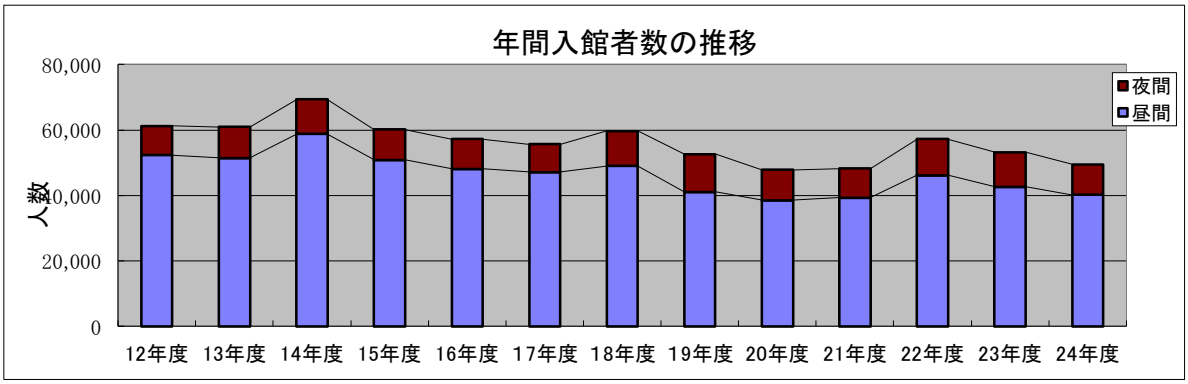
＊予算は後援会費・・・一人当たり約一万円以内（参加者人数による）

（出典　図書館資料より）

図書館の年間利用者は，過去５年間，５万人台で，これは学生一人が少なくとも年に２ヶ月以上図書館を利用していることを意味している。また，利用者の約２割が夜間での活用となっていることは，

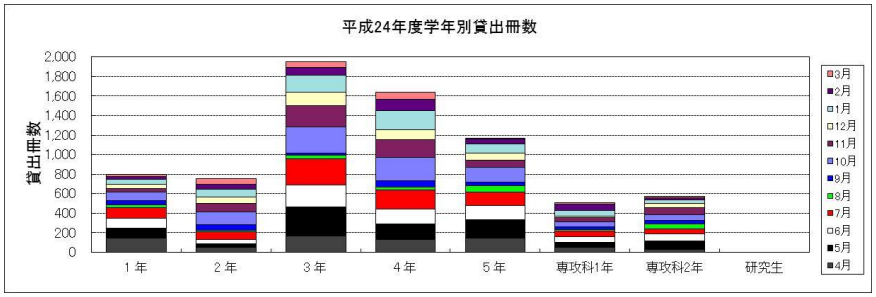
自主学習や地域住民の利用など，図書館が幅広く利用されていることを示している（資料８－２－①－７）。蔵書は日本十進分類で整理されている。本校の教育課程を反映して自然科学・工学分野の貸出数が多い（資料８－２－①－８）。

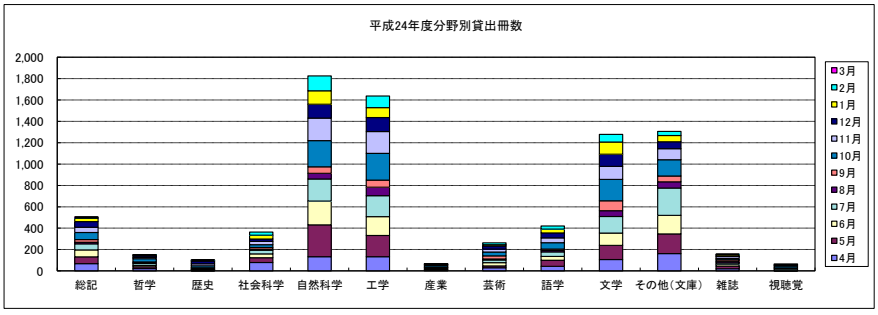
資料８－２－①―７

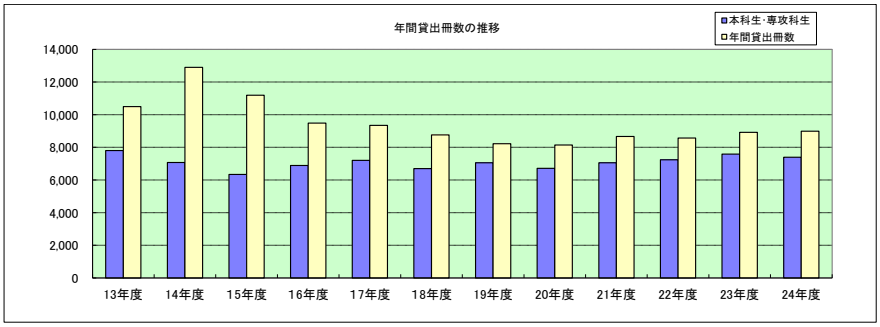


（出典　図書館資料）

資料８－２－①－８







（出典　図書館資料より）

専門分野を中心に洋書の蔵書も多く研究にも積極的に活用されている。学生が国際会議で発表する事例も増えてきており，海外文献検索も活発に行われている（資料８－２－①－９）。

資料８－２－①－９

SD(ScienceDirect)利用実績

	Requests for Full-Text documents	Requests for all pages	Total Searches Run
2003年(4月～)	647	5250	849
2004年	902	6230	1059
2005年	742	5900	825
2006年	642	2723	648
2007年	1981	12205	2651
2008年	2553	11625	2486
2009年	2380	11280	2122
2010年	2627	10885	1826
2011年	2444	11139	1553

IEEE利用実績

	Article requests
2005年	232
2006年	115
2007年	83
2008年	395
2009年	354
2010年	102
2011年	197

（出典　図書館資料より）

（分析結果とその根拠理由）

学内外で統合された蔵書検索システムの導入，データベースの利用整備，卒業研究に着手する全５年生を対象にした電子ジャーナル講習会実施など，図書業務における IT 化を積極的に進めている。蔵書に関しても書類・ホームページからの希望図書申請，学生によるブックハンティングのほか，全学科教員からの推薦や図書館委員会の検討で整備を進め，自然科学・工学の分野を中心に教育研究のための環境を整えている。

以上のことから，本校図書館では図書，学術雑誌，視聴覚資料その他の教育研究上必要な資料が系統的に収集，整理されており，有効に活用されていると言える。

（２）優れた点及び改善を要する点

（優れた点）

・各棟のコミュニティスペース，図書館の多目的学習室等，学生の自学自習環境の整備に努めている。
・施設利用規約の周知，実習工場（第１工場）での安全教育を徹底し，適切な安全管理体制の下，学生にも有効活用されている。
・計画的に，施設・設備の導入・更新を進めている。現在，第１工場は平成25年９月13日竣工に向け，全面改修中である。
・年度計画に基づいたバリアフリー化を推進し，平成25年度に完了予定である。
・認証システムを導入し，セキュアかつ利便性の高いITシステムを運用している。
・無線LANは全教室で使用可能であり、多くの利用実績がある。
・e-learning，教育用クラウド等，教員・学生双方に利用率の高いICT環境を整備している。
・ITセンター，図書館等の組織を統括的に運営する学術情報センターを組織し，高度化する教育環境への対応を進めている。
・学生はブックハンティング制度を利用して直接，購入希望図書を選ぶことができる。
・教員は学生教養図書推薦制度を利用して，学生に図書を推薦することができる。
・統合蔵書検索環境の整備と電子ジャーナル講習会を実施し，教員・学生の教育・研究環境の充実を進めている。
・CALL教室での語学学習，図書館での洋書，海外論文検索環境の整備を行い，急速に進む国際化に対

応した教育研究環境の整備に努めている。

（改善を要する点）
該当なし

（３）基準８の自己評価の概要

教育課程に対応して施設・設備は計画的かつ継続して整備されている。第１工場は現在全面改修中で９月に竣工予定である。以上の施設・設備は，教職員，学生共に有効活用している。また，安全面の配慮も適切である。敷地を含めたバリアフリー対策の実施も完了に近づいている。学術情報センターを組織しITセンターと図書館の連携を進め，共にITに基づいた教育研究環境の整備を実施し，e-learning，教育用クラウド，統合蔵書検索，論文検索の高い利用率を保っている。これらは安全対策とセキュアなIT運用の上で成り立っている。

基準９　教育の質の向上及び改善のためのシステム

（１）観点ごとの分析

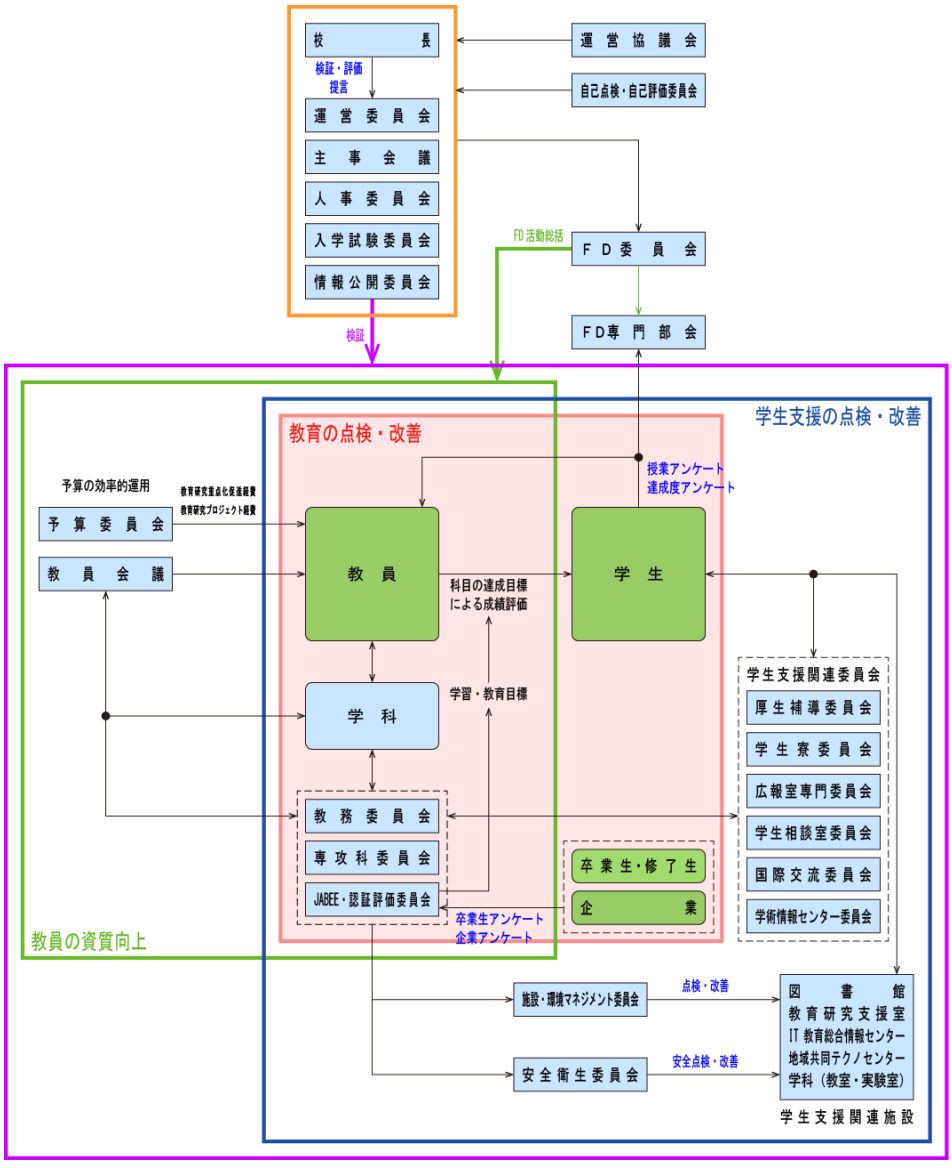
観点９－１－①：　教育の状況について、教育活動の実態を示すデータや資料が適切に収集・蓄積され、評価を適切に実施できる体制が整備されているか。

（観点に係る状況）

本校の点検評価システムを資料９－１－①－１に示す。ただし，教育の点検・改善は図中の赤枠で囲まれた体制で実施しており，教務委員会，専攻科委員会及びJABEE・認証評価委員会は，学生の成績・修学状況及び教員の教育活動を確認している。また，教員は各種アンケート結果やFD活動等を通じて教育の点検・改善を行っている。学校全体としては，自己点検・自己評価委員会で点検・評価を行い，その結果を受けて運営委員会，主事会議，FD委員会で改善に向けた施策の検討が行われ，各種委員会で実施される。

資料９－１－①－１

各種委員会の点検・改善の関連図



（出典　点検改善システム）

具体的な教育状況・活動の確認として，成績・修学状況の把握，授業アンケート，卒業研究・特別研究アンケート及び達成度アンケートを実施し，教育活動の実態を示すデータを収集し蓄積している。成績・修学状況は，成績出欠管理システム（キャンパスアシスト：資料９－１－①－２）を用いて学生の学修状況を集計処理している。教員及び学生が授業の進捗状況や重要ポイントの確認を行うための資料として「月割表（資料９－１－①－３）」と「チェックリスト（資料９－１－①－４）」を作成し，その資料は教務委員会が一括して収集している。授業については，科目ごとに授業アンケートを実施し，学生自身及び教員の取組について調査している。成績評価の適切性を確認するために，成績評価に使用した試験問題，小テスト及びレポート等を保存している。

資料９－１－①－２



（出典　成績出欠管理システム：キャンパスアシスト）

資料９－１－①－３

科目内容月割り表　　制御情報工学科　　４学年

科目	近代文学	体育Ⅳ	英語AⅣ	制御数学	アルゴリズム（前期）	コンピュータアーキテクチャⅠ（前期）	材料力学Ⅱ（前期）	熱システム工学Ⅰ（後期）
担当	荣 園	濱田・八嶋・松崎・大下（全）	東島	石井	脇山	脇山	久池井	檀村
4月	明治期の作家・作品・事項について学ぶ。	オリエンテーション 種目決め	Unit1 Events Unit2 Eating Out	2階線形微分方程式	基本的なアルゴリズムの表現法を理解する	コンピュータの概要と2進数体系や基数変換を理解する	梁の複雑な問題	
5月	語句・構成を工夫した文章表現を学び、実践する。	バレーボール フットボール テニス ソ	Unit3 Shopping Unit4 Housing	2階線形微分方程式 簡単な非線形問題	基本的なデータ構造と線形探索を理解する	基本論理回路を理解する	梁の複雑な問題	
6月	大正期の作家・作品・事項について学ぶ。	実技テスト 種目決め	前期前半のまとめ Unit5 Employment Unit6 Personnel	フーリエ級数展開 偶関数・奇関数の展開	基本的なソートアルゴリズムを理解する	主記憶装置および中央処理装置の概要と命令を理解する	主応力，主せん断応力	
7月	短編を読み、構成と表現の特徴を考察する。	バレーボール フットボール テニス ソ	Unit7 Office Unit8 Finance and Banking	一般周期関数の展開	再帰的アルゴリズムとデータ構造	補助記憶装置および各種入出力装置を理解する.	圧力容器，座屈	
9月	相手の知識・関心に応じた説明の仕方を学び、実践する。	実技テスト	前期後半のまとめ	偏微分方程式への応用	木のデータ構造と探索を理解する	通信ネットワークを理解する	座屈	
10月	昭和期前の作家・作品・事項について学ぶ。	オリエンテーション 種目決め	Unit9 Management Unit10 Transactions	確率の計算 条件付確率				気体の状態量と単位 気体の状態変化
11月	短編を読み、構成と表現の特徴を考察する。	バスケットボール サッカー バドミントン	Unit11 Documents Unit12 Public Announcements	確率変数(離散型) 2項分布・ポアソン分布				気体の状態変化 状態変化と仕事
12月	情報を収集し、的確にまとめる方法を学び、実践する。	実技テスト 種目決め	後期前半のまとめ Unit13 Commuting	平均・分散 連続的確率分布				カルノーサイクル
1月	昭和期戦後の作家・作品・事項について学ぶ。	バスケットボール サッカー バドミントン	Unit14 Travel Unit15 News	2変数の確率変数				オットーサイクル ディーゼルサイクル サバテサイクル ジュールブレイトンサイクル
2月	時事問題をテーマにして小論文を作成する。	実技テスト	問題演習 後期後半のまとめ	度数分布				4サイクルガソリン機関の構造・動作原理と性能 気体の流動
備考	これまでの国語学習を基礎とし、密度の高い文章表現に親しむことで、自らの表現能力の向上を目指す。	種目を選択して運動技能を高め、生涯スポーツを考える。	英文の正確な理解、文法や語彙およびイディオム等の補強を図り、総合的な英語力の伸長を目指す.					この科目は5年次の熱システム工学Ⅱへつながる。

（出典　月割表）

資料９－１－①－４

４年制御情報工学科　基礎制御工学　チェックリスト

担当教員：古野　誠治

月	単元	チェック項目	補足事項
４月	自動制御の概念 ラプラス変換とラプラス逆変換	□自動制御の概念，□制御系の基本構成，□制御系の分類 □ラプラス変換・ラプラス逆変換の公式	
５月	微分方程式の球解法	□ラプラス変換・ラプラス逆変換の公式 □ヘビサイトの展開公式，□最終値の定理	
６月	数式化と伝達関数	□動特性を表す微分方程式の導出，□線形化	
７月	数式化と伝達関数	□系の数式化（微分方程式） □微分方程式から伝達関数を導出 □ブロック線図，□伝達関数とブロック線図の相互変換	
９月	過渡応答	□過渡応答，□過渡特性 □比例・積分，微分要素，□1次遅れ系，□2次遅れ系 □ステップ応答，□インパルス応答，□ランプ応答	
１０月	過渡応答と安定性	□制御系の安定性について理解し説明できる □根の配置による安定判別（発散，収束） □振動論と制御系の関係，□固有値，固有ベクトル	
１１月	安定性，フィードバック制御系	□ラウス・フルビッツの安定判別法 □定常偏差，根軌跡法	
１２月	根軌跡法	□根軌跡法による安定判別	
１月	周波数応答	□周波数応答について理解し説明できる（過渡応答とは？） □周波数伝達関数，ゲイン，位相の求め方	
２月	ベクトル軌跡・ボード線図	□ベクトル軌跡を描くことができる □ボード線図を描くことができる □ベクトル軌跡，ボード線図が何を表しているか理解できる	

（出典　チェックリスト）

教員については，授業アンケート結果が各教員にフィードバックされ，当年度及び次年度の授業内容や授業の進め方等の改善に反映されている。なお，アンケート結果は，グループウェア及び図書館において開示・公開されている。さらに，新任及び昇任教員には，講義内容を点検・評価・改善するために，計２回（年１回）の公開授業を計画し実施している。評価は参観教員により行われており，その結果は，教務委員会及び専攻科委員会において報告されている（資料９－１－①－５）。さらに，教育の質の向上のために全教員が授業見学を実施しており，その結果は教務委員会で報告されている（資料９－１－①－６）。１～３年生の特別活動では，学級担任は特別活動計画書及び報告書（資料９－１－①－７，８）を作成しており，それらを教務委員会にて収集・確認している。また，一般科目（国語，数学，物理，社会，英語）と専門学科，複数学科にわたる共通分野科目の情報交換を目的とした科目間連絡会議を実施しており，教務委員会では計画書を作成し報告書を収集・確認している（資料９－１－①－９）。

そのほかに，卒業生アンケート（資料９－１－①－10）と企業アンケート（資料９－１－①－11）を実施し，卒業後の状況及び本校の教育活動に対する意見等を聴取している。

資料９－１－①－５

教務主事　殿

公開授業の結果を報告します。　　平成　25 年 1 月 30 日

教務主事補　徳一　保生

平成２４年度　公開授業・意見交換会報告書

公開授業

授業日時	平成 25 年 1 月 30 日（水曜日）4 限目　クラス・学生数 1C・44 名	
担当教員	松崎　講師	授業科目　　保健
参観教員（敬称略） 濱田、八嶋、山田、宮内、山本、豊永、山田、前田、井上、徳一　計 10 名		

意見交換会（　1 月 30 日　12 時 30 分　～　12 時 50 分）

１．出席者氏名（敬称略）

松崎、濱田、井上、徳一

２．意見交換会の概要（紙面が不足の場合は、２枚目に続けて記入下さい）

① 授業担当教員より

・グループディスカッション形式を取ったが、グループ内で予想以上にしっかりと話し合いが出来た。

・授業態度について、もっときちんとさせる余地があった。（机上に不要の物を置いていることなどを注意するべきだった。）

② 参観教員より

・学生達がリラックスしてよく意見を述べている。大変参考になった。

・授業計画がしっかりしていると感じた。

・グループごとに机を移動させ、テーマを与えて実際に学生達が討議に入るのに５分かからなかった。学生のまとめ方や動かし方がうまいと感じた。

・学生にとって、記憶に残る授業だった。

・最後にもってきた自分の経験に基づく具体例は、子供を育てることを考えさせる良い話だった。

・次の点に関してのアドバイスがなされた。

自分の意見を述べない学生に対して、机間巡視する中で「君はどう」などと言って、意見を誘ってやるのも効果的。

話の中でもっと具体性をもたせた方が良いと思われるところがあった。

転倒しやすくなるところでは靴の踵の形について述べたり

体重の増加のところでは、10ｋｇなど具体的な数値を示すなど

タバコのポイ捨ての例では、モラルに反することを強く言った上で、してはならないことをはっきりと方向付けしてやるほうが良かった。

（出典　公開授業・意見交換会報告書）

資料９－１－①－６

授業見学実施報告書

①見学教員名：電子制御工学科　十時優介助教
②授業科目名・授業担当教員名：4D「電気回路特論Ⅰ」・電気電子工学科　松久保 潤講師
③見学日時：平成 24 年 7 月 3 日（火）　3・4 時限
④簡単な感想：
・１D と４D の教室を比較するとやはり広さが大分違うことを感じました。
４D の教室の方が最後列までの距離が短い分板書にあまり気を配らなくても大丈夫なのではと考えていましたが、学年が進むにつれ、扱う数式等、内容が複雑になっていくので見やすいように心掛けなければと感じました。
・授業は学年が上がったためか、あまり雑談をはさむといったことはありませんでしたが、途中で生徒が寝てしまわないように細かくチェックを入れていました。

①見学教員名：電子制御工学科　添田 滿教授
②授業科目名・授業担当教員：「専攻科特論Ⅶ」・非常勤　ゴドレール先生（北九州市立大）
③見学日時：平成 24 年 11 月 15 日　5・6 時限
④簡単な感想：
・外国人による英語の専門授業で、制御分野の話であった。
・電制、制情、物質化学の３分野の学生を対象に、制御工学について制御分野の概要、特に大事な点、先端技術について解説された。
・制御の専門外の人にもわかるように、そして興味が持てるように、学生の所属分野の技術と制御を結び付けて解説される等工夫があった。
・ポイントを外さない、わかりやすい講義であった。
また、配布された資料は事例を含め、図なども非常にわかりやすく内容がよくまとめられており、大変参考になった。
・英語による授業であったが、英語も難しすぎず、学生がついていけるように、学生の反応を見ながら、双方向の授業をされたのがよかった。

①見学教員名：物質化学工学科　後藤宗治教授
②授業科目名・授業担当教員名：5C「精密分離工学」・非常勤　畑中千秋先生
③見学日時：平成 24 年 11 月 27 日（火）　5・6 時限
④簡単な感想：
・授業説明の速度や板書のタイミング等

①見学教員名：電気電子工学科　開道 力教授
②授業科目名・授業担当教員名：5E「通信工学」・電気電子工学科　磯﨑裕臣助教
③見学日時：平成 25 年 1 月 17 日（木）　1・2 時限
④簡単な感想：
・黒板の使用仕方が良く、参考になった。小生は黒板全体を使用しているが、教室の後ろから見ると、下部が結構見にくいことがわかり参考になった。
・専門的な用語を使用し、学生には分かりにくいことが気になったので、自分の授業でも注意して授業を行う必要性が実感した。

（出典　平成 24 年度　教務委員会資料）

資料９－１－①－７

平成24年度特別活動　学級活動計画書（前期）

1学年　　物質化学工学科　　担任氏名：荒川裕紀

実施予定日	曜日	時限	活　動　内　容
4月　15日	金	6	新しい学校でのスタートに向けて　（自己紹介・これからの自分像を追う）
5月　20日	金	6	マナーや態度について考える（挨拶・人との接し方・役割距離）
6月　24日	金	6	自分の進路について考える（作文・発表）
7月　1日	金	6	奉仕活動について考える（国際理解・地域理解）
9月　9日	金	6	進路について考える（2回目、期末考査に向けて）

（出典　平成 24 年度　教務委員会資料）

資料９－１－①－８

平成２４年度特別活動　学級活動以外のホームルーム活動実施報告

１学年　　物質化学工学科　　担任氏名荒川　裕紀

	実施日	曜日	時限	実　施　内　容
1	4 月 20 日	金	6	宿泊行事の総括を行った。
2	5 月 17 日	金	6	英語での簡単なスピーチを行い、将来の国際人としてのアピール方法についての初歩的なアドバイス、実践を行った。
3	5 月 24 日	金	6	専門学科の講師をおむかえし、講義を行っていただいた。
4	6 月　3 日	金	6	中間考査に備えての各自面談
5	6 月 22 日	金	6	中間考査後の総括、および将来についての考察
6	7 月 13 日	金	6	夏の過ごし方について、および科学者のライフヒストリーを映像を使って追うことを行った。
7	10 月 11 日	木	7	高専祭の出し物に関する討議
8	10 月 18 日	木	7	同上
9	10 月 26 日	木	7	同上、および実際の支出などの具体的な討議も
10	11 月　1 日	木	7	高専祭に向けての準備（午後全て）

（出典　平成 24 年度　教務委員会資料）

資料９－１－①－９

平成24年度　一般科目と専門学科の科目間連絡会議　参加メンバー　（敬称略）

教　科	代表教員	機械工学科	電気電子工学科	電子制御工学科	制御情報工学科	物質化学工学科	備考 H24の実施日
国　語	位田	中山、田淵	松本	太屋岡、井田	古野	小畑	位田、楠田 H25.3.7.
理　科 （物理・化学）	中村	中山、田淵	油谷、仙波	吉野、太屋岡、 松久保	寺井、浜松、 （古野）	後藤、水野	矢野、宮内 H24.12.19.
社　会	安部	入江、小清水	福澤、仙波	秋本、白濱	松尾、古野	前田、井上	白神、安部、廣瀬、荒川 H25.3.4.
英　語	横山	浅尾	油谷、松本	白濱、北園	寺井、古野	後藤、小畑、 大川原	木田、山本、渡邊 H24.8.29. （H24から全学科）
数　学 （学科ごと）	竹若	徳一、山田、石井、 豊永、栗原、平島、 入江、浅尾、井上、 小清水、種、田淵、 中山	徳一、山田、石井、 竹若、豊永、小城、 宮川、開道、本郷、 福澤、油谷、桐本、 仙波、松本、磯崎	徳一、山田、石井、 竹若、豊永、宮崎、 添田、秋本、白濱、 太屋岡、松久保、 北園、十時			数M：H25.4.2. 数E：H25.1.29. 数D：H25.1.22.

平成24年度　複数学科にわたる共通分野科目の連絡会議　参加メンバー　（敬称略）

共通分野教科	代表教員	機械工学科	電気電子工学科	電子制御工学科	制御情報工学科	物質化学工学科	備考 H24の実施日
情報リテラシー （基礎情報処理）	白濱	井上	宮川、磯崎	秋本、松久保	乙部	園田	①H24.7.23.
情報処理 （プログラミング）	白濱	（滝本）、田淵	桐本、磯崎	島川、井田、 北園	山内	後藤、（園田）	①H24.7.26.
工学基礎実験 ＜本1年・前期＞	内田	平島	油谷	太屋岡	脇山	後藤	島津、竹内 H24.6.8.
複合工学実験 ＜専1全・後期＞	種	種	宮川	十時	脇山	山根	H25.3.15.

（出典　平成 24 年度　教務委員会資料）

資料９－１－①－10

卒業生アンケート用紙

北九州工業高等専門学校「卒業生アンケート」

１．**卒業年**　　西暦（　　）年卒業

２．**卒業学科**　①機械械工学科　②電気工学科（電気電子工学科）　③電子制御工学科
④制御情報工学科　⑤化学工学科（物質化学工学科）

３．**卒業後の進路**　①就職（はい、いいえ）
②就職後、転職（同じ業種へ、異なる業種へ）
③進学（a.北九州高専の専攻科　b.他校の専攻科
c.大学　d.最終的に大学院「重複可」）
（③の設問で、「a.北九州高専の専攻科」を選ばれた方は、アンケートの７以降の設問で、本科と専攻科の教育を総合的に評価してください。）

４．**現在の職種**
①設計・研究開発　②製造・生産技術　③システム開発・管理　④営業・販売
⑤マーケティング・調査　⑥経営　⑦商品企画・デザイン　⑧教育
⑨人事・総務・経理・購買　⑩その他（　　）

５．**海外での勤務経験**　①ある（期間　　ヶ月、国名　　）
②ない

６．**あなたが入社した企業での高専卒業者に対する人事的処遇についてお聞かせ下さい。**

・本科卒業生（準学士）の場合
①年齢が２歳下の大卒と同じ処遇、②年齢が２歳上の工業高校あるいは専門学校卒業生と同じ処遇
③高専卒業生は、①でも②でもない別の人事処遇システムを採用
③と回答された場合は、恐れ入りますが以下に内容を簡単にお書き下さい。

（　　）

・専攻科修了生（学士）の場合
①大卒と同じ処遇、②専攻科修了生は、大卒とは別の人事処遇システムを採用
②と回答された場合は、恐れ入りますが以下に内容を簡単にお書き下さい。

（　　）

1

（出典　卒業生アンケートより抜粋）

資料９－１－①－11

企業アンケート用紙

北九州工業高等専門学校の教育に関するアンケート

1. 貴社の業種を番号でお選び下さい。

①製造業　②鉱業　③情報通信業　④電気・ガス・水道業　⑤運輸業　⑥サービス業　⑦農林・水産業
⑧建設業　⑨商業　⑩不動産業　⑪金融・保険業　⑫教育・学習支援業　⑬その他

回答［　　］

2. 北九州高専を含む高専からの最近 5 年間での採用実績を番号でお選び下さい。

①0 名　②1～2 名　③3～5 名　④5～10 名　⑤10 名以上

回答［　　］

3. 高専卒業生の平均的な職種は（複数回答可）

①設計　②研究・開発　③製造・生産技術　④ 生産管理　⑤品質管理　⑥システムエンジニア
⑦セールスエンジニア　⑧営業・販売　⑨マーケティング・調査　⑩商品企画・デザイン
⑪教育　⑫人事・総務・経理・購買　⑬その他

回答［　　］

4．高専本科卒業生ならびに専攻科修了生は貴社に入社後どのような職域に位置づけられているかお答え下さい。

・本科卒業生（準学士）の場合

①年齢が２歳下の大卒と同じ処遇、②年齢が２歳上の工業高校あるいは専門学校卒業生と同じ処遇
③高専卒業生は、①でも②でもない別の人事処遇システムを採用

回答［　　］

③と回答された場合は、恐れ入りますが以下に内容を簡単にお書き下さい。

［　　］

・専攻科修了生（学士）の場合

①大卒と同じ処遇、②専攻科修了生は、大卒とは別の人事処遇システムを採用

回答［　　］

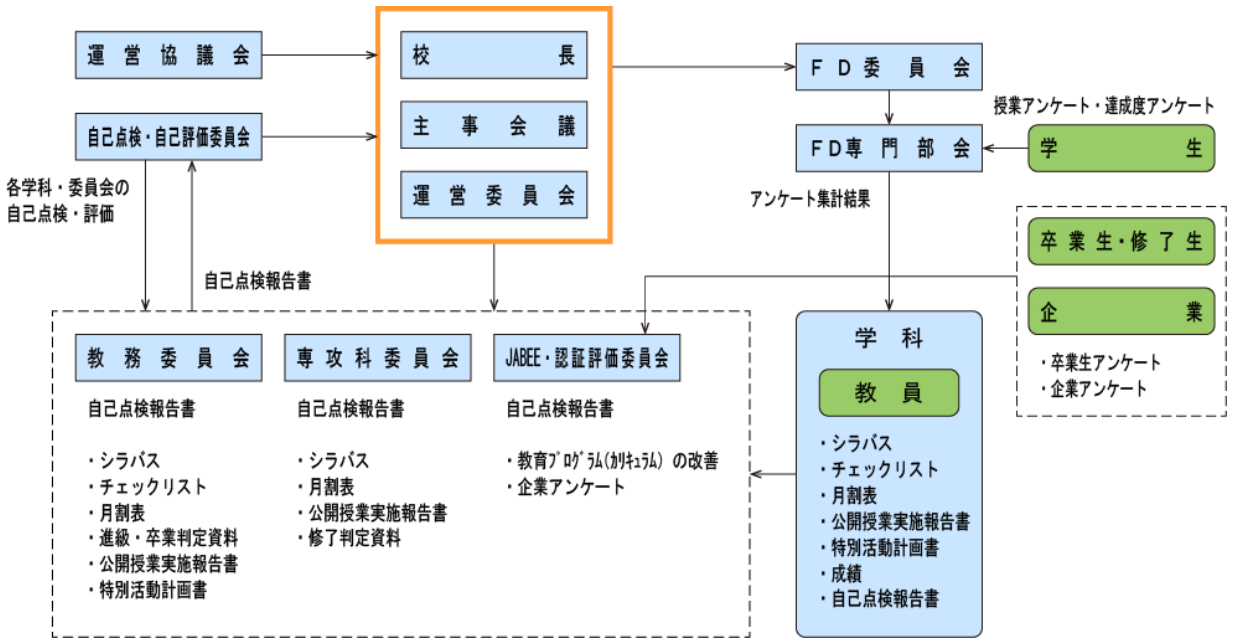
②と回答された場合は、恐れ入りますが以下に内容を簡単にお書き下さい。

［　　］

1

（出典　企業アンケートより抜粋）

資料９－１－①－12



（出典　収集・蓄積・評価する体制・組織図）

以上に述べた教育活動の実態を示すデータや資料は，各委員会において収集・蓄積・評価されている。さらに，各委員会の自己点検報告に基づいて自己点検・自己評価委員会がその評価を行った上で自己点検・自己評価報告書を作成し校長に提出している（資料９－１－①－12）。

（分析結果とその根拠理由）

自己点検・自己評価の体制が整備されており，授業アンケート等の教育活動の実績を示すデータや資料は適切に収集・蓄積されている。

観点９－１－②：　学校の構成員及び学外関係者の意見の聴取が行われており、それらの結果をもとに教育の状況に関する自己点検・評価が、学校として策定した基準に基づいて、適切に行われているか。

（観点に係る状況）

学校の構成員の意見の聴取として，毎年，全教員を対象とした「校長個人面談（資料９－１－②－１）」が行われ，校長が策定した基準に基づき分析・評価されている。また，１～４年生までの担任を対象にした「校長・三主事と担任懇談会（資料９－１－②－２：別添資料）」を実施しており，各学級担任の意見の聴取と改善が行われている。

資料９－１－②－１

平成２４年　７月１３日

教　員　各　位

校長　塚　本　　寛

平成２４年度校長個人面談の実施について

このことについて、各先生方の御意見を伺い、学校運営、教育研究の推進、学生指導、予算配分等の参考にしたいと思います。
つきましては、面談に使用するため、下記のとおり資料の作成等よろしくお願いいたします。

記

１．提出資料
○平成２５年度「専攻科の教育の実施状況等の審査」にかかる様式第５号・・・２４－A－１、２
■■■■■■■■■
○「教員の教育業績等評価」（高専機構教員顕彰様式）・・・２４－B－１～３
■■■■■■■■■
○校長裁量経費等の目的及び留意点について他・・・・・２４－C－１～５
■■■■■■■■■
・④学生実験機器更新経費は学科長が取りまとめて要求となっていますので学科長の個人面談時にヒアリングを行います。
○個人面談日程調整表・・・・・・・・・・・・・・・・・２４－D
■■■■■■■■■

２．作成期限　７月３１日（火）
提出は、メールで総務課課長補佐総務担当■■■■■■宛送付ください。
以下略

（出典　校長個人面談案内）

また，平成20年度には，教員による自己点検・自己評価アンケートとして「各教員の授業に対する取組（資料９－１－②－３）」を実施し，その結果を受けて自己点検・自己評価委員会で討議を行い，外部評価委員会（現在の運営協議会）において評価を行った（資料９－１－②－４）。

資料９－１－②－３

平成２０年度自己点検・自己評価アンケートから見た教育上の問題点

問題点	先生方からの意見
①教養・視野の狭さ	・文系科目が手薄で十分な教養教育ができていない。（インテリジェンスの涵養） ・学生の視野をもっと広げる教育が必要である。（井の中の蛙になっている） ・技術者教育には人間性の育成が重要で、いくら専門能力に優れていても創造性豊かな技術者とはなりにくい。 ・工学あるいは理系に偏った知識の教育が行われており、優れた技術者の育成に疑問を感じる。 ・生涯スポーツの精神を教えることが重要である。（頭脳の訓練ばかりでなく、肉体と精神の教育も重要である） ・学生個々の独自の創造力を涵養することが重要と考えるが、どのようにして行うべきか苦慮している。
②時間的ゆとりの無さ	・時間的なゆとりがない。（授業時間が十分でないことと、公務に追われて授業の準備に十分な時間が取れていないの両面） ・カリキュラムが非常にタイトで時間的なゆとりがなく、十分な教育を行うための時間が不足している。 ・授業時間数に対して教える内容が多く、また、雑務も非常に多いため、教育内容が十分なものにはなっていない反省がある。 ・授業の中で、学生自らが考え、取り組み時間をもっと増やすべきであると考えるが、現状では時間が不足し難しい状況にある。 ・カリキュラムが非常にタイトで時間に余裕が無い。 ・理解の十分でない学生への個別指導をどのようにして行うか、時間的余裕が無い。 ・カリキュラムが非常にタイトである。 ・学生も教員も時間に余裕が無い。 ・カリキュラムがタイトで演習を行う時間が持てない。 ・時間が無い。 ・基礎と応用をしっかり教えることが重要であるが、両者を行う時間的余裕が無い。
③コミュニケーション能力の不足	・国語力が不足し、日本語での会話が非常に苦手である。 ・語彙力が非常に不足しており、コミュニケーションが十分に行えない。
④学生能力の二極化	・学生の能力が二極化し、クラスにおける学力差が激しい。 ・学習到達度の低い学生は、大別して学習に対する意欲の無い学生と意欲があっても理解できない学生に分類できる。 ・学習能力の低い学生に対する対応をどのように行うべきか苦慮している。 ・予想以上に能力の低い学生をどのように指導していくべきか苦慮している。 ・学生の能力が二極化し、クラスにおける学力差が激しい。

（出典　教員による自己点検・自己評価アンケート結果報告より抜粋）

資料９－１－②－４

外部評価委員会評価事項

３．評価事項

テーマ「“これからの北九州高専における教育”について」

本年度外部評価頂きたい点

本校では、平成２０年度の教員による自己点検・自己評価アンケートとして、“各教員の授業に対する取り組み”について実施し、その結果として、「高専における教育」と「全人（教養）教育」の２つのテーマが大きく浮かび上がってきました。（参考資料１及び２）

これを受けて、自己点検・自己評価委員会では、このテーマを議論する場として拡大ワーキンググループを組織して討議を行った結果、以下の本校の教育に関連する３つの項目に対する考え方が示されました。

しかし、多様化する現在の社会的な通念に照らして、ここでなされた議論がはたして一般社会に広く通用するものか否かについて不安な面も多くございます。

そこで、自己点検・自己評価委員会では、外部評価委員の先生方に広い視点から評価頂き、本校の将来の進むべき道について忌憚のないご意見を賜ることによって、今後の継続的な議論の重要な指針とすることにしたいと存じます。

（出典　外部評価委員会資料より抜粋）

保護者からの意見の聴取として，毎年６月に実施している「保護者と学級担任・専門学科との懇談会」において「保護者アンケート」を行っている。その集計結果（資料９－１－②－５）は，各学科の学科会議資料として提出され，学科に対する要望や意見が教育の改善に反映できるようにしている。また，10月には１～４年生の担任と保護者の面談を実施して保護者からの意見を聴取しており，学生の学校生活，学習及び進路指導等に役立てている。

資料９－１－②－５

保護者・学級担任との懇談会実施結果報告用紙

【学科長】

平成２４年度保護者・学級担任との懇談会実施結果報告用紙

制御情報工学科長
氏名　浜松　弘

１．出席者数　１０３　名　　（出席予定者数　１０６名）

２．懇談会概要
・教員紹介
・学科の行事，進路状況，指導状況の紹介(学科長)
・学習状況，試験や行事日程の紹介(教務主事補：古野先生)
・厚生補導の指導状況の紹介(学生主事補：山内先生)

３．家庭からの要望事項

（以下省略）

４．今後実施するに当たっての要望及び参考意見
(1)実施時期

(2)実施方法

(3)その他

５．その他の意見

卒業生・修了生からの意見の聴取として「卒業生アンケート（資料９－１－①－10）」，就職先の関係者からの意見の聴取として「企業アンケート（資料９－１－①－11）」を実施している。アンケートの結果は，企業・卒業生アンケート調査実施報告として全教員に報告され，卒業生や企業の要望や意見が教育の改善に反映できるようにしている。そのほか，専門学科では求人に訪れた企業関係者及び卒業生・修了生からの意見の聴取も行っている。

また，地域企業・学識経験者・行政機関有識者（及び卒業生）で構成される運営協議会を年１回実施しており，学校運営・教育研究活動・地域との連携活動等に関して，あるいはテーマを限定して意見を聴取している（資料９－１－②－６）。

資料９－１－②－６

○北九州工業高等専門学校運営協議会規則

平成１６年６月２４日　規則第９号
改正平成２３年９月１５日

（設置）
第１条　北九州工業高等専門学校（以下「本校」という。）に、学校運営に関し、広く学外の有識者から意見を求めるため、運営協議会（以下「協議会」という。）を置く。
（目的）
第２条　協議会は、本校の学校運営全般について、指導、助言を行い、本校の健全な学校運営を支援することを目的とする。
（任務）
第３条　協議会は次に掲げる事項について校長の諮問に応じて審議し、及び校長に対して助言を行うものとする。
（１）教育に関すること。
（２）研究に関すること。
（３）地域との連携、産官学連携に関すること。
（４）管理運営に関すること。
（５）その他必要と認める事項。
（組織）
第４条　協議会は、次の各号に掲げる者のうちから校長が委嘱した委員をもって組織する。
（１）大学等教育研究機関の関係者
（２）地域の教育関係者
（３）地方公共団体の関係者
（４）地域産業界等の関係者
（５）本校同窓会長
（６）その他校長が必要と認めた者
２　協議会に議長を置き、委員の互選により選出する。
３　議長は、協議会を招集し、会務を総括する。
（任期）
第５条　委員の任期は、原則として１年とし、再任を妨げない。
（代理者の出席）
第６条　委員は、やむを得ない理由により協議会に出席できないときは、当該委員があらかじめ指名した代理者を出席させることができる。
（実施方法）
第７条　委員は、資料による調査、ヒアリング及び実地調査等で現状を検証し、それに基づいて指導、助言を行う。
（事務）
第８条　協議会に関する事務は、総務課課長補佐（総務担当）において処理する。
（雑則）
第９条　この規則に定めるもののほか、協議会に関し必要な事項は、校長が別に定める。
附　則
この規則は、平成１６年６月２４日から施行する。
附　則
この規則は、平成１９年４月１日から施行する。
附　則
この規則は、平成２２年４月１日から施行する。
附　則
この規則は、平成２３年９月１５日から施行する。

（出典　運営協議会規則）

（分析結果とその根拠理由）

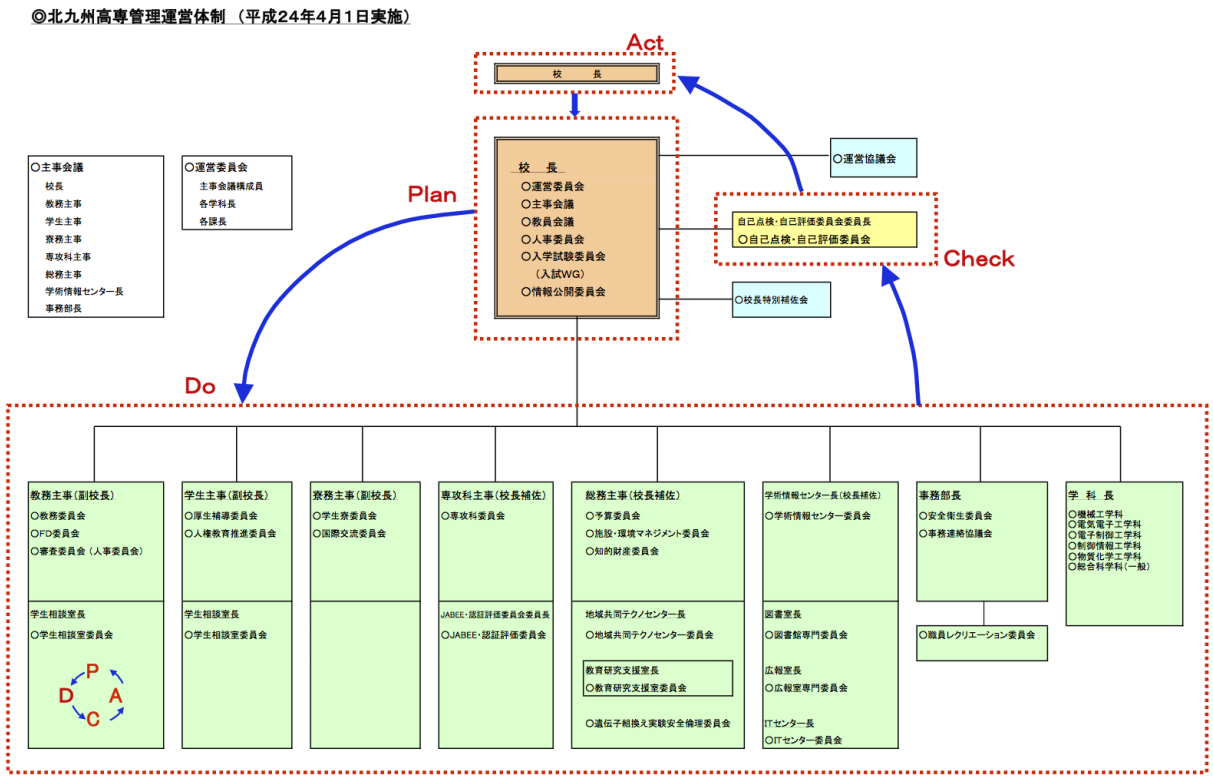
本校では，教員，保護者，卒業生・修了生及び企業関係者の意見の聴取が適切に行われており，それら聴取された意見は，各委員会が取りまとめ，運営委員会に報告された後，各学科長より各学科へ報告され，全教員に周知することにより教育の状況に関する自己点検・評価に役立てられている。

観点９－１－③：　各種の評価の結果を教育の質の向上、改善に結び付けられるような組織としてのシステムが整備され、教育課程の見直し等の具体的かつ継続的な方策が講じられているか。

（観点に係る状況）

本校では，資料９－１－③－１に示すように，校長，各委員会及び各学科がPDCAサイクルに則って継続的に教育の質を向上及び改善ができるような管理運営体制となっている。また，観点９－１－①及び観点９－１－②で述べたように，学生，教員，各委員会において自己点検を行っており，各委員会においてもPDCAサイクルを活用して継続的に改善する体制となっている。

資料９－１－③－１



（出典　北九州工業高等専門学校管理運営体制より）

このシステムが機能した具体的な改善事例として，

・平成22年度：教育の多様化に対応した時間を確保するために，１～５年生の授業を７時限目（16:00）で終わるように調整した。
・平成22年度：学校から社会への円滑な移行に必要な能力を育み，社会人としての必要な知識や人間性を養うために，４年生の後学期を利用して長期学外実習を導入した。
・平成25年度：専攻科の特別実習の履修期間を専攻科２年生まで延長した。

等が挙げられ，教育改善のための具体的かつ継続的な方策が講じられ機能している。

（分析結果とその根拠理由）

PDCAサイクルを活用した各種の評価結果を教育の質の向上及び改善に結び付けるシステムが整備されており，具体的かつ継続的な方策が講じられている。

観点９－１－④：　個々の教員は、評価結果に基づいて、それぞれの質の向上を図ると共に、授業内容、教材、教授技術等の継続的改善を行っているか。また、個々の教員の改善活動状況を、学校として把握しているか。

（観点に係る状況）

個々の教員（常勤・非常勤）は，科目ごとに実施される授業アンケートの結果を自己分析して授業内容や教材，教授技術等に反映させるシステムになっている。平成21年度から，授業の開講期間内での改善を実現するために，記述式アンケート（形式は任意）を早期に実施している。これら授業アンケートによる具体的な改善事例を資料９－１－④－１に示す。

資料９－１－④－１

☆授業アンケートによる改善事例

- 板書が見えづらいとの意見があったので，板書を大きく書くようにした。
- 理解度を向上させるために，授業前に WebClass に授業内容を掲載したファイルをアップし，予習ができるようにした。
- 理解度を向上させるために，講義で使用する図やグラフをプリントで配布し，板書に要する時間を省き，説明に十分な時間をとるようにした。
- 諸現象のイメージがとらえやすいように，動画を用いて視覚的に教授するようにした。
- 例年，担当科目への授業への取組，積極性が低いので，これまで使用していた古い教科書から新しく内容が少し簡単な教科書に変え，学生が自学自習しやすいようにした。
- シラバスの理解度，自主性，積極性が低かった場合，課題を提出させたり小テストを実施したりしている。
- 興味・関心が低かった場合，学会誌に掲載されているトピックスをコピーして配布し，最近の技術・研究動向等を説明した。
- 授業に対する取組を向上させるために，予習・復習のレポートを課すとともに，各自が取り組める演習の時間をできるだけ増やすようにした。また，授業内容に関連する技術的な事例，話題，動向をできるだけ紹介するようにし，より興味を喚起するようにした。

（出典　授業アンケートによる改善事例より抜粋）

新任及び昇任教員による公開授業では，複数教員が必ず聴講しており，公開授業終了後に検討会を実施して教材や教授技術等について意見交換し報告書を作成している（資料９－１－①－５）。さらに，実施教員は公開授業の感想及び改善点を自己分析して報告書を作成している（資料９－１－④－２）。これらの報告書は，教務委員会で収集・確認している。

また，各教員の改善活動としては，授業見学の実施と報告書の作成（資料９－１－①－６），校長個人面談の個々の教員の教育に関する自己点検の実施等があり，継続的な改善が行われ，学校は改善活動状況を把握することができている。

資料９－１－④－２

公開授業実施教員アンケート

一般科目（体育）　松﨑　拓也講師（H23年4月採用）

◎公開授業実施日・実施科目
・H23年度（1回目）：　H23年12月16日（金）7～8限目、3S「体育Ⅲ」

①「公開授業」実施の率直な感想
・教科の先生方と教材研究などを考えることができるのでよかった。
・他教科の先生方の意見を聞くことで、新たな見解が生まれる。
・1年目・2年目と限らず、勉強になるので何年かおきに行ってほしい。

②「公開授業」を実施したことで（また、意見交換したことで）、その後の授業実施に反映したこと・注意するようになったこと・公開授業前後で変わったことなど
・学生の安全管理に、さらに注意をはらうようになった。
・学生の動機づけを重視するようになった。
・自分の学生に対する態度を改めた。

（出典　教務委員会資料）

（分析結果とその根拠理由）

授業アンケート，公開授業，授業見学，校長個人面談等，個々の教員はそれぞれの評価結果に基づいて，教育の質の向上を図ると共に，継続的な改善を行っている。また，公開授業の改善報告，校長個人面談等，学校としても改善状況を把握できている。

観点９－１－⑤：　研究活動が教育の質の改善に寄与しているか。

（観点に係る状況）

教員の研究活動は活発に行われており，著作物の刊行，学会・協会における論文発表や口頭発表等で，その成果を社会に還元すると共に，卒業研究・特別研究を通じて学生の教育に活かされ，授業科目にも還元されている。各教員の研究内容等については，本校ウェブサイトの教員総覧（資料９－１－⑤－１），J-GLOBAL及び本校研究報告（資料９－１－⑤－２）で確認することができる。これらの研究活動の一部は，卒業研究や専攻科特別研究として実施したり，授業で紹介したりしており，学生の教育に還元されている。また，地方自治体，研究機関及び地域企業との受託・共同研究も活発に行われており（資料９－１－⑤－３），卒業研究，専攻科特別研究に活かされている。近年では，多くの学生が学会・協会等で研究発表を行っており，学術賞等の受賞実績も多い（資料９－１－⑤－４：別添資料）。なお，専攻科特別研究は，北九州市の産学連携フェアにおいて研究発表会を実施しているほか，専攻科２年次の研究発表会を一般公開にしている（資料９－１－⑤－５）。

資料９－１－⑤－１

教員総覧

HOME » 教員総覧

教員総覧

校長						
塚本　寛						
機械工学科	電気電子工学科	電子制御工学科	制御情報工学科	物質化学工学科	総合（文系）	総合（理系）
平島 繁紀	開道 力	宮崎 出雲	樫村 秀男	永田 康久	山本 一夫	徳一 保生
中山 博愛	加島 篤	添田 満	脇山 正博	松嶋 茂憲	白神 宏	矢野 正孝
入江 司	小城 左臣	吉野 慶一	寺井 久宣	川原 浩治	大谷 浩	中村 裕之
内田 武	本郷 一隆	秋本高明	浜松 弘	山根 大和	横山 郁子	山田 康隆
浅尾 晃通	福澤 剛	太屋岡 篤憲	安信 強	竹原 健司	安部 力	宮内 真人
井上 昌信	松本 圭司	中島 レイ	乙部 由美子	後藤 宗治	荒川 裕紀	石井 伸一郎
山本 洋司	油谷 英明	白濵 成希	山内 幸治	井上 祐一	渡辺 眞一	濵田 臣二
小清水 孝夫	桐本 賢太	井田 利浩	久池井 茂	前田 良輔	廣瀬 孝壽	八嶋 文雄
種 健	磯崎 裕臣	松久保 潤	日高 康展	水野 康平	久保川 晴美	豊永 憲治
滝本 隆	前川 孝司	十時 優介	古野 誠治	小畑 賢次	楠田 剛士	松﨑 拓也
田淵 大介	二宮 慶	北園 優希	松尾 貴之	園田 達彦	山下 文	栗原 大武
				山本 和弥		
				大川原 徹		

各教員のメールアドレスについては記載されているアドレスの後に@ｋｃｔ．ａｃ．ｊｐを結合してください。
各教員の電話番号は内線番号です。外部から直接かけるときは０９３－９６４の後に続けてください。

教員検索

Google™ カスタム検索

（出典　北九州工業高等専門学校ウェブサイト）

資料９－１－⑤－２

平成２３年度に発表した著書・論文および講演題目

A List of other Research Activities in 2011

著　書

氏　名	書　名	発　行　所	発行年月
［総合科学科］			
荒　川　裕　紀 他	真珠湾を語る （担当部分：第 11 章 1）	東京大学出版会	平成23年12月
松　崎　拓　也 他	スポーツビジネス概論 （担当部分：第 15 章 1,2　pp.172-176）	叢文社	平成２４年３月

論　文

氏　名	論　文　題　目	発表した誌名（巻・号）	発行年月
［機械工学科］			
小清水　孝　夫 他５名	The Frequency Dependent Regenerator Cold Section and Hot Section Positional Reversal in a Coaxial Type Thermoacoustic Stirling Heart Pump	Cryogenics, Vol.51　Issue.10, pp.591-597	平成２３年９月
小清水　孝　夫 他１名	往復振動流中の作動ガスと管壁の間の熱伝達率	低温工学，47 巻 1 号，pp.31-36	平成２４年１月
小清水　孝　夫 他４名	同軸型熱音響冷凍機のスタックの温度変化に対する音波周波数の影響	低温工学，47 巻 1 号，pp.47-51	平成２４年１月
滝　本　　隆 他１名	Washout Control for Inverted Pendulum Mobile Robots with Sensor Drifts	Proc. of 2011 IEEE/SICE International Symposium on System Integration, pp.491-496	平成23年12月
滝　本　　隆 他１名	Dynamic State-Derivative Feedback Control for Quadrotor Helicopters	Proc. of 2011 IEEE/SICE International Symposium on System Integration, pp.961-965	平成23年12月
滝　本　　隆 他１名	Robust Control for Inverted Pendulum Transport Robots with Sensor Drifts	Proc. of 1st International Symposium on Technology for Sustainability，pp.138-141	平成２４年１月
［電気電子工学科］			
磯　崎　裕　臣 他２名	Modeling of Flows based on Behavior of Applications	Proceedings of the 26th International Conference on Information Networking (ICOIN 2012)，pp.447-452	平成２４年２月
［電子制御工学科］			
吉　野　慶　一 滝　本　　隆 他１名	Attitude Control of Quadrotor Helicopters with Sensor Offsets	Proc. of 2011 IEEE/SICE International Symposium on System Integration	平成23年12月
秋　本　高　明 他５名	Investigating Entrainment of People's Pointing Gestures by Robot's Gestures Using a WOZ Method	International Journal of Social Robotics，Vol.3，No.4, pp.405-414	平成23年11月

（出典　北九州工業高等専門学校　研究報告より抜粋）

資料９－１－⑤－３

受託研究・共同研究（最近３年間）
Entrusted Researches & Researches with Companies（For The Last 3 Years）

年度 Year	受託研究 Entrusted Researches		共同研究 Researches with Companies	
	件数 Number	金額 Funds	件数 Number	金額 Funds
平成21年度（2009）	7	29,827,881 円	3	1,300,000 円
平成22年度（2010）	7	20,637,800	4	1,977,300
平成23年度（2011）	8	39,175,430	3	1,750,000

（出典　学校要覧）

資料９－１－⑤－５



（出典　北九州市 第12回 産学連携フェア・ウェブサイトより）

教育方法に関する研究も多く行われており，本校研究報告，高専教育，各学会・協会等において発表され，研究成果が授業科目に活かされている。平成23年度の全国高専教育フォーラムでは，教員２名がポスター賞を受賞しており，教育の質の改善が実施されていることが分かる（資料９－１－⑤－６）。

また，平成24年度にはISATE（国際工学教育研究集会）が本校主管で開催され，多くの教員や学生

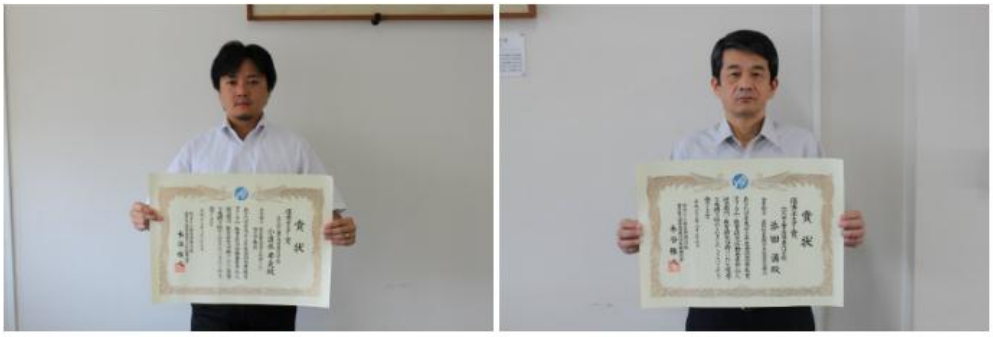
が発表を行った（資料９－１－⑤－７）。

資料９－１－⑤－６

HOME » 新着情報 » 平成２３年度 » 平成23年度全国高専教育フォーラムで優秀ポスター賞受賞

◦ 平成23年度全国高専教育フォーラムで優秀ポスター賞受賞

平成23年8月23日（火）～25日（木）に鹿児島大学で開催された「平成23年度全国高専教育フォーラム」において、教育研究活動のポスター発表を行い審査の結果、本校機械工学科の小清水講師と電子制御工学科の添田教授の２名が優秀ポスター賞を受賞されました。



（出典　北九州工業高等専門学校ウェブサイト）

資料９－１－⑤－７

ISATE 2012

6th INTERNATIONAL SYMPOSIUM ON ADVANCES IN TECHNOLOGY EDUCATION

September 19-21, 2012 Kitakyushu, JAPAN

Hosted by Kitakyushu National College of Technology

- HOME
- CALL FOR PAPERS
- FOR AUTHORS ONLY
- PROGRAM
- REGISTRATION
- SYMPOSIUM VENUE
- ACCOMMODATION
- INFORMATION FOR VISITORS
- ORGANIZERS
- SECRETARIAT



The International Symposium on Advances in Technology Education (ISATE) is an annual symposium held in Singapore or Japan. Planned and organized by the Institute of National Colleges of Technology,Japan (INCT) and Singapore's five polytechnics, ISATE has offered a great opportunity for teachers at technical schools to deepen their insight into technology education and also to cultivate friendship with their peers in both countries.

This year ISATE is going to be held in Kitakyushu, Japan. The theme for ISATE 2012 is "Aiming to Foster the Practical Engineer."

（出典　ISATE2012 ウェブサイト）

（分析結果とその根拠理由）

教員の研究活動は活発に行われており，卒業研究，専攻科特別研究を通じて学生の教育に活かされ，授業科目にも還元されている。また，教育方法に関する研究も活発で，教育の質の向上及び改善に活かされている。学生の研究発表も盛んで，プレゼンテーション能力やコミュニケーション能力の向上に大いに役立っている。

観点９－２－①：　ファカルティ・ディベロップメントが、適切な方法で実施され、組織として教育の質の向上や授業の改善に結び付いているか。

（観点に係る状況）

教員の教育内容及び教育方法を改善し，向上させるための組織的・継続的な取組であるファカルティ・ディベロプメント（FD）は，FD委員会が毎年活動を計画し，各委員会に依頼することによって組織的に行われている（資料９－２－①－１，２）。実施されたFD活動とその担当委員会を資料９－２－①－３に示す。これらの活動は本校ウェブサイトで公開されており，内容は随時各担当委員会で見直されている。

資料９－２－①－１

○ 北九州工業高等専門学校ＦＤ委員会規則

平成１７年１１月２４日　規則第１４号
改正　平成２２年４月１日

（設置）
第１条　北九州工業高等専門学校（以下「本校」という。）に、ＦＤ委員会（以下「委員会」という。）を置く。
（目的）
第２条　委員会は、ファカルティ・ディベロップメント（教員の教育内容及び教育方法を改善し、向上させるための組織的な継続的な取り組み（以下「ＦＤ」という。））を推進し、これに積極的に取組むことにより、本校における教育の改善、教員の意識改革の推進を図ることを目的とする。
（審議事項等）
第３条　委員会は、校長の諮問に応じ、前条の目的を達成するため、ＦＤに関する事項及び研修会等を企画・総括する。
（組織）
第４条　委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。
（１）教務主事、学生主事、寮務主事、専攻科主事及び総務主事
（２）教務主事補及び学生主事補のうち当該各主事が指名した者　各１名
（３）総務課長及び学生課長
（４）その他校長が必要と認めた者
２　前項第２号及び第４号の委員の任期は、１年とし、再任を妨げない。
（委員長）
第５条　委員会に委員長を置き、教務主事をもって充てる。
２　委員長は、委員会を招集し、その議長となる。
３　委員長に事故ある時は、委員長があらかじめ指名した者がその職務を代行する。
（会議）
第６条　委員会は、委員の３分の２以上の出席がなければ議事を開くことができない。
２　委員会の議事は、出席委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。
（委員以外の者の出席）
第７条　委員長は、必要があると認めた場合は、委員以外の者を出席させ、その意見を聴くことができる。
（専門部会）
第８条　委員会に特定の事項を調査・検討等するため専門部会を置くことができる。
２　専門部会の部会長及び専門委員は、委員長が指名する。
（事務）
第９条　委員会に関する事務は、総務課総務係において処理する。
（雑則）
第１０条　この規則に定めるもののほか必要な事項は、校長が別に定める。

（出典　北九州工業高等専門学校　FD委員会規則抜粋）

資料９－２－①－２

平成２４年度　第１回ＦＤ委員会議事要録

１．日　時　　平成２４年　５月１７日（木）　１７：００～１８：３０
２．場　所　　会議室（２階）
３．出席者　　内田、山田（康）、白神、松嶋、寺井、油谷、仙波、岩永、佐々木
（陪席）総務課長補佐：藤田　総務係：川端、林
４．議題等

（１）平成２３年度ＦＤ専門部会の活動実績について

内田委員長から、資料１「平成２３年度ＦＤ活動実績一覧」に基づき説明があり、これを最終版とする旨報告があった。

（２）平成２３年度ＦＤ委員会の活動報告書について

内田委員長から、資料 2「平成２３年度ＦＤ委員会活動報告」及び回覧資料「平成２３年度ＦＤ委員会活動報告」に基づき、平成２３年度のＦＤ委員会の活動報告があった。

（３）福岡県教育委員会専門研修への参加について

内田委員長から、資料 3-1「平成２４年度福岡県教育センター専門研修受講者の募集について」及び資料 3-2「平成２４年度福岡県教育センター・福岡県体育研究所主催の専門研修講座への参加予定教員」に基づき、今年度の参加予定者について説明があり、審議の結果、了承された。

（４）平成２４年度ＦＤ委員会の活動計画（案）について

内田委員長から、資料４「平成２４年度ＦＤ活動計画（案）」について、２３年度版と同じ分類で作成した旨説明があり、審議の結果、一部修正の上、了承された。なお、修正箇所は以下のとおりである。

- 「協議・研修-５-教材研究（共通分野科目の情報交換）」の依頼（実施）先に専攻科委員会を追加する
- 「協議・研修-１０-キャリア教育に関する検討」の依頼（実施）先に、専攻科委員会を追加する

また、内田委員長から、実施内容はあくまでも例であるので、具体的な内容は各委員会で検討していただく予定である旨説明があり、依頼文を各委員会にメールで送付することとした。

（出典　北九州工業高等専門学校　平成 24 年度 FD 委員会議事要録より抜粋）

資料９－２－①－３（その１）

平成24年度 FD活動実績一覧

平成25年5月19日 Ver.5(確定)

分類	番号	テーマ	依頼先・派遣教員	実施内容・派遣先	実施時期
講演会・講習会	1	H23年度卒業・修了時達成度アンケート報告	FD委員会(FD専門部会)	平成23年度に実施した卒業・修了時達成度アンケートについては、実施結果のまとめを「FD委員会(H24.3.30.)」で報告するとともに、平成24年度第1回教員会議(H24.4.4.)で全教員へ報告	4月4日
	2	授業アンケート報告	FD委員会(FD専門部会)	平成23年度に実施した授業アンケートの実施結果について、図書館で自由閲覧できるようにするとともに、学内専用ホームページに掲載することでの報告	5月
	3	救急法に関する講習会	厚生補導委員会	**【学生対象の救急法講習会に参加】** 3年生対象「救急法のガイダンス(応急手当の重要性)」および「心肺蘇生法の実技指導」、小倉南消防署職員	6月20日
	4	FAISにおいて実施する助成金に関する公募説明会(FAIS産学連携センターにて開催)		「中小企業産学官連携研究開発事業」、「産学連携研究開発事業」の公募説明会に内田教授が出席	7月3日
	5	性教育に関する講演会	学生相談室委員会と連携	**【学生対象の性教育講演会に参加】** 2年生男女対象「大人になる前に知ってほしい性と生のコト」、広徳中学校・養護教諭　田原かおり氏	7月25日
	6	教育・学生指導に関する講習会	教務委員会、厚生補導委員会	**【「福岡県教育委員会との連携」の項目に記載】**	
	7	ICT(WebClass、eラーニングなど)に関する講習会	学術情報センター(ITC専門委)、教務委員会	「GoogleAppsとWebClassの利用講習会」	9月12日
	8	科研費説明会	総務課	科研費の公募要領等説明会、倉田三専門職員	9月21日
	9	情報セキュリティー対策に関する講演会	学術情報センター (ITセンター専門委員会)	「情報セキュリティ対策の重要性と関連規則」、 神戸学院大学・情報セキュリティアドバイザー 経営学部・准教授　小川賢氏	11月30日
	10	特別支援に関する講演会	学生相談室委員会	「発達障がいの理解と支援」、 北九州市発達障害者支援センター「つばさ」相談員　倉知芳明氏	12月3日
	11	知的財産に関する講演会	地域共同テクノセンター長	「知的財産に関する講演会(全教員対象)」、 熊本高専地域イノベーションセンター・ 九州沖縄地区産学官連携コーディネーター　上甲勲氏 熊本高専総務課産学連携係・ 産学官連携コーディネーター　三島淳一郎氏	12月4日
	12	メンタルヘルスに関する講演会	安全衛生委員会	「こころの健康と生活習慣」、 独立行政法人　労働者健康福祉機構産業保健部・メンタルヘルス対策支援センター、メンタルヘルス対策促進員　高田啓子氏	12月5日
	13	教育・学生指導に関する講演会	教務委員会、厚生補導委員会	**【学生対象の教育・学生指導講演会に参加】** 1年学生対象 ○「暴力団排除」に関しる講演、福岡県警察本部職員	12月13日
	14	ICTに関する説明会	学術情報センター(ITC専門委)	「クラウドメール導入ならびに利用方法の説明会」	1月23日・28日
	15	人権教育に関する講演会	人権教育推進委員会	「学生のやる気を育てる本物体験活動　～いじめ、体罰について考える～」、東筑紫学園高校・特別常勤講師　島田清氏	2月15日
	1	新任教員研修	教務委員会、厚生補導委員会	辞令交付式の後、校長・主事・学術情報センター長と懇談形式での新任教員研修を実施 **【学校要覧・学生便覧・シラバス・新任教員のための教務関係の手引き(教務委員会)等の資料に基づき、教育理念・教育目標・教育プログラム・授業・成績評価・厚生補導・課外活動などについて説明】**	4月2日、6月11日
	2	新任教員研修	JABEE・認証評価委員会	○新任教員に対して、JABEE対応の本校教育プログラム、学習・教育目標、試験答案類の保管方法などについて説明 (JABEE・認証評価委員会委員長　安信強教授) ○非常勤講師に対して、試験答案類の保管方法などについて文書を作成し配付(教務主事　内田武教授)	6月7日、 前期中間試験期間
	3	公開授業および授業研究	教務委員会、専攻科委員会	**【新任・授業初担当・専攻科基礎必修科目担当教員】** ○M田淵大介助教(3M数値計算法)、E仙波伸也准教授(高専間人事交流教員、5E電気電子材料)、E磯崎裕臣助教(5E通信工学)、D秋本高明准教授(1D基礎情報処理)、D島川学准教授(高専間人事交流教員、5Dパルス回路)、D北園優希助教(2D情報処理Ⅰ)、S松尾貴之助教(3Sコンピュータ基礎)、G楠田剛士講師(4E近代文学)、G松崎講師(1C保健)が実施 ○専攻科については、専攻科特論Ⅴ(知的財産)・専攻科特論Ⅶ(外国人講師による英語の授業)を聴講することで実施 **【公開授業後すぐに意見交換会を行い、新任教員・授業初担当教員は2回の公開授業(1年間に1回ずつ)を実施】**	5月30日、5月31日、 6月15日、6月22日、 6月29日、7月3日、 1月17日、1月23日、 1月30日
	4	授業見学	FD委員会	○全教員に各自の授業研鑽を目的とした「授業見学」の実施を依頼(5月21日、11月30日、1月23日)し、他教員の授業を見学した「日時・科目名・感想など」をFD委員会委員長へ提出 ○教員16名から18件の報告を受領	5月21日、11月30日、 1月23日 5月～3月に実施

（出典　北九州工業高等専門学校ウェブサイト　FD委員会活動より）

資料９－２－①－３（その２）

協議・研修	5	一般科目に関する専門学科との連携	教務委員会	国語と全専門学科、理科と全専門学科、社会と全専門学科、英語と全専門学科、数学と機械工学科、数学と電気電子工学科、数学と電子制御工学科との科目間連絡会議（情報交換）を実施	8月29日、12月19日、1月22日、1月29日、3月4日、3月7日、H25.4月2日
	6	教材研究（共通分野科目の情報交換）	教務委員会、専攻科委員会	情報リテラシー（基礎情報処理）、情報処理（プログラミング）、本科1年「工学基礎実験」ならびに専攻科1年「複合工学実験」について、複数学科にわたる共通分野科目の連絡会議（情報交換）を実施	6月8日、7月23日、7月26日、3月15日
	7	専攻科専攻内のコース間連携	専攻科委員会	○生産工学専攻（機械工学科・電気電子工学科）において、専攻内での連絡会議（情報交換）を実施 ○制御工学専攻（電子制御工学科・制御情報工学科）においては、専攻科主事補間での情報交換を適宜実施 ○物質化学工学専攻（応用化学工学コース・生物化学工学コース）においては、学科会議時に情報交換を適宜実施 ○平成27年度から開始する専攻科の高度化・再編計画に関連して、各専攻内ならびに専門学科間での意見交換を適宜実施	1月24日（生産）、制御と物質化学の専攻内協議は随時、高度化・再編についても適宜
	8	特別活動に関する協議	教務委員会	○平成23年度学級担任提出の「平成23年度特別活動実施報告」を教務委員会で確認・協議 ○平成24年度学級担任提出の「前学期分の特別活動計画（4月）」と「後学期分の特別活動計画（9月）」を教務委員会で確認・協議 ○【学修の指針（旧：学修プログラム）】記載内容を確認・微修正し、本校Webサイトに掲載 ○平成23年実施の「特別活動」内容を整理し、平成17～23年の「特別活動内容と学修の指針との関係」にまとめ、特別活動計画の資料として学級担任に配布 ○平成24年度後学期分の特別活動計画から、【学修の指針】の分類番号を学級担任が記載（担任意識のため）	4月11日、7月11日、9月12日、12月12日
	9	特別支援に関する協議	学生相談室委員会	○「特別支援チーム」編成（1チーム、平成24年度で卒業） ○「学生支援介助員」を2名採用し、交替で週5日（午後）勤務 ○カウンセラーの雇用時間を検討し、カウンセリング日数（週3日）を平成24年度から週4日へ拡充 ○特別支援学生の定期試験受験要領を整備し実施 ○就労支援の一環として、北九州市発達障害支援センター・北九州障害者仕事サポートセンターとの連携 ○「特別支援の手引き」内容の更新に向け検討中	随時
	10	eラーニングに関する検討（継続）	学術情報センター（ITC専門委）、教務委員会	○WebClassは、定期試験・課題提示と回収・教材提供などの学習コンテンツ、研究室や部活の情報共有、アンケート調査等にも活用され、平成24年度は139コースが開設 ○「基礎ネットワーキング」のeラーニング導入授業の実施と運用上の問題に関する検討 ○学習到達度試験に関連するeラーニング教材を学生紹介 ○本科・専攻科の授業へのWebClass・Webラーニング教材の積極利用を実施	随時
	11	キャリア教育に関する検討	教務委員会、専攻科委員会	○3年学生対象に「インターンシップ特別講演」を実施 ○夏季休業中実施の4年学外実習に、M30社35名、E9社10名、D13社15名、S21社38名、C28社40名の学生が参加 ○後学期実施の4年長期学外実習（7社）に、D6名・S4名の学生が参加（9月13日に参加学生へのガイダンスを実施） ○【学修の指針（旧：学修プログラム）】記載内容を確認・調整し、本校Webページに掲載 ○【キャリア教育支援室（仮称）】の設置が10月主事会議・運営委員会で了承され、具体的な検討を開始	7月11日、9月13日、10月10日、10月15日、10月18日、1月10日、3月15日
	12	小・中・工業高校における教育内容の調査・検討	FD委員会	平成24年度入試倍率が1.9倍（平成23年度は2.2倍）に低下したこと、受験数の増減変化が大きな中学校があることなどを鑑み、8月末に近隣中学校（菅生中）に山田学生主事が訪問し、本校受験数の推移・在校生の状況・進路の状況などを説明、本校の理解・本校受験希望学生の意識・本校に対する要望などを聞き取り調査	8月
	13	高専機構コアカリキュラムに関する検討	教務委員会、専攻科委員会	○全国高専教育フォーラム（8月、オリンピックセンター、主幹：東京高専）で開催された「モデルコアカリキュラム説明分科会」に出席して情報収集 ○平成24年4月に発表された「モデルコアカリキュラム（試案）」に対して、平成24年度から対応策の検討を開始し、平成25年度から具体的な検討予定	4月、8月、12月、1月、2月
	14	JABEE・高専認証評価に関する検討	教務委員会、専攻科委員会 JABEE・認証評価委員会	○JABEE対応教育プログラムの修了要件とTOEICスコア要件の関係改善、専攻科での英語教育内容を検討 ○本科各学科ならびに専攻科各専攻の「養成する人物像（教育目標）」の内容確認 ○2013年度版のJABEE審査新基準の把握 ○平成25年度に評価を受ける大学評価・学位授与機構の「高専機関別認証評価」受審について9月教員会議で説明 ○「高専機関別認証評価」受審を申請し、審査に必要となる自己評価書記載内容を検討	随時、9月5日（教員会議）

（出典　北九州工業高等専門学校ウェブサイト　FD 委員会活動より）

資料９－２－①－３（その３）

アンケート・事例収集	1	授業アンケート	FD委員会(FD専門部会)	○指定科目について、「筆記形式の授業感想・要望調査」により授業改善を図り、最終授業項に「マークシート形式の授業アンケート」を実施し、集計結果に授業担当教員がコメント記述 ○加えて、平成24年度から授業アンケート結果をもとに、授業改善に向けた学生との話し合いを実施 ○平成25年度以降の授業アンケート実施計画を再検討 ○アンケート結果は冊子にまとめ、図書館で開示 **[H21年度から、FD専門部会で科目を指定し、教員は1年おきに2科目程度のアンケートを実施]**	前期・後期
	2	卒業・修了時の達成度アンケート	FD委員会(FD専門部会)	○平成23年度実施内容を4月教員会議で報告 ○達成度アンケートの質問項目を調整 ○本科5年の卒業ならびに専攻科2年の修了する直前に、達成度アンケートを実施	4月4日、 1月～3月に実施
	3	ヒヤリ・ハット事例(危機管理アンケート)	教務委員会、厚生補導委員会	○平成23年度に提出された「ヒヤリ・ハット事例」を蓄積データに追加し、教職員共有フォルダ(グループウェア)に掲載 ○全教員に「ヒヤリ・ハット事例」の提供を依頼(12月7日) **[平成19年度から継続して事例の収集と対応策の検討を行い、収集事項は適宜教職員共有フォルダ(グループウェア)に掲載]**	12月7日 12月～3月
福岡県教育委員会との連携	1	福岡県教育センター主催の専門研修講座 「化学実験技術を磨いて授業力UP(高)」に参加	大川原助教	九州工業大学	8月1日
	2	福岡県教育センター主催の専門研修講座 「物理実験技術を磨いて授業力UP(高)」に参加	田淵助教	福岡大学附属大濠高等学校	8月6日
	3	福岡県教育センター主催の専門研修講座 「新しい高校数学の展開」に参加	豊永講師	福岡県教育センター(粕屋郡篠栗町)	8月24日
	4	福岡県教育センター主催の専門研修講座として、 中学校教員対象「技術・家庭科(技術分野)エネルギー変換の教材と授業づくり」を協力開催	加島教授	福岡県教育センター(粕屋郡篠栗町)	8月7日
	5	福岡県体育研究所主催の専門講座 「子どもたちのやる気と元気が湧いてくる「健康教育」」に参加申込みしたが、都合により欠席	松崎講師	福岡県体育研究所(福岡市博多区東平尾公園)	9月28日
	6	福岡県教育委員会が所轄する「教育力向上福岡県民運動推進派遣講座」を利用した派遣講師による、本科学生向けの特別講義を開催	機械工学科教員	**【学生対象の講演会に参加】** 機械工学科4年生・5年生対象の特別講義:「プレゼンテーション～コミュニケーションのための基本スキル～」、 九州大学大学院芸術工学研究院教授　脇山真治氏	10月3日

	1	KPEC・北九州地域産業人材育成フォーラム 「第2回産業人材育成セミナー&産学交流会」	塚本校長、浜松教授、 内田教授、 松本教育コーディネータ	北九州国際会議場	4月5日
	2	平成24年度国際原子力人材育成事業実行委員会	本郷准教授	キャンパス・イノベーションセンター東京(東京都港区芝浦)	4月20日～21日 10月19日～20日
	3	ISATE2012　Organizing Committee Meeting会議	添田教授、油谷准教授	シンガポール共和国　ヤンナン・ポリテクニク	4月22日～25日 7月1日～7月4日 8月11日～13日
	4	放射線障害予防のための教育訓練講習会	仙波准教授	山口大学(宇部市常盤台)	4月25日
	5	福岡県数学教育研修会	徳一教授、豊永准教授	福岡教育大学(宗像市赤間)	4月30日
	6	放射線業務従事者の教育訓練講習会	松嶋教授、小畑准教授	福岡リーセントホテル(福岡市東区箱崎)	5月9日
	7	平成24年度九経連産学連携連絡会	浜松教授	九経連会議室(福岡市中央区渡辺通2丁目)	5月16日
	8	平成24年度第1回PBLを活用した国際化教育と英語力の向上	白濱准教授	羽田空港会議室	5月21日
	9	グローバル人材育成シンポジウム	荒川准教授	カルチャープラザのべおか(延岡市東本小路)	5月25日
	10	香港職業訓練院VTC視察	白神教授、白濱准教授	香港職業訓練院VTC	5月28日～31日
	11	高専機構「ネットワーク管理者講習会」	脇山教授、桐本准教授	国立オリンピック記念青少年総合センター(渋谷区代々木)	6月3日～5日
	12	高専機構企画・オムロン「制御技術セミナー(上級)」	太屋岡准教授	オムロン㈱カスタマサポートセンター大阪(大阪市北区堂島)	6月6日～7日
	13	第3回PBL利用教育に関する教員研修会	松久保講師	熊本高専・熊本キャンパス	6月8日
	14	福岡県数学教育研修会	豊永准教授	福岡教育大学(宗像市赤間)	6月10日、7月8日
	15	台湾五大学との包括協定に基づく視察・情報交換	寺井教授	台湾(台湾教育部、連合大学ほか)	6月10日～13日
	16	平成24年度高専機関別認証評価委員会評価部会 高専機関別認証評価の実施	添田教授	学術総合センター(千代田区一ツ橋) 受審高専	6月11日～12日 8月15日～16日 9月30日～10月2日 11月11日～13日 12月18日～19日
	17	KPEC・北九州地域産業人材育成フォーラム 「インターンシップミーティング」	内田教授、 松本教育コーディネータ	九州工業大学	6月16日
	18	KPEC・北九州地域産業人材育成フォーラム 「H24年度第1回インターンシップ研究プロジェクト会議」	山根教授、 松本教育コーディネータ	北九州活性化協議会　KPECサロン(北九州商工貿易会館)	6月19日
	19	高専機関別認証評価に関する説明会・研修会	浅尾教授、安信教授	学術総合センター(千代田区一ツ橋)	6月20日～21日
	20	平成24年度高専改革推進経費の打合せ	吉野教授	学術総合センター(千代田区一ツ橋)	6月21日
	21	図学会九州支部研究会	入江教授	九州大学大学院芸術工学研究院(福岡市南区塩原)	6月23日
	22	環境教育に関する調査研究	入江教授	㈱タクマテクノス(東京都中央区日本橋本町)	6月27日～28日
	23	福祉情報教育に関する打合せ	島川准教授	国立特別支援教育総合研究所(横須賀市野比)	7月4日～5日
	24	九州イノベーション創出促進協議会	浜松教授	リファレンス博多駅東ビル(福岡市博多区博多駅東)	7月19日

（出典　北九州工業高等専門学校ウェブサイト　FD委員会活動より）

資料９－２－①－３（その４）

	25	日本工学教育協会主催「JABEE審査員講習会」	白濱准教授	芝浦工業大学豊洲キャンパス（江東区豊洲）	7月20日～21日
	26	留学生・国際交流実務担当者研究集会	大谷教授	（財）宮城県教育会館（仙台市青葉区柏木1丁目）	7月22日～24日
	27	平成24年度INPIT知的財産教育の地域別研究会	古野准教授	熊本県立南稜高等学校（球磨郡あさぎり町）	7月23日
	28	国際プロコン連絡協議会	白濱准教授	熊本高専・熊本キャンパス（合志市須屋）	7月27日
	29	第10回全国高専テクノフォーラム	浜松教授、入江教授、寺井教授、久池井准教授、井上（祐）准教授	国立京都国際会館（京都市左京区宝ケ池）	8月19日～21日
	30	国際交流引率	白濱准教授	香港職業訓練院VTC	8月19日～25日
	31	KPEC・北九州地域産業人材育成フォーラム「H24年度第2回インターンシップ研究プロジェクト会議」	山根教授、松本教育コーディネータ	北九州活性化協議会　KPECサロン（北九州商工貿易会館）	8月21日
	32	平成24年度障害学生支援研修会	乙部准教授	大阪府労働センターエル・おおさか（大阪市中央区北浜東）	8月21日～22日
	33	平成24年度高等専門学校新任教員研修	秋本准教授、田淵助教、十時助教、大川原助教	国立オリンピック記念青少年総合センター（渋谷区代々木）	8月22日～24日
	34	高専ー 長岡技科大（機械系）教員交流研究集会	種講師	長岡技術科学大学	8月23日～24日
	35	高等教育質保証学会第2回大会	安信教授	東京大学駒場キャンパス（目黒区駒場）	8月24日～26日
	36	第11回東アジア環境教育ワークショップ	矢野教授	北京市西城区青少年科学技術館	8月24日～27日
	37	平成24年度全国高専教育フォーラム	中村教授、脇山教授、内田教授、入江教授、前田准教授、廣瀬講師	国立オリンピック記念青少年総合センター（渋谷区代々木）	8月27日～30日
	38	九州地域ものづくり中小企業事業化支援スキーム	浜松教授	リファレンス博多駅東ビル（福岡市博多区博多駅東）	8月28日
	39	ソフトウェア（COMSOL）個人セミナー	太屋岡准教授	計測エンジニアリング株式会社（千代田区内神田）	9月3日
	40	聴覚に障害がある方への支援技術講習会	島川准教授	福岡教育大学（宗像市赤間）	9月5日
	41	平成24年度IDE大学セミナー	内田教授	九州大学・箱崎キャンパス	9月7日
	42	平成24年度福岡ものづくりシンポジウム2012	入江教授	ホテルレガロ福岡（福岡市博多区千代1丁目）	9月7日
	43	高専教員研修（クラス経営・生活指導研修会）	八嶋准教授、松久保講師	大田区産業プラザPiO（大田区南蒲田）	9月11日～13日
	44	平成24年度九州沖縄地区国立高専図書館長協議会	山本教授	沖縄高専（沖縄県名護市辺野古）	9月12日～14日
	45	著作権セミナー	小畑准教授	アクロス福岡（福岡市中央区天神）	9月14日
	46	第5回高専サイエンス支援ネットin九州沖縄	竹原教授、宮内教授	鹿児島高専（霧島市隼人町）	9月16日～17日
	47	平成24年度全国高専専攻科長会議	前田准教授（代理）	グランドホテルニュー王子（苫小牧市表町）	9月19日～21日
外部セミナー・研修会・研究集会等への派遣	48	ISATE2012（主管：北九州高専）の運営および発表	＜運営＞ 添田教授、脇山教授、寺井教授、浅尾教授、大谷教授、油谷准教授、桐本准教授、白濱准教授、小畑准教授、八嶋准教授 ＜発表＞ 脇山教授、浅尾教授、安信教授、白濱准教授、福澤准教授、油谷准教授、園田准教授、種准教授、荒川准教授、廣瀬講師	北九州国際会議場（北九州市小倉北区浅野）	9月19日～21日
	49	第3回福祉情報教育フォーラム	島川准教授、白濱准教授	釧路市交流プラザさいわい（釧路市幸町）	9月21日～23日
	50	平成24年度高専機構・教員研修「管理職研修」	寺井教授、内田教授	学術総合センター（千代田区一ツ橋）	9月24日～25日
	51	平成24年度九州沖縄地区国立高専相談室長会議	矢野教授	KKR鹿児島・敬天閣（鹿児島市城山町）	9月24日～25日
	52	KPEC・北九州地域産業人材育成フォーラム「H24年度第3回インターンシップ研究プロジェクト会議」	山根教授、松本教育コーディネータ	北九州活性化協議会　KPECサロン（北九州商工貿易会館）	10月3日
	53	平成24年度第1回自動車産業産学官連携会議	平島教授、浜松教授	福岡県Ruby・コンテンツ産業振興センター（博多区博多駅東）	10月5日
	54	高専機構・第23回プログラミングコンテスト本選	宮崎教授、添田教授、吉野教授、内田教授、井田准教授、白濱准教授、秋本准教授、北園助教	大牟田文化会館（大牟田市不知火町）	10月13日～14日
	55	高専機構企画・オムロン「制御技術セミナー（基礎）」	十時助教	オムロン㈱東京事業所（港区港南）	10月17日～19日
	56	九経連国際委員会グローバル人材部会	寺井教授	九経連会議室（福岡市中央区渡辺通2丁目）	10月18日
	57	高専機構企画・オムロン「制御技術セミナー（基礎）」	松尾助教	オムロン㈱カスタマサポートセンター大阪（大阪市北区堂島）	10月23日～25日
	58	九経連国際委員会グローバル人材部会	松嶋教授	九経連会議室（福岡市中央区渡辺通2丁目）	10月30日
	59	20高専連携打合せおよび研修会	脇山教授	代々木研修センター	10月30日～11月2日
	60	最新のソフトウェア技術研修会	島川准教授、磯崎講師	マイクロソフト品川本社	10月31日～11月2日
	61	第9回全国高専メンタルヘルス研究集会	矢野教授	国立オリンピック記念青少年総合センター（渋谷区代々木）	10月31日～11月2日
	62	第11回電子情報系高専フォーラム	白濱准教授	熊本高専・熊本キャンパス（合志市須屋）	11月10日
	63	ANSYS Meshing入門セミナー	乙部准教授	アンシス・ジャパン大阪営業所（大阪市北区豊崎）	11月14日
	64	平成24年度九州沖縄地区国立高専教員研究集会	浅尾教授、山田（康）教授	沖縄高専（沖縄県名護市辺野古）	11月14日～16日
	65	平成24年度国際原子力人材育成等推進事業教員会議	本郷准教授	長岡技術科学大学	11月14日～17日
	66	九経連国際委員会グローバル人材部会	寺井教授	九経連会議室（福岡市中央区渡辺通2丁目）	11月15日
	67	第6回高専サイエンス支援ネットin九州沖縄	宮内教授	大分高専（大分市牧）	11月16日～17日
	68	第1回錯体化学若手の会九州沖縄支部勉強会	大川原助教	九州大学・箱崎キャンパス	11月17日

（出典　北九州工業高等専門学校ウェブサイト　FD委員会活動より）

資料９－２－①－３（その５）

	69	第50回全国学生相談会研修	安部准教授	東京国際フォーラム（千代田区丸の内3丁目）	11月17日～21日
	70	平成24年度第2回全国就職指導ガイダンス	加島教授	神戸ポートピアホテル（神戸市中央区港島中町）	11月19日～20日
	71	KPEC・北九州地域産業人材育成フォーラム 「H24年度第4回インターンシップ研究プロジェクト会議」	山根教授、 松本教育コーディネータ	北九州活性化協議会　KPECサロン（北九州商工貿易会館）	11月21日
	72	ISATE2012の実施概要説明 ISATE2013第1回国内プログラム委員会	寺井教授	奈良高専（大和郡山市矢田町）	11月21日～22日 12月21日
	73	平成24年度九州沖縄地区国立高専 教務主事・専攻科長等会議	添田教授、内田教授	熊本高専・八代キャンパス（八代市平山新町）	11月21日～22日
	74	平成24年度九州沖縄地区国立高専 学生主事・寮務主事会議	山田教授、白神教授	久留米高専（久留米市小森野1丁目）	11月28日～29日
	75	九州沖縄地区高専テクノセンター長等会議	浜松教授	沖縄高専（沖縄県名護市辺野古）	11月29日～12月1日
	76	第2回中高連絡会	山田教授	築上町中央公民館（築城町大字高塚）	11月30日
	77	日本技術者教育認定機構（JABEE）審査講習会	福澤准教授	日本電気学会（千代田区五番町）	11月30日～12月1日
	78	2013九州環境教育ミーティングin鹿児島	矢野教授	NPO法人・くすのき自然館（姶良市平松）	12月7日～8日
	79	第22回九州沖縄地区高専フォーラム	入江教授、竹原教授	都城高専（都城市吉尾町）	12月7日～9日
	80	日本工学教育協会主催「国際的に通用する技術者教育 ワークショップ」	井上准教授、福澤准教授	芝浦工業大学豊洲キャンパス（江東区豊洲）	12月7日～9日
	81	教員対象原子力セミナー	宮内教授	学術総合センター（千代田区一ツ橋）	12月12日～14日
	82	PBLを活用した国際化教育と英語力の向上	白濱准教授	熊本高専・熊本キャンパス（合志市須屋）	12月14日
	83	平成24年度女性研究者研究交流会	乙部准教授	学術総合センター（千代田区一ツ橋）	12月15日
	84	第5回高専における設計教育高度化のための産学連携 ワークショップ	入江教授、滝本講師、 田淵助教	明石市産業交流センター（明石市大久保町）	12月15日～16日
	85	異文化理解と活用力育成に向けてのワークショップ	荒川准教授	熊本高専・熊本キャンパス（合志市須屋）	12月15日～16日
	86	平成24年度高専・技科大連携教員研究集会	加島教授	豊橋技術科学大学	12月25日～26日
	87	高専機構「情報担当者研修会」	脇山教授、桐本准教授、 松久保講師	国立オリンピック記念青少年総合センター（渋谷区代々木）	1月8日～11日
	88	内閣府主催： 交際相手からの暴力の予防啓発指導者のための研修	濱田准教授	東京ウィメンズプラザホール（渋谷区神宮前5丁目）	1月11日～14日
	89	化学工学会　企業と大学・高専の人材育成懇談会	後藤教授	JR博多シティ会議室（福岡市博多区博多駅中央街）	1月18日
	90	第6回全国高専英語プレゼンテーションコンテスト	山本教授、大谷教授	国立オリンピック記念青少年総合センター（渋谷区代々木）	1月25日～28日 2月8日～10日
	91	平成24年度九州沖縄男女共同参画推進事業 キックオフミーティング	宮内教授、横山准教授	大分高専（大分市牧）	2月1日～2日
	92	九経連国際委員会グローバル人材部会	寺井教授	九経連会議室（福岡市中央区渡辺通2丁目）	2月4日
	93	日本高専学会第15回連続シンポジウム「高専の高度化を [illegible]」	内田教授	神戸研究学園都市・ユニティ（神戸市西区学園西町1丁目）	2月9日
	94	日本工学教育協会主催第7回ワークショップ 「エンジニアリング・デザイン教育」	小清水准教授、楠田講師	工学院大学・新宿キャンパス	2月12日～13日
	95	平成24年度セキュリティセミナー	脇山教授	文部科学省・東館（千代田区霞が関三丁目）	2月13日～14日
	96	産学連携に関する実践セミナー	太屋岡准教授	キャンパス・イノベーションセンター東京（東京都港区芝浦）	2月27日～28日
	97	2013九州環境教育ミーティングin鹿児島	矢野教授	アーバンポートホテル鹿児島（鹿児島市小川町）	3月1日～3日
	98	KPEC・北九州地域産業人材育成フォーラム 「第3回産業人材育成セミナー＆産学交流会」	添田教授、浜松教授、 内田教授、乙部准教授、 秋本准教授、 松本教育コーディネータ	北九州国際会議場（北九州市小倉北区浅野）	3月11日
	99	原子力人材育成事業フォーラム	中村教授	学術総合センター（千代田区一ツ橋）	3月12日～14日
	100	英語語学研修視察	大谷教授	英国カンタベリークライストチャーチ	3月12日～19日
	101	中国地区8高専連携・高専教育力向上プロジェクト	矢野教授	ピュアリティまきび（岡山市北区下石井）	3月23日～24日
	102	全国高専女子フォーラム	内田教授	学術総合センター（千代田区一ツ橋）	3月26日
	103	高専機構・男女共同参画推進協議会	内田教授	学術総合センター（千代田区一ツ橋）	3月27日
	104	九州沖縄9高専連携事業に関する委員会・専門部会、 海外訪問調査	塚本校長、古畑事務部長、 寺井教授、白神教授、 内田教授、松嶋教授、 大谷教授、安信教授、 島川准教授、久池井准教授、 八嶋准教授、安部准教授、 滝本准教授、磯崎講師、 北園助教、大川原助教	熊本高専・熊本キャンパス（合志市須屋）、 鹿児島高専（霧島市隼人町）、大分高専（大分市牧）、 九州経済連合会（福岡市中央区渡辺通2丁目） ＜海外訪問＞ ◎シンガポール：ナンヤンポリテク、ニーヤンポリテク、リパブリックポリテク、シンガポールポリテク、テマセクポリテク ◎タイ：カセサート大学、チュラロンコン大学、キングモンクット工科大学 ◎香港：香港IVE ◎インドネシア：ガジャマダ大学、スラバヤ電子工学ポリテクニク、日本大使館、現地企業 ◎台湾：台北科技大学、中州科技大学 ◎マレーシア：ペトロナス工科大学、マレーシア工科大学	8月20日、 11月27日～28日、 12月18日、 12月27日、1月8日、 1月16日、1月18日、 1月23日、2月1日 海外訪問：2月、3月
FDに関する資料等配布	1	メンタルヘルス相談窓口設置	安全衛生委員会	メンタルヘルス相談窓口を安全衛生委員会のホームページに掲載したことの全教職員への連絡	5月21日
	2	特別支援の手引き	学生相談室委員会	発達障害をもつ学生に対する「特別支援の手引き（平成22年度版）」の内容を吟味の上更新中で、H23年度同様、全教職員へのメール配信・学内専用ホームページ掲載を行う予定	随時
	3	学級担任支援マニュアル（冊子・電子ファイル）	教務委員会	「学級担任のための手引き」の記載内容を確認・更新し、H24年度の学科長・担任、新任教員に冊子を配付	3月末

（出典　北九州工業高等専門学校ウェブサイト　FD 委員会活動より）

（１）講演会・研修会等

学内だけでなく学外からも専門講師を招聘し，幅広い視点から講演会・研修会等を行っており，多くの教職員が参加している（資料９－２－①－４）。また，教員個々においても外部セミナー，研究集会，福岡県教育委員会主催の専門講座等に積極的に参加し，資質の向上に努めている（資料９－２－①－３（その３～５））。

資料９－２－①－４

FD講演会･研修会参加実績

2013.3.25現在

年度	開催日	講演題目	参加人数	担当
21	9月15日	情報セキュリティー本校の現状と今後ー	46名	ITセンター専門委員会
21	12月8日	いじめを見抜く目。解決する力。	77名	人権教育推進委員会
21	3月17日	教育･学生指導の法的諸問題について	49名	教務委員会
22	9月16日	組織活性のためのメンタルヘルス対策～ストレスへの理解と気づきを深める	94名	安全衛生委員会
22	12月6日	知的財産に関する講演会	67名	知的財産委員会
22	12月8日	ハラスメントのない学校づくりについて	91名	人権教育推進委員会
23	12月5日	知的財産に関する講演会	56名	知的財産委員会
23	12月6日	今、人権教育･啓発に求められること	69名	人権教育推進委員会
23	12月6日	心の健康づくり～セルフケア･自らができること～	79名	安全衛生委員会
23	12月10日	大学等職員が特許出願することの意義～研究段階におけるテーマの出口志向への視点～	20名	知的財産委員会
24		知的財産に関する講演会	56名	知的財産委員会
24	12月3日	発達障害の理解について	51名	学生相談室委員会
24	11月30日	情報セキュリティ対策の重要性と関連規則	59名	ITセンター専門委員会
24	12月5日	心の健康と生活習慣	65名	安全衛生委員会
24	2月15日	学生のやる気を育てる本物体験活動～いじめ、体罰について考える～	63名	人権教育推進委員会

（出典　総務課資料より）

（２）アンケート活動

授業アンケートは学内公開されており，「教員の授業改善に対する姿勢」の結果（訪問時閲覧資料）から考えると，ほとんどの授業において記述式アンケートあるいはヒアリングが早期に行われ，授業期間内に意見に対する改善が行われている。達成度アンケートでは，教育目的，教育目標（特に教育目標Ｅコミュニケーション）の理解度があまり良くないことから，途中経過での自己評価アンケートの実施や，正規開講科目と国際交流活動等との連携による改善が FD 専門部会で提案されている（訪問時閲覧資料）。また，企業アンケートや卒業生アンケート（JABEE・認証評価委員会担当）の結果やグローバル化対応等の理由から，準学士課程に中国語と韓国語の授業（資料９－２－①－５），専攻科課程に外国人講師が担当する英語による専門授業が導入された。この英語専門授業の状況は専攻科委員会で把握され，改善されるようになっている（資料９－２－①－６）。

資料９－２－①－５

科目間連絡会議（第二外国語）議事要録

日時・場所：平成２０年７月３０日（水）　１５：００～１６：１０　　２階会議室
出　席　者：（M）入江、内田　（E）猪俣、油谷　（D）吉野、白濱　（S）寺井、安信　（C）山本
（総合）赤毛、山本、大谷、安部、倉富、白神（司会）

司会者からの趣旨説明の後、各委員から下記の意見が出された。

趣旨説明

これまで３年次に必修科目として「ドイツ語」を開設してきたが、同科目担当者の赤毛教員が、Ｈ２１年度をもって定年退職となる。総合科学科では、Ｈ２２年度より「ドイツ語」にかえて「第二外国語選択科目」を新設する方向で検討を進めている。今のところ、３年生全学科に週２時間縦割りで時間を設け、混合クラス形式で韓国語、中国語などを含む複数の外国語授業を実施することを考えている。

手続きとしては、総合科学科のカリキュラム変更案を教務委員会に提出して議論していただくことになるが、変更案作成前に専門学科、総合科学科の先生方より多方面からのご意見をいただき、変更案に反映させたい。

各委員からの意見

１）第二外国語選択科目導入の是非について

○ＪＡＢＥＥや中期計画で、アジア言語を含む第二外国語の導入を謳っている以上、やらなければならないのではないか。
○かといって、必ずしもこれらに縛られる必要もないのではないか。
○技術者としては、仕事という面では英語さえしっかりできれば十分である。ただ、たとえば韓国へ行って街の看板を見ても読めない。せめて、そういうものを読むことができるようになって、その国の文化の一端に触れさせることができれば、と思う。
○本校では毎年、マレーシアなどから留学生が来ている。科目導入によって、彼らとのコミュニケーションを深めることができればいい。
○今後の北九州という視点ではアジアとのつながりが重要で、アジア系言語の導入は欠かせない。仕事の面では英語だが、生活圏レベルのコミュニケーションとなると英語ではだめである。生活圏レベルでのコミュニケーションをフォローアップする科目の新設が期待される。
○第二外国語の文法を学ぶことに大きな意義がある。プログラミングも文法であり、文法を学び理解する能力を養うが重要である。また、言語が異なる文化的な背景を考えながら学ぶことも大事である。
○英語だけじゃないよ、ということを教えることは大切である。

２）選択科目の選択肢として何語を取り入れるべきかについて

○１つはヨーロッパ系の言語を入れるべきである。
○ドイツ語は講師が探しやすい。
○日本海側の高専ではロシア語が導入されている。
○現実的に考えると、中・韓・独あたりでスタートさせてはどうか。

（出典　科目間連絡会議議事要録より）

資料９－２－①－６

平成２３年度第８回専攻科委員会　議事要録

１．開 催 日　　平成２３年１２月　７日(水)　１４：０９～１５：３６
２．場　　所　　管理棟１階 会議室
３．参 加 者　　松嶋、入江、開道、添田、山内、前田、山本(一)、宮内、安倍
４．欠 席 者　　後藤　　(学生課長補佐…佐々木、教務係…松雪(し)、坂東)

５．報告事項
（１）「英語(外国人講師)による専門授業」について
委員長から、私語や居眠りなどをしている学生に対してその場にいる先生に指導していただくよう、委員に要請があった。
委員長の指示により山内委員から、昨年度に続き今年度も授業を行ったベーナディ先生(11/17・24)から「昨年度に比べて学生の英語力が上がっているのではないか」「こちらからの問いかけに対してうなづく学生が増えている」などの感想があったこと、資料１(外国人による英語の授業　日程一覧／学年別講義予定表)に基づき、コッペン先生の日程は調整中であることが報告された。
続いて添田委員から、ゴドレル先生(11/21・12/1)は日本語も達者で、気になる学生(の態度)には日本語で話しかけられていたことなどが報告された。

(出典　専攻科委員会議事要録より抜粋)

（３）公開授業，授業見学

授業終了後に実施教員と聴講した教員との意見交換を行い，教授技術等について実施教員にフィードバックするようになっている。公開授業で改善された授業内容等について資料９－２－①－７に示す。

資料９－２－①－７

公開授業をやったことで（また、他教員と意見交換したことで)、その後の授業実施に反映したこと・注意するようになったこと・公開授業前後で変わったこと等

・第１回目の公開授業で指摘していただいた出席の取り方については、ご指導の通り１人ずつ名前を呼ぶ通常の方法をとるよう変更させていただきました。
・板書の文字の濃さや声の大きさ等は、公開授業を機に常に気をつけています。
また、公開前に比べて、可能な限り学生の反応を確認（質問）して授業を進めるようになったと思います。
・大学のような一方的な講義をしており、学生の理解度等を確認できていなかったので、学生への問いかけのタイミングを増やし、理解度を確認しながら進行するようことを意識するようになりました。
・遅刻や居眠りの学生は、その行いが成績に反映されるので、放任していたが、それは、良くないとの意見をいただいたので、生成を放任せず、適宜注意するようになりました。
・教科書の内容を中心に板書していたため、内容を噛み砕き、教科書以外の表現で板書するのを意識するようになりました。
・移動教室なので号令を省略していたが、行うようにした。
・授業の最後は演習を与え、時間を見て提出した学生から解散させていたが、号令を行うために、早く終わった学生も最後まで残すようにした。
・演習を積極的に行わせるために、今年度から演習を成績の評価に加えるようにした。
・「説明をする」ことよりも「学生を見る」ことに力を入れるようにしました。ついていけていない、聞いていない学生に気づくようになりました。
・リラックスするようにしました。授業をしながら、「こういう説明を加えよう、この説明は省略しよう、今日はここまでにして、次の授業はこうしよう」などと、学生の反応に応じて柔軟に進めるようになりました。
・「日本の良い所を学生自身が見つける授業」へと変化させました。教師の説明を減らしました。
・学生から出た意見を黒板に簡単にメモしておくとよいのではないか、という意見をいただき、それを取り入れるようにした。
・公開授業ということで教室の整理を学生に注意したが、普段の授業でも整理整頓を注意することが増えたと考える。
・学生の安全管理に、さらに注意をはらうようになった。
・学生の動機づけを重視するようになった。
・自分の学生に対する態度を改めた。
・学生の理解度チェックのためにも学生への問いかけの頻度を上げるように心がけるようになりました。
・板書の量が多く、視覚的に分かりにくいところがあるとの意見をいただきましたので、パワーポイント等を用いるなどして、板書の量を削減する方法を検討するようになりました。
・一方的に長く説明してから演習をさせるのではなくて、なるべく少し説明してすぐ演習をさせてその結果を確認する、といったサイクルを繰り返すような進め方を心がけている。
・教員が説明しながら同時にＴＡの学生にパソコンを操作してもらい、説明と実演を同時にやるような授業方法も取り入れるようにした。
・学生への演習の指示の仕方について、例えば、「興味ある人はやってみて」や「できるところまでででも良い」のような指示では誰もやらなくなるので、やらせるべきときは全学生にきっちりやらせるような指示にすべき、という注意を頂いた。確かにその通りだと納得したので、次の授業からは期限までに全員に提出させるようにした。
・「学生の理解のスピードを確認しながら、板書や説明を進めていたこと」、「２時間連続授業の途中に小休憩を入れ、学生の質問に対応したこと」などのご意見を頂いて、「自分の授業の進め方でいいんだ」ということを認識し、以降の授業でもそのように心がけるようになりました。
・スライドの文字を大きく表示するようにした。
・課題ができた者から解散させていたが、全員で終わりの号令をかけてから授業を終わるようにした。
・電算機室で個々のパソコンの画面を監視しながら授業を行うようにした。

（出典　平成 22，23，24 年度　公開授業報告書より抜粋）

（４）授業科目の連絡会議

一般科目と専門学科との科目間連絡会議及び複数学科にわたる共通分野科目の連絡会議，専攻科の専攻内連絡会議を開催し，授業内容や教授法等に関する検討や改善につなげている（資料９－２－①－８，９）。

資料９－２－①－８

科目間連絡会議（社会）議事録

日　時：平成２５年３月４日（月）１３時３０分～１５時００分
場　所：２階会議室
出席者：M：入江先生（15：30 所用で退出）、小清水先生
　　E：福澤先生、仙波先生
　　D：秋本先生、白濱先生
　　S：（久地井先生）古野先生、松尾先生
　　C：井上先生、前田先生
　総合（社会）：白神先生、安部先生、廣瀬先生、荒川　　（15 名）

司会：安部先生
１、社会科からの現状説明【各教科担当】
昨年度、専門の先生から要望のあった実施時期については、今年度は前期期末に関してはＩＳＡＴＥで多忙であったこと、後期中間でも研修が入っていたためにこの日程になってしまったことが挙げられた。

・カリキュラム編成・担当教員について
白神・荒川・廣瀬・安部先生の順で、各カリキュラムに関する説明が行われた。

（中　略）

２、質疑（各専門学科の先生方からの質問、要望）
（井上先生）
（要望）
５年生の学生と話していた時に１つ話していたのは、社会選択の科目によって評価の方法がバラバラである。評価基準、評価方法（試験・レポートなど）を統一することも考えていただきたい。
→社会科としては統一しておかなければならないという意見は出ていない。授業方法の仕方によってそれは変わるからである。ただ評価の点の統一に関して各教科の平均が１５点から１０点というように年を経るごとで少しずつその差は縮まってきている。

（前田先生）
（要望）
知っておかなければならない知識、即ち本来１８歳、２０歳の学生が知っている知識は教えていくという方向でお願いしたい。
→現在、検定教科書の使用を今年度からは地理・日本文化論・歴史において使う形になっている。ただ、社会科の時間数に限りがあり、時間数も増える予定が無いために全てを教えていくというのは物理的に無理がある。

（出典　科目間連絡会議（社会）議事録より一部抜粋）

資料９－２－①－９

平成 25 年 1 月 15 日（火）

平成 24 年度　専攻科制御工学専攻連絡会議　議事要録

日時・場所；平成 25 年 1 月 11 日（金）16：00～17：00　4 号館 1 階合併講義室
出席者　；（電子制御）宮崎，吉野，太屋岡，白濱，井田，北園，十時，添田（進行）
；（制御情報）浜松，寺井，久池井，古野，松尾，安信（記録）

協議に先立ち，添田専攻科主事補より本連絡会議の趣旨について，説明がなされた。
また，添田専攻科主事補の進行により以下の協議事項について協議した。

協議内容

（1）制御工学専攻特別研究公開発表会について

資料1に基づき，添田主事補より電子制御と制御情報に分かれて制御工学専攻特別研究公開発表会を開催するが，学外の参加者の便を図り，同一の建屋内に会場を確保し，同時刻開始とする旨の説明がなされ，協議を行った。その結果，開催方針に異論はなく，今年度の実施結果で特に問題がなければ，次年度も同一の方針とすることを確認した。

（2）専攻科改組の状況について

添田主事補より，下記事項に沿って専攻科改組の検討状況について口頭説明がなされた。

・1専攻4コースとし，平成27年4月開始を目指して今年の夏までに改組案を固める。
・他分野の専門科目の学習も可能とするクロスしたコース設定を取り入れ，さらに情報系コースを新たに設置する。（ただし，情報工学科とは異なる。また，学位授与の審査を考慮したコース設定とする。）
・定員は1専攻30名としているが，28名あるいは32名（4の倍数値）とする意見もある。
・選択科目群から選択する科目をコースで分ける。（科目の選択パターンを4種設定し，コースとする。）
・専門基礎科目と専門選択科目の設定についても検討する。
・複合工学実験の見直しが始まっており，PBL，デザイン，複合融合についても検討予定である。
・本科4，5年での専攻科への接続を考えたカリキュラムについても検討する。

その後，上記の事項を中心に専攻科改組について協議し，以下の補足や意見が出された。また，引き続き，各学科でも検討を行い，必要に応じて専攻科委員会などに意見を出すようにした。

・改組は専攻科だけでよいのか。本科から考える必要はないか。
・4コースについては機械系，電気電子系，情報系，化学系分野が想定され，情報系コースについては松嶋専攻科主事がカリキュラム等検討WGを設定している。
・コースが授業科目のグループとの定義なら，情報系でよいと思う。また，先生の所属がコースと異なってもよい。
・学生の所属は専攻となるが，就職の際は専攻名+コース名となるのか。
・コース名まで出すと企業側が混乱しないか。（情報系コースは情報工学科と取られる可能性がある。）
・地域のニーズとして情報系分野があるなら，コース名を提示した方がよい。ただし，名称は検討が必要。
・改組の目的としては，出口戦略として高度化のための改組と考えられる。
・コースで分けた方がよいが，学位授与審査が懸念される。
・本科は現状の5学科体制での高度化，専攻科は改組を目指しており，企業側から見ればわかりにくく，求人などで混乱が生じないか。

（3）学生の状況について

・追加配布資料に基づき，電子制御の宮崎学科長より電子制御コースの専攻科生の進路状況について説明があり，添田主事補より成績や出席状況について口頭での補足説明がなされた。また，制御情報の浜松学科長より制御情報コースの専攻科生の状況説明がなされた。
・両コースとも，欠課時間が多い，学位授与レポート未提出などの継続的な指導が必要な学生がいる。

（4）その他

・時間不足のため，学習教育目標と制御工学専攻の育てるべき人物像については資料2を確認の上，意見があれば主事補に連絡し，特別研究と輪講についても意見があれば同様に連絡することにした。また，必要ならば第2回を計画する。

（出典　　専攻科制御工学専攻連絡会議　議事要録より）

（５）マニュアル等の作成・配布

学級担任支援マニュアル，特別支援の手引き等が，各担当委員会（資料９－２－①－３（その５））から全教員に連絡あるいは配布され，教育の質の向上や情報の共有化を図っている。学級担任支援マニュアルは毎年内容の確認・更新が行われている（資料９－２－①－10）。

資料９－２－①－10

学級担任支援マニュアル

－　目　次　－

頁

０．まえがき　・・・・・・・・・・・・・・・・・・　1

１．担任が関わる年間行事　・・・・・・・・・・・・　2 ～ 5

２．新年度はじめの行事など　・・・・・・・・・・・　6 ～ 8

３．担任の日常のしごと　・・・・・・・・・・・・・　10

４．奨学金・授業料の減免希望、授業料未納　・・・・　11 ～ 12

５．休学・退学・進路変更　・・・・・・・・・・・・　13 ～ 14

６．事故、トラブル・緊急時の対応　・・・・・・・・　15 ～ 18

７．忌引きおよび公欠の取り扱い　・・・・・・・・・　19

８．保護者懇談会の取り組み　・・・・・・・・・・・　20

９．問題を抱えた学生への対応　・・・・・・・・・・　21

10．定期試験前後の取り組み　・・・・・・・・・・・　22 ～ 23

11．長期休暇前後の取り組み　・・・・・・・・・・・　24

12．学年末の取り組み　・・・・・・・・・・・・・・　25

13．学生寮に関する担任の仕事　・・・・・・・・・・　26

14．特別活動の取り組み　・・・・・・・・・・・・・　27 ～ 28

※ 提出書類の様式などは学内 Web 上に保存されていますので、
適宜ご利用ください。

（出典　学級担任支援マニュアルより）

（６）FD活動に基づく取組

社会的なニーズや校長・主事会議の主導により，FD活動の一環として，準学士課程の長期学外実習や，専攻科課程の産学官連携共同教育（専攻科特論Ⅱ，Ⅲ及びⅣ），複合工学実験が導入された。また，教育の多様化に対応した時間を確保するために，１～５年生までの授業を１日あたり平均７時限となるようにした（資料９－２－①－11）。

資料９－２－①－11

平成２１年度第７回運営委員会議事要録

日　　時　　平成２１年１１月１９日(木)　１５:３０～１７：３０
場　　所　　管理棟２階会議室
出 席 者　　塚本校長、添田教務主事、中山寮務主事、笠間専攻科主事、平島機械工学科長、開道電気電子工学科教授(小城電気電子工学科長代理)、眞舘電子制御工学科長、寺井制御情報工学科長（実習工場長），山田物質化学工学科長、木田総合科学科長(文科系)(広報委会委員長)、徳一総合科学科長（理科系）(図書館長)、宮内自己点検・自己評価委員会委員長、脇山ＩＴ教育総合情報センター長、大島事務部長
欠 席 者　　山田学生主事、吉野研究主事（地域共同テクノセンター長、予算委員会委員長）、浜松学生相談室長、
ｵﾌﾞｻﾞｰﾊﾞｰ　　山口総務課長、安倍学生課長、内山総務課課長補佐、小野総務課課長補佐
（記録：倉田、三好）

議事に先立ち、塚本校長から、運営委員会規則第４条第３項の規定により、委員の３分の２以上が出席していることから、本委員会が成立していることについて確認があった。

１　資料１に基づき、平成２１年度第６回運営委員会(１０月１５日開催)議事要録の確認が行なわれた。

２　議　事

[議　　題]

（１）学則(カリキュラム)の一部改正について
添田教務主事から、資料２「北九州業高等専門学校学則改正理由」ほかに基づき、７時限化に伴う機械工学科及び制御情報工学科のカリキュラムの改正について説明があり、審議の結果、特に意見もなく、原案どおり承認された。

（２）学生寮規則の一部改正について
塚本校長の指示により、山口総務課長から資料３「北九州工業高等専門学校学生寮規則の一部改正」に基づき説明があり、審議の結果、特に意見もなく、本日を施行日として原案どおり承認された。

平成２１年度第８回運営委員会議事要録

日　　時　　平成２１年１２月１７日(木)　１５:３０～１６：５５
場　　所　　管理棟２階会議室
出 席 者　　塚本校長、添田教務主事、山田学生主事、中山寮務主事、笠間専攻科主事、吉野研究主事（地域共同テクノセンター長、予算委員会委員長）、平島機械工学科長、小城電気電子工学科長、眞舘電子制御工学科長、寺井制御情報工学科長（実習工場長）、松嶋副物質化学工学科学科長（山田物質化学工学科長の代理）、木田総合科学科長(文科系)(広報委会委員長)、徳一総合科学科長（理科系）(図書館長)、宮内自己点検・自己評価委員会委員長、脇山ＩＴ教育総合情報センター長、浜松学生相談室長、大島事務部長
ｵﾌﾞｻﾞｰﾊﾞｰ　　山口総務課長、安倍学生課長、内山総務課課長補佐、小野総務課課長補佐
（記録：倉田、三好）

議事に先立ち、塚本校長から、運営委員会規則第４条第３項の規定により、委員の３分の２以上が出席していることから、本委員会が成立していることについて確認があった。

１　資料１に基づき、平成２１年度第７回運営委員会(１１月１９日開催)議事要録の確認が行なわれた。

２　議　事

[議　　題]

（１）学則の一部改正について
添田教務主事から、資料２「北九州業高等専門学校学則改正理由」に基づき、７時限化に伴う電気電子工学科、電子制御工学科及び物質化学工学科のカリキュラムの改正について説明があり、審議の結果、特に意見もなく、原案どおり承認された。

（出典　平成 21 年度第７，８回運営委員会議事要録より抜粋）

（分析結果とその根拠理由）

FD委員会を中心として組織的にFD活動が進められており，FDが全学的観点から適切な方法で実施されている。これらのFD活動は授業やカリキュラムの改善，教育の質の向上に結び付いていると判断できる。

観点９－２－②：　教育支援者等に対して、研修等、その資質の向上を図るための取組が適切に行われているか。

（観点に係る状況）

事務職員，技術職員等は学内で開催されるFD講習会・研修会に参加しており，教員と情報を共有している。また，業務内容に応じて学外研修会等にも積極的に参加しており，資質の向上を図っている（資料９－２－②－１）。事務職員は定期的に九州工業大学との人事交流も行っている。平成21年には教育研究支援室が設置され，これまで個別に依頼されていた技術支援が組織的に行われるようになり，技術職員による支援体制が強化された（資料９－２－②－２）。教育研究支援室からの支援は業務依頼書の提出によって行われるように改善され，業務完了後，依頼者からの報告によって業務内容の確認や見直しも行われるようになった（資料９－２－②－３）。技術職員は実験・実習等の支援だけでなく，科学研究費補助金に申請して自主的に奨励研究に取り組んでおり，技術のレベルアップに努めている（資料９－２－②－４）。教育研究支援室への業務依頼数は毎年顕著に増加しており，技術職員の資質や信頼度が向上していることが分かる（資料９－２－②－５）。

資料９－２－②－１

事務職員･技術職員研修参加一覧（Ｈ２３年度）

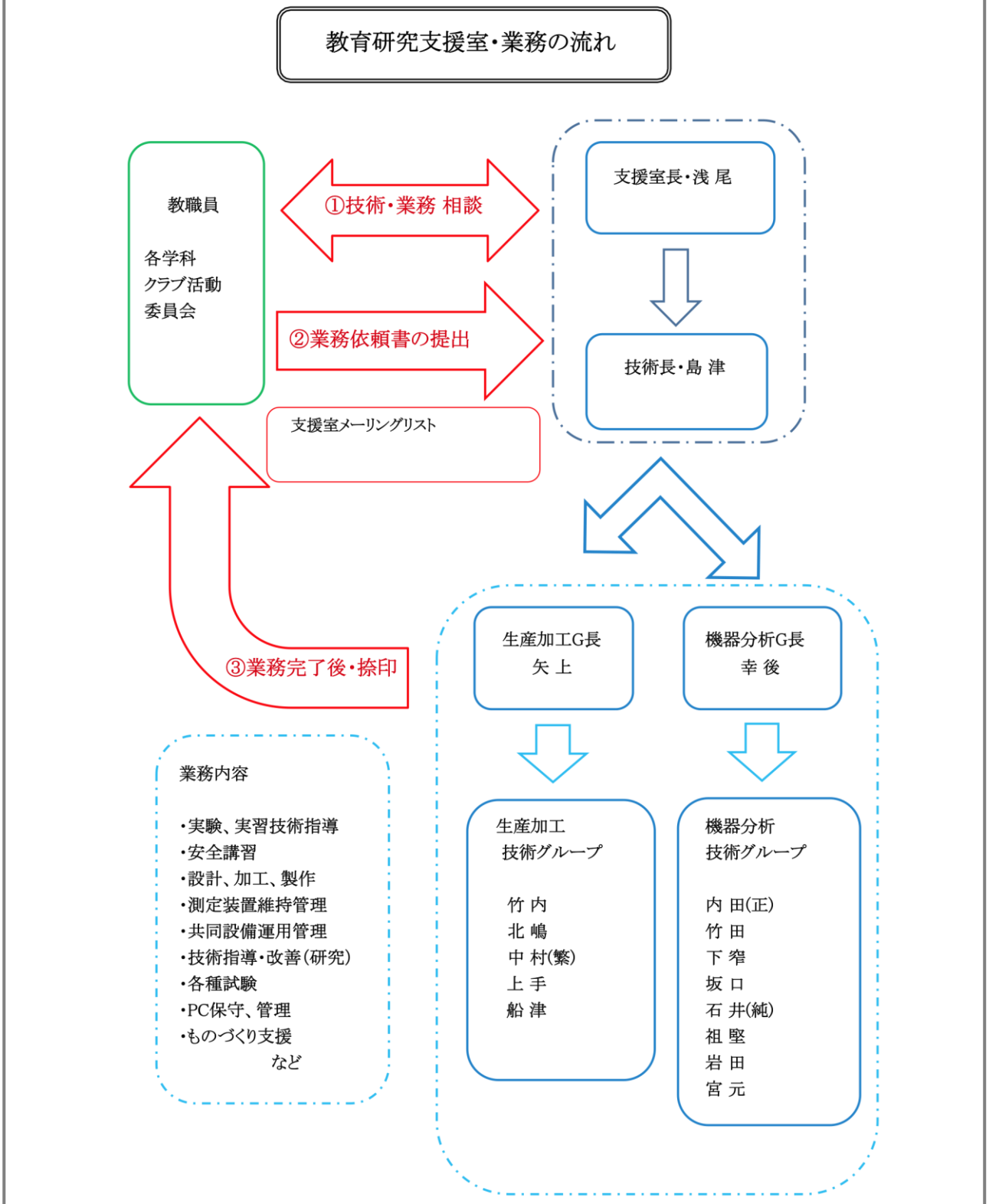
	研修名	研修期間	参加者		備考
			所属･職名	氏名	
1	北九州ブロック新入社員等人権問題研修会	H23.5.20 ～ H23.5.20	総務課長	岩永圭一郎	
2	衛生担当者初任研修会	H23.5.20 ～ H23.5.20	総務課人事係 人事主任	松村裕子	
3	安全衛生担当者初任研修会	H23.5.23 ～ H23.5.23	総務課人事係長	林田千鶴	
4	情報公開･個人情報保護制度の運用に関する研修会	H23.6.10 ～ H23.6.10	総務課長	岩永圭一郎	
5	独立行政法人国立高等専門学校機構初任職員研修会	H23.6.20 ～ H23.6.22	総務課施設係 技術職員	吉松 真	
6	独立行政法人国立高等専門学校機構初任職員研修会	H23.6.20 ～ H23.6.22	教育研究支援室 技術職員	祖堅 敬	
7	プレス機械による労働災害防止にかかる説明会	H23.6.29 ～ H23.6.29	教育研究支援室 技術専門職員	竹内幸二	
8	プレス機械による労働災害防止にかかる説明会	H23.6.29 ～ H23.6.29	教育研究支援室 技術専門職員	北嶋和進	
9	簿記研修（初級）	H23.7.25 ～ H23.7.29	総務課施設係 技術職員	吉松 真	
10	職場における腰痛予防対策 ～ピラティス･メソッドを用いた運動療法～	H23.8.4 ～ H23.8.4	教育研究支援室 技術専門職員	竹内幸二	
11	独立行政法人国立高等専門学校機構新任部課長研修会(課長の部)	H23.8.5 ～ H23.8.5	総務課長	岩永圭一郎	
12	安全管理者選任時研修	H23.8.8 ～ H23.8.9	総務課長	岩永圭一郎	
13	九州沖縄地区国立高等専門学校事務系職員研修(人事系)	H23.8.18 ～ H23.8.19	総務課人事係長	林田千鶴	
14	九州沖縄地区国立高等専門学校事務系職員研修(財務･経理系)	H23.8.18 ～ H23.8.19	総務課財務係 財務主任	後藤知恵子	
15	九州沖縄地区国立高等専門学校事務系職員研修(教務･入試系)	H23.8.18 ～ H23.8.19	学生課教務係 教務主任	坂東政一郎	
16	九州沖縄地区国立高等専門学校事務系職員研修(図書系)	H23.8.18 ～ H23.8.19	学生課図書係長	泉 千里	
17	国立高等専門学校機構IT担当研修会	H23.8.18 ～ H23.8.19	教育研究支援室 技術専門職員	石井純子	
18	九州地区学生指導研修会	H23.8.24 ～ H23.8.26	学生課学生係長	増田 徹	
19	西日本地域高専技術職員特別研修会(物質系)	H23.8.24 ～ H23.8.26	教育研究支援室 技術専門職員	幸後壽彦	
20	九州沖縄地区国立高等専門学校技術職員研修(機械系)	H23.8.31 ～ H23.9.2	教育研究支援室 技術専門職員	北嶋和進	
21	西日本地区国立高専初級人事事務研修	H23.9.7 ～ H23.9.9	総務課人事係 人事主任	三好利果	
22	西日本地区国立高専初級人事事務研修	H23.9.7 ～ H23.9.9	総務課人事係 人事主任	松村裕子	
23	九州地区国立大学法人等技術職員スキルアップ研修	H23.9.7 ～ H23.9.9	教育研究支援室 技術長	島津公紀	
24	福岡地区3高専事務職員(主任級)研修会	H23.9.13 ～ H23.9.13	総務課財務係 財務主任	後藤知恵子	
25	福岡地区3高専事務職員(主任級)研修会	H23.9.13 ～ H23.9.13	総務課人事係 人事主任	三好利果	
26	福岡地区3高専事務職員(主任級)研修会	H23.9.13 ～ H23.9.13	総務課人事係 人事主任	松村裕子	
27	福岡地区3高専事務職員(主任級)研修会	H23.9.13 ～ H23.9.13	学生課教務係 教務主任	坂東政一郎	
28	国における人事制度等に関する説明会	H23.9.26 ～ H23.9.26	事務部長	北原豊吉	
29	第49回政府関係法人会計事務職員研修	H23.10.3 ～ H23.11.18	総務課財務係 一般職員	辻本卓司	
30	九州地区国立大学法人等テーマ別研修(折衝･調整力研修)	H23.10.5 ～ H23.10.5	学生課教務係 教務主任	西尾清美	
31	九州地区国立大学法人等テーマ別研修(タイムマネジメント研修)	H23.10.6 ～ H23.10.6	総務課人事係長	林田千鶴	
32	九州地区国立大学法人等テーマ別研修(リスクマネジメント研修)	H23.10.7 ～ H23.10.7	総務課人事係長	林田千鶴	
33	心の健康づくり	H23.10.27 ～ H23.10.27	総務課人事係 人事主任	松村裕子	
34	職場復帰支援(1)支援のポイント	H23.10.28 ～ H23.10.28	総務課長	岩永圭一郎	
35	西日本地区国立高等専門学校実務担当者勉強会～人事事務(中級)勉強会～	H23.11.7 ～ H23.11.8	総務課人事係長	林田千鶴	
36	契約事務研修	H23.11.14 ～ H23.11.16	総務課契約係長	松雪喜次	
37	新任課長補佐･係長研修	H23.11.17 ～ H23.11.18	学生課課長補佐	佐々木栄司	
38	新任課長補佐･係長研修	H23.11.17 ～ H23.11.18	総務課課長補佐	林田繁人	
39	新任課長補佐･係長研修	H23.11.17 ～ H23.11.18	総務課人事係長	林田千鶴	
40	新任課長補佐･係長研修	H23.11.17 ～ H23.11.18	総務課施設係長	岩橋道宏	
41	省エネルギー対策に関する研修会	H23.11.18 ～ H23.11.18	総務課施設係 技術職員	吉松 真	
42	公正採用選考人権啓発推進員研修会	H23.11.25 ～ H23.11.25	総務課長	岩永圭一郎	
43	学務関係職員研修会	H23.12.8 ～ H23.12.9	学生課教務係長	松雪しづ	
44	職場復帰支援(2)再療養を繰り返す社(職)員への対応	H23.12.9 ～ H23.12.9	総務課長	岩永圭一郎	
45	メンタルヘルス不調者への健康配慮義務とは？	H24.2.2 ～ H24.2.2	総務課人事係長	林田千鶴	
46	健康診断実施後に行うべきこと～指針のポイントと企業での実際の対応事例～	H24.2.6 ～ H24.2.6	総務課人事係 人事主任	松村裕子	

助手研修等参加一覧（Ｈ２３年度）

	研修名	研修期間	参加者		備考
			所属･職名	氏名	
1	崇城大学エネルギーエレクトロニクス研究所セミナー	H23.10.20 ～ H23.10.20	電気電子工学科･助手	二宮 慶	会場 崇城大学
2	電子情報通信学会 電気通信エネルギー技術研究会	H24.1.26 ～ H24.1.26	電気電子工学科･助手	二宮 慶	会場 長崎大学

（出典　総務課資料より）

資料９－２－②－２



（出典　教育研究支援室資料より）

資料９－２－②－３

（第１号様式）

整理番号	

支援室長	技術長	グループ長	担当者

受付日	平成　年　月　日
決済日	平成　年　月　日

教育研究支援室長　殿

業　務　依　頼　書

平成 21 年 ○ 月 ○ 日

所　属　○○工学科
依頼者氏名　高専　太郎
電話番号　内線 ○○○○

依頼者本人氏名または、授業担当者氏名、電話番号（内線）を記入します。

下記業務について技術支援を依頼したいので，よろしくお願いします。

依頼先グループ	人数 3 人	番号 1	1 機械系グループ 2 電気・物質系グループ 3 指定なし	
	希望担当者（北九州　太郎、福岡　次郎、九州　三郎　）			
業務区分	番号		1 教育支援（実験・実習） 2 研究支援（卒業研究） 3 地域連携支援 4 ものづくり支援 5 学校行事（　）	
			6 その他（　）	
業務内容	番号 1	1．前期 2．後期 3．通年	月 曜日 5 時限 ー 8 時限	
	自	平成 21 年 4 月 1 日		
	至	平成 21 年 9 月 30 日		
	※参考資料、図面等がありましたら添付してください。			
備　考				

※業務依頼書はメールにて提出してください。送付先：教育研究支援室

依頼先グループの番号を記入します。

担当者の指定はこの欄に名前を記入します。

業務区分の番号を記入します。

学校行事の内容を記入します。

作業依頼期間番号、曜日、時限を記入します。

作業依頼期間を記入します。
製作完成期限もこちらに記入します。
至期限がとくにないときは未記入でかまいませんが、年度末の期限です。

業務完了確認欄

業務完了日
平成　年　月　日

業務担当者
（　）

業務内容
1 業務依頼のとおり
2 ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

確　認

（出典　北九州工業高等専門学校ウェブサイト　教育研究支援室より）

資料９－２－②－４

科学研究費補助金(奨励研究)申請・採択状況

年度	申請件数	採択件数	採択者　/　課題名
24	0	0	
23	3	1	島津　公紀：パッシブ制御を用いた管内流れにおけるマイクロバブルの高効率的移送技術の開発
22	4	0	
21	3	1	島津　公紀：帯電特性を利用した浮遊マイクロバブルの捕獲固定化に関する先進技術の開発
20	4	2	島津　公紀：マイクロバブルによる光の散乱効果を利用した可視化技術に基く流動現象呈示装置の開発 石井　純子：人工現実感VR空間モデルの生成とパラレルマニピュレータの双方向協調制御

（出典　教育研究支援室　科研費申請・採択状況より）

資料９－２－②－５

教育研究支援室　業務依頼実績

年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
依頼件数	86	151	183

（出典　教育研究支援室資料より作成）

（分析結果とその根拠理由）

事務職員や技術職員，助手は学内で行われている講習会・研修会だけでなく，学外で行われている研修会等にも積極的に参加している。教育研究支援室では業務内容を改善する仕組みが作られており，技術職員は技術のレベルアップにも努めている。また，教育研究支援室への業務依頼数も毎年顕著に増加している。従って，教育支援者等に対して研修等，その資質の向上を図るための取組が適切に行われ，資質の向上に結びついていると考えられる。

（２）優れた点及び改善を要する点

（優れた点）

・教育活動の実態を表す資料を収集・蓄積・点検するための各種アンケートによるシステム的な取組が行われており，具体的な改善に繋がっている。
・授業アンケートは，記述式とマークシートの２回が実施されており，年度内または次年度の授業改善に役立てている。
・公開授業を実施した教員へのアンケートを実施しており，感想，改善の具体例等が報告され，公開授業の効果を確認している。
・授業アンケート結果は，全教職員及び全学生に開示されている。
・１～３年生の学級担任は，特別活動の計画書及び報告書を作成している。
・教員の研究活動は活発に行われており，教育の質の向上に活かされている。また，学生の学術賞の受賞や産学連携フェアでの研究発表等，学生の研究に対するモチベーションの向上に役立っている。
・FD活動をより強化するために，福岡県教育委員会との連携を図っている。
・各種アンケート結果に基づいて，準学士課程における中国語や韓国語の導入，専攻科課程における外国人講師による英語専門授業の導入を行った。
・教育の多様化に対応した時間を確保するために，１～５年生までの授業を１日あたり平均７時限となるようにした。
・準学士課程の長期学外実習や，専攻科課程の産学官連携共同教育（専攻科特論Ⅱ，Ⅲ及びⅣ），複合工学実験といったカリキュラムを導入した。
・教育研究支援室による組織的な技術支援体制が取られており，その業務内容も改善されるようになっている。

（改善を要する点）

該当なし

（３）基準９の自己評価の概要

FD委員会を中心として，各種アンケート，公開授業や授業見学の報告書等の教育活動の実態を示すデータや資料が適切に収集・蓄積されている。また，各委員会においても，教育の状況が適切に評価できる組織的体制が整備されている。

学生，保護者，卒業生・修了生等の意見を聴取するため各種アンケートや学外有識者の意見を聴取するための運営協議会が実施されており，点検改善システムに基づいて点検・評価が行われている。

教員による研究活動，共同・受託研究が活発に行われており，卒業研究や専攻科特別研究を通じて学生の教育に活かされて，学生の研究発表や学術賞受賞等に結び付いている。教育方法に関する研究も盛んであり，その成果が授業内容に活かされている。

FD活動はFD委員会が毎年活動を計画し，各委員会に依頼することによって組織的に行われている。また， FD活動は本校ウェブサイトでも公開されており，内容は随時各担当委員会で見直されている。各教員は授業アンケートや意見交換会等に基づいて継続的に授業の工夫を行っており，FD活動は授業やカリキュラムの改善，教育の質の向上に結び付いていると判断できる。

また，事務職員，技術職員等の教育支援者に対しても学内・学外の研修会等，その資質の向上を図

るための取組が適切に行われている。

基準10　財務

（１）観点ごとの分析

観点10－１－①：　学校の目的に沿った教育研究活動を安定して遂行できる資産を有しているか。また、債務が過大ではないか。

（観点に係る状況）

平成 16 年度の法人化に伴って国から承継された土地及び建物・設備等に加え，運営費交付金等で取得した建物・設備等を資産として有している。平成 23 年度末現在における資産の現在額及び保有状況は，財産額一覧及び施設の概要の通りである（資料 10－１－①－１，２）。

また，債務の状況については，平成 19～23 年度の貸借対照表（資料 10－１－①－３～７）の通りである。

資料 10－１－①－１

財 産 額 一 覧

（単位:円）

財　産	不動産	土　地	102,803.95㎡ 5,474,900,000
		樹　木	1,201本 13,235,700
		建/延べ	16,193㎡／30,936㎡
		建　物	3,023,218,796
		工作物	235件 197,156,415
	動　産	車両･運搬具	2件 3,233,078
		工具･器具	260件 737,355,147
		ソフトウェア	2件 4,478,114
		その他の物品	0件

（出典　総務課資料）

資料 10－１－①－２

施設の概要
Facilities

土　地 Land

区分 Classification	校舎・寄宿舎敷地 College Buildings and Dormitories Area					職員宿舎 Personnel Housing
	校舎敷地 College Buildings Area	寄宿舎敷地 Dormitories Area	運動場敷地 Ground Area	その他 Others	計 Total	敷地 Area
面積 Area	46,524m²	12,622m²	28,281m²	8,070m²	95,497m²	7,306m²

建　物 Buildings

	名　称 Gross	構　造 Floor	延面積 Space	備　考 Notes
校舎等 Buildings	管理棟 Administration Office Building	R2	794m²	昭42.3
	1号館 Building No.1	R4	2,580m²	昭42.3
	2号館 Building No.2	R2	561m²	昭43.3 昭49.3
	3号館 Building No.3	R3	3,154m²	昭42.3 昭43.3
	4号館 Building No.4	R5	2,252m²	昭63.10
	5号館 Building No.5	R5	1,163m²	平 9.12
	6号館 Building No.6	R3	1,503m²	昭46.3 昭55.3
	7号館 Building No.7	R3	1,643m²	昭46.3
	8号館 Building No.8	R1 S＋2	1,334m²	昭48.3 平 4.3
	第1工場 The first factory	R1	1,352m²	昭42.3 昭43.3
	第2工場 The second factory	R1	408m²	昭47.3
	総合研究実験棟 Comprehensive Research Center	R4	1,480m²	平12.10
	図書館 Library	R2	1,613m²	昭51.2
	福利施設 Welfare Facility for students and staff	R2	811m²	昭57.2
	器楽練習室 Instrument Music training House	S1	85m²	昭55.3
	文化系課外活動施設 Cultural Extracurricular Activities House	R1	165m²	昭43.3
	地域共同テクノセンター Cooperative Technology Center	R2	412m²	平14.10
	その他 Others		938m²	

	名　称 Gross	構　造 Floor	延面積 Space	備　考 Notes
（体育施設）Sports Facilities	体育館 1st Gymnasium	R1	1,103m²	昭42.3
	第2体育館 2nd Gymnasium	R1	880m²	昭56.3
	武道場 Judo and Kendo Gymnasium	S1	384m²	昭44.2
	弓道場 Kyudo(Japanese Archery) Gymnasium	S1	141m²	昭54.3
	プール Swimming Pool	R	(25m7コース)	昭44.2
	計 Total		24,756m²	
寄宿舎 Dormitories	1棟 Dormitory 1	R3	2,079m²	昭42.3
	2棟 Dormitory 2	R3	739m²	昭42.3
	3棟 Dormitory 3	R3	921m²	昭46.3
	食堂・厨房棟 Cafeteria	R2	712m²	昭46.3
	計 Total		4,451m²	

(注)備考欄の数字は、設置年月を示す。
Notes show year and month when Buildings have been completed

職員宿舎 Personnel Housing	W1	28戸

（出典　平成 24 年度学校要覧　P. 41）

資料10－1－①－3

貸借対照表(平成19年4月1日～平成20年3月31日)

科　目	金　額	科　目	金　額
[資産の部]	7,674,957,725	[負債の部]	405,916,934
流動資産	89,661,568	流動負債	246,647,770
現金及び預金	88,634,653	運営費交付金債務	0
未収学生納付金収入	507,600	預り寄附金	40,894,050
未収入金	500,000	前受受託研究費等	0
前払費用	19,315	未払金	147,514,394
固定資産	7,585,296,157	未払費用	17,051,136
有形固定資産	7,584,591,946	預り金	41,188,190
建物	2,953,521,089	固定負債	159,269,164
建物減価償却累計額	−1,085,928,923	資産見返負債	153,426,291
構築物	204,210,765	長期未払金	5,842,873
構築物減価償却累計額	−119,396,292		
車両運搬具	2,687,345	[資本の部]	7,391,660,829
車両運搬具減価償却累計額	−1,984,500	資本金	7,813,459,047
工具器具備品	452,197,203	資本剰余金	888,531,735
工具器具備品減価償却累計額	−295,614,741	資本剰余金施設費	426,251,735
土地	5,474,900,000	資本剰余金補助金等	462,091,000
建設仮勘定	0	資本剰余金剰余	189,000
その他の有形固定資産	0	損益外減価償却累計額	−1,261,012,618
無形固定資産	672,491	損益外減損損失累計額	−126,000
ソフトウェア	0	損益外固定資産除売却差額	−51,784,694
電話加入権	63,000	当期未処分利益	2,593,359
特許権仮勘定	609,491		
投資その他の資産	31,720		
長期前払費用	0		
その他の投資その他の資産	31,720		
[本支店勘定]	122,620,038		
[本支店]機構本部	8,311,382		
[本支店]管理課	114,308,656		
合　計	7,797,577,763	合　計	7,797,577,763

（出典　財務会計システム）

資料10－1－①－4

貸借対照表(平成20年4月1日～平成21年3月31日)

科　目	金　額	科　目	金　額
[資産の部]	7,483,083,086	[負債の部]	446,339,005
流動資産	78,309,408	流動負債	304,184,860
現金及び預金	46,233,282	運営費交付金債務	0
未収学生納付金収入	169,200	預り寄附金	41,068,640
未収入金	31,624,456	前受受託研究費等	1,950,000
前払費用	22,470	未払金	200,123,666
その他の流動資産	260,000	未払費用	17,391,662
固定資産	7,404,773,678	預り金	43,650,892
有形固定資産	7,402,991,441	固定負債	142,154,145
建物	2,964,840,896	資産見返負債	142,154,145
建物減価償却累計額	−1,235,810,858	長期未払金	0
構築物	207,339,765		
構築物減価償却累計額	−132,608,625	[資本の部]	7,225,832,245
車両運搬具	2,687,345	資本金	7,813,459,047
車両運搬具減価償却累計額	−2,480,625	資本剰余金	888,531,735
工具器具備品	446,401,860	資本剰余金施設費	426,251,735
工具器具備品減価償却累計額	−322,278,317	資本剰余金補助金等	462,091,000
土地	5,474,900,000	資本剰余金剰余	189,000
建設仮勘定	0	損益外減価償却累計額	−1,425,050,373
その他の有形固定資産	0	損益外減損損失累計額	−126,000
無形固定資産	1,745,795	損益外固定資産除売却差額	−52,370,837
ソフトウェア	1,449,623	当期未処分利益	1,388,673
電話加入権	63,000		
特許権仮勘定	233,172		
投資その他の資産	36,442		
長期前払費用	9,362		
その他の投資その他の資産	27,080		
[本支店勘定]	189,088,164		
[本支店]機構本部	−39890343		
[本支店]管理課	228,978,507		
合　計	7,672,171,250	合　計	7,672,171,250

（出典　財務会計システム）

資料10－1－①－5

貸借対照表(平成21年4月1日～平成22年3月31日)

科　目	金　額	科　目	金　額
[資産の部]	7,553,014,730	[負債の部]	698,055,234
流動資産	181,741,683	流動負債	430,156,807
現金及び預金	49,269,992	運営費交付金債務	0
未収学生納付金収入	169,200	預り寄附金	49,919,866
棚卸資産	865,200	前受受託研究費等	1,365,200
未収入金	131,355,989	未払金	315,076,275
前払費用	9,362	未払費用	14,863,571
その他流動資産	71,940	預り金	48,931,895
固定資産	7,371,273,047	固定負債	267,898,427
有形固定資産	7,369,800,094	資産見返負債	250,008,352
建物	2,967,150,896	長期未払金	17,890,075
建物減価償却累計額	−1,381,590,739		
構築物	207,339,765	[資本の部]	7,066,026,293
構築物減価償却累計額	−144,601,281	資本金	7,813,459,047
車両運搬具	2,687,345	資本剰余金	888,531,735
車両運搬具減価償却累計額	−2,687,344	資本剰余金施設費	426,251,735
工具器具備品	616,336,377	資本剰余金補助金等	462,091,000
工具器具備品減価償却累計額	−370,973,925	資本剰余金剰余	189,000
土地	5,474,900,000	損益外減価償却累計額	−1,583,423,951
建設仮勘定	1,239,000	損益外減損損失累計額	−126,000
その他の有形固定資産	0	損益外固定資産除売却差額	−52,370,837
無形固定資産	1,445,873	当期未処分利益	−43,701
ソフトウェア	1,149,701		
電話加入権	63,000		
特許権仮勘定	233,172		
投資その他の資産	27,080		
長期前払費用	0		
その他の投資その他の資産	27,080		
[本支店勘定]	211,066,797		
[本支店]機構本部	−5,445,560		
[本支店]管理課	216,512,357		
合　計	7,764,081,527	合　計	7,764,081,527

（出典　財務会計システム）

資料10－1－①－6

貸借対照表(平成22年4月1日～平成23年3月31日)

科　目	金　額	科　目	金　額
[資産の部]	7,298,550,774	[負債の部]	698,145,238
流動資産	59,717,498	流動負債	423,347,951
現金及び預金	47,698,303	運営費交付金債務	0
未収学生納付金収入	169,200	預り寄附金	50,951,679
棚卸資産	471,075	前受受託研究費等	500,000
未収入金	11,356,450	未払金	312,857,108
前払費用	22,470	未払費用	11,810,120
その他の流動資産	0	預り金	46,373,951
固定資産	7,238,833,276	引当金	855,093
有形固定資産	7,237,869,055	固定負債	274,797,287
建物	2,981,595,746	資産見返負債	261,710,517
建物減価償却累計額	−1,527,143,187	長期未払金	12,899,600
構築物	210,392,115	引当金	187,170
構築物減価償却累計額	−150,977,996		
車両運搬具	3,233,078	[資本の部]	6,926,643,127
車両運搬具減価償却累計額	−2,721,452	資本金	7,813,459,047
工具器具備品	645,960,479	資本剰余金	900,571,637
工具器具備品減価償却累計額	−397,999,728	資本剰余金施設費	438,641,735
土地	5,474,900,000	資本剰余金補助金等	461,740,902
建設仮勘定	630,000	資本剰余金剰余	189,000
その他の有形固定資産	0	損益外減価償却累計額	−1,735,279,373
無形固定資産	927,779	損益外減損損失累計額	−126,000
ソフトウェア	849,779	損益外固定資産除売却差額	−52,370,837
電話加入権	63,000	当期未処分利益	388,653
特許権仮勘定	15,000		
投資その他の資産	36,442		
長期前払費用	9,362		
その他の投資その他の資産	27,080		
[本支店勘定]	326,237,591		
[本支店]機構本部	−5,058,859		
[本支店]管理課	331,296,450		
合　計	7,624,788,365	合　計	7,624,788,365

（出典　財務会計システム）

資料10－1－①－7

貸借対照表(平成23年4月1日～平成24年3月31日)

科　目	金　額	科　目	金　額
[資産の部]	7,216,418,231	[負債の部]	515,189,318
流動資産	52,593,710	流動負債	208,347,776
現金及び預金	47,165,843	運営費交付金債務	69,375
未収学生納付金収入	397,800	預り寄附金	39,832,949
棚卸資産	4,084,370	前受受託研究費等	15,422,100
未収入金	0	未払金	103,186,639
前払費用	16,237	未払費用	15,974,051
その他流動資産	929,460	預り金	33,862,662
固定資産	7,163,824,521	固定負債	306,841,542
有形固定資産	7,162,578,584	資産見返負債	276,216,770
建物	3,023,218,796	長期未払金	30,624,772
建物減価償却累計額	−1664171175		
構築物	210392115	[資本の部]	6802828533
構築物減価償却累計額	−155490386	資本金	7813459047
車両運搬具	3233078	資本剰余金	919375037
車両運搬具減価償却累計額	−2857885	資本剰余金施設費	457445135
工具器具備品	737355147	資本剰余金補助金等	461740902
工具器具備品減価償却累計額	−464631106	資本剰余金剰余	189000
土地	5474900000	損益外減価償却累計額	−1875932292
建設仮勘定	630000	損益外減損損失累計額	−126000
その他の有形固定資産		損益外固定資産除売却差額	−52370837
無形固定資産	1218857	当期未処分利益	−1576422
ソフトウェア	549857		
電話加入権	63000		
特許権仮勘定	606000		
投資その他の資産	27080		
長期前払費用	0		
その他の投資その他の資産	27080		
[本支店勘定]	101599620		
[本支店]機構本部	−5447512		
[本支店]管理課	107,047,132		
合　計	7,318,017,851	合　計	7,318,017,851

（出典　財務会計システム）

（分析結果とその根拠理由）

財産額一覧が示すように，本校の教育研究活動を安定して遂行できる校地・校舎・設備等の資産を有している。また，貸借対照表が示すように，高専機構本部からの運営費交付金等の範囲内で運営しており，短期借入金及び長期借入金はなく，未払いになっている債務はない。従って，学校の目的に沿った教育研究活動を安定して遂行できる資産を有し，債務は過大となっていない。

観点10－１－②：　学校の目的に沿った教育研究活動を安定して遂行するための、経常的収入が継続的に確保されているか。

（観点に係る状況）

本校の経常的自己収入は，授業料・入学料・検定料・雑収入(職員宿舎貸付料・寄宿料・その他収入)であり(資料 10－１－②－１)，事業遂行に必要な経費から自己収入額を差し引いたものが高専機構本部から運営費交付金として予算配分されている。

なお，平成 23 年度の運営費交付金の減少は，高専機構本部で各高専の人件費予算を一括で管理することとなったためである。

資料10-1-②－1

経常的収入受入状況

（単位：円）

年　　度		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度
運営費交付金		1,187,188,547	1,170,613,288	1,145,529,211	1,218,757,790	89,936,469
施設整備費補助金		0	0	0	0	0
施設費交付事業費		0	0	4,935,000	12,390,000	21,525,000
自己収入		289,948,924	295,048,762	296,426,925	304,647,575	299,377,462
	授業料収入	246,071,850	248,300,550	256,042,350	265,588,550	263,962,200
	入学料収入	21,707,800	23,374,700	23,459,300	23,197,200	21,682,800
	検定料収入	8,606,300	9,228,400	8,766,400	9,150,800	7,439,700
	雑収入	13,562,974	14,145,112	8,158,875	6,711,025	6,292,762
産学連携等研究収入		33,924,882	54,496,656	35,479,081	26,667,720	43,847,430
寄附金収入		16,799,531	12,215,948	20,910,727	21,718,206	19,680,000
その他補助金		1,041,000	0	130,354,989	10,979,400	195,640
計		1,528,902,884	1,532,374,654	1,633,535,933	1,595,160,691	474,562,001

（出典　決算報告書）

（分析結果とその根拠理由）

本校の主な経常的収入である運営費交付金については，文部科学省から高専機構本部を通じて継続的に交付されており，経常的収入は安定的に確保されている。さらに，自己収入(授業料・入学料・検定料・雑収入)についても，継続的に収入を確保している。従って，学校の目的に沿った教育研究活動を安定して遂行するための経常的収入は継続的に確保されている。

観点10－１－③：　学校の目的を達成するために、外部の財務資源の活用策を策定し、実行しているか。

（観点に係る状況）

外部の財務資源としては，科学研究費補助金，企業等からの共同研究，受託研究，受託事業，寄附金等があり，受入れを積極的に行っている(資料 10－１－③－１)。科学研究費補助金については，獲得件数向上のため，「科学研究費補助金説明会」(資料 10－１－③－２)を実施している。

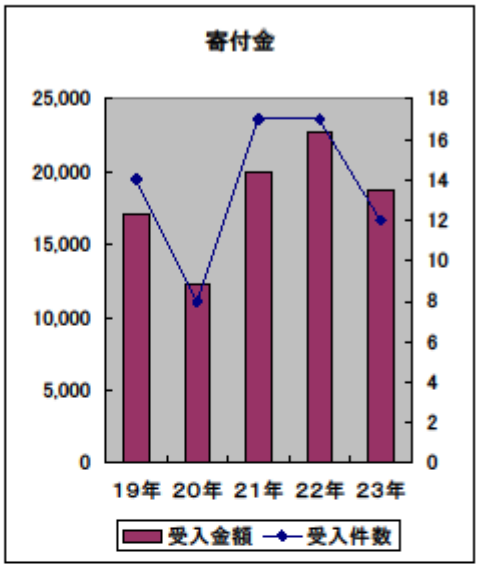
共同研究，受託研究については，地域産業の振興，新製品開発を積極的に支援するために地場企業との共同研究を推進する目的で，平成 12 年 10 月に設置された「地域共同テクノセンター」を中心に，技術職員で組織された教育研究支援室，総務課国際・研究推進係が連携し，共同研究・受託研究，技術交流・技術相談に取組んでいる。(資料 10－１－③－３：別添資料，４)

資料 10－１－③－１

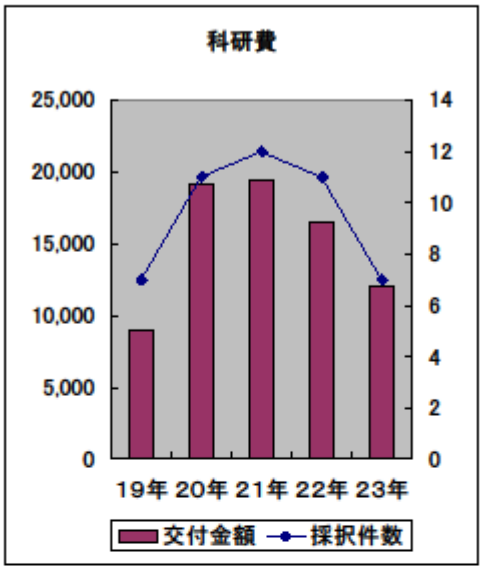
（２）寄附金・科学研究費・受託研究・共同研究の受入状況

平成24年11月７日現在

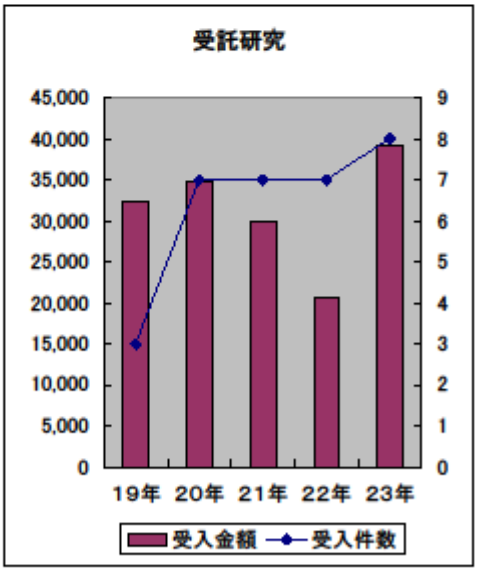
※　金額は、いずれも千円単位



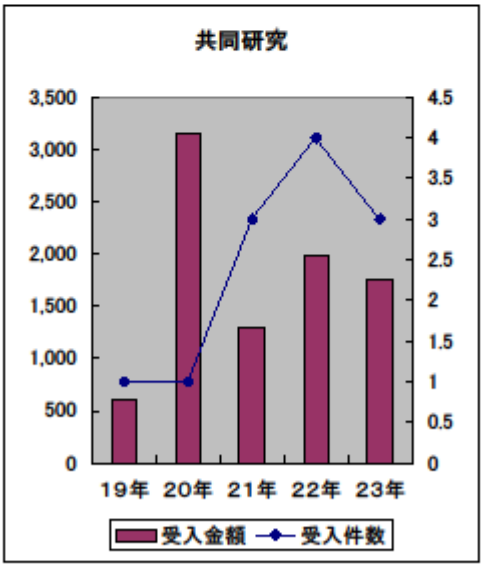
	１９年	２０年	２１年	２２年	２３年
受入金額	17,100	12,216	19,911	22,718	18,680
受入件数	14	8	17	17	12



	１９年	２０年	２１年	２２年	２３年
交付金額	9,000	19,190	19,470	16,510	12,070
採択件数	7	11	12	11	7



	１９年	２０年	２１年	２２年	２３年
受入金額	32,255	34,676	29,828	20,638	39,175
受入件数	3	7	7	7	8



	１９年	２０年	２１年	２２年	２３年
受入金額	600	3,150	1,300	1,977	1,750
受入件数	1	1	3	4	3

（出典　総務課資料より）

資料１０－１－③－２

送信者：　"専門職員" <s-senmon@kct.ac.jp>
宛先：　"(ML01)教職員" <ml_staff_all@kct.ac.jp>
送信日時：　2012年9月19日 8:46
件名：　H24.9.21(金)13時30分～科研費説明会開催

平成24年 9 月19日

教　員　各位
関係職員　各位

総 務 主 事

平成25年度科学研究費補助金の公募等に関する説明会の開催について(通知)

このことについて、平成25年度科学研究費補助金の公募に伴い、その概要、応募ルール、評価ルール、使用ルール等について、下記のとおり説明会を実施いたしますので、ご出席くださるようお知らせいたします。

記

１．日　時　　平成24年9月21日（金）13時30分～

２．場　所　　合同講義室（2号館1階）

３．説明者　　総務課(研究協力担当)

※　説明資料は、会場にて配付いたします。

送信者：　"専門職員" <s-senmon@kct.ac.jp>
宛先：　"(ML08)教員" <ml_staff_kyoukan@kct.ac.jp>
Cc:　"J002_岩永　圭一郎(総務課長)" <skacho@kct.ac.jp>; "J004_藤田 勝律(課長補佐 総務担当)"
送信日時：　2012年9月21日 17:37
件名：　H24.9.26(水)13時30分～　第2回　科研費説明会開催

平成24年 9 月21日

教　員　各位

総務課(研究協力担当)

平成25年度科学研究費補助金の公募等に関する第2回説明会の開催について(事務連絡)

このことについて、平成25年度科学研究費補助金の公募に伴い、その概要、応募ルール、評価ルール、使用ルール等について、下記のとおり第2回説明会を実施いたしますので、ご出席くださるようお知らせいたします。

記

1．日 時　　平成24年9月26日（水）13時30分～

2．場 所　　管理棟2階会議室

3．説明者　　総務課(研究協力担当)

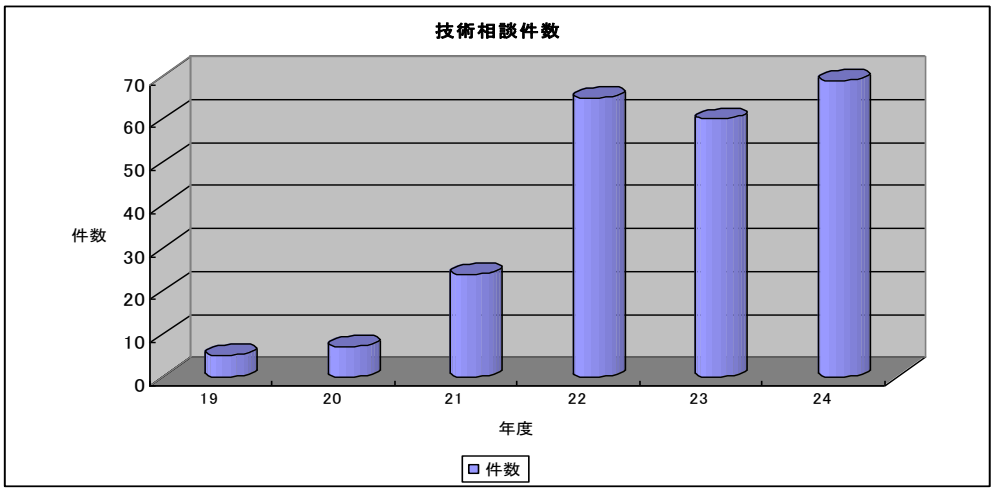
※ 説明資料は、会場にて配付いたします。
※ 第1回目の説明会に参加された方の再度の参加も、可能とさせていただきますので、当日は関係資料をご持参ください。

第2回説明会にも参加できない場合は、ご連絡ください。

（出典　総務課資料）

資料 10－１－③－４

（１）技術相談件数



年度	19	20	21	22	23	24
件数	5	7	24	65	60	69

（出典　運営協議会資料）

（分析結果とその根拠理由）

外部資金を積極的に獲得するため，「地域共同テクノセンター」を中心に，技術職員で組織された教育研究支援室，総務課国際・研究推進係が連携し，地域企業への技術交流・技術相談，北九州市産学連携フェアでの研究シーズ発表，教員総覧（研究者データ）の地域企業への送付等を通じて，北九州高専をアピールし，地域企業等との共同研究・受託研究を推進している。また，外部資金を獲得した教員については，教育研究重点化促進経費として研究費を追加配分するシステムを設け，積極的な外部資金の獲得を促している。上記の外部資金獲得努力の結果，金額・件数とも安定した収入を確保している。従って，外部資源の活用策を策定し，実行している。

観点10－２－①：　学校の目的を達成するための活動の財務上の基礎として、適切な収支に係る計画等が策定され、関係者に明示されているか。

（観点に係る状況）

収支計画については，高専機構本部から配分された収入・支出予算を基に，機構本部及び本校の中期計画に沿った学校の目的を達成させるために，教育研究活動の推進等に配慮した配分方針(案)(訪問時閲覧資料)を予算委員会で策定し，主事会議での協議を経て，運営委員会で審議決定している。決定された予算配分については，運営委員会のメンバーが，各学科会議で報告すると共に，共通ハードディスク（HDD）に運営委員会議事要録(資料 10－２－①－１)を掲載し，全教職員が閲覧できる。

財政状況(収入・支出)に関しては，学校要覧(資料 10－２－①－２)に掲載することで，学内外に公表している。

資料 10－２－①－１

平成 24 年度第 3 回運営委員会議事要録(抜粋)

日　時　平成 24 年 6 月 21 日(木)15:45～16:40

場　所　管理棟 2 階会議室

出席者　塚本校長，内田教務主事，山田(康)学生主事，白神寮務主事，松嶋専攻科主事，寺井総務主事，樫村学術情報センター長，平島機械工学科長，開道電気電子工学科長，宮崎電子制御工学科長，浜松制御情報工学科長，竹原物質化学工学科長，山本総合科学科長(文科系），宮内総合科学科長(理科系），古畑事務部長，岩永総務課長

欠席者　佐々木(勝)学生課長

オブザーバー　藤田総務課長補佐，林田(繁)総務課長補佐，佐々木(栄)学生課長補佐，島津技術長

２　議事

［議　題］

（4）　平成 24 年度当初予算配分方針(案)について

寺井総務主事から，資料５「平成２３年度決算書(案)」等に基づき，以前から懸案事項であった研究費については，教員研究費見直し(案)で配分し，教育研究重点化促進経費と併せて，皆さんからいただいた意見をもとに来年度本格的に見直しを行いたいとの説明があり，審議の結果，原案どおり了承された。

(出典　平成 24 年度 6 月開催運営委員会議事要録)

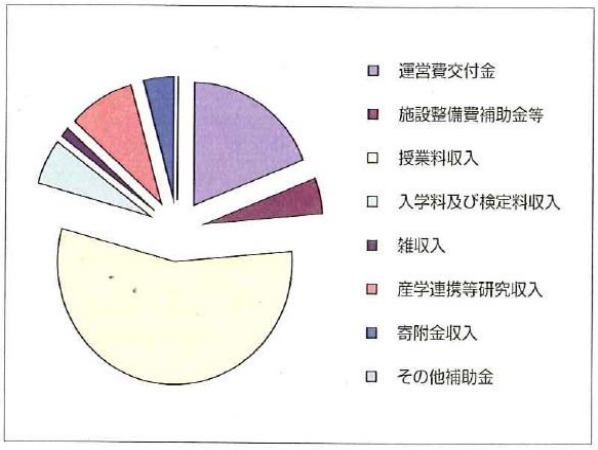
資料 10－２－①－２

平成23年度収支一覧

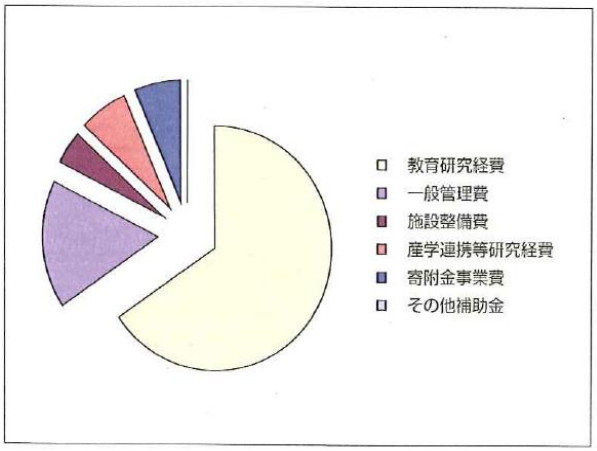
Revenue and Expenditure（2011）

（単位：円）

収　　入	金　額
運営費交付金	89,936,469
施設整備費補助金　等	21,525,000
授業料収入	263,962,200
入学料及び検定料収入	29,122,500
雑収入	6,292,762
産学連携等研究収入	43,847,430
寄附金収入	19,680,000
その他補助金	195,640
計	474,562,001



支　　出	金　額
教育研究経費	316,825,478
一般管理費	82,136,184
施設整備費	21,525,000
産学連携等研究経費	34,030,209
寄附金事業費	30,798,730
その他補助金	195,640
計	485,511,241



（出典 平成 24 年度学校要覧 P40）

会

載

観点10－２－②：　収支の状況において、過大な支出超過となっていないか。

（観点に係る状況）

本校の収入の多くは，授業料，入学料，検定料などの自己収入と高専機構本部から配分される運営費交付金であり，これらの資金を収支予算額に基づき執行計画を策定し，本校の教育，研究，管理運営等に適切に充当している。

本校における平成 19～23 年度の損益計算書は，(資料 10－２－②－１～５)の通りである。

資料10－2－②－1

損益計算書
（平成19年4月1日～平成20年3月31日）

[経常費用]			
業務費			
教育・研究経費	240,618,771		
教育研究支援経費	11,762,982		
受託研究費	32,254,882		
共同研究費	1,100,000		
受託事業費	500,000		
教員人件費	830,297,048		
職員人件費	355,586,374	1,472,120,057	
一般管理費		86,559,448	
財務費用			
支払利息	719,107	719,107	
雑損		0	
経常費用合計			1,559,398,612
[経常収益]			
運営費交付金収益		1,166,756,375	
授業料収益		250,085,115	
入学金収益		21,877,000	
検定料収益		8,606,300	
受託研究等収益		33,354,882	
受託事業等収益		500,000	
補助金等収益		1,041,000	
寄附金収益		21,238,382	
施設費収益		0	
資産見返負債戻入			
資産見返運営費交付金等戻入	23,668,291		
資産見返寄附金戻入	1,193,892		
資産見返物品受贈額戻入	19,537,760	44,399,943	
財務収益		0	
雑益			
財産貸付料収入	5,801,241		
間接経費収入	570,000		
その他の雑益	7,564,311	13,935,552	
経常収益合計			1,561,794,549
経常利益			2,395,937
[臨時損失]			0
[臨時利益]			197,422
[当期純利益(純損失)]			2,593,359
[当期総利益(総損失)]			2,593,359

（出典　財務会計システム）

資料10－2－②－2

損益計算書
（平成20年4月1日～平成21年3月31日）

[経常費用]			
業務費			
教育・研究経費	260,915,740		
教育研究支援経費	14,738,097		
受託研究費	32,232,488		
共同研究費	3,149,998		
受託事業費	12,229,170		
教員人件費	819,198,223		
職員人件費	336,754,215	1,479,217,931	
一般管理費		82,732,504	
財務費用			
支払利息	436,447	436,447	
雑損		0	
経常費用合計			1,562,386,882
[経常収益]			
運営費交付金収益		1,156,487,122	
授業料収益		253,830,390	
入学金収益		23,036,300	
検定料収益		9,228,400	
受託研究等収益		35,876,286	
受託事業等収益		12,229,170	
補助金等収益		0	
寄附金収益		15,614,294	
施設費収益		0	
資産見返負債戻入			
資産見返運営費交付金等戻入	26,937,114		
資産見返寄附金戻入	2,346,269		
資産見返物品受贈額戻入	10,730,129		
特許権仮勘定見返運営費交付金等戻入	376,319	40,389,831	
財務収益		0	
雑益			
財産貸付料収入	5,590,732		
間接経費収入	4,441,200		
その他の雑益	8,511,300	18,543,232	
経常収益合計			1,565,235,025
経常利益			2,848,143
[臨時損失]			1,502,551
[臨時利益]			43,081
[当期純利益(純損失)]			1,388,673
[当期総利益(総損失)]			1,388,673

（出典　財務会計システム）

資料10－2－②－3

損益計算書
（平成21年4月1日～平成22年3月31日）

[経常費用]			
業務費			
教育・研究経費	262,986,373		
教育研究支援経費	16,428,675		
受託研究費	30,912,679		
共同研究費	800,000		
受託事業費	0		
教員人件費	839,370,895		
職員人件費	297,101,429	1,447,600,051	
一般管理費		93,256,973	
財務費用			
支払利息	370,386	370,386	
雑損		0	
経常費用合計			1,541,227,410
[経常収益]			
運営費交付金収益		1,135,841,661	
授業料収益		259,726,572	
入学金収益		23,459,300	
検定料収益		8,766,400	
受託研究等収益		31,712,681	
受託事業等収益		0	
補助金等収益		9,568,489	
寄附金収益		16,219,911	
施設費収益		4,935,000	
資産見返負債戻入			
資産見返運営費交付金等戻入	28,726,413		
資産見返補助金等戻入	1,724,144		
資産見返寄附金戻入	3,307,813		
資産見返物品受贈額戻入	4,685,250	38,443,620	
財務収益		0	
雑益			
財産貸付料収入	5,622,490		
間接経費収入	4,351,200		
不用物品売払代	330,750		
助成金等収入	2,118,600	12,423,040	
経常収益合計			1,541,096,674
経常利益			△ 130,736
[臨時損失]			2,392,931
[臨時利益]			2,479,966
[当期純利益(純損失)]			△ 43,701
[当期総利益(総損失)]			△ 43,701

（出典　財務会計システム）

資料10－2－②－4

損益計算書
（平成22年4月1日～平成23年3月31日）

[経常費用]			
業務費			
教育・研究経費	266,730,845		
教育研究支援経費	26,874,112		
受託研究費	21,003,000		
共同研究費	2,477,300		
受託事業費	133,420		
教員人件費	780,336,562		
職員人件費	409,142,616	1,506,697,855	
一般管理費		79,328,057	
財務費用			
支払利息	391,290	391,290	
雑損		0	
経常費用合計			1,586,417,202
[経常収益]			
運営費交付金収益		1,175,337,140	
授業料収益		264,032,967	
入学金収益		23,197,200	
検定料収益		9,150,800	
受託研究等収益		23,480,300	
受託事業等収益		133,420	
補助金等収益		1,524,196	
寄附金収益		23,467,234	
施設費収益		0	
資産見返負債戻入			
資産見返運営費交付金等戻入	30,500,841		
資産見返補助金等戻入	16,941,360		
資産見返寄附金戻入	3,771,606		
資産見返物品受贈額戻入	1,143,481		
特許権仮勘定見返運営費交付金等戻入	233,172	52,590,460	
財務収益	0	0	
雑益			
財産貸付料収入	5,744,320		
間接経費収入	3,919,200		
助成金等収入	556,710		
その他の雑益	238,590	10,458,820	
経常収益合計			1,583,372,537
経常利益			△ 3,044,665
[臨時損失]			181,741
[臨時利益]			3,615,059
[当期純利益(純損失)]			388,653
[当期総利益(総損失)]			388,653

（出典　財務会計システム）

資料10－2－②－5

損益計算書
（平成23年4月1日～平成24年3月31日）

[経常費用]			
業務費			
教育・研究経費	268,529,146		
教育研究支援経費	33,458,402		
受託研究費	17,862,424		
共同研究費	1,515,000		
受託事業費	0		
教員人件費	25,947,830		
職員人件費	20,586,069	367,898,871	
一般管理費		85,966,062	
財務費用			
支払利息	926,786	926,786	
雑損		0	
経常費用合計			454,791,719
[経常収益]			
運営費交付金収益		40,518,144	
授業料収益		261,912,010	
入学金収益		21,852,000	
検定料収益		7,439,700	
受託研究等収益		26,003,330	
受託事業等収益		0	
補助金等収益		195,640	
寄附金収益		29,925,646	
施設費収益		2,721,600	
資産見返負債戻入			
資産見返運営費交付金等戻入	30,021,660		
資産見返補助金等戻入	18,674,814		
資産見返寄附金戻入	4,288,166		
資産見返物品受贈額戻入	447,825	53,432,465	
財務収益		0	
雑益			
財産貸付料収入	5,496,340		
間接経費収入	2,922,000		
助成金等収入	796,422	9,214,762	
経常収益合計			453,215,297
経常利益			△ 1,576,422
[臨時損失]			0
[臨時利益]			0
[当期純利益(純損失)]			△ 1,576,422
[当期総利益(総損失)]			△ 1,576,422

（出典　財務会計システム）

（分析結果とその根拠理由）

損益計算書から，収支決算については，財務会計システムで一元管理されており，過大な支出超過とはなっていない。

観点10－２－③：　学校の目的を達成するため、教育研究活動（必要な施設・設備の整備を含む）に対し、適切な資源配分がなされているか。

（観点に係る状況）

学内の予算配分においては，教育研究活動の活性化を図るため，高専機構本部から当初配分された運営費交付金等を人件費的支出，教育研究費，教育支援経費，一般管理費，留保，予算措置要望事項対応経費に区分し，教育研究費については，基盤的な配分である教員研究費と傾斜配分的な教育研究重点化促進経費及び校長裁量経費に大きく二分化(資料 10－２－③－１)される。教育研究重点化促進経費は，教育，研究，運営等への貢献度について，各教員から提出された調査票に基づき校長が査定し，校長裁量経費は，①教育・研究プロジェクト，②若手教員教育・研究プロジェクト経費，③学生実験機器更新経費，④学生帯同経費，⑤ロボコン経費，⑥その他，に分かれ，その内①②③については，校長がヒアリングを行い査定する。

なお，教員研究費，教育研究重点化促進経費の配分方法については，教育研究への貢献度の適正評価と教員への動機付けを促すことを目的に，平成 25 年度に見直しを実施する予定である。

高専で予算措置できない大型設備については，高専機構本部に設備整備マスタープランや設備整備費補助金で予算要求を行い，順次整備されている。平成 24 年度補正予算において，教育研究基盤強化経費が措置され，設備の充実･強化が図られた(資料 10－２－③－２：別添資料)。

なお，施設整備については，施設環境マネジメント委員会において本校の将来計画を考えて施設整備マスタープランを策定し，高専機構本部に概算要求(営繕要求を含む。)を行っている(資料 10－２－③－３)。

資料 10－2－③－1

校長裁量経費等の目的及び留意点について

① 教育研究重点化促進経費（９,２９５千円）

教育、研究、運営等への貢献度について、「調査票」に基づき、ポイント制により配分する。

「配分方法及び配点基準等」及び「調査票」は、別添のとおりです。「調査表」の作成については、記入例を参考に関係箇所に記入していただくとともに、参考資料が必要な◎が付いている項目に記入されている場合は、必ず参考資料を添付してください。参考資料等でメールでの提出が無理な場合は御持参願います。

調査表を提出されない場合は、その旨メールで必ず御連絡願います。

・ファイル　「教育研究重点化促進経費配分方法及び配点基準」
「教育研究重点化促進経費調査表」

② 教育・研究プロジェクト経費（８,０５４千円）

本校の理念・目標を達成するために校内共同で行う教育研究プロジェクトで、基盤的、戦略的に重要な事業に対して、全校的な視点から校長の判断により必要な経費を配分する。

・ファイル　「教育研究プロジェクト経費要求書」

③ 若手教員教育・研究プロジェクト経費（３,３３４千円）

平成２４年４月１日現在で３７歳以下の者の中から、教育研究の助成を目的として校長の判断により必要な経費を配分する。

・ファイル　②のファイルと同じ

④ 学生実験機器更新経費（５,８７９千円）

学生実験機器（学生の実験実習の基盤をなす機器であること）の更新について、校長の判断により必要な経費を配分する。

なお、更新計画がある場合は、学科長経由で提出願います。（学科長の方は、学科分を取りまとめて、要求してください。）

・ファイル　「学生実験機器更新計画書」

（出典　予算委員会資料）

資料10－2－③－3

概 算 ・ 営 繕 工 事 一 覧

	工　事　名　称	金　額（円）	予算科目
平成18年度	3号館改修工事	344,610,000	施設整備費
	建築	219,450,000	
	3号館改修電気設備工事	46,200,000	
	3号館改修機械設備工事	70,035,000	
	3号館改修エレベータ工事	8,925,000	
	3号館改修工事(その2)	74,896,500	施設整備費
	3号館改修工事(その3)	2,310,000	施設整備費
平成19年度	4号館エレベーター改修工事	3,990,000	営繕事業費
	電話交換機更新工事	5,985,000	営繕事業費
平成20年度	図書館電気室改修工事	5,145,000	営繕事業費
	武道場改修工事	8,263,500	営繕事業費
平成21年度	第2工場屋上防水改修工事	4,935,000	営繕事業費
平成22年度	寄宿舎空調用電気設備工事	12,390,000	営繕事業費
平成23年度	図書館便所改修工事	1,796,550	営繕事業費
	寄宿舎耐震改修工事	21,525,000	営繕事業費
	管理棟･1号館屋上防水改修工事	21,525,000	営繕事業費
	管理棟･1号館屋上防水改修工事(設計変更)	1,956,465	営繕事業費

（出典　総務課資料）

（分析結果とその根拠理由）

予算配分については，予算委員会で配分方針（案）を策定し，主事会議での協議を経て，運営委員会で審議決定し，各学科会議に報告すると共に，全教職員が閲覧できる共通 HDD に掲載している。教育研究活動に係る経費は，校長のリーダーシップの下，教育研究活動の活性化を図るために競争的環境を設け，教育・研究の質の向上に応じた有効な配分がなされている。

また，施設・設備の整備については，高専機構本部に設備整備マスタープランや概算要求(営繕要求を含む)を行い，計画的な整備に努めている。

従って，教育研究活動に対し，適切な資源配分がなされている。

観点10－３－①：　学校を設置する法人の財務諸表等が適切な形で公表されているか。

（観点に係る状況）

本校は，高専機構として統一された財務会計システムによって会計処理を行っており，このシステムによって作成された高専機構全体の財務諸表は，高専機構会計規則第 44 条(資料 10－３－①－１)に基づき，官報及び高専機構本部のウェブサイト上で公表されている(資料 10－３－①－２)。

また，本校では，収入・支出決算額を学校要覧において適切に公表している。

資料 10−3−①−1

「高専機構会計規則」(抜粋)

(年度末決算)

第４４条　年度末決算に際しては、当該年度末における資産・負債の残高並びに当該期間における損益に関し真正な数値を把握するための各帳簿の締め切りを行い、資産の評価、債権・債務の整理、その他決算整理を的確に行って、所定の手続きに従って決算数値を確定しなければならない。

2　理事長は、前項の整理を行った後、翌事業年度５月末日までに次の各号に掲げる書類を作成しなければならない。

一　貸借対照表

二　損益計算書

三　キャッシュ・フロー計算書

四　利益の処分又は損失の処理に関する書類

五　行政サービス実施コスト計算書

六　附属明細書

3　前号の書類の様式は、別に定めるものとする。

(出典　独立行政法人国立高等専門学校機構会計規則)

資料 10－3－①－2

財 務 諸 表

第7期事業年度

（平成22年4月1日～平成23年3月31日）

独立行政法人 国立高等専門学校機構

目　　次

財務諸表
1 貸借対照表
2 損益計算書
3 キャッシュ・フロー計算書
4 利益の処分に関する書類
5 行政サービス実施コスト計算書
6 注記事項
7 附属明細書
(1) 固定資産の取得及び処分並びに減価償却費（「第37 特定の償却資産の減価に係る会計処理」及び「第91 資産除去債務に係る特定の除去費用等の会計処理」による損益外減価償却相当額も含む。）の明細並びに減損損失累計額
(2) たな卸資産の明細
(3) 有価証券の明細
(4) 長期貸付金の明細
(5) 長期借入金の明細
(6) 債券の明細
(7) 引当金の明細
(8) 貸付金等に対する貸倒引当金の明細
(9) 退職給付引当金の明細
(10) 資産除去債務の明細
(11) 法令に基づく引当金等の明細
(12) 保証債務の明細
(13) 資本金及び資本剰余金の明細
(14) 積立金の明細
(15) 目的積立金の取崩しの明細
(16) 運営費交付金債務及び当期振替額等の明細
①運営費交付金債務の増減の明細
②運営費交付金債務の当期振替額の明細
③運営費交付金債務残高の明細
(17) 運営費交付金以外の国等からの財源措置の明細
①施設費の明細
②補助金等の明細
③長期預り補助金等の明細
(18) 役員及び教職員の給与の明細
(19) 開示すべきセグメント情報
(20) 前記以外の主な資産、負債、費用及び収益の明細
①業務費及び一般管理費の明細
②寄附金の明細
③受託研究の明細
④共同研究の明細
⑤受託事業等の明細
⑥科学研究費補助金の明細
⑦現金及び預金の明細
⑧未払金の明細

（出典　高専機構本部公式ウェブサイト）

（分析結果とその根拠理由）

財務諸表等については，高専機構本部が全国高専を集計した決算として，官報及び高専機構本部のウェブサイト上で公表されている。

観点10－３－②：　財務に対して、会計監査等が適正に行われているか。

（観点に係る状況）

会計監査等については，平成 22 年度に監事による監査(資料 10－３－②－１)及び高専機構本部による内部監査(資料 10－３－②－２)が実施され，平成 23 年度に会計監査人による監査(資料 10－３－②－３)が実施されている。

また，呉高専，徳山高専，宇部高専及び本校の４高専による高専相互会計内部監査(資料 10－３－②－４）と学内会計監査規則(資料 10－３－②－５)に基づく内部監査を毎年度実施している。

さらに，外部有識者で構成される運営協議会において財務に関する意見を聴取し改善を図っている。

資料 10－3－②－1

平成２２年１１月１日

北九州工業高等専門学校長　殿

独立行政法人国立高等専門学校機構
監　事　　斎　藤　　秀　俊
監　事　　松　本　　　香

平成２２年度監事監査の実施について（通知）

平成２２年度監事監査を下記のとおり実施しますのでお知らせします。

記

１　監査の項目
（１）教育研究活動について
（２）会計経理の実施状況について
（財務事項に係る内部統制の状況、施設整備費補助金等の執行状況等）
（３）契約の状況について
（４）産学連携・地域連携等の状況について
（５）入試業務の実施状況について
（６）保有個人情報の管理の状況について
（７）その他
（注）監査の実施状況により、監査項目を追加することがあります。

２　監査の実施時期
平成２３年２月７日（月）～２月９日（水）

３　監査の従事者
総務課長・監査室長　三浦　　新
学務課学務係長　長谷川　武史
財務課予算係長　佐野　浩実
企画課企画第二係長　三田　洋介

（出典　高専機構本部からの通知）

資料 10－3－②－2

平成２２年１１月１日

北九州工業高等専門学校長　殿

独立行政法人国立高等専門学校機構
理事長　　林　　勇二郎

平成２２年度内部監査の実施について（通知）

平成２２年度内部監査を下記のとおり実施しますのでお知らせします。

記

1　監査の項目
（1）会計経理の実施状況について
（財務事項に係る内部統制の状況、施設整備費補助金等の執行状況等）
（2）契約の状況について
（3）産学連携・地域連携等の状況について
（4）入試業務の実施状況について
（5）保有個人情報の管理の状況について
（6）情報セキュリティ対策等について
（7）人事労務管理の状況について
（8）その他
（注）監査の実施状況により、監査項目を追加することがある。

2　監査の実施時期
平成２３年２月７日（月）～２月９日（水）

3　監査の従事者
総務課長・監査室長　三浦　　新
学務課学務係長　長谷川　武史
財務課予算係長　佐野　浩実
企画課企画第二係長　三田　洋介

（出典　高専機構本部からの通知）

資料 10－３－②－３（その１）

事　務　連　絡
平成２３年１２月２８日

北九州工業高等専門学校
事 務 部 長 殿

国立高等専門学校機構本部
事務局長　後 藤　宏 平

会計監査人の監査について

今般，平成２３年度会計監査人として有限責任監査法人トーマツが文部科学大臣から選任されました。独立行政法人通則法第３９条の規定に基づき会計監査人の監査を受けるにあたって，有限責任監査法人トーマツから監査計画について連絡がありましたので，下記のとおり通知します。

会計監査人の監査は，従来のいわゆる監査とは異なり，会計経理等についての指摘を目的とするものではなく，適正な財務諸表等を作成するための指導的な意味合いであるという点にご留意願います。

なお，日程は変更される場合もありますのでご了承ください。

また，詳細な日程及び準備資料については，追ってご連絡いたします。

記

平成２４年３月５日（月）～７日（水）

（出典　高専機構本部からの通知）

資料 10－3－②－３（その２）

氏名	3月5日 月曜日	3月6日 火曜日	3月7日 水曜日
菅貞 秀太郎	総括項目 議事録査閲 人事給与		
宮越 匠弘	外部資金プロセス 学生納付金プロセス		
髙野 綾	固定資産プロセス		

1. 監査対象期間
　平成23年4月～12月
2. 実施内容
・外部資金関連業務について、以下の流れを確認させていただきます。
①受託研究締結の業務フローの確認
②受託研究費の入出金の業務フロー（受領～会計処理（入金）、発注～支払～会計処理（支出））の確認ほか
③補助金の入出金の業務フロー（受領～会計処理（入金）、発注～支払～会計処理（支出））の確認ほか
（法人宛収入となる補助金、研究者個人宛の科学研究費補助金）
④寄附金の入出金の業務フロー（受領～会計処理（入金）、発注～支払～会計処理（支出））の確認ほか
⑤寄附金の使途特定手続の確認
⑥科研費の業務フローの確認

・学生納付金関連業務について、以下の流れを確認させていただきます。
①授業料の納付手続と、収益の認識方法の確認
②未納者に対する取扱事務の確認
③授業料免除の取扱事務の確認
④入学金収受の業務フローの確認
⑤検定料収受の業務フローの確認

・固定資産関連業務について、以下の流れを確認させていただきます。
①取得（起案～発注～納入～登録～減価償却）
②減損・廃棄・除却
③現物管理（含・実査手続）

・契約・支出関連業務について、以下の流れを確認させていただきます。
①契約手続の状況（購買・発注先の選定・・入札形態、随意契約の状況、購買発注条件、主な契約・購買発注経路等）の確認
②発注・検収手続の確認
③契約から検収にかかる業務フロー（購入依頼～見積～契約決議（発注承認）～納品検収～支払）の確認

・人事給与関連業務について、以下の流れを確認させていただきます。
①給与体系の全体像の確認
②給与計算の業務フローの確認
③職員の採用から退職に至る業務フローの確認

その上で、監査対象期間中の取引記録を抽出した上で、貴学の内部統制の運用状況をテストいたします。
・昨年末機構本部に提出した中間資料につき、内容を確認させていただきます。
それから、3日間のうちのご都合のよい時間帯に、校長先生との面談をお願いいたします。
（面談に際しての必要資料は、当方で用意いたします。）
なお、監査初日の最初に総務課長ないしは課長補佐より、貴校の概要につき、パンフレット等に基づき、簡単にご説明いただきたいと思います。

3. ご準備いただく資料
印刷不要です、データでご用意ください。議事録等はファイルをお借りします。
・直近月の合計残高試算表(事前にメールでご送付ください)
・直近月の予算執行集計表の収入及び支出(財源別及び予算科目別、事前にメールでご送付ください)
・当期の総勘定元帳データ4月～12月(事前にメールでご送付ください)
・直近の固定資産一覧表(事前にメールでご送付ください)
・直近の除却資産集計表(事前にメールでご送付ください)
・前期決算において実施した減損兆候の調査資料
・直近の職員宿舎と学生寮の入居状況が把握できる資料
・教員職員の人員表(非常勤含む、人数のわかる資料)
・平成21年度、平成22年度、平成23年度の外部資金の獲得案件数と金額の分かる資料(データでありましたら事前にメールでご送付ください)
(科研費、受託研究、受託事業、共同研究、共同事業、寄付金、施設整備費補助金、その他補助金)
・機構本部からの予算配分通知(当初予算及び追加配分の通知)
・PCBの管理数量やアスベストの状況がわかる資料
・人事給与、固定資産関係、契約支出、財務関係の業務フローチャート
（なければ、無理に作成いただく必要はありません。）
・中間決算時作成資料(事前にメールでご送付ください)
・運営会議議事録(当期分のみ)
※取引証憑関係については、総勘定元帳データを事前に又は監査現場にて抽出の上、該当のものの閲覧をその都度要請いたします。

(出典　監査法人からの通知)

資料 10－3－②－4

高専相互会計内部監査報告書

独立行政法人国立高等専門学校機構会計規則第４５条に基づき内部監査を実施しましたので、下記のとおり報告します。

記

被監査高専名	北九州工業高等専門学校
監査実施日	平成２３年１２月１９日　～１２月２１日
監査担当者	徳山工業高等専門学校　総務課課長補佐　永久　英雄 総務課契約係長　田中　寛之 総務課会計係主任　玉野　綾子

【監査結果の詳細】

被監査部署及び対応者名：総務課　加治課長補佐、林田課長補佐　他

①被監査部署の現状

・北九州高専の会計を担当する職員は，総務課長，課長補佐（会計担当）２名うち１名は財務係長併任，研究協力・科研を担当する専門職員１名，予算決算・収入支出を担当する財務係３名，契約事務を担当する契約係３名，施設管理を担当する施設係３名（非常勤１名を含む）図書関係を担当する図書係２名で会計処理を担当している。

②監査結果により把握された重要な問題点と所見

・別添「高専相互会計内部監査チェックリスト」に従って、会計事務全般について聞き取り調査及び書類確認等を行ったところ、概ね良好な会計処理が行われており、大きな問題点は見受けられなかった。

③発見事項及び指摘事項

・　不動産の貸付において，貸付料は最低金額１，０００円となっているので今後は留意願いたい。
・　毒劇物の納品時・教員への受渡時に記載する契約係での受払記載簿の記載をお願いしたい。また教員等が記載する毒劇物受払簿において，数値が正確に記載されていなかったので正確に記載されるようお願いしたい。

④指摘事項等（指示、考究）

・別添「高専相互会計内部監査チェックリスト」のとおり
　指示（会計処理について改めるよう要求したもの）・・・６件（上記③の指摘事項２件を含む）
　考究（確認、検討を要求したもの）　　・・・４件

⑤被監査部署の意見等

・上記④について、その対応について速やかな検討を図り、特に上記③については、直ちに対応を検討するとのことであった。

⑥関係資料等（徴収資料等）

な　し

（出典　総務課保管監査資料）

資料10－3－②－5

○北九州工業高等専門学校会計監査実施規則

昭和６０年１２月１９日　規則第６号

改正　平成２１年１２月１７日

（趣旨）

第１条　この規則は、独立行政法人国立高等専門学校機構会計規則第４５条第２項の規定に基づき、北九州工業高等専門学校における会計監査（以下「監査」という。）の実施に関し必要な事項を定めるものとする。

（監査の実施責任者）

第２条　監査の実施責任者は、事務部長とする。

（監査員）

第３条　校長は、監査を実施するため、本校職員のうちから監査員を命ずるものとする。

（監査事項）

第４条　監査は、次の各号に掲げる事項について実施するものとする。

（１）　会計経理に関する規則等の適用に関する事項

（２）　予算決算に関する事項

（３）　収入支出に関する事項

（４）　債権に関する事項

（５）　物品に関する事項

（６）　不動産に関する事項

（７）　契約に関する事項

（８）　旅費に関する事項

（９）　科学研究費補助金その他外部資金に関する事項

（１０）　預り金に関する事項

（１１）　帳簿及び証拠書類に関する事項

（１２）　その他校長が必要と認める事項

（監査の時期及び事前通知）

第５条　監査は、原則として毎会計年度に１回実施する。ただし、校長が必要と認めたときは、その都度監査を実施することができる。

２　事務部長は、監査を実施しようとするときは、あらかじめ、関係職員に対し、監査の期日及び監査員の職名、氏名その他必要な事項を通知するものとする。

（監査の実施等）

第６条　事務部長は、監査実施の都度監査の実施細目を定め、これにより監査を実施させるものとする。

第７条　監査は、公正かつ厳正に監査に当たらなければならない。

２　監査員は、監査に当たり疑義があるものについては、関係者に説明を求め、かつ、調書等の提出を求めることができる。

（監査の立会い）

第８条　監査の対象となる者は、帳簿、関係書類その他必要なものを準備して監査に立ち会い、かつ、監査に協力しなければならない。

（監査報告）

第９条　監査員は、監査が終了したときは、速やかに書面をもって監査の結果を事務部長に報告しなければならない。

（是正改善等の処置）

第１０条　監査員は、前条の報告に基づき、会計経理に関し是正改善の処置を執る必要があると認めたときは、校長に具申するものとする。

２　校長は、前項の具申があったときは、当該具申に関し指示を行い、事務部長に直ちに改善措置を執らせるものとする。

附　則

以下省略

（出典　北九州工業高等専門学校ウェブサイト）

（分析結果とその根拠理由）

会計監査等については，毎年，高専相互会計内部監査や学内内部監査を実施しているほか，随時，会計監査人による監査，高専機構監事監査及び内部監査を受け，改善結果等のフォローアップを行っている。従って，財務に対して適正に会計監査等が行われている。

（２）優れた点及び改善を要する点

（優れた点）

本校では，適切な収支に係る予算配分に関しては，予算委員会で配分方針（案）を策定し，主事会議での協議を経て，運営委員会で審議決定し，学内の関係者に対して，各学科会議で報告すると共に，共通 HDD に運営委員会議事要録を掲載し，教職員が閲覧できるシステムになっている。

教育研究活動に係る経費の教育研究重点化促進経費は，教育，研究，運営等への貢献度について，各教員から提出された調査票に基づき校長が査定し，校長裁量経費の教育・研究プロジェクト，若手教員教育・研究プロジェクト経費，学生実験機器更新経費については，学内公募により校長がヒアリングを行い，重点的に予算配分している。

（改善を要する点）

該当なし

（３）基準10の自己評価の概要

財務基礎については，本校の目的に沿った教育研究活動を安定して遂行できる校地・校舎・設備等の資産を有すると共に，授業料，入学料，検定料等の自己収入の状況，高専機構本部からの運営費交付金の予算配分の状況から，経常的な収入が確保されている。

また，科学研究費補助金，共同研究，受託研究，寄附金等外部資金の獲得にも，地域共同テクノセンターの協力の下，説明会及び講演会を開催することで，安定した資金を獲得している。

予算配分については，限られた予算をより効果的に配分するため，予算委員会で策定し，主事会議での協議を経て，運営委員会で審議決定すると共に，校長のリーダーシップの下で，教育研究活動の活性化のため，教員から提出された調査票に基づき校長が査定する教育研究重点化促進経費や教育・研究プロジェクト等があり，予算が有効に配分されている。

財務諸表については，高専機構本部で官報及び高専機構本部のウェブサイト上で公表している。

財務に対する会計監査は，毎年、高専相互会計内部監査や学内内部監査を実施しているほか，随時に会計監査人監査，高専機構監事監査及び内部監査を受けることにより，適正な財務管理を図っている。さらに，外部有識者から構成される運営協議会において財務に関する意見を聴取し改善を図っている。

基準 11　管理運営

（１）観点ごとの分析

観点11－１－①：　学校の目的を達成するために、校長、各主事、委員会等の役割が明確になっており、校長のリーダーシップの下で、効果的な意思決定が行える態勢となっているか。

（観点に係る状況）

学校教育法では高等専門学校の校長は校務を掌り，所属職員を監督する（第 120 条第３項）と定められている。本校でも，学則で学校教育法その他の法令の定めるところによる（学則第４条第２項）とし，校長の職務は学校教育法と同一としている。また，学校教育法施行規則第 175 条に基づく教務主事，学生主事及び寮務主事を置き，その職務を学則第５条に規定している。（資料 11－１－①－１）

さらに，本校では，校長を補佐する体制を充実させるため，副校長・校長補佐規則を定めており，副校長には，上記３主事を，校長補佐には，専攻科主事，総務主事，学術情報センター長を充てている。校長補佐の役割については，専攻科主事及び専攻長規則，総務主事規則，学術情報センター規則に，それぞれ職務を明記している。（資料 11－１－①－２）

これら副校長と校長補佐に事務部長を加えたメンバーによる主事会議をほぼ毎月１回開催し，全校的な意思決定機関である運営委員会において審議される事項（校務運営上重要な事項及び将来構想並びに戦略的事項）について協議し，校長の広範な職務を支えている。また，各委員会の委員長は，重要事項の審議結果についてはその都度校長に報告を行っており，会議の議事要録についても，学内のデータベースに保存され全教職員が閲覧することが可能となっており，情報の共有が図られている。（資料 11－１－①－３）

（分析結果とその根拠理由）

校長の役割は学校教育法に定められ，各主事，各校長補佐の役割については，学則等に明確に定められている。本校の目的を達成するため，各主事等は校長の命によりそれぞれの規則で定められた職務を掌理し，管理運営等に関する重要事項については，各委員会での審議結果を基に，主事会議や運営委員会等において意思決定を行っており，校長のリーダーシップが発揮できる体制が整備されている。運営委員会をはじめ各委員会はそれぞれその目的や役割が明確に規則に定められており，その構成員には，各学科等の代表も加えており，各学科等の意見が考慮された上で意思決定がなされている。また，その結果についても，各委員が持ち帰り学科内で周知を行うと共に議事要旨の学内公開により情報の共有がなされている。

資料 11－１－①－１

○北九州工業高等専門学校学則（抜粋）

第４条　本校に、校長、教授、准教授、講師、助教、助手、事務職員及び技術職員を置く。
２　前項の職員の職務は、学校教育法その他の法令の定めるところによる。
第５条　本校に、教務主事、学生主事及び寮務主事を置く。
２　教務主事は、校長の命を受け、教育計画の立案その他教務に関することを掌理する。
３　学生主事は、校長の命を受け、学生の厚生補導に関すること（寮務主事の所掌に属するものを除く。）を掌理する。
４　寮務主事は、校長の命を受け、学生寮における学生の厚生補導に関することを掌理する。
（以下，省略）

（出典　北九州工業高等専門学校規則集）

資料 11－１－①－２（その１）

北九州工業高等専門学校規則関係目次（抜粋）

第１章　学則

北九州工業高等専門学校学則

第２章　管理運営組織

北九州工業高等専門学校情報公開委員会規則
北九州工業高等専門学校運営協議会規則
北九州工業高等専門学校地域共同テクノセンター委員会規則
北九州工業高等専門学校知的財産委員会規則
北九州工業高等専門学校遺伝子組換え実験安全倫理委員会規則
北九州工業高等専門学校教員会議規則
北九州工業高等専門学校運営委員会規則
北九州工業高等専門学校広報室専門委員会規則
北九州工業高等専門学校人権教育推進委員会規則
北九州工業高等専門学校主事会議規則
北九州工業高等専門学校事務連絡協議会規則
北九州工業高等専門学校事務改善検討委員会規則
北九州工業高等専門学校自己点検・自己評価委員会規則
北九州工業高等専門学校ＪＡＢＥＥ･認証評価委員会規則
北九州工業高等専門学校ＦＤ委員会規則
北九州工業高等専門学校学術情報センター委員会規則
北九州工業高等専門学校男女共同参画推進会議規則
北九州工業高等専門学校職員レクリエーション委員会規則
北九州工業高等専門学校人事委員会規則
北九州工業高等専門学校予算委員会規則
北九州工業高等専門学校施設・環境マネジメント委員会規則
北九州工業高等専門学校教務委員会規則
北九州工業高等専門学校専攻科委員会規則
北九州工業高等専門学校入学試験委員会規則
北九州工業高等専門学校厚生補導委員会規則
北九州工業高等専門学校学生寮委員会規則
北九州工業高等専門学校国際交流委員会規則
北九州工業高等専門学校図書館専門委員会規則
北九州工業高等専門学校事務情報化推進委員会規則
北九州工業高等専門学校教育研究支援室委員会規則
北九州工業高等専門学校ＩＴセンター専門委員会規則

資料 11－１－①－２（その２）

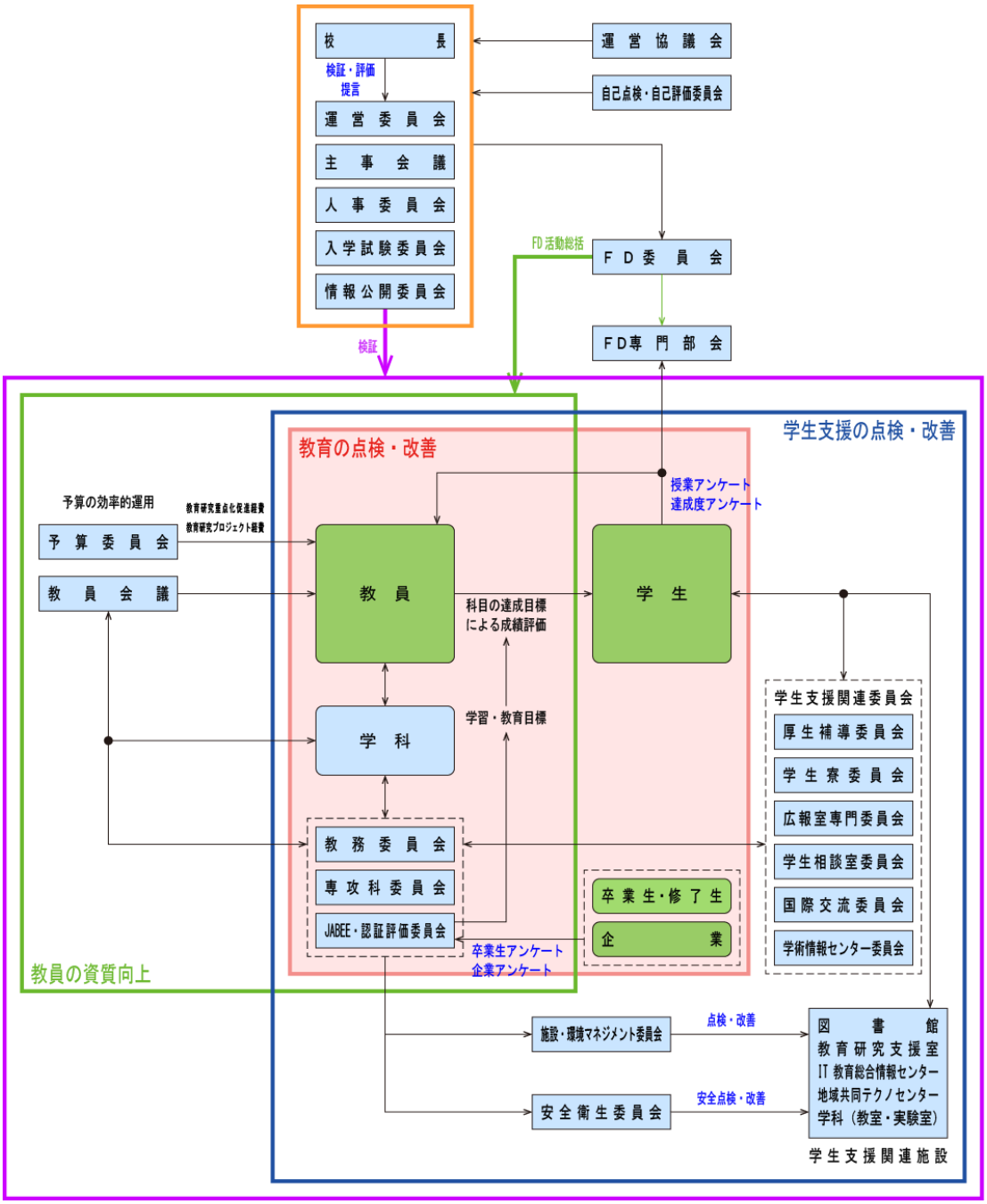
第３章　総務

北九州工業高等専門学校情報公開取扱要項
北九州工業高等専門学校個人情報の保護管理者及び保護担当者指定に関する規則
北九州工業高等専門学校校長特別補佐規則
北九州工業高等専門学校における９高専連携事業に係る契約員に関する規則
北九州工業高等専門学校地域共同テクノセンター規則
北九州工業高等専門学校地域共同テクノセンター使用規則
北九州工業高等専門学校遺伝子組換え実験安全倫理規則
北九州工業高等専門学校事務組織及び教育研究支援室組織規則
北九州工業高等専門学校事務組織及び教育研究支援室組織細則
北九州工業高等専門学校文書処理規則
北九州工業高等専門学校公印規則
北九州工業高等専門学校主事規則
北九州工業高等専門学校学科長・学年主任・学級担任・教科代表規則
北九州工業高等専門学校構内交通規制要項
北九州工業高等専門学校構内交通規制内規
北九州工業高等専門学校専攻科主事及び専攻長規則
北九州工業高等専門学校後援名義使用許可基準
北九州工業高等専門学校感謝状贈呈要項
北九州工業高等専門学校法人文書管理規則
北九州工業高等専門学校ホームページ運用要項
北九州工業高等専門学校自己点検・自己評価規則
北九州工業高等専門学校総務主事規則
北九州工業高等専門学校副校長・校長補佐規則
北九州工業高等専門学校学生寮教員宿日直実施要項
北九州工業高等専門学校職員宿日直実施要項
北九州工業高等専門学校情報セキュリティ管理規程
北九州工業高等専門学校情報セキュリティ推進規程
北九州工業高等専門学校情報セキュリティ教職員規程
北九州工業高等専門学校職員証取扱要項
北九州工業高等専門学校危機管理規則
北九州工業高等専門学校情報セキュリティ利用者規程
北九州工業高等専門学校学術情報センター規則
北九州工業高等専門学校広報室規則
北九州工業高等専門学校名誉教授称号授与規則
北九州工業高等専門学校名誉教授称号授与内規
北九州工業高等専門学校における休日に業務を行なう部門を定める規則
北九州工業高等専門学校教員選考規則
北九州工業高等専門学校教員候補者推薦委員会規則
北九州工業高等専門学校資格審査委員会規則
北九州工業高等専門学校教員選考基準
北九州工業高等専門学校功労者表彰規則
北九州工業高等専門学校安全衛生管理規則
北九州高専における麻しん患者発生時の対応マニュアル
北九州工業高等専門学校客員教授等称号付与規則

（出典　総務課資料）

資料 11－１－①－３

各種委員会等の関連図



（出典　資料９－１－①－１　再掲）

観点11－１－②：　管理運営の諸規程が整備され、各種委員会及び事務組織が適切に役割を分担し、効果的に活動しているか。また、危機管理に係る体制が整備されているか。

（観点に係る状況）

管理運営の規則は，関係する事項に対応できるように各種規則等が整備されており，これらの規則は本校内のグループウェアで全教職員が確認できるようになっている（資料 11－１－①－２）。

管理運営に関する委員会として，主事会議並びに運営委員会をはじめとした主要委員会が，それぞれの役割を分担し活動している（資料 11－１－①－３）。

事務組織の役割については，事務及び教育研究支援室組織規則が定められており，管理運営上の役割分担が明確であり，規則に基づいて効果的な活動がなされている。重要事項については，事務連絡会議等を通じて事務系全体に情報の提供と周知がされる体制になっている（資料 11－１－②－１，２）。

危機管理に関しては，危機管理規則に基づいてリスク管理室を中心に迅速かつ的確に対処する体制がとられている（資料 11－１－②－３）。

（分析結果とその根拠理由）

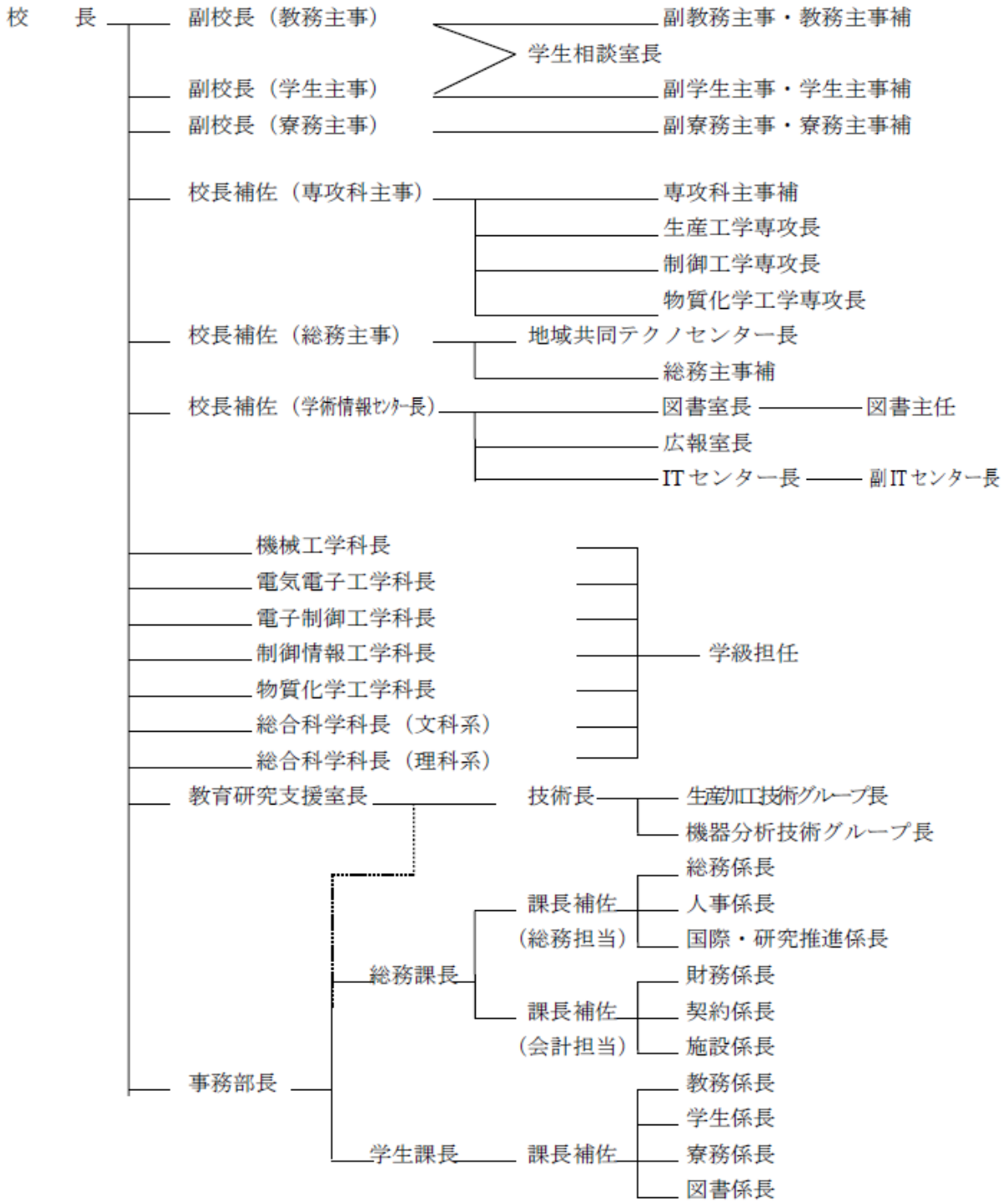
管理運営の諸規則が整備され，管理運営に関する委員会として，校長を議長とする主事会議及び運営委員会，その他各種委員会が設置されている。いずれもその委員会の趣旨，目的，組織等が規則等に明記され，各委員会の役割分担が明確に定められている。

事務組織の役割については，ほとんどの委員会に事務職員が構成員として加わっており，委員会の事務担当が明記されている。また，技術職員を含め，事務及び教育研究支援室組織規則が定められ，管理運営に関する役割分担が明確となっており，効果的に活動している。

危機管理に関しては，危機管理の規定を定めリスク管理室を中心に組織的に迅速に対処する体制がとられている。

資料 11－１－②－１

学校組織図



（出典　平成 25 年度学生便覧）

資料 11－１－②－２

○北九州工業高等専門学校事務及び教育研究支援室組織規則（抜粋）

昭和５４年１２月２０日　規則第３号
改正　平成２５年3月１８日

（総務課の所掌事務）
第９条　総務課においては、次の事務をつかさどる。
（１）総務事務に関し、総括し、及び連絡調整すること。
（２）情報公開に関すること。
（３）個人情報に関すること。
（４）人事評価に関すること（教員顕彰を含む。）。
（５）研修（本校担当分）に関すること。
（６）中期目標、中期計画に関すること。
（７）事務改善の企画・立案に関すること。
（８）外部評価に関すること。
（９）学科等の新設、改組に関すること。
（１０）総務関係諸規則の作成に関すること。
（１１）総務課（総務系）職員の労働時間管理に関すること。
（１２）その他総務課の所掌する総務事務のうち、高度の専門的知識又は経験を必要とする事項に関すること。
（１３）会計事務に関し、総括し、及び連絡調整すること。
（１４）予算及び決算の総括に関すること。
（１５）概算要求に関すること。
（１６）会計の監査及び検査に関すること。
（１７）損害保険プログラムに関すること。
（１８）施設マネジメントの総括に関すること。
（１９）環境・省エネに関すること。
（２０）総務課（会計系）職員の労働時間管理に関すること。
（２１）工事契約に係る総合評価の総括に関すること。
（２２）会計関係諸規則の作成に関すること。
（２３）その他総務課の所掌する会計事務のうち、高度の専門的知識又は経験を必要とする事項に関すること。

（以下，省略）

（出典　北九州工業高等専門学校規則集）

資料 11－１－②－３

○北九州工業高等専門学校危機管理規則（抜粋）

平成２３年５月２６日　規則第９号
改正　平成２４年２月１６日

（リスク管理室の設置）

第５条　校長は、本校における危機管理を総合的かつ計画的に推進するため、リスク管理室を設置する。

２　リスク管理室は、本校の危機管理に関して総括し、校長を補佐するとともに、危機管理体制の充実に努め、校長の指揮の下に、対処に必要な危機管理に当たる。

３　リスク管理室の構成は、次のとおりとする。

（１）校長

（２）副校長（教務主事、学生主事、寮務主事）

（３）校長補佐（専攻科主事、総務主事、学術情報センター長）

（４）事務部長

（５）総務課長及び学生課長

（６）その他校長が指名する者

（７）本項第２号から第５号に掲げる者をリスク管理室員とする。

４　リスク管理室長は校長とし、室長を補佐するため、副校長・校長補佐のうちから校長が指名する者１名及び事務部長を副室長とする。

５　リスク管理室の事務は、総務課が主管する。

（リスク管理室の業務等）

第６条　リスク管理室は、次の各号に掲げる業務を行うものとする。

（１）想定される危機（リスク）の検討（洗い出し)、評価と優先順位付けに関すること。

（２）危機管理に関する情報の収集分析及び対応策の検討に関すること。

（３）危機管理マニュアル等の策定、見直し及び周知に関すること。

（４）緊急時の組織体制及び情報伝達方法の整備並びに周知に関すること。

（５）危機管理に関する教育、研修、訓練等に係る企画、立案及び実施に関すること。

（６）学生等に対する適切な情報提供に関すること。

（７）危機対策本部を設置する場合の設置場所、備品、通信機器の準備に関すること。

（８）危機管理に関し、機構本部リスク管理対策本部と相互連携を図ること。

（９）その他危機管理に係る必要な事項の実施に関すること。

２　リスク管理室は、法令及び関係する本校規則等に従い、学生等が本校に起因する危機により災害を被ることがないよう常に配慮しなければならない。

（以下，省略）

（出典　北九州工業高等専門学校規則集）

観点 11－２－①：　自己点検・評価が学校として策定した基準に基づいて高等専門学校の活動の総合的な状況に対して行われ、かつ、その結果が公表されているか。

（観点に係る状況）

本校では学校教育法 109 条第１項に規定された自己点検・自己評価委員会を設置し，資料 11－２－①－１ に示す規則に基づいて学校の活動全般に関する自己点検・自己評価を実施している。平成 15～19 年度の自己点検・自己評価結果を総括し，平成 20 年に公開すると共に冊子として配布した。また，平成 20～24 年度の結果も総括し，平成 25 年にウェブサイト上に公開している(資料 11－２－①－２)。

（分析結果とその根拠理由）

本校では，自己点検・自己評価が継続的に実施されており，自己点検・自己評価報告書を発行している。これらは，学校の教育・研究活動，学生指導，施設設備，管理運営等にわたる全般的な内容になっており，それらの評価結果が本校ウェブサイトで公表されている。以上のことから，総合的な自己点検・自己評価を実施し，その結果については毎年本校ウェブサイト上に公開し５年毎に報告書を作成している。

資料 11－２－①－１

○北九州工業高等専門学校自己点検・自己評価委員会規則

平成１５年７月２４日　規則第１８号
改正　平成２４年２月１６日

（趣旨）
第１条　北九州工業高等専門学校自己点検・自己評価規則第３条第２項に基づき、自己点検・自己評価委員会（以下「委員会」という。）の組織、運営等に関し必要な事項を定める。
（目的）
第２条　委員会は、次の各号に掲げる事項について審議、検討する。
（１）自己点検・自己評価の基本方針に関すること。
（２）自己点検・自己評価の実施体制及び実施方法に関すること。
（３）自己点検・自己評価の結果の活用及び公表に関すること。
（４）その他自己点検・自己評価に関すること。
（組織）
第３条　委員会は、次の各号に掲げる者をもって組織する。
（１）教授、准教授のうちから校長が指名した者
（２）事務部長
（３）総務課長
２　前項第１号の委員の任期は１年とし、再任を妨げない。
３　前項の委員に欠員が生じた場合の後任の委員の任期は、前任者の残任期間とする。
（委員長等）
第４条　委員会に委員長及び副委員長１人を置く。
２　委員長及び副委員長は、前条第１項第１号の委員のうちから校長が指名する。
３　委員長は、委員会を招集し、その議長となる。
４　副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるときは前項の職務を代行する。
（会議）
第５条　委員会は、委員の３分の２以上の出席がなければ議事を開くことができない。
２　委員会の議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、委員長の決するところによる。
（委員以外の者の出席）
第６条　委員長が必要と認めたときは、委員以外の者を出席させ、その意見を聴くことができる。
（専門部会）
第７条　委員会に専門的事項を調査検討させるため、必要に応じて専門部会を置くことができる。
２　専門部会に関し必要な事項は、委員長が別に定める。
（事務）
第８条　委員会に関する事務は、総務課総務係において処理する。
（雑則）
第９条　この規則に定めるもののほか必要な事項は、校長が別に定める。
附　則
１　この規則は、平成１５年７月２４日から施行し、平成１５年４月１日から適用する。
２　この規則により初めて選出された第３条第１項第１号から第３号の委員の任期は、第３条第２項にかかわらず平成１６年３月３１日までとする。
附　則
この規則は、平成１８年３月１６日から施行する。
附　則
この規則は、平成１９年４月１日から施行する。
附　則
この規則は、平成２２年４月１日から施行する。
附　則
１　この規則は、平成２２年４月２２日から施行し、従前の委員はその任を解き、平成２２年度はＦＤ委員会規則第８条に規定する専門部会の委員とする。
２　この規則により初めて選出された第３条第１項の委員の任期は、第３条第２項にかかわらず平成２３年３月３１日までとする。
附　則
この規則は、平成２４年２月１６日から施行し、平成２３年９月１５日から適用する。

（出典　北九州工業高等専門学校自己点検・自己評価委員会規則より）

資料 11－２－①－２（その１）

ウェブサイトに公開されている本学の自己点検・自己評価書



独立行政法人 国立高等専門学校機構
北九州工業高等専門学校

› Home › アクセス › お問い合わせ › サイトマップ › ENGLISH

教職員募集 情報公開 教員総覧 事務部案内 教職員専用 意見箱（学内専用） リンク集

学校案内 | 学科案内 | 専攻科案内 | 学生活動 | 就職・進学 | 入試情報

受験生の皆様へ 保護者の皆様へ 地域の皆様へ 企業の皆様へ 卒業生の皆様へ 在校生へ

HOME » 学校案内 » 教育活動 » 自己点検・自己評価委員会活動

自己点検・自己評価委員会活動

1. 自己点検・自己評価委員会の目的
本校の自己点検･自己評価委員会は、学則に基づき、教育研究水準の向上を図り、本校の目的及び社会的使命を達成するため、本校における教育研究活動等の状況について自ら継続的に点検及び評価を行うために設置された委員会です。本委員会は、本校の自己点検・自己評価の基本方針に関すること、自己点検・自己評価の実施体制及び実施方法に関すること、自己点検・自己評価の結果の活用及び公表に関すること等について審議･検討することを目的としています。

2. 自己点検･自己評価委員会組織
本委員会は次の委員をもって組織しています。
（1）教授、准教授のうちから校長が指名した者
（2）事務部長
（3）総務課長

3. 北九州高専の評価組織図

4. 活動報告
毎年、点検対象項目を定め、自己点検・自己評価を行い、その結果を報告している。また、これらの結果は５年ごとにまとめ、外部に公表している。
（1）自己点検・自己評価　過去５年の歩み
（平成15年度～19年度の活動報告）
（2）自己点検・自己評価　過去５年の歩み
（平成20年度～24年度の活動報告）

学校案内
- 校長挨拶
- 教育方針
- 沿革
- 組織
- 教育活動
  - 教育目標
  - シラバス・チェックリスト・月割表
  - 学修の指針(PDF)
  - 公開授業
  - 中期目標・中期計画
  - 自己点検・自己評価委員会活動
  - FD委員会活動
- 外部評価
- 学内施設
- 広報誌
- 国際交流
- 環境方針
- 学内配置図

› Home › アクセス › お問い合わせ › サイトマップ

▲ PAGE TOP

独立行政法人 国立高等専門学校機構
北九州工業高等専門学校
独立行政法人 国立高等専門学校機構 北九州工業高等専門学校
〒802-0985　北九州市小倉南区志井5丁目20番1号
093-964-7200（代表）

緊急連絡用ページ
緊急用ページです。
携帯からもアクセス
できます。

Copyright(C) Kitakyushu National College of Technology All rights reserved.

（出典　北九州工業高等専門学校ウェブサイトより）

資料 11－２－①－２（その２）

平成 15 年～平成 19 年度の自己点検・自己評価活動報告の抜粋



自己点検･自己評価　過去5年の歩み

（平成１５年度～１９年度の活動報告）

平成２０年３月

北九州工業高等専門学校

自己点検・自己評価委員会

頁

・・・・・1

・・・・・3

・・・・・6

・・・・ 10

・・・・ 58

・・・・122

・・・・145

・・・・146

70

101

（出典　北九州工業高等専門学校ウェブサイトより）

資料 11－２－①－２（その３）

平成 20 年～平成 24 年度の自己点検・自己評価活動報告の抜粋



自己点検・自己評価　過去５年のあゆみ

（平成 20 年度～平成 24 年度の活動報告）

平成 25 年 3 月

北九州工業高等専門学校

自己点検・自己評価委員会

i
1
3
12
17
28
51
59

とめる.
ら判断して，妥当
きるものである]
ることが考えられ
成するため,
ます.
目の具体的な
れを具体化するた
教科)については,
体化)
いかと思われる.
明の際に,
成できるもの]な
体化した目標とし
ラムにしたがい進
いる.
ていろいろなもの
ログラムはシラバ

スの中に明確に記述されおり，各クラスにはシラバスが配布されている.
学生が身につけるべき学修プログラムに記載されている内容は，学校が提供する教育目標にすべて含まれていることが確認され，整合性が取れていることが確認された．しかし，シラバスに挙げているにもかかわらず，その内容を学生に説明する機会はほとんど設定されておらず，学生に十分周知されているとは思えない．また，教員にとっても，学生指導上これを念頭に置いていることは有意義であると考えられる．今後，学生及び教員への十分な周知が望まれる．また，内容に関しても実情に合わない場合
37

目己点検・目己評価委員会で取り上げた内容は以上であるが，この間学外からの支援も受けて、教育内容の充実に関していくつかの取り組みも始まっている。
まず、本科においては、卒業生を招いたインターンシップ講演会、進路指導セミナーや短期・長期工場見学等のキャリア教育を導入し、一部の学科では、工場見学で感じたことを発表する機会を設けている。4 年生に対しては、夏休み期間の「学外実習」に加え、後期にインターンシップを授業として取り入れた「長期学外実習」という科目を解説し、週 1
59

（出典　北九州工業高等専門学校ウェブサイトより）

観点 11－２－②：　自己点検・評価の結果について、外部有識者等による検証が実施されているか。

（観点に係る状況）

本校では，管理運営に外部有識者の意見を取り入れるために運営協議会を実施しており(資料 11－２－②－１)，教育研究活動や産官学連携，管理運営等を中心に議題として諮り，幅広く意見を収集している。外部評価は運営協議会実施規則(資料 11－２－②－２)に基づいて行われ，校長より委嘱された大学等教育研究機関関係者，地域の教育関係者，地域産業界等の関係者等により構成される。また，この運営協議会は資料 11－１－①－３に示す本校の点検，改善システムに組み込まれており，収集された意見は校長及び主事会議で分析され，検討や改善が必要な指摘事項を関連委員会等で審議して改善に結び付けている。

具体的には，資料 11－２－②－３に示すように教職員の負担軽減の実績があり，外部有識者の意見が管理運営に反映されている。

なお,平成７年度から 21 年度の外部評価委員会の議事録等については,本校のウェブサイトに掲載し，公開している(資料 11－２－②－４)。

資料 11－２－②－１

北九高専総補総第８号
平成２４年１２月　６日

国立大学法人九州工業大学長
松　永　守　央　殿

北九州工業高等専門学校長
塚　本　　寛
(公印省略)

平成２４年度北九州工業高等専門学校運営協議会の開催について（御案内）

寒冷の候　ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。
先に御案内いたしましたとおり運営協議会を下記により開催いたしますので、御多忙のところ誠に恐縮に存じますが万障御繰り合わせの上、御出席賜りますようお願い申し上げます。
つきましては、協議いただくテーマ及び資料を別添のとおり取りまとめましたので、予め御検討の程よろしくお願い申し上げます。また、恐れ入りますが、本資料につきましては、会議当日に御持参くださいますよう、併せてお願い申し上げます。
なお、タクシーチケット御利用の方には、来校用のチケットを１枚同封しておりますので御査収ください。帰りのチケットにつきましては、当日お渡しする予定としております。

記

１．日　程　　平成２４年１２月１２日（水）
会　　議：１０時００分から１２時１０分
（昼食：１２時２０分から１３時）
学内見学：１３時００分から１４時００分

２．場　所　　北九州工業高等専門学校管理棟２階会議室

３．テーマ　　次年度の認証評価受審に向けて
－教育、研究、連携及び管理運営について－

（出典　運営協議会開催通知　より）

資料 11－２－②－２

○北九州工業高等専門学校運営協議会規則

平成１６年６月２４日　規則第９号
改正平成２３年９月１５日

（設置）
第１条　北九州工業高等専門学校（以下「本校」という。）に、学校運営に関し、広く学外の有識者から意見を求めるため、運営協議会（以下「協議会」という。）を置く。
（目的）
第２条　協議会は、本校の学校運営全般について、指導、助言を行い、本校の健全な学校運営を支援することを目的とする。
（任務）
第３条　協議会は次に掲げる事項について校長の諮問に応じて審議し、及び校長に対して助言を行うものとする。
（１）教育に関すること。
（２）研究に関すること。
（３）地域との連携、産官学連携に関すること。
（４）管理運営に関すること。
（５）その他必要と認める事項。
（組織）
第４条　協議会は、次の各号に掲げる者のうちから校長が委嘱した委員をもって組織する。
（１）大学等教育研究機関の関係者
（２）地域の教育関係者
（３）地方公共団体の関係者
（４）地域産業界等の関係者
（５）本校同窓会長
（６）その他校長が必要と認めた者
２　協議会に議長を置き、委員の互選により選出する。
３　議長は、協議会を招集し、会務を総括する。
（任期）
第５条　委員の任期は、原則として１年とし、再任を妨げない。
（代理者の出席）
第６条　委員は、やむを得ない理由により協議会に出席できないときは、当該委員があらかじめ指名した代理者を出席させることができる。
（実施方法）
第７条　委員は、資料による調査、ヒアリング及び実地調査等で現状を検証し、それに基づいて指導、助言を行う。
（事務）
第８条　協議会に関する事務は、総務課課長補佐（総務担当）において処理する。
（雑則）
第９条　この規則に定めるもののほか、協議会に関し必要な事項は、校長が別に定める。
附　則
この規則は、平成１６年６月２４日から施行する。
附　則
この規則は、平成１９年４月１日から施行する。
附　則
この規則は、平成２２年４月１日から施行する。
附　則
この規則は、平成２３年９月１５日から施行する。

（出典　運営協議会規則　より）

資料 11－２－②－３

平成２４年度第８回運営委員会議事要録（抜粋）

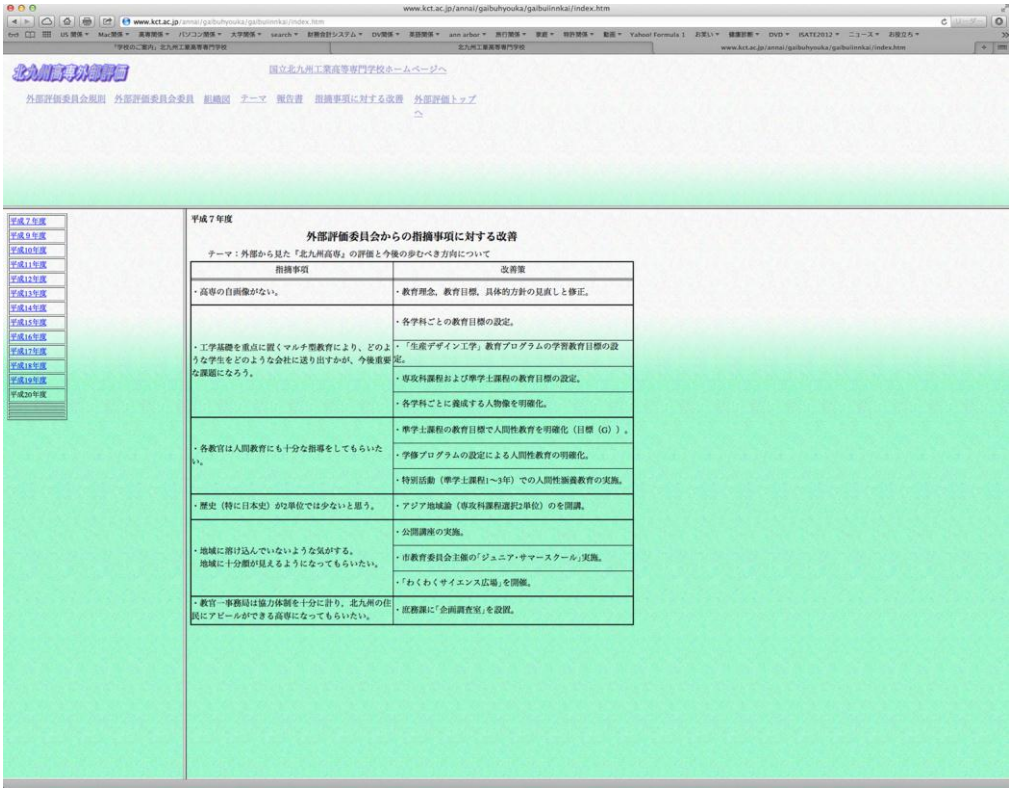
日　　時　　平成２４年１２月２０日(木)　１５:５０～１７：４５
場　　所　　管理棟２階会議室
出 席 者　　塚本校長、内田教務主事、山田(康)学生主事、白神寮務主事、松嶋専攻科主事、寺井総務主事、樫村学術情報センター長、平島機械工学科長、開道電気電子工学科長、宮崎電子制御工学科長、浜松制御情報工学科長、竹原物質化学工学科長、山本総合科学科長（文科系）、宮内総合科学科長（理科系）、古畑事務部長、岩永総務課長、佐々木(勝)学生課長
ｵﾌﾞｻﾞｰﾊﾞｰ　　藤田総務課長補佐、林田総務課長補佐、佐々木学生課長補佐、島津技術長
（記録：川端）

２　議　事
［議　　題］

（４）委員会数の削減について
塚本校長から、資料５「北九州高専管理運営体制（平成２４年１０月１日実施）」等に基づき、先日開催された運営協議会において、委員会の数が多く、もっと削減した組織にすべきであるとの指摘があったとの説明の後、一緒にできる委員会があれば統合したいとの提案があり、審議の結果、ＦＤ委員会の名称は残したまま運営委員会の一連の流れの中で行っていくこととした。
なお、これ以外の委員会においても同じメンバーのものは一括りで行っていくよう検討することとし、各学科や委員会で持ち帰って意見をいただきたいとの依頼があった。

（出典　運営委員会議事録より運営協議会からの改善指摘例）

資料 11－２－②－４



北九州高専外部評価

国立北九州工業高等専門学校ホームページへ

外部評価委員会規則　外部評価委員会委員　組織図　テーマ　報告書　指摘事項に対する改善　外部評価トップへ

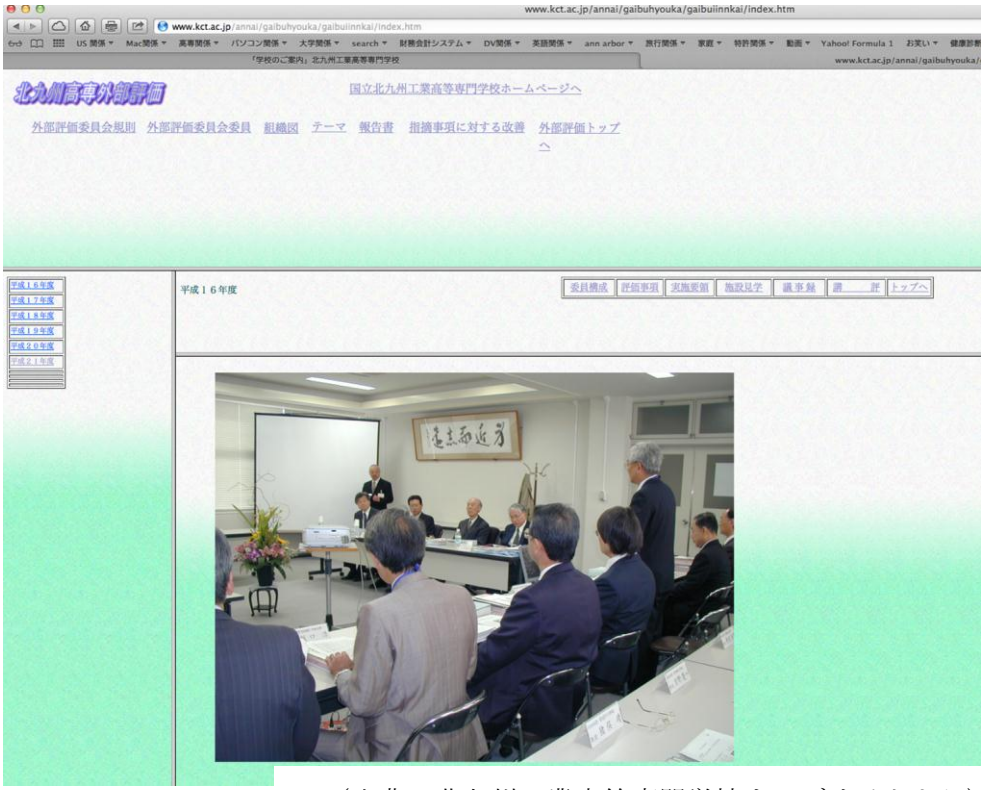
平成７年度

平成７年度
平成９年度
平成10年度
平成11年度
平成12年度
平成13年度
平成14年度
平成15年度
平成16年度
平成17年度
平成18年度
平成19年度
平成20年度

外部評価委員会からの指摘事項に対する改善

テーマ：外部から見た『北九州高専』の評価と今後の歩むべき方向について

指摘事項	改善策
・高専の自画像がない。	・教育理念，教育目標，具体的方針の見直しと修正。
・工学基礎を重点に置くマルチ型教育により，どのような学生をどのような会社に送り出すかが，今後重要な課題になろう。	・各学科ごとの教育目標の設定。 ・「生産デザイン工学」教育プログラムの学習教育目標の設定。 ・専攻科課程および準学士課程の教育目標の設定。 ・各学科ごとに養成する人物像を明確化。
・各教官は人間教育にも十分な指導をしてもらいたい。	・準学士課程の教育目標で人間性教育を明確化（目標（G））。 ・学修プログラムの設定による人間性教育の明確化。 ・特別活動（準学士課程1～3年）での人間性涵養教育の実施。
・歴史（特に日本史）が2単位では少ないと思う。	・アジア地域論（専攻科課程選択2単位）のを開講。
・地域に溶け込んでいないような気がする。 地域に十分顔が見えるようになってもらいたい。	・公開講座の実施。 ・市教育委員会主催の「ジュニア・サマースクール」実施。 ・「わくわくサイエンス広場」を開催。
・教官一事務局は協力体制を十分に計り，北九州の住民にアピールができる高専になってもらいたい。	・庶務課に「企画調査室」を設置。



北九州高専外部評価

国立北九州工業高等専門学校ホームページへ

外部評価委員会規則　外部評価委員会委員　組織図　テーマ　報告書　指摘事項に対する改善　外部評価トップへ

平成１６年度

平成１６年度
平成１７年度
平成１８年度
平成１９年度
平成２０年度
平成２１年度

委員構成　評価事項　実施要領　施設見学　議事録　評　トップへ

（出典　北九州工業高等専門学校ウェブサイトより）

（分析結果とその根拠理由）

本校では，外部評価が定期的に開催され，意見等を本校の管理運営に反映させるシステムが存在している。また，管理運営に反映させるシステムが機能し，改善実績が存在しており，外部有識者の意見を取り入れ，本校の管理運営に適切に反映させるシステムが存在し，機能している。

観点 11－２－③：　評価結果がフィードバックされ，高等専門学校の目的の達成のための改善に結び付けられるようなシステムが整備され，有効に運営されているか。

（観点に係る状況）

本校では，自己点検・自己評価を行い，評価結果をフィードバックして改善に反映させるシステムとして 資料 11－１－①－３に示す点検，改善システムがある。点検機能としての自己点検・評価委員会からの自己点検・自己評価結果は校長に提出され，運営委員会で校長より報告されて改善が必要な事項については該当の委員会や学科などに改善の指示がなされる。指摘を受けた該当委員会や学科では指摘事項について検討して改善し，その効果を各種アンケートや自己点検・自己評価等で確認，評価し，このようなサイクルを通して改善が進められている。さらに，平成 15 年度より JABEE 委員会（現 JABEE・認証評価委員会）が主として教育面の自己点検・自己評価を分担しており，自己点検・自己評価委員会と合わせて改善に結びつけるシステムが存在している。

具体例としては，平成 23 年度の自己点検・自己評価結果に基づいて自己点検・自己評価委員会で検討した緊急性の高い改善指摘事項に対する改善事例として，専攻科生が学会参加する際の出張費を補助する，帯同経費についての提言(資料 11－２－③－１)，専攻科の「特別実習」の参加時期延長についての提言などによる改善がなされている。また，主として教育面が主体であるが，平成７年度の自己点検・自己評価からは毎回テーマを絞り検討を行っており，本学のウェブサイトでも公開している（資料 11－２－③－２)。同資料に示すように，多くの改善事例が報告され，上記の点検，改善システムが実際に有効に機能している。

また，一層の改善を促すため，平成 25 年度の FD 委員会において授業アンケートについて検討し，点検･改善効果について評価を受け，今後，評価結果を分析して必要に応じて改善につなげる予定である。

資料 11－２－③－１

専攻科委員会検討結果報告

帯同経費による学生の学外発表の効果について

1．帯同経費について

専攻科委員会では、以下の意見が出された。

（1）学生の学外発表について

・学外発表をさせると学生の取り組む意欲が違う。
・発表することにより学生の変化がみられる。
・外で発表するのが本来の研究であり、専門家の意見も聞け、学生のレベルアップにつながる。
・教員が旅費の心配をせず、学生に学外発表させることができるのが良い。
・発表に対する外部の評価も高い。
・発表することは高専の PR にもなっている。

（2）運用に関して、

・帯同が終わったら報告書を提出させるべきである。
・帯同経費支給状況のデータを継続的に管理保管すべきである。

2．帯同経費の支出実績について

平成 21 年度、22 年度の帯同経費使用実績は次表のとおりである。

・平成 21 年度より 22 年度の方が帯同経費支給による発表件数が大きく増えている。
・22 年度の学生発表状況を調査した結果、平成 22 年度は帯同経費を使用しない発表件数も 39 件あった。
・帯同経費を申請したが、予算がなく経費の配分がなかったとの意見が学科からあげられている。
・平成 21 年度は帯同経費の予算は余ったが、22 年度は申請件数が増えて予算をオーバーし、追加予算および後援会の支援費により経費の支給が行われた。
・平成 23 年度は 9 月時点で 28 件の申請が出されている状況にある。

帯同経費使用実績

	帯同経費支給件数（発表学生数）	帯同経費支給額	帯同経費を使用しない学外発表	備考
21 年度	21 件	1,170,580 円	—	当初予算・残
22 年度	39 件	2,247,525 円	39 件 その他、震災による中止 5 件	当初予算・オーバー
23 年度	28 件　（9 月 15 日現在）	—	—	

（参考：平成 19 年度学生学外発表 23 件、平成 20 年度 17 件）

3．専攻科委員会での検討結果

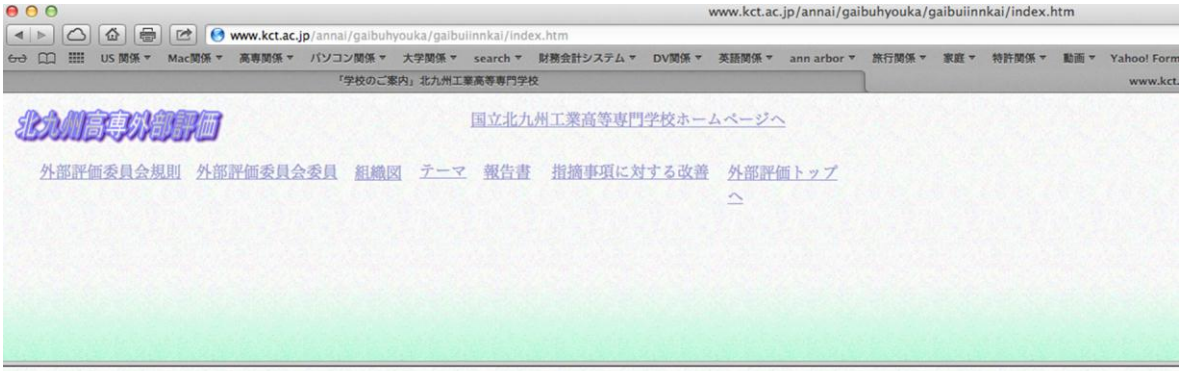
学生に学外発表をさせることは教育効果も大きい。帯同経費導入後、学外発表件数は増加傾向にあると考えられ、学外発表を促進する上において、導入された帯同経費は効果があるものと考えられる。

なお、帯同経費運用に関して指摘された点については、審議の結果、次年度より発表終了後報告書を提出させること、帯同経費支給状況のデータを事務部で管理保管する体制を整えることを決定した。

38

（出典　平成 23 年度自己点検・自己評価委員会年次報告　より）

資料 11－２－③－２



外部評価委員会　（平成15年度までは学外有識者との懇談会）

年度	日時	テーマ	委員
7	平成8年 2月26日　10:30～13:30	・外部から見た『北九州高専』の評価と今後の歩むべき方向について	人 1 7
9	10月31日　10:00～13:00	・地域社会の一員としての北九州高専は何をすべきか	１８
１０	10月30日　10:00～13:00	・専攻科について－第1回修了生を送り出すことによって－ ・産学官連携の推進について	１８
１１	11月　2日　10:00～13:00	・北九州工業高等専門学校の教育改革について －現状と充実・発展のための方策－	１８
１２	10月27日　10:00～13:00	・地域は北九州高専にどのような技術者を求めているか。	１８
１３	11月14日　10:00～13:00	・北九州高専の現状と充実･発展のための課題	１２
１４	12月　2日　10:00～13:00	・教育研究体制の改革について －　来るべき独立行政法人化に備えて　－	１３
１５	12月　1日　10:00～16:00	・教育研究の在り方について	１３
１６	12月13日　10:00～16:00	・JABEE受審に向けて	7
１７	12月　1日　10:00～13:00	・北九州高専の授業アンケート及び卒業生アンケートについて	9
１８	11月30日　10:00～13:00	・教育の成果について ・教育の質の向上及び改善のためのシステムについて ・継続的授業アンケートについて	8
１９	12月20日　10:00～1300	・中期計画は、中期目標を達成するために、十分配慮されたものになっているか。（　不足している項目は無いか。） ・各組織や委員会が18年度に行った「現状分析・進捗状況」及び「今後の対応」は、　客観的に見て適切なものになっているか。	9
２０	12月8日　10:00～14:00	・授業アンケートの集計結果について ・授業アンケート集計結果を踏まえた授業改善に向けての取組について	9
２１	12月14日　10:00～14:00	・"これからの北九州高専における教育"について	9

（出典　北九州工業高等専門学校ウェブサイト　より）

（分析結果とその根拠理由）

本校では，自己点検・自己評価結果をフィードバックして改善を図るシステムが存在し，実際に改善された実績がある。また，点検や評価結果及び改善事例について外部評価を受けており，評価結果がフィードバックされ，本校の目的の達成のための改善に結びつく改善システムが整備され，有効に運営されている。

観点 11－３－①：　外部有識者などの意見や第三者評価の結果が適切な形で管理運営に反映されているか。

（観点に係る状況）

自己点検・自己評価委員会などが行った自己評価，運営協議会が行った外部評価の結果は報告書としてまとめられ（資料 11－３－①－１），全教員が閲覧可能な環境を整備し内容が周知されている。

校長は，評価結果に基づき改善が必要と認められるものについては，副校長（主事），運営委員会メンバーと連携し自ら改善に努めている。各委員会等は，評価結果を踏まえた年度計画の作成・実施・点検・評価の PDCA サイクルを繰り返すことにより，管理運営上の改善事例に結び付けている。

なお，外部有識者による第三者評価は，教職員の負担軽減を考慮し，平成 21 年度からは 1 年に 1 度の割合で行っている（資料 11－３－①－２）。

（分析結果とその根拠理由）

校長は，外部評価の結果に基づき改善が必要と認められるものについて，運営委員会メンバー等と連携し改善を推進・提言し，各委員会等は，外部評価結果及び校長・運営委員会等の提言を踏まえて年度計画の作成・実施・点検・評価の PDCA サイクルを繰り返すことにより，管理運営上の改善事例に結び付けている。

資料 11－３－①－１



HOME » 学校案内 » 外部評価

外部評価

大学評価・学位授与機構認証評価

本評価結果は、平成18年6月末に大学評価・学位授与機構へ提出した自己評価書について、高等専門学校機関別認証評価委員会の下に編成された評価部会において、書面調査及び訪問調査を行い、高等専門学校機関別認証評価委員会において、評価を受けた結果、確定したものです。

自己評価書　（５４．６MB）・・・少し時間がかかります。
評価結果報告書（基準１～基準１１）
評価結果報告書（選択的評価事項に係る評価）

学校案内
- 校長挨拶
- 教育方針
- 沿革
- 組織
- 教育活動
- 外部評価
  - 外部評価委員
  - JABEE
  - 認証評価
- 学内施設
- 広報誌
- 国際交流
- 環境方針
- 学内配置図

（出典　北九州工業高等専門学校ウェブサイト　より）

資料 11－３－①－２

外部有識者による第三者評価

年度	内容
平成21年度	外部評価委員会（運営協議会）
平成22年度	JABEE（日本技術者教育認定機構）
平成23年度	運営協議会
平成24年度	運営協議会
平成25年度	機関別認証評価（予定）

（出典　JABEE・認証評価委員会作成）

観点 11－３－②：　学校の目的を達成するために，外部の教育資源を積極的に活用しているか。

（観点に係る状況）

本校では，学校の目的を達成するために，国内外の高等教育機関や地域企業，同窓会等多くの外部教育資源を積極的に活用している。他の高等教育機関との交流協定（訪問時閲覧資料）としては，平成 17 年に九州工業大学と学術交流協定を結んでいる。専攻科１，２年生を対象にした「専攻科特論Ⅱ，Ⅲ」（資料 11－３－②－１）では，地元企業の技術者から指導を受ける，より実践的な講義・実習（実践プロ技術者育成講座）を行っている。さらに「専攻科特論Ⅳ，Ⅴ，Ⅶ」（資料 11－３－②－２）では企業技術者活用プログラム・知的財産教育・外国人講師による講義も行っている。

本科４年生の主に夏季休業期間を利用した「学外実習」（資料 11－３－②－３）や後学期授業期間中の週 1 日終日実習・実務を行う「長期学外実習」（資料 11－３－②－４），専攻科生対象の「特別実習」（資料 11－３－②－５）では，企業の生産現場や研究部門などで実習を行うことにより，技術者としての知識習得はもとより社会人としての人間性の育成に寄与している。

平成 21 年に高専機構とシンガポールの３ポリテクニックとの間で調印（平成 23 年には５ポリテクニック）された包括交流協定を利用し，英語キャンプ（資料 11－３－②－６），海外工場見学旅行（資料 11－３－②－７）を実施し，学生の語学能力・コミュニケーション力の向上に活用している。

また，キャリア教育の一環として，近隣大学の教員による特別講演（資料 11－３－②－８）を行い，学生の就職・進学活動の支援に活用している。

「企業技術者活用プログラム」（資料 11－３－②－９）では，本校 OB を中心に７名の特命教授を迎え，学生時代に習得する知識の実社会での活用法や実践的な技術を学生に伝えることで，就職活動に活用している。

さらに，福岡県教育委員会と連携し，本学教員が各種研修に講師・受講生として参加することで，学生への教育研究の支援のスキル向上に役立てている（資料 11－３－②－10）。

資料 11－３－②－１（その１）

専攻科特論Ⅱ、Ⅲカリキュラム（実践メカトロニクス工学）

更新日　2012/10/31

1．2012年度前期（専攻科特論講義Ⅱ）

	主な内容		各回講義内容	担当	講義場所	目安日程	コマ数	時間割り	教室
1	基礎編	産業用ロボットの理解と基礎学習	オリエンテーション ・講座内容の概要 産業用ロボットの基礎(1) ・産業用ロボットとは ・産業用ロボットの歴史，用途、種類 ・世界／日本のロボット市場	■■ 先生	北九州高専	5/18	3コマ	6，7，8時限目	第2講義室
2			産業用ロボットの基礎(2) ・ロボットの構成（ハードウェア、ソフトウェア） ・ロボットのタイプ、座標系 ・運動制御とサーボ制御	■■ 先生	北九州高専	5/25	3コマ	6，7，8時限目	第2講義室
3			産業用ロボットの基礎(3) ・ロボット言語 ・オフラインティーチング	■■ 先生	北九州高専	6/1	2コマ	7，8時限目	第2講義室
4		産業用ロボットの機械的要素	マニピュレータの機構設計 ・ロボットの形態、駆動部構成 ・マニピュレータの仕様、構成要素 ・機構設計	■■ 先生	北九州高専	6/8	2コマ	5，6時限目	第2講義室
							2コマ	7，8時限目	第2講義室
5		産業用ロボットの制御と演習	ロボットの制御設計(1) ・順運動学と逆運動学	■■ 先生	北九州高専	6/22	2コマ	5，6時限目	第2講義室
			ロボットの制御設計(2) ・サーボ制御（制御ブロック、PID制御、指令生成）				2コマ	7，8時限目	第2講義室
6			センサを使った応用技術 ・センサの役割 ・センサを用いた機能の理解 ティーチング（教示）の方法	■■ 先生	北九州高専	6/29	2コマ	5，6時限目	第2講義室
7			教育用ロボットによる課題演習(1) ・操作の習得、動作確認、演習	■■ 先生 ■■ 先生	北九州高専	7/6	2コマ	5，6時限目	第2ゼミ室
							2コマ	7，8時限目	第2ゼミ室
8			教育用ロボットによる課題演習(2) ・ロボット制御の実践	■■ 先生 ■■ 先生	北九州高専	7/13	2コマ	5，6時限目	第2ゼミ室
							2コマ	7，8時限目	第2ゼミ室
9			■■■■工場見学 ・製造工程の見学 ・操作方法見学もしくは体験	■■ 先生	■■■■ ■■■工場	7/20	2コマ 2コマ	14:00～	■■■■ ■■■工場

2．2012年度後期（専攻科特論講義Ⅲ）

	主な内容		各回講義内容		講義場所	目安日程	コマ数	時間割り	教室
1	実践編	ロボットシミュレータを用いた 産業用ロボットの操作・プログラミング演習	ロボットシミュレータ概論、紹介 ・シミュレータの種類、有効性 ・ソフトウェア実行環境構築	■■ 先生 ■■ 先生	北九州高専	10/5	3コマ	6，7，8時限目	知能情報演習室
2			シミュレータ基本演習(1) ・シミュレータ上でのティーチング実践 ・干渉チェック	■■ 先生 ■■ 先生	北九州高専	10/12	2コマ	5，6時限目	知能情報演習室
3			・サイクルタイム算出				2コマ	7，8時限目	
4			シミュレータ基本演習(2) ・セル環境の構築 ・ツールモデリング、周辺機器レイアウト	■■ 先生 ■■ 先生	北九州高専	10/19	3コマ	6，7，8時限目	知能情報演習室
5									
6			シミュレータ実践応用演習(1) ・与えられた演習問題に対応した、セル作成～ティーチング～サイクルタイム検討を行う	■■ 先生 ■■ 先生	北九州高専	10/26	2コマ	5，6時限目	知能情報演習室
7							2コマ	7，8時限目	
8			シミュレータ実践応用演習(2) ・サイクルタイム短縮実践	■■ 先生 ■■ 先生	北九州高専	11/9	2コマ	5，6時限目	知能情報演習室
9							2コマ	7，8時限目	
10	プロダクトデザイン	プロダクトデザイン概論	デザインと製品開発（マーケティング）	■■ 先生	北九州高専	11/16	2コマ	5，6時限目	第2講義室
11			デザインプロセス・デザインコンセプト	■■ 先生	北九州高専	11/30	2コマ	5，6時限目	第2講義室
12			デザイン概史	■■ 先生	北九州高専	12/7	2コマ	5，6時限目	第2講義室
13			デザインの方法-1（カラーチャート作成と分	■■ 先生	北九州高専	12/14	2コマ	5，6時限目	第2講義室
14			デザインの方法-2（カラーチャート作成と分	■■ 先生	北九州高専	1/18	2コマ	5，6時限目	第2講義室
15			デザインの方法-3（カラーチャート作成と分				2コマ	7，8時限目	第2講義室

（出典　平成 24 年度　専攻科特論Ⅱ、Ⅲの案内　より）

資料 11－３－②－１（その２）

【教科名】専攻科特論 II, III　　Topics in Advanced Engineering II, III　　＜H25＞

学年	専攻	単位数	期間	開設週数	学校授業時間		自学自習時間		総時間
					時間/週	総時間	時間/週	総時間	
1, 2	全工学専攻	(選択)各 2	半期	II：15 週 III：15 週		II：30 III：30		II：60 III：60	II：90 III：90

【担当教員】吉野　慶一　　【教員室】4 号館 5 階　　【TEL】7283　　【e-mail】yoshino

【授業目的と概要】
地域連携による共同教育の講座で学修した結果、その成果が 2 単位に相当すると認められる場合には、専攻科特論 II・III を学修したものとし、それぞれについて 2 単位を認定する。講座の授業目的と概要は、開催に先立って通知される。

【授業の進め方及び履修上の注意】	【自学自習の指導について】
設定された講座、レクチャーの内容により、参加者の専攻分野が限定されることがある。	担当教員の指導に従う。

授　業　項　目	内　　容	時間
【地域連携による共同教育講座】の場合	平成 23 年度は、専攻科特論 II、III により、「ロボット産業と連携した実践プロ技術者育成講座」（対象は専攻科 1 年生）として『実践メカトロニクス工学』の開講を予定している。（なお、本講座の場合、機械、電気、制御系の基礎が必要である。また専攻科特論 III の履修には専攻科特論 II を履修していることが望ましい。）	
〔基礎編〕 1. 産業用ロボットの理解と基礎学習 2. 産業用ロボットの機械的要素 3. 産業用ロボットの制御と演習	・産業用ロボットの歴史、産業用ロボットの基礎（ロボットの種類、ロボットの構成、運動制御とサーボ制御、ロボット言語など） ・マニピュレータの機構設計（ロボットの形態、駆動部構成、機構設計など） ・ロボットの制御設計、センサーを使った応用技術、産業用ロボットの制御方式など	30
（実践編） 1. ロボットシミュレータによる産業用ロボットの操作とプログラミング演習 2. プロダクトデザイン	・ロボットシミュレータ概論、シミュレータの基礎演習、シミュレータの応用演習 ・シミュレータ実践応用演習 ・デザインと製品開発（マーケティング）、デザインの歴史、デザインの方法など	30

【達成目標】	【教科書】
・実施機関、開催校で設定した目標を達成し、定められた基準により、合格の評価を得ること。	実施機関が指定または準備する教材 【参考書】 適宜、担当教員から紹介される

JABEE 目標	(B)①, (D)①②, (E)②, (F)②
専攻科課程目標	(B)①, (D)①②, (E)②, (F)②

成績評価	【評価基準】 【達成目標】の欄に記載したとおりである。 【評価方法】 レポート及び演習により評価を行う。	【オフィスアワー】 随時

（出典　平成 25 年度シラバス（専攻科特論Ⅱ、Ⅲ））

資料 11－３－②－２（その１）

KCT KITAKYUSHU NATIONAL COLLEGE OF TECHNOLOGY

国立　北九州工業高等専門学校

産学官連携共同教育

専攻科特論Ⅳ「未来環境・エネルギー技術特論」

平成２４年度９月開講 専攻科受講生（全工学専攻1年生・2年生）募集

現在低炭素化社会に向けた動きが活発化しており、地元北九州市では「環境モデル都市」として低炭素化社会実現に向けた取り組みを積極的に行っています。既に日々の生活の中で、低炭素化社会の実現のための新規技術開発が様々な分野で進められています。

そこで、低炭素化技術分野に関心を持ち、当該関連分野で活躍する技術者を育成することを目指して、本校の専攻科生を対象に、本年度後期に「専攻科特論Ⅳ　未来環境・エネルギー技術特論」の講義を開設することになりました。低炭素化に関する事業や未来環境・エネルギー分野の最前線の技術を学ぶ機会を与えることを目的にしており、地域の産官学を中心に講師をお迎えして、未来環境・エネルギーの最新技術に関する共同教育を行います。全工学専攻科生へ本特論への受講を募ります。

講義実施内容

平成24年度9月28日（金）開講　【平日（金曜日）：15：10～16：55】

講義場所　4号館1階　共用室（１）

２回の見学会を実施（FAIS学研ひびきのカーエレクトロニクスセンター及び福岡地区水道企業団海水淡水化センター）

講義番号	講義概要		講師	講義日
①	導入	・授業内容の概要 ・未来環境・エネルギー概論	[redacted]	9/28（金） 15：10～16：55
②	材料	バイオマス利用技術の開発（バイオプラスチック）		10/26（金） 15：10～16：55
③		膜分離技術（孔拡散分離膜、造核材を使用した水処理技術）		11/28（水） 15：10～16：55
④	材料・デバイス	高性能環境化学センサーの開発と知財		12/7（金） 15：10～16：55
⑤		自動車用排出ガス触媒		12/14（金） 15：10～16：55
⑥	デバイス・システム	カーエレクトロニクス(1)自動車工学		10/5（金） 15：10～16：55
⑦		カーエレクトロニクス(2)/FAIS 学研ひびきのカーエレクトロニクスセンター・電気自動車		10/12（金） 12：50～16：55 ＊見学会実施
⑧		環境･エネルギーと水		11/9（金） 15：10～16：55
⑨		海洋・排熱温度差発電		10/19（金） 15：10～16：55
⑩		浸透圧発電		11/16（金） 15：10～16：55
⑪		海水淡水化		11/30（金） 12：50～16：55 ＊見学会実施
⑫		潮流発電		H25/1/18（金） 15：10～16：55
⑬	マネジメント	環境未来都市戦略		H25/1/11（金） 15：10～16：55
⑭		グリーンイノベーション MOT 戦略（環境・資源・エネルギー領域の製品技術の事業化について）		H25/1/25（金） 15：10～16：55
⑮		製品設計開発から、生産技術、マーケティング、特許戦略、技術提携等の事例研究（グループ討議、ビジネスプランの作成演習）		H25/2/1（金） 15：10～16：55

注）講師の方々の都合で、講義実施内容と講義日の順番が相違しますので間違えないよう各自確認して下さい。

＊本特論は、独立行政法人国立高等専門学校機構から平成23-24年度「企業技術者等活用プログラム」（プログラム名称：教育コーディネーター活用産学官連携共同教育、副題：「低炭素化技術関連の人材養成」の取り組み）に本校が採択され、産学官地域連携講座として平成23年度後学期に開講した専攻科特論Ⅳ「低炭素化技術特論」に引き続き実施します。

（出典　平成 24 年度　専攻科特論Ⅳの開催案内　より）

資料 11－３－②－２（その２）

H24 年度　専攻科特論Ｖ（知的財産関係）講義日程

講義番号	授業日	担当講師	講義内容	成績評価	教室
1	6/7（木） 7,8 限	■■■■ ■■■■先生	産業財産権へのアプローチ 産業財産権を身近に感じる、 特許調査を体験する	レポート	制情棟 CAD 室
2	6/14（木） 5,6 限	■■■■大 ■■■■先生	意匠、商標、著作権の概要	講義時間内でテスト	大講義室
3	6/14（木） 7,8 限	■■■■大 ■■■■先生	特許制度の概要（１） ・出願から登録までの流れ、特許性、 共同出願、外国出願等		
4	6/28（木） 5,6 限	■■■■大 ■■■■先生	特許制度の概要（２） ・明細書の書き方・読み方、記載要件、 補正の限定		大講義室
5	6/28（木） 7,8 限	■■■■大 ■■■■先生	特許係争　ケーススタディー		
6	7/5（木） 5,6 限	■■■■ ■■■■先生	■■■■のプロパテント活動 研究・開発活動から知的財産を見出す！	レポート	大講義室
7	7/12（木） 5,6 限	■■■■ ■■■■先生	企業における知的財産権の重要性と技術者の役割	レポート	大講義室
8	7/19（木） 5,6 限	■■■■ ■■■■先生	株式会社■■■■の高殺菌材料　■■■■ ■■■■による殺菌・消臭技術紹介	検討中	大講義室

対　象：専攻科１年生、専攻科２年生（前年度に専攻科特論ｖ単位取得者を除く）
期　日：平成 24 年 6 月 7 日～7 月 19 日の木曜午後（6/21 を除く）
回　数：計 8 回、但し 2,3 回と 4,5 回は同日に実施

注意事項

・受講希望者は、各学科の専攻科主事補の教員から下記の受講申込票を受け取り、6/1(金)までに教務係に提出すること。
・受講生は、毎回欠かさず講義に出席すること。
・成績評価は、レポート提出または講義時間内に実施するテストによって行われる。

（出典　平成 24 年度　専攻科特論Ｖの開催案内　より）

資料 11－３－②－２（その３）

H24 年度　専攻科特論Ⅶ(英語による専門授業)講義日程

講義番号	授業日	担当講師	講義内容	成績評価	教室	担当
1	10/25(木) 3,4 限	■■■大 ■■■■■ 先生	モバイル・コンピューティング	レポート	専攻科第一講義室	後藤
2	10/25(木) 7,8 限	■■■大 ■■■■■ 先生	ネットワークベース・ コンピューティング	〃	〃	木田
3	10/31(水) 5,6 限	■■■大学院 ■■■■■ 先生	Photosynthesis, Energy problems and Solar cells	〃	〃	加島
4	11/7(水) 5,6 限	■■■大学院 ■■■■■ 先生	Dye -sensitized solar cells andapproaches for enhancing the conversion efficiency	〃	〃	小清水
5	11/15(木) 5,6 限	■■■大 ■■■■■ 先生	ロボット用アクチュエータの概要	〃	〃	添田
6	11/22(木) 5,6 限	■■■大 ■■■■■ 先生	サーボモータの制御と ロボット工学の概要	〃	〃	小畑
7	11/29(木) 7,8 限	■■■大学院 ■■■■■ 先生	言語データの構造化： 漢字から単語の意味まで	〃	〃	中村
8	12/6(木) 7,8 限	■■■大学院 ■■■■■ 先生	類推に基づく機械翻訳システム	〃	〃	安信

対　象：専攻科１年生、専攻科２年生
期　日：平成 24 年 10 月 25 日(木) ～ 12 月 6 日(木)
回　数：計 8 回(但し、1,2 回は同日に開講)

※受講を希望する学生は、各科の専攻科主事補または教務係より受講票入手し、必要事項を記入の上、10 月 22 日(月)までに教務係に提出すること。

※講師の先生の都合により、講義日程等が変更になる場合があります。

（出典　平成 24 年度　専攻科特論Ⅶの開催案内　より）

資料 11－３－②－３

【教科名】学外実習　Extramural On-the-job Training　＜履修単位科目＞

学年	学科	単位数	期間	開設週数	時間/週	総時間
4	機械工学科	（選択）1	夏季休業中	1～2 週間	-------	30 時間以上

【担当教員】平島　繁紀　【教員室】3 号館 2 階　【TEL】7269　【e-mail】hirasima

【授業目的と概要】

企業・公的機関・大学などにおいて短期間の現場実習を体験することで、設計・生産・開発の技術、試験・研究・保守管理などについて実践的に学び、実社会の厳しさを知るとともに、社会人（技術者）として必要な人間性（責任感・協調性・倫理観など）の形成を目指す。また、学外実習を通して、勉学の意味と目標ならびに学生生活の意義を再認識することで、将来の進路選択に役立てる。

【授業の進め方及び履修上の注意】

第 4 学年時の夏季休業期間を利用して、企業・公的機関・大学などの実習受入れ先で、1～2 週間（実 30 時間以上）の実習を行う。実習内容は、実習受入れ先で計画されたカリキュラムに従って行われる。

《特記》　①実習受入れ先の選定、事務手続き、学校提出の実習報告書の作成など全般については、学級担任ならびに学生課教務係の指導を受け、最後まで自覚と責任を持って対応すること。

②事前に、「学外実習届」を学校へ提出すること。

③実習に必要な経費は原則自己負担であること、実習受入れ先によっては申込み時に書類選考があることに注意すること。

④実習に当たっては、実習受入れ先の規律・規則・指導に従い、実習には積極的に取り組み・コミュニケーションに努めるとともに、実習時間外であっても期間中は常に責任ある行動を心がけること。

授　業　項　目	内　　容	時間
【前期】 1．実習受入れ先の選定と事務手続き （4 月～7 月）	学級担任（学生課教務係）から連絡される「実習受入れ先一覧」から実習希望先を選定する。　学級担任を経由して、実習受入れ先へ「実習依頼状・履歴書・自己調査書・誓約書」などを送付する。受入れ先の決定後、学校へ「学外実習届」を提出する。（学級担任、学生課教務係）	30 時間以上
2．実習受入れ先での実習 （夏期休業期間中）	学級担任が行う「学外実習の諸注意および連絡」を遵守の上、実習受入れ先の指導に従い、1～2 週間の実務実習を行う。	
3．学外実習報告書の提出 （9 月）	実習学生は、学級担任が指示する「実習報告書への記載事項」を遵守し、実習終了後速やかに実習に関する「学外実習報告書」を仕上げ、必ず指定された期日までに学級担任へ提出する。	
4．実習受入れ先からの報告 （9 月～10 月）	実習先からの「実習報告書」を受理する。（学級担任、学生課教務係）	

【達成目標】
- 企業などの実習受入れ先の活動を理解できる。
- 職場のルールを守り、誠実な対応ができる。
- 自覚を持って、積極的に実習への取組むことができる。
- 学校での勉強と実社会との関わりを理解できる。
- 実習を通して、社会人（技術者）としての人間性を養い、進路（就職・進学）への意識を高めることができる。

【教科書】
実習受入れ先で準備・提供される資料

【参考書】
実習受入れ先の指示による。

JABEE 教育目標	(D)①②, (E)②, (F)②③
準学士課程目標	(D)①, (E)②, (F)②③

成績評価

【評価基準】
評価方法に従って理解度（達成度）を確認し、評点 60 点以上を合格とする。

【評価方法】
実習学生からの学外実習報告書 70%、実習受入れ先からの実習報告書 30%で評価する。

【オフィスアワー】

（出典　平成 25 年度シラバス（学外実習））

資料 11－３－②－４

【教科名】長期学外実習　Long-term Internship　＜履修単位科目＞

学年	学科	単位数	期間	開設週数	時間/週	総時間
4	制御情報工学科	（選択）3	後期	13～15	-------	90 時間以上

【担当教員】浜松　弘　【教員室】8 号館 2 階　【TEL】7295　【e-mail】hamamatu

【授業目的と概要】

学校から社会・職業への円滑な移行に共通して必要な能力を育むため、後学期授業期間中の毎週、企業・公的機関等で、終日実習・実務を行うことにより、社会人として必要な知識や人間性を養い、職業に従事するための知識・態度等を育む。また、実習を通じて、就職（職業）への意識を高め、勉学の意味と目標を再認識し将来の進路選択に役立てる。

【授業の進め方及び履修上の注意】

後学期授業期間中の毎週１日、特定曜日に企業・公的機関等に通い、終日実習・実務を行う。実習・実務内容は受け入れ先企業の計画したカリキュラムによって行われる。
毎回実習終了後、実習ノートを作成し報告すること。
実習に当たっては、受け入れ先の規律・規則・指導に従い、積極的に実習に取り組むこと。
遅刻・無断欠席など、社会人として通用しない態度は厳禁であり、責任ある行動を心掛けること。

授　業　項　目	内　　容	時間
【後期】 長期学外実習の選択受講登録 （6 月～7 月） 実習受け入れ先の決定と事務手続き（7 月～8 月） 受け入れ先での実習 （10 月～2 月） 実習受け入れ先からの報告 （2 月）	・後期選択科目の受講登録を行う。受講希望者数や受け入れ先企業の状況により、受講者の調整が行われることがある。 ・担任を経由して実習希望先に実習申請書類を提出する。 （学科長の推薦に基づき、校長が企業に推薦する。） ・実習の受け入れ決定後、実習届けを学校に提出する。 ・実習開始前に事前指導を受なければならない。 ・毎週、特定曜日に実習受け入れ先に通い、終日実習・実務を行う。 ・実習で疑問に思うところなどは学校で調査・勉強をするなど、積極的に臨むこと。 ・毎回実習ノートを書き、実習を実施した週の指定日に所属学科の担当教員に提出し実習状況を報告する。 ・実習最終報告会で実習内容などの発表を行う。 ・実習期間終了後、実習報告レポートを作成し、実習ノートとともに指定された期日までに担当教員に提出する。 ・実習終了後、実習受け入れ先から実習報告書を受理する。	90 時間 以上

【達成目標】
・継続して担当業務に積極的に対処できる。
・毎回、取り組んだ内容を的確にまとめ、報告することができる。
・取り組んだ内容を把握し、レポートとしてまとめることができる。
・職場のルールを守ることができる。
・職場の中でコミュニケーションが図れる。
・企業等の活動を理解し、職業への意識を高めることができる。

【教科書】
実習受け入れ先で提供される資料

【参考書】
実習受け入れ先で指示されたもの

JABEE 教育目標	(D)①②, (E)②, (F)②③
準学士課程目標	(D)①, (E)②, (F)②③

成績評価

【評価基準】
評価方法に従って達成度を確認し、評点 60 点以上を合格とする。

【評価方法】
実習ノートとその報告状況、学生の提出した実習報告書、報告発表、実習受け入れ先の実習結果報告書を総合して評価する。

【オフィスアワー】

（出典　平成 25 年度シラバス（長期学外実習））

資料 11－３－②－５

【教科名】特別実習　Internship

学年	専攻	単位数	期間	開設週数	時間/週	総時間
1	生産工学専攻	（選択）2	夏季休業中	2 週間	------	90

【担当教員】中山　博愛　【教員室】3 号館 2 階　【TEL】964-7268　【e-mail】hironaka@kct.ac.jp
【担当教員】開道　力　【教員室】 3 号館 2 階　【TEL】964-7256　【e-mail】kaidou@kct.ac.jp

【授業目的と概要】
企業等の生産現場や研究部門などで実習を行う。工業技術の実社会における応用を修得させ、併せて将来の技術者としての自覚を持たせる。

【授業の進め方及び履修上の注意】
・実習先は必ずしも希望通りに決定できるわけではない。
・実習先においては、職場の規律を守り、礼儀と感謝の気持ちとを欠かさないよう心がけること。
・実習の具体的な内容については守秘義務が伴う場合があるので、報告書の作成やプレゼンテーションについては実習先の担当者と相談し、報告内容について了解を得ること。

授業項目	内容	時間
【前期】 企業などにおける実習	企業等の生産現場や研究部門などで、実践的知識・技術を習得する。 （実習期間は夏季休業中の 10 日以上）。	90 （報告書等の作成時間を含む）
実習報告書、実習日誌の作成	夏季休業明けに実習報告書、実習日誌を学科長に提出する。	
実習報告会	実習に関するプレゼンテーション	
定期試験		

【達成目標】
・学外での実習について記録を残すことができる。
・記録をもとに、実習の目的と概要とを報告書にまとめることができる。
・実習の内容についてプレゼンテーションを行い、聞き手に理解させることができる。

【教科書】

【参考書】

JABEE 教育目標	(D)①②, (E)②, (F)②③
専攻科課程目標	(D)①②, (E)②, (F)②③

成績評価
【評価基準】
上記の目標に対する達成度を基準とする。なお、守秘義務により実習の具体的な内容を発表できない場合は、そのことを考慮する。
【評価方法】
実習先の評価，および報告書の内容およびプレゼンテーションによって評価する．

【オフィスアワー】

（出典　平成 25 年度シラバス（専攻科特別実習））

資料 11－３－②－６

平成２４年度 高専生のための英語キャンプ 参加募集の案内

経済産業省や文部科学省は、「グローバル人材育成」の推進を強化しています。これは日本が世界の激しい競争の中で生き残っていくために必要なことであり、工学系技術を学ぶ諸君には技術力そのもの、異文化理解と活用力、さらに英語によるコミュニケーション力が求められています。国内に留まって仕事をする者にとっても外国との折衝が必要不可欠であることからこれらの能力が求められています。

このため、今年も九州沖縄地区高専校長会は、皆さんに異文化を肌で触れながら、英語力を向上させる語学研修を下記の要領で実施します。皆さんの参加をお待ちしています。

記

期　　間　：　８月１８日（土）から９月１日（土）（１５日間）移動日を含みます。
授業は２週間で６０時間を予定しています。

場　　所　：　シンガポールポリテクニク（Singapore Polytechnic）

担　　当　：　人文社会学部（School of Communication, Art ＆ Social Sciences）

参加資格　：　高専生（専攻科生含む）で電子メール（携帯電話メールは除外）が利用でき、情報リテラシーを有する者

参加人数　：　２０名（参加申込が定員を超えた場合は担当校で調整を行います。）

引　　率　：　高専教職員が引率します。

費　　用　：　航空運賃、宿泊費、講習料で１５万円程度。（平成２３年度実積）この金額には滞在中の域内交通費、食費や旅行保険代金等は含まれていません。詳細は別途連絡します。

日程（予定）　：　８月１８日（土）日本発
８月１９日（日）現地オリエンテーション
８月２０日（月）～８月３１日（金）授業
９月　１日（土）日本着

申込方法等　：　下記書類を各高専学生課経由にて、提出してください。
・参加申込書
・承諾書及び同意書
・応募理由書

提出期限　：　平成２４年５月１８日（金）必着
※熊本高専への提出期限です。各校での締切は各校の学生課へ確認してください。

問い合せ　：　問い合わせは Subject に”［英語キャンプ］”（[]も書いて下さい。）と書いて、eigo_kenshu@kumamoto-nct.ac.jp へ電子メールで問い合せてください。

連絡方法　：　参加者確定後、参加者への連絡は電子メールを利用して行います。

備　　考　：　申し込み締め切り後、必要に応じて調整の上、参加者の確定を行い、各高専経由で参加申込者へ連絡いたします。参加者の飛行機便と宿泊の手配は熊本高専・熊本キャンパスで行います。参加確定後キャンセルする場合、講習料は原則返金できません。航空券代及び宿泊費の払い戻しについては、航空会社及び宿泊施設の規則に従いま。

（出典　平成 24 年度　英語キャンプの参加案内）

資料 11－３－②－７

平成22年度　4年生長期工場見学旅行実施計画書案（制御情報工学科）　　引率者(担任)　安信 強
(補助者)　脇山正博

月　日	行　程	見 学 先 等	行　程	見 学 先 等	宿 泊 地	備　考
9月26日（日）	飛行機 福岡空港 ～シンガポール空港	[移動]	借上げバス シンガポール空港 ～マレーシア ～ホテル	[移動]	マレーシア	
9月27日（月）	借上げバス ホテル ～見学先 ～シンガポール	マレーシア 王宮博物館見学	借上げバス 見学先 ～ホテル	シンガポール Kenwood Electronics Technologies 自営 Republic Polytechnicとの交流	シンガポール	
9月28日（火）		シンガポール 自由行動		シンガポール 自由行動	シンガポール	
9月29日（水）		シンガポール 自由行動	借上げバス ホテル ～見学先 ～シンガポール空港	シンガポール オーチャードストリート近辺見学 [移動]	シンガポール	
9月30日（木）	飛行機 シンガポール空港 ～福岡空港	[移動]	福岡空港到着後 解散			

（出典　平成 22 年度　長期工場見学旅行　日程）

資料 11－３－②－８

平成２４年１０月１日

特別講演

講演テーマ

「プレゼンテーション～コミュニケーションのための基本スキル～」

講演者

[redacted] 教授

１．期日・時間：１０月３日（水）１５：３０

２．会　場：　２号館合同講義室（階段教室）

３．対象者：　機械工学科４，５年生全員

※4,5 年生は掃除終了後、階段教室に全員集合すること。
この講演は年間行事の出席にカウントされるので、担任が出席を取ります。

（出典　平成 24 年度　キャリア教育の案内）

資料 11－３－②－９

北九州工業高等専門学校　機械工学科4学年　講座「ﾌﾟﾗﾝﾄ設計・環境教育」ｼﾗﾊﾞｽ

No.	月日	講義ﾃｰﾏ	講師	備　考
1	10月1日	○講義の概要と進め方 ○北九州市の環境未来都市への取り組み ○東日本大震災被災地への復旧・復興支援 ○進路指導	[redacted]	
2	10月15日	読図ｽｹｯﾁ演習		
3	10月22日	読図ｽｹｯﾁ演習		
4	10月29日	特集：新しいまちづくりへのチャレンジ 第1章：環境首都を目指した北九州市の取り組み 第2章：地域から広がる市民環境活動の環		
◎	10月30日	志井市民環境講座（志井市民センター）	北九州高専5年生(入江研究室)	
5	11月5日	第3章：環境学習の取り組み 第4章：北九州市の環境国際協力 第5章：低炭素社会への取り組み～地球温暖化対策～	[redacted]	
6	11月12日	第6章：循環型の生活様式・産業構造への転換 第7章：北九州市の環境産業と技術開発 第8章：北九州市の豊かな自然環境		
7	11月19日	第9章：安心して暮らせる快適な生活環境の確保 第10章：まちの魅力や価値を高める取り組みの推進		
8	11月26日	特別講義		
◎	11月27日(火)	志井市民環境講座（エコツアー・バスハイク） 環境ミュージアム・シャボン玉石鹸		
◎	12月1日(土)	志井小学校環境教育出前授業	入江・5年生(入江研究室)	
9	12月10日	北九州環境首都検定模擬試験	[redacted]	
◎	12月16日	北九州環境首都検定		全員受験
10	12月17日	工場見学・環境関係プラント		
11	1月8日	事故原因究明対策演習		
12	2013年1月21日	事故原因究明対策演習		
13	2013年1月28日	事故原因究明対策演習		
14	2013年2月4日	工場見学・新日鉄ｴﾝｼﾞﾆｱﾘﾝｸﾞ・日鐵ﾌﾟﾗﾝﾄ設計		

（出典　平成 24 年度　企業技術者活用プログラムのシラバス）

資料 11－３－②－10

平成２４年　４月　２日

教　員　各位

ＦＤ委員長　内　田　　武

平成２４年度福岡県教育センター専門研修受講者の募集について

平成２２年度よりスタートしました福岡県教育委員会との連携事業の一環として、福岡県教委・福岡県教育センターが開催する教員のスキルアップのための専門研修講座（研修会）への参加募集が届きました。

この研修会では、教科指導だけでなく、生徒（生活）指導、発達障害等の支援教育など多くの研修分野の講座が開催されます。各講座の案内につきましては添付の「平成 24 年度専門研修講座案内」を御覧ください。

つきましては、本校の FD 活動として、この研修会に参加していただける先生を募りたいと存じます。

研修講座の受講を希望される先生がございましたら、希望の講座名を 4 月 13 日（金）までに人事係に御連絡ください。

参加希望が多い場合は人数調整をさせていただくことがございますので御了承ください。

以上よろしくお願いいたします。

2012.4.18.

平成 24 年度福岡県教育センター・福岡県体育研究所主催の
専門研修講座への参加予定教員

福岡県教育センター主催

◎総合科学科 [redacted]准教授
講座番号１２７　『新しい高校数学の展開』
開催日　8 月 24 日（金）終日、福岡県教育センター

◎機械工学科 [redacted]助教
講座番号１３７　『物理実験技術を磨いて授業力 UP（高）』
開催日　8 月 6 日（月）終日、福岡大学附属大濠高等学校

◎物質化学工学科 [redacted]助教
講座番号１３８　『化学実験技術を磨いて授業力 UP（高）』
開催日　8 月 1 日（水）終日、九州工業大学

※上記講座に参加できない場合、
講座番号１４５　『CAN-DO リストを活用した授業づくり（中・高）』
開催日 6 月 14 日（木）終日、久留米市立明星中学校
7 月 31 日（火）午後、福岡県教育センター

福岡県体育研究所主催

◎総合科学科 [redacted]講師
講座番号７６５　『子どもたちのやる気と元気が湧いてくる「健康教育」』
開催日　9 月 28 日（金）、福岡県体育研究所（アクシオン福岡）

（出典　平成 24 年度　FD 委員会からの案内）

（分析結果とその根拠理由）

本校では，地元大学との学術交流をはじめ，大学や海外の学校とも積極的に交流協定を結びその教育資源を活用している。さらに，「専攻科特論」，「学外実習」，「長期学外実習」，「特別講演」，「企業技術者活用プログラム」などにより，OB や地元企業の協力を得るなどして外部の教育資源を積極的に活用している。

観点 11－４－①：　高等専門学校における教育研究活動等の状況や、その活動の成果に関する情報を広くわかりやすく社会に発信しているか。

（観点に係る状況）

本校の教育研究活動の状況については，学校教育法第 113 条及び 115 条に基づき，本校のウェブサイトに随時掲載することで公表されている。トップページに「情報公開」の項目を設け活動状況の近況をいち早く検索できるようにしている（資料 11－４－①－１）。それ以外の速報性のあるものについては「新着情報」の欄を設け課外活動，各種コンテストなどの成果，入試情報やオープンキャンパスの案内，各種イベント情報を掲載している（資料 11－４－①－２）。

また，発刊物として，教育目標，組織図，施設，研究状況など本校の全般的な情報を記載した「学校要覧」，「学校案内」，「国立北九州高専」，「テクノセンターリーフレット」を作成し，地域，産業界への広報活動に利用している（資料 11－４－①－３～８）。

さらに，各種メディアへの情報発信も積極的に行っている（資料 11－４－①－９：一部別添資料）。

（分析結果とその根拠理由）

本校における教育研究活動の状況やその成果に関する情報は，ウェブサイトや発刊物さらには各種メディアにより地域社会に情報を発信している。

以上のことから，本校における教育研究活動等の状況や，その成果に関する情報を広くわかりやすく社会に発信している。

資料 11－４－①－１



（出典　北九州工業高等専門学校ウェブサイトより）

資料 11－４－①－２



（出典　北九州工業高等専門学校ウェブサイトより）

資料 11－４－①－３



（出典　北九州工業高等専門学校ウェブサイトの広報誌より）

資料 11－４－①－４

KCT
KITAKYUSHU NATIONAL COLLEGE OF TECHNOLOGY

学校要覧
College Bulletin 2012

北九州工業高等専門学校
KITAKYUSHU NATIONAL COLLEGE OF TECHNOLOGY

目　次
Contents

教育方針	Philosophy of Education	2
沿革の概要	Outline of History	3
組織	Organization	5
職員数	Number of Faculty and Staff	5
組織図	Organization Chart	5
歴代校長	Chronological List of President	6
名誉教授	Professors Emeritus	6
役職者	Administrative Staff	6
学科	Departments	7
機械工学科	Department of Mechanical Engineering	7
電気電子工学科	Department of Electrical & Electronic Engineering	9
電子制御工学科	Department of Electronics & Control Engineering	11
制御情報工学科	Department of Control & Information Systems Engineering	13
物質化学工学科	Department of Materials Science & Chemical Engineering	15
総合科学科（各学科共通）	Integrated Arts & Science (General Subjects)	17
専攻科	Advanced Engineering School	19
生産工学専攻	Production Engineering Advanced Course	19
制御工学専攻	Control Engineering Advanced Course	20
物質化学工学専攻	Materials Science & Chemical Engineering Advanced Course	21
「生産デザイン工学」教育プログラム	Education Program : General Engineering	23
学生の概況	Students	25
入学定員及び現員	Number of Students	25
専攻科入学定員及び現員	Number of Students in Advanced Engineering School	25
入学志願者の状況	Number of Applicants	25
入学者数	Number of Entrants	26
編入学生入学者数	Number of Transfer Students	26
外国人留学生入学者数	Number of Overseas Students	27
卒業者数一覧	Number of Graduates	27
専攻科修了者数一覧	Number of Graduates in Advanced Engineering Course	27
学生会組織図	Students Council	28
進路状況	Employment	29
卒業者数及び進路調べ	Employment and Entrance into Universities of Graduates	29
進学状況（大学編入学等）	Entrance into Universities	29
修了者数及び進路調べ	Employment and Further Study	29
修了後の大学院等への進学状況	Entrance into Graduate Schools	29
地域との連携	Cooperation with Local Community	30
平成24年度公開講座	Local Community Education (2012)	30
交流協定締結大学等	Overseas Affiliated Universities	30
交流協定締結大学等（高専機構締結分）	Overseas Affiliated Universities (by INCT)	30
海外との交流実績	Achivement of Overseas Collaboration	30
教員の研究活動	Research Activities	31
科学研究費（最近３年間）	Grant-in-aid for Scientific Research (For The Last 3 Years)	31
寄附金受入状況（最近３年間）	Donation Received for Fund (For The Last 3 Years)	31
受託研究・共同研究（最近３年間）	Entrusted Researches & Researches with Companies (For The Last 3 Years)	31
研究発表件数（最近３年間）	The Number of Researches and Presentations (For The Last 3 Years)	31
国立高等専門学校機構研究員派遣状況	Institute of National Colleges of Technology	32
海外渡航件数（最近３年間）	Number of Study/Research Abroad	32
学術情報センター	Academic Information Center	33
図書部門	Section of Bibliographics	33
広報部門	PR Section	34
IT部門	IT Section	34
地域共同テクノセンター	Cooperative Technology Center	35
地域共同テクノセンター		35
学生寮（浩志寮）の概要	Dormitory (Koushi-Ryo)	37
福利施設（雄志合会館）の概要	Welfare Facility (Yushidai-Kaikan)	38
学生相談室	Student Counseling Room	39
平成23年度収支一覧	Revenue and Expenditure (2011)	40
施設の概要	Facilities	41
土地	Campus	41
建物	Buildings	41
配置図	Campus Map	42
位置および交通機関	Location Map & Transportatio	43

1

教育方針
Philosophy of Education

明るい未来を創造する開拓型エンジニアの育成

To foster pioneer-oriented engineers

KCT KITAKYUSHU NATIONAL COLLEGE OF TECHNOLOGY

教育目的 Objectives

幅広い工学基礎と創造的技術開発力の修得
Mastery of a wide knowledge of engineering basics and of skills to develop creative technology

国際社会で尊敬され、信頼される国際センスの修得
Acquisition of international awareness to gain trust and respect in the international community

地球にやさしい技術を開発できる心豊かな人間性の涵養
Cultivation of moral responsibility to develop earth-friendly technology.

教育目標 Goals are to foster engineers with:

技術内容の高度化に対応できる基礎学力（数学、自然科学、情報）と自己学習能力を持つ技術者
A good knowledge (of mathematics, natural science and information technology) and a habit of lifelong learning to cope with increasingly developing technology.

専攻分野の「生産」に関わる専門知識を身に付けた技術者
Expertise in their areas of research

専門工学知識の上に「生産」に関わる実践的技術を身に付けた技術者
Practical skills based on the expertise

幅広い視野から問題を捉え、複数分野の工学知識・技術を有機的に結び付け、総合的に問題を解決する素養を有する技術者
A balanced problem-solving ability stemming from varied and integrated knowledge and skills

多様な文化を理解する能力を持ち、日本語および外国語によるコミュニケーション能力を有する技術者
Understanding of various cultures together with communication abilities in Japanese and foreign languages.

歴史・文化・社会に関する教養と礎健な心身を持ち、技術の社会・環境との関わりを考えることのできる技術者
Good health and a consideration of the roles of technology in society and the environment derived from an insight into human history, culture and society.

アドミッションポリシー（求める学生像）

準学士課程
北九州高専では、本校の教育理念及び学習・教育目標を達成するために、総合的な基礎学力を十分にもち、以下の項目を満足する能力と適性を備えた中学生を求めています。

- 数学、理科の分野に興味がある者。
- 工学の分野に興味がある者。
- 実験・実習に自ら進んで取り組むことができる者
- 将来、国際センスと人間性を備え、社会を支える技術者として活躍する意思を持つ者。

専攻科課程
- 高等専門学校準学士課程等における基礎的な専門知識の確立を図り、さらにその専門知識を深めようとする意欲がある者。
- いろいろな分野の工学知識を学び、広い視野からの問題解決能力を身につけようとする向学心を持つ者。

編入学生
北九州高専では、本校の教育理念及び学習・教育目標を達成するために、総合的な基礎学力を十分にもち、以下の項目を満足する能力と適性を備えた人を求めています。

- 数学、理科の分野に興味があり、高等学校における基礎学力を有する者。
- 工学の分野に興味がある者。
- 実験・実習に自ら進んで取り組むことができる者。
- 国際センスと人間性を備え、社会を支える技術者として活躍する意思を持つ者。

2

KCT
KITAKYUSHU NATIONAL COLLEGE OF TECHNOLOGY

独立行政法人国立高等専門学校機構
北九州工業高等専門学校
homepage http://www.kct.ac.jp

（出典　平成 24 年度　学校要覧）

資料 11－4－①－5



（出典　平成 24 年度　学校案内）

資料 11－4－①－6



（出典　平成 24 年度　北九州高専学校紹介）

資料 11－４－①－７





（出典　地域共同テクノセンターリーフレット）

資料 11－４－①－８





（出典　「志遠」第 66 号より）

資料 11－４－①－９（その１）

総務課総務係 <[redacted]>
宛先:（ML10）機械工学科 <[redacted]>
テレビ放送のお知らせ

教職員　各位

本日、ＮＨＫ総合の「こんばんは北九州」（放送時間：18:10～19:00）の
番組の中で、機械工学科　滝本先生のベンチャー企業の様子が生中継で
放送されますので、お知らせします。
なお、実際の放送時間は、18:40頃から５分程度を予定しています。

****
総務課総務係
内線：[redacted]
e-mail:[redacted]
****

（出典　本校テレビ放送案内メールより）

資料 11－４－①－９（その２）

新聞掲載回数

平成23年	7
平成24年	16
平成25年	3

（出典　総務課集計資料　より）

（２）優れた点及び改善を要する点

（優れた点）

・主事会議を設け，校長をサポートすると共に，意思決定や諸活動の迅速化を図っている。
・JABEE 審査，高等専門学校機関別認証評価による意見を参考にしながら，委員会の見直しをする等，学校の管理運営に活用している。

（改善を要する点）

該当なし

（３）基準 11 の自己評価の概要

学校の目的を達成するため，校長をサポートする副校長（教務主事，学生主事，寮務主事），校長補佐（専攻科主事，総務主事，学術情報センター長）及び事務部長を中心とした体制が整備され，その役割が明確になっており，効果的・迅速的な学校運営が可能になっている。

JABEE 審査，高等専門学校機関別認証評価を活用し，自己点検・自己評価委員会を中心とした，学校改善体制を整えている。

ウェブサイトや各種発刊物を利用して，本校の教育研究活動の成果に関する情報を，広く分かりやすく社会に発信している。